【蓴鬼】ジュンキ 前に同じ。
【蓴羹鱸膾】ジュンカウロクワイ じゅんさいのあつもの、鱸魚のなます、この二つの味を思ひ官を辭して鄉に歸りし晉の張翰の故事。晉書に「張翰因ニ秋風起一、乃思ニ吳中蓴羹鱸魚膾一、遂命レ駕歸」

【蓶】ヰ。愈水切。紙。❶韮に似たる一種の菜❷芛に同じ。

【蓷】タイ、テ。他回切。灰。めはじき(茺蔚)、やくも(益母)。

【蔻】コウ、ク。許候切。宥。づく(荳蔻)。

【蓺】㋑ゲイ。倪制切。霽。㋺シフ。子入切。緝。㋩デフ、ネフ。諾叶切。葉。㋑❶うう(種)❷わざ、みち(藝に通ず)㋺草のおほく生ずる貌㋩❶かやの芽❷蕔に同じ。

【蔀】㋑ホウ、ブ。蒲口切。有。㋺ホ、フ。伴姥切。麌。㋑❶しとみ、ひよけ❷おほひ㋺❶なづな❷古曆上の名稱、七十二歲。

【蓼】㋑レウ。盧鳥切。篠。㋺ラウ、ロウ。魯皓切。皓。㋩リウ、ル。力斛切。有。㋥リク、ロク。力竹切。屋。㋑たで㋺もとむ(索)㋩草の長大なる貌㋥ひく(引)。
【蓼花】レウクワ たでのはな。劉兼「遠岸牧童吹ニ短笛ニ、蓼花深處信レ牛行」

【蓼蓼】リクリク 草の長大なる貌。詩經に「蓼蓼者莪」
【蓼穗】レウスヰ たでのはな。韋莊「來時楚岸楊花白、去日隋堤蓼穗紅」
【蓼莪之詩】リクガノシ 孝子、親を養はんとして、養ふことを得ざるを悲める詩。詩經に「蓼蓼者莪、匪レ莪伊蒿、哀哀父母、生レ我劬勞」
【蓼蟲不レ知レ苦】レウチユウハニガキヲシラズ 俚諺の「臭いもの自ら知らず」の意。鶴林玉露に「冰蠶不レ知レ寒、火鼠不レ知レ熱、蓼蟲不レ知レ苦、鄉蛆不レ知レ臭」

【蓽】ヒツ、ヒチ。壁吉切。質。❶いばら(篳に同じ、荊)❷まめ(豆)❸しのねぐさ(蓽茇)。
【蓽門】ヒツモン いばらにて造りたるもん、貧者のかど。禮記に「蓽門圭窬」

【蓿】シュク、ソク。息逐切。屋。うまごやし、おほひ(苜蓿)。

【蔁】シャウ、サウ。諸良切。陽。やまごばう(蔁柳)。

【蔂】㋑ラ。盧戈切。歌。㋺ルヰ。倫追切。支。ふご。

【蔆】リョウ。力膺切。蒸。ひし(芰)。
【蔆花】リョウクワ ❶ひしのはな。三柳軒雜識に「蔆花爲ニ水客ニ」❷鏡の異名。駱賓王「古鏡蔆花暗、愁眉柳葉顰」

【菰】クヮツ、グヮチ。古活切。曷。きからすうり(菰瓝)。

【蔇】㋑キ、ケ。居毅切。未。㋺キ、ギ。巨至切。寘。❶いたる(至)❷草のおほき貌。

【蔈】㋑ヘウ。甫遙切。蕭。㋺匹沼切。篠。㋩卑妙切。嘯。㋑❶たかむらさう❷ちがや(茅花)㋺❶草の盛んなる貌❷おつ(落)㋩❶米の孚甲の芒、のぎ❷穀の華の黃なるもの。

【蓘】コン。古本切。阮。つちかふ。

【蔊】カン。呼旱切。旱。いぬからし。

【蔋】㋑テキ、ヂャク。徒歷切。錫。㋺セウ、ゼウ。挍消切。蕭。㋩シュク、ソク。式竹切。屋。㋥トク、ドク。徒沃切。沃。㋑旱氣はげしきにいふ㋺㋩㋥旱して山草かれ盡くること。
【蔋蔋】テキテキ 旱氣の甚だしき貌。詩經に「蔋蔋山川」

【蔌】㋑ソク。桑谷切。屋。㋺ソウ、ス。蘇后切。宥。㋑❶な、あをもの、やさい、又、なのさかな❷いやし、やつやつし(寠陋)❸物のこゑ㋺あをもの、又、なのさかな。
【蔌蔌】ソクソク ❶やつやつしき貌。詩經に「蔌蔌方有レ穀」❷風聲のはやき貌。鮑照「蔌蔌風威、孤蓬自振」

【蔍】㋑ロク。盧谷切。屋。㋺麤に同じ。㋑❶いちやくさう(蔍蹄)❷わすれぐさ(蔍葱)㋺あらし。

【蔎】㋑セツ、ゼチ。舒列切。屑。㋺サツ、サチ。桑割切。曷。❶かうばし(香)❷ちや(茶)。

【蔏】㋑シャウ、サウ。式陽切。陽。㋺リク、ロク。力竹切。屋。㋑❶おほあかざ(蔏藋)❷しろよもぎ(蔏蔞)❸いほすき、やまごばう(蔏陸)㋺いほすき、やまごばう。

【蔐】テキ、ヂャク。荻に同じ。

【蔑】㋑ベツ、メチ。莫結切。屑。㋺昧に同じ。㋑❶あなどる、かろんず、ないがしろにす❷すつ(棄)❸けづる(削)❹こまか❺くはし(精微)❻なし(無)❼目明かならず、くらし❽すゑ(尾末)❾滅に通ず。
【蔑如】ベツジョ 他をいやしみ輕んず。漢書に「趨舍不ニ與レ已同ニ者、視レ之蔑如也」
【蔑視】ベツシ 見下ぐ。ないがしろにす。
【蔑棄】ベツキ うちすてて顧みず。國語に「不レ共ニ神祇ニ而蔑ニ棄五則ニ」

【蔒】クン、コン。葷に同じ。氣の蒸す貌。

【蔓】バン、マン。無販切。願。❶つるくさ、つる、かづら❷のぶ(延長)❸はびこる、ひろがる❹まく、まとふ、からむ。

【蔓引】マンイン ひきつらなる。元史に「隨レ地置レ獄、枝連蔓引」
【蔓生】マンセイ つるにてはえ生ず。草木狀に「鶴草蔓生、其花麴塵色淺紫」
【蔓延】マンエン はひひろがる。謝靈運「松蔦歡ニ蔓延ニ」
【蔓衍】マンエン 茂りはびこる。舊唐書に「漢魏之後、像敎寖興、因緣染習、蔓衍滋多」
【蔓草】マンサウ つるくさ。詩經に「野有ニ蔓草ニ、零露漙兮」
【蔓荊】マンケイ (植)くまかづら。
【蔓菁】マンセイ (植)かぶら。
【蔓椒】マンセウ (植)いぬさんせう。
【蔓蔓】マンマン はびこりひろがる貌。漢書に「蔓蔓日茂」
【蔓纏】マンテン からみまとふ。陸游「弱松困ニ蔓纏ニ、何日見ニ磊砢ニ」
【蔓蘿】マンラ つるなせるつた。梅堯臣「寒纏如ニ蔓蘿ニ」

【蔔】フク、ボク。菔に同じ。
【蔔匏】フクハウ 粗食の義に用ゐる。唐書、柳玭傳に「夕食惟齕ニ蔔匏ニ而已」

【蔕】㋑テイ、タイ。都計切。霽。㋺タイ。當蓋切。泰。㋑❶へた、ほぞ❷うてな(花の託處)㋺❶ね、もと(根)❷薺に同じ。
【蔕芥】タイカイ 小さきとげ。微細のことに比す。漢書に「細故蔕芥、何足ニ以疑ニ」

【蔖】㋑サ、ザ。才何切。歌。㋺ソ、ス。采古切。麌。㋑❶あぶらがや(蒯)❷のぜり(楚葵)㋺かる(枯)。

【蔗】㋑シャ、セ。之夜切。禡。㋺ショ、ソ。古音。㋩柘に通ず。㋑さたうきび。
【蔗境】シャキャウ 談話又は事件の進行中面白きところ。(佳境)。
【蔗糖】シャタウ さたう。

【蔘】㋑サン、ソン。蘇含切。覃。㋺サン、セン。所斬切。豏。㋩蓡に同じ。㋑たる(垂)㋺蓡の初めて生じたるもの㋩ぬく、そばだつ。

【蔙】セン、ゼン。隨戀切。霰。なぐるまさう(蔙蕧)。

【蔚】㋑ヰ。於胃切。未。㋺ウツ、ウチ。紆物切。物。㋑❶なとこよもぎ(牡蒿)❷さかんなり❸くさむら(榛叢)、かげ(蔭翳)❹あきらか(明)❺つや、あや(彩色)㋺州の名。
【蔚恚】ヰイ 甚だしくいかる。吳越春秋に「我辱ニ壯士椒丘訢於大家之喪ニ、餘悁蔚恚瞑必來也」
【蔚然】ヰゼン しげりたる貌。歐陽修「望レ之蔚然而深秀者」
【蔚縟】ヰジョク 濃くして細きいろどり。易經、疏に「潤色鴻業、如ニ豹文之蔚縟ニ」

【蔚嵎】 樹木の茂りたる小島。吳均「蔚嵎非二一狀一」

【蔚蒼】 雲のおこる貌。張正見「上雲興而蔚蒼、下遊レ水而推移」

【蔚藹】 多く盛んなる貌。拾遺記に「殖雲蔚二藹于蓬薄一」

【蔚藍天】 あをあをとしたるそら。王勃「白雲飛動蔚藍天」

【蔀】 コク。胡谷切。屋。いはやすり、いはどくさ、せきこく。

【蔈】 ガウ、ゴウ。五勞切。豪。はこべら(雞腹草)。

【蔓】 ㊥ロウ、ル。落侯切。尤。㊀ル。力主切。㊁ベン。ビ。㊂リウ、ル「力九切。有。㊃しろよもぎ㊄車輪を正すもの(萬葛)。㊅棺の車の牆飾(蓑翣)。

【蔌】 〔植〕しろよもぎ。

【蔟】 ㊥ソク。千木切。屋。㊀ソウ、ス。倉奏切。宥。㊂箔に同じ。㊥一す(巢)二まぶし(蠶蓑)三あつまる、むらがる(簇に同じ)㊀律の名(大蔟)㊅やす。

シユウ、ジュ。職戎切。東。つるむらさき(蕺葵)。

【蔡】 ㊥サイ。倉大切。泰。㊀サツ、サチ。七曷切。曷。㊥一ごみ、あくた(草芥)二占卜するにその甲を燒く龜㊀はなつ(放)。

【蔑】 ㊥ハ、バ。蒲波切。歇。㊀歩趾切。薗。

【蔣】 草木の盛んなる貌㊀ばくか(藿香)シャウ、サウ。卽良切。陽。まこも(菰)。ビツ、ミチ。美畢切。質。はすの莖(荷本)。㊥テウ、デウ。都了切。篠。㊀テウ。多嘯切。嘯。

【蜜】 ㊥ビツ、ミチ。美畢切。質。はすの莖(荷本)。㊥テウ、デウ。都了切。篠。㊀テウ。多嘯切。嘯。

【蔦】 ㊥ハ、バ。蒲波切。歇。㊀歩趾切。薗。

【蔣】 草木の盛んなる貌㊀ばくか(藿香)シャウ、サウ。卽良切。陽。まこも(菰)。ビツ、ミチ。美畢切。質。はすの莖(荷本)。㊥テウ、デウ。都了切。篠。㊀テウ。多嘯切。嘯。

【蔭】 ㊥イン、オン。於禁切。沁。㊀於金切。侵。㊥一かげ、ひかげ、こかげ二おほふ、かくす、かざす三しげる(繁茂)㊅たすく、かばふ㊀一かくす、さへぎる、かざす二しげる(繁茂)。

【蔭子】 父祖の官位の爲に官を得るもの。

【蔭林】 樹木の茂りたるはやし。宣和畫譜に「訪二名園蔭林一、坐レ石臨レ水、翛然終レ日」

【蔬果】 野菜と果物と。南史に「宗廟薦羞、始用二蔬果一」

【蔬圃】 野菜のはたけ。北史に「花卉蔬圃居レ前」

【蔬菽】 菜と豆と。蘇軾「幽人無二事、午飯飽二蔬菽一」

【蔬筍】 野菜とたけのこと。鶴山題跋に「亦致二蔬筍之餽一」

【蔬飯】 粗末なるめし。唐書、宗室傳に「蔬飯水飲、席地以寢」

【蔬饌】 祭に供ふる野菜。宋書に「遺命薄斂蔬饌、務存二儉約一」

【蔬菜】 あをもの。(菜蔬)。宋史に「竹木蔬菜之屬」

【蔬蔌】 野菜とうりと。唐書に「粟似レ莠而小、無二蔬蔌它穀一」

【蔬糲】 野菜と玄米と。北史に「服制雖レ除、而蔬糲勿レ改」

【蔭】 ㊥イン、オン。於禁切。沁。㊀於金切。侵。㊥一かげ、ひかげ、こかげ二おほふ、かくす、かざす三しげる(繁茂)㊅たすく、かばふ㊀一かくす、さへぎる、かざす二しげる(繁茂)。

【蔭子】 父祖の官位の爲に官を得るもの。

【蔭林】 樹木の茂りたるはやし。宣和畫譜に「訪二名園蔭林一、坐レ石臨レ水、翛然終レ日」

【蔭室】 器物に漆をぬりたる時入るる室。史記に「優旃曰、易レ爲レ漆耳、願雖レ爲二蔭室一」

【蔭映】 おほひかくす。王筠「重重相蔭映、軟弱自芬芳」

【蔭補】 父祖の蔭によりて、子孫の官に補せらるるをいふ。唐書に「德裕、吉甫子也、卓犖有二大節一、不レ喜レ與二諸生一試、有司以レ蔭補二校書郎一」

【蔭蓋】 しげりおほふ。班固「蔑樹蔭蓋、芳草披離」

【蔭覆】 かげとなりておほふ。西京雜記に「上枝蔭二覆數十畝一」

【蔭譽】 樹木の盛んにしげる貌。符載「含桃朱杏、灼爍蔭譽」

【蔭鬱】 しげりあふ。韓愈「夏炎百木盛、蔭鬱增二埋覆一」

【蔮】 クワイ、ケ。古對切。隊。笄なき編布の冠。

十二畫

【蔽】 ㊥ヘイ、ヘ。必袂切。霽。㊀フツ、ボチ。分勿切。物。㊅ヘツ、ヘチ。匹蔑切。層。㊥一かくす(隱)ふさぐ(塞)二かざす(翳)㊅あつ(當)㊀くらます㊇ふせぎ、ささへ、おほひ㊆かき、ついたて(屏風)八事に通ぜざること、理にあきらかならざること㊈さだむ㊉かすかなる貌㊊すごろくのさい、ばくちのさい(博簺)㊋車上のおほひ㊅一わかつ(別)二うつ(擊)三はらふ(拂)。

【蔽上】 君主の聰明なおほひかくす。曜冠子に「逸レ下蔽レ上、使二事兩乖一」

【蔽抒】 おほひふせぐ。通典に「身不二甲冑一、手無二寸刃一」

【蔽苗】 ㊥小さき木の貌。詩經に「蔽芾甘棠」二葉のはじめて生じたる貌。詩經に「蔽芾其樗」

【蔽容】 姿をかくす。李尤「輪以代レ步、屏以蔽レ容」

【蔽席】 せきをはらふ。史記に「卻行蔽レ席而蔽レ匿」

【蔽匿】 おほひかくす。史記に「袁盎多受二吳王金錢一、專爲二蔽匿一」

【蔽掩】 さへぎりかくす。蘇洵「抑遏不レ使二自露一」

【蔽野】 のなおほふ。後漢書に「旗幟蔽レ野、埃塵連レ天」

【蔽塞】 おほひふさぐ。宋史、劉敞傳に「勸レ帝收二攬威權一、無使二聰明蔽塞一」

【蔽遮】 おほひさへぎる。宋史、蘇軾傳に「以二睢陽一蔽二遮江淮一」

【蔽曀】 おほひふさぐ。東方朔「懷二沙樂一以自沈兮、不レ忍レ見二君之蔽曀一」

【蔽隱】 おほひかくす。又、おほひかくさる。史記に「有レ能者不二敢蔽隱一」

【蔽翳】 低くして濕りたる土地をおほひかくす。世說に「五六十里中、旌旗蔽レ隱」

【蔽虧】 草木繁茂して日光缺く。梁昭明太子「層峯鬱蔽虧」

【蔽護】 かばふ。五代史に「田頵每レ戰敗歸、卽欲レ殺二元瓘一、顧母常蔽二護之一」

【蔽牛木】 牛をおほひかくす程の大木。莊子に「匠石之レ齊、至二乎曲轅一、見二櫟社樹一、其大蔽レ牛、絜レ之百圍」

【蔇】 ㊥イ。羊支切。寘。㊀いたちぐさ、いたちはぜ(鼠)㊁めあさ(芓)。

【薄】 ㊥フ。方遇切。遇。㊀フウ、フ。俯九切。有。華葉の布くにいふ、しく。

【蔡】 ㊥リ。力脂切。支。㊀レイ、ヲイ。憐題切。齊。はまびし(蒺藜)。

【蔕】 デイ、ニャウ。乃挺切。迴。㊁のらえ(蠶蓆)㊂うなころし(蓼蟲)。

【蔦】 ㊥キ。韋委切。紙。㊀クヮ、ケ。呼瓜切。麻。㊅キ。騙爲切。支。㊄くさる㊀かまびすし(譁)㊅わるがしこし(獪)。

【蔨】 クヮン。莞に同じ。

【蔣】 コ、ク。苦故切。遇。㊁れかしたるにら(韭鬱)㊂す

づけ(醋菹)。

【蕀】キョク、ケキ。紀力切。職。㊀てんもんどう、すべるぐさ、すまろぐさ(顚蕀)㊁ひめはぎ(蕀菀)。

【蕁】タン、ドン。徒含切。覃。㊀もづく㊁むす(蒸)㊂やまし。

【蕁麻】タンマ 〔植〕いらくさ。まむしさう。

【蕿】㋵サウ、ソウ。蘇老切。晧。㋺シウ、シユ。疎鳩切。尤。(又)所九切。有。㋵はこべら(蘩蔞)㋺むらさきはこべ(雞腸草)(又)おり(白滓)。

【蕧】㋵フウ、フ。方副切。宥。㋺フク、ホク。芳福切。屋。㋵ほそれだい、こん㋺草の名(蕧葍)。

【蕃】㋵ヘン、ハン。附袁切。元。㋺バン。慣用音。㊀しげる(茂)㊁ふゆ(息)㊂藩に同じ㊃えびす㊄ふくろふ(鴞)。

【蕃民】バンミン 未だ開けざるたみ。

【蕃扞】ハンカン ふせぎまもる。五代史に「諸鎭有レ兵、所三以蕃二扞大子一」

【蕃辛】バンシン 〔植〕たうがらし。

【蕃昌】ハンシヤウ さかんなり。左傳に「吉孰大焉、其必蕃昌」

【蕃酋】バンシウ 野蠻人のかしら。宋史、李參傳に「蕃酋藥家作レ亂、討二平之一」

【蕃茂】ハンモ しげる。蘇軾「蕃茂爭二新春一」

【蕃衍】ハンエン さかんにしげる。北史、于謹傳に「子孫蕃衍、皆至二顯達一」

【蕃神】バンシン 未だ開けざる國のかみ。酉陽雜爼に「佛殿内西座蕃神、甚古質」

【蕃椒】バンセウ 〔植〕たうがらし。

【蕃植】ハンシヨク しげりふゆ。ふえます。淮南子に「羣生遂長、五穀蕃植」

【蕃殖】ハンシヨク 前に同じ。國語に「財用蕃殖、于レ是乎始」

【蕃渥】ハンアク しげくあつし。唐書、李光顏傳に「賜與蕃渥」

【蕃滋】ハンジ しげる。漢書に「傳業寖盛、支葉蕃滋」

【蕃熟】ハンジユク しげりみのる。史記に「五穀蕃熟、穰穰滿レ家」

【蕃翰】バンカン 蕃は蔽なり、翰は幹なり、國家の守護といふ義。詩經に「維申及甫、爲二周之翰一、四國于蕃」

【蕃薯】バンシヨ 〔植〕さつまいも。(甘薯)。

【蕃籬】ハンリ まがき。(藩籬)。

【蕃鬣】ハンレフ あかきたてがみ。禮記、注に「蕃鬣、赤鬣也」

【䔲】トウ。都騰切。蒸。とうろうばな(金鐙)。

【菶】ホウ、ブ。蒲蠓切。東。くさのみだるる貌。

【菶茸】ホウジヨウ 草の亂るる貌。射雉賦に「蘙薈、菶茸」

【蕆】テン。丑善切。銑。㊀そなふ(備)㊁つぐ(敕)㊂とく(解)。

【蕈】ジン。慈荏切。寑。きのこ、くさびら(菌)。

【蕉】セウ。即消切。蕭。㊀ばせを㊁たきぎ(薪)㊂ごみ、あくた(草芥)(國)顦に通ず。

【蕉萃】セウスヰ やつれていやしき人。左傳に「無レ棄二蕉萃一」

【蕉葉】セウエフ 芭蕉の葉の凹みを杯として酒を飲むことにて、酒量の少きをいふ。唐書に「有二捧子變一、無二食器一、以二蕉葉一藉レ之」

【蕉鹿夢】セウロクノユメ 人事の夢の如く、はかなきをいふ。鄭人、鹿を殺し芭蕉の葉を掩ひて之を藏し置き、後に他人に取り去られ、却つて之を夢とせし故事。列子に「鄭人有下薪二於野一者上、遇二駭鹿一、御而擊レ之斃レ之、恐二人見一レ之也、遽而藏二諸隍中一、覆レ之以レ蕉、不レ勝二其喜一、俄而遺二其所一レ藏之處一、遂以爲レ夢焉、順レ塗而詠二其事一、傍人有二聞者一、用二其言一而取レ之、既歸告二其室人一曰、向薪者、夢得レ鹿、而不レ知二其處一、吾今得レ之、彼直眞夢者矣、室人曰、若將是夢見二薪者之得一レ鹿邪、詎有二薪者一邪、今眞得レ鹿、是若之夢眞邪、夫曰、吾據レ得レ鹿、何用レ知二彼夢我夢一邪、下略」

【蕊】㋵ズヰ。如壘切。紙。㋺セン、ゼン。子兗切。銑。㊀しべ㊁はな(花)㋺あつまる(聚)。

正字通に「本、蕊に作る、俗に、蕋、蘂に作るは並に非なり」

【蕋】ズヰ。セン、ゼン。蕊の俗字。

【蕍】ユ。羊朱切。虞。㊀はな(華)㊁なまゐ。

【蕎】㋵ケウ。畢喬切。蕭。㋺ケウ、ゲウ。巨嬌切。蕭。㋵はやひとぐさ(藥草)㋺そば。

【蕎麥】ケウバク 〔植〕そば。蘇軾「但見古河東、蕎麥如レ鋪レ雪」

【蘘】カン。胡安切。寒。ほほづき、かがち。

【蘘荷】カンシヤウ 〔植〕ほほづき。

【蕑】カン、ケン。古閑切。删。㊀ふぢばかま㊁草の名。

【蕒】バイ、メ。莫蟹切。蟹。けしあざみ。

【䕑】㋵ヰ。尹捶切。寘。㋺スキ、ズヰ。才規切。支。㊀あゐのほ㊁へた(蔕)㊂はますげ(莎蔯)(國)草木の華の初めて出でたる貌。

【蕓】ウン、チン。王分切。文。草の名。

【蕓薹】ウンダイ 〔植〕あぶらな。(芸薹、薹芥)。

【蕔】ハウ、ボウ。博毛切。豪。㊀ある(荒)㊁な(菜)。

【蕕】イウ、ユ。以周切。尤。㊀くさみ、くさし(臭氣)㊁水邊に生ずる草㊂くさみある草。

【蕕薰】イウクン 惡しきかなりと善きかなりと。善惡の義に用ゐる。韓愈「今我及二數子一、固無二蕕與一レ薰」

【蕖】キヨ、ゴ。強魚切。魚。はちす、はす(芙蕖)。

【蕗】ロ、ル。魯故切。遇。㊀つるむらさき(甘草)㊁かんざう。[國訓]ふき。

【蕘】㋵ゼウ、ネウ。如招切。蕭。㋺ダウ、ネウ。尼交切。肴。㋵㊀しば、たきぎ(草薪)㊁しばかり、きこり㊂きこる人、しばかる人(國)きのこがんび、草の名㋺かぶら(蕪)。

【蕘童】ゼウドウ くさ刈るこども。洪邁「蕘童牧豎」

【蕙】ケイ、ヱ。胡桂切。霽。かなりぐさ。

【蕙交】ケイカウ むつまじききまじはり。

【蕙芷】ケイシ 〔植〕香草の名。

【蕙若】ケイジヤク 〔植〕香草の名。

【蕙氣】ケイキ かなりぐさのかなり。張九齡「蕙氣襲二衣襟一」

【蕙蘭】ケイラン かなりぐさ。阮籍「濯二纓醴泉一、被二服蕙蘭一」

【蕚】ガク。萼に同じ。

【蕛】テイ、ダイ。田黎切。齊。いぬくろびえ。

【蕝】㋵セツ、セチ。子悦切。屑。㋺セイ、セ。祖芮切。霽。㋵ちがやのつかね(位次を表するに用ゐる)㋺ちひさし。

【蕝儀】セツギ すべての儀式にいふ。玉海に「國家有二盛容一、不三必蕝二野外之儀一」

【蕞】㋵サイ、ゼ。才外切。泰。㋺蕝に同じ。㋵㊀あつまれる貌㊁ちひさき貌。

【蕞芮】サイゼイ あつまれる貌。西征賦に「蕞二芮于城隅一者、百不レ處レ一」

【蕞爾】サイジ ちひさき貌。左傳に「蕞爾國」

【蕠】㋵ヂヨ、ニヨ。女居切。魚。㋺ジヨ、ニヨ。人余切。魚。㋵ねばりつく(黏著)㋺あかれぐさ(蕠蘆)。

【藹】アイ。於蓋切。泰。㊀きよし(清)㊁かすか(微)㊂おほふ(蓋)。

【蕡】フン、ボン。符分切。文。㊀あさのみ(麻子)㊁草木實多し㊂雜多の香草(國)ゆみづる(弦)。

【蕢】㋵キ。求位切。寘。㋺クヮイ、ケ。苦怪切。卦。㋵あじか㋺㊀つちくれ(凷に同じ、土塊)㊁あかびえ。

【蕣】シユン、ジユン。舒閏切。震。むくげ(木槿)。[國訓]あさがほ。

【蕤】スヰ。儒佳切。支。㊀つぐ(繼)㊁やはらか(柔)㊂はなのたるる貌㊃たれたるはな㊄かざり、ひも(緌に同じ)。
【蕤賓】音律の名、五月に配す。禮記に「仲夏之月、律中二蕤賓一」

【蕨】ケツ、クヮチ。居月切。月。わらび。
【蕨薇】わらびとぜんまいと。詩經に「山有二蕨薇一隰有二杞桋一」
【蕨籠】〔植〕わらび。(月爾、山菜)。

【蕩】(い)タウ、ダウ。徒朗切。養。(ろ)タウ。他浪切。漾。
㊀あらふ、はらふ、たひらぐ㊁うつろ、うつす(播)㊂うごく、うごかす(動)㊃水勢のおほいなる貌㊄おほいなり(大)㊅ひろし(廣)㊆ゆるやかなり(緩)㊇ほしいまま(放縱)㊈やすし(平易)㊉やぶる、すたる(廢壞)(十一)そそぐ、ながす。
【蕩子】わがままなるもの。古詩に「昔爲二倡家女一、今爲二蕩子婦一」
【蕩心】こころをとらかす。
【蕩汰】そそぎのぞく。抱朴子に「蕩二汰積埃一、革レ邪反レ正」
【蕩沒】やぶれしづむ。晉書に「稻稼蕩沒、黎庶饑饉」
【蕩汨】大波わきたつ。杜甫「遭二鯨鯢之蕩汨一」
【蕩析】さすらひうつる。書經に「今我民用、蕩析離居、罔レ有二定極一」
【蕩定】はらひさだむ。魏志、注に「蕩二定西陲一、懸二旌萬里一」
【蕩恐】大いにおそる。史記に「百僚蕩恐、皆曰、龜策能言」
【蕩船】ふねをうごかす。史記に「桓公與二夫人蔡姫一戲二船中一、蔡姫習レ水蕩レ船」注に「蕩、搖也」
【蕩搖】うごく。うごかす。于石「蕩搖水中月、水定光復圓」
【蕩滌】あらひきよむ。史記に「萬民咸蕩二滌邪穢一」
【蕩漾】ただよふ。孫逖「仙翁何時還、綠水空蕩漾」
【蕩墜】ほろぶ。徐陵「梟獍虔劉、宗社蕩墜」
【蕩盡】つかひはたす。
【蕩蕩】㊀廣大なる貌。論語に「蕩蕩乎民無二能名一」㊁平易なる貌。楚辭に「路蕩蕩其無レ人兮」㊂水勢の大なる貌。書經に「蕩蕩懷レ山襄レ陵」㊃法度のやぶれたる貌。詩經に「蕩蕩上帝」
【蕩寇勳】寇賊をおひはらひしいさを。李商隱「雲臺高議正紛紛、誰定當時蕩寇勳」

【蕁】ソン。祖本切。阮。㊀あつまる、むらがる(聚叢)㊁むらがるくさ。
【蕁蕁】あつまる貌。魏都賦に「嘉穎合レ穗以蕁蕁」

【蕪】ブ、ム。武夫切。虞。㊀ある㊁生ひしげれる雜草㊂雜草の生ひしげれる地㊃しげる(茂)㊄のがる(遁)㊅亂雜なること㊆治まらざること㊇湖の名。
【蕪卉】粗雜にして道理にそむく。晉書に「文辭鄙拙、蕪卉不レ倫」
【蕪昧】あれてくらし。陳子昂「其城池霸業、迹已蕪昧矣」
【蕪俚】いやし。宋史に「李之純以爲二蕪俚之言一不レ治」
【蕪荒】草みだれしげる。元稹「鉛鈍丁寧淬、蕪荒輾轉耕」
【蕪淺】亂雜にして深からず。盧照隣「學涉二蕪淺一、文多二瞽陋一」
【蕪菁】〔植〕かぶら。(冥菁)。詩經、疏に「葑、蕪菁、幽州人或謂二之芥一」
【蕪漫】あれしげる。陶翰「南國久蕪漫、我來空鬱陶」
【蕪蕪】茂る貌。謝朓「上蕪蕪兮蔭景」
【蕪廢】あれすたる。遼史に「田園蕪廢者、則給二牛種一以助レ之」
【蕪雜】いりまじりてととのはず。盧藏用、陳子昂別傳に「常恨二國史蕪雜一、中略爲二後史紀一」
【蕪穢】あれけがる。楚辭に「雖二萎絶一其亦何傷兮、哀二衆草之蕪穢一」
【蕪曠】あれてひろし。北史に「擁レ被對レ壺獨酌、庭宇蕪曠」

【蕪辭】粗末なることば。

【款】クヮン。苦緩切。旱。ふき(款冬)。

【蕬】シ。新茲切。支。ねなしかづら(菟蕬)。

【蕭】セウ。蘇彫切。蕭。㊀しづかなり(靜)㊁ふかし(深)㊂風のこゑ㊃ものさびし(寂寥)㊄物のこゑ㊅衆人の勞働する貌、さわがし㊆よもぎ(蒿)㊇人の姓。
【蕭寺】梁の武帝、佛を信奉し寺を造りて、その姓蕭を寺に名づけしより、寺の通稱に用ゐる。南史、任孝恭傳に「少從二蕭寺雲法師一讀二經論一、明二佛理一、於レ是、蔬食持戒、信受甚篤」
【蕭林】きびしきはやし。劉伶「蛟納歸二豐草一、枯葉散二蕭林一」
【蕭郎】をっとの稱。釋常談に「蕭郎、卽蕭史也、後世女夫通稱也」
【蕭衰】おとろふ。李商隱「班超覽レ鏡、不レ覺蕭衰」
【蕭索】ものさびし。李白「世路如二秋風一、相逢盡蕭索」
【蕭條】前に同じ。楚辭に「山蕭條而無レ獸兮」
【蕭曹】漢の高祖の將相、蕭何と曹參と。揚子法言に「德行顏淵、股肱蕭曹」
【蕭寂】ものさびし。(幽寂)。世說に「門庭蕭寂」
【蕭疎】さびしくまばらなり。杜甫「束薪已零落、瓠葉轉蕭疎」
【蕭然】㊀ものさびしき貌。晉書に「環堵蕭然、不レ蔽二風日一」㊁さわがしくいそがはしき貌。漢書に「江淮之間、蕭然煩費矣」
【蕭森】ものさびし。張九齡「江城何寂歷、秋樹亦蕭森」
【蕭散】しづかにしてひまなり。唐書に「東都野服蕭散」
【蕭瑟】ものさびしき貌。宋玉「秋之爲レ氣也蕭瑟兮、草木搖落而變衰」
【蕭颯】ものさびしき風のこゑ。何景明「江風蕭颯笳鼓哀」
【蕭蕭】ものさびしき貌。史記に「風蕭蕭兮易水寒」
【蕭騷】ものさびし。羅隱「紫菊馨香覆二楚醪一、莫二君江畔一雨蕭騷」
【蕭牆之憂】內より起る憂をいふ。蕭牆は君臣會見する所に作れるかき。論語に「吾恐、季孫之憂不レ在二顓臾一、而在二蕭牆之內一也」

十三畫

【蕷】ヨ。羊洳切。御。やまのいも(薯蕷)。

【蒪】ハク、ビャク。薄革切。陌。かべはしら。

【蕹】ヨウ、ユ。於容切。冬。㊀あつまる、あつむ(萃)㊁草の名。

【蕺】シフ。阻立切。緝。どくだみ。

【蕻】コウ、グ。胡貢切。送。㊀もゆ(萌)㊁しげる(茂)㊂菜の名㊃草の心長し。

【蕼】シ。息利切。寘。㊀たがらし(堇)㊁寛恕なる貌(肆に同じ)。

【蕾】ライ、レ。落猥切。賄。つぼみ。

【蘊】(い)ヲン。烏渾切。元。(ろ)ウン、ヲン。紆紛切。吻。(は)ウン、オン。於問切。問。(い)みづくさ、も(藻)(ろ)つむ(積)(は)ならふ(習)。
【蘊蓄】つみかさねてたくはふ。左傳に「蘊蓄而弗レ治將レ蘊、蘊蓄民將レ生レ心」
【蘊藏】前に同じ。詩經、序に「蘊藏在レ心、謂二之爲一レ志」
【蘊藻】みづくさ。左傳に「澗溪沼沚之毛、蘋蘩蘊藻之菜」

【薁】(い)イク、オク。於六切。屋。(ろ)アウ、オウ。於到切。號。(い)ゆすらうめ(ろ)草の名。

【薄】(い)ハク、バク。傍各切。藥。(ろ)欂に同じ。
(い)㊀うすし(少)㊁すくなし㊂せまし

(狹)㊃あはし(淡)㊄かろし(輕)㊅疾驅する聲㊆人の姓㊇水の名㊈きらふ(嫌)㊉毫に通ず(十一)いささか(聊)(十二)つとむ(勉)(十三)いたる(至)(十四)せまる(迫)(十五)おかす(侵)(十六)ちかづく(近)(十七)あつまる(集)(十八)しばらく(少時)(十九)すだれ(簾)(二十)す(簇)(二十一)廣大なる貌(二十二)くさむら(二十三)おほふ(掩)㋺かべのはしら。國訓すすき。

【薄夫】人情うすきをとこ。孟子に「聞二柳下惠之風一者、鄙夫敦、薄夫寛」

【薄田】やせ地。蜀志に「成都有二桑八百株、薄田十五頃一」

【薄冰】うすごほり。范遂「誠歩二薄冰一、猶戰兢」

【薄材】はたらきなきもの。陸游「薄材施二畎畝一、樸學教二兒童一」

【薄衣】うすきころも。梁武帝「菲食薄衣、請自レ孤始」

【薄刑】かろき仕置。國語に「薄刑用二鞭扑一」

【薄收】すこしく租税をとり立つ。范成大「去年薄收飯不レ足」

【薄利】すこしの利益。宋无楠「爲レ食二薄利一故輕レ生」

【薄幸】ふしあはせ。杜牧「十年一覺揚州夢、贏得青樓薄幸名」

【薄技】いささかのわざ。江淹「伊小人之薄技、奉二君子一而輸レ力」

【薄命】ふしあはせ。唐書に「薄命之人、不レ足二興成一功名一」

【薄宦】地位ひくきつかさ。褚亮「微臣夙多幸、薄宦奉二儲明一」

【薄祜】ふしあはせ。魏武帝「自惜二身薄祜一、夙賤レ罹二孤苦一」

【薄陋】うすくいやし。五代史に「親二民田一、見二民耕器一薄、陋乃取二河北耕器一、爲レ範」

【薄衾】うすきふすま。張籍「遠漏微更疎、薄衾中夜涼」

【薄俸】すこしのふち。陸龜蒙「不レ嫌レ請二薄俸一」

【薄祐】ふしあはせ。晉書、王接傳に「接薄祐少孤、而無二兄弟一」

【薄陰】うすぐもり。陸機「和風飛二清響一、鮮雲垂二薄陰一」

【薄荷】(植)藥草の名。

【薄情】義理人情を重んぜざるこころ。雪齋廣錄に「欲下憑二西去雁一、寄中與薄情上看上」

【薄細】うすくしてこまかなり。蔡邕「帛必薄細、衣必輕暖」

【薄粥】うすきかゆ。韓愈「薄粥不レ足レ裏、深泥諒レ難レ馳」

【薄雲】うすぐも。何遜「薄雲巖際出、初月波中上」

【薄煙】うすけむり。諸葛穎「薄煙淨二遙色一、高樹肅二清陰一」

【薄暈】うすきかさ。張祜「歷歷華星遠、霏霏薄暈繁」

【薄祿】すこしのふち。秦觀「薄祿養レ親甘旨少」

【薄葬】てうすきはうむり。南史に「遺令薄葬、不レ設二轜旐鼓挽之屬一」

【薄暑】すこしくあつし。又、夏のはじめ。僧妙嚴「虛窗停二薄暑一、獨坐擁二餘清一」

【薄業】うすきわざ。劉克莊「杜曲桑麻、粗有二先人之薄業一」

【薄福】ふしあはせ。北史、李諧傳に「我薄福託二劉氏一爲レ女」

【薄罰】つみをかろくす。吳越春秋に「越王歸レ國、緩レ刑薄レ罰」

【薄蝕】日月の光のうすきとかくると。史記に「他星逆行、日月薄蝕、皆以爲レ占」注に「日月無レ光曰レ薄、虧毀爲レ蝕」

【薄德】うすきとく。(菲德)。左傳に「齊桓公存二三亡國一、以屬二諸侯一、義士猶曰二薄德一」

【薄暮】ひぐれ。廣雅に「日將レ落、曰二薄暮一」

【薄縞】うすきねりぎぬ。淮南子に「薄縞之蟾、廬荷之熠」

【薄器】竹・葦などにて作りたるうつは。荀子に「薄器不レ內」注に「薄器竹葦之器、不レ可レ內、謂下有二其外形一內不上レ可レ用也」

【薄學】未熟なる學問。後漢書、楊秉傳に「又以二薄學一充在二講勤一」

【薄霜】うすきしも。沈佺期「薄霜沾二上路一、殘雪繞二離宮一」

【薄薄】㊀廣大なる貌。荀子に「薄薄之地、不レ得レ履レ之」㊁疾驅する聲の形容。詩經に「載驅薄薄」㊂うすき貌。蘇軾「薄薄酒勝二茶湯一、麤麤布勝二無裳一」

【薄釀】うすきさけ。李洞「一盞薄釀酒、數枝零落梅」

【薄霧】うすききり。沈約「朝吐二輕煙薄霧一、夜宿二迷鳥羈雌一」

【薄櫨】梁上の短き柱。ますがた。柏梁臺詩に「柱枅薄櫨相支持」

【薄觀】せまりて見る。左傳に「欲レ觀二其裸浴一、薄而觀レ之」

【薄志弱行】意思弱くして、己がなすべきことをもなし得ざること。

【薅】カウ、コウ。呼毛切。豪。ぬく、のぞく、くさぎる。

【薆】アイ。烏代切。隊。㊀かをる、かうばし、かをり(香)㊁草木の盛んなる貌㊂かくす(隱)國おほふ(蔽)。

【薆薱】草木の盛んなる貌。張衡「橘蓊薆薱、檣橦移」

【薇】ビ、ミ。無非切。微。ぜんまい。

【薇蕨】ぜんまいとわらび。錢起「寧知採竹人、每レ食慚二薇蕨一」

【薇蕪】(植)香草の名。廣志に「薇蕪香草、魏武帝以藏二衣中一」

【薇蘅】(植)やぶれがさ。水經、注に「錫義山多生二薇蘅草一、其草有レ風不レ偃、無レ風獨搖」

【薈】ワイ、エ。烏外切。泰。㊀さかんなり㊁くさむら(榛叢)國しげる(茂)。

【薈蔚】草木の盛んにしげる貌。詩經に「薈兮蔚兮、南山朝隮」

【薈翳】おほひしげる。(翳薈)。韋夏侯「芟二薈翳一、而松桂出」

【薈鬱】盛んにしげる貌。李賀「卽崇山之奧區、翳薈鬱其蒼蒼」

【薊】ケイ、カイ。吉詣切。霽。あざみ。

【薉】アイ、エ。於廢切。隊。穢に同じ。ある(蕪)。

【薋】シ、ジ。才資切。支。㊀はまびし(蒺藜)㊁草多き貌。

【薌】㋑キャウ、カウ。許良切。陽。㋺嚮に通ず。㋑㊀かをり(香氣)㊁かうばしき物㊂穀の氣、又、穀。

【薍】㋑グヮン、ゲン。五患切。諫。㋺ラン。盧玩切。翰。㋑なぎ(荻)㋺小蒜の根。

【薎】ベツ、メチ。莫結切。屑。㊀ほそし(細)㊁あがる(揚)。

【薏】㋑ヨク、イキ。於力切。職。㋺イ。乙吏切。寘。はすのなかみ。

【薡】ケイ、キャウ。堅靈切。靑。ふぢの類。

【薐】ロウ。盧登切。蒸。はうれんさう。

【薑】キャウ、カウ。居良切。陽。しゃうが、はじかみ。

【薓】㋑シン、ソン。所金切。侵。㋺セン、ソン。詩廉切。鹽。㋑にんじん㋺しきもの(藉)。

【薔】ショク、シキ。所力切。職。みづたで。

【薕】レン、ロン。力鹽切。鹽。㊀すだれよし、ひめよし㊁はじかみ(薑)。

【薖】クヮ。苦禾切。歌。㊀寬大なる貌㊁饑うる意。

【〓】テン、デン。堂練切。霰。草の名。

【〓蕪】(植)やぶにれ。

【薘】タツ、タチ。唐割切。曷。おほばこ(馬舃)。

【薙】㋑テイ、タイ。他計切。霽。㋺シ、ジ。序姉切。紙。㊀なぐ、かる(芟)㊁のぞく、きる(伐除)。

【薙刀】 なぎなた。
【薙髮】 かみをそる。(剃髮)。
【蕩】 (い)タウ。吐郞切。陽。(ろ)チャウ、タウ。仲良切。陽。やまごばう、いはすき。
【薛】 セツ、セチ。私列切。屑。❶よもぎ(蒿)❷はますげ(莎)❸國の名❹人の姓。
【薜】 (い)ヘイ、バイ。蒲計切。霽。(ろ)ハク、ヒャク。博厄切。陌。(は)ヘキ、ヒャク。必益切。錫。(に)ハク、ホク。弼角切。覺。(ほ)僻に同じ。(い)まさきのかづら(ろ)(は)❶やまあさ(山麻)❷やまぜり(薜)(に)ひびわれ(破裂)(ほ)ひがむ。
【薜荔】 ヘイリ (植)まさきのかづら。(杜贊、杜仲)屈平「貫薜荔之落蘂」
【薜蘿】 ヘイラ (植)かづら。(蘿薜)。江淹「庶幽居之士、薜蘿可卷」
【薝】 (い)タン、トン。覩敢切。感。(ろ)セン、ソン。之廉切。鹽。❶木の名❷花の名。
【薟】 (い)ケン、ヤン。虛嚴切。鹽。(ろ)ゲン、ゴン。魚枕切。鹽。(は)蘞に同じ(に)韶に同じ。(い)❶からみ(辛味)❷めなもみ(ろ)水中に生ずるにら。
【蒟】 コウ、ク。居侯切。尤。ひめあざみ(蒟艾)。

【蕇】 テイ、チャウ。都挺切。迥。あぶらがや(葶藶)。
【薢】 カイ、ケ。古諧切。佳。❶ところ(萆薢)❷えびすぐさ(薢茩)❸水のほとりに生ずる草。
【薤】 カイ、ゲ。胡介切。卦。❶おほにら、らっきゃう(鴻薈)❷たかむしろ(簟)。
【薤露】 カイロ 葬を送る時に歌ふ歌。搜神記に「薤上露何易晞、露晞明朝更復落、人死一去何時歸」
【薥】 ショク、ソク。殊玉切。沃。草の名。
【薥葵】 ショクキ (植)たちあふひ。
【薦】 (い)セン。作甸切。霰。(ろ)荐に同じ。(は)縉に同じ。(い)すすむ、こも❷しとね、むしろ(褥席)❸しく❹くさ❺よもぎ❺こまかきくさ(細草)❻しげれるくさ❼まぐさ❽そなへもの(供物)❾受封、敍官(ろ)しきりに、かさねて。
【薦拔】 センバツ すすめぬきあぐ。舊唐書に「江南名士、薄遊長安者、多爲薦拔」
【薦牲】 センセイ いけにへをすすむ。禮記に「士薦牲用特豚」
【薦骨】 センコツ (生理)脊柱の下端にして、骨盤を形成する骨。
【薦羞】 センシウ 祭のそなへもの。周禮に「以式法掌祭祀之戒與薦羞」

【薦紳】 シンシン 士君子の稱。薦は縉に同じ。史記に「薦紳先生難言之」
【薦聞】 センブン 上にきこえあぐ。左傳に「大國用之、敢不薦聞」
【薦辱】 センジョク しきもの。風俗通に「汝南應融聞之、歸取衣車、厚其薦辱」
【薦論】 センロン 人の性行を論じて、すすめあぐ。范仲淹「其庶僚中、有高才異行、多所薦論」
【薦擢】 センタク すすめぬきあぐ。湘山野錄に「蒙二公薦擢、不數年竝升于臺閣」
【薦擧】 センキョ すすめあぐ。宋史に「進士高科一路也、大臣薦擧一路也」
【薦譽】 センヨ ほめてすすめあぐ。漢書に「更相薦譽、欲得大位」
【薧】 カウ、コウ。苦浩切。皓。ひもの、ほしうを。
【薨】 (い)コウ。呼肱切。蒸。(ろ)クワウ。呼宏切。庚。(い)なはる(卒)(ろ)❶おほし(衆)❷とし、はやし(疾)。
【薨去】 コウキョ 貴人の死をいふ。
【薨薨】 クワウクワウ おほき貌。詩經に「螽斯羽薨薨兮」
【薩】 サツ、サチ。桑割切。曷。❶すくふ❷あらはる。
【薩埵】 サッタ (佛)佛に亞ぐ位置、卽ち、大勇猛心を以て菩提を求め、大慈悲心を以て衆生を濟ひ、已に妙覺の果に近づ

きたる人。(菩薩)。
【薪】 シン。息鄰切。眞。❶たきぎ、しば❷きこり、しばかり。
【薪木】 シンボク たきぎ。孟子に「無寓人於我室、毀傷其薪木」
【薪柴】 シンサイ たきぎとしばと。楚辭に「折芳枝與瑤華兮、樹枳棘與薪柴」
【薪菽】 シンシュク たきぎとまめと。梅堯臣「行歌樂暮節、薪菽甘自刈」
【薪燎】 シンレウ かがりび。禮記に「季冬之月、乃命四監、收秩薪柴、以共郊廟及百祀之薪燎」
【薪蕘】 シンゼウ たきぎとくさと。王珪「何曾洗兵馬、但覺滿薪蕘」
【薪樵】 シンセウ たきぎ。漢書に「歸入者心持薪樵、輕重相分、班白不提挈」
【薪蘇】 シンソ 前に同じ。舊唐書に「家貧無燈燭、晝採薪蘇」
【薪水勞】 シンスヰノラウ たきぎを採り、水をくむほねをり。陶潛「遣此力、助汝薪水之勞」
【薯】 ショ、ゾ。常恕切。御。やまのいも(薯蕷)。

十四畫

【薰】 クン、コン。許云切。文。許運切。問。❶かをりぐさ❷いさを(勳に通ず)❸かをり(香氣)❹かをる、にほふ❺やく(灼)❻溫和なる貌❼獯に通ず。
【薰沐】 クンモク 香を衣に薰し髮を洗ひて身をきよむ。鄭俠「譬如方汚垢、對之獨薰沐」
【薰灼】 クンシャク ふすぶりやく。又、勢のさかんなるにいふ。唐書、王鉷傳に「天子使者、賜遺相望、權勢薰灼」
【薰育】 クンイク よき方になしへそだつ。
【薰芳】 クンハウ かうばし。庾闡「道雋薰芳、鮮不玉折」
【薰風】 クンプウ なつのかぜ。史記に「南風之薰兮、可以解吾民之慍兮」
【薰染】 クンセン うつりそむ。又、うつしそむ。程子論經筵事疏に「使之薰染成性」
【薰陶】 クンタウ 教育するに、火の物を薰し、土を埏して陶器を造るが如くするをいふ、宋史に「今人善教其子弟者、必延名德之士、使與之處、以薰陶成性」
【薰以香自燒】 クンハカウヲモッテミヅカラヤク すぐれたる人の、自らつつみ晦ます能はずして却ってその身を害ふに喩ふ。漢書に「薰以香自燒、膏以明自銷」
【薰蕕不同器】 クンイウウツハヲオナジクセズ 薰は香草、蕕は臭草なり、善人と惡人と一處に居るべからざるに喩ふ。世說に「培塿無松柏、薰蕕不同器」
【薱】 タイ、デ。徒對切。隊。しげる、しげし(茂)。

【蕡】 ヒン、ビン。符眞切。眞。蘋に同じ。
【薳】 (い)キ。韋委切。紙。(ろ)エン、ヱン。雨阮切。阮。(い)くさ(草)(ろ)ひめはぎ(遠志)。
【薴】 ダウ、ニャウ。女耕切。庚。❶草の名❷草のみだるる貌。
【薵】 チウ、ヂュ。直由切。尤。❶おほふ(覆)❷れぎ(𦵅緒)。
【薶】 (い)ワイ、ヱ。烏魁切。灰。(ろ)リ。陵之切。支。(は)埋に同じ。(い)けがる、けがす(汙)(ろ)ふさぐ(塞)。
【薷】 (い)ジュ、ニュ。汝朱切。虞。(ろ)葇に同じ。(い)きくらげ(木耳)。
【薸】 ヘウ、ベウ。符消切。蕭。うきくさ(浮萍)。
【薹】 タイ、デ。徒哀切。灰。❶すげ❷あぶらな(蕓薹)。
【薺】 (い)セイ、ザイ。在禮切。薺。(ろ)シ、ジ。才資切。支。(い)なづな(ろ)采薺は、逸詩の篇名。
【薽】 (い)シン。章隣切。眞。(ろ)ケン。吉延切。先。ゐのしりぐさ(蘋莿)。
【蔡】 (い)サツ、サチ。初八切。黠。(ろ)セイ、セ。初芮切。霽。(い)❶あくた(草芥)❷草の名(ろ)草の地を汙すこと。

【薾】㋑ジ、ニ。忍氏切。紙。㋺デイ、ナイ。奴禮切。薺。華のさかんなるにいふ。

【薿】㋑ギ。魚起切。紙。㋺ギョク、ゲキ。魚力切。職。しげる（茂）。

【薿薿】ギギ しげれる貌。詩經に「或耘或耔、黍稷薿薿」

【藁】❶カウ、コウ。古老切。皓。❶わら❷したがき（稿本）❸かろ（枯）㊃京師にあるえびすの住處の稱。

【藁人】カウジン わらにんぎやう。鶴林玉露に「夜縛二藁人數千一、衣以二甲冑一、持二旂幟戈矛一、嚴立成レ行」

【藁街】カウガイ 京中にある蠻夷の居留地。漢書、陳湯傳に「斬二郅支及名王以下一、縣二頭藁街一」

【藁稭】カウカウ いね。易林に「黍稷茂盛、多穫二藁稭一」

【藆】㋑ソウ、ズ。粗送切。送。㋺叢の俗字。

【藃】㋑ケウ。許嬌切。蕭。㋺カウ、ケウ。許交切。肴。㋩カウ、コウ。虚到切。號。㋥カク。黑各切。藥。㋑わかし（稚）。㋑草の貌㋺禾の肥ゆるに傷むこと㋩にはかにおこる貌㋥❶かわく（乾）❷草の肥えたる貌。

【藇】㋑ショ、ソ。徐呂切。語。㋺ヨ。余呂切。語。㋩以諸切。魚。㋥羊洳切。魚。㋑うつくしき貌㋺しげる（蕃）㋩草の名㋥やまいも（藷藇）。

【藙】㋑エウ。餘招切。蕭。㋺戈笑切。嘯。いらぐさ（藙茇）。

【藤】ケイ、ケ。涓畦切。齊。からすうり（藤菰）。

【藉】㋑シヤ、ヒ。慈夜切。禡。㋺セキ、ジヤク。秦昔切。陌。㋑❶しく❷のぶ（演）❸しきもの（席）㊃たすく（助）㊄かろ、よろ（依託）㊅たより、たすく㊆すすむ（術）㋺❶みだる（亂雜）❷ふむ（蹈）❸人の姓㊃なは（繩）㊄つなぐ（繫）。

【藉口】シヤコウ いひわけす。左傳に「晉人曰、荀有三以藉レ口而復二于寡君一、君之惠也」

【藉手】シヤシユ てなかろ。たよろ。左傳に「致不二藉レ手以拜一」

【藉命】シヤメイ 申しつけによる。左傳に「所下以藉二寡君之命一、結中二國之好上」

【藉甚】シヤジン 評判たかし。漢書、陸賈傳に「游二漢廷公卿閒一、名聲藉甚」

【藉草】シヤサウ くさなしきものとす。吳志、朱據傳に「權責二問據一、據無二以自明一、藉レ草待レ罪」

【藉藉】セキセキ 亂雜なる貌。漢書に「事藉藉如レ此、何可レ勝也」

【蓮】タフ、ドフ。徒合切。合。だいこん（菈蓮）。

【藊】エン。興專切。先。いちはつ（藊尾）。

【藿】㋑テウ、デウ。徒弔切。嘯。㋺タク、ドク。直角切。覺。㋩テキ、ヂヤク。徒歷切。錫。㋑❶そくづ（蒴藋草）❷すみれ（堇）㋺草の名㋩あかざ（灰藋）。

【藍】ラン、ロン。魯甘切。覃。❶あゐ❷ぼろ（襤に同じ）❸かんがみる（鑑）。

【藍水】ランスヰ あゐいろのみづ。杜甫「藍水遠從二千澗一落」

【藍尾】ランビ 最後に飲む酒杯を藍尾酒といふ。仇池筆記に「蘇鶚云、以レ酒巡匝爲二婪尾一、一作二藍尾一」

【藍面】ランメン あをきかほいろ。唐書に「藍面鬼色」

【藍衫】ランサン あゐいろのころも。畫圖見聞志に「昔吳道士、畫二鍾馗一、衣二藍衫一、鞹二一足一、眇二一目一、腰レ笏巾レ首而蓬髮」

【藍袍】ランハウ あゐいろの内衣。本草に「逸史云、唐高祖時、鍾馗應レ擧不レ第、觸レ階而死、後明皇夢有二小鬼一、盜二玉笛一、一大鬼破帽藍袍、捉レ鬼啖レ之、上問レ之、對曰、臣終南山進士鍾馗也、蒙レ賜二袍帶之葬一、誓除二天下虛耗之鬼一、乃命二吳道士一、圖レ象傳二之天下一」

【藍綬】ランジユ あゐいろの印綬。齊巳「藍綬乍辭新學士、白彩初脫舊神仙」

【藍碧】ランヘキ あをし。李元陽「遂行二二里許、見二一石山、藍碧如レ染一」

【藍靛】ランテン あゐぞめ。本草集解に「波斯青黛、亦是外國藍靛花」

【藍縷】ランル やぶれごろも。左傳に「篳路藍縷、以啓二山林一」

【藍田生玉】ランデンタマヲシヤウズ ❶他人の父子を稱譽していふ。吳志諸葛恪傳に「恪少有二才名一、發藻岐嶷、辯論應レ機、莫二與爲一レ答、孫權見而奇レ之、謂二其父瑾一曰、藍田生レ玉、眞不レ虛也」❷美貌あるものをいふ。宋書、謝莊傳に「莊韶令美二容儀一、太祖見而異レ之曰、藍田出レ玉、豈虛也哉」

【藙】シユン、ジユン。餕に同じ。

【藎】シン、ジン。徐刃切。震。❶あつし、まこと（篤）❷もえさし❸あまり（餘）㊃かりやす（草の名）。

【藎臣】ジンシン 忠愛の情あつき家來。詩經に「王之藎臣、無レ念二爾祖一」

【藏】㋑サウ、ザウ。昨郎切。陽。㋺オ浪切。漾。㋑❶をさむ❷たくはふ（畜）❸かくす㊃かくろ、ひそむ、をさまる㊄たくはへもの㋺❶くら❷はらわた（臟に通ず）。

【藏王】ザウワウ （佛）菩薩の一、忿怒の相を現し、右足を揚げ、右手に三鈷を持つ。

【藏六】ザウロク 龜の異名。六を藏すとは、頭尾四肢を甲の中に入れ藏すをいふ。雜阿含經に「有レ龜被二野干所一レ得、藏レ六不レ出、野干怒而去、佛告二諸比丘一、汝當下如二龜藏一レ六、自藏二六根一、魔不上レ得レ便」

【藏舟】ザウシウ ふねをさめ入る。莊子に「藏二舟于壑一、藏二山于澤一、謂二之固一矣」

【藏收】ザウシウ たくはへをさむ。蘇軾「片紙隻字皆藏收」

【藏身】ザウシン みをかくす。禮記に「故政者、君之所二以藏一レ身也」

【藏版】ザウハン 所藏の版本。

【藏拙】ザウセツ 人の下手をかくす。劉倓「徐陵聘レ齊、魏收錄二其文一遺レ陵、過レ江沈レ之曰、吾與二魏公一藏レ拙」

【藏姦】ザウカン 惡人をかくす。左傳に「盜賊藏姦爲二凶德一」

【藏書】ザウシヨ 所藏の書物。唐書に「藏書之盛、莫レ過二于開元一」

【藏茶】ザウチヤ ちやをたくはへおく。茶錄に「藏レ茶宜二蒻葉一、而畏二香藥一」

【藏疾】ザウシツ 惡をかくす。顏氏家訓に「含レ垢藏レ疾、尊レ賢容レ衆」

【藏匿】ザウトク かくす、又、かくろ。史記に「鄒生乃深自藏匿」

【藏閉】ザウヘイ かくす。晉書に「尋掘レ地得二錢百萬一、意甚惡レ之、一皆藏閉」

【藏智】ザウチ ちゑをかくす。文子に「臣下藏レ智而不レ用」

【藏跡】ザウセキ あとをかくす。王令「雷車收レ轍雲藏レ跡」

【藏蓄】ザウチク たくはふ。吳萊「富豪僅藏蓄、官府吏急糧」

【藏鋒】ザウホウ 書法上の語。字を寫すに筆端を藏して露さざるをいふ。書訣に「用レ筆如二印レ泥畫一レ沙、貴レ藏レ鋒也」

【藏機】ザウキ はたらきをかくす。李紳「發レ論開レ蒙、藏レ機匿レ聖」

【藏竄】ザウザン かくれのがる。魏志に「民不レ安レ業、捐二棄居產一、流亡藏竄」

【藏二名山一】メイザンニザウス 古は著書の亡失せんことを恐れ、石函などに入れて、名山に藏しきといふ。史記、司馬遷傳に「太史公協二六經異傳一、齊二百家雜話一、藏二之名山一、副在二京師一」

【藏修游息】ザウシウイウソク 君子の學問に於けるは、時として心を學に存せざることなきをいふ。禮記に「君子之於レ學也、藏焉、修焉、游焉、息焉」

【藏二金於山一藏二珠於淵一】カネヲヤマニザウシタマヲフチニザウス 無用の寶を貴重せざるにいふ。莊子に「藏二金於山一、藏二珠於淵一、不レ利二貨財一、不レ近二貴富一、不レ樂レ壽、不レ哀レ夭、不レ榮レ通、不レ醜レ窮」

【藐】㋑バウ、メウ。眉敎切。效。㋺ベウ、メウ。亡沼切。篠。㋩バク、モク。莫角切。覺。㋑むらさきさう㋺❶ちひさし（小）❷かろんず（輕視）❸

視る容よし、みめよき貌(は)㊀うつくし(美)㊁ひろし(廣)㊂すすむ(漸)㊃入らざる貌㊄むらさきさう。

【藐視】かろんじ視る。孟子に「說二大人一則藐レ之、勿レ視二其巍巍然一」

【藐貌】とほくしてはるかなり。馬融「藐貌勿罔、寥豁鬱泱」

【藐遠】前に同じ。

【藐藐】㊀美しき貌。詩經に「寢廟既成、既成藐藐」㊁入らざる貌。詩經に「誨レ爾諄諄、聽レ我藐藐」

【藐諸孤】小弱なるみなしご。諸は助字なり。左傳に「以二是藐諸孤一辱在二大夫一、其若レ之何」

【藐姑射山】㊀仙人の栖めりといふ山。略して姑射山ともいふ。莊子に「藐姑射之山、有二神人一居焉、肌膚若二冰雪一、淖約若二處子一」㊁我國にて、仙洞の敬稱。

【蒦】

(ゆ)ケイ、ギヤウ。渠營切。庚。(ろ)セン、ゼン。詳兗切。銑。かなりぐさの名。

【藒】

ケツ、ケチ。丘竭切。屑。かなりぐさの名。

十五畫

【藕】

(ゆ)ゴウ、グ。五口切。有。(ろ)グウ。慣用音。㊀はすのね(蓮根)㊁はす、はちす(芙蕖)㊂地の名。

【藕花】はすのはな。張鎡「夜月紅二柑樹一、秋風白二藕花一」

【藕絲】はすよりひき出すいと。朱超道「摘二除蓮上葉一、拖二出藕中絲一」

【藇】

キヨウ、コウ。虛陵切。蒸。あぶらな(蕓薹)。

【藘】

リヨ、ロ。力居切。魚。あかね(茹藘)。

【蘂】

ギ、ゲ。魚既切。未。おほだら(煎菜黃)。

【藖】

ゾク。似足切。沃。おもだか、なまゐ(牛脣草)。

【蔫】

シヤ、セ。洗野切。馬。おもだか、なまゐ(澤蕮)。

【藺】

リヨ、ロ。力居切。魚。いぬよもぎ(蕃藺)。

【藜】

レイ、ライ。郞奚切。齊。あかざ。

【藜杖】あかざのつゑ。晉書に「文帝以二濤母老一、贈二藜杖一枝一」

【藜蕨】あかざとわらびと。程俱「定非二肉食姿一、賦分在二藜蕨一」

【藜藋】〔植〕あかざ。左傳に「艾二殺此地一、斬二其蓬蒿藜藋一」

【藜蘆】〔植〕しゅろさう。佩文韻府に「藜蘆藥名、一名豐蘆」

【藜藿】あかざとまめのはと。晉書、葛洪傳に「藜藿有二八珍之甘一、蓬蓽有二藻梲之樂一」

【藝】

ゲイ。魚祭切。霽。㊀わざ㊁きはまり(極)㊂まと(的)㊃のり(準)㊄わかつ(分)㊅うう(種)㊆わざの長じたること。

【藝文】學術と技藝と。後漢書、禰衡傳に「英才卓躒、初涉二藝文一」

【藝技】てわざ。(技藝)。謝靈運「家畜二金繪一、才練二藝技一」

【藝林】學藝の社會。魏書、常爽傳に「頃因二暇日一、屬二意藝林一」

【藝術】技藝と學術と。たくみなるわざ。後漢書、安帝紀に「校二定東觀五經、諸子傳記、百家藝術一、整二齊脫誤一、是二正文字一」

【藝植】うう。王維「方將與二農圃一、藝二植老二丘園一」

【藝業】學術技藝などのわざ。顏延之「輔以二藝業一、會以二文辭一」

【藝蘅】まめなうう。載萇「結レ廬在二西市一、藝レ蘅仍種レ菜」

【藟】

ルヰ。魯水切。紙。㊀かづら、ふぢ(藤)㊁あまちや(巨荒)。

【藤】

トウ、ドウ。徒登切。蒸。ふぢ、かづら(蔓藟)。

【藤纒】ふぢまつはる。杜甫「缺籬將二棘拒一、倒石賴二藤纒一」

【藤蘿】〔植〕ふぢかづら。張說「山花迷二徑路一、池水拂二藤蘿一」

【藥】

(ゆ)ヤク。以灼切。藥。(ろ)リヤク。旅灼切。藥。(は)シヤク。式灼切。藥。(ゆ)㊀くすり㊁いやす(療)㊂かこひ(欄)(ろ)勺藥は、ひしほ(醢食)(は)熱き貌。

【藥力】くすりの疾に及ぼすききめ。雲笈七籤に「凡一切五辛、皆害二於藥力一」

【藥方】くすりのもりかた。後漢書に「太醫藥丞主二藥方一」

【藥石】くすりといしばりと。轉じて、療治の義。祖庭事苑に「夫攻レ病曰レ藥、劫レ藥曰レ石、古以二砭石一爲レ針也」

【藥艾】くすりときうと。呂氏春秋跋に「元祐壬申、余臥二疾京師一、喜レ得二此書一、藥艾之閒、手自校レ之、自レ秋涉レ冬、朱黃始就」

【藥材】くすりとなるべきもの。高啓「地有二芝苓一盡藥材」

【藥性】くすりの品質。方回「認レ苗諳二藥性一、養レ果護二花身一」

【藥物】くすり。陸游「藥物屏除知二病滅一、夢魂安穩覺二心平一」

【藥品】くすりの品類。元結「在二藥品一是眞藥、爲二蔬菜一是佳蔬」

【藥苗】くすりぐさのなへ。高適「秋韭何靑靑、藥苗數百畦」

【藥草】くすりに用ゐるくさ。朱慶餘「賞レ身唯藥草、敎レ子但詩書」

【藥師】〔佛〕衆生の病患を救ひ、无明の舊痾を治する法藥をあたふる如來。增无綠雙紙に「大慈大悲照光明、眞與二法藥二苦衆生一、故稽二首瑠璃光一」

【藥酒】くすりさけ。荀悅「甘醴有二酖毒一、藥酒有レ治レ病」

【藥圃】くすり草を植ゑたるはたけ。王維「荷レ鋤修二藥圃一、散レ帙曝二農書一」

【藥笈】くすりばこ。陸游「著蘚藥笈每隨レ身」

【藥筒】前に同じ。神仙傳に「有二二侍者一、一負二書笈一、一攜二藥筒一」

【藥脯】乾肉に藥をつく。穀梁傳に「驪姬以レ酖爲レ酒、藥レ脯以レ毒」

【藥肆】くすりを賣るみせ。輟耕錄に「崔進之藥肆、懸二一牌一」

【藥鼎】くすりなべ。范成大「雞犬爾何知、偶舐二藥鼎餘一」

【藥園】くすり草を植ゑたるはたけ。舊唐書に「藥園師以レ時種蒔收采」

【藥餌】くすり。爾雅、翼に「枯犀之角能辟二邪惡一、寧二心神一、散二風熱一、二眞於藥餌一」

【藥囊】くすりぶくろ。元稹「藥囊堆二小案一、書卷塞二空齋一」

【藥劑】くすりのしなじな。くすり。史記、孝武帝紀に「事レ化二丹砂諸藥劑一爲二黃金一矣」

【藥爐】くすりを煎るゐろり。王士禎「藥爐經卷送二生涯一」

【藥鐺】くすりなべ。陸游「山童睡熟靑燈暗、自撥二殘爐一候二藥鐺一」

【藥錢】前に同じ。陸游「正令二不過一亦何慊、藥錢丹爐老二靑峰一」

【藥石之言】人をいましめて、その非を改めしむることば。唐書に「高季輔上二封事一、帝賜二鍾乳一劑一曰、卿進二藥石之言一、故以二藥石一報レ之」

【藥籠中之物】㊀必用の人物といふ義。唐書に「元行冲謂二狄仁傑一曰、下充爲二旨味一者多矣、願以二小人一備二一藥石一、可乎、仁傑曰、君正吾藥籠中物、不レ可二一日無一也」㊁わが手の中のもの。

【藦】

バ、マ。莫臥切。箇。㊀かがいも(蘿藦)㊁くさの名。

【藨】

(ゆ)ヘウ。平表切。篠。(ろ)ヘウ、ベウ。蒲嬌切。蕭。(は)蔍に同じ。(ゆ)㊀あぶらがや㊁のまめ(鹿藿)(ろ)㊀いちご(莓)㊁ゑんどう(苕)。

【藩】

(ゆ)ハン、ホン。甫煩切。元。(ろ)ヘン、ホン。附袁切。元。(ゆ)㊀さかひ(域)㊁おほひ(屏)㊂まがき(籬)㊃諸侯などの稱㊄幡に通ず(ろ)やまし、はなすげ(芄藩)。

【藩方】諸侯ないふ。宋史に「朝廷者根本也、藩方者枝葉也」

【藩身】みをまもる。左傳に「貨以藩レ身、子何愛焉」

【藩車】おほひのあるくるま。漢書に「司馬陳蒙、劾奏陳遵乘藩車入閭巷」注に「車之有屛蔽者」
【藩附】鄰國をいふ。北史に「常朝貢雖稱藩附、誠節未盡」
【藩屛】㊀まがき。㊁諸侯の稱。又、守護となるべきもの。左傳に「封建親戚、以藩屛周」
【藩戚】天子の一門なる大名。徐陵「足下宗枝藩戚、德譽早隆」
【藩落】まがき。（籬落）。晉書に「榛椽之材、不合以爲藩落也」
【藩障】まもり。晉書に「樹藩障」
【藩輔】王室の守護となる者、卽ち、侯伯などの稱。魏志に「以懿親之重、處藩輔之位」
【藩翰】前に同じ。（屛翰）。晉書に「史臣曰、有晉釁興、載崇藩翰」
【藩鎭】唐代に置きたる地方官。唐明皇「藩鎭謳歌滿、行宮雨露深」
【藩籬之鷃】見識のせまき小人物に喩ふ。宋玉「鳳上擊九千里、絕雲霓、負青天、翱翔乎杳冥之上、夫藩籬之鷃、豈能與之料天地之高哉」
【藪】（ゆ）ソウ、ス。蘇后切。有。（ろ）千候切。宥。㊀やぶ、さは、おどろ ㊁物事の集合地 ㊂在野 （ろ）輪の輻の集まれるところ。
【藪澤】土地廣く草木の叢生せる處。史記に「鶴明已翔乎寥廓、而羅者猶視乎藪澤」
【藫】（ゆ）タン、ドン。徒含切。覃。（ろ）イン。以寢切。寢。㊀みづごけ ㊁もづく（海羅）（ろ）水の動搖する貌（藫湛）。
【藰】（ゆ）リウ、ル。力九切。有。（ろ）力求切。尤。（ゆ）やまごばう（章陸）（ろ）㊀草の名（蒟弋）㊁衆聲の貌。

十六畫

【藶】レキ、リヤク。郞擊切。錫。いぬなづな（葶藶）。
【薂】カウ、ゲウ。下巧切。巧。㊀たけのこ（筍）㊁はすのね（藕根）㊂かぶれ（株根）㊃弓角のつぎめ。
【蔞】ロウ、ル。落侯切。尤。からすうり（菰蓏）。
【薥】（ゆ）トク、ドク。徒谷切。屋。（ろ）ショク、ゾク。殊玉切。沃。（ゆ）しうど（獨活）（ろ）一種の栗。
【藷】ショ、ソ。章魚切。魚。㊀やまのいも（藷薁）㊁さたうきび（藷蔗）。
【藷芋】〔植〕さつまいも。又、からいも。蘇軾「土人頓頓食藷芋」
【藸】（ゆ）チョ、ド。直魚切。魚。（ろ）タ、テ。陟加切。麻。（は）チョ、ト。陟魚切。魚。（ゆ）されかづら、びなんかづら（茎蕪）（ろ）みだるる草（藸葹）（は）一種の草（菘蕫）。
【藹】（ゆ）アイ。于蓋切。泰。（ろ）アイ、エ。倚亥切。賄。（ゆ）㊀さかんなり ㊁しげる、しげし ㊂おほし （ろ）しげる、しげし。
【藹然】㊀さかんなる貌。㊁心氣のやはらぎたる貌。
【藹蔚】しげりあふ。張華「育草木之藹蔚、因田園之丘墟」
【藹藹】㊀しげく盛んなる貌。詩經に「藹藹王多吉士」㊁香ふ貌。楚辭に「懷椒聊之藹藹兮」
【藺】リン。良刃切。震。㊀莞の屬 ㊁城上より石を落すこと ㊂人の姓。
【藻】サウ、ソウ。子皓切。皓。㊀も ㊁あや（文章）㊂しきもの。
【藻井】からくさを畫ける天井。又、天井。風俗通に「今殿作天井、井者東井之象也、藻水中之物、皆所以厭火也」
【藻文】あやもやう。禮記に「藻梲畫侏儒柱、爲藻文也」
【藻思】詩文の才。唐詩紀事に「泉飛藻思、雲散襟情」
【藻絢】かざり。晉書に「翰林總其菁華、典論詳其藻絢」
【藻棟】ゑがけるむなぎ。王珪「藻棟

臨流啓」
【藻楣】ゑがけるはり。又、ゑがけるのき。張憲「繡棟藻楣盤紫雲」
【藻蔚】あやかざり。抱朴子に「華章藻蔚、非瞽瞍所玩」
【藻翰】文詞をいふ。王勃「何平叔之符彩、潘安仁之藻翰」
【藻翹】あやあるはね。陸機「金雀垂藻翹、瓊佩結瑤璠」
【藻繪】さいしき。（畫藻）。梁元帝「義若聯環、文同藻繪」
【藻燿】うつくしきひかり。（華燿、文燿）。張說「紅荷藻燿于澤畔」
【蕀】ラウ、ロウ。盧皓切。皓。かわかしたる梅實。
【藾】ライ。盧蓋切。泰。㊀かげ、おほふ（蔭）㊁くさよもぎ（蒿の屬）。
【艹澤】タク、ヂヤク。直格切。陌。なまゐ（蘀蒚）。
【藿】（ゆ）クワク。虛郭切。藥。（ろ）スヰ。選委切。紙。（ゆ）㊀わかきまめのは（豆葉）㊁かなりぐさ （ろ）草木の花の貌。
【蘀】タク。他各切。藥。おちば、かれは。
【蘁】（ゆ）ゴ、グ。五故切。遇。（ろ）蕚に同じ。（ゆ）さかふ、さかしま（逆）。
【蘂】ズヰ。如壘切。紙。しべ（花の內心）。
【蘄】（ゆ）キ、ギ。渠之切。支。（ろ）キン、ゴン。渠斤切。文。（ゆ）㊀もとむ（求）㊁くつわ（馬銜）㊂蛇牀に似たる草 （ろ）やまぜり。
【蘅】カウ、ギヤウ。戶庚切。庚。かんあふひ（杜蘅）。
【蘅蕙】香草の名。謝莊「蘅蕙有實、金碧不居」
【蘆】ロ、ル。落胡切。虞。㊀あし、よし ㊁だいこん。
【蘆汀】あしの生えたるみぎは。劉基「朝辭參洛暮蘆汀」
【蘆石】〔鑛〕鍾乳石の異名。
【蘆灰】あしのはひ。淮南子に「女媧積蘆灰、以止淫水」
【蘆花】あしのはな。江總「蘆花霜外白、楓葉水前丹」
【蘆岸】あしの生えたるきし。杜牧「煙影侵蘆岸、潮痕在竹屛」
【蘆菔】〔植〕だいこんの異名。
【蘆葦】〔植〕あし。貫休「蘆葦深花裏、漁歌一曲長」
【蘆錐】あしのめばえ。元稹「冰消田地蘆錐短、春入柳條柳眼低」
【蘇】（ゆ）ソ、ス。素姑切。虞。（ろ）蘇故切。遇。（ゆ）㊀しそ、のらえ ㊁よみがへる ㊂いこふ（息）㊃とる（取）㊄くさ（草）㊅ふさ（流蘇）㊆氣の來くる貌 ㊇恐懼して安んぜざる貌 ㊈躁ぎ動く貌 ㊉寤む ⑪くさかる（芟）⑫人の姓 （ろ）むかふ。
【蘇小】齊の錢塘の名妓の名、轉じて廣く藝妓の稱とす。吳地記に「嘉興縣前有晉妓蘇小小墓」
【蘇生】一旦死にたるものが更に生きかへる。よみがへる。
【蘇甘】鹽の異名。鷄林類事に「鹽曰蘇甘」
【蘇功】殆んど成らざることを成し遂げしむ。管子に「漁利蘇功、以將順其君」注に「蘇、生息也」
【蘇枋】〔植〕材は楊弓などに作り、その削屑は赤紫等の染料とす。南方草木狀に「蘇枋出九眞、南人以染絳」
【蘇芳】前に同じ。
【蘇活】よみがへる。搜神記に「晉武帝世、河間郡有男女、私許配適、尋而男從軍不歸、女家更欲適之、女不願行、父母逼之、去尋病死、其男戍還、至冢哭之、女卽蘇活」
【蘇息】前に同じ。宋史に「陸興初與金人約和、天下忻然、幸得蘇息」
【蘇援】さがしひく。淮南子に「蘇援世事、分白黑利害」
【蘇蘇】氣のつくる貌。恐懼して安んぜざる貌。又、躁ぎ動く貌。易經に「震蘇

蘇、震行無レ眚」

【蘇合香】(ソガフカウ)香の名。木草に「蘇合香出二中臺川谷一」

【蘇門嘯】(ソモンセウ)聲すぐれたるうそぶき。晉の阮籍の故事に本づく。(孫登嘯)。晉書、阮籍傳に「籍嘗於二蘇門山一遇二孫登一、與レ談二略終古、及栖神道氣之術一、登皆不レ應、因長嘯而退、至二半嶺一聞二其聲若一レ鸞鳳之音響一乎巖谷一、乃登之嘯也」

【蘇迷盧】(ソメイロ)(梵語 Sumeru)須彌山(シュミセン)に同じ。飜譯名義集に「蘇迷盧、西域記云、唐云二妙高一、舊曰二須彌一」

【蘇張舌】(ソチャウノシタ)蘇秦は六國の君に游說し、合從して、秦に當らしめ、張儀は六國を連れて秦に事へしむ、二人共に縱橫の策を畫し、辯舌を以て志を成せり。よりて策士などの雄辯を稱していふ。杜甫「卻假二蘇張舌一、高談周宋鐔」

【蔓】(ボウ)ろボウ、モウ。莫郎切。陽。つとむ(勉)。彌登切。蒸。

【蘊】(ウン)ウン、チン。委紛切。吻。ろチン。烏昆切。元。(ウン、チン。紆云切。文。

(一)たくはふ(蓄)、をさむ(藏)(二)つむ(積)(三)あつむ(聚)、をさまる(藏)(四)つつむ(韜)(五)おく(奥)(六)も(海藻)(七)怨に通ず(九)宛に通ず(九)おほき貌、又、あつまりしげれる貌ろおほし(饒)(十)おさなみ(蘊論)。

【蘋】(ヒン)うきぐさとしろよもぎと。左傳に「苟有二明信一、澗溪沼沚之毛、蘋蘩蘊藻之菜、可レ薦二于鬼神一、可レ羞二于王侯一」

【蘦】(ギョ、ゴ)魚巨切。語。(一)いけす、す(一)しげりおほふ、おほふ。

十七畫

【蘞】(ケチ)ゲツ、ゲチ。魚列切。屑。きりかぶ、ひこばへ。

【蘞】(ケチ)ゲツ、ゲチ。藥の俗字。

【蘘】(ジャウ)ジャウ、ナウ。汝陽切。陽。めうが(薑荷)。

【蘙】(エイ)エイ、アイ。於計切。霽。しげる、おほふ。

【蘙薈】(エイワイ)しげりおほふ。孫武子に「軍旁有二險阻潢井葭葭林木翳薈一者、必謹覆索之」

【蘚】(セン)セン。息淺切。銑。こけ(苔)。

【蘚花】(センクワ)こけのはな。喩皃「氣蒙珠網、塵墜蘚花堦」

【蘚苔】(センタイ)〔植〕こけ。(苔蘚)。

【蘚衾】(センコン)こけのあと。張鼎「引出白雲根、濛濛濕二蘚衾一」

【蘚癰】(ハンヨウ)前に同じ。吳龍翰「龍古茶煙斷、碑殘雨蘚癰」

【蘚苹】(ヘイ)〔植〕うきぐさとしろよもぎと。左傳に「苟有二明信一、澗溪沼沚之毛、蘋蘩蘊藻之菜、可レ薦二于鬼神一、可レ羞二于王侯一」

【蘋】(ヒン)ヒン、ビン。符眞切。眞。かたばみも、うきぐさのはな。柳宗元「春風無レ限瀟湘意、欲レ採二蘋花一不二自由一」〔植〕うきぐさ。沈約「其水草、則蘋苹荇茭」

【蘋繁】(ヒンハン)うきぐさとしろよもぎと。左傳に「苟有二明信一、澗溪沼沚之毛、蘋蘩蘊藻之菜、可レ薦二于鬼神一、可レ羞二于王侯一」

【蘋】(ヒン)(一)いけす、す(一)しげりおほふ、おほふ。

【蘊】(ウン)まことをつつむ。謝靈運「表レ賞、蘊二眞誰爲傳一」

【蘊崇】(ウンスウ)つみあつむ。左傳に「去レ惡如二農夫之務去レ草焉、芟二夷蘊一崇之、絕二其本根一」注に「蘊積也、崇聚也」

【蘊結】(ウンケツ)思つもりて解けず。詩經に「寤辟有レ摽、我心蘊結」

【蘊奧】(ウンアウ)學問技藝などのおくそこ。宋史に「發二揮聖賢蘊奧一、有レ補二治道一」

【蘊藉】(ウンシャ)むしあつし。劉克莊「值二驕陽一、拜二溫詔一、以如レ春」

【蘊蓄】(ウンチク)つみたくはふ。いかりをつむ。後漢書、卓茂傳論に「以レ此遂不レ得二升進一、志意蘊慎、乃隱居著レ書」

【蘊藝】(ウンゲイ)ふかき學問。錢瑢「以二爾蘊學之優一、當二吾選求之要一」

【蘊隆蟲蟲】(ウンリュウチュウチュウ)わざをつつみかくす。又、つくしわざ、蘇頲「識遠心明、懷レ才蘊レ藝」

【蘊蓼】(ウンリョウ)あつまる貌。傅休奕「葉萋萋而金黃」

【蘊】(ウン)ウン、チン。委紛切。吻。ろチン。烏昆切。元。(ウン、チン。紆云切。文。

(一)たくはふ(蓄)、をさむ(藏)(二)つむ(積)(三)あつむ(聚)、をさまる(藏)(四)つつむ(韜)(五)おく(奥)(六)も(海藻)(七)怨に通ず(九)宛に通ず(九)おほき貌、又、あつまりしげれる貌ろおほし(饒)(十)おさなみ(蘊論)。

【蘆】(ロ)ろロ、ル。盧紅切。東。

【蘆】(ロ)ろロ、ル。盧孔切。董。

【蘆】(ロ)ろロ、ル。盧紅切。東。

【蘆】(ロ)ろロ、ル。盧孔切。董。

【蘇】(ソ)ろソ、ス。素姑切。模。(一)よみがへる(甦)(二)いきかへる(蘇生)(三)さめる(醒)(四)やすんず(安)(五)やすらか(安)(六)やすらかなり(安)(七)やすんじて(安)(八)やすし(安)(九)やすらかなり(安)(十)やすんじて(安)(十一)やすし(安)(十二)やすらかなり(安)(十三)やすんじて(安)(十四)やすし(安)(十五)やすらかなり(安)(十六)やすんじて(安)(十七)やすし(安)(十八)やすらかなり(安)(十九)やすんじて(安)(二十)やすし(安)(二十一)やすらかなり(安)(二十二)やすんじて(安)(二十三)やすし(安)(二十四)やすらかなり(安)(二十五)やすんじて(安)(二十六)やすし(安)(二十七)やすらかなり(安)(二十八)やすんじて(安)(二十九)やすし(安)(三十)やすらかなり(安)(三十一)やすんじて(安)(三十二)やすし(安)(三十三)やすらかなり(安)(三十四)やすんじて(安)(三十五)やすし(安)(三十六)やすらかなり(安)(三十七)やすんじて(安)(三十八)やすし(安)(三十九)やすらかなり(安)(四十)やすんじて(安)(四十一)やすし(安)(四十二)やすらかなり(安)(四十三)やすんじて(安)(四十四)やすし(安)(四十五)やすらかなり(安)(四十六)やすんじて(安)(四十七)やすし(安)(四十八)やすらかなり(安)(四十九)やすんじて(安)(五十)やすし(安)(五十一)やすらかなり(安)(五十二)やすんじて(安)(五十三)やすし(安)(五十四)やすらかなり(安)(五十五)やすんじて(安)(五十六)やすし(安)(五十七)やすらかなり(安)(五十八)やすんじて(安)(五十九)やすし(安)(六十)やすらかなり(安)(六十一)やすんじて(安)(六十二)やすし(安)(六十三)やすらかなり(安)(六十四)やすんじて(安)(六十五)やすし(安)(六十六)やすらかなり(安)(六十七)やすんじて(安)(六十八)やすし(安)(六十九)やすらかなり(安)(七十)やすんじて(安)(七十一)やすし(安)(七十二)やすらかなり(安)(七十三)やすんじて(安)(七十四)やすし(安)(七十五)やすらかなり(安)(七十六)やすんじて(安)(七十七)やすし(安)(七十八)やすらかなり(安)(七十九)やすんじて(安)(八十)やすし(安)(八十一)やすらかなり(安)(八十二)やすんじて(安)(八十三)やすし(安)(八十四)やすらかなり(安)(八十五)やすんじて(安)(八十六)やすし(安)(八十七)やすらかなり(安)(八十八)やすんじて(安)(八十九)やすし(安)(九十)やすらかなり(安)(九十一)やすんじて(安)(九十二)やすし(安)(九十三)やすらかなり(安)(九十四)やすんじて(安)(九十五)やすし(安)(九十六)やすらかなり(安)(九十七)やすんじて(安)(九十八)やすし(安)(九十九)やすらかなり(安)(百)やすんじて(安)(百一)やすし(安)(百二)やすらかなり(安)(百三)やすんじて(安)(百四)やすし(安)(百五)やすらかなり(安)(百六)やすんじて(安)(百七)やすし(安)(百八)やすらかなり(安)(百九)やすんじて(安)(百十)やすし(安)(百十一)やすらかなり(安)(百十二)やすんじて(安)(百十三)やすし(安)(百十四)やすらかなり(安)(百十五)やすんじて(安)(百十六)やすし(安)(百十七)やすらかなり(安)(百十八)やすんじて(安)(百十九)やすし(安)(百二十)やすらかなり(安)(百二十一)やすんじて(安)(百二十二)やすし(安)(百二十三)やすらかなり(安)(百二十四)やすんじて(安)(百二十五)やすし(安)(百二十六)やすらかなり(安)(百二十七)やすんじて(安)(百二十八)やすし(安)(百二十九)やすらかなり(安)(百三十)やすんじて(安)(百三十一)やすし(安)(百三十二)やすらかなり(安)(百三十三)やすんじて(安)(百三十四)やすし(安)(百三十五)やすらかなり(安)(百三十六)やすんじて(安)(百三十七)やすし(安)(百三十八)やすらかなり(安)(百三十九)やすんじて(安)(百四十)やすし(安)(百四十一)やすらかなり(安)(百四十二)やすんじて(安)(百四十三)やすし(安)(百四十四)やすらかなり(安)(百四十五)やすんじて(安)(百四十六)やすし(安)(百四十七)やすらかなり(安)(百四十八)やすんじて(安)(百四十九)やすし(安)(百五十)やすらかなり(安)(百五十一)やすんじて(安)(百五十二)やすし(安)(百五十三)やすらかなり(安)(百五十四)やすんじて(安)(百五十五)やすし(安)(百五十六)やすらかなり(安)(百五十七)やすんじて(安)(百五十八)やすし(安)(百五十九)やすらかなり(安)(百六十)やすんじて(安)(百六十一)やすし(安)(百六十二)やすらかなり(安)(百六十三)やすんじて(安)(百六十四)やすし(安)(百六十五)やすらかなり(安)(百六十六)やすんじて(安)(百六十七)やすし(安)(百六十八)やすらかなり(安)(百六十九)やすんじて(安)(百七十)やすし(安)(百七十一)やすらかなり(安)(百七十二)やすんじて(安)(百七十三)やすし(安)(百七十四)やすらかなり(安)(百七十五)やすんじて(安)(百七十六)やすし(安)(百七十七)やすらかなり(安)(百七十八)やすんじて(安)(百七十九)やすし(安)(百八十)やすらかなり(安)(百八十一)やすんじて(安)(百八十二)やすし(安)(百八十三)やすらかなり(安)(百八十四)やすんじて(安)(百八十五)やすし(安)(百八十六)やすらかなり(安)(百八十七)やすんじて(安)(百八十八)やすし(安)(百八十九)やすらかなり(安)(百九十)やすんじて(安)(百九十一)やすし(安)(百九十二)やすらかなり(安)(百九十三)やすんじて(安)(百九十四)やすし(安)(百九十五)やすらかなり(安)(百九十六)やすんじて(安)(百九十七)やすし(安)(百九十八)やすらかなり(安)(百九十九)やすんじて(安)(二百)やすし(安)(二百一)やすらかなり(安)(二百二)やすんじて(安)(二百三)やすし(安)(二百四)やすらかなり(安)(二百五)やすんじて(安)(二百六)やすし(安)(二百七)やすらかなり(安)(二百八)やすんじて(安)(二百九)やすし(安)(二百十)やすらかなり(安)(二百十一)やすんじて(安)(二百十二)やすし(安)(二百十三)やすらかなり(安)(二百十四)やすんじて(安)(二百十五)やすし(安)(二百十六)やすらかなり(安)(二百十七)やすんじて(安)(二百十八)やすし(安)(二百十九)やすらかなり(安)(二百二十)やすんじて(安)(二百二十一)やすし(安)(二百二十二)やすらかなり(安)(二百二十三)やすんじて(安)(二百二十四)やすし(安)(二百二十五)やすらかなり(安)(二百二十六)やすんじて(安)(二百二十七)やすし(安)(二百二十八)やすらかなり(安)(二百二十九)やすんじて(安)(二百三十)やすし(安)(二百三十一)やすらかなり(安)(二百三十二)やすんじて(安)(二百三十三)やすし(安)(二百三十四)やすらかなり(安)(二百三十五)やすんじて(安)(二百三十六)やすし(安)(二百三十七)やすらかなり(安)(二百三十八)やすんじて(安)(二百三十九)やすし(安)(二百四十)やすらかなり(安)(二百四十一)やすんじて(安)(二百四十二)やすし(安)(二百四十三)やすらかなり(安)(二百四十四)やすんじて(安)(二百四十五)やすし(安)(二百四十六)やすらかなり(安)(二百四十七)やすんじて(安)(二百四十八)やすし(安)(二百四十九)やすらかなり(安)(二百五十)やすんじて(安)(二百五十一)やすし(安)(二百五十二)やすらかなり(安)(二百五十三)やすんじて(安)(二百五十四)やすし(安)(二百五十五)やすらかなり(安)(二百五十六)やすんじて(安)(二百五十七)やすし(安)(二百五十八)やすらかなり(安)(二百五十九)やすんじて(安)(二百六十)やすし(安)(二百六十一)やすらかなり(安)(二百六十二)やすんじて(安)(二百六十三)やすし(安)(二百六十四)やすらかなり(安)(二百六十五)やすんじて(安)(二百六十六)やすし(安)(二百六十七)やすらかなり(安)(二百六十八)やすんじて(安)(二百六十九)やすし(安)(二百七十)やすらかなり(安)(二百七十一)やすんじて(安)(二百七十二)やすし(安)(二百七十三)やすらかなり(安)(二百七十四)やすんじて(安)(二百七十五)やすし(安)(二百七十六)やすらかなり(安)(二百七十七)やすんじて(安)(二百七十八)やすし(安)(二百七十九)やすらかなり(安)(二百八十)やすんじて(安)(二百八十一)やすし(安)(二百八十二)やすらかなり(安)(二百八十三)やすんじて(安)(二百八十四)やすし(安)(二百八十五)やすらかなり(安)(二百八十六)やすんじて(安)(二百八十七)やすし(安)(二百八十八)やすらかなり(安)(二百八十九)やすんじて(安)(二百九十)やすし(安)(二百九十一)やすらかなり(安)(二百九十二)やすんじて(安)(二百九十三)やすし(安)(二百九十四)やすらかなり(安)(二百九十五)やすんじて(安)(二百九十六)やすし(安)(二百九十七)やすらかなり(安)(二百九十八)やすんじて(安)(二百九十九)やすし(安)(三百)やすらかなり(安)(三百一)やすんじて(安)(三百二)やすし(安)(三百三)やすらかなり(安)(三百四)やすんじて(安)(三百五)やすし(安)(三百六)やすらかなり(安)(三百七)やすんじて(安)(三百八)やすし(安)(三百九)やすらかなり(安)(三百十)やすんじて(安)(三百十一)やすし(安)(三百十二)やすらかなり(安)(三百十三)やすんじて(安)(三百十四)やすし(安)(三百十五)やすらかなり(安)(三百十六)やすんじて(安)(三百十七)やすし(安)(三百十八)やすらかなり(安)(三百十九)やすんじて(安)(三百二十)やすし(安)(三百二十一)やすらかなり(安)(三百二十二)やすんじて(安)(三百二十三)やすし(安)(三百二十四)やすらかなり(安)(三百二十五)やすんじて(安)(三百二十六)やすし(安)(三百二十七)やすらかなり(安)(三百二十八)やすんじて(安)(三百二十九)やすし(安)(三百三十)やすらかなり(安)(三百三十一)やすんじて(安)(三百三十二)やすし(安)(三百三十三)やすらかなり(安)(三百三十四)やすんじて(安)(三百三十五)やすし(安)(三百三十六)やすらかなり(安)(三百三十七)やすんじて(安)(三百三十八)やすし(安)(三百三十九)やすらかなり(安)(三百四十)やすんじて(安)(三百四十一)やすし(安)(三百四十二)やすらかなり(安)(三百四十三)やすんじて(安)(三百四十四)やすし(安)(三百四十五)やすらかなり(安)(三百四十六)やすんじて(安)(三百四十七)やすし(安)(三百四十八)やすらかなり(安)(三百四十九)やすんじて(安)(三百五十)やすし(安)(三百五十一)やすらかなり(安)(三百五十二)やすんじて(安)(三百五十三)やすし(安)(三百五十四)やすらかなり(安)(三百五十五)やすんじて(安)(三百五十六)やすし(安)(三百五十七)やすらかなり(安)(三百五十八)やすんじて(安)(三百五十九)やすし(安)(三百六十)やすらかなり(安)(三百六十一)やすんじて(安)(三百六十二)やすし(安)(三百六十三)やすらかなり(安)(三百六十四)やすんじて(安)(三百六十五)やすし(安)(三百六十六)やすらかなり(安)(三百六十七)やすんじて(安)(三百六十八)やすし(安)(三百六十九)やすらかなり(安)(三百七十)やすんじて(安)(三百七十一)やすし(安)(三百七十二)やすらかなり(安)(三百七十三)やすんじて(安)(三百七十四)やすし(安)(三百七十五)やすらかなり(安)(三百七十六)やすんじて(安)(三百七十七)やすし(安)(三百七十八)やすらかなり(安)(三百七十九)やすんじて(安)(三百八十)やすし(安)(三百八十一)やすらかなり(安)(三百八十二)やすんじて(安)(三百八十三)やすし(安)(三百八十四)やすらかなり(安)(三百八十五)やすんじて(安)(三百八十六)やすし(安)(三百八十七)やすらかなり(安)(三百八十八)やすんじて(安)(三百八十九)やすし(安)(三百九十)やすらかなり(安)(三百九十一)やすんじて(安)(三百九十二)やすし(安)(三百九十三)やすらかなり(安)(三百九十四)やすんじて(安)(三百九十五)やすし(安)(三百九十六)やすらかなり(安)(三百九十七)やすんじて(安)(三百九十八)やすし(安)(三百九十九)やすらかなり(安)(四百)やすんじて(安)(四百一)やすし(安)(四百二)やすらかなり(安)(四百三)やすんじて(安)(四百四)やすし(安)(四百五)やすらかなり(安)(四百六)やすんじて(安)(四百七)やすし(安)(四百八)やすらかなり(安)(四百九)やすんじて(安)(四百十)やすし(安)(四百十一)やすらかなり(安)(四百十二)やすんじて(安)(四百十三)やすし(安)(四百十四)やすらかなり(安)(四百十五)やすんじて(安)(四百十六)やすし(安)(四百十七)やすらかなり(安)(四百十八)やすんじて(安)(四百十九)やすし(安)(四百二十)やすらかなり(安)(四百二十一)やすんじて(安)(四百二十二)やすし(安)(四百二十三)やすらかなり(安)(四百二十四)やすんじて(安)(四百二十五)やすし(安)(四百二十六)やすらかなり(安)(四百二十七)やすんじて(安)(四百二十八)やすし(安)(四百二十九)やすらかなり(安)(四百三十)やすんじて(安)(四百三十一)やすし(安)(四百三十二)やすらかなり(安)(四百三十三)やすんじて(安)(四百三十四)やすし(安)(四百三十五)やすらかなり(安)(四百三十六)やすんじて(安)(四百三十七)やすし(安)(四百三十八)やすらかなり(安)(四百三十九)やすんじて(安)(四百四十)やすし(安)(四百四十一)やすらかなり(安)(四百四十二)やすんじて(安)(四百四十三)やすし(安)(四百四十四)やすらかなり(安)(四百四十五)やすんじて(安)(四百四十六)やすし(安)(四百四十七)やすらかなり(安)(四百四十八)やすんじて(安)(四百四十九)やすし(安)(四百五十)やすらかなり(安)(四百五十一)やすんじて(安)(四百五十二)やすし(安)(四百五十三)やすらかなり(安)(四百五十四)やすんじて(安)(四百五十五)やすし(安)(四百五十六)やすらかなり(安)(四百五十七)やすんじて(安)(四百五十八)やすし(安)(四百五十九)やすらかなり(安)(四百六十)やすんじて(安)(四百六十一)やすし(安)(四百六十二)やすらかなり(安)(四百六十三)やすんじて(安)(四百六十四)やすし(安)(四百六十五)やすらかなり(安)(四百六十六)やすんじて(安)(四百六十七)やすし(安)(四百六十八)やすらかなり(安)(四百六十九)やすんじて(安)(四百七十)やすし(安)(四百七十一)やすらかなり(安)(四百七十二)やすんじて(安)(四百七十三)やすし(安)(四百七十四)やすらかなり(安)(四百七十五)やすんじて(安)(四百七十六)やすし(安)(四百七十七)やすらかなり(安)(四百七十八)やすんじて(安)(四百七十九)やすし(安)(四百八十)やすらかなり(安)(四百八十一)やすんじて(安)(四百八十二)やすし(安)(四百八十三)やすらかなり(安)(四百八十四)やすんじて(安)(四百八十五)やすし(安)(四百八十六)やすらかなり(安)(四百八十七)やすんじて(安)(四百八十八)やすし(安)(四百八十九)やすらかなり(安)(四百九十)やすんじて(安)(四百九十一)やすし(安)(四百九十二)やすらかなり(安)(四百九十三)やすんじて(安)(四百九十四)やすし(安)(四百九十五)やすらかなり(安)(四百九十六)やすんじて(安)(四百九十七)やすし(安)(四百九十八)やすらかなり(安)(四百九十九)やすんじて(安)(五百)やすし(安)(五百一)やすらかなり(安)(五百二)やすんじて(安)(五百三)やすし(安)(五百四)やすらかなり(安)(五百五)やすんじて(安)(五百六)やすし(安)(五百七)やすらかなり(安)(五百八)やすんじて(安)(五百九)やすし(安)(五百十)やすらかなり(安)(五百十一)やすんじて(安)(五百十二)やすし(安)(五百十三)やすらかなり(安)(五百十四)やすんじて(安)(五百十五)やすし(安)(五百十六)やすらかなり(安)(五百十七)やすんじて(安)(五百十八)やすし(安)(五百十九)やすらかなり(安)(五百二十)やすんじて(安)(五百二十一)やすし(安)(五百二十二)やすらかなり(安)(五百二十三)やすんじて(安)(五百二十四)やすし(安)(五百二十五)やすらかなり(安)(五百二十六)やすんじて(安)(五百二十七)やすし(安)(五百二十八)やすらかなり(安)(五百二十九)やすんじて(安)(五百三十)やすし(安)(五百三十一)やすらかなり(安)(五百三十二)やすんじて(安)(五百三十三)やすし(安)(五百三十四)やすらかなり(安)(五百三十五)やすんじて(安)(五百三十六)やすし(安)(五百三十七)やすらかなり(安)(五百三十八)やすんじて(安)(五百三十九)やすし(安)(五百四十)やすらかなり(安)(五百四十一)やすんじて(安)(五百四十二)やすし(安)(五百四十三)やすらかなり(安)(五百四十四)やすんじて(安)(五百四十五)やすし(安)(五百四十六)やすらかなり(安)(五百四十七)やすんじて(安)(五百四十八)やすし(安)(五百四十九)やすらかなり(安)(五百五十)やすんじて(安)(五百五十一)やすし(安)(五百五十二)やすらかなり(安)(五百五十三)やすんじて(安)(五百五十四)やすし(安)(五百五十五)やすらかなり(安)(五百五十六)やすんじて(安)(五百五十七)やすし(安)(五百五十八)やすらかなり(安)(五百五十九)やすんじて(安)(五百六十)やすし(安)(五百六十一)やすらかなり(安)(五百六十二)やすんじて(安)(五百六十三)やすし(安)(五百六十四)やすらかなり(安)(五百六十五)やすんじて(安)(五百六十六)やすし(安)(五百六十七)やすらかなり(安)(五百六十八)やすんじて(安)(五百六十九)やすし(安)(五百七十)やすらかなり(安)(五百七十一)やすんじて(安)(五百七十二)やすし(安)(五百七十三)やすらかなり(安)(五百七十四)やすんじて(安)(五百七十五)やすし(安)(五百七十六)やすらかなり(安)(五百七十七)やすんじて(安)(五百七十八)やすし(安)(五百七十九)やすらかなり(安)(五百八十)やすんじて(安)(五百八十一)やすし(安)(五百八十二)やすらかなり(安)(五百八十三)やすんじて(安)(五百八十四)やすし(安)(五百八十五)やすらかなり(安)(五百八十六)やすんじて(安)(五百八十七)やすし(安)(五百八十八)やすらかなり(安)(五百八十九)やすんじて(安)(五百九十)やすし(安)(五百九十一)やすらかなり(安)(五百九十二)やすんじて(安)(五百九十三)やすし(安)(五百九十四)やすらかなり(安)(五百九十五)やすんじて(安)(五百九十六)やすし(安)(五百九十七)やすらかなり(安)(五百九十八)やすんじて(安)(五百九十九)やすし(安)(六百)やすらかなり(安)(六百一)やすんじて(安)(六百二)やすし(安)(六百三)やすらかなり(安)(六百四)やすんじて(安)(六百五)やすし(安)(六百六)やすらかなり(安)(六百七)やすんじて(安)(六百八)やすし(安)(六百九)やすらかなり(安)(六百十)やすんじて(安)(六百十一)やすし(安)(六百十二)やすらかなり(安)(六百十三)やすんじて(安)(六百十四)やすし(安)(六百十五)やすらかなり(安)(六百十六)やすんじて(安)(六百十七)やすし(安)(六百十八)やすらかなり(安)(六百十九)やすんじて(安)(六百二十)やすし(安)(六百二十一)やすらかなり(安)(六百二十二)やすんじて(安)(六百二十三)やすし(安)(六百二十四)やすらかなり(安)(六百二十五)やすんじて(安)(六百二十六)やすし(安)(六百二十七)やすらかなり(安)(六百二十八)やすんじて(安)(六百二十九)やすし(安)(六百三十)やすらかなり(安)(六百三十一)やすんじて(安)(六百三十二)やすし(安)(六百三十三)やすらかなり(安)(六百三十四)やすんじて(安)(六百三十五)やすし(安)(六百三十六)やすらかなり(安)(六百三十七)やすんじて(安)(六百三十八)やすし(安)(六百三十九)やすらかなり(安)(六百四十)やすんじて(安)(六百四十一)やすし(安)(六百四十二)やすらかなり(安)(六百四十三)やすんじて(安)(六百四十四)やすし(安)(六百四十五)やすらかなり(安)(六百四十六)やすんじて(安)(六百四十七)やすし(安)(六百四十八)やすらかなり(安)(六百四十九)やすんじて(安)(六百五十)やすし(安)(六百五十一)やすらかなり(安)(六百五十二)やすんじて(安)(六百五十三)やすし(安)(六百五十四)やすらかなり(安)(六百五十五)やすんじて(安)(六百五十六)やすし(安)(六百五十七)やすらかなり(安)(六百五十八)やすんじて(安)(六百五十九)やすし(安)(六百六十)やすらかなり(安)(六百六十一)やすんじて(安)(六百六十二)やすし(安)(六百六十三)やすらかなり(安)(六百六十四)やすんじて(安)(六百六十五)やすし(安)(六百六十六)やすらかなり(安)(六百六十七)やすんじて(安)(六百六十八)やすし(安)(六百六十九)やすらかなり(安)(六百七十)やすんじて(安)(六百七十一)やすし(安)(六百七十二)やすらかなり(安)(六百七十三)やすんじて(安)(六百七十四)やすし(安)(六百七十五)やすらかなり(安)(六百七十六)やすんじて(安)(六百七十七)やすし(安)(六百七十八)やすらかなり(安)(六百七十九)やすんじて(安)(六百八十)やすし(安)(六百八十一)やすらかなり(安)(六百八十二)やすんじて(安)(六百八十三)やすし(安)(六百八十四)やすらかなり(安)(六百八十五)やすんじて(安)(六百八十六)やすし(安)(六百八十七)やすらかなり(安)(六百八十八)やすんじて(安)(六百八十九)やすし(安)(六百九十)やすらかなり(安)(六百九十一)やすんじて(安)(六百九十二)やすし(安)(六百九十三)やすらかなり(安)(六百九十四)やすんじて(安)(六百九十五)やすし(安)(六百九十六)やすらかなり(安)(六百九十七)やすんじて(安)(六百九十八)やすし(安)(六百九十九)やすらかなり(安)(七百)やすんじて(安)(七百一)やすし(安)(七百二)やすらかなり(安)(七百三)やすんじて(安)(七百四)やすし(安)(七百五)やすらかなり(安)(七百六)やすんじて(安)(七百七)やすし(安)(七百八)やすらかなり(安)(七百九)やすんじて(安)(七百十)やすし(安)(七百十一)やすらかなり(安)(七百十二)やすんじて(安)(七百十三)やすし(安)(七百十四)やすらかなり(安)(七百十五)やすんじて(安)(七百十六)やすし(安)(七百十七)やすらかなり(安)(七百十八)やすんじて(安)(七百十九)やすし(安)(七百二十)やすらかなり(安)(七百二十一)やすんじて(安)(七百二十二)やすし(安)(七百二十三)やすらかなり(安)(七百二十四)やすんじて(安)(七百二十五)やすし(安)(七百二十六)やすらかなり(安)(七百二十七)やすんじて(安)(七百二十八)やすし(安)(七百二十九)やすらかなり(安)(七百三十)やすんじて(安)(七百三十一)やすし(安)(七百三十二)やすらかなり(安)(七百三十三)やすんじて(安)(七百三十四)やすし(安)(七百三十五)やすらかなり(安)(七百三十六)やすんじて(安)(七百三十七)やすし(安)(七百三十八)やすらかなり(安)(七百三十九)やすんじて(安)(七百四十)やすし(安)(七百四十一)やすらかなり(安)(七百四十二)やすんじて(安)(七百四十三)やすし(安)(七百四十四)やすらかなり(安)(七百四十五)やすんじて(安)(七百四十六)やすし(安)(七百四十七)やすらかなり(安)(七百四十八)やすんじて(安)(七百四十九)やすし(安)(七百五十)やすらかなり(安)(七百五十一)やすんじて(安)(七百五十二)やすし(安)(七百五十三)やすらかなり(安)(七百五十四)やすんじて(安)(七百五十五)やすし(安)(七百五十六)やすらかなり(安)(七百五十七)やすんじて(安)(七百五十八)やすし(安)(七百五十九)やすらかなり(安)(七百六十)やすんじて(安)(七百六十一)やすし(安)(七百六十二)やすらかなり(安)(七百六十三)やすんじて(安)(七百六十四)やすし(安)(七百六十五)やすらかなり(安)(七百六十六)やすんじて(安)(七百六十七)やすし(安)(七百六十八)やすらかなり(安)(七百六十九)やすんじて(安)(七百七十)やすし(安)(七百七十一)やすらかなり(安)(七百七十二)やすんじて(安)(七百七十三)やすし(安)(七百七十四)やすらかなり(安)(七百七十五)やすんじて(安)(七百七十六)やすし(安)(七百七十七)やすらかなり(安)(七百七十八)やすんじて(安)(七百七十九)やすし(安)(七百八十)やすらかなり(安)(七百八十一)やすんじて(安)(七百八十二)やすし(安)(七百八十三)やすらかなり(安)(七百八十四)やすんじて(安)(七百八十五)やすし(安)(七百八十六)やすらかなり(安)(七百八十七)やすんじて(安)(七百八十八)やすし(安)(七百八十九)やすらかなり(安)(七百九十)やすんじて(安)(七百九十一)やすし(安)(七百九十二)やすらかなり(安)(七百九十三)やすんじて(安)(七百九十四)やすし(安)(七百九十五)やすらかなり(安)(七百九十六)やすんじて(安)(七百九十七)やすし(安)(七百九十八)やすらかなり(安)(七百九十九)やすんじて(安)(八百)やすし(安)(八百一)やすらかなり(安)(八百二)やすんじて(安)(八百三)やすし(安)(八百四)やすらかなり(安)(八百五)やすんじて(安)(八百六)やすし(安)(八百七)やすらかなり(安)(八百八)やすんじて(安)(八百九)やすし(安)(八百十)やすらかなり(安)(八百十一)やすんじて(安)(八百十二)やすし(安)(八百十三)やすらかなり(安)(八百十四)やすんじて(安)(八百十五)やすし(安)(八百十六)やすらかなり(安)(八百十七)やすんじて(安)(八百十八)やすし(安)(八百十九)やすらかなり(安)(八百二十)やすんじて(安)(八百二十一)やすし(安)(八百二十二)やすらかなり(安)(八百二十三)やすんじて(安)(八百二十四)やすし(安)(八百二十五)やすらかなり(安)(八百二十六)やすんじて(安)(八百二十七)やすし(安)(八百二十八)やすらかなり(安)(八百二十九)やすんじて(安)(八百三十)やすし(安)(八百三十一)やすらかなり(安)(八百三十二)やすんじて(安)(八百三十三)やすし(安)(八百三十四)やすらかなり(安)(八百三十五)やすんじて(安)(八百三十六)やすし(安)(八百三十七)やすらかなり(安)(八百三十八)やすんじて(安)(八百三十九)やすし(安)(八百四十)やすらかなり(安)(八百四十一)やすんじて(安)(八百四十二)やすし(安)(八百四十三)やすらかなり(安)(八百四十四)やすんじて(安)(八百四十五)やすし(安)(八百四十六)やすらかなり(安)(八百四十七)やすんじて(安)(八百四十八)やすし(安)(八百四十九)やすらかなり(安)(八百五十)やすんじて(安)(八百五十一)やすし(安)(八百五十二)やすらかなり(安)(八百五十三)やすんじて(安)(八百五十四)やすし(安)(八百五十五)やすらかなり(安)(八百五十六)やすんじて(安)(八百五十七)やすし(安)(八百五十八)やすらかなり(安)(八百五十九)やすんじて(安)(八百六十)やすし(安)(八百六十一)やすらかなり(安)(八百六十二)やすんじて(安)(八百六十三)やすし(安)(八百六十四)やすらかなり(安)(八百六十五)やすんじて(安)(八百六十六)やすし(安)(八百六十七)やすらかなり(安)(八百六十八)やすんじて(安)(八百六十九)やすし(安)(八百七十)やすらかなり(安)(八百七十一)やすんじて(安)(八百七十二)やすし(安)(八百七十三)やすらかなり(安)(八百七十四)やすんじて(安)(八百七十五)やすし(安)(八百七十六)やすらかなり(安)(八百七十七)やすんじて(安)(八百七十八)やすし(安)(八百七十九)やすらかなり(安)(八百八十)やすんじて(安)(八百八十一)やすし(安)(八百八十二)やすらかなり(安)(八百八十三)やすんじて(安)(八百八十四)やすし(安)(八百八十五)やすらかなり(安)(八百八十六)やすんじて(安)(八百八十七)やすし(安)(八百八十八)やすらかなり(安)(八百八十九)やすんじて(安)(八百九十)やすし(安)(八百九十一)やすらかなり(安)(八百九十二)やすんじて(安)(八百九十三)やすし(安)(八百九十四)やすらかなり(安)(八百九十五)やすんじて(安)(八百九十六)やすし(安)(八百九十七)やすらかなり(安)(八百九十八)やすんじて(安)(八百九十九)やすし(安)(九百)やすらかなり(安)(九百一)やすんじて(安)(九百二)やすし(安)(九百三)やすらかなり(安)(九百四)やすんじて(安)(九百五)やすし(安)(九百六)やすらかなり(安)(九百七)やすんじて(安)(九百八)やすし(安)(九百九)やすらかなり(安)(九百十)やすんじて(安)(九百十一)やすし(安)(九百十二)やすらかなり(安)(九百十三)やすんじて(安)(九百十四)やすし(安)(九百十五)やすらかなり(安)(九百十六)やすんじて(安)(九百十七)やすし(安)(九百十八)やすらかなり(安)(九百十九)やすんじて(安)(九百二十)やすし(安)(九百二十一)やすらかなり(安)(九百二十二)やすんじて(安)(九百二十三)やすし(安)(九百二十四)やすらかなり(安)(九百二十五)やすんじて(安)(九百二十六)やすし(安)(九百二十七)やすらかなり(安)(九百二十八)やすんじて(安)(九百二十九)やすし(安)(九百三十)やすらかなり(安)(九百三十一)やすんじて(安)(九百三十二)やすし(安)(九百三十三)やすらかなり(安)(九百三十四)やすんじて(安)(九百三十五)やすし(安)(九百三十六)やすらかなり(安)(九百三十七)やすんじて(安)(九百三十八)やすし(安)(九百三十九)やすらかなり(安)(九百四十)やすんじて(安)(九百四十一)やすし(安)(九百四十二)やすらかなり(安)(九百四十三)やすんじて(安)(九百四十四)やすし(安)(九百四十五)やすらかなり(安)(九百四十六)やすんじて(安)(九百四十七)やすし(安)(九百四十八)やすらかなり(安)(九百四十九)やすんじて(安)(九百五十)やすし(安)(九百五十一)やすらかなり(安)(九百五十二)やすんじて(安)(九百五十三)やすし(安)(九百五十四)やすらかなり(安)(九百五十五)やすんじて(安)(九百五十六)やすし(安)(九百五十七)やすらかなり(安)(九百五十八)やすんじて(安)(九百五十九)やすし(安)(九百六十)やすらかなり(安)(九百六十一)やすんじて(安)(九百六十二)やすし(安)(九百六十三)やすらかなり(安)(九百六十四)やすんじて(安)(九百六十五)やすし(安)(九百六十六)やすらか

【蘭若】てら。寺。朱子語錄に「王導爲㆑相、只周㆓旋人㆒過㆓一生㆒、嘗坐客二十許人、逐一稱讚、獨不㆑及㆓西僧㆒、徐謂㆑僧曰、蘭若」
【蘭畹】らんなうゑたるはたけ。沈約「興㆓絶節於高唱㆒、振㆓清詞于蘭畹㆒」
【蘭臺】官署の名。後漢書に「帝敕㆓蘭臺㆒給㆓筆札㆒、使㆑作㆓神雀頌㆒」
【蘭槳】木蘭にて造りたるかぢ。李嶠「萍葉沾㆓蘭槳㆒、林花拂㆓桂旗㆒」
【蘭橈】前に同じ。梁簡文帝「桂櫂蘭橈浮㆓碧水㆒」
【蘭燈】きれいなるとうろう。王僧孺「寶琴徒七絃、蘭燈空百枝」
【蘭蕙】かをりぐさ。後漢書に「金玉蘭蕙化爲㆑芻」
【蘭蕉】㊀らんとばせをと。善きものとあしきものとに喩ふ。釋無可「猿鶴同㆑枝宿、蘭蕉夾㆑道生」㊁〔植〕だんどくさう。（曇華）。
【蘭蓀】かをりあるくさ。駱賓王「常山王之玉潤金聲、博望侯之蘭蓀桂馥」
【蘭叢】らんのくさむら。楊巨源「會看春露濕㆓蘭叢㆒」
【蘭露】らんのつゆ。蘇軾「香濃奪㆓蘭露㆒、色嫩欺㆓秋菊㆒」
【蘭麝】香の名。晉書に「石崇婢妾數十人、皆蘊㆓蘭麝㆒」
【蘭亭會】晉の穆帝の永和九年春三月三日に會稽山陰の蘭亭に會し曲水に觴を流して、禊事を修む。當時の名士四十一人相會し、皆詩を賦し、王羲之これが序を作れり。孟浩然「不㆑及㆓蘭亭會㆒、空吟㆓祓禊詩㆒」
【蘭秀菊芳】らんときくとのかをり。漢武帝「蘭有㆑秀兮菊有㆑芳」
【蘭陵美酒】蘭陵縣にて造りたるよきさけ。李白「蘭陵美酒鬱金香、玉椀盛來琥珀光」
【蘭摧玉折】玉となりて碎くる意。又、賢人の死をいふ。世說に「毛伯成既負㆓其才氣㆒、嘗稱、寧爲㆓蘭摧玉折㆒、不㆑爲㆓蕭敷艾榮㆒」

十八畫

【蘮】ケイ。居例切。霽。芹に似たる草（蘮蒘）。
【蘒】ケウ、ゲウ。渠遙切。蕭。いたちぐさ（連翹）。
【蘱】ルヰ。力遂切。寘。㊀あぶらがや（蘱芳）㊁薡董。
【⿱艹叢】ソウ、ズ。徂聰切。東。くさのむらがる貌。
【蘴】㋑ホウ、フ。數空切。東。㋺菘に同じ。㋑かぶら（蕪菁）。
【蘵】ショク、シキ。質力切。職。いぬほほづき（黃蒢）。

十九畫

【蘸】サン、セン。莊陷切。陷。ひたす。
【⿱艹麗】㋑リ。呂支切。支。㋺レイ、ライ。郎計切。霽。㋩麗に通ず。㋑㋺つく（著）。
【蘺】リ。呂支切。支。㊀まがき、かき、かこひ（藩）㊁くさびえ（水稗）㊂せんきうのなへ。
【蘼】ビ、ミ。靡爲切。支。㊀てんもんどう（薔蘼）㊁芎藭のなへ（蘼蕪）。
【蘽】ルヰ。力軌切。紙。かづら。
【⿱艹躅】チョク、トク。厨玉切。沃。㊀つつじ（躑躅）㊁えびすぐさ（羊躑躅）。
【蘿】ラ。魯何切。歌。㊀つた、かづら㊁つのよもぎ（莪蒿）㊂すずしろ、だいこん（蘿蔔）。
【蘿月】つたにかかれるつき。孟浩然「暝還歸騎下、蘿月在㆓深溪㆒」
【蘿衣】〔植〕さるをがせ。
【蘿徑】つたのしげりたるこみち。林逋「片月通㆓蘿徑㆒、幽雲在㆓石牀㆒」
【蘿窗】つたのかかれるまど。宋无「蘿窗月自懸」
【蘿摩】〔植〕かがいも。

【蘿篠】つたかづらのまとへる竹やぶ。方干「蘚樹滲亭蘿篠陰」

二十畫

【⿱艹贊】㋑サン。則旰切。翰。㋺サツ、サチ。子末切。曷。㋑まさきのかづら㋺草木のむらがり生ずること。
【虂】ロ、ル。洛故切。遇。つるむらさき（葵露）。

二十一畫

【虆】㋑ルヰ。力追切。支。㋺ラ。盧戈切。歌。㋑かづら（蔓）㋺ふご。

二十四畫

【⿱艹釀】㋑ジャウ、ナウ。如兩切。養。㋺女亮切。漾。㋑㊀いぬあらぎ（薬蘇）㊁蘇の小なるもの㋺つけな（葅菜）。
【⿱艹贛】㋑カン、コン。古禫切。感。㋺コウ、ク。古送切。送。㋑一種の草㋺はとむぎ。

二十五畫

【虋】ボン、モン。莫奔切。元。㊀もちあは（赤粱粟）㊁すべるぐさ、てんもんどう（虋冬）。

虍部

部首

【虍】コ、ク。荒烏切。虞。あや、虎の文。

二畫

【虎】コ、ク。火古切。麌。㊀とら㊁おまる（便器）㊂琥に通ず。
【虎口】おそろしきこと又は危き場所の義に用ゐる。莊子に「疾走料㆓虎頭㆒、編㆓虎鬚㆒、幾不㆑免㆓虎口㆒哉」
【虎子】㊀とらのこ。㊁おまる。便器。西京雜記に「漢朝以㆑玉爲㆓虎子㆒、以爲㆓便器㆒」㊂我國にて俗に、大切なる物にいふ。
【虎穴】とらの住むあな。おそろしき地に喩ふ。後漢書に「不㆑入㆓虎穴㆒、不㆑得㆓虎子㆒」
【虎皮】とらのかは。（皐皮）。揚子に「羊質而虎皮、見㆑草而說、見㆑豺而戰」
【虎叱】はげしくしかる。傅休奕「賴㆓樊將軍㆒、虎㆓叱項王前㆒」
【虎臣】勇武なる家來。詩經に「嬌嬌虎臣、在㆑泮獻㆑馘」
【虎吻】とらのくちもと。轉じて、害意をつつむ容貌。又、危險なることにいふ。嵆康「盜跖竄㆓身于虎吻㆒、穿窬先㆓首于溝瀆㆒」
【虎杖】〔植〕いたどり。
【虎狼】とらとおほかみと。貪欲殘忍なる者に喩ふ。漢書に「是以㆓羔犢之弱㆒、而扞㆓虎狼敵㆒也」
【虎豹】とらとへうと。論語に「虎豹之鞟、猶㆓犬羊之鞟㆒」
【虎符】銅虎符の略、兵符なり。史記に「初與㆓郡國守相㆒、爲㆓銅虎符、竹使符㆒」
【虎賁】勇士をいふ。史記に「遂率㆓戎車三百乘、虎賁三千人、甲士四萬五千人㆒、以東伐㆑紂」
【虎蓐】とらの皮のしきもの。玉篇に「文茵暢轂、文茵虎蓐」
【虎踞】とらの如くうづくまる。續博物志に「其人虎踞而蹲趾」
【虎嘯】立身して勢力ある貌。北史、張定和傳に「虎嘯風生、龍騰雲起、英賢奮發、亦各因㆑時」
【虎頭】頭の形の虎首に似たるもの。尊貴の相とす。後漢書、班超傳に「相者曰、生燕頷虎頭、飛而食㆑肉、此萬里侯相也」
【虎據】とらの如く強くたてこもる。魏志に「賊臣虎據、華夏震慄、雄才奮用之秋也」
【虎薊】〔植〕おにあざみ。（馬薊）。
【虎貔】とらと猛きけものと。（貔虎）。

李商隱「行軍司馬智且勇、四十萬衆猶ニ虎貔ニ」

【虎粲】〔植〕ふぢまめ。爾雅に「攝、虎粲」

【虎騎】馬軍の稱。魏志、武帝紀に「戰良久、乃縱ニ虎騎ニ夾擊」

【虎變】とらの毛の如く明かにかはる。易經に「大人虎變、其文炳也」

【虎鷹】〔動〕おほたか。廣志に「虎鷹能飛捕ニ虎豹ニ」

【虎耳艸】〔植〕ゆきのした。(澤添)。

【虎而冠】人の衣冠を著くるも、心は殘暴なるをいふ。漢書に「其爪牙吏、虎而冠」

【虎負レ嵎】とら山の曲による。轉じて、英雄の一方に割據せるに喩ふ。孟子に「有レ衆逐レ虎、虎負レ嵎、莫ニ之敢攖ニ」

【虎狼之國】貪慾にして飽くことを知らざるくに。史記に「夫秦、虎狼之國也、有ニ呑ニ天下ニ之心ニ」

【虎傅レ翼】殘暴の甚だしきをいふ。韓非子に「毋ニ爲レ虎傅レ翼、將ニ飛入レ邑擇レ人而食ニ、夫乘ニ不肖人於勢ニ、是爲レ虎傅レ翼也」

【虎視眈眈】とらの目を張りて、下視する如く威嚴ある貌。易經に「虎視眈眈、其欲逐逐」

【虎溪三笑】惠遠法師、廬山に隱居し、虎溪を渡りしことなかりしに、一日、陶元亮、陸修靜の二人を送り、興に乘じて覺えず虎溪を渡り、虎の嘯くを聞きて心づき三人共に大笑せりといふ。虎溪は江西省、九江府、德化縣の南、廬山の東林寺の前にあり。廬山記に「惠遠居ニ廬山東林寺ニ、送レ客不レ過レ溪、一日與ニ陶淵明、道士陸修靜ニ共話、不レ覺踰レ之、虎輒鳴、三人大笑而別」

【虎兕出ニ於柙ニ】虎兕なりの中より逸し出づ。兕は野牛なり。論語に「虎兕出ニ於柙ニ、龜玉毀ニ於櫝中ニ、是誰之過與」

【虎豹豈受ニ犬羊欺ニ】虎豹は君子に喩へ、犬羊は小人に比す、君子は小人の侮を受くることなしといふ喩。故事成語考に「君子不レ受ニ小人之侮ニ、曰ニ虎豹豈受ニ犬羊欺ニ」

三畫

【虐】ギャク、ガク。魚約切。藥。一しへたぐ、そこなふ 二むごし、あらし、からし 三そこなひ、しへたげ、わざはひ。六書正譌に「虎、反爪に从ふ」俗に、虐に作るは誤なり。

【虐刃】殘刻なるころしかた。宋書に「虐刃交至、取レ斃不レ移」

【虐使】むごくつかふ。

【虐政】無道なるまつりごと。(苛政)。

【虐待】むごくあつかふ。

【虐敎】からき目に遭はするなしへ。荀悅「未レ可ニ以備ニ、謂ニ之虐敎ニ」

四畫

【虒】(い)シ。息移切。支。(ろ)テイ、ダイ。田黎切。齊。(は)チ、ザ。丈爾切。紙。(い)一虎の角あるもの(委虒)二宮の名(虒祁)(ろ)縣の名(虒奚)(は)かたがひ、齊しからざること(伿虒)。

【虓】カウ、ケウ。許交切。肴。ほゆ、なく。

【虔】ケン、ゲン。渠焉切。先。一つつしむ(敬)二端正なる貌 三かたし(固)四ころす(殺)五うばふ(强取)六めぐむ(惠)七すくなし(少)八あて、まくらぎ(榪)九虎の行く貌。

【虔祈】つつしみていのる。王禹偁「恨無ニ才應レ副、空有レ表ニ虔祈ニ」

【虔恪】つつしむ。吳全節「詔レ臣走ニ登封ニ、香幣致ニ虔恪ニ」

【虔虔】つつしむ貌。謝惠連「嘔嘔弗レ順、虔虔是款」

【虔敬】つつしみうやまふ。(敬虔)。

【虔肅】つつしむ。後漢書に「遵ニ稽古之鴻業ニ、體ニ虔肅ニ以應レ天」

【虔誠】つつしみてまことなり。庾信「朱紘絳鼓罄ニ虔誠ニ」

【虔劉】ころす。左傳に「芟ニ夷我農功ニ、虔ニ劉我邊陲ニ」

【虔鞏】かたし。後漢書、班固傳に「虔鞏勞謙、兢兢業業」

五畫

【處】(い)ショ、ソ。昌與切。語。(ろ)昌據切。御。(い)一をる(居)二おく 三とどむ、とどまる(止)、やすんず(安)四さだむ、さだまる(定)五おもむく(歸)六わかちきむ 七きりもりす (ろ)ところ(位置、場所)。正字通に「処に同じ、俗に、處に作るは非なり」

【處子】未だ嫁せざる女。むすめ。又、むすこ。莊子に「肌膚如ニ冰雪ニ、綽約如ニ處子ニ」

【處士】家に居りて仕へざる士。孟子に「諸侯放恣、處士橫議」

【處女】未だ嫁せざる女。孫子に「始如ニ處女ニ、敵人開レ戶、後如ニ脫兎ニ、敵不レ及レ拒」

【處方】病氣に應じてくすりの配劑。

【處分】とりはからひ。さばき。世說に「小人皆醉、不レ可ニ處分ニ」

【處世】よわたり。李洞「處世堪レ驚又堪レ愧」

【處民】人民をとりあつかふ。國語に「昔聖王之處レ民也、擇ニ瘠土ニ而處レ之」

【處刑】つみにあつ。晉書に「雖ニ處以ニ殿刑ニ、而不レ能レ禁也」

【處守】とどまりまもる。孟子に「季任爲ニ任處守ニ」

【處決】一とりさばききむ。唐書、李輔國傳に「聽ニ老奴處決ニ」二我國にて、覺悟をきむるにいふ。

【處事】事をとりさばく。左傳に「則以觀レ德、德以處レ事」

【處所】ゐどころ。史記に「一蛇獨怨、終不レ見ニ處所ニ」

【處約】困窮なる地位になる。論語に「不仁者不レ可ニ以久處レ約」

【處處】一ところどころ。雍陶「門閭村巷多相似、處處春風枳殼花」二ゐどころ。傳法正宗記に「達摩云、衆人長迷ニ處處ニ」

【處暑】立秋の次に來る氣節、八月二十三日頃。

【處置】とりあつかふ。李衛公問對に「番漢之兵、如何處置」

【處罰】つみにあつ。

【處辨】とりあつかふ。

【處斷】とりさばく。(決斷)。晉書、王渾傳に「渾不レ尙ニ刑名ニ、處斷明允」

【虖】(い)コ、ク。荒烏切。虞。(ろ)コ、グ。後五切。麌。(は)ク、コ。況于切。虞。(い)一ああ(歎聲)二ほゆ(哮)三水の名(ろ)人の名(は)一虎ほゆ二や(乎の古文字)。

六畫

【虛】キョ、コ。朽居切。魚。一むなし、よわし 二ほしいまま(縱)三あな、すきま(孔竅)四そら、こくう(太空)五むき、くらゐ(方位)六いたづらに、ただに、むなし 七身體弱きこと 八山の名(虛無)九地の名 十とみて(二十八宿の一)。

【虛心】わだかまりなきこころ。又、心をむなしうす。莊子に「得レ聞ニ聖敎ニ、敢不レ虛レ心」

【虛日】ひまのひ。その事のなきひ。

【虛白】むなし。庾信「一室之中、不レ免ニ虛白ニ」

【虛旨】信實ならぬこころ。徐陵「分レ災恤レ患、事非ニ虛旨ニ」

【虛妄】いつはり。うそ。南史に「言不ニ虛妄ニ、蒼天性也」

【虛名】實にすぎたるひゃうばん。魏書に「姚興好養ニ虛名ニ、而無ニ實用ニ」

【虛舟】物をのせてなきふね。易經、疏に「若ニ乘ニ虛舟ニ以涉ニ川也」

【虛字】漢文にて、實字及び助字以外の字。多くは動詞・形容詞として用ゐらるるもの。詩品に「句無ニ虛語ニ、語無ニ虛字ニ」

【虛言】無實のことば。うそ。(空言)。老子に「古之所謂、曲則全者、豈虛言哉」

【虚沖】心むなしくしてやはらげり。張華「壯士懷ニ憤激ー、安能守ニ虚沖ー」

【虚受】己をむなしくして人のことばをきく。晉書、禮志に「君子虚受、心無ニ適莫ー」

【虚泊】私慾なく無爲なる貌。(寂泊)。柳宗元「虚泊寥闊、易之遯レ世無レ悶者、其近レ是歟」

【虚耗】むなしくへる。禮記、疏に「物被ニ殘暴ー則虚耗」

【虚洞】ほら。あな。趙冬曦「吹レ笙虚洞答、舉レ梢便風催」

【虚弱】内むなしくよわし。晉書に「是時京師虚弱、胡寇突侵」

【虚控】むだに弓ひく。王粲「弦不ニ虚控ー、矢不ニ徒往ー」

【虚喝】からおどし。又、おびやかす。史記に「秦雖レ欲ニ深入ー則狼顧、恐ニ韓魏之議ニ其後ー也、是故恫疑虚喝驕矜、而不ニ敢進ー、則秦之不レ能レ害レ齊亦明矣」

【虚無】むなし。史記に「道家無爲、其術以ニ虚無ー爲レ本」

【虚發】むだにはなつ。北史に「登レ樓射レ賊、矢無ニ虚發ー」

【虚詭】うそいつはり。王僧孺「及レ寤盡空無、方知悉虚詭」

【虚頓】おとろへつかる。魏書に「今舊疾彌留、氣力虚頓」

【虚榮】まことならざるさかえ。うはべのみのほまれ。柳宗元「爲レ農信可レ樂、居レ寵眞虚榮」

【虚誕】いつはり。(詭誕、妄誕)。魏志に「鄭泰曰、明公之將帥、皆中表ニ腹心ー、以レ此當ニ山東解合之虚誕ー、實不ニ相若ー」

【虚語】うそのはなし。いつはりのことば。(妄語、空語)。史記、鄒陽傳に「臣聞、忠無レ不レ報、信不レ見レ疑、臣常以爲然、徒虚語耳」

【虚說】うそのうはさ。まことならざる言說。漢書に「自尊自重、雖下以ニ疑文虚說ー定上也」

【虚誣】いつはり。春秋、疏に「蓋賤ニ其虚誣ー、鄙ニ其妖妄ー、故無レ所レ取レ之也」

【虚實】㊀かけたるとまったきと。唐書に「乃營ニ木剌闌山ー、諜ニ虚實ー」㊁うそとまことと。後漢書に「鍊ニ其虚實ー」

【虚談】まことなきはなし。又、そらごとをはなす。(妄談)。後漢書に「信ニ其虚談ー、不レ爲ニ之備ー、終受レ制焉」

【虚論】まことならざる議論。文心雕龍に「不レ變ニ旨趣ー、徒張ニ虚論ー、有レ似ニ黃白之僞說ー矣」

【虚數】むだのかず。金史に「何取ニ細弱ー以增ニ虚數ー」

【虚器】㊀用に立たぬもの。左傳に「仲尼曰、臧文仲其不知者、三作ニ虚器ー」㊁その實なくして名義ばかりのもの。淮南子に「魚不レ可下以ニ無餌ー釣上也、獸不レ可下以ニ虚器ー召上也」

【虚靜】心おちつきてわだかまりなし。漢書に「陛下明聖、虚靜以待レ物」

【虚聲】からおどし。姚崇「川甕連ニ倒影ー、岩鳥應ニ虚聲ー」

【虚辭】うそ。そらごと。鄒陽「此不レ可下以ニ虚辭ー借上也」

【虚懷】わだかまりなきこころ。杜甫「一見能傾レ座、虚懷只愛レ才」

【虚譽】まことならざるほまれ。(空譽)。宋史に「責レ實、勿レ競ニ虚譽ー」

【虚空藏】〔佛〕菩薩の名。右に劍を持ち、左に如意寶珠を持つ、智慧慈悲の廣大無窮なること恰も虚空を藏とせるが如しといふ。

【虚無僧】〔佛〕普化宗の僧侶の稱。笠を被り、尺八を吹きて錢を乞ひ、諸國を修行す。

【虚室生レ白】すきまより太陽の光線のさし入るをいふ。己を空しくするときは福あるに喩ふ。莊子に「瞻ニ彼闋者ー、虚室生レ白、吉祥止止」

【虚氣平心】氣をしづめ、心をおだやかにす。管子に「虚氣平心、乃去ニ怒喜ー」又「虚心平意、以待レ須」

【虚無因應】虚無は體なり、因應は用なり、因應とは因ってこれに應ずるなり。史記に「太史公曰、老子所レ貴道、虚無因應、變ニ化於無爲ー、故著レ書辭稱ニ微

妙難レ識ー」

【虚靈不昧】形の認むべき無きも、そのはたらきはすぐれて明かなり。朱熹「明德者、人之所レ得ニ乎天ー、而虚靈不昧、以具ニ衆理ー、而應ニ萬事ー者也」

【虜】(い)ロ、ル。郎古切。麌。(ろ)リョ。慣用音。
㊀とりこ、いけどり㊁えびす㊂しもべ、めしつかひ㊃とりこにす、いけどる。
六書正譌に「生得する者は則ち索を以て貫きて之を拘す、故に字、毌に从ひ、力に从ふ、俗に、男に作るは非なり」

【虜掠】人をとりこにし財物をうばふ。宋史に「十縣民爲ニ賊虜掠ー者、蠲ニ其逋租ー」

【虜獲】いけどり。連文釋義に「生得曰レ虜、斬首曰レ獲」

【虜醜】えびすのともがら。

七畫

【虗】キ、ケ。許羈切。支。
古の陶器。
六書正譌に「於戲の戲は此れに从ふ」正字通に「戲字或は丘に从ふは非なり」

【虞】ゲ、ゴ。遇俱切。虞。
㊀はかる(度)㊁おもんばかる(慮)㊂そなふ(備)㊃たのしむ(樂)㊄やすんず(安)㊅たすく(助)㊆のぞむ(望)㊇えらぶ(擇)㊈うれへ、そなへ、おもんばかり㊉うれふ(憂)(十一)もっぱらにす(十二)父母の埋葬を了へ歸りて殯宮にてその精をまつること(十三)山澤、原野をつかさどる官(十四)あやまり(誤)。

【虞人】山林を掌る官。孟子に「招ニ虞人ー以レ旌」

【虞初】前漢の武帝の時の人、小說を作りたる人なるを以て、轉じて、小說の稱とす。西京賦に「小說九百、本自ニ虞初ー」

【虞唐】堯と舜との世。堯は陶唐氏舜は有虞氏なり、又、唐虞ともいふ。宋書に「睿哲欽明、配ニ蹤虞唐ー」

【虞淵】日の入るところ。淮南子に「日出ニ暘谷ー、入ニ于虞淵ー」

【虞衡】山林を掌る官。周禮に「虞衡作ニ山澤之材ー」

【虞芮之訟】虞芮の二國、田を爭ひて決せず、西伯に質さんとて、その境に入れば耕す者は畔を讓り、行く者は路を讓る、その朝に入れば士大夫皆禮ありしかば、二國の君、ああ吾儕は小人なり、君子の朝に入るべからずと、相與に退き、先に爭へる田地を以て閒田とせり云云。史記に出づ。漢書に「交讓之禮興、則虞芮之訟息」

【虞美人艸】〔植〕ひなげし。(麗春花、仙人草)。碧溪漫志に「雅州名山縣、出ニ虞美人艸ー」

【號】(い)カウ、ゴウ。乎刀切。豪。(ろ)胡到切。號。(は)ガウ。慣用音。
(い)㊀さけぶ㊁なげく(哭)㊂なく(雞のなくにいふ)(ろ)㊀となへ(名稱)㊁おくりな(謚名)㊂いひつけ、しめし(命令)㊃しるし(標記)㊄あひづ(符語)㊅くちずさみ㊆よぶ。
集韻に「本、号に作る、又、唬に作る」毛氏曰く「口に从ひ、丂に从ふ、丂の音は考、俗に、号に从ふは非なり、又、號に作るは竝に俗字なり」

【號令】㊀制號命令なり。禮記に「發レ號出レ令、而民說」㊁さけびよびて指令す。國語に「號ニ令於三軍ー」

【號叫】さけぶ。南史、謝述傳に「述號叫呼レ天獲レ免」

【號泣】さけびなく。觀無量壽經に「號泣向レ佛白言、世尊我宿ニ何罪ー、生ニ此惡子ー」

【號砲】あひづのてっぱう。

【號哭】こゑをあげてなく。史記に「子產病死、鄭民號哭」

【號嘯】うそぶく。

【號鐘】㊀あひづのかねのれ。㊁古の名琴の名。傅休奕「齊桓有ニ鳴琴ー、曰ニ號鐘ー」

【號令如レ汗】一度發布したる命令は、取り消しがたきをいふ。漢書に「號令如レ汗、汗出而不レ反者也」

八畫

【虡】キョ、ゴ。其呂切。語。あし（鐘磬を懸くる柎）。

九畫

【虢】カク、キャク。古伯切。陌。春秋時代の國の名。

【虣】ハウ、ボウ。蒲報切。號。❶たけし（猛）❷おかす（侵）❸しへたぐ（虐）。

十畫

【虦】サン、ゼン。士限切。潸。❶虎の毛のあさきもの❷やまねこ（貓）。

【虓】ゲウ。牛召切。嘯。安からざること（虓虓）。

十一畫

【虧】キ。去爲切。支。かく（缺）。

【虧盈】キエイ ❶かくるとみつると。段成式「雖ㇾ因ニ雀變化一、不ㇾ逐ニ月虧盈一」❷みつるをかく。易經に「天道虧ㇾ盈而益ㇾ謙」

十二畫

【虩】ゲキ、キャク。迄逆切。陌。❶おそる（恐懼）❷はへとりぐも（蠅虎蟲）。

十三畫

【𧇽】㋑サク、シャク。所責切。陌。㋺ケツ、ゲチ。顯結切。屑。㋑虎の驚く貌㋺虎の聲。

二十畫

【虪】㋑シュク、ソク。式竹切。屋。㋺イク、オク。余六切。屋。くろとら（黑虎）。

虫部

部首

【虫】キ。許偉切。尾。❶鱗介の總名❷まむし（蝮）❸虺の古文字。蟲の省文となすは誤なり。

一畫

【𧈝】アツ、エチ。乙黠切。黠。むしのこゑ。

【虬】キウ、グ。ケウ、ゲウ。虯に同じ。

二畫

【虮】キ。居夷切。支。❶蟲の名（蜜虮）❷飢に通ず。

【虯】㋑キウ、グ。渠幽切。尤。㋺ケウ、ゲウ。巨小切。篠。㋑龍の子の角あるもの、みづち㋺めぐる、まはる。

【虯龍】キウリョウ 角のある龍。みづち。埤雅に「有ㇾ角曰ニ虯龍一」

【虰】㋑タウ、チャウ。宅耕切。庚。㋺テイ、チャウ。當經切。庚。㋩凝貞切。青。㋑あり（虰蟻）㋺やんま、とんばう（虰蛵）㋩蟶に同じ。

【虱】シツ、シチ。蝨に同じ。

三畫

【虴】㋑タク、チャク。陟格切。陌。㋺サク、シャク。側伯切。陌。㋑いなご（蚱蜢）㋺ねぎむし（虴蛨）。

【虵】シャ、ゼ。ヤ、エ。イ。蛇の俗字。

【虶】ウ、ヲ。憶俱切。虞。げぢげぢ（蚨虶）。

【虷】㋑カン、ガン。胡安切。寒。㋺カン。居寒切。寒。㋑ぼうふり㋺おかす（犯）。

【虸】シ。即里切。紙。いなむし。

【虸蚄】シハウ 稼を害する蟲。唐書、五行志に「楡關虸蚄蟲、害ㇾ稼入ニ平州界一、有ニ羣雀一、來食ㇾ之、一日而盡」

【蚕】テン。丑善切。銑。ゆく、はふ。

【虹】㋑コウ、グ。戶公切。東。㋺カウ、ゲ。胡貢切。送。㋩カウ、ゴウ。胡江切。江。㋑❶にじ❷草の名❸劍の名（流彩虹）㋺つづく（連）㋩訌に同じ。

【虹沴】コウレイ あしき氣。江淹「虹沴阻ニ于上京一、蜺妖扇ニ于下國一」

【虹洞】コウドウ つらぬく。馬融「天地虹洞、固無ニ端涯一」

【虹泉】コウセン たき。瀑布。張說「虹泉電射、雲木虛吟」

【虹橋】コウケウ にじ。上官儀「雨霽虹橋晚、花落鳳臺春」

【虹棧】コウサン にじの如きかけはし。薩都剌「懸崖虹棧危、插竹漁網晒」

【虹霓】コウゲイ ❶にじ。春秋元命苞に「虹霓者陰陽之精、陰陽交爲ニ虹霓一」❷星の名。運斗樞に「樞星爲ニ虹霓一」

【虺】㋑キ。許偉切。尾。㋺クワイ、エ。呼回切。灰。㋑❶まむし（蝮）❷こゑ㋺❶やむ（病）❷かまびすし（喧）。

【虺虺】キキ 聲の形容。詩經に「曀曀其陰、虺虺其雷」

【虺隤】クワイタイ 馬のやみつかるる貌。詩經に「陟ニ彼崔嵬一、我馬虺隤」

【虺蛇入ㇾ夢】キダユメニイル 女子を生む祥にいふ。詩經に「維虺維蛇、女子之祥」

【虻】バウ、ミャウ。蝱に同じ。

【䖟】バウ、ミャウ。蝱の俗字。

四畫

【蚄】ハウ。府良切。陽。いなむし（虸蚄）。

【蚅】アク、ヤク。於革切。陌。いもむし（烏蠋）。

【蚆】ハ、ヘ。普巴切。麻。かひ（貝）。

【蚇】セキ、シャク。昌石切。陌。しゃくとりむし。

【蚇蠖】セキクワク 〔動〕しゃくとりむし。

【蚊】ブン、モン。無分切。文。か。

【蚊鳥】ブンテウ 〔動〕かはほりの異名。

【蚊雷】ブンライ かのあつまり鳴く聲。周必大「禁直唯聞漏鼓催、潮聲遙聽訝ニ蚊雷一」

【蚊脚】ブンキャク かのあし。脚のやせたる形容。庾肩吾「蚊脚傍低、鵠頭仰立」

【蚊幌】ブンクワウ かをふせぐ具。かや。元稹「蚊幌雨來捲、燭蛾燈上稀」

【蚊幬】ブンチウ 前に同じ。南史、高士傳に「黃昌貧、傭賃作ニ蚊幬一」

【蚊蚋負ㇾ山】ブンゼイヤマヲオフ 力微にして、重任にたへざるに喩ふ。莊子に「知不ㇾ知ニ是非之竟一、而猶欲ㇾ觀ニ於莊子之言一、是猶ㇾ使ニ蚊負ㇾ山、商蚷馳ㇾ河也、必不ㇾ勝ㇾ任矣」

【蚊睫之蟲】ブンセフノムシ 蚊のまつげに栖むむし。極めて微細なるものに喩ふ。列子に「江浦之間生ニ麼蟲一、其名曰ニ焦螟一、羣飛而集ニ於蚊睫一、弗ニ相觸一也、栖宿去來、蚊弗ㇾ覺也」

【蚊蝱宵見】ブンバウセウケン 知の明かなること明月の如くなれば、蚊蝱の如き小人もことごとく見ゆとの意。漢書に「明月夜曜、蚊蝱宵見」

【蚊蝱走ニ牛羊一】ブンバウギウヤウヲハシラス 小能く大を制するにいふ。說苑に「蠹蝝仆ニ柱梁一、蚊蝱走ニ牛羊一」

【蚉】ブン、モン。蚊に同じ。

【蚋】ゼイ、ネ。ゼツ、ネチ。エイ、エ。蜹の略字。

【蚌】㋑ハウ、ボウ。步項切。講。㋺ハウ、バウ。白猛切。漾。㋩蜯に同じ。㋑㋺どぶがひ、はまぐり。

【蚌蛤】ハウカフ 〔動〕はまぐり。呂氏春秋に「月望則蚌蛤實」

【蚍】㋑ヒ、ビ。房脂切。支。㋺ヒ。普弭切。紙。㋑あり、おほあり㋺蚍衃は、こあふひ（草の名）。

【蚍蜉】ヒフ 〔動〕おほあり。爾雅に「蚍蜉、大螘」

【蚑】㊥キ、ギ。巨支切。支。㊦キ。去寘切。寘。㊀はふ、ありく、蟲の行く貌㊁あしたかぐも（長蚑）㊦蟲の行く貌。【蚑蚑】キ 蟲の行く貌。漢書に「蚑蚑脈脈善緣レ壁」

【蚓】イン。余忍切。軫。みみず。

【蚍】㊥キ、ギ。巨支切。支。㊦チ、ヂ。陳尼切。支。㊀一つちあぶ（土蚕）㊦蚍に同じ。

【蚕】テン。他典切。銑。みみず（寒蚓）。俗に用ゐて、蠶の字となすは非なり。

【蚖】㊥ゲン、グヮン。愚袁切。元。㊦グヮン。吾官切。寒。㊀あもり（蠑蚖）㊦まむし。

【蚖】イン。余準切。軫。なつご（蠶の一種）。

【蚗】㊥ケツ、ケチ。古穴切。屑。㊦エツ、エチ。於悅切。屑。㊀なつぜみ（鼓蚗）㊦一みやまぜみ㊁みづち（龍の屬）。

【蚘】㊥イウ、ウ。于求切。尤。㊦クワイ、エ。戸恢切。灰。㊀古の諸侯の稱號㊦さなだむし。

【蚙】㊥ゲン、グヮン。愚袁切。元。㊦グヮン。吾官切。寒。㊀あもり（蠑蚖）㊦まむし。

【蚘】㊥イウ、ウ。于求切。尤。㊦クワイ、エ。戸恢切。灰。㊀古の諸侯の稱號㊦さなだむし。

【蚣】㊥コウ、ク。古紅切。東。㊦ショウ、シュ。思融切。東。㊀むしの名㊁けづめ（距）。

【蚑】㊥キ、ゲ。渠希切。微。㊦クワイ、エ。胡隈切。灰。㊀一蝿の屬㊁かまきり。

【蚑】カ、ケ。火牙切。麻。きしろ（蟹）。

【蚑】シ。七恵切。寘。けむし（蛾に同じ）。

【蚑】ボク、モク。莫卜切。屋。なつぜみ（蜓蚑）。

【蚑】ワ。雨方切。陽。いとど、こほろぎ。

【蚑】〔動〕こほろぎ。揚雄「蜻蛚、南詞ニ之蚑蚑ニ」

【蚑】ザク、ノク。女六切。屋。げぢげぢ。

【蚑】〔動〕げぢげぢ。揚雄「蚰蜒、北詞ニ之蚰蜒ニ」

【蚑】フン、ボン。符分切。文。一人の名㊁蚡に同じ。

【蚑】フン、ボン。符分切。文。蚡に同じ。

【蚑】ボン。毘に同じ。

【蚑】カウ、ガウ。胡郎切。陽。㊦カウ。苦浪切。蕩。㊁カウ、ガウ。居郎切。陽。㊀大いなる貝、おなシュウ、シュ。思融切。東。㊁むかで（蜈蚣）㊦はたおり（松蠶）。

【蚤】㊥サウ、ソウ。子皓切。皓。㊦のみ㊁つとに、はやし（早に通ず）㊂つめきる（爪に通ず）。

【蚤世】わかじに。

【蚤起】朝はやくおく。孟子に「蚤起施從ニ眞人之所レ之」

【蚤知之士】先見の明あるひと。戰國策に「蚤知之士、名成而不レ毀、故稱ニ後世ニ」

【蚊】フ、ホ。方矩切。麌。一かまきり（蜾蚊）㊁ひきがへる（去蚊）。

【蚋】㊥ゼン、ネン。汝鹽切。鹽。㊦ダン、ナン。汝甘切。覃。㊀テン、他念切。豔。㊦にしきへび、うはばみ㊀獣の舌を出す貌（蚺蛇）。フウ、ブ。房尤切。尤。

【虾】水蟲の名。

【虾江】蟹に似て小さき水蟲。江賦、注に「虾江似ニ蟹而小、十二脚ニ」

【蚴】カイ、ケ。居拜切。卦。介蟲の一種。

【蚜】フ、ブ。防無切。虞。水蟲の名。

【蚝】㊥シ。赤之切。支。㊦チ。敕多切。紙。㊁あなどる（侮）㊂みにくし（醜）㊃おろか（駑）㊄あつし（敦厚）㊅蟲の名㊆人の名㊦ばふ。

【蚩侮】

【蚩蚩】無知なる貌。又、敦厚なる貌。詩經に「氓之蚩蚩」

【蚩笑】あざわらふ。

【蚪】トウ、ツ。當口切。有。おたまじゃくし（蝌蚪、科斗）。

五畫

【蚳】ヂ、ニ。女夷切。支。げぢげぢ（蚍蚳）。

【蚋】㊥セツ、ゼチ。職悅切。屑。㊦クツ、コチ。曲勿切。物。㊀むし（蟲）㊁木中の蠹蟲、きくひもし（蛣蜫）。

【蚌】㊥ハ。補火切。晉。㊦ヒ、ビ。渕碑切。支。㊀ひきがへる（蟾蜍）㊁わらぢむし㊂むし（蟲）。

【蚔】㊥ダツ、ナチ。奴曷切。曷。㊦テツ、テチ。陟列切。屑。㊀一いたむ（痛）㊁さす（蜇）㊂蟲の毒。ケン、ゲン。胡田切。先。むかで（馬蚿）。シュ。之戎切。遇。きくひむし（木蠹蟲）。テウ。都僚切。蕭。むぎわらぜみ（蠐螬）。㊥キョ、コ。羌擧切。語。㊂蜘に同じ。㊃ひきがへる（蛙蚔）。

【蚧】㊥キョウ、ゲ。蛩の俗字。ホ、フ。博故切。遇。蟲の名。

【蚋】㊥ヘツ、ベチ。蒲結切。屑。㊦フツ、ホチ。敷勿切。物。㊀ヘイ、ベイ。駢迷切。齊。こがねむし。

【蚍】㊥ヒ、ビ。符支切。支。㊦シ。稱脂切。支。

【蚓】㊥イウ、ユ。於紐切。有。㊦イウ、ユ。於虯切。尤。

【蚯】㊥キウ、ク。去鳩切。尤。みみず。

【蚯蚓】〔動〕みみず。禮記に「孟夏之月蚯蚓出、仲冬之月蚯蚓結」

【蚰】㊥イウ、ユ。以周切。尤。㊦蜒に同じ。

【蚰蜒】㊥げぢげぢ。〔動〕げぢげぢ。劉子に「菖蒲去ニ蚤蝨ニ、而來ニ蚰蜒ニ」

【蚱】㊥サク、シャク。側伯切。陌。㊦サ、セ。助駕切。禡。㊀一あきぜみ㊁いなご㊂蚱に同じ。へイ、ビャウ。符兵切。庚。あぶ（小蚕）。

【蚱】サツ、サチ。側八切。黠。なつぜみ。

【蚵】㊥コウ、ク。皋后切。有。㊦ク、コ。恭于切。虞。㊀ク、ゴ。檄于切。虞。㊁おほあり㊂おほきなさなぎ。

【蚶】㊥ヒとくひいぬ㊁おほあり（蚶蝌）㊀なつこのさなぎ。

【蛄】コ、ク。古胡切。虞。㊀けら(螻蛄)㊁なつぜみ(蟪蛄)㊂よれむし。
【蛄䗐】〔動〕よれむし。揚子方言に「蛄䗐、謂二之强蛘一」
【蛅】ゼン、ネン。汝鹽切。鹽。けむし(蛅蟖)。
【⿱奴虫】ド、ヌ。奴古切。麌。いさごむし(水蠆)。
【蛆】シヨ、ソ。子魚切。魚。㊀うじ㊁むかで(蝍蛆)㊂ひる(水蛆)。
【蛇】㋑シャ、ゼ。食遮切。麻。㋺ヤ、エ。以遮切。麻。㋩イ。弋支切。支。㋥タ、ダ。徒何切。歌。㋑㊀へび、くちなは㊁古昔支那にて、龍の屬となす㊂星の名㋺どくむし㋩㊀自得の貌㊁へびのうねりゆく貌㊂委曲の貌㋥㊀へび㊁どぢゃう(委蛇)。
【蛇行】うねりゆく。戰國策に「嫂蛇行匍伏、四拜自跪而謝」
【蛇豕】へびとゐのこと。隋書に「棄二徒百萬一、悉成二蛇豕一」
【蛇足】へびをゑがきて足を添ふ。無用なることに喩ふ。戰國策に「楚有二祠者一、賜二舍人巵酒一、舍人相謂曰、請畫レ地爲レ蛇、先成者飮、一人蛇先成、引レ酒且言、吾能爲二之足一、未レ成、一人之蛇成、奪二其巵一曰、蛇固無レ足、子安能爲二之足一、遂飮二其酒一、爲二蛇足一者、終亡二其酒一」
【蛇牀】〔植〕はまにんじん。淮南子に「蛇牀似二麋蕪一、而不レ能レ芳」
【蛇虺】〔動〕へび。元稹「蛇虺呑二鷰雀一、豺狼逐二野麋一」
【蛇祖】〔植〕竹の異名。梅堯臣「蛇祖龍孫生二屋後一」
【蛇珠】へびの口より吐きたるたま。述異記に「南海俗云、蛇珠千枚、不レ如二一玫瑰一」
【蛇婆】〔動〕えらぶうなぎ。
【蛇蝮】へびとまむしと。周禮、注に「鄭司農云、地所レ生惡物害レ人者、若二蛇蝮之屬一」
【蛇蠍】へびとさそりと。最も畏ろべきものに喩ふ。陳陶「蛇蠍愁聞骨髓寒」
【蛇皮線】琉球の樂器、えらぶうなぎの皮にて胴を張る、形三味線の如し、三味線はこれより出でたりといふ。
【蛈】㋑テツ、テチ。他結切。屑。㋺テイ、タイ。他計切。霽。つちぐも。
【蛈蝪】〔動〕つちぐも。爾雅に「王蛈蝪」注に「卽蠮螉似二蜘蛛一在二穴中一」
【蛉】レイ、リャウ。郞丁切。靑。㊀あなむし(螟蛉)㊁とんばう、とんぼ(蜻蛉)。
【蛋】タン、ダン。徒歎切。翰。㊀たまご(鳥卵)㊁蜑に同じ。
【蛋白】たまごのしろみ。又、蛋白質より成りたるもの。
【蛋黃】たまごのきみ。

六畫

【蛑】ボウ、ム。莫浮切。尤。㊀かざめ(蝤蛑)㊁かまきり。
【蛒】カク、キャク。古伯切。陌。㊀げぢげぢ㊁すくもむし㊂けら(杜蛒)。
【蛓】シ。七賜切。寘。けむし(毛蟲)。
【蛕】㋑クワイ、エ。胡隈切。灰。㋺虎猥切。賄。㋑さなだむし㋺蟲の名。
【⿱龹虫】㋑ケン、カン。居倦切。霰。㋺ケン、クワン。居袁切。元。㋑くも、又、すくもむし㋺あしたかぐも。
【蛗】フウ、ブ。房久切。有。いなご。
【蛙】㋑ワ、エ。烏瓜切。麻。㋺ア。慣用音。㊀かへる㊁みだり(淫)。
【蛙市】かへるのむらがり鳴くをいふ。葛長庚「草螢鬪レ燈、田蛙作レ市」
【蛙葉】〔植〕おほばこ。
【蛙鼓】かへるの鳴くこゑ。僧惟則「樹根蛙鼓鳴二殘雨一」
【蛙鳴】前に同じ。南史、孔珪傳に「門庭之内、草萊不レ翦、中有二蛙鳴一、中略珪笑答曰、我以レ此當二兩部鼓吹一」
【蛙聲】㊀前に同じ。章孝標「田家無二五行一、水旱卜二蛙聲一」㊁みだりがはしき音樂の聲。
【蛙鳴蟬噪】蛙や蟬の如くかまびすしく噪ぎ立つ。陋劣なる文章を嘲りていふ。諸欣「段文昌以二駢四儷六蛙鳴蟬噪之音一、易二鈞天之奏一、直不レ知三人間有二羞恥事一」
【⿱圭虫】㋑ケイ、ケ。苦圭切。齊。㋺蛙の本字。㋑ぜんかつ(蟼)。
【蛚】レツ、レチ。良薛切。屑。こほろぎ(蜻蛚)。
【蛛】チュ。陟輸切。虞。くも(蜘蛛)。
【蛛絲】くものす。杜甫「蟲蛇穿二畫壁一、巫覡醉二蛛絲一」
【蛛網】前に同じ。薛道衡「暗牖懸二蛛網一、空梁落二燕泥一」
【蛜】イ。於脂切。支。わらぢむし(蛜蝛)。
【蛝】㋑カン、ゲン。戸間切。删。㋺ギン、ゴン。魚巾切。眞。㊀やすで(馬蚿)㊁いなむし(蝮蜪)㊂をさむし(馬蠲蚼)㊃おほあり(蚍蜉)。
【蛞】㋑クワツ、クワチ。苦括切。曷。㋺セツ、セチ。食列切。屑。㋩クワツ、グワチ。胡括切。曷。㋑㊀なめくぢら(蛞蝓)㊁けら(蛞螻)㊂蝦蟇の子㋺おたまじゃくし㋩蛞に同じ。
【蛞蝓】〔動〕なめくぢら。說文に「附蠃背負レ殼者曰二蝸牛一、無レ殼者蛞蝓」
【蛞螻】〔動〕けら。說文に「蛞螻、螻蛄也」
【蛞蟲】〔動〕おたまじゃくし。
【蛟】カウ、ケウ。古肴切。肴。㊀みづち㊁獸の名。
【蛟羊】獸の名。述異記に「蛟羊似レ羊而無レ角、啖レ之毒」
【蛟蚪】あまりょう。段克己「慨然議論吐二肝膽一、腰間古劍鳴二蛟蚪一」
【蛟蛇】みづち。西京賦に「驚二蝄蜽一、憚二蛟蛇一」
【蛟螭】前に同じ。韓愈「飛電著壁生二蛟螭一」
【蛟龍得レ水】英雄の時に逢ふをいふ。李山甫「得レ水蛟龍失レ水魚、此心相對兩何如」
【蛡】㋑ヨク、イキ。逸職切。職。㋺ク、コ。況羽切。麌。㊀はち(蜂)㊁蟲の行く貌、はふ。
【蛣】㋑キツ、キチ。去吉切。質。㋺ケツ、ケチ。詰結切。屑。㋩ケイ、カイ。吉詣切。霽。蟲の名。
【蛣蜣】〔動〕ぼうふり。爾雅、疏に「蛣蜣、一名蜣蜋、黑甲、翅在二甲下一、噉二糞土一、喜取レ糞作レ丸而轉レ之、莊子、蛣蜣之智在二于轉丸一是也」
【蛣蟩】〔動〕くそむし。
【蛣蝠】〔動〕きくひむし。
【蛤】カフ、コフ。古沓切。合。㊀どぶがひ、はまぐり㊁ゐもりの鳴くもの㊂かじか。
【蛤仔】〔動〕あさり。
【蛤灰】はまぐりの殼をやきたるはひ。漢制考疏に「故以二蛤灰一爲二叉灰一」
【蛤粉】ごふん。吳均「打二素蛤一而爲レ粉、碎二紫貝一其如レ粥」
【蛤梨】〔動〕あまなぶれ。又、あさり。淮南子に「盧敖倦二龜殼一而食二蛤梨一」
【蛤蜊】前に同じ。
【⿰虫宅】タ、テ。除駕切。禡。くらげ(水母)。
【蛥】セツ、ゼチ。食列切。屑。むぎわらぜみ。
【蛥蚗】〔動〕むぎわらぜみ。揚雄「蛥蚗、齊謂二之螇螰一、楚謂二之蟪蛄一」
【⿱若虫】カク。黑各切。藥。さす(螫)。
【蛦】㋑イ。以脂切。支。㋺テイ、ダイ。田黎切。齊。㊀きんけいてう(鵕鸃)㊁あきぜみ(蟪蛦)。
【蛧】バウ、マウ。文兩切。養。すだま。

【蛧魎】マウリヤウ 怪物の名。張衡「追二水豹一兮鞭二蛧魎一」

【蛩】(ゆ)キョウ、グ。渠容切。冬。(ろ)キョウ、ク。古勇切。腫。(ゆ)㊀いなご(蝗)㊁こほろぎ(蛬に同じ)㊂せみのから(蟬蛻)㊃憂へおもふ貌㊄獸の名(ろ)㊀訓義(ゆ)に同じ㊁げぢげぢ(百足)。

【蛩蛩】キョウキョウ うれへ思ふ貌。劉向「志蛩蛩而懷顧兮」

【蛩聲】キョウセイ きりぎりすの鳴きごゑ。秦韜玉「長有レ歸心懸二馬首一、可レ堪無レ寐枕二蛩聲一」

【蛪】(ゆ)ケツ、ケチ。吉屑切。屑。(ろ)ゲツ、ゲチ。魚列切。屑。(ゆ)つくつくぼふし(蛪蚼)(ろ)にじ(蜺に同じ)。

【蛫】キ。過委切。紙。㊀六足の蟹㊁わらぢむし(鼠負)㊂猿の屬。

【蛬】キョウ、ク。居竦切。腫。こほろぎ、きりぎりす(蟋蟀)。

【蛬聲】キョウセイ きりぎりすの鳴きごゑ。

【蛭】(ゆ)シツ、シチ。之日切。質。(ろ)チツ。陟栗切。質。(は)テツ、デチ。徒結切。屑。ひる(水中に生ずる蟲)。

【蚈】ケン。苦堅切。先。㊀ほたる(螢火)㊁やすで(馬蚿)。

七畫

【蛵】ケイ、キョウ。呼刑切。青。やんま、とんばう(虰蛵)。

【⿰虫豕】クワイ、ケ。呼恢切。灰。㊀蛕の屬㊁豕地を掘る。

【蛷】(ゆ)キウ、グ。巨鳩切。尤。(ろ)ク、コ。恭於切。魚。(ゆ)㊀はさみむし㊁かさ(瘡)(ろ)訓義(ゆ)の㊀に同じ。

【蛸】(ゆ)サウ、セウ。所交切。肴。(ろ)セウ。相邀切。蕭。(ゆ)あしたかぐも(蟏蛸)(ろ)㊀いか(烏賊)㊁かまきりのたまご㊂人の姓。

【⿰虫吾】ゴ、グ。五乎切。虞。㊀むかで(蜈蚣)㊁むささび(鼯に同じ)。

【蛹】ヨウ、ユ。余隴切。腫。さなぎ。

【蛺】(ゆ)ケフ。古協切。葉。(ろ)カフ、ケフ。轄夾切。洽。あげはのてふ。

【蛺蝶】ケフテフ 「動」あげはのてふ。元稹「蛺蝶戀二秋花一」

【蛻】(ゆ)セイ、ゼ。舒芮切。霽。(ろ)タイ、タ。湯臥切。箇。(は)エツ、エチ。欲雪切。屑。(ゆ)(ろ)(は)㊀ぬけがら㊁もぬけ㊂にしやどっち(復蜟)

【蛾】(は)じがばち、すがる(蜾蛾)。(ゆ)ガ。五何切。歌。(ろ)ギ。魚倚切。紙。(ゆ)㊀かひこのてふ㊁にはかに(俄に同じ)(ろ)㊀かく(搔)㊁蟻に同じ。

【蛾眉】ガビ 蛾はその眉細くして長し。よりて美人の眉の美しきに喩ふ。詩經に「螓首蛾眉、巧笑倩兮、美目盼兮」

【蛾蛘】ガヤウ 「動」あり。揚子方言に「蚍蜉、燕謂二之蛾蛘一」

【蛘】(ゆ)ヤウ。余兩切。養。(ろ)ヒ、ミ。綿婢切。紙。(ゆ)あり(蛾蛘)(ろ)㊀よねむし㊁かまきり(螳螂)。

【蜀】ショク、ゾク。市玉切。沃。㊀いもむし㊁たうまる㊂祠に用ゐる器㊃ひとりたつ山㊄地の名。今の四川省より出づる小刀。漢書、注に「蜀郡工官作二金馬書刀一者、似二佩刀一」

【蜀刀】ショクタウ 今の四川省より出づる小刀。漢書、注に「蜀郡工官作二金馬書刀一者、似二佩刀一」

【蜀椒】ショクセウ 「植」さるはじかみ。(巴椒)。

【蜀鳥】ショクテウ 「動」ほととぎすの異名。

【蜀魂】ショクコン 前に同じ。蜀の望帝の魂魄化してこの鳥となりしとの傳說に本づく。華陽國志に「望帝禪二位於開明一、升二西山一隱焉、時適二月子規鳥啼、故蜀人悲二鳥鳴一也」

【蜀魄】ショクハク 前に同じ。

【蜀江錦】ショクカウキン 蜀の地より織り出すにしき。又、美麗なる錦にもいふ。杜甫「越羅蜀錦金粟尺」

【蜀犬吠レ日】ショクケンヒニホユ 蜀は山深くして、日を見ること少なし、故に犬、日を見る時は怪みて吠ゆ。人の見聞する所甚だ稀なるに比す。韓愈「蜀中山高霧重、見レ日時少、毎レ至二日出一、則羣犬吠レ之」

【蜂】ホウ、フ。敷容切。冬。はち(蠭に同じ)。

【蜂王】ホウワウ はちのかしら。爾雅、翼に「蜂以二千百數一中有二大者一、爲レ王」

【蜂屯】ホウトン はちの如くにあつまる。韓愈「蜂屯蟻聚、不レ可二爬搜一」

【蜂出】ホウシュツ むらがりいづ。漢書に「九家之術、蜂出竝作」

【蜂房】ホウバウ はちのす。淮南子に「蜂房不レ容二鵠卵一、小形不レ足三以包二大體一也」

【蜂起】ホウキ おほくの蜂のとびたつ如くむらがりおこる。蜂は一に、蠭に作る。史記、項羽紀に「楚蠭起之將、皆爭附レ君者、以二君世世楚將一、爲三能復立二楚之後一也」

【蜂巢】ホウサウ 前に同じ。白居易「蜂巢與二蟻穴一、隨レ分有二君臣一」

【蜂衙】ホウガ 蜜蜂の朝夕時刻を定めて巣より出入するをいふ。陸游「微雨晴時看二鶴舞一、小窗幽處聽二蜂衙一」

【蜂黄】ホウクワウ はちの體にある黄色の粉の如きもの。歐陽修「蜂黄燕紫蝶參差」

【蜂腰】ホウエウ はちのこし。ほそきこし。又、惡詩をいふ。詩の一句中に第二字と第七字と上去入を同じくするもの。詩苑類格に「詩有二八病一、三曰二蜂腰一」

【蜂蜜】ホウミツ はちのみつ。宋郊「香隨二蜂蜜一盡、紅入二燕泥一乾」

【蜂聚】ホウシュ はちの如くむれあつまる。沈約「逆徒蜂聚、旌旗紛虧」

【蜂蝶】ホウテフ はちとてふと。蘇軾「簷竹風霜曾不レ到、盆花蜂蝶未二全諳一」

【蜂聲】ホウセイ はちの鳴きごゑ。杜甫「草芽既青出、蜂聲亦暖遊」

【蜒】セン、ゼン。似宣切。先。にな(蜒蝸)。

【蜃】シン、ジン。時忍切。軫。㊀おほはまぐり(大蛤)㊁みづち㊂ひつぎぐるま㊃まつりの肉を盛るに用ゐるうつは。

【蜃蛤】シンカフ 「動」はまぐり。大いなるを蜃とし、小さきを蛤とす。

【蜃氣樓】シンキロウ 砂漠又は海中に厚薄の層ある爲、光線を屈折して、地上の物體の像の空中に現れ出づるもの。(海市)。

【蜄】(ゆ)シン。之刃切。震。(ろ)蜃に同じ。(ゆ)うごく(動)(ろ)おほはまぐり。

【蜆】(ゆ)ケン。呼典切。銑。(ろ)ケン、ゲン。胡典切。銑。(ゆ)㊀しじみ(小蛤)㊁湖の名(ろ)縊女。

【蜆蛤】ケンカフ しじみとはまぐりと。北史に「夏四月、詔禁レ取二蟹蝦蜆蛤之類一」

【蜏】テウ、デウ。徒聊切。蕭。水蟲の名。

【蜇】(ゆ)テツ、テチ。陟列切。屑。(ろ)セツ、ゼチ。寺絶切。屑。(ゆ)さす(螫)(ろ)魚の名。

【⿰虫折】(ゆ)セツ、ゼチ。寺絶切。屑。(ろ)テイ、タイ。丁計切。霽。(ゆ)魚の名(鱡に同じ)(ろ)螮に同じ。

【蜈】ゴ、グ。五乎切。虞。むかで(蜈蚣)。

【⿰虫冬】(ゆ)トウ、ヅ。徒冬切。冬。(ろ)キユウ、グ。胡弓切。東。あかむし(赤蟲)。

【蜉】フウ、フ。縛謀切。尤。㊀おほあり(蚍蜉)㊁かげろふ。

【蜉蝣一期】フイウノイチゴ かげろふは朝生れて、夕に死ぬ。人生の短きに喩ふ。蘇軾「寄二蜉蝣於天地一」

【蜊】リ。力脂切。支。あまなぶれ(蛤蜊)。

【蜋】(ゆ)ラウ。魯當切。陽。(ろ)呂張切。陽。(ゆ)かまきり(螳蜋)(ろ)くそむし(蛣蜋)。

【蜋蜩】ラウテウ せみ。揚子方言に「楚謂レ蟬爲レ蜩、宋衞謂二之螗蜩一、陳鄭謂二之蜋蜩一」

【蜍】(ゆ)ショ、ゾ。署魚切。魚。(ろ)ヨ。羊諸切。魚。

(い)蟾蜍は、ひきがへる又、月の異稱(ろ)くも(蟾蜍)。

【蛙】へイ、バイ。部禮切。薺。㊀まて㊁しじみ(小蛤)。

【蜎】(い)エン。於玄切。先。(ろ)ケン。休緣切。先。(い)㊀たわむ(撓)、ふるふ(掉)㊁ぼうふり(孑孑)㊂いもむしの貌㊃屋中の深廣なるにいふ(ろ)㊀人の名㊁娟に通ず。

【蜎蜎】いもむしの貌。詩經に「蜎蜎者蠋、烝在桑野」

【蜏】(い)イウ、ウ。興久切。有。(ろ)シウ、シュ。息救切。宥。かげろふ。

【蛶】ケフ、コフ。居怯切。葉。かめのて(蜐の屬)。

【蜑】タン、ダン。蕩旱切。旱。えびす(南方の蠻族)。
國訓あま(漁夫)。

【蜒】エン。以然切。先。㊀げぢげぢ(蚰蜒)㊁狸に似たる獸(蝘蜒)㊂やもり(蝘蜒)㊃うねうねと長し。

【蜒蜒】龍蛇などのわだかまる貌。(蜿蜒)。韓愈「海之百靈祕怪、恍惚畢出、蜿蜿蜒蜒、來享飲食」

【蜓】(い)テン、デン。徒典切。銑。(ろ)テイ、チャウ。唐丁切。青。(は)テイ、ヂャウ。待鼎切。迥。(い)やもり(蝘蜓)(ろ)とんばう(蜻蜓)(は)むぎわらぜみ。

【蜓蛛】〔動〕むぎわらぜみ。爾雅、注に「蜓蛛、卽蝭蟧也、一名蟪蛄」

八畫

【蜘】チ。陟離切。支。くも(蜘蛛)。

【蜘蛛】〔動〕くも。關尹子に「聖人師蜘蛛立網罟」

【蜙】(い)ショウ、シュ。息恭切。冬。(ろ)ソウ、ス。蘇叢切。東。ばつた、はたおり、きりぎりす。

【蜙蝑】〔動〕蝗の類。はたおり。ぎっちょ。揚雄「春黍謂之蜙蝑」

【蜙蝩】前に同じ。

【蜚】(い)ヒ。父沸切。未。(ろ)ヒ、ビ。匪微切。微。(い)㊀あぶらむし㊁いなむし(ろ)とぶ(飛に通ず)。

【蜚禽】とぶとり。史記に「縱遠方奇獸蜚禽及白雉諸物」

【蜚語】いひふらし。ひゃうばん。劉禹錫「曾遭蜚語十年謫」

【蜚蝱】〔動〕あぶ。

【蜚廉】㊀風のかみ。風俗通に「蜚廉、風伯也」㊁殷の紂王の諛臣。孟子に「驅蜚廉於海隅而戮之」㊂能く走るもの。江賦に「蜚廉無以睎其蹤、渠黃不能企其景」㊃能く風を起す神禽。漢書に「元封二年、作甘泉通天臺長安蜚廉館」注に「蜚廉神禽能致風氣者也」

【蜚鴻】〔動〕かつをむし。ぬかが。史記に「蜚鴻滿野」

【蜚芻輓粟】芻藁を運載し、糧食を轉送す。漢書、嚴安傳に「秦時使蒙恬將兵以北攻強胡、辟地進境、戍於北河、蜚芻輓粟、以隨其後」

【蜛】キョ、コ。九魚切。魚。蟲の名。

【蜜】ビツ、ミチ。彌畢切。質。はちみつ、みつ。

【蜜汁】みつ。蘇軾「醸酒如齏汁、甜酒如蜜汁」

【蜜酒】蜜より製したる酒。宋史に「有花酒、椰子酒、檳榔酒、蜜酒、皆非麴蘗所醞、飲之亦醉」

【蜜蜂】〔動〕みつばち。杜甫「風輕粉蝶喜、花暖蜜蜂喧」

【蜜蠟】蜜蜂の巢窠より製したる蠟。

【蜜漿】はちみつ。魏志に「袁術還至江亭、時盛暑欲得蜜漿」

【蜝】キ、ギ。渠之切。支。どろがに(蟚蜝)。

【蝜】フウ、フ。房久切。有。おめむし(鼠婦)。

【蛙】リク、ロク。力竹切。屋。あかがひ、うみがひ(魁蛙)。

【蜠】(い)キン、グン。渠殞切。軫。(ろ)キン。去倫切。眞。貝の類。

【蜡】(い)ショ、ソ。七慮切。御。(ろ)サ、ゼ。助駕切。禡。(は)シュク、ソク。子六切。屋。(い)うじ(蠅胆)(ろ)十二月に行ふ祭の名(は)蟲の名。

【蜡月】十二月の異名。周禮に「正齒位、禮在蜡月」

【蜡祭】歲末に萬神を饗するまつり。禮記に「蜡之祭也、主先嗇而祭司嗇也」

【蜢】バウ、ミャウ。母梗切。梗。㊀いなごの類㊁かへるの類。

【蜣】キャウ、カウ。去羊切。陽。くそむし(蜣螂)。

【蜤】シ。息移切。支。はたおりむし(蜤螽)。

【蜥】セキ、シャク。先擊切。錫。とかげ。

【蜥蜴】〔動〕とかげ。爾雅に「蠑螈蜥蜴、蜥蜴蝘蜓、蝘蜓守宮也」

【蜦】(い)リン。力迍切。眞。(ろ)倫浚切。震。(は)レイ、ライ。郎計切。霽。(い)行く貌(蜦蜦)(ろ)(は)大いなる蝦蟇、へびくひがへる。

【蜧】レイ、ライ。郎計切。霽。㊀へびくひがへる(蜦に同じ)㊁一種の神蛇。

【蚑】(い)キ、ギ。渠綺切。紙。(ろ)キ。丘奇切。支。(い)㊀せみ(蟬)㊁獸の名(蚑蛭)(ろ)あしたかぐも。

【虫虎】コ、ク。呼古切。麌。はひとりぐも(蠅虎)。

【蝝】ロク。盧谷切。屋。きとかげ。

【蝝蜓】〔動〕とかげに似たる蟲。きとかげ。廣韻に「蝝蜓似蜥蜴、居樹上、輒下齧人、上樹垂頭、聽聞哭聲乃去」

【蜩】(い)テウ、デウ。徒聊切。蕭。(ろ)徒弔切。嘯。(い)せみ(蟬)(ろ)龍の首の動く貌。

【蜩蜋】〔動〕ひぐらし。爾雅、疏に「蜩蜋蜩螗、舍人曰皆蟬也」

【蜩蟉】龍の首の動く貌。漢書に「蜩蟉偃蹇、怵臭以梁倚」

【蜩蟟】〔動〕ひぐらし。

【蜩螃】〔動〕あきせみ。

【蜩蟬】〔動〕せみ。

【蜩螗】〔動〕ひぐらし。

【蜪】タウ、トウ。土刀切。豪。㊀いなごの子の翅未だ生ぜざるもの(蝮蜪)㊁獸の名。

【蛪】セキ、シャク。七迹切。陌。あぶらむし(蛪螇)。

【蜬】カン、ゴン。胡男切。覃。にな。

【虫戔】(い)サン、セン。士板切。潸。(ろ)士諫切。諫。やすで、あまびこ(馬蚿)。

【蜭】(い)カン、ゴン。胡感切。感。(ろ)胡紺切。勘。けむし(毛蟲)。

【虫屈】クツ、コチ。區勿切。物。きくひむし(蛣蝠)。

【蜮】(い)ヨク、ヰキ。雨逼切。職。(ろ)コク。獲北切。職。㊀いさごむし㊁まどはす(惑亂)㊂かに(魊に通ず)。

【惑虫】ヨク、ヰキ。コク。蜮に同じ。

【蜯】ハウ、ボウ。步項切。講。蚌に同じ。

【蛗】フウ、フ。扶久切。有。いなご(螽)。

【蜰】(い)ヒ、ビ。符非切。微。(ろ)ヒ。父沸切。未。(い)あぶらむし(蜚)(ろ)神蛇。

【蜱】(い)ヒ、ビ。符支切。支。(ろ)ヘウ、ベウ。毗霄切。蕭。(は)螵に同じ。(い)(ろ)おほちがふぐり(蜱蛸)。

【蜲】(い)ヰ。鄔毀切。紙。(ろ)於爲切。支。(い)わらぢむし(ろ)うねりゆく貌。

【蜲蛇】うねりゆく貌。

【蛜蜲】〔動〕わらぢむし。

【蜳】㋑トン。都昆切。元。㋺テン。敕轉切。銑。㋩キン。羽敏切。軫。むなさわぎ(蜳蜳)。

【蛤】シヤ、セ。四夜切。禡。蛟に同じ。しほから。

【蜋】チヤウ、ヂヤウ。直良切。陽。げぢげぢ。

【蜋蜒】〔動〕げぢげぢ。揚子方言に「蚰蜒謂二之蜋蜒一」

【蜴】㋑エキ、ヤク。羊益切。陌。㋺セキ、シヤク。先的切。錫。㋑とかげ、ゐもり(蜥蜴)㋺あざむく(脈蜴)。

【蝹】㋑エン。縈玄切。先。㋺イン。一均切。眞。蜎に同じ。

【蜘】㋑キク、ゴク。居六切。屋。㋺キク、コク。丘六切。屋。㋑かへる㋺㊀がま㊁みみず(蚯蚓)。

【蜘鼃】〔動〕かへる。

【蜘蝛】〔動〕がま。

【蛸】バウ、ミヤウ。蝱の俗字。

【蛢】ヘイ、ビヤウ。薄經切。青。こがねむし(蟥蛢)。

【蜷】ケン、ゴン。巨員切。先。蟲の屈まり行く貌。國訓にな。

【蜷局】蟲の屈まり行く貌。詰屈して行かざる貌。楚辭に「蜷局顧而不レ行」

【蜸】ケン。牽繭切。銑。みみず。

【蜸蚕】〔動〕みみず。爾雅に「螼蚓蜸蚕」

【蜹】㋩ゼイ、ネ。而銳切。霽。㋺ゼツ、ネチ。如劣切。屑。㋩エイ、エ。以芮切。霽。㋑㋺か(蚊)㋩毒を持てる蛇の名。

【蜺】㋑ゲイ、ガイ。五稽切。齊。㋺ゲツ、ゲチ。五結切。屑。㋑にじ(霓に同じ)㋺つくつくぼふし。

【蜻】㋑セイ、シヤウ。杳盈切。庚。㋺セイ、ジヤウ。疾正切。敬。㋩セイ、ジヤウ。倉經切。青。㋑こほろぎ(蜻蛚)㋺むぎわらぜみ(蛁)㋩かげろふ、とんぼ、とんばう。

【蜻蛉】〔動〕とんばう。

【蜻蛚】〔動〕こほろぎ。

【蜻蜻】〔動〕むぎわらぜみ。揚子方言に「蟬有レ文者、謂二之蜻蜻一」

【蜻蜓】〔動〕とんばう。

【蜼】ヰ。以醉切。寘。くもざる。

【蜽】リヤウ、ラウ。良獎切。養。すだま、怪物(魍魎)。

【蜾】㋑クワ。古火切。哿。㋺ラ。魯果切。哿。㋑じがばち㋺かたつぶり(蠃に通ず)。

【蜾蠃】〔動〕細腰蜂(じがばち)をいふ。詩經に「螟蛉有レ子、蜾蠃負レ之」

【蜿】㋑エン、ヲン。於袁切。元。㋺於阮切。阮。㋩ワン。烏丸切。寒。㋑㊀虎の行く貌㊁龍の狀㊂蛇の行くにいふ、㋺みみず㋩龍蛇の動く貌(蟠蜿)。

【蜿蜒】龍蛇等のわだかまる貌。(蜿蜒)。易林に「蛇行蜿蜒、不レ能レ上レ阪」

【蜿蜿】うねうねしたる貌。陸游「蜿蜿其長高隆隆、截如二長城一限二羌戎一」

【蜿蟬】舞ひて盤曲する貌。又、聚りたる蛟の形。王逸「乘二六蛟一兮蜿蟬」

【蜿蟤】龍蛇の自ら迫促する貌。王逸「龍屈兮蜿蟤」

【蜿蟺】〔動〕みみずの異名。

【蛧】バウ、マウ。蝄に同じ。

【蝅】サン、ゾン。蠶の省字。

【蚕】サン、ゾン。蠶に同じ。

九畫

【蝌】クワ。苦禾切。歌。本、科に作る。

【蝌斗】〔動〕おたまじゃくし(蝌斗)。

【蝌蚪字】古代文字の一種、その形おたまじゃくしに似たり、故にいふ。晉書に「太康元年、發二魏安釐王冢一得二竹書數十車、漆書皆科斗字」

【蟤】㋑セン。尺兗切。銑。㋺スヰ。楚委切。紙。㋑蟲の名㋺うごく、うごめく(動)。

【蝍】㋑ショク、シキ。子力切。職。㋺シツ、シチ。貲悉切。質。㋑㊀むかで㊁とんばう㊂しやくとりむし㋺蟲の名。

【蝍蛆】〔動〕むかで。

【蝍蛉】〔動〕とんばう。

【蝍蝛】〔動〕しやくとりむし。

【蝎】㋑カツ、ガチ。胡葛切。曷。㋺虹字の籒文。㋑㊀きくひむし㊁すくもむし(蠐螬)㊂餅の名。

【蝏】テイ、チヤウ。唐丁切。青。㊀かげろふ、とんばう(蜻蝏)㊁はまぐりの類。

【蝐】バウ、マウ。瑁に同じ。

【蝑】㋑ジヨ、ソ。相居切。魚。㋺シヤ、セ。司夜切。禡。㋑はたおり、ばつた㋺しほづけのかに。

【蝓】㋑ユ。羊朱切。虞。㋺イウ、ユ。夷周切。尤。㊀なめくぢ(蛞蝓)㊁かたつぶり(蝸牛)㊂くも。

【蝛】ヰ。於非切。微。わらぢむし(蛜蝛)。

【蝕】㋑ショク、ジキ。乘力切。職。㋺シヨク、リキ。六直切。職。㋩ロウ、ル。盧東切。東。㋑㊀かく、やぶる㊁侵し蝕むこと㊂日月の虧くること㋺谷の名(蠟に同じ)。

【蜻】セイ、シヤウ。桑經切。青。やんま、とんばう(蜻蜓)。

【蝖】ケン、コン。許元切。元。㊀すくもむし㊁ぢむし(地蠶)。

【蝗】㋑カウ、ギヤウ。戶盲切。庚。㋺クワウ、ワウ。胡光切。陽。㋩カウ、ギヤウ。戶孟切。敬。いなご、いなむし(螽)。

【蝗蟲】〔動〕いなご。貞觀政要に「貞觀二年、京師旱、蝗蟲大起」

【蝘】エン。於殄切。銑。㊀なつぜみ、むぎわらぜみ㊁やもり(蝘蜓)。

【蝙】㋑ヘン。布玄切。先。㋺ヘン、ベン。蒲眠切。先。㋑かはほり(蝙蝠)㋺魚の名。

【蝙蝠】〔動〕かはほり。(仙鼠、服翼)。易林に「蝙蝠夜藏、不二敢晝行一」

【蝤】イウ、ユ。於虯切。尤。龍蛇の貌。

【蝤蟉】龍蛇などのうねうねせる貌。司馬相如「蝤蟉蜿蜒」

【蠭】ハン、ボン。防錢切。鹽。はち(蜂)。

【蝜】フウ、ブ。扶缶切。有。㊀わらぢむし、おめむし㊁毒ある蟲の名㊂蟲の名。

【蝝】㋑エン。與專切。先。㋺蝯に同じ。

【蝞】ビ、ミ。明祕切。寘。㋑㊀おほあり(蚍蜉)㊁いなごの子。龜の殼中に寄生し、蝦に似たる小蟲、又、之をくらへば顏色に愛媚を增すといふより愛媚の義とす。

【蝬】シウ、シユ。所鳩切。尤。㊀はさみむし㊁いさごむしの類(蠼螋)。

【蝟】ヰ。于貴切。未。はりねずみ。

【蝟毛】はりねずみのけ。多き數の形容にいふ。漢書に「反者如二蝟毛一而起」

【蝟集】はりねずみの毛のあつまり生ぜるが如く、事項の一時に多くおこるにいふ。兪安期「蝟集而縱橫」

【蝠】フク、ホク。方六切。屋。㊀かはほり(蝙蝠)㊁まむし(蝮に通ず)。

【螄】㋑シ。式支切。支。㋺イ。羊至切。寘。よれむし(蛣蟹)。

【蝡】㋑ゼン、ナン。而兗切。銑。㋺ジユン、ニユン。乳尹切。軫。㊀うごく(動)㊁蛇の一種。

【蝡動】うごめく。（蠢動）。淮南子に「蝡飛蝡動」

【蝣】イウ、ユ。以周切。尤。かげろふ（蜉蝣）。

【蝤】㋑シウ、ジュ。自秋切。尤。㋺イウ、ユ。夷周切。尤。㋩シウ、シユ。卽由切。尤。㋑すくもむし、きくひむし㋺ごもくあぶらむし㋩かざみ（蝤蛑）。

【蝤蠐】（動）きくひむし。木の中に棲み、白くして長きより美人の頸に比す。詩經に「領如蝤蠐」

【蝥】㋑ボウ、ム。莫浮切。尤。㋺バウ、メウ。謨交切。肴。㋩ブ、ム。亡遇切。遇。㋥武夫切。虞。㋑蟲の名㋺はんめう（螌蝥）㋩蟊の名㋥くも。

【⿰虫祭】セツ、セチ。昨結切。屑。こむし（⿰虫祭蛟）。

【蝦】カ、ゲ。胡加切。麻。㊀かへる㊁えび（鰕に通ず）㊂みぞごゐさぎ㊃獸の名㊄車の名。

【蝦蛄】（動）しやこ。

【蝦蛤】獸の名。上林賦に「格蝦蛤鋋猛氏」

【蝦蜆】えびとしじみと。五燈會元に「採掇蝦蜆、以充其腹」

【蝦蟆】（動）ひきがへる。がま。易林に「穴有狐鳥、坎生蝦蟆」

【蝦虎魚】（動）はぜの異名。

【蝦蟇衣】（植）おほばこ。釋名に「蝦蟇衣、蝦蟇喜藏伏于下、故江東稱爲蝦蟇衣」

【蝦蟆護】（動）みぞごゐさぎ。

【蝦蟆仙人】がまを使ふことに巧なりし人。

【蜱】ハウ、ビャウ。蒲幸切。梗。ささのはがひ、きゃらがひ。

【蝨】シツ、シチ。所櫛切。質。しらみ。

【蝨處褌中】苟安の徒にいふ。晉書、阮籍傳に「羣虱之處褌中、逃乎深縫、匿乎壞絮、自以爲吉兆也」

【蝨處頭而黑】交ろ處によりて、化せらるるに喩ふ。文選に「蝨處頭而黑、麝食柏而香」

【蝘】㋑エン。以淺切。銑。㋺夷然切。先。㋑げぢげぢ㋺蜒に同じ。

【蝩】㋑チョウ、ヂュ。直容切。冬。㋺ショウ、シュ。諸容切。冬。㋑かひこの晩く生ずるもの㋺おほれむしいなご（蝗）。

【蝪】タウ。吐郞切。陽。つちぐも（蛈蝪）。

【蝭】㋑テイ、ダイ。杜奚切。齊。㋺シ、ジ。常支切。支。㋑なつぜみ、むぎわらぜみ（蝭蟧）㋺はますげ（茋に同じ）。

【蝮】フク、ホク。芳福切。屋。まむし。

【蝮虺】（動）一種のへび。爾雅、注に「身廣三寸、頭大如人擘指」

【蝮蛇】（動）まむし。山海經に「蝮蛇色如綬文、大者百餘斤」

【蝮蠍】まむしとさそりと。惡人に喩ふ。宋史に「小人譬之蝮蠍、其兇惡害人、根乎天性」

【蝮蠆】まむしとはちと。說苑に「鷙鳥不搏、蝮蠆不螫」

【蝛】カン、ケン。許咸切。咸。あこやがひ、おきあさり。

【蝯】エン、ヱン。雨元切。元。てながざる。

【蝰】ケイ、ケ。苦圭切。齊。㊀さなぎ（蠶蛹）㊁ひばかり（虺蝰）。

【蝱】バウ、ミヤウ。武庚切。庚。㊀あぶ㊁一種の鳥㊂ははくり（貝母）。

【⿰虫禺】㋑ク、ゴ。遇俱切。虞。㋺ギョウ、グ。魚容切。冬。しぼせんむし（⿰虫敖⿰虫禺）。

【蝳】トク、ドク。徒沃切。沃。くも（蝳蜍）。

【蟌】ソウ、ス。倉紅切。東。とんばう（蜻蟌）。

【蝴】コ、グ。洪吾切。虞。かはひらこ、こてふ（蝴蝶）。

【蝴蝶夢】莊子、夢に蝴蝶に化し、樂んで彼我の別を忘れたる故事。莊子に「昔者莊周夢爲胡蝶、栩栩然胡蝶也、自喩適志與、不知周也、俄而覺則蘧蘧然周也、不知周之夢爲胡蝶與、胡蝶之夢爲周與、周與胡蝶則必有分矣、此之謂物化」

【蝶】テフ、デフ。徒協切。葉。てふ、てふてふ、かはひらこ。

【蝶翎】てふのはね。溫庭筠「蝶翎朝粉盡、鴉背夕陽多」

【蝷】レキ、リヤク。郎擊切。錫。はたはた、はたおり（螇蝷）。

【⿰虫便】ヘン、ベン。房連切。先。すなじらみ、あすべ（⿰虫便蜒）。

【⿰虫便蜒】（動）すなじらみ。

【⿰虫侯】㋑コウ、グ。戶鉤切。尤。㋺下遘切。宥。㋑やもり（蝘⿰虫侯）㋺龍に似たる一種の水蟲。

【蝸】クワ、ケ。古華切。麻。㊀かたつぶり、ででむし（蝸牛）㊁蝸に通ず。

【蝸涎】かたつぶりのよだれ。劉基「竹根草葉垂書帶、苔面蝸涎學篆文」

【蝸跡】かたつぶりのはひたるあと。西陽雜俎に「睿宗爲冀王時、寢齋壁上蝸跡成天字」

【蝸髻】こどものかみ。古今註に「蝸髻謂小兒髻如蝸」

【蝸廬】ちひさきいへ。魏志に「焦光字孝然、結草廬於河開、號蝸牛廬、呻吟其中」

【蝸角之爭】爭ふ所の小なるをいふ。莊子に「有國於蝸之左角者、曰觸氏、有國於蝸之右角者、曰蠻氏、時相與爭地而戰、伏尸數萬、逐北旬有五日而後反」

【蝹】㋑ヰン。紆倫切。眞。㋺エン。縈緣切。先。㋩ウン、ヲン。於云切。文。㋥アウ、オウ。烏皓切。皓。㋑㋺㋩㊀龍蛇の貌㊁龍蛇の行く貌㋥猿に似たる一種の蟲。

【蝹蝹】龍蛇の貌。韓愈「山磨雷奕奕、水淬龍蝹蝹」

【蝺】㋑ク。果羽切。麌。㋺ウ。王矩切。麌。㋑よき貌㋺くぐせ、せむし。

十畫

【螂】ラウ。蜋に同じ。

【螃】㋑ハウ、バウ。步光切。陽。㋺北朗切。養。㋑どろがに（螃蟹）㋺ひきがへる（蝦蟆）。

【⿰虫宮】キュウ、ク。居雄切。東。やもり（⿰虫宮守）。

【蟘】トク、ドク。徒得切。職。苗の葉を食ふ蟲。

【螇】ケイ、ガイ。胡雞切。齊。㊀なつぜみ、むぎわらぜみ（螇螰）㊁ばった、はたはた（螇蚸）。

【螈】ゲン、グヮン。愚袁切。元。なつご（再蠶）、やもり（蠑螈）。

【螉】㋑ヲウ、ウ。烏紅切。東。㋺オウ。慣用音。㊀こしぼそばち（細腰蜂）㊁牛馬などの皮中に生ずる一種の細蟲。

【⿰虫孫】ソン。蘇昆切。元。こほろぎ、いとど（虰⿰虫孫）。

【⿰虫并】ケイ。古奚切。齊。㊀かひこのてふ（蛾）㊁ほたる。

【蠊】㋑レン、ロン。力鹽切。鹽。㋺カン、ゲン。胡讒切。咸。あしはらがに（蟛蜞）。

【⿰虫宿】ジュク、ソク。所六切。屋。しやくとりむし（蝍⿰虫宿）。

【⿰虫犀】チ、ヂ。陳尼切。支。ひる（蛭）。

【螌】ハン、ヘン。逋還切。刪。はんめう（一種の毒蟲、螌蝥）。

【螌蝥】（動）あぶらむし。

【融】ユウ、ユ。以戎切。東。㊀やはらぐ（和）㊁あきらか（明）

㊂ほがらか（朗）㊃とく（銷）㊄ながし（長）㊅うしとらのかぜ（東北風）㊆州の名㊇神の名（祝融）。

【融化】 とけあひてかはる。朱德潤「緬想融化初、元氣下磅礴」

【融合】 とけて一つになる。華陽國志に「出二金銀礦一、取レ火融二合之一爲二金銀一」

【融汞】 とけたる水銀。宋敏求「水面如二融汞一」

【融泄】 とけちる。又、うごく貌。景福殿賦に「隨レ雲融泄」

【融風】 うしとらのかぜ。左傳、注に「東北曰二融風一」

【融液】 とけたるしる。晉書に「遇二鑠燒之融液斷絶一」

【融通】 とどこほりなくかよふ。任昉「道識虛遠、表裏融通」

【融然】 のびやかなる貌。晉書、陶潛傳に「每二一醉一、則大醉融然」

【融暢】 とけやはらぐ。黄庭堅「使二義理融暢一、則下レ筆時不二蹇吃一也」

【融融】 ㊀やはらげる貌。左傳に「其樂也融融」㊁のどやかなる貌。薛能「新晴天狀濕融融」

【融釋】 とく。葉適「無二醉飽之失一、又能融二釋衆疑一」

【螐】 ウ、ヲ。汪胡切。虞。いもむし（螐蠋）。

【螑】 ㋑キウ、ク。輕幼切。宥。㋺火救切。宥。龍の頸をのべて行く貌。

【蝶】 ㋑ケツ、ケチ。丘傑切。屑。㋺タク、チャク。陟格切。陌。つちいなご（蝶土）。

【䗠】 カン。河干切。寒。一種の小蟲。

【蟳】 ハク。補各切。藥。㊀かに（蟹）㊁おほぢがふぐり（蟳蟭）。

【螓】 シン。匠鄰切。眞。むぎわらぜみ、なつぜみ。

【螓首】 螓はなつぜみなり、その額廣く方にしてみめ好きより、美人のひたひにいふ。詩經に「螓首蛾眉」

【螔】 ㋑イ。弋支切。支。㋺シ。相支切。支。かたつむり（螔蝓）㋺ゐもり。

【螕】 ヘイ。邊兮切。齊。㊀だに、うしじらみ（牛蝨）㊁蚍に通ず。

【螖】 ㋑クヮツ、グヮチ。戸八切。黠。㋺コツ、コチ。吉忽切。月。あしはらがに㋺蟹の一種。

【螗】 タウ、ダウ。徒郎切。陽。なつぜみ。

【螗蜩】 〔動〕せみ。揚子方言に「宋衛謂二之螗蜩一、陳鄭謂二之蜋蜩一」

【螘】 ギ。語綺切。紙。あり（蟻に同じ）。

【螘塚】 ありづか。王安石「巴屋如二螘塚一、轂輻塵霧開」

【蟣】 キ、ケ。キ、ギ。蟣に同じ。

【螚】 ㋑ダイ、ナイ。奴代切。隊。㋺トク、ドク。匿德切。職。㋩能の俗字。㋑あぶ（蝱）㋺蠭に同じ㋩すっぽんの屬。

【螛】 ㋑カツ、ガチ。何葛切。曷。㋺カツ、ゲチ。下瞎切。黠。㋑目を搖かし舌をいだすこと（螛蝎）㋺けら（仙姑）。

【螜】 コク。胡谷切。屋。㊀けら㊁すくもむし（蠐螬）。

【螝】 ㋑クヮイ、エ。胡封切。隊。㋺キ。基位切。寘。㋑さなぎ（蠶蛹）㋺㊀さなぎ（蠶蛹）㊁まむし（虺に同じ）。

【螟】 ベイ、ミャウ。莫經切。青。くきむし。

【螟蛉】 〔動〕あをむし。詩經に「螟蛉有レ子、蜾蠃負レ之」

【螟蜮】 〔動〕いなむし。後漢書に「督二農桑一、去二其螟蜮一、以及二蟊賊一」

【螟蝗】 ずゐむしといなご。共に稻を害する蟲。蘇軾「驅二除螟蝗一、逐二捕盜賊一」

【螟螣】 すゐむしとはくひむしと。詩經に「去二其螟螣一、及二其蟊賊一」

【螟蟲】 〔動〕くきむし。禮記に「暖氣早來、螟蟲爲レ害」

【螢】 ㋑ケイ、ギャウ。戸扃切。青。㋺エイ、ヤウ。子平切。庚。ほたる。

【螢火】 ほたるのひ。陸游「天高鶴聲厲、風急螢火稀」

【螢光】 ほたるのひかり。杜牧「螢光爝火、何裨二日月之明一」

【螢色】 前に同じ。姚合「漏聲林下靜、螢色月中微」

【螢明】 前に同じ。陸游「墜レ枝雙鵲臭、黏レ草一螢明」

【螢案】 車胤の故事により、勉學することにいふ。王逢「十年螢案書連レ屋、八月龍灣浪拍レ天」

【螢影】 ほたるのひかるかげ。王維「玉窗螢影度、金殿人聲絶」

【螢燄】 ほたるのひかり。許渾「蛩聲聞レ鼓歇、螢燄觸レ簾回」

【螢雪功】 螢や雪を燈火に代へて、苦學するをいふ。晉書に「車胤字武子、幼恭勤博覽、貧不二常得レ油、夏月以二練囊一盛二數十螢火一、照レ書讀レ之、以レ夜繼レ日、後官至二尚書郎一」又、晉書、孫康傳に「孫康小淸介、交游不レ雜、家貧無レ油、嘗映レ雪讀レ書、後官至二御史大夫一」

【螣】 ㋑トウ、ドウ。徒登切。蒸。㋺チン。呈稔切。寑。㋩トク、ドク。徒得切。職。㋥タイ、ダイ。徒耐切。隊。㋑㋺龍に似たる蛇㋩㋥はくひむし。

【螣蛇】 龍に似たる蛇、雲霧を興してその中に遊ぶといふ。荀子に「螣蛇無レ足而飛、梧鼠五技而窮」

【蝀】 ユ。弋主切。麌。六斛四斗。

十一畫

【蝹】 ㋑ク、コ。香句切。遇。㋺ウ、チ。王遇切。遇。かへりたてのかひこ（玄蠶）。

【蝫】 チク、ドク。直六切。屋。やすで（馬蠲）。

【螫】 セキ、シャク。施隻切。陌。㊀さす㊁いかる（怒）㊂害毒を致す義に用ゐる。

【螬】 サウ、ザウ。昨勞切。豪。ぢむし、すくもむし、ねきりむし（蠐螬）。

【螭】 チ。丑知切。支。㊀みづち、あまりょう㊁獸の形をなせる山神（魑に通ず）㊂のぶ、しく（摛に通ず）。

【螭魅】 獸の形に似たる山神。左傳に「螭魅罔兩、莫二能逢レ之」

【螭龍】 龍の角なきもの。埤雅に「無レ角曰二螭龍一」

【螮】 テイ、タイ。都計切。霽。㊀にじ㊁くも。

【螯】 ガウ、ゴウ。五勞切。豪。㊀蟹のはさみ㊁おほはまぐり（車螯）。

【螰】 ロク。盧谷切。屋。むぎわらぜみ、なつぜみ（螻螰）。

【䗣】 ㋑カン、ゴン。下瞰切。感。㋺胡甘切。覃。㋑うりむし（瓜蟲）㋺くはむし。

【螥】 ヨウ、ユ。餘封切。冬。一種の毒蟲（蝩螥）。

【螲】 ㋑チツ。陟栗切。質。㋺テツ、テチ。丁結切。屑。㋑けら（螻螲）㋺つちぐも（螲蟷）。

【螳】 タウ、ダウ。徒郎切。陽。かまきり、いぼむし（螳螂）。

【螳螂力】 微弱なるちから。駱賓王「振二螳螂之力一、拒レ轍當レ車」

【螳螂之衛】 兵備の微弱なるにいふ。陳琳「欲下以二螳螂之斧一、禦中隆車之隧上」

【螳螂窺レ蟬】 徒に利を見て害を察せざれば、わざはひを招くをいふ。説苑に「吳王欲レ伐レ荊、告二其左右一曰、敢有二諫者一死、舍人有二少孺子者一、欲レ諫不レ敢、則懷レ丸操レ彈、遊二於後園一、露沾二其

衣ニ、如レ是者三旦、吳王曰、子來、何苦沾レ衣如レ此、對曰、園中有レ樹、其上有レ蟬、蟬高居悲鳴飮レ露、不レ知ニ螳螂在ニ其後一也、螳螂委レ身曲附欲レ取レ蟬、而不レ知ニ黃雀在ニ其傍一也、黃雀延レ頸、欲レ啄ニ螳螂一、而不レ知ニ彈丸在ニ其下一也、此三者、皆務レ欲レ得ニ其前利一、而不レ顧ニ其後之有レ患也、吳王曰、善哉、乃罷ニ其兵一」

【螳螂怒レ臂當ニ車轍一】弱者が強者に勝たんとするに喩ふ。莊子に「猶ニ螳螂之怒レ臂以當ニ車轍一、則必不レ勝レ任矣」

【螺】ラ。盧戈切。歌。にし、にな、ほらのかひ(蠃に同じ)。

【螺貝】ほらがひ。唐書に「螺貝大者、可レ受ニ一升一」

【螺旋】螺の殼の線の如く旋れる筋。ねぢ。

【螺階】螺旋形の梯子段。

【螺鈿】鸚鵡貝・屋久貝・鮑などの殼の裏をきざみて、器物の面を飾るもの、色白く、紫綠色を帶びて美し。

【螺髻】㊀ほらがひの如く束ねたるもとどり。古今註に「童子結髮、亦爲ニ螺髻一」㊁轉じて、靑山に喩ふ。李俊民「雲開隱隱堆ニ螺髻一」

【蜙】(い)ショウ、シュ。七恭切。冬。(ろ)ソウ、ス。祖叢切。東。じがばち。

【螻】(い)ロウ、ル。落侯切。尤。(ろ)ル。龍珠切。虞。(は)ロウ、ル。鑪候切。宥。(い)㊀かへる(螻蟈)㊁けら(螻蛄)(ろ)けら、すくもむし(天螻)(は)內病む。

【螻蛄】(動)けら。

【螻蟈】前に同じ。

【螻蟻得レ志】けら・ありの如き小さき者が得意になる、以て小人が勢力をほしいままにするに喩ふ。淮南子に「大魚蕩而失レ水、螻蟻皆得レ志焉」

【螼】キン。弃忍切。軫。みみず(螾)。

【螼蚓】(動)みみずの異名。本草に「蚯蚓、一名螼蚓」

【螽】シュウ、シュ。職戎切。東。㊀いなご、いなむし(蝗)㊁はたおり(螽斯)。

【螽斯詵詵】螽斯はいなむし、一回に九十九子を生む、詵詵は和ぎあつまる貌、又、衆多なり、夫婦和合して子孫の多きに喩ふ。詩經に「螽斯羽詵詵兮、宜爾子孫振振兮」

【螊】カウ。苦岡切。陽。とんばう(螊虰)。

【蜼】スヰ。雖に同じ。

【蝽】ショウ、シュ。書容切。冬。はたおり(蝽黍)。

【𧒀】ベキ、ミャク。莫狄切。錫。あぶらむし(蟫蛆)。

【螾】イン。翼眞切。眞。㊀みみず(蚯蚓)㊁つくつくぼふし(寒螿)。

【螿】シャウ、サウ。即良切。陽。つくつくぼふし。

【蟀】シュツ、シュチ。所律切。質。こほろぎ、きりぎりす(蟋蟀)。

【蟦】(い)サク、シャク。側革切。陌。(ろ)セキ、シャク。資昔切。陌。ちひさき貝。

【蟁】ブン、モン。蚊の古文字。

【蟁首】微細なるをいふ。淮南子に「權ニ輕重一不レ差ニ蟁首一」

【蟟】リャク、ラク。力灼切。藥。ごもくあぶらむし、かげろふ(蟁蟟)。

【蟃】バン、マン。無販切。願。㊀あなむし、くはむし㊁貍に似たる獸(蟃蜒)。

【蟄】(い)チフ、ヂフ。直立切。緝。(ろ)シフ。質入切。緝。(は)チツ。慣用音。㊀かくる(藏)㊁やはらぎあつまる貌。

【蟄伏】虫類の土中に冬籠りするをいふ。こもりなる。かくれなる。淮南子に「秋三月地氣下藏、百蟲蟄伏」

【蟄居】こもりなる。かくれなる。

【蟄龍】かくれたるりよう。朱熹「君看蟄龍臥ニ三冬一、頭角不レ與ニ蛇爭レ雄」

【蟄蟄】和ぎあつまる貌。詩經に「子孫蟄蟄兮」傳に「蟄蟄、和集也」

【蟄蟲】あなごもれるむし。禮記に「孟春之月、蟄蟲始振」

【蟄獸】ふゆごもりするけもの。周禮に「掌レ攻ニ蟄獸一、各以ニ其物一火レ之、以時獻ニ其珍異皮革一」

【蟅】(い)シャ、セ。之夜切。禡。(ろ)セキ、シャク。之石切。陌。(は)チャク。張略切。藥。㊀わらぢむし(鼠婦)㊁あぶらむし(負蠜)。

【蟆】(い)バ、マ。莫霞切。麻。(ろ)バク、マク。末各切。藥。(い)ひきがへる(蝦蟆)(ろ)蚊の如き小さき蟲の名。

【蟇】バ、マ。バク、マク。蟆に同じ。

【蟈】カク、キャク。古獲切。陌。色あをく形小にして長肢ある蛙(螻蟈)。

【蟉】(い)リウ、ル。力幽切。尤。(ろ)キウ、ゲウ。渠尤切。尤。(は)レウ。力弔切。嘯。(い)(ろ)㊀龍蛇の貌(蛐蟉)㊁龍蛇の行き動く貌(蚴蟉)(は)龍の首のうごく貌(蜩蟉)。

【䗩】(い)シフ。席入切。緝。(ろ)イフ。弋入切。緝。(い)蟲の貌(ろ)ほたる(熠燿)。

【蟊】(い)ボウ、ム。謨蓬切。東。(ろ)蝥に同じ。

【蟊賊】(い)龜の兆に氣の澤はざること。苗の根を害ふむし。因って良民を害ふ惡人に喩ふ。詩經に「蟊賊內訌、昏椓靡レ共」

【蟋】シツ、シチ。息七切。質。こほろぎ、きりぎりす(蟋蟀)。

【蟱】ボウ、ム。亡遇切。遇。はさみむし(蟱蛛)。

【蟌】(い)ソウ、ス。倉紅切。東。(ろ)シ。七賜切。寘。(い)とんばう(蜻蛉)(ろ)けむし(毛蟲)。

【蟵】ボウ、ム。名候切。尤。とんぼ(蟵蟷)。

十二畫

【𧒂】(い)シュウ、シュ。職戎切。東。(ろ)シウ、シュ。之仲切。送。(い)いなご(螽に同じ)(ろ)けら(螻蛄)。

【蟒】(い)バウ、マウ。模朗切。養。(ろ)母黨切。陽。(は)猛に同じ。(い)(ろ)うはばみ、をろち(王蛇)。

【蟓】(い)シャウ、ザウ。徐兩切。養。(ろ)シャウ、サウ。式亮切。漾。かひこ(蠶)。

【蟔】ボク、モク。密北切。職。いらむし。

【蠘】エツ、ヲチ。王伐切。月。あしはらがに(蟹の一種)。

【蟕】スヰ。津垂切。支。しゃうがくばう、うみがめ。

【蟴】シ。息移切。支。いらむし(蛅蟴)。

【蟙】ショク、シキ。之翼切。職。㊀かはほり(蟙蠌)㊁蟹の一種。

【蟚】ハウ、ビャウ。薄庚切。庚。どろがに(蟚蜞)、あしはらがに(蟚蜎)。

【蟜】(い)ケウ。居夭切。篠。(ろ)ケウ、ゲウ。巨嬌切。蕭。(い)むし(蟲)(ろ)あり(龍蟜)。

【蝩】ショウ、シュ。諸容切。冬。いなご、おほねむし(蛗螽)。

【蟞】(い)ヘツ、ベチ。蒲結切。屑。(ろ)ヘツ、ヘチ。必結切。屑。(い)あり(蟞蜉)(ろ)㊀てふ㊁羌の名。

【蟠】(い)ヘン、バン。附袁切。元。(ろ)ハン、バン。蒲官切。寒。(い)わらぢむし(ろ)㊀わだかまる㊁ふす(伏)、かがむ(屈)㊂盤に通ず。

【蟠木】わだかまれるき。白居易「蟠木詎堪ニ明主用一、龍禽徒與ニ故人一疎」

【蟠屈】わだかまる。宋史に「心志蟠屈不レ開、固亦極矣」

【蟠虯】わだかまれるみづち。蘇軾「下有ニ千歲根一、蟄縮如ニ蟠虯一」

【蟠桃】大いなる桃の實。上壽を祝するに用ゐる語。漢武故事に「西王母降、出二桃七枚一、自啖二二枚一、五枚與レ帝、帝留レ核欲レ種、母曰、此桃三千年、一開レ花、三千年、一結レ實、指二東方朔一曰、此桃三熟、此兒已三偸」

【蟠蜿】わだかまる。徐陵「左則青龍蟠蜿、右則白虎蹲踞」

【蟠蟒】わだかまれるをろち。秦觀「獅子・馬・牛・橐駝・蟠蟒・戲猊・猿猱、大小四十有三」

【蟠龍】わだかまれるりよう。莊子に「寢兒伏虎、蟠龍連組、此適二於金一也」

【蟠鼠負】〔動〕わらぢむし。爾雅、注に「蟠鼠負、甕器底蟲」

【蟡】(ゆ)キ。過委切。紙。(ろ)キ。於爲切。支。
涸水の精、その形蛇の如くにして長さ八尺、一頭兩身なり。

【蟢】キ。虛里切。紙。
あしたかぐも、ささがに(蟏蛸)。

【蟣】(ゆ)キ、ケ。擧豈切。尾。(ろ)キ、ゲ。渠希切。微。
(ゆ)しらみの子(ろ)ひる(蛭)。

【蟤】(ゆ)セン。荘緣切。先。(ろ)セン。茁撰切。銑。
(ゆ)かがまる、まがる、わだかまる(ろ)かがまる、蟲ののびざる貌。

【蟥】クワウ、ワウ。胡光切。陽。
❶こがねむし(蟠蟥)❷ひる(馬蟥)。

【蟦】(ゆ)ヒ、ピ。符非切。微。(ろ)ホン。逋昆切。元。
(ゆ)❶すくもむし(蠐螬)❷くらげ(水母)(ろ)かき(蠣)。

【蟧】ラウ、ロウ。魯刀切。豪。
❶螺の一種❷むぎわらぜみ、なつぜみ。

【蟨】(ゆ)ケツ、クチ。居月切。月。(ろ)キ。居胃切。未。
(ゆ)けものの名(ろ)ねずみ(鼠)。

【蟩】ケツ、クチ。居月切。月。
井中の蟲(蠍蟩)。

【𧓍】クワン。古玩切。翰。
にな(螺)。

【蟪】ケイ、エ。胡桂切。霽。
なつぜみ、むぎわらぜみ。

【蟪蛄聲】なつぜみのなきごゑ。王維「夜靜羣動息、蟪蛄聲悠悠」

【蟪蛄不レ知二春秋一】蟪蛄は僅に夏月中のみ生存す、よって生命の極めて短きものに喩ふ。莊子に「朝菌不レ知二晦朔一、蟪蛄不レ知二春秋一」

【蟜】イツ、イチ。餘律切。質。
こがねむし(蟠蟥)。

【蜳】(ゆ)トン。他昆切。元。(ろ)テン。他典切。銑。

【蟫】しぼせんむし。
(ゆ)イン。餘針切。侵。(ろ)タン、ドン。徒南切。覃。(は)ジン。徐心切。侵。
(ゆ)(ろ)しみむし、しみ、きらむし(白魚)(は)うごく貌。

【蟫蟫】うごく貌。王逸「蝹蛷兮蟫蟫」

【蟬】(ゆ)セン、ゼン。市連切。先。(ろ)上演切。銑。
(ゆ)❶せみ❷つらなる、つづく❸くろまの名(は)うつくし(嬋に通ず)(ろ)舞ひて盤曲する貌、翠りたる鬢の彩(蜿蟬)。

【蟬紗】うすきしや。海物異名記に「泉女織レ紗、輕如二蟬翼一、名二蟬紗一」

【蟬脫】せみの皮を脱する如く、舊習を脱し出づ。

【蟬蛻】せみのぬけがら。又、せみの如くからより脱け出づ。史記、屈原傳に「自疏二濯淖汙泥之中一、蟬二蛻於濁穢一、以浮二游塵埃之外一」

【蟬蜩】〔動〕せみ。駱賓王「陋二蟬蜩一、而習二蜺怵螻蟻之墓穴一」

【蟬嫣】つらなる。漢書に「有二周氏之蟬嫣一兮」

【蟬噪】せみなく。王籍「蟬噪林逾靜、鳥鳴山更幽」

【蟬聲】せみのなきごゑ。劉滄「芳艸衙門無二馬跡一、古槐深巷有二蟬聲一」

【蟬聯】つらなりつづく。陸龜蒙「是時春三月、繞レ郭花蟬聯」

【蟬翼】せみのはね。晉書に「實輕二蟬翼一、事重二千鈞一」

【蟬蠶】香の名。名香譜に「蟬蠶香交阯所レ貢、唐宮中呼爲二瑞龍腦一」

【蟬鬢】せみのはねの如くにすき通りて見ゆるかみ。女の髮のうるはしきにいふ。白居易「蟬鬢如レ意梳、蛾眉用レ心掃」

【蟍】ショ、ソ。舒呂切。語。
わらぢむし、おめむし(蟅蟧)。

【蟔】(ゆ)ホク、ボク。蒲木切。屋。(ろ)ホウ、ブ。蒲候切。宥。(は)ホク、ボク。匹角切。覺。
(ゆ)(ろ)ちひさきむし(蟔蟯)(は)ハク、ホク。蒲沃切。沃。(に)にな(蟔蠃)(に)蛇の屬。

【蟒】リン。良刃切。震。
ほたる(螢火)。

【蟯】(ゆ)ゼウ、ネウ。如招切。蕭。(ろ)ゲウ。倪幺切。蕭。
はらのむし。

【蟯瘕】はらのむし。史記に「蟯瘕爲レ病、腹大上膚黄麤、循レ之戚戚然」

【蟙】シュク、ソク。子六切。屋。
しやくとりむし(蝍蛾)。

【蟰】(ゆ)セウ。蘇彫切。蕭。(ろ)シュク、ソク。息逐切。屋。
あしだかぐも(蟰蛸)。

【蟱】ボウ、ム。迷浮切。尤。
くも(蟱蛛)。

【蟲】(ゆ)チュウ、ヂュ。直弓切。東。(ろ)トウ、ツ。徒冬切。冬。
(は)蚛に同じ。(ゆ)❶むし(足ある動物の總稱)❷あつし(熱)(ろ)ふすぶ(燻)(は)むしばむ。

【蟲出】死にて葬らざるをいふ。漢書、陳萬年傳に「自絞死者、歲數百千人、久者蟲出腐爛」

【蟲豸】むしけら。吳志に「日南郡男女倮體、不二以爲レ羞、由レ此言レ之、可レ謂二蟲豸一」

【蟲蟲】熱氣甚だしき貌。詩經に「旱既太甚、蘊隆蟲蟲」

【蟲媒花】昆蟲の媒介によりて、種子を生ずる植物。風媒花の對。

十三畫

【蟶】テイ、チャウ。丑貞切。庚。
まて(蚌の一種)。

【蟷】タウ。都郎切。陽。
❶かまきり、いぼむしり❷つちぐも(蟷蠰)。

【蟷蠰】〔動〕かまきり。爾雅に「不過蟷蠰」注に「蟷螂別名」

【蠡】レイ、ライ。蠡に同じ。

【蝹】キャウ、カウ。居良切。陽。
しぬ(蠶の白くなりて死ぬるにいふ)。

【蟹】カイ、ゲ。胡買切。蟹。
かに。

【蟹甲】かにのかふら。

【蛾】ギ。蟻に同じ。

【蟺】(ゆ)セン、ゼン。常演切。銑。(ろ)タン、ダン。徒案切。翰。(は)タ。唐何切。歌。(に)蟬に同じ。
(ゆ)❶みみず(螼蟺)❷龍蛇わだかまれる貌(ろ)ゆするばち(土蜂)(は)とかげに似たる水蟲。

【蟻】ギ。魚倚切。紙。
❶あり❷くろいろ(玄色)❸さけのあぶら。

【蟻附】ありの如くあつまりつく。諸葛亮「海內英雄、望レ風蟻附」

【蟻封】ありづか。東觀漢紀に「蟻封穴レ戶、大雨將レ至」

【蟻垤】前に同じ。轉じて、小さき山に喩ふ。韓愈「譬如二蟻垤微一、詎可レ陵二崆峴一」

【蟻集】ありの如くあつまる。

【蟻壤】ありの巢ある土。戰國策に「去二蟻壤一寸有レ水、攔レ之得レ水」

【蟼】(ゆ)ケイ、キャウ。居影切。梗。(ろ)カ、ケ。古牙切。麻。
ひきがへる(蝦蟇)。

【蟾】セン、ソン。職廉切。鹽。
❶ひきがへる(蚵蚾)❷月。

【蟾兎】月の異名。古詩に「三五明月

滿、四五蟾兎缺」
【蟾眼】センガン すずりの異名。
【蟾蜍】センジョ ❶〔動〕ひきがへる。❷月の異名。後漢書、注に「羿請二無死之藥于西王母一、姮娥竊レ之以奔レ月、是爲二蟾蜍一」
【蟾魄】センハク 月の異名。歲華紀麗に「娥眉蟾魄皎兮出矣」
【蟾盤】センバン 前に同じ。曹松「無レ雲世界秋三五、共看蟾盤上二海涯一」
【蟾諸】センショ 〔動〕ひきがへる。爾雅に「蟾諸似二蝦蟆一」
【蟿】㋑ケイ、ガイ。結計切。霽。㋺ケイ、カイ。吉詣切。霽。㋑はたおりむし(蟿螽)㋺蛙の一種。
【蠁】㋑キャウ、カウ。許兩切。養。㋺許亮切。漾。㋑❶聲を知るといふ一種の蟲❷さかんにおこる(肸蠁)❸すみやか、はやし(蠁習)㋺❶さなぎ(蛹)❷にしやどっち(土蛹)。
【蠃】㋑ラ。落戈切。歌。㋺郎果切。哿。㋩クワ、ケ。古火切。哿。㋑❶にな(蚌の屬)❷魚の名❸山の名㋺じがばち(蜾蠃)㋩喪服のとき乘るくるま(蠃闟)。
【蠃蜆】ラケン はまぐりとしじみと。梅堯臣「蠃蜆固無數」
【蟋】シツ、シチ。色櫛切。質。こほろぎ(蟋蟀)。

【蠅】ヨウ。余陵切。蒸。❶はへ❷はへとりぐも(蠅虎)。
【蠅利】ヨウリ はへの頭の如き少しの利益。蘇軾「蝸角浮名、蠅頭微利」
【蠅集】ヨウシフ はへむらがる。梁元帝「讒傍二金屛一、復疑二蠅集一」
【蠅頭】ヨウトウ はへのかしら。轉じて、細字をいふ。陸游「豈知鶴髮衰年瘦、猶讀蠅頭細字書」
【蠅糞】ヨウフン はへのふん。尤もよく物を腐らすもの。埤雅に「青蠅糞尤能敗レ物、雖レ玉猶不レ免」
【蝸】クワ。古臥切。箇。かまきり、いぼむしり(不蝸)。
【蠆】㋑タイ。丑犗切。卦。㋺タツ、タチ。他達切。曷。❶はち、さそり、或は、蠆に作る。❷とげ(帶に通ず)。
【蠇】㋑レイ。蠣の本字。㋺タイ。蠆に同じ。
【蠈】ソク、ゾク。疾則切。屋。禾の節を喰ふ蟲。
【蠉】ケン。許緣切。先。❶ぼうふり(孑孑)❷はふ、蟲のゆく貌。
【蠊】レン、ロン。離鹽切。鹽。あぶらむし、つのむし(飛蠊)。
【蠋】㋑チョク、ドク。直錄切。沃。㋺ジョク、ゾク。尺玉切。沃。いもむし。

【蠋蛛】ショクシュ 〔動〕くもの異名。爾雅、翼に「蠋蛛、蜘蛛別名」
【蠌】㋑タク。場伯切。陌。㋺タク、ダク。達各切。藥。あしはらがに(蟛)。
【蠍】ケツ、ゲチ。許竭切。屑。さそり、ぜんかつ(主簿蟲)。
【蝒】ベン、メン。迷連切。先。うまぜみ(蝒蚗)。
【蠏】カイ、ゲ。蟹の本字。

十四畫

【蠐】セイ、ザイ。前西切。齊。すくもむし、きりむし、ぢむし、ねきりむし(蠐螬)。
【蠵】キ。以醉切。寘。あぶのちひさきもの。
【蟺】テン。澄延切。先。やもり(蝘蜓)。
【蠑】エイ、ヤウ。永兵切。庚。やもり(蠑螈)。
【蠙】㋑ヘン、ベン。部田切。先。㋺ヒン、ピン。符眞切。眞。蚌の異名。
【蠓】ボウ、ム。莫孔切。董。❶かつをむし❷はち(蠓螉)。
【蠓蚋】ボウゼイ 〔動〕かつをむし。爾雅、注に

「小蟲似レ蚋、而喜二亂飛一」
【蠔】カウ、ゴウ。乎刀切。豪。かき(蠣)。
【蠕】㋑ゼン、ナン。而宣切。先。㋺ジュ。汝朱切。虞。㋑うごめく、微しく動く㋺はふ、蟲の行く貌。
【蠕動】ゼンドウ うごめく。易林に「蜎飛蠕動、各具二配偶一」
【蠕蠕】ゼンゼン ❶うごめく貌。❷國の名。南史、夷貊傳に「蠕蠕爲レ族、蓋匈奴之別種也」
【蠕形動物】ゼンケイドウブツ 蚯蚓・蛔蟲又は條蟲等の總稱。體質柔軟にして、體形は一般に細長なり。
【蠖】㋑ワク。烏郭切。藥。㋺クワク。慣用音。❶しゃくとりむし(蝍蠖)❷退きかくろ貌(蠖濩)❸進み止まる貌(蠖略)。

十五畫

【蠚】㋑カク。黑各切。藥。㋺チャク、丑略切。藥。㋩セキ、シャク。施隻切。陌。㋥カク、コク。呼酷切。沃。❶さす(螫)❷さす毒。
【蠛】ベツ、メチ。莫結切。屑。かつをむし。
【蠛蠓】ベツボウ 〔動〕かつをむし。ぬかが。甘泉賦に「浮二蠛蠓一而撇レ天」

【蠜】ヘン、バン。附袁切。元。❶いなご、いなむし❷へひりむし(氣蠜)。
【蝙】ルヰ。倫追切。支。❶むささび❷鸓に同じ。
【蠟】ラフ、ロフ。盧盍切。合。❶みつらふ(蜜滓)❷一般に、みつらふの如き形質効用あるもの❸いぼた❹鳥の名(蠟觜)❺なんきんうめ(梅の一種)❻らふそく(蠟燭)。
【蠟丸】ラフグワン らふを丸としてその内に書狀をつつむもの。唐書に「顏眞卿以二蠟丸一達レ表」
【蠟炬】ラフキヨ らふそく。宇文虛中「堂中蠟炬紅生レ花」
【蠟屐】ラフゲキ あしだにらふをぬる。晉書、阮籍傳に「阮孚性好レ屐、或有レ詣レ阮、正見二自蠟一レ屐」
【蠟書】ラフシヨ らふにてつつみたるふみ。剪燈新話に「呂文煥以二蠟書一告二急於朝一」
【蠟梅】ラフバイ 〔植〕からうめ。なんきんうめ。梅譜に「蠟梅本非二梅種一、以二其與レ梅同レ時、香又相近、色似二蜜脾一」
【蠟淚】ラフルヰ らふそくのながれ。元稹「蠟淚短光衰」
【蠁】テキ、ヂャク。直炙切。陌。蟲の一種(蠁蠨)。
【蟔】ボク、モク。莫北切。屋。❶かはほり(蝙蝠)❷蝠に同じ。

【蠠】㋑ピツ、ミチ。覓畢切。質。㋺ビン、ミン。美隕切。軫。つとむ(蠠沒)。
【蠡】㋑レイ、ライ。里弟切。薺。㋺リ。鄰知切。支。㋩レイ、ライ。憐題切。齊。㋥ラ。落戈切。歌。㋬ラ。魯果切。哿。㋣レイ、ライ。郎計切。霽。㋑❶木の心をかむ蟲❷澤の名(彭蠡)㋺官の名(谷蠡)㋩ひさご(瓠瓢)㋥❶ひさご(瓠瓢)❷つらなる、行列の貌❸にな(螺に通ず)㋬❶こゆ(瘰蠡)❷ひぜんがさ(疥病)㋣わく、わかつ。
【蠡測】レイソク かひがらにて海をはかる。識見のせまきに喩ふ。漢書、東方朔傳に「以レ蠡測レ海、以レ莛撞レ鐘、豈能通二其條貫一、考二其文理一、發二其音聲一哉」
【蠡蠡】ララ つらなれる貌。劉向「登二長陵一而四望兮、覽二芷圃之蠡蠡一」
【蠢】シュン。尺尹切。軫。❶うごめく、おこる❷おろかなり❸不遜なり。
【蠢動】シュンドウ うごめく。吳志、呂岱傳に「武陵蠻夷蠢動」
【蠢愚】シュング おろかなり。賈師泰「或騃若二蠢愚一、或穎若二岐嶷一」
【蠢爾】シュンジ 事理をわきまへざる貌。詩經に「蠢爾蠻荊、大邦爲レ讐」
【蠢蠢】シュンシュン うごめく貌。詩經、疏に「我所レ伐者、乃蠢蠢爾」

【⿸厂⿱萬虫】 ㋴ライ。落蓋切。泰。㋺厲に同じ。
㋴さそり(毒蟲の名)㋺といし、あらと。レイ。力制切。霽。

【蠇】 ㋴バウ、メウ。謨交切。肴。
かき。

【⿱艹蝥】 ㋺ボウ、ム。迷浮切。尤。
㋴ひぐらし、かなかなぜみ(蟗蟟)㋺蝥に同じ。

十六畫

【蠥】 ゲツ、ゲチ。魚列切。屑。
㊀うれへ(孽)㊁もののけ、わざはひ。

【⿱原䖵】 ゲン、ガン。愚袁切。元。
なつご(晩蠶)。

【⿱能䖵】 ㋴トク、ドク。奴勒切。職。㋺ドウ、ノウ。奴等切。迴。㋩ダイ、ナイ。乃代切。隊。
㋴㊀みつくち、いぐち(兎脣)㊁あぶ(蝱)㋺㋩蚌の屬。

【蠦】 ロ、ル。落胡切。虞。
㊀あぶらむし(蠦肥)㊁ゐもり(蝘蠦)。

【蠽】 セン、ゼン。昨仙切。先。
せみ。

【蠨】 セウ。蘇彫切。蕭。
あしたかぐも(蠨蛸)。

【蠩】 シヨ、ソ。章魚切。魚。
一種の蟲(蜛蠩)。

【蠪】 ロウ、ル。盧東切。東。
㊀あかあり㊁獸の名(蠪蛭)。

【蠡】 リ。力器切。寘。
さく(劙)。

十七畫

【蠭】 ホウ、フ。敷容切。冬。
㊀はち㊁旗の名㊂ほこさき(鋒に通ず)㊃舟の名。

【蠭窠】 はちのす。轉じて、小屋にいふ。蘇軾「竹椽茅屋半摧傾、肯向蠭窠寄此生」

【蠭起】 はちの飛びたつ如くむらがりおこる。史記、項羽紀に「楚蠭起之將、皆爭附君」

【蠭蠆】 はち。小なれども畏るべきものに喩ふ。左傳に「君夫無謂邾小、蠭蠆有毒、而況國乎」

【蠭目豺聲】 兇猊惡聲なるをいふ。左傳に「蠭目而豺聲、忍人也」

【蠮】 エツ、エチ。烏結切。屑。
じがばち(蠮螉)。

【蠯】 ㋴ハウ、ビヤウ。蒲幸切。梗。㋺ヘイ、ベイ。駢迷切。齊。㋩ヒ、ビ。符支切。支。
㊀蚌のせまくながきもの㊁はまぐり(蛤)。

【蠰】 ㋴ジヤウ。式亮切。漾。㋺ジヤウ、ニヤウ。如兩切。養。㋩ダウ、ナウ。奴當切。陽。㋥ジヤウ、ニヤウ。如陽切。陽。
㋴くはむし㋺つちいなご㋩㋥かまきり(蟷螂)。

【蠱】 ㋴コ、ク。公戸切。麌。㋺冶に同じ。
㋴㊀はらの中の蟲㊁まじなひに用ゐる蟲㊂穀物中の蟲㊃あしき氣㊄ごくもん・はりつけの刑に處せられし者の鬼㊅うたがふ(疑)㊆まどふ(惑)、まどはす(惑亂)㊇易の卦の名㊈こと(事)㊉まじなひ、みこ㋺こぶ、うつくし。

【蠱毒】 害すること。がいどく。左傳、疏に「以毒藥藥人、令人不自知者、謂之蠱毒」

【蠱疾】 蠱は惑疾なり、心志の惑亂するやまひ。左傳に「晉胥克有蠱疾」

【蠱敝】 わざはひ。宋史に「以救蠱敝、以新治功」

【蠱惑】 まどはす。たぶらかす。

【⿹戉䖵】 ヰ。紆胃切。未。
はあり。

【⿰虫龠】 ヤク。弋灼切。藥。
ほたる(燿蠸)。

【蠲】 ㋴ケン。古玄切。先。㋺ケイ、ケ。消畦切。齊。
㋴㊀げぢげぢ(馬蠲)㊁あきらか(明)㊂のぞく(除)㊃いさぎよし(潔)㊄とし(疾)㋺㊀訓義㋴に同じ㊁圭に通ず。

【蠲苛】 わづらはしき政令をのぞく。後漢書に「克愼庶官、蠲苛救敝」

【蠲租】 みつぎものをのぞく。楊維楨「聖主方蠲租」

【蠲除】 のぞく。晉書に「自太元三年以前、逋租宿債、皆蠲除之」

【蠲赦】 租税をのぞきて、すくひたすく。唐書、劉晏傳に「常歳平斂之、荒年蠲救之」

【蠲減】 のぞきへらす。蕭子良「凡在荒民、應加蠲減」

【蠲損】 前に同じ。(減損)。宋史に「蠲損繒錢、歡聲四起」

【蠲滌】 のぞきあらふ。(濯蠲)。後漢書、桓帝紀に「惠我勞民、蠲滌貪穢、以祈休祥」

【蠲賦】 納税をゆるす。元史に「宣布德澤、蠲賦詳刑、賑恤貧民」

【蠲潔】 いさぎよし。(消潔)。黃庭堅「食了滌器、三正三反、枚拭蠲潔」

【⿰虫營】 エイ、ヤウ。余傾切。庚。
腹中の蟲(蠑虹)。

【蠳】 エイ、ヤウ。於盈切。庚。
一種のかめ。

【蠳龜】 蛇の屬にして水にすむもの。南都賦に「其水蟲則有蠳龜鳴蛇」

十八畫

【蠵】 ㋴ケイ、ケ。戸圭切。齊。㋺キ。匀規切。支。
うみがめ、しやうがくばう。

【蠶】 サン、ゾン。昨含切。覃。
㊀かひこ㊁こがひす。

【蠶女】 かひこを飼ふをんな。陸游「蠶女採桑至、煮繭何暇脊沐梳髻鬟」

【蠶市】 かひこのまゆを賣買する處。薛能「蠶市歸農醉、漁舟釣客醒」

【蠶史】 史記の異稱。漢書、武帝紀に「李陵戰敗降匈奴、司馬遷爲之非罪、帝怒處宮刑、幽於蠶室、後遷作史記、」

【蠶衣】 きぬおりのころも。晉書に「自二千石夫人以上、至皇后、皆以蠶衣爲朝服」

【蠶豆】 (植)そらまめ。

【蠶事】 こがひを飼ふわざ。

【蠶食】 土地などを漸漸に併呑すること、かひこの桑を食ふが如きをいふ。史記に「繆公以來稍蠶食諸侯、且至於燕、燕君臣皆恐禍之至」

【蠶桑】 くはをうゑ、かひこをかふ。宋史に「河北東路民富蠶桑、契丹謂之綾絹州」

【蠶眠】 かひこのねむり。蘇轍「蠶眠初上簇、麥熟正磨鎌」

【蠶室】 ㊀かひこをかふへや。禮記に「古者天子諸侯、必有公桑蠶室」㊁宮刑せられしものの入る獄の名。漢書、注に「蠶室獄名、有刑者畏風須暖、作窨室蓄火如蠶室、因以名焉」

【蠶婦】 こがひするをんな。張耒「雨多蕭蕭蠶簇寒、蠶婦低眉憂繭單」

【蠶蛹】 (動)さなぎ。爾雅、注に「江東呼稀首、可以蠶蛹」

【蠶蛾】 (動)かひこのさなぎより化したる蛾。廣志に「有蠶蛾、有天蛾」

【蠶繅】 かひこをかひ絲をとる。孟子に「夫人蠶繅以爲衣服」

【蠶織】 こがひしてきぬをおる。詩經に「婦無公事、休其蠶織」

【蠶稽】 こがひすると田をたがやすと。顔延之「蠶稽者就之艱、艱則物之所歸」

【蠶叢】 古の蜀の王の名、よりて蜀の異名に用ゐる。李白「見說蠶叢路、崎嶇不易行」

【蠶繭】 かひこのまゆ。蕭子顯「名珠蠶繭勉登機」

【蠶卵紙】 かひこのたねがみ。

【蠸】 ㋴ケン、ゴン。巨員切。先。㋺クワン。呼官切。寒。㋩呼玩切。翰。
㋴㋺㊀うりばへ(守瓜)㊁やすで(馬陸)㊂さす(螫)㋩おほすつぽん(大鼈)。

【蠹】 ト、ツ。當故切。遇。
㊀きくひむし㊁こめのむし㊂しみ㊃むしくひ、むしばむ㊄物を損害するもの㊅むしぼし。

【蠹毒】 きくひむしの害。害毒。

【蠶魚】トコ 〔動〕しみ。(銀魚)。陸游「剩採二芸香一辟二蠹魚一」
【蠶蝕】シヨク むしばむ。范成大「蠹蝕摩挲度二幾年一蒙茸依レ舊軟如レ綿」

十九畫

【蠽】(ハシ)所宜切。支。(ろ)リ。呂支切。支。
げぢげぢ(蚰蜒)。

【蠻】バン、メン。莫還切。刪。
えびす(夷族)。
【蠻夷】バンイ えびす。漢書に「斬二其首一傳詣二京師一縣二蠻夷邸門一」
【蠻奢】バンチク 王廣女傳に「王罵曰、蠻奢、我欲レ誅二反賊一、可レ謂レ反乎」
【蠻舶】バンパク 外國の海船。五國故事に「仍歲豐年、每レ發二蠻舶一無二失墜者一、人因謂二之招財侍郎一」
【蠻國】バンコク えびすのくに。禮記に「八蠻之國、南門之外、北面東上」
【蠻裔】バンエイ 前に同じ。王粲「無レ曰二蠻裔一、不レ虞二汝德一」
【蠻貊】バンハク 前に同じ。論語に「言忠信、行篤敬、雖二蠻貊之邦一行矣」
【蠻語】バンゴ えびすの人のことば。世說に「隆曰、千里投レ公、始得二一蠻府一、參軍何爲、不レ作二蠻語一」
【蠻瘴】バンシヤウ 南方の熱病をおこす山川のあしき氣。張九成「須臾倒二江湖一、一掃蠻瘴腥」

二十畫

【蠼】キヤク、カク。厥縛切。藥。
おほざる(猴)。

二十一畫

【蠽】セツ、セチ。姉列切。屑。
(一)ひぐらし(蟬の屬)(二)むぎわらしみ(蝨に同じ)。

【蠾】ショク、ソク。之欲切。沃。
(一)のみ(二)くも(三)すくもむし。
【蠾動】ショクドウ くもの異名。揚子方言に「自レ關而東趙魏之郊、謂二之蠾蛸一、或謂二之蠾蛸一者、倏儻語之轉也」

血部

部首

【血】ケツ、ケチ。呼決切。屑。
(一)ち、のり(二)そむ(染)(三)うれふ(四)ちぬる(五)あかれ(地血)。
【血氣】ケツキ ちとにくと。蘇舜欽「況我有二名利區一」
【血染】ケツセン (一)ちに染みたるくちびる。張籍「血染空歸千里草」(二)勇猛にしておそるる色(四)ちぬる(五)あかれ(地血)。
【血肉】ケツニク 血肉に、又生二名利一。
【血吻】ケツフン (一)ちに染みたるくちびる。張籍「血吻空歸千里草」(二)勇猛にしておそれざるさま。宋史、宋郊傳に「血吻婪進、無レ所二顧藉一」
【血祀】ケツシ いけにへをそなへてまつる。舊唐書に「君レ人者、常宜二血祀一、況自有二其臣一乎」
【血食】ケツショク 神を祭るには毛血ある牲を用ゐる、故に血食といふ。左傳に「若不レ從二三臣一、抑社稷實不二血食一」
【血氣】ケツキ はやりき。論語に「少之時血氣未レ定、戒レ之在レ色」
【血脈】ケツミヤク ちすぢ。呂氏春秋に「血脈欲二其通一也、筋骨欲二其固一也」
【血淚】ケツルイ ちのなみだ。白居易「極二言是非一、血淚盈レ襟」
【血液】ケツエキ 動物の身體の內部に充滿して、營養をつかさどる液。動物の種類によりて、その色一樣ならず。
【血球】ケツキウ 血液の一成分にして、赤血球と白血球とあり。
【血清】ケツセイ 凝結せる血液より拆出せる帶黃色にして、清澄なる一種の液。
【血痕】ケツコン ちのつきたるあと。
【血族】ケツゾク 同じ先祖より出でてちすぢのつづける人。
【血祭】ケツサイ いけにへを殺し、その血液を以てまつる。周禮に「以二血祭一祭二社稷五祀五嶽一」
【血路】ケツロ 敵に取り圍まれたるを、切りぬけて逃げ出づるみち。ぬけみち。
【血胤】ケツイン ちすぢ。後漢書に「身絕二血胤一、非レ孝也」

【血腥】ケツセイ ちなまぐさし。禮記に「有虞氏之祭也、尚二用氣一、血腥、爓祭用氣也」
【血清】ケツセイ 刀の刃に刻みたる細きみぞ。
【血脊】ケツセキ 血と腸の間のあぶらと。詩經に「執二其鸞刀一、以啓二其毛一、取二其血脊一」
【血管】ケツクワン 循環器の中にて心臟を除きたるものの總稱。
【血漿】ケツシヤウ 透明なる水樣液にして、血液の成分をなすもの。
【血戰】ケツセン 血みどろになりてたたかふ。身命をなげうちて戰ふ。五代史に「大王父子與レ梁血戰三十年」
【血點】ケツテン ちのつきたるあと。陸游「袖中出レ劍秋水流、血點斑斑新報レ仇」

三畫

【亡】ボウ、ワウ。呼光切。陽。
ち(血)。

四畫

【衂】(ハイ、ヘ。芳杯切。灰。
(ろ)フウ、ブ。房尤切。尤。
(ろ)くさりたるち、こりたるち(凝血)(ろ)蚯衂は、こあふひ(草の名)。
ダク、ニク。女六切。屋。
【衄】(一)くじく(挫)(二)やぶる(敗)(三)はなぢ。

【衂】ダク、ニク。衄の俗字。

五畫

【鮮】キン、コン。許覲切。震。
釁に同じ。ちぬる。

六畫

【衆】シウ、シユ。眾に同じ。
ジ、ニ。仍吏切。寘。
(一)ちぬる(釁)(二)ちまつり(血祭)(三)耳の血。
【餌】カク、キヤク。乞格切。陌。
はく、血をはく。

七畫

【餡】(サイ、セ。臧回切。灰。(ろ)スキ。津垂切。支。(は)サ、ザ。臧戈切。赤子の陰具。

八畫

【鋸】(カン、コン。苦紺切。勘。
(ろ)タン、ドン。徒濫切。勘。
【蓋】(一)けがす、けがる(汚)(二)汚血(三)はなぢ(鼻血)。

九畫

【幾】カク、キヤク。乞格切。陌。
或は、咯に作る。
【鬻】ケキ。許極切。職。
いたむ(傷痛)。

十畫

【盥】ショウ。諸仍切。蒸。
つけもの(菹)。
【盤】キ、ケ。居依切。微。
きる(斷)、さく(刻)。
【蠱】ヂョク、ノク。乃伏切。屋。
けがる、けがす(汙)。

十三畫

【盥】ドウ、ノウ。奴冬切。冬。
うみ(膿血)。

十五畫

【衊】(ベツ、メチ。莫結切。屑。(ろ)バツ、マチ。莫葛切。曷。(は)ベン、メン。曙見切。霰。(は)ベン、マン。謨官切。寒。(一)けがす、けがる(汚)(二)汚血(三)はなぢ(鼻血)。

十八畫

【盡】キョク、ケキ。許極切。職。
いたむ(傷痛)。

行部

部首

【行】(は)カウ、ギヤウ。戶庚切。庚。(ろ)カウ、ガウ。戶浪切。漾。(は)カウ。衆

岡切。陽。㋥カウ、ギャウ。下孟切。敬。㋑❶ゆく❷すすむ(前)、いたる(臻)、あゆむ(歩)❸かへる(還)、さる(去)、ながる(流)、うつる(移)、めぐる(周)❹山の名❺おこなふ❻ほどこす(施)❼なす、なさる(爲)❽官の名❾もろし❿かたる(語)⑪たび、たびたび、たびじたく⑫人の姓⑬まづ(先)⑭しばらく(且)⑮やがて、ついで⑯みち(道路、義理)⑰書體の一種⑱うだ(曲引)⑲ゆくゆく⑳支那の學説にて天地萬物成立の元氣㋺❶剛健なる貌❷ともがら(輩)❸ついで(序次)㋩ならび、なみ(隊列、排列)㋥しわざ、おこなひ、ふるまひ(行爲、行迹)。

【行人】賓客の接待を掌る官。論語に「行人子羽修二飾之一」

【行止】❶ゆくととどまると。班彪「行止屈伸、與レ時息兮」❷德行の義に用ゐる俗語。外史檮杌に「鄭奕教二子子文選一、其兄曰、莫レ學二沈謝嘲レ風、弄レ月汙二人行止一」

【行木】山林の木をみまはる。禮記に「入レ山行レ木、毋レ有二斬伐一」

【行水】水上をゆく。周禮に「作レ舟以行レ水」

【行伍】軍列の稱。二十五人を行となし、五人を伍となす。揚雄「曲隊堅重、各案二行伍一」

【行色】人の旅立せんとするやうす。元稹「行色憐二初月一、歸程待二曉鐘一」

【行戍】ゆきてまもる。又、そのまもり。漢書、鼂錯傳に「陳勝行戍、爲二天下先倡一」

【行行】❶剛強なる貌。論語に「子路行行如也」❷ゆく貌。韓翃「行行獨出故園遲」

【行舟】ふれなやろ。新論に「立レ行而不レ立レ信、猶二無レ楫而行レ舟也」

【行年】行は歷なり、世に生存せしよはひ。(享年)。莊子に「行年七十老二斷輪一」

【行李】❶使者なり。李、理兩字通用す、理は吏なり、一說に、蓋し李は治なり、なほ俗に料理といふがごとし、世未だ料理せずして行くものあらず、故に使を謂つて行李といふと。左傳に「不レ使三一介行李告二于寡君一」又、「行理之命」❷後世誤りて、旅行の荷物のことに用ゐる。

【行伴】みちづれ。白居易「秪擬二美酒一爲二行伴一、惟作二新詩一趁二下車一」

【行步】あゆむ。禮記に「行步則有二環珮之聲一」

【行吟】歩みながら詩をうたふ。楚辭に「屈原既放、游二于江潭一、行二吟澤畔一」

【行狀】おこなひ。みもち。又、人の行を記せる文體の名。晉書に「每私錄二晉事及功臣行狀一」

【行官】唐代に設けたる四方に使する官の名。通鑑、注に「節鎭州府有二行官一、使三之行二役出四方一」

【行幸】天子の他所にいで行かるること。みゆき。蔡邕「天子車所レ至、臣民被二其德澤一、以爲二僥倖一、故曰レ幸」又、漢書に「元鼎四年十一月、行二幸雍一」

【行使】❶つかひのひと。左傳、疏に「行使被レ執、例稱二行人一、(中略)罪レ之故不レ稱二行人一」❷つかひもちゐる。使用す。

【行具】旅立のよそほひ。戰國策に「急約レ車爲二行具一」

【行來】ゆきき。(往還)。後漢書に「不レ得二行來一」

【行客】たびびと。李頎「行客暮帆遠、主人庭樹秋」

【行者】佛家・道家などにて、その道を修め行ふ人。釋氏要覽に「有二善男子一、欲レ求二出家一、未レ得二衣鉢一、欲下依二寺中一住上者、名二畔頭波羅沙一(未レ見二譯語一、今不レ詳)若二此方行者一也」

【行政】大權及び法律を施行し、公共の安寧秩序を保持し、及び臣民の幸福を增進するが爲に、法律、勅令の範圍内に於いて政府の行ふもの。

【行食】❶あそびなまけてくらす。管子、注に「行食、游食也」❷食膳をはこぶ。孔平仲「侍レ觴行レ食皆官妓」

【行軍】軍隊をすすます。孫子に「不レ知二山林險阻沮澤之形一者不レ能レ行レ軍」

【行神】道をまもるかみ。野客叢書に「漢臨江王傳註、黃帝子纍、好二遠遊一死レ道、故後人以爲二行神一」

【行書】漢字書體の一種。楷書をすこし略したるもの、漢の劉德昇始めて之を作るといふ。書斷に「行書者、後漢潁川劉德昇所レ作也、卽正書之小譌、務從二簡易一、相間流行、故謂二之行書一、昔鍾元常善二行狎書一、爾後王羲之獻之竝造二其極一焉」

【行馬】こまよせ。漢官儀に「門施二行馬一、以旌二別之一」

【行留】ゆくととどまると。唐書、房喬傳に「軍伍行留、悉裁二總之一」

【行迹】おこなひ。みもち。後漢書に「考二列行迹一、以爲二皇后本紀一」

【行虐】苛酷なることをほどこす。書經、傳に「託レ天以行二虐於民一」

【行動】おこなひ。ふるまひ。

【行啓】皇后・皇太子などの他所にいで行かるること。

【行通】ゆきかよひ。

【行間】❶軍中をいふ。史記に「待二罪行間一、勤レ士、力戰之意也」❷仲へだてする策をおこなふ。五代史、楚世家に「嘗使二諜者行二間於殷一、殷不レ聽」

【行詐】いつはりをなす。論語に「久矣哉、由之行レ詐也」

【行程】たびの道すぢ。みちのり。楊萬里「峽裏撑レ船更不レ行、櫂郎相語改二行程一」

【行媒】なかうど。禮記に「男女非レ有二行媒一、不二相知一レ名」

【行爲】意思に基きたる動作。おこなひ。しわざ。

【行貸】物を乞ひあるく。荀子に「屑然藏二千溢之寶一、雖二行貸而食一、人謂二之富一矣」

【行路】❶みち。羅鄴「不レ爲二市朝行路近一、有二誰車馬看レ山來一」❷途上を行く他人の義。蘇武「四海皆兄弟、誰爲二行路人一」❸世渡り。白居易「行路難、不レ在レ水、不レ在レ山、只在二人情反覆間一」

【行詣】すすみゆく。南史に「自レ非三尋二省近親一、不二妄行詣一」

【行賂】まひなひをつかふ。國語に「願以二子之辭一行レ賂、焉其可乎」

【行誅】討伐をおこなふ。(加誅)。東京賦に「高祖膺レ籙受レ圖、順レ天行レ誅」

【行賈】行商人。史記に「貰貸行賈徧二郡國一」

【行義】正しき道をとりおこなふ。禮記に「皆由二順正一、以行二其義一」

【行遠】とほきにゆく。中庸に「辟如三行レ遠必自レ邇」

【行裝】旅行するよそほひ。たびじたく。墨客揮犀に「行李、謂二行人一也、今人乃謂二行裝一爲二行李一、非也」

【行歌】歩みながらうたふ。漢書に「買臣獨行歌二道中一」

【行廚】べんたう。わりご。(簞食)。黃庭堅「宣城涑筍供二行廚一」

【行誼】おこなひよろしきにかなふ。漢書に「民以レ故、棄二行誼一而死二財利一」

【行賞】褒賞をあたふ。周禮、疏に「春夏行レ賞、秋冬行レ罰」

【行潦】途上のたまりみづ。にはたづみ。孟子に「河海之於二行潦一類也」

【行殣】路傍にてうゑじにしたるもの。ゆきだふれ。顏延之「嗟我來之既遠、覩二行殣于水隅一」

【行樂】たのしみをなす。楊惲「人生行樂耳、須二富貴一何時」

【行橐】旅行用の底なき小さきふくろ。金史に「乃擧二行橐一付二族父一、明爲二死別一、冒レ險而去」

【行餘】道を行ふ餘力。論語に「行有二餘力一、則以學レ文」

【行幐】むかばき。脛にまとふ衣。(脚巾)。陸游「溪南聞道更幽絕、明日裂レ布縫二行幐一」

【行藏】すすみ出でて事をなすと退いて隱ると。論語に「用レ之則行、舍レ之則藏」

【行觴】さかづきをさす。さかづきをまはす。禮記に「命レ酌曰、請行レ觴、酌

者諸」

【行藥】 くすりを飲みて後、歩行して之を消化せしむ。陸龜蒙「更擬ニ結レ茅臨ニ水次一、偶因ニ行藥一到ニ村前一」

【行在所】 巡幸の時などのかりみや。通鑑綱目集覽に「天子以ニ四海一爲レ家、故行曰ニ乘輿一、止曰ニ行在一」

【行祕書】 記聞多きをいふ。書言故事に「記聞多曰ニ行祕書一、唐太宗嘗出行、有司請レ載ニ副書一以從上曰、不レ須、虞世南在、此行祕書也」

【行脚僧】 住處を定めずして諸國を遍りあるく僧。草木子に「程渠南與ニ僧信道元一同レ齋食レ蕈、道元請ニ渠南賦ニ蕈詩一、應レ聲作ニ四句一云、頭子光光脚似レ丁、秖宜ニ豆腐與ニ波稜一、釋迦見了呵呵笑、煮殺許多行脚僧、聞者絕倒」

【行不レ由レ徑】 道を行くに邪徑をふまず。論語に「有ニ澹臺滅明者一、行不レ由レ徑、非ニ公事一、未ニ嘗至ニ於偃之室一也」

【行尸走肉】 死尸にして能く行き、死肉にして能く走るが如く、形體あるも、何の働きもなきをいふ。拾遺記に「任永曰、夫人好レ學、死如レ存、不レ學者雖レ存、謂ニ之行尸走肉一爾」

【行住坐臥】 行くと止まると、すわるとふすと。卽ち、行儀ふるまひ。佛家にて、之を四威儀といふ。心地觀經に「行住坐臥、受ニ諸苦惱一」

【行同能偶】 おこなひ相同じく、はたらき殆ど相ならぶ。漢書に「行同能偶、別レ之以レ射、然後爵命焉」

【行雲流水】 一定の形質なく、種種にうつりかはるをいふ。宋史に「行雲流水、初無ニ定質一」

【行ニ百里一者半ニ九十里一】 路ゆく困難は前の九十里と、後の十里と相匹敵すといふ義。事をなすに始の易くして、終の難きに喩ふ。戰國策に「行ニ百里一者半ニ九十一、於レ此言ニ末路之難一」

三畫

【衍】 ㋑エン。以淺切。銑。㋺夷然切。先。
㋑㊀あふる(溢)㊁ながる(流)㊂うつくし(美)㊃きはまりなし㊄しく、はびこる(布)㊅ひろし(廣)㊆ほしいまま(放縱)㊇たひらかなり(平夷)㊈行く貌㊉おほし、ゆたか(饒)⑪ひろき澤⑫水中の洲㋺㊀すすむ(進)㊁祭の名。

【衍文】 あやまり。不用なる文句。中庸、朱注に「子曰、二字衍文」

【衍字】 その文中にて、不用なる文字。詩經、疏に「瓊英猶ニ瓊華一、瓊瑩兼言ニ瓊瑩一者、蓋衍字也」

【衍衍】 行く貌。謝朓「澄澄明浦媚、衍衍清風爛」

【衍盈】 あまりみつ。韓詩外傳に「國無ニ佚士一、皆用ニ於世一、黎庶歡樂衍盈」

【衍曼】 ひろがりはびこる。(曼衍)。司馬相如「衍曼流爛」

【衍義】 意味をひろめて說く。

【衍溢】 あふる。春秋繁露に「仁往而義來、德澤廣大、衍ニ溢于四海一」

【衍繹】 のぶ。禮記に「會萃衍繹、而附以ニ臆見之言一」

五畫

【衎】 ㋑カン。苦旰切。翰。㋺苦旱切。旱。
㋑㊀たのしむ(樂)㊁よろこぶ(喜)㊂さだまる(定)㋺まことにす(信)。

【衒】 ㋑ケン、ゲン。熒絹切。霰。㋺局縣切。先。
自ら衿る、てらふ。

【衒異】 すぐれた所あるをほこる。新論に「含レ奇佩レ美、衒レ異露レ才者、未レ有ニ以レ此傷レ性毀レ命者一也」

【衒賣】 うる。(販賣)。後漢書に「調ニ取穀帛一、衒ニ賣什物一」

【衒耀】 己の才學をかがやかしてほこる。晉書、甘卓傳に「博涉ニ經史一、恥ニ衒耀取一レ達」

【衒鬻】 自らほめて賣らんとす。漢書、東方朔傳に「上書言ニ得失一、自衒鬻者、以レ千數」

【術】 ㋑シュツ、ジュチ。食律切。質。㋺遂に同じ。㋩ジュツ。慣用音。
㋑㊀わざ(學問、技藝、わ業、作爲、巧智、權略)㊁みち(道)㊂のり(道理)㊃ちまた(徑路)㊄おきて(法律)㊅てだて(方法)㊆のぶ(述に通ず)㊇行政區劃の名目。

【術計】 はかりごと。(權計)。蔡襄「桑羊役ニ乎術計一、商鞅刻ニ乎刑名一」

【術智】 はかりごとをめぐらすはたらき。庾集「宦寺固ニ結于內一、術智爲レ用ニ於外一」

【術語】 學術語の略、學問上特別に用ゐることば。專門語。

【術藝】 技術と文藝と。列子に「眘之君子多ニ術藝一」

【術數】 はかりごと。たくらみ。管子に「人主務學ニ術數一、務行ニ正理一、則變化日進」

【術學】 藝術と學問と。後漢書に「趙彥瑯邪人、少有ニ術學一」

六畫

【衕】 トウ、ヅ。徒紅切。東。㊀ちまた(通衕)㊁くだる(下)。

【衖】 カウ、ゴウ。巷に同じ。

【街】 ㋑カイ、ケ。古膎切。佳。㋺キ。均窺切。支。㋩ガイ。慣用音。ちまた、おほどほり。

【街巷】 まち。ちまた。周禮、疏に「行幸使ニ衛士一塡ニ塞街巷一以止ニ行人一、備ニ非常一也」

【街路】 ちまた。まちのみち。(衢路)。白居易「街路雖レ長君不レ嫌」

【街衢】 ちまた。魏都賦に「內則街衢輻輳」

【街邏】 ちまたなみまはる兵士。宋史、歐陽修傳に「修出聚ニ課于馬首一、街邏不レ能レ制」

【街衙】 ちまた。(衢街)。北齊書に「風俗更始私枉路絕、乃牓ニ于街衢一、具論ニ經國政術一」

七畫

【衙】 ㋑ガ、ゲ。牛加切。麻。㋺ギョ、ゴ。語居切。魚。㋩禦に同じ。
㋑㊀やくしょ(廳府)㊁あつまる(參集)㋺㊀疎遠なる貌㊁行く貌㋩とどむ、ふせぐ。

【衙兵】 宮城を守護する軍隊。唐書に「天子禁軍者、南北衙兵也」

【衙官】 やくにん。唐書に「吾文章當レ得ニ屈宋一作中衙官上」

【衙門】 役所のもん。又、役所。舊唐書、張仲方傳に「衙門未レ開、百官錯ニ立於朝堂一」

【衙衙】 行く貌。疎遠なる貌。九辯に「導ニ飛廉之衙衙一」

九畫

【衛】 エイ、エ。衞の俗字。

【衝】 ㋑ショウ、シュ。尺容切。冬。㋺蠢勇切。腫。㋩昌用切。宋。
㋑㊀とほりみち(通路)㊁うごく(動)㊂つきあたり㊃敵に向ってつきあたる兵車又は兵艦㊄あたる(當)㊅むかふ、むかひ(向)㊆つく(突)㋺相入る貌㋩かなめ(要處)。

【衝斗】 北斗星をつく。意氣の盛んなるにいふ。駱賓王「有レ氣常衝レ斗、無ニ時會鑿一レ坏」

【衝突】 つきあたる。南史に「選ニ精騎八千一、卒先衝突」

【衝軼】 つきおかす。韓琦「山樂衝軼犯ニ勁矢一」

【衝激】 つきあたる。庾信「島嶼懸陵、波瀾衝激」

十畫

【衞】 エイ、エ。于歲切。霽。
㊀ふせぐ(防)㊁まもる(護)㊂ほとり(邊)㊃まもり㊄いとなむ(營)。正字通に「韋、帀に从ひ、行に从ふ、省きて衛に作る」

【衞生】 衣食住に注意して、身體を大切にすること。莊子に「趎願聞ニ衞生之

經一而已」
【衛戍】軍隊の永久一地に配備駐屯するもの。宋書に「敢緣二衛戍一」
【衛身】みをまもる。淮南子に「世治則以レ義衛レ身」
【衛兵】宮城を護衛する兵士。唐書に「掌二衛兵及內外八鎭兵一」
【衛星】遊星の周圍を廻轉しながら、その遊星と共に太陽を周る星の稱。(陪星)。
【衛送】まもりおくる。北史に「放二還其國一衛送出レ境」
【衛輔】まもりたすく。陶弘景「蓋欲レ衛二輔我躬一」
【衛蹕】帝王の車をまもる。五代史に「張永德以二禁兵一衛レ蹕」

【衡】カウ、ギヤウ。戸庚切。庚。
㊀はかりのさを㊁はかる㊂平正を持するもの㊃てすり(欄楯)㊄勺柄のかしら㊅よこさま(横)㊆よこぎ(横木)㊇かうがい㊈くびき(車軛)㊉たひらか、ひとし(平正)⑪あらそふ(爭)⑫人の姓⑬かんあふひ(衡に通ず)⑭眉と目との間⑮星の名⑯山林の事を掌る官の名⑰輔佐の顯官⑱渾天儀のよこぎ⑲山の名⑳水の名。
說文に「角大に从ひ、行に从ふ」
【衡山】五岳の一、湖南省に在り。書經に「岷山之陽、至二于衡山一」
【衡石】はかり。禮記に「同二度量一鈞二衡石一角二斗甬一」
【衡宇】木を横へたるのき。粗末なるいへ。陶潛「乃瞻二衡宇一載欣載奔」
【衡行】おもふままにゆく。後漢書に「從行則追脅、衡行則中絕」
【衡門】かぶきもん。詩經に「衡門之下、可二以棲遲一」
【衡巷】民間といふ義。歐陽修「散二髮林丘一幅二巾衡巷一」
【衡度】はかりとものさしと。隋書に「同二玆玉量與一衡度一」
【衡宰】宰相。(冢宰、臺宰)。後漢書に「綜灌臨二衡宰一」
【衡軸】くるまのよこぎ。轉じて、樞密なることがらの義。北史、高肇傳に「肇既當二衡軸一每レ事任レ己」
【衡嵩】五岳の中の衡山と嵩山と。蘇軾「勿レ笑一畝園、蟻垤齊二衡嵩一」
【衡縫】横にぬふ。よこぬひ。縮縫の對。禮記に「古者冠二縮縫一今也衡縫」按に「衡與レ横同」
【衡權】はかりのさをとおもりと。羣書考索に「度量衡權、皆本二於曆一」

【衜】タウ、ドウ。道の古文字。

【衠】シユン。朱倫切。眞。
㊀ただし(正)㊁まこと(眞)㊂雜りなきこと。

十八畫

【衢】ク、ゴ。權俱切。虞。
㊀みち(四達の道、又、九交の道)㊁わかれみち(岐路)㊂ゆく(行)。
【衢國】四面に敵を受くる地勢の所。管子に「壤正方四面受レ敵、謂二之衢國一」
【衢路】ちまた。まちのみち。(街路)。後漢書に「楊朱號二乎衢路一兮、墨子泣二乎白絲一」
【衢肆】ちまたの店。唐書に「每レ出輕騎無二警蹕一游二歷衢肆一行者但止立」

衣部（ネ）

部首

【衣】(い)イ、エ。於希切。微。(ろ)於既切。未。
(い)㊀ころも、きもの㊁うはぎ㊂おこなふ(服膺)㊃一般に物の外部を掩ふものの稱(ろ)きる、きす(著、被)。
【衣服】きもの。詩經に「西人之子、粲粲衣服」
【衣食】きものとくひものと。史記に「傭債以給二衣食一」
【衣架】衣服をかけ置く具、いかう。沈佺期「朝霞散彩羞二衣架一」
【衣冠】㊀きものとかんむりと。卽ち、裝束。論語に「君子正二其衣冠一」㊁衣冠を著けたる人の稱。漢書に「所レ到衣冠懷レ之」
【衣袂】きもののそで。周禮、注に「士之衣袂、皆二尺二寸」
【衣紋】きもののあや。畫史に「蘇氏古賢像十一人、衣紋自非二晉筆一」
【衣桁】衣服をかけ置く具、いかう。李嘉祐「苔色侵二衣桁一潮痕上二井欄一」
【衣魚】(動)しみ。本草に「衣魚生二久藏衣帛及書紙中一」
【衣笥】きものを入るるはこ。金鑾紀聞に「藏二衣笥中一能辟二蠹魚一」
【衣鉢】(佛)衣は袈裟、鉢は應器なり、始祖(達磨)が、二祖(慧可)に正法眼藏を付囑せしとき、その證として袈裟と應器とを傳へたりといふ故事。因って法を受けつぐことを衣鉢を傳ふといふ。但し今は凡て師の道を傳ふる義に用ゐる。傳燈錄に「初祖達磨、奉二佛衣一來二東土一得レ道者付レ之、以爲二眞印一至二六祖大鑑一乃置二其衣一而無レ傳焉」
【衣裝】きものの類。吳均「客子饑食多、江上衣裝薄」
【衣袴】ころもとはかまと。漢書に「馳二草棘中一衣袴皆裂」
【衣裾】もすそ。楊基「春風吹レ雨濕二衣裾一」
【衣裳】上衣と下衣と。易經に「垂二衣裳一而天下治」
【衣緇】くろき衣をきる。列子に「天雨解二素衣一衣レ緇而返」
【衣褐】あらぬののきものをきる。戰國策に「西施衣レ褐、而天下稱レ美」
【衣至レ骭】衣短くして、僅かに脛に至る。元好問「單衣適至レ骭、一劍又[illegible]緣」
【衣冠族】貴き家がら。後漢書に「羊陟字嗣祖、太山梁父人也、家世衣冠族」
【衣レ錦晝行】名成り功遂げたるを人に誇る義。魏志に「張既爲二雍州刺史一太祖謂レ既曰、還二君本州一可レ謂二衣レ錦晝行一矣」
【衣レ錦褧レ衣】褧は襌衣、錦を被て褧を加ふるは、文衣の甚だ著顯なるを惡みて之を蔽ふなり。詩經に「碩人其頎、衣レ錦褧衣」又、中庸に「衣レ錦尙レ絅、惡二其文之著一也」
【衣レ錦還レ鄉】富貴になりて故鄉にかへる。南史、柳慶遠傳に「爲二雍州刺史一帝餞二于新亭一謂曰、卿衣レ錦還レ鄉、朕無二西顧之憂一矣」
【衣レ繡夜行】富貴になりて故鄉にかへらざるをいふ。史記、項羽紀に「富貴不レ歸二故鄉一如二衣レ繡夜行一誰知レ之者」漢書には、繡を錦に作る。
【衣二食於奔走一】糊口の爲に彼處此處と走りまはる。韓愈「貧賤也、衣二食於奔走一不レ得二朝夕繼見一」
【衣食足知二榮辱一】飢寒の患なくして、始めて身を修め、道を行ふを得るをいふ。管子に「倉廩實則知二禮節一衣食足則知二榮辱一」
【衣莫レ如レ新人莫レ如レ故】舊識の新識にまさる義。晏子春秋に「晏子稱曰、衣莫レ如レ新、人莫レ如レ故」

二畫

【衧】レウ。盧鳥切。篠。
こももひき、こばかま。

【卒】(い)ソツ、ソチ。日沒切。月。(ろ)シユツ、シユチ。子聿切。質。(は)シユツ、ジユチ。昨律切。質。(に)サイ、セ。取內切。隊。
(い)㊀こもの、ともびと㊁にはか(急)㊂軍隊編成の名目(ろ)㊀つく、つくす(盡)㊁をふ、をはる(終)(は)さかし、けはし(崔嵬)(に)そへ(副貳)。

【衩】ハン、ヘン。襻に同じ。

三畫

【表】ヘウ。陂矯切。篠。
㊀うはぎ(上衣)㊁きる、きす(著)㊂そと(外面)㊃あらはす(顯)㊄こずゑ(杪)㊅しるす(識)㊆しるし、めあて(標的)㊇のり、みち㊈地の名(表氏縣)㊉やうす(容儀)⑪たちゐ(擧止)⑫ひかげばしら⑬君上に奉る書狀⑭偉大

なる貌㊅ぬきんでたる貌㊆人の姓㊇人の名。

【表木】めじるしに立つるき。史記、索隱に「表木、謂ニ刊レ木立爲ニ表記一」

【表次】しるして順序を立つ。史記に「太史表次、析有ニ條理一」

【表的】まと。めあて。後漢書に「閉拒背畔、爲ニ天下表的一」

【表表】大いにすぐれぬきんでたる貌。韓愈「富貴無レ能、磨滅誰紀、子之自著、表表愈偉」

【表章】あらはす。漢書に「罷ニ黜百家一、表ニ章六經一」

【表旌】前に同じ。(旌表)。高士傳に「不レ遭ニ明時一、尙當ニ表旌一」

【表揭】あらはしかかぐ。宋史、忠義傳に「優ニ恤其家一、表ニ揭門閭一」

【表發】あらはれおこる。姑溪題跋に「獨無ニ文詞翰墨、表ニ發其勝一」

【表裏】そととうちと。大學、補傳に「衆物之表裏精粗無レ不レ到」

【表誠】まことをあらはす。宋書に「議曰、郊望山瀆、以レ寘表レ誠」

【表彰】あらはす。後漢書に「表ニ彰德信一、是以化致ニ升平一」

【表趣】おもむきをあらはす。謝靈運「呈レ美表レ趣、胡可ニ勝彈一」

【表閭】里門にあらはす。後漢書に「使者敬存問、詔書襃歎、刻レ石表レ閭」

【表顯】あらはす。後漢書に「立ニ學校一、表ニ顯儒術一、薦ニ擧賢良一」

【表著之位】公會の位次。漢書に「朝內列位有ニ定處一、所レ謂表著也」

【衩】㋑サイ、セ。楚懈切。卦。㊀えり(衽)㊁もすそ、すそ(裾)㊂膝までのころも。

【袥】タク、ダク。闥各切。藥。㊀衣をひらく㊁ながじゅばん。

【袘】イ。弋支切。支。㊀そで(袖)㊁へり、ふち(緣)。

【衪】ヨク、イキ。與職切。職。㊀ひとへぎぬ(衫)㊁くろきころも。

【袀】㋑シャク、サク。之若切。藥。㋺テキ、チャク。都歷切。錫。㋩ハウ、ベウ。皮敎切。效。㋑㋺ひとへもの㋩えり(襮)。

【衫】サン、セン。所銜切。咸。㊀ちひさくみじかきころも㊁そでのはしなきひとへの短きころも、㊂ころも、きもの。

【衭】フ。甫無切。虞。㊀まへえり㊁つるぎぶくろ(劍衣)㊂はかま(襞袴)。

四畫

【衮】コン。古本切。阮。通じて、袞に作る。㊀龍のしろしある天子の法服㊁ねんごろに說く貌。

【袞衣】龍の繡ある天子のころも。詩經に「我覯ニ之子一、袞衣繡裳」

【袞袞】㊀ねんごろに說く貌。晉書に「前言往行、袞袞可レ聽」㊁累りにつづく貌。杜甫「諸公袞袞登ニ臺省一、廣文先生官獨冷」

【袞龍】天子の法服。轉じて、天子の稱とす。周禮に「袞龍衣也、衣五章、裳四章凡九、皆絺繡而畫以爲レ袞」

【袞闕】天子の失德。詩經に「袞職有レ闕、惟仲山甫補レ之」

【袞職】㊀三公の職。唐明皇「集レ賢招ニ袞職一、論レ道命ニ臺臣一」㊁天子の職を稱す。前の袞闕を參看せよ。

【袚】㋑ハツ、ハチ。普活切。曷。㋺韍に同じ。㋑たもと(袂)。

【衯】㋑フン、ボン。撫文切。文。㋺ホン、ボン。步奔切。元。㋑㊀長き衣の貌㊁衣の大いなる貌㋺長くして好き貌。

【衰】㋑スヰ。雙隹切。支。㋺シ。所危切。支。㋩サイ、セ。倉回切。灰。㋑おとろふ、よわる、へる㋺そぐ、へす㋩喪服(縗に同じ)。㋥蓑に同じ。

【衰亡】おとろへほろぶ。

【衰日】陰陽家の語。生れたる年のえ

とによりて忌むべき日の稱。

【衰世】おとろへたる世。李咸用「衰世雖レ修レ道、花時不レ稱レ貧」

【衰朽】おとろへくつ。韓愈「肯將ニ衰朽一惜ニ殘年一」

【衰死】おとろへしぬ。

【衰老】としよりておとろふ。又、その者。禮記に「養ニ衰老一、授ニ几杖一」

【衰退】おとろふ。陳傳良「御因ニ衰退一更躊躇」

【衰疲】おとろへつかる。(彫衰)。

【衰殘】よわりはつ。おちぶる。林逋「蕭蕭蘆葦半衰殘」

【衰萎】おとろへしなる。

【衰替】おとろへすたる。(陵替)。

【衰絰】衰は喪服、絰は喪のとき首と腰とに著くる麻。禮記に「君子衰絰則有ニ哀色一」

【衰滅】おとろへほろぶ。

【衰運】おとろへたる運命。

【衰勢】おとろへたるいきほひ。

【衰微】おとろふ。史記、功臣年表に「枝葉稍陵夷衰微」

【衰弊】おとろふること。つかるること。李嶠「哀ニ末法之衰弊一」

【衰頽】おとろへすたる。

【衰羸】やせおとろへたるからだ。

【衰顏】おとろへたるかほ。盧綸「蕭條涼夜水、秋草對ニ衰顏一」

【衲】ダフ、ナフ。奴答切。合。㊀ころも(僧衣)㊁ぬふ、おぎなふ(補)㊂僧侶の稱。

【衱】ケフ、コフ。居怯切。葉。㊀えり(衣領)㊁すそ(裾)。

【衳】㋑ショウ、シュ。職容切。冬。㋺取勇切。腫。㋑ふんどし(褌)㋺㊀ふんどし㊁ふみづつみ(帙)。

【衵】㋑ジツ、ニチ。人質切。質。㋺ヂツ、ニチ。尼質切。質。㋑ふだんぎ㋺じゅばん。

【衷】㋑チュウ、チュ。陟弓切。東。㋺陟仲切。送。㋑㊀まこと(誠)㊁うち㊂こころ、おもひ㊃したぎ、はだぎ(褻衣)㊄善なること㊅偏せざること㋺㊀あたる(當)㊁かなふ(適)。

【衷心】まごころ。

【衷甲】きごみ。左傳に「楚人衷レ甲」注に「甲在ニ衣中一」

【衷衣】なかぎ。廣韻に「褻、衷衣也」

【衷情】まごころ。

【衷誠】眞實なるこころ。まごころ。陳書、虞寄傳に「妙算遠圖、發ニ于衷誠一者也」

【衸】カイ、ゲ。胡介切。卦。㊀きゃはん(褲膝)㊁ころもの長き貌㊂はば(幅)。

【衹】㋑キ、ギ。巨支切。支。㋺シ。章移切。支。㋩テイ、タイ。土禮切。薺。㋑けさ、けごろも㋺まさに(適)㋩かばいろ。

【衺】シャ、ゼ。似嗟切。麻。よこしま、ななめ(斜に同じ)。

【衻】㋑ゼン、ネン。汝鹽切。鹽。㋺デン、ネン。尼占切。鹽。㋩襜、褕に同じ。

【衼】シ。章移切。支。㋑㋺㊀うはぎ(上衣)㊁まへだれ(蔽膝)㊂ふち、へり(緣)。

【衽】ジン、ニン。汝鴆切。沁。けさ、けごろも(毛衣)。㊀えり、おくみ㊁しとね(臥席)㊂みごろ(褠)㊃ちぎり(釘の代りに用ゐるもの)。

【衽席】しとね。周禮に「王府、掌ニ王之燕衣服衽席牀笫一」

【衾】キン、コン。去金切。侵。よぎ、ふすま。

【衾枕】ふすまとまくらと。元稹「星繁河漢白、露逼ニ衾枕一清」

【衾衽】しとれ。王僧達「衾衽長レ塵、絲竹罷レ調」

【袀】キン、コン。居勻切。眞。㊀いくさぎもの(戎服)㊁まじりなきこと(純一)。

【袀服】いくさぎもの。吳都賦に「六軍袀服、四騏龍驤」

【衿】㊥キン、コン。居吟切。侵。㊐キン、ゴン。巨禁切。沁。㊀えり(交領)㊁おび(小帯)㊂むすぶ(結)㊃おび(帯)。

【衿帯】㊥キン タイ ㊀えりとおびと。晉書に「衿帯之形事異二曩昔一」㊁山そびえて襟に喩ふべく、川めぐりて帯に喩ふべき要害の地。潘岳「賦二函谷之重阻一看二天險之衿帯一」

【衿逸】㊥キン イツ たかぶりてほしいままなり。圖繪寶鑑に「雖二放縦衿逸一往往失二于卑猥一」

【衿纓】㊥キン ハン 小帯と帯と。范梈「十九嫁二夫家一事レ姑施二衿纓一」

【衿纓】㊥キン エイ ひもをむすぶ。禮記に「總角衿纓、皆佩二容臭一」

【袁】エン、チン。雨元切。元。

【袁彦道】㊥エンゲン ㊐ばくち 人。轉じて、ばくちをいふ。晉書に「袁耽、字彦道、中略少有二才氣一、桓溫少時遊二于博徒一、資産俱盡、求二救于耽一、耽變レ服懷二布帽一、隨レ溫與二債主一戯、耽素有二藝名一、債者聞レ之、而不二相識一、謂レ之曰、痴當レ不レ辨二袁彦道一也、遂就レ局、十萬一擲、直上二百萬一、耽投レ馬絶叫、探二布帽一擲レ地曰、竟識二袁彦道一否」

【袂】㊥ベイ、メ。弭獘切。霽。㊐たもと、そで。

五畫

【袈】㊥カ、ケ。古牙切。麻。けさ。

【袈裟】㊥カサ 〔佛〕(梵語 Kaṣāya.)褐色衣と譯す。僧服なり。釋氏要覽に「袈裟者、蓋レ色彰レ稱也、梵音具云二迦羅沙曳一、此云二不正色一、業疏云、本作二迦沙一、至二梁葛洪撰二字苑一、下方添レ衣、言二道服一也」

【袍】㊥タ、ダ。徒何切。歌。㊐タ。他可切。智。

【袍笏】㊥タ コツ すそ(裾)㊁うつくし㊂施に同じ㊃訓義㊄に同じ㊅長くのびたる貌。

【袍褐】㊥タ カツ ㊀レイ、リャウ。莫郎切。梗。㊐褐に同じ。

【袍褐】㊥タ カツ ㊀うはぎ(上衣)㊁もすそ(下裳)㊂えり(襟)㊃すそまはし。

【袋】㊥タイ、ダイ。徒耐切。隊。ふくろ。

【袋】㊥ハウ、ボウ。薄報切。號。㊐ハウ、ベウ。披教切。效。

【袌】㊥ハウ、ボウ。薄褒切。豪。㊐袍に同じ㊑袍に同じ。

【袌】㊥ハウ、ボウ。薄褒切。豪。㊐褒に同じ。

【袒】㊥タン、ダン。徒旱切。旱。㊐タン、デン。丈莧切。諫。

【袒裼】㊥タンセキ はだぬぐ㊐はだぬぐ。孟子に「雖二袒裼裸一裎於我側一」

【袒膊】㊥タンハク 前に同じ。李賀「背經來二漢地一、袒膊過二冬天一」

【袒縛】㊥タンバク はだをぬぎ手をしばる。賈至「鴈鄒袒縛而請レ命」

【袖】㊥シウ、シュ。似祐切。宥。そで(袂)。

【袖手】㊥シウシュ てをそでにす。何事をもなさず。王特起「黒白不レ分惟袖レ手」

【袖珍】㊥シウチン そでの中に入れて攜へらるるほどの小形の書物。

【袖裏】㊥シウリ そでのうち。徐陵「年芳袖裏出、春色黛中安」

【袖中冊】㊥シウチュウサツ そでの中に入れて攜へらるるほどの小形の書物。東軒筆錄に「虞允文爲レ相、袖中有二一小方冊一、名曰二林館錄一」

【袗】㊥シン。章忍切。軫。㊐之人切。眞。

【袗】㊥シン。章忍切。軫。㊐之人切。眞。

【袾】㊥シュ。市沼切。篠。

【袾】㊥シュ。市沼切。篠。㊀えり(衣襟)㊁はかまのどう。

【袿】㊥ケイ、ザイ。才詣切。霽。㊐衣の衿を交ふ。

【袿】㊥ケイ、ザイ。才詣切。霽。㊐ひだ㊁衣のしわ㊂あはせ㊃衣の衿を交ふ。

【袴】㊥コ、ク。苦故切。暮。㊐ももひき。

【袵】㊥ジン。如甚切。寝。㊐おくみ。

【袷】㊥キョウ、ゴウ。古洽切。治。㊐あはせ。

【袷】㊥キョウ、ゴウ。古洽切。治。㊐衣の衿。

【袺】㊥ケツ 衣の裾をとりてはさむ。

【袽】㊥ジョ、ニョ。人渚切。語。㊐ぼろ。

【袰】㊥ホウ、ム。莫候切。宥。

【袱】㊥フク、ホチ。敷物切。物。

【袱】㊥ハツ、ハチ。北末切。曷。㊐えびすのころも(蠻衣)㊁こどものころも㊂えびすのころも㊃ひざかけ、まへだれ(蔽膝)。

【袒】㊥テイ、タイ。都奚切。齊。はだぎ。

【袒褐】㊥タイ カツ はだぎ。後漢書に「其資貨、惟有二布衾袒褐鹽豉數斛一耳」

【袙】㊥バツ、マチ。莫撥切。曷。㊐襖に同じ。

【袙】㊥バツ、マチ。莫撥切。曷。㊐襖に同じ。

【袢】㊥ボウ、ム。莫候切。宥。

【袢】㊥ボウ、ム。莫候切。宥。㊐迷浮切。尤。

【被】㊥フツ、ホチ。敷物切。物。

【被】㊥ハツ、ハチ。北末切。曷。㊐えびすのころも(蠻衣)㊁こどものころも㊂えびすのころも㊃ひざかけ、まへだれ(蔽膝)。

【被】㊥ヒ、ビ。皮義切。寘。㊐攀糜切。支。㊑部靡切。紙。

【被】㊥ヒ、ビ。皮義切。寘。㊐攀糜切。支。㊑部靡切。紙。㊀おほふ(覆)㊁およぶ(及)㊂おもて(表)㊃くはふ(加)㊄きる(著)㊅うつは(器具)㊆おぶ(帯)㊇かうぶる、かうむる㊈とって(把中)㊉おはす(負)㊊土地の名㊋ひらく(披に通ず)㊌ひらひらとする貌㊍かづら(首飾)㊎ふとん、よぎ。

【被衣】㊥ヒイ きものをかうむる。墨子に「韜蔽レ被レ衣、行歌而去」

【被告】㊥ヒコク 〔法〕訴へられたる方の人。原告の對。

【被服】㊥ヒフク きもの。史記に「譎俗被服飯食、奉レ生送レ死之具」

【被害】㊥ヒガイ 他人に害せらる。損害をかうむる。加害の對。

【被酒】㊥ヒシュ 甚だしくさけを飲む。史記に「被レ酒夜徑二澤中一」

【被糞】㊥ヒサイ みのをきる。(衣蓑)。淮南子に「若二被レ蓑而救レ火、毀レ瀆而止レ水」

【被髪】㊥ヒハツ かみをふりみだす。禮記に「被髪文身、有レ不二火食一者ム矣」

【被縛】㊥ヒバク しばらる。唐書、哥舒翰傳に「未レ至而翰被レ縛云」

【被謗】㊥ヒボウ そしらる。史記、屈原傳に「信而見レ疑、忠而被レ謗」 とがめらる。漢書に「石慶雖二以レ謹得一レ終、然數被レ譴」

【被讒】ざんげんせらろ。漢書に「屈原楚賢臣也、被レ讒放逐、作二離騷賦一」

【被レ堅執レ鋭】甲冑なかうむり、利器をとろ。戰國策に「吾被レ堅執レ鋭、赴二强敵一而死、此猶二一卒一也」

【被レ褐懷レ玉】貧賤にして、賢德あるをいふ。老子に「知レ我者希、則我者貴矣、是以聖人被レ褐懷レ玉」

六畫

【袱】フク、ボク。房六切。屋。ふろしき、ふくさ。

【⿰衤束】セキ、シャク。七迹切。陌。ひざかけ(蔽膝)。

【袲】㋑イ。弋支切。支。㋺シ。尺氏切。紙。㋩ダ、ナ。奴可切。哿。㋑地の名㋺ころもの長くしてよき貌㋩❶しなやか❷ころもの貌(裒袲)。

【袳】㋑シ。昌里切。紙。㋺ケイ、カイ。遣禮切。薺。㋩ダ。典可切。哿。㋑ころも張ろ㋺衣をひらく㋩❶しなやか❷おほふ(袪)。

【袴】コ、ク。苦故切。遇。はかま、ももひき(脛衣)。

【袴襠】はだばかま。北史、于什門傳に「於二羣衆中一回レ身背レ跋、披レ袴後レ襠、以辱レ之」

【袼】㋑ラク。盧各切。藥。㋺カク。剛寉切。藥。㋑よだれかけ㋺そで(袖)、たもと(袂)。

【⿰衤卸】㋑ギョ、ニョ。女余切。魚。㋺ジョ、ニョ。人余切。魚。㋑❶やぶれごろも(敝衣)❷舟の漏りなふせぐに用ゐるもの㋺いとくづ、いとわた(絲屑)。

【袾】㋑チュ。陟輸切。虞。㋺シュ。昌朱切。虞。㋑朱衣㋺❶うつくし、よし(好佳)❷みごろ(衣身)❸みじかききもの(短衣)❹あか(朱に通ず)。

【袿】㋑ケイ、ケ。古攜切。齊。㋺キ。均窺切。支。㋑うちかけ、うはぎ㋺❶そで(袖)❷すそ(裾)。

【袿裳】婦人のうはぎ。後漢書に「袿裳鮮明」

【袵】ジン、ニン。衽に同じ。

【袷】㋑カフ、ケフ。訖洽切。洽。㋺ケフ。居怯切。葉。㋑❶あはせ(複衣)❷えり(衿)㋺えり。

【袣】エイ、イ。褹に同じ。

【⿰衤交】㋑ケウ。吉了切。篠。㋺カウ、ゲウ。下巧切。巧。こばかま、ももひき(⿰衤交衦)。

【⿰衤存】㋑ソン、ゾン。徂昆切。元。㋺セン、ゼン。在甸切。霰。えり(衿)。

【袹】バク、ミャク。莫白切。陌。はらまき、はらあて(袹腹)。

【袺】㋑ケツ、ケチ。吉屑切。屑。㋺カツ、ケチ。訖黠切。黠。つまなとろ。

【裀】イン。伊眞切。眞。❶みごろ(衣身)❷しとね、しきもの(茵に通ず)。

【裁】㋑サイ、ザイ。昨哉切。灰。㋺昨代切。隊。㋑❶さく、たつ❷つくろ(製)❸わづか(纔に通ず)❹ただす(制)❺みわく(鑒)❻はかろ(度)❼きれ(布帛の断片)❽さだめ、かた(制型)❾みわけ(鑒識)❿きりもり、はからひ(制斷)㋺❶たつ❷つくろ(製)。

【裁可】天子が案文を親裁可決せらろること。唐書、董晉傳に「參得二君裁可一、大事不三關二杏晉一」

【裁量】はかろ。後漢書に「其多所二裁量一、若レ此」

【裁抑】おさふ。宋書に「宜應三慨然立レ志、念二自裁抑一」

【裁許】ゆろす。又、とりさばく。(允許、聽許)。漢書に「謹上二田處及器用簿一、唯陛下裁許」

【裁赦】しらべゆろす。漢書に「臣奉愚戇狂惑、唯陛下裁赦」

【裁罪】つみな判定す。戰國策に「大王裁二其罪一」

【裁縫】たちぬひ。衣服のしたて。周禮に「女御裁二縫王及后之衣服一」又、白居易「病妻親爲レ我裁縫」

【裁斷】きりもりしてさだむ。晉書、劉琨傳に「琨子羣性清愼有二裁斷一、得二士類懽心一」

【裂】㋑レツ、レチ。良薛切。屑。㋺厲に通ず。㋑❶きれ(布帛)❷さく、やぶろ、ちぎろ(分破)❸ほろぶ、ほろぼす(滅)。

【裂帛】❶きぬなさくこゑ。琵琶行に「四絃一聲如二裂帛一」❷杜鵑のなき聲な形容する語。

【裂膚】はだへなやぶろ。李華「綸纊無レ溫、墮レ指裂レ膚」

【裂繪】きぬなさく。又、さきたろきぬ。帝王世紀に「妹喜好レ聞二裂繪之聲一」

【裂壞】さけやぶろ。王惲「坐看二長堤一驚二裂壞一」

【裂繻】きぬのへりなひきさく。漢書、注に「因裂二繻頭一合以爲二符信一也」

【⿰衤同】㋑ロウ、ル。盧紅切。東。㋺トウ、ツ。吐孔切。董。㋑❶ももひき❷こしまき(裙)❸ふどし(褌)㋺つつそで。

【裗】シュウ、シュ。昌終切。東。そでなしばおり。

【⿱歹衣】㋑レイ。力祭切。霽。㋺裂に同じ。㋑そこなふ(殘)㋺さく。

【裃】(國字)かみしも。

七畫

【裋】㋑シュ、ズ。上主切。麌。㋺シュ、ス。殊遇切。遇。㋩タン。徒緩切。旱。❶やぶれごろも(敝衣)❷豎人の衣ろ布の長襦。

【裋褐不レ完】粗服なも著けざろ程貧しきをいふ。漢書、貢禹傳に「妻子糠豆不レ贍、裋褐不レ完」

【裎】㋑テイ、ヂャウ。直貞切。庚。㋺テイ、チャウ。丑郢切。梗。㋑❶はだか❷ひとへもの(單衣)❸おび(佩帶)㋺深衣。

【裎袒】はだなぬぐ。

【裏】リ。良士切。紙。うら、うち。

【裏面】うらがは。表面の對。

【裏風草】(植)かはらざいこ。

【裡】リ。裏の俗字。

【裑】シン。升人切。眞。みごろ(衣身)。

【裊】デウ、ネウ。褭の俗字。

【裒】㋑ホウ、ブ。薄侯切。尤。㋺ヒウ、ブ。房尤切。尤。㋩ハウ、ボウ。博毛切。豪。㋑㋺❶あつまる、あつむ(聚)❷へらす、へろ(減)❸おほし(多)㋩襃に同じ。

【裓】㋑コク。古得切。職。㋺カイ。居諧切。佳。㋩カイ、ガイ。柯開切。灰。㋥カツ、ケチ。訖黠切。黠。㋑佛家の花な盛りて佛に擎ぐろ器具(衣裓)㋺いしだたみのみち㋩㋥一種の樂。

【裖】シン。章忍切。軫。❶かさなりたたむ(襞致)❷ぎしきのころも、はれぎ(玄服)。

【裔】エイ。餘制切。霽。❶すそ、もすそ(衣裾)❷かたほとり、くにざかひ、えびす❸ほとり、さかひ、はて(邊涯)❹すゑ、つづき、あとつぎ(後嗣)❺ゆく貌、むらがりゆく貌❻飛びながろ貌❼ながくつづく貌、高低ある貌❽ほしいままなろ貌。

【裔胄】遠き子孫。左傳に「是四嶽之裔胄也」

【裔裔】❶行く貌。子虛賦に「纚乎淫淫、般乎裔裔」❷飛び流ろ貌。漢書に「靈之來神哉、沛先以レ雨般裔裔」

【裕】㋑ユ。羊戍切。遇。㋺ユウ。慣用音。ゆたか、のびやか。

【裕裕】ユウユウ 心のゆろやかなる貌。白居易「窮通各有レ命、不レ繫二才不才一、推レ此自裕裕、不三必待二安排一」

【裗】リウ、ル。力求切。尤。㊀うちかけのかざり㊁いとすぢ(衣縷)。

【裘】キウ、グ。巨鳩切。尤。かはごろも(皮衣)。

【裘葛】キウカツ かはごろもとかたびらと。一年に必ず一たび被易ふるものなれば一年の義に用ゐる。韓愈「夏葛而冬裘」又、柳貫「裘葛亦何事、爲レ人司二暑寒一」

【裘裳】キウシヤウ かはごろものもすそ。禮記に「童子不レ衣二裘裳一、立必正方」

【裘褐】キウカツ かはごろも。晉書に「北土早寒、三軍裘褐者少、恐不レ可二以涉一レ冬」

【裙】クン、ゴン。渠云切。文。㊀もすそ(下裳)㊁はだき㊂へり(鼈の甲の邊)。

【裙帽】クンバウ したぎとばうしと。南史に「止著二裙帽一如二家人之禮一焉」

【裙襦】クンジユ はだぎ。南史に「帝甚異レ之賜二裙襦絹等一云」

【裓】セイ、サイ。子計切。霽。たつ、きる(斷)。

【裛】㋑イフ、オフ。於汲切。緝。㋺エフ、オフ。乙業切。葉。㋑㊀まとふ(纏)㊁かうばし、かうばしきころも㋺ほんいれ(書囊)。

【補】ホ、フ。博古切。麌。㊀おぎなふ、おぎなひ㊁たすく(助)㊂ます(益)㊃官職に敍す㊄つくろふ、つくろひ㊅つぎなほす。

【補正】ホセイ 不足せる所をおぎなひただす。何承天「若謬有レ可レ採、庶或補正、以備二萬分一」

【補充】ホジユウ 不足をおぎなひみたす。

【補完】ホクワン おぎなひまったくす。宣和畫譜に「後之名手、莫二能補完一」

【補治】ホヂ おぎなひをさむ。王安石「牆屋稍補治」

【補定】ホテイ おぎなひさだむ。晉書に「喪服最多二疑闕一、宜レ見二補定一」

【補苴】ホシヨ おぎなふ。韓愈「補二苴罅漏一、張二皇幽眇一」

【補胃】ホヰ ゐぶくろをととのふ。梁昭明太子「不周之禾、調レ腸補レ胃」

【補缺】ホケツ かけたるをおぎなふ。淮南子に「周公以レ義補レ缺、桓公以レ功滅レ醜」

【補破】ホハ やぶれたるをおぎなふ。黄庭堅「瓢空且レ乞レ飯、兒寒敎レ補レ破」

【補益】ホエキ たすく。おぎなふ。(裨益)。後漢書に「願諸女各寫二一通一、庶有レ補二益裨一助汝身一」

【補理】ホリ おぎなひをさむ。後漢書、光武紀に「分レ將施レ刑、補二理城郭一」

【補授】ホジユ 職務をさづく。晉書、劉弘傳に「弘迺敘レ功銓レ德、隨レ才補授」

【補短】ホタン みじかきをおぎなふ。孟子に「今滕截レ長補レ短、將二五十里一也」

【補貼】ホテフ やぶれをつくろふ。方岳「身似二漏船一難二補貼一」

【補植】ホシヨク うゑたす。金史に「桒樹槁者、命補二植之一」

【補葺】ホシフ 家屋城壁などをつくろふ。(修葺)。王安石「茅竹隨二補葺一」

【補綴】ホテイ おぎなひつづる。とりつくろふ。禮記に「衣裳綻裂、紉箴請二補綴一」

【補綻】ホタン ほころびをぬふ。杜甫「牀前兩少女、補綻才過レ膝」

【補弊】ホヘイ やぶれをつくろふ。蜀志、注に「補レ弊興レ衰、存二復祖業一」

【補緝】ホシフ おぎなひあつむ。江總「門人補緝、若レ逢二邃東之木一」

【補選】ホセン 人物をえらび職務を授く。晉書に「時刑部守宰多レ闕、劉弘請二補選一」

【補遺】ホヰ もれたるをおぎなふ。

【補導】ホダウ おぎなひみちびく。魏志に「左慈知二補導之術一」

【補罅】ホカ 缺點をおぎなふ。陸游「屋漏徙二我牀一、窗破補二其罅一」

【補陀落】フダラク 〔佛〕(梵語 *Putalaka.*)海島と譯す。觀音の出現せる靈地と信ぜられ、觀音に關することに用ゐらるる語。祖庭事苑に「西域記云、梵語寶陀洛伽山、此言二孤絶處一、觀自在菩薩所レ居之山、在二南海中一」

【補袞實】ホコン 宰相たるはたらき。袁桷「緬想垂裳治、深求補袞實」

【補レ過拾レ遺】クワヲオギナヒ ヰヲヒラフ 君德の缺けたる所あるをおぎなふ。漢書に「出二入禁闥一、補レ過拾レ遺」

【裝】シヤウ、サウ。側羊切。陽。㊀よそほふ㊁もたらす(齎)㊂つつむ(裹)、をさむ(藏)㊃つつみ㊄かざり㊅かざる、ととのふ。

【裝束】シヤウゾク みじたく。又、いでたち。搜神記に「時已日暮、出告二從者一曰、速裝束、吾當二夜去一」

【裝具】サウグ けしやう道具。宋史に「因レ貧欲レ求レ養、但出二裝具一給レ之」

【裝著】サウチヤク 衣物をきかざる。李義山雜纂に「枉屈、有二疋帛一不二裝著一」

【裝置】サウチ しかけ。こしらへ。

【裝飾】サウシヨク よそほひかざる。齊書、皇后傳に「聞二鐘聲一早起裝飾」

【裝緝】サウシフ よそほひあつむ。洪邁「每レ獲二一書一、卽日勘校裝緝」

【裝潢匠】サウクワウシヤウ 表具師。唐書に「有二楷書手筆匠三人、熟紙裝潢匠八人一」

【裞】セイ、ゼ。舒芮切。霽。㊀死者におくる被衣㊁日月已に過ぎて後に喪をききて忌服をなすこと。

【裟】サ、セ。師加切。麻。けさ(袈裟)。

【裠】クン、ゴン。裙に同じ。

八畫

【裧】㋑セン、ソン。處占切。鹽。㋺セン。昌豔切。豔。㋩タン、トン。吐敢切。感。㋑㊀へり(邊緣)㊁たれぎぬ(裳帷)㋺ころもを披く㋩けごろも(毳衣)。

【裨】ヒ。府移切。支。㊀おぎなふ、ます、つくろふ㊁くみす(與)、つく(附)㊂たすけ(補佐)㊃ちひさし(小)。

【裨助】ヒジヨ たすく。たすけ。宋史に「惟直言可下以裨二助君德一、感中格天心上」

【裨將】ヒシヤウ 副將軍。漢書に「梁爲二會稽將一、籍爲二裨將一」

【裨補】ヒホ たすけおぎなふ。(毗補)。吳志に「孤豈不下樂二忠言一以自裨補上邪」

【裨輔】ヒホ たすく。たすけ。唐書、褚亮傳に「亮在二軍中一、嘗預二祕謀一、有二裨輔之益一」

【裪】㋑タウ、ドウ。徒刀切。豪。㋺陶に通ず。㋑㊀そで(衣袖)㊁そでさき(袖襟)。

【裮】シヤウ。蚩良切。陽。おびひろはだか。

【裯】㋑チウ、ジユ。直由切。尤。㋺タウ、トウ。都勞切。豪。㋩チユ、ヂユ。直誅切。虞。㋑㊀とばり㊁ふすま㋺㊀じゅばん(衹裯)㊁たもと(袂)㋩ひとへぎぬ(襌衣)。

【裯衽】チウジン しとね。說苑に「左二裯衽一、右二朝服一」

【裰】タツ、タチ。丁括切。曷。つづろ。

【裱】㋑ヘウ。方廟切。嘯。㋺襮に同じ。㋑ひれ(領巾)。

【⿰衤甫】ヘツ、ヘチ。方結切。屑。㊀やぶれごろも㊁そで(袖袂)。

【裲】リヤウ、ラウ。里養切。養。うちかけ。

【裳】シヤウ、ジヤウ。市羊切。陽。㊀も、もすそ、はかま㊁堂堂たる貌。

【裳裳】シヤウシヤウ 堂堂たる貌。詩經に「裳裳者華、其葉湑兮」

【裳繡】シヤウシウ もすそにぬひもやうす。唐書に「衣畫裳繡、以象二天地之色一也」

【䘹】サイ、セ。祖對切。隊。㊀ひとへぎぬ(襌衣)㊁きがへ(副衣)。

【裴】㋑ハイ、ベ。薄回切。灰。㋺ヒ、ビ。符非切。微。㋑㊀長き衣の貌㊁徘に通ず㋺縣の名。

【⿰衤疌】㋑シフ。七入切。緝。㋺サフ、セフ。色甲切。洽。㋑㊀えりのへり(襟緣)㊁ぬふ㋺やぶる、やる(祉徒)。

【裶】ヒ。芳非切。微。ころものながき貌、ころもなびく貌。

【裷】㋑エン、ヲン。於袁切。元。㋺ケン、コン。去阮切。阮。❶かしらづつみ(帊幞)❷袞に同じ。

【⿰衤定】タン、デン。テン、デン。綻に同じ。

【裸】ラ。郎果切。哿。はだか、あかはだか(赤體)。

【裸臥】はだかになりていぬ。易林に「裸臥失㆑明、褁㆓我貝囊㆒」

【裸跣】はだかはだし。新論に「是清旦冠履、而昏夜裸跣也」

【裸裎】はだをあらはす。はだか。孟子に「雖㆘袒㆓裼裸㆒裎於我側㆖、爾焉能浼㆑我哉」

【裸體】前に同じ。吳志に「男女裸體、不㆓以爲㆑羞」

【裺】㋑エン。於檢切。琰。㋺エン。於劍切。豔。㋑❶へり(緣)❷えり(領)❸馬に飲ふ橐(裺篼)㋺❶ひろし、衣寬し❷襦。

【裹】クワ。古火切。哿。❶つつむ、つつみ(包)❷ふさ(房)❸草の實❹たから(財貨)。

【裹足】進まざる義。史記に「使㆔天下之士退而不㆓敢西向㆒、裹㆑足不㆓入㆑秦」

【裹糧】くひものをつつむ。詩經に「廼裹㆓餱糧㆒、于㆑橐于㆑囊」

【裻】トク。冬毒切。沃。❶かたへぎぬ(偏衣)❷せぬひ。

【⿰衤宛】エン、ヲン。委遠切。阮。❶たび(襪)❷そでのはし。

【裼】㋑セキ、シャク。先擊切。錫。㋺テイ、ダイ。他計切。霽。㋑❶はだぬぐ❷ひとへのかはごろも㋺❶むつき(褓)❷ねまき(夜衣)。

【製】セイ。征例切。霽。❶したつ、たつ(裁)❷つくる(造)❸あまぎ(雨衣)❹かたち、かた(形式)❺ころも(衣服)❻すがた(姿儀)。

【製形】かたちをつくる。古畫品錄に「賦㆑彩製㆑形、皆創㆓新意㆒」

【製造】つくる。徐陵「燒㆓其苦器㆒、製㆓造華燈㆒」

【製筆】ふでをつくる。筆經に「製筆之法、桀者居㆑前、毳者居㆑後、強者爲㆑刃、弱者爲㆑輔」

【製裁】つくる。又、つくりかた。顏氏家訓に「宜㆘以㆓古之製裁㆒爲㆑本、今之辭調爲㆖㆑末」

【⿰衤兒】㋑ゲイ、ガイ。五稽切。齊。㋺ゲツ、ゲチ。倪結切。屑。❶いと(衣縷)❷袿衣のかざり。

【裿】㋑キ。去倚切。紙。㋺イ。隱綺切。紙。㋑❶はだき(襌袴)㋺❶うつくし、よし(好)❷衣の貌(裿袉)。

【裾】㋑キョ、コ。九魚切。魚。㋺居御切。御。㋑❶すそ(衱)❷ふすま(被)❸うちき(袍)❹衣服のさかんなる貌㋺❶おごろ(倨に同じ)❷項を直くすること。

【裾香】すそのかをり。劉禧「迴履裾香散、飄彩鈿響傳」

【裾裾】衣服の盛んなる貌。荀子に「子路盛服、見㆓孔子㆒。孔子曰、由是裾裾何也」

【⿰衤屈】クツ、コチ。衢物切。物。そでなしばおり。

【褄】〔國字〕つま。

九畫

【⿰衤青】タ、ダ。徒臥切。箇。そでなし。

【⿰衤臿】㋑シフ、ソフ。初戢切。緝。㋺サフ、セフ。側洽切。洽。㋑ふたへ、へり㋺つかぬる貌(⿰衤臿略)。

【複】フク、ホク。方六切。屋。❶あはせ、わたいれ(褚衣)❷かさぬ、かさなる(重)❸ふたたびす。

【複衣】きものをかさねてきる。南史に「房伯玉患㆑冷、夏月常複㆑衣」

【複閣】かさなりたるたかどの。王勃「複閣重樓向㆑浦開、秋風明月渡㆑江來」

【複壍】二重にめぐらしたるほり。李商隱「長溝複壍埋㆓雲子㆒」

【複數】二つ以上のかず。

【複道】かけはし。史記に「殿屋複道、周閣相屬」

【複寫】一度うつしたるものを更にうつす。

【複壁】二重にめぐらしたるかべ。後漢書に「藏㆓岐複壁中㆒」

【複嶺】かさなれるみね。(疊嶂)。胡曾「重岡複嶺勢崔嵬、一卒當㆑關萬卒回」

【複雜】かさなりまじる。いりくむ。

【複觀】かさなりたるものみ。張養浩「層樓複觀此誰構」

【褈】㋑チョウ、ヂュ。直容切。冬。㋺チョウ、チュ。儲用切。宋。㋑❶かさぬ、かさなる(重)❷あつし(厚)❸ます(增)㋺きぬいと(綸縷)。

【褊】㋑ヘン。畢緬切。銑。㋺ヘン、ベン。蒲眠切。先。㋑❶せまし(狹)、ちひさし❷むねせまし、きばやし㋺ころもの貌(褊褷)。

【褊小】せまくしてちひさし(狹小)。左傳に「衞國褊小」

【褊心】かたよりたるこころ。詩經に「維是褊心、是以爲㆑刺」

【褊急】きみじかなり。詩經、序に「其君儉嗇褊急、而無㆓德以將㆑之」

【褊促】前に同じ。南史、何承天傳に「承天性褊促」

【褊陋】せまし。漢書に「學問褊陋」

【褊狹】かたよりてせまし。北史に「土地褊狹不㆑如㆑魏」

【褊隘】前に同じ。南史、王弘傳に「弘性褊隘、人有㆑忤㆑意、輒加㆓詈辱㆒」

【⿰衤要】エウ。伊消切。蕭。こしおび。

【褋】テフ、デフ。徒協切。葉。ひとへぎぬ(襌衣)。

【⿰衤冒】バウ、モウ。莫報切。號。こどものづきん。

【⿰衤施】イ。袘、袉に同じ。

【褌】コン。古渾切。元。したおび、ふんどし、したもひき。

【⿰衤突】トツ、ドチ。陀沒切。月。ふんどし。

【褎】㋑シウ、ジュ。似救切。宥。㋺イウ、ユ。余救切。宥。㋑そで(袖に同じ)㋺❶衣服の飾の貌❷すすむ(進)❸のぶ(盛長)。

【褎如充耳】唯笑ふのみにて耳をふさぎてきかざるなり。一解に、大夫褎然として尊盛の服ありて稱ふ能はざるなりと。詩經に「叔兮伯兮、褎如㆓充耳㆒」

【褓】ハウ、ホウ。博抱切。皓。むつき、かいまき、しきもの。

【褓乳】幼少なり。鄭俠「汝生未㆓三月㆒、正當時褓乳」

【褐】カツ、カチ。胡葛切。曷。❶けごろも(毛布)❷あらきぬの(麤布)❸いやしきもの(賤者)❹ぬのこ(縕衣)。

【褐父】褐は毛布なり、毛布を被る賤者。左傳に「旨酒一盛兮、予與㆓褐之父㆒睨㆑之」

【褐夫】あらき毛織の布を著したるいやしき者。孟子に「如㆑刺㆓褐夫㆒」疏に「被㆑褐之獨夫」

【褐寬博】いやしき者のきる服。又、いやしき者。孟子に「不㆑受㆓於褐寬博㆒、亦不㆑受㆓於萬乘之君㆒」

【褑】エン、チン。王眷切。願。おび(佩衿)。

【⿱封衣】ホウ、フ。補孔切。董。❶あさぐつ❷こどもの皮履、かはぐつ。

【褕】㋑ユ。羊朱切。虞。㋺エウ。餘照切。嘯。㋩トウ、ヅ。徒侯切。尤。㋑❶きじのはねにて衣を飾れるもの❷ひとへぎぬ(襜褕)❸衣うつくし㋺雉雞の畫ある衣服(褕狄)㋩❶はだぎ❷みじかきそでの襦袢(裋褕)。

【褕衣】うつくしききもの。史記に「褕

衣甘食、傾レ耳以待レ命」

【褖】タン、ダン。吐玩切。翰。あかきふちある黒色の衣裳。

【褗】エン、オン。於建切。阮。㊀えり(衣領)㊁おほふ(隱蔽)。

【褋】ケイ、ケ。睽桂切。霽。すその分かれたること。

【褍】㋑ゼン、ナン。而緣切。先。㋺ゼン、ナン。乳兗切。銑。㋩ダン、ナン。乃管切。旱。㋑㊀ぬのこ(褐)㊁衣を促ばめ縫ふ㋺ちぢむ、ちぢまる㋩みじかき襦。

【褘】㋑キ。許歸切。微。㋺キ。雨非切。微。㋩委に通ず。㋑皇后の祭服にて雞雉の彩文あるもの㋺㊀にほひぶくろ、きんちやく(幃に通ず、香纓)㊁ひざかけ(蔽膝)㊂うつくし(美)。

【褚】㋑チョ、ト。張呂切。語。㋺シャ、セ。止野切。禡。㋑㊀よそほふ、わたをいる㊁わたいれ㊂ふくろ(嚢)㊃たくはふ(蓄)㊄棉を覆ふもの㋺こころものあかきこと。

【褚橐】チヨタク ふくろ。歐陽修「二生固是天下寶、豈與二先生一私二褚橐一」

十畫

【褞】㋑ウン、オン。於粉切。吻。㋺ヲン。烏昆切。元。㋑㊀うはぎ(袿)㊁ころも(衣)㋺ぬのこ(褐衣)。

【褞袍】ヲンパウ ぬのこ。どてら。論語に「衣二敝褞袍一、與下衣二狐貉一者上立而不レ恥者、其由也與」

【䙏】ハク、バク。伯各切。藥。㊀短袂のかたびら㊁ひとへぎぬ(襌衣)㊂襮に同じ。

【褠】コウ、ク。古侯切。尤。㊀ひとへのつつそで㊁うでぬき(臂衣)㊂あはせ(褶衣)。

【褡】タフ、トフ。都合切。合。㊀こよぎ(小被)㊁衣やぶる。

【褢】クワイ、ヱ。懷に同じ。

【䑑】サイ、セ。衰に同じ。

【䙊】㋑サイ、セ。所拜切。卦。㋺サツ、セチ。山戛切。黠。㋩襏に同じ。㋑㊀ころもの幅をそぐ㊁ころもななめにぬふ㋺ころものぬひあまり。

【褥】㋑ジョク、ニク。而蜀切。沃。㋺ドク、ノク。奴沃切。沃。㋑しきもの、しとね㋺こどものころも。

【褥席】ジヨクセキ しとね。南史に「吾昔夢下大尉以二褥席一見上レ賜」

【褦】ダイ、ナイ。乃代切。隊。暑中に盛服を著すること、轉じて、事情に通ぜざるに喩ふ、又、熱にくるしむこと。

【褦襶】ダイタイ 暑中に盛服して、まみゆるを乞ふこと。轉じて、事情に通ぜざるにいふ。程曉「今世褦襶子、觸レ熱到二人家一、主人聞二客來一、顰蹙奈レ此何」

【褧】ケイ、キヤウ。口迥切。迥。ひとへぎぬ(襌衣)。

【褨】㋑サ。蘇可切。哿。㋺サ、セ。鋤加切。麻。㋑ころものながき貌㋺かたぬぐ。

【褪】トン。吐困切。願。㊀おろす、衣を卸す㊁あす、さむ、おつ、花の色さむ。

【褫】㋑チ、ヂ。池爾切。紙。㋺直吏切。寘。㋩イ。演爾切。紙。㋥シ。相支切。支。㋭チ、ヂ。陳知切。支。㋑はぐ、うばふ㋺とく(解)、ぬぐ(脫)㋩㋥そふ(副)㋭㊀しきもの(褥衣)㊁けむしろ(毛氈)。

【褫奪】チダツ はぐ。うばふ。

【䙕】㋑カツ、カチ。古曷切。曷。㋺カイ、ケ。居拜切。卦。㋑衣の上、又、衣の上にまとふ羅㋺うはぎ(上衣)。

【䙅】㋑キク、コク。許六切。屋。㋺チク、トク。丑六切。屋。㊀たくはふ(稸)㊁をさむ(藏)㊂うばふ(褫)。

【褭】デウ、ネウ。乃鳥切。篠。組紼を馬の腹に帶すること。

【褯】セキ、シャク。祥亦切。陌。しきもの(蓆)。

【褰】ケン。丘虔切。先。㊀はかま(袴)㊁かかぐ(挙)㊂ちぢむ(縮)。

【褰裳】ケンシヤウ もすそをかかぐ。詩經に「子惠思レ我、褰レ裳涉レ溱」

【褱】クワイ、ヱ。懷の古文字。

【褜】㋑ジョウ、ニュ。乳勇切。腫。㋺ゼン、ネン。乳兗切。銑。羽獵のときに著くる韋袴、かはばかま。

十一畫

【褵】リ。呂支切。支。きんちやく、にほひぶくろ(幃)。

【褶】㋑テフ、デフ。徒協切。葉。㋺シフ、ジフ。席入切。緝。㋑㊀あはせ(袷衣)㊁かさね(襲衣)㋺騎兵の著くるはかま(袴褶)。

【䙔】㋑オウ、ウ。烏侯切。尤。㋺ウ。區俱切。虞。㋩シュ、ス。春朱切。虞。㋥ウ。委羽切。麌。㋑よだれかけ㋺㋩わたいれのづきん㋥枲にてあみたる衣。

【褷】シ。山宜切。支。毛羽の貌。

【䙕】㋑ショウ、シュ。息拱切。腫。㋺ソウ、ス。祖叢切。東。ひとへぎぬ(襌衣)。

【褸】㋑ロウ、ル。落侯切。尤。㋺ル、ロ。力主切。麌。㋑えり(衣襟)、おくび(衽)㋺衣壞る、やれごろも、ぼろ、つづれ。

【𧝓】ハウ、ヒヤウ。繃に同じ。

【䙝】㋑ゲイ。魚祭切。霽。㋺ダイ、ネ。女介切。卦。㋩ダツ、ナチ。女黠切。黠。㋑㊀たもと(袂)㊁かさねじゅばん(複襦)㋺㋩つづれぬのこ。

【褻】セツ、セチ。私列切。屑。㊀なかぎ(裏衣)㊁ふだんぎ(私服)㊂けがる(穢)㊃やぶれぎれ、ぼろ㊄なる(媟に通ず)。

【褻言】セツゲン いやしきことば。

【褻服】セツフク ふだんぎ。なかぎ。論語に「紅紫不三以爲二褻服一」

【褻器】セツキ おまる。便器。史記に「呂靜曰、褻器也、穢惡之穴也」

【褻瀆】セツトク けがす。

【褽】キ。於胃切。未。㊀しく(藉)㊁えり(衣衽)。

【褾】㋑ヘウ。方少切。篠。㋺卑妙切。嘯。㋑㊀そではし(袖端)㊁裘のかざり㋺そで、たもと(衣袂)。

【䘹】シュツ、シュチ。所律切。質。みじかきころも(裾褘)。

【䙌】カフ、コフ。苦盍切。合。うちかけ。

【褿】㋑サウ、ゾウ。咋勞切。豪。㋺セウ、ゼウ。慈焦切。蕭。㋑㊀すそ(帬)㊁あかつく、よごろ㊂えり、おくび(衽)㊃しきもの㋺㊀かたぬぐ(袒)㊁衣齊ひて好し。

【襀】セキ、シャク。資昔切。陌。ひだ(襞)。

【襁】キャウ、カウ。居兩切。養。むつき、かいまき、せおひおび。襁を以て小兒をせおふ。論語に「夫如レ是則四方之民、襁二負其子一而至矣」

【襁負】キヤウフ

【襁褓】キヤウハウ むつき。(强葆)。漢書に「曾孫雖レ在二襁褓一、猶坐收二繫郡邸獄一」

【䙪】エイ、アイ。煙奚切。齊。よだれかけ。

【䙪絡】エイカク よだれかけ。揚子方言に「䙪絡謂二之褔一」

【襂】㋑シン。疎簪切。侵。㋺サン、セン。師銜切。咸。㋑羽毛の垂るる貌㋺はたあし(旌旗の斿)。

【䙯】㋑ショ、ソ。創擧切。御。㋺シュク、ソク。子六切。屋。㋑㊀うつくし㊁あざやか(鮮)㋺㊀よき

ころも(好衣)二衣の鮮明なる貌。

【褒】ゆハウ、ホウ。博毛切。豪。ろホウ、ブ。蒲侯切。尤。ゆ一おほすそ(大裾)二ほむ(奬揚)三谷の名(褒斜)四人の姓ろあつまる、あつむ(聚)。

【褒成】ハウセイ 孔夫子をいふ。前漢の孝平帝の元治元年に孔子の後子均を褒成侯に封じ、孔子を追祀して褒成宣尼公といふ云云。漢書、平帝紀に見ゆ。楊炯「尊二褒成之厚級一、殷二崇聖之榮班一」

【褒嘉】ハウカ ほめよみす。宋元「國封嚴二典禮一、宮祀尙二褒嘉一」

【褒稱】ハウシヨウ ほまれ。後漢書に「乃上疏褒二稱盛美一、因以勸二成風德一」

【褒賜】ハウシ ほめて物をたまふ。漢書に「此鼎殆周之所三以褒二賜大臣一」

【褒賚】ハウライ 前に同じ。北史に「以レ時褒賚、厲二其忠款一」

【褒錫】ハウシヤク 前に同じ。范檸「公卿奏二天子一、是必有二褒錫一」

【褒勸】ハウクワン ほめすすむ。文心雕龍に「書中能盡二褒勸警飭之意一」

【褒讃】ハウサン ほむ。魏志、許褚傳に「帝思二褚忠孝一、下レ詔褒讃」

【褒衣博帶】ハウイハクタイ ゆるやかなる服なき、ひろきおびをしむ、儒者の服。五代史、周太祖紀に「威二居軍中一、延二見賓客一、褒衣博帶」

【襄】ゆシャウ、サウ。息良切。陽。ろジャウ。慣用音。一のぼる、あがる二はらふ(除)三なす(成)四のろ、のりもの(駕)五かへる(返)六衣を解きて耕すこと。

【襄陵】ジヤウリヨウ 水、陵上にのぼる。書經に「浩浩懷レ山襄レ陵」

【䙜】ホウ、ブ。符容切。冬。又縫に作る。

【𧞍】ショク、ゾク。襡に同じ。

【襅】〔國字〕 一ちはや(襷の類)。二ちはや(巫女の服)。

十二畫

【襈】ゆセン、ゼン。士戀切。霰。ろケン、ガン。渠眷切。霰。ゆへり、ふち(緣)ろ縉を重ぬ。

【𧞈】カ。胡箇切。箇。そで(褏袖)。

【襔】ケツ、ケチ。古穴切。屑。そで(袖)。

【𧞤】トウ。都騰切。蒸。けおりのおび(毛帶)。

【襇】カン、ケン。古莧切。諫。すそ(裙)、すその襵、ひだ。

【襊】ゆセイ、セ。取外切。泰。ろサツ、サチ。麤括切。曷。ゆ衣の遊縫、ぬひろろ一えり(衣領)二しろぬののかんむり。

【襋】キョク、ケキ。訖力切。職。えり(衣領)。

【襌】タン。多寒切。寒。一ひとへもの(單衣)二はだぎ(汗襦)。

【襍】サフ、ゾフ。雜に同じ。

【襏】ハツ、ハチ。北末切。曷。一あまぎ(雨衣)二長さ三尺あるころも三えびすのきもの。

【襏襫】ハツセキ あまぎ。かっぱ。管子に「身服二襏襫一」

【𧞒】ゆショウ、シュ。昌容切。冬。ろタウ、ドウ。傳江切。江。はチョウ、ヂュ。褈に同じ。ゆひとへぎぬ(襜褕)ろきもの(衣)。

【襐】シャウ、ザウ。徐兩切。養。あたまかざり。

【𧞦】レキ、リャク。狼狄切。錫。まとふ、まとひつつむ(纏裹)。

【襀】ゆキ。丘愧切。寘。ろ績に同じ。ゆ一ひも(紐)二ころものいと。

【襘】ゆショウ、ソウ。子孕切。徑。ろショウ、ゾウ。慈陵切。蒸。はソウ。子鄧切。徑。ゆろはだぎ(汗襦)はあはせ(複)。

【橫】クワウ、ワウ。戶盲切。庚。こよぎ(襶褡)。

【襒】ヘツ、ベチ。蒲結切。屑。はらふ、ころもにて拂ふ。

【襓】ゼウ、ネウ。如招切。蕭。つるぎぶくろ(劍衣)。

十三畫

【襖】アウ、オウ。烏皓切。皓。うはぎ(袍)。國訓ふすま。

【襗】ゆタク、ダク。達各切。藥。ろエキ、ヤク。羊益切。陌。ゆはかま(袴)、したぎろながじゅばん(長襦)。

【襘】クヮイ、エ。古外切。泰。一えりあひ(領會)二ころもの綬きおび三むすびめ。

【襚】スヰ、ズヰ。徐醉切。寘。一衣を死人におくること二きやうかたびら。

【襛】ヂョウ、ニュ。女容切。冬。ころもの厚き貌。

【襜】セン、ソン。處占切。鹽。一わき(衣の掖下)二とばり(帷)三まへだれ(衣の前を蔽ふ服)四ととのへる貌五動く貌。

【襜如】センジヨ ととのへる貌。論語に「揖所二與立一、左二右手一、衣前後襜如也」

【襝】ゆレン、ロン。離鹽切。鹽。ろセン、ソン。襜に同じ。ゆ衣のたるる貌。

【襞】ヘキ、ヒャク。必益切。陌。一たたむ二ひだ。

【襟】キン、コン。居吟切。侵。一えり二むね、こころ(胸臆)。

【襟抱】キンハウ ふところ。韋表微「納二顥氣于襟抱一」

【襟度】キンド こころのうち。度量。宋史に「推レ誠待レ物、襟度豁如也」

【襟袂】キンベイ えりとたもとと。杜甫「人生意頗合、相與襟袂連」

【襟情】キンジヤウ こころ。(悔情)。唐詩紀事に「泉飛二藻思一、雲散二襟情一」

【襟帶】キンタイ 山そびえ、襟に喩ふべく、川めぐりて帶に喩ふべき要害の地。唐書に「豐州控レ河遏レ寇、號爲二襟帶一」

【贏】ラ。裸に同じ。

【襢】キャウ、カウ。襁に同じ。

【襠】タウ。都郞切。陽。一胷と背とに當て著くる衣服、うちかけ(裲襠)二したもも、ひき、したおび、ふんどし(褻袴)。國訓まち。

【襡】ゆショク、ゾク。市玉切。沃。ろトウ、ヅ。徒口切。有。はタク、ドク。ほトク、ドク。徒谷切。屋。にトウ、ツ。當口切。有。ゆ一ながしたぎ(長襦)二こしまきろはみじかき衣にそで(袖)ほつつむ、ふくろ(韜)。

【襢】ゆタン、ダン。徒旱切。旱。ろテン。知演切。銑。は陟扇切。霰。に時戰切。霰。ほ諸延切。先。へセン、ゼン。澄延切。先。ゆかたぬぐ(裼)ろ物の上を障はざるにいふは正白にて文采なき衣にうはぎなぬぐほ旃に同じへひとへ。

【襢裼】タンセキ かたぬぐ。詩經に「襢裼暴レ虎、獻二于公所一」

十四畫

【襩】ゆタク、トク。竹角切。覺。ろトク。都木切。屋。一おぎなふ(補)二ながきころも三ころもたれて地に至ること。

【襣】ヒ、ビ。毗至切。寘。ふんどし(褌)。

【襤】ラン、ロン。魯甘切。覃。一ふちなきころも二ぼろ、つづれ(襤褸)。

【襤褸】ランル ぼろのきもの。つづれ。揚子方言に「南楚凡貧衣被醜弊、或謂二之襤褸一」

【䙎】クン、コン。許云切。文。一うすあかいろ(淺絳色)二三たびそめたるあか。

【襦】ジュ、ニュ。人朱切。虞。じゅばん、したぎ。

【襦袖】ジユシウ はだぎのそで。唐書に「襦袖

不レ過二一尺五寸一」

【襦袴】はだぎとはかまと。禮記に「衣不レ帛二襦袴一」

【𧞫】シュク、ソク。子六切。屋。よき衣の皃。

【襧】シャ、セ。子夜切。禡。こどものおび。

【𧞤】クワ。古火切。哿。つつむ(包)。

【𧝐】キュウ、ク。匣東切。東。つよし(强)。

十五畫

【襩】(ゆ)ショク、ゾク。市玉切。沃。(ろ)トク、ドク。徒谷切。屋。(ゆ)韣に同じ(ろ)ふくろ(韜)。

【襪】バツ、モチ。望發切。月。たび(足衣)。

【襫】セキ、シャク。施隻切。陌。あまぎ(雨衣)。

【襬】ヒ。彼爲切。支。すそ、もすそ(裳)。

【襭】ケツ、ゲチ。胡結切。屑。上衽を帶に挾む、つまばさむ。

【襮】(ゆ)ハク。布各切。藥。(ろ)ホク、ボク。逋沃切。沃。❶えり(領)❷おもて(表)。

【𧞻】(ゆ)ラフ、ロフ。力盍切。合。(ろ)レフ。力涉切。葉。(は)やぶる(ろ)衣の皃。

十六畫

【襯】シン。初覲切。震。❶はだぎ、じゅばん❷ほどこす(施與)❸ちかづく(接近)。

【襱】(ゆ)ロウ、ル。盧紅切。東。(ろ)リョウ、リュ。良用切。宋。(ゆ)はかま(袴)、袴の兩股(ろ)ころもの寛き皃(襱褈)。

【𧟀】(ゆ)キ。夷佳切。支。禨に同じ。(ろ)ころも(衣)。

【襲】シフ。似入切。緝。❶あふ、あはす(合)❷よる(因)❸かさぬ、かさなる(重)❹いる(入)❺うく(受)、つぐ(繼)❻おそふ、よそほふ❼かさねぎ、かされ❽上下の衣具はること、そろひ。

【襲因】つぐ。したがふ。(因襲)。李尤「周氏舊居、維漢襲因」

【襲來】おそひきたる。

【襲封】諸侯の領地をつぐ。春秋胡傳に「古者諸侯、繼レ世襲レ封」

【襲殺】おそひころす。唐書に「建德襲二殺其軍數千人一」

【襲虛】敵の備なき處を不意にうつ。郭英乂「選二驍騎一以襲レ虛、張二疑兵一以應レ敵」

【襲擊】不意に敵をうつ。おそひうつ。魏志に「曹操遣二奇兵一襲擊」

【襰】ライ、レ。洛駭切。蟹。❶衣やぶる❷やぶる(壞墮)。

十七畫

【襳】(ゆ)セン、ソン。自廉切。鹽。(ろ)シン、ソン。所今切。侵。(は)襂に同じ。(ゆ)❶小さき襦❷おび❸袿衣の長帶❹毛羽の皃(襳襹)(ろ)毛羽の皃(襳襹)(は)はたあし。

【𧞬】(ゆ)アウ、ヤウ。繄迸切。敬。(ろ)於塋切。庚。(ゆ)❶すそのひだ(裙襉)❷あや、まだら(錯綵)(ろ)あや、まだら(錯綵)。

【𧟃】ケン。去乾切。先。はかま(袴)。

【襴】ラン。郎干切。寒。ひとへ(衫)、衣と裳との連れる服(幱に通ず)。

十八畫

【襵】(ゆ)セフ。之涉切。葉。(ろ)褶に同じ。(ゆ)❶かがむ(詘)❷ひだ、しわ。

【襶】タイ。丁代切。隊。おろかなり、事を曉らざること(襶襶)。

【襷】〔國字〕たすき。

十九畫

【襸】サン。則旰切。翰。❶衣の好き皃、うるはし(妍)❷うるはしき衣。

【襹】シ。所宜切。支。毛羽の皃。

【襳襹】毛羽の皃。西京賦に「被二毛羽之襳襹一」

【襺】ケン。古典切。銑。わたいれ。

【襻】ハン、ヘン。普患切。諫。ころものひも。

【𧟟】(ゆ)ラ。郎佐切。箇。(ろ)良何切。歌。うはぎ(上衣)。

【襼】ゲイ。倪祭切。霽。たもと(袂)。

二十一畫

【𧟪】ショク、ゾク。市玉切。沃。❶縁を施す、へりつく❷ながきはだぎ、衣と裳との上下つらなれるもの❸衣の皃。

襾部

部首

【襾】ア、エ。衣嫁切。禡。おほふ(覆)。

【西】(ゆ)セイ、サイ。先稽切。齊。(ろ)ヤク、アク。乙卻切。藥。❶にし、にしのかた❷にしする(ろ)はかる、平かに量る。

【西伯】周の文王なり。殷の紂王、文王に命じ、西方諸侯の長となりて征伐を專らにすることを得しむ、よりて西伯といふ。

【西成】秋に物の成熟するをいふ。白居易「見二此今人飽一、何必待二西成一」

【西岳】華山の異稱。書經に「八月西巡守、至二于西岳一」

【西昃】日にしにかたむく。又、ひぐれ。任昉「邪叟忘二其西昃一、龍兵狹二其東皐一」

【西客】〔動〕あうむの異名。楊文公談苑に「鸚鵡曰二西客一」

【西旅】西方のえびすの國。柳宗元「重來越裳雉、再返西旅獒」

【西域】❶にしのさかひ。❷支那にて、印度地方をいふ稱。漢書に「張騫始通二西域一」

【西陸】星の名。爾雅に「西陸、昴也」

【西陲】にしのはて。にしのほとり。漢獻帝「盪二定西陲一、縣二旌萬里一」

【西湖】浙江省の孤山の麓にある湖水、江南の勝地にして林和靖の隱遁せし處。平湖秋月・蘇堤春曉・斷境殘雪・雷峯殘照・南屏曉鐘・麴院風荷・花湖觀魚・柳浪聞鶯・三潭印月・兩峯插雲を西湖の十景といふ。

【西漸】次第に西方にすすむ。

【西曆】西洋のこよみ、卽ち、基督の誕生後四年を以て紀元元年と定めたるもの。

【西疇】にしにある田。陶潛「農人告レ余以二春及一、將レ有二事于西疇一」

【西王母】❶仙女の名。❷桃の一種、壽星桃の異名。

【西方美人】西方に居る美德ある人。詩經に「山有レ榛、隰有レ苓、云誰之思、西方美人、彼美人兮、西方之人」

【西方淨土】〔佛〕三毒五濁の纍なき世界、西方十萬億土にありといふ。極樂國。

三畫

【要】(ゆ)エウ。於霄切。蕭。(ろ)於笑切。嘯。(は)偠に同じ。(ゆ)❶もとむ(求)❷とる(取)❸あはす(會)❹さへぎる(遮)❺こしおび(褄)❻おさふ(勒)❼ちかふ、むすぶ(約)❽まつ(待)❾しらぶ、あきらかにす(察)❿きはむ(劾)⓫かたくとどむ、ひきとどむ(劾)⓬ちかひ、ちぎり(約束)⓭こし(腰に通ず)⓮きないのそと(衞圻外)(ろ)もと、かなめ、しめくくり(主約)。

【要人】顯要なる地位にあるひと。左

傳に「我實不德、而要人以盟、豈禮也哉」【要四】 四人の罪をしらべさだむ。書經に「要レ囚服念五六日」【要言】 ㊀約束のことば。左傳に「實與二隨人一要言」㊁要を得たること。世說に「平叔含レ笑曰、可レ謂二要言不レ煩」【要求】 われがひもとむ。楚辭に「下章二招於鵞谷一兮、上要二求於仙者一」【要門】 もんのきはにてまちうく。呂氏春秋に「秦師過レ周、王孫滿要レ門而窺レ之」【要服】 五服の一、王畿より方二千里の地の稱。書經に「五百里要服」【要妙】 好き貌。妙は妙に通ず。楚辭に「美要妙分宜レ修」【要指】 肝要なるむね。漢書、司馬遷傳に「愚ア學者不レ達二其意一而師詩上論ト六家之要指一」【要害】 地勢險難にして、敵を防ぐに適當なるところ。史記に「眞將勁弩、守二要害之處一」【要荒】 王城より遠くはなれたるところ。典引に「卓二犖乎方州一、羨二溢乎要荒一」【要處】 ㊀肝要なるばしょ。㊁かはや。べんじょ。胡應麟「不レ能レ不レ爲二鶯鶯要處掩鼻耳一」【要斬】 こしを斬る刑。周禮、注に「斬以二鈇鉞一、若二今要斬一」【要務】 肝要なるつとめ。史記に「叔孫生誠聖人也、知二當世之要務一」【要略】 必要なる所を取り、不必要なる所を略す。唐書に「章澳諸道山河地名要略九卷」【要路】 ㊀肝要なるみちすぢ。北史に「諸村閭レ鼓、皆守二要路一」㊁顯要の官。唐書、崔湜傳に「丈夫當レ據二要路一以制レ人、豈能默默受二制于人一哉」【要約】 約束しむすぶ。(約結)。左傳「定二國之好一、必要二結好盟一、所レ以藉二寡君之命一、結レ之也」【要會】 要害なるおさへ。溫子昇「定襄陵廟之至重、平城守國之要鎭」【要擊】 まちぶせしてうつ。兵書要訣に「正正之旗、前後正治、不レ可二要而擊一也」【要鎭】 月計を要といひ、歲計を會といふ。計算の義。周禮に「聽二出入一、比二其要會一」【要道】 肝要なるみち。孝經に「先王有二至德要道一」【要塞】 敵軍の侵入を防がんが爲に、肝要の地に築きたるとりで。禮記に「孟冬備二邊境一、完二要塞一」【要磔】 ふちをもとむ。陸雲「彼貪夫之死レ權兮、固遺レ生以要レ祿」【要盟】 ちかひ。史記に「孔子曰、要盟也神不レ聽」【要領】 事のかなめなるところ。漢書に「竟不レ能レ得二月支要領一」【要會】 肝要なるばしょ。章應物「萬古爲二要樞一、往來何時息」【要衝】 肝要なるところ。司馬相如「神王守二要衝一」【要擊】 まちぶせしてうつ。兵書要訣に「正正之旗、前後正治、不レ可二要而擊一之也」【要鎭】 要害なるおさへ。溫子昇「定襄陵廟之至重、平城守國之要鎭」

五畫

【要】 ㊥ホウ、フ。方勇切。艤。㊐ホウ、フ。房用切。宋。㊦ハン、ホン。補范切。讀。㊀一とぼし(乏)㊁くつがへる、くつがへす(覆)㊂すつ(棄)。

六畫

【覃】 ㊥タン、ドン。徒含切。覃。㊐エン、オン。余廉切。鹽。㊀ひく、のぶ(延)㊁およぶ、およぼす(及)㊂ふかくしてひろし(深廣)㊐とし(利)。【覃及】 ひきおよぶ。詩經に「內奚二于中國一、覃二及鬼方一」【覃思】 ふかくおもふ。書經、序に「研精覃思、博二考經籍一、采二摭羣言一、以立二訓傳一」

八畫

【覆】 ㊥ホク、ボク。蒲北切。職。㊐ヒョク、ピキ。弼力切。職。

㊀こもの(賤者)㊁みにくし(醜)㊂いやし(賤)。

十二畫

【覆】 ㊥フク、ホク。芳六切。屋。㊐フウ、フ。敷救切。宥。㊀一くつがへる㊁くつがへす㊂たふる(倒)㊃かへる、かへす㊄ほろぶ(滅)㊅やぶる(敗)㊆しらせ(報知)㊇つまびらかにす(詳審)㊈かへって㊐一おほふ(蓋)㊁ふさがる、ふさぐ(塞)㊂ふせぜい(伏兵)㊃かくす(隱蔽)㊄かばふ(庇護)㊅かぶる、かぶす(被)㊆おほひ㊇しく(布)。【覆水】 みづをおほふ。水經、注に「芙蓉覆レ水、秋開被レ涯」【覆考】 一度しらべたることを再びしらぶ。後漢書、周嘉傳に「守闕稱レ冤、詔遣二覆考一」【覆沒】 船くつがへりてしづむ。魏志に「杜畿於二孟津一試レ船、遂至二覆沒一」【覆育】 おほひ長ず。管子に「君臣之禮、父子之親、覆二育萬物一」【覆按】 くりかへしてかんがへしらぶ。漢書、元帝紀に「今不眞之吏、覆二按小罪一、徵二召證案一、與二不急之事一、以妨二百姓一」【覆奏】 しらべて奏問す。舊唐書に「在京諸司、五覆奏」【覆校】 くりかへしてしらぶ。荀勗「覆二校錯誤一、十萬餘卷」【覆被】 おほふ。宋史に「覆二被萬紀一、冠二冕百王一」【覆掌】 てのうらをむけかへす。事の易きにいふ。(反掌)。唐書に「太平可二覆掌而致一」【覆照】 おほひてらす。揚雄「高明足二以覆照一」【覆溺】 くつがへりおぼる。眞師泰「雖レ云免二覆溺一、誰復解二倒懸一」【覆試】 一度試みたるものを再び試む。宋書に「覆二試進士于講武殿一」【覆載】 天おほひ地のす。轉じて、天地の義に用ゐる。禮記に「天之所レ覆、地之所レ載」【覆墓】 世俗にいふ三日の墓參なり。【覆考】 くりかへしてよむ。唐書、蘇瞱傳に「覆二考一言一輒覆誦」【覆誦】 くつがへりおつ。莊子に「雖二圜天一、亦將不二與之遺一」【覆墜】 おほふ。詩經、箋に「戴者爲レ天地覆墜、亦將不二與之遺一」【覆蔽】 おほひかくす。梁簡文帝「紅毛覆臆、翠鼠垂心」【覆斷】 くつがへしかく。七發に「覆二虧丘陵一、平二夷西畔一」【覆講】 くりかへして講ず。梁書に「旦領二師說一、晚而覆講」【覆翻】 ひるがへる。范成大「由來事成毀、只繫手覆翻」【覆轍】 車のくつがへりたるあと。物の仕損じたることに喩ふ。劉長卿「羊腸留二覆轍一、虎口脫二餘生一」【覆醬】 醬油瓶をおほふ。著書の世に行はれずして反古となるをいふ。漢書、揚雄傳に「鉅鹿侯芭常從レ雄居、受二其太玄法言一焉、劉歆亦嘗觀レ之、謂レ雄曰、空自苦、今學者有二祿利一、然尚不レ能レ明レ易、又如レ玄何、吾恐後人用覆二醬瓿一也、雄笑而不レ應」【覆車之戒】 前人の失敗せしことを見て戒となす。西征賦に「追二覆車一而不レ寤」【覆水不レ返レ盆】 離緣となりし妻は再び復歸する能はざるをいふ。拾遺記に「太公初娶二馬氏一、讀レ書不レ事レ產、馬求レ去、太公封レ齊、馬求二再合一、太公取二水一盆一、傾二于地一、令二婦收一レ水、惟得二其泥一、太公曰、若能離更合、覆水定難レ收」【覆舟之下無二伯夷一】 君子は危きにちかよらざる義、韓非子に「奔車之上無二仲尼一、覆舟之下無二伯夷一」

十三畫

【覇】ハ。霸の俗字。

【覈】㋑カク、ギャク。下革切。陌。㋺ケツ、ゲチ。奚結切。屑。㋩ケウ。詰弔切。嘯。㋑❶しらぶ(驗)❷はげし、きびし(深刻)❸され(實)㋺❶むかふ(邀)❷かたむぎ㋩ほれ(骨)。

十七畫

【覉】キ。羈の本字。俗に、覊、羈に作る。

十九畫

【覊】キ。羈の俗字。

見部

部首

【見】㋑ケン。古甸切。霰。㋺ケン、ゲン。形甸切。霰。㋩カン、ケン。居莧切。諫。㋑❶みる(視)❷のぞむ(望)❸あふ(會見)❹みるところ㋺❶まみゆ(謁見)❷すすめいたす(薦達)❸まのあたり(目前)❹あらはる(露)❺あらはす(顯)❻ひので(日出)❼せらる、らる㋩❶ひつぎおほひ(棺衣)❷まじろ、まじふ(雜)。

【見在】まのあたり。目前。金剛經に「過去心不レ可レ得、見在心不レ可レ得、未來心不レ可レ得」

【見刻】ひるま。唐書に「晝爲ニ見刻一、夜爲ニ沒刻一」

【見素】かざりなき所を示す。老子に「見レ素抱レ朴、少レ私寡レ欲」

【見員】現在の人員。魏書に「博士見員、足レ可ニ講習一」

【見レ幾】事のはずみを見届く。易經に「君子見レ幾而作、不レ俟レ終レ日」幾は機に同じ。

【見解】道理を見てさとる。傳燈錄に「二子見解、過ニ於鶖子一」

【見ニ一斑一】全貌を見ること能はず、唯その一斑を見る。見るところの小なるをいふ。晉書、王獻之傳に「門生曰、此郎亦管中窺レ豹、時見ニ一斑一」

【見ニ天日一】帝位に復するに喩ふ。又、罪ある者が赦免せらるるにもいふ。舊唐書に「帝在ニ房州一時、當謂レ后曰、一朝見ニ天日一、誓不ニ相禁忌一」

【見ニ頭角一】衆人にぬきんですぐる。韓愈「子厚少精敏、無レ不ニ通達一、逮ニ其父時一、雖ニ少年一已自成人、能取ニ進士第一、嶄然見ニ頭角一、衆謂、柳氏有レ子矣」

【見レ危致レ命】危急の場合に臨みては身命をも惜まず抛ちて君の爲に盡くす。論語に「子張曰、士見レ危致レ命、見レ得思レ義」

【見レ利思レ義】利益のことあるも、義理を思ひはかり可なれば取り、不可なれば取らず、少しも貪欲することなきをいふ。論語に「子曰、見レ利思レ義、見レ危授レ命」

【見知之法】吏たる者犯罪を見知して檢擧せず、故らに罰する法。史記に「於レ是見知之法生、而廢格沮誹窮治之獄用矣」

【見レ笑ニ大方一】世の識見ある人に笑はる。莊子に「吾長見レ笑ニ於大方之家一」

【見レ善則遷】易經に「君子以見レ善則遷、有レ過則改」

【見レ賢思レ齊】賢人を見て、己も亦それと等しくならんことを思ふ。論語に「子曰、見レ賢思レ齊焉、見ニ不賢一而内自省也」

【見レ卵求ニ時夜一】雞は時刻を報ずるものなれば、その卵を見て時刻を知らんことを欲す、早合點するをいふ。莊子に「長梧子曰、中略且女亦太早計、見レ卵而求ニ時夜一、見レ彈而求ニ鴞炙一」

【見ニ蛇首一知ニ長短一】一斑を見て、全豹を推知すると同義。淮南子に「蛇擧レ首尺而脩短可レ知也、象見ニ其牙一而大小可レ知也」

三畫

【⿱冖見】㋑ボウ、ム。莫紅切。東。㋺ボク、モク。莫勒切。屋。㋩ハウ、モウ。莫報切。號。㋑㋺❶つきすすむ(突前)❷重ね覆ふ㋩ふる(觸)。

四畫

【規】㋑キ。居追切。支。㋺ケイ、エ。惠圭切。齊。㋩キ。規恚切。寘。㋑❶のり(法)❷ただし(正)❸はかる(度)❹いましむ(諫)❺はかりごと(謀計)❻ぶんまはし❼のっとる❽まるがた(圓形)、又、まるがたの物❾ゑがく(畫)❿かぎる(劃)⓫ふぐ(河豚)⓬井田の四分の一㋺❶ひとめぐり(輪の一周)❷輪のまはる度合㋩❶おどろきみる貌❷きぬけしたる貌。

【規正】ただす。南史、孔奐傳に「在レ職清儉、多レ所ニ相規正一」

【規制】きまり。おきて。宋史、李神福傳に「久掌ニ三班一、無ニ規制一、遠近失レ敍」

【規訓】ただしきをしへ。(儀訓)。南史に「敦誘ニ諸弟一、稟ニ其規訓一」

【規魚】(動)ふぐの異名。沈括補筆談に「浙東人、呼ニ河豚一爲ニ規魚一」

【規略】はかりごと。魏志に「居身清白、規略明練」

【規畫】前に同じ。蘇洵「先爲ニ之規畫處置一」

【規程】さだめ。徐賁「豈俟レ入ニ乎圜域一、方能知ニ彼規程一」

【規準】のり。てほん。陳章「輻輳必循ニ乎規準一」

【規誨】ただしなしふ。曾鞏「相期在ニ規誨一、庶以輔ニ疎頑一」

【規圖】はかりごと。蜀志に「爲ニ曹操耳目一、規ニ圖益州一」

【規模】かた。のり。唐書、張行成傳に「盛德含光、規模宏遠」

【規謀】はかりごと。後漢書、注に「高祖創業、藩維盤固、規謀弘遠」

【規諫】いましめ。いさむ。新序に「好レ學智也、受ニ規諫一仁也」

【規範】のり。てほん。孔安國「所下以懨ニ弘至道一、示ニ人主一以中規範上也」

【規矩準繩】規はぶんまはし、圓をつくるもの、矩はさしがね、方をつくるもの、準はみづもり、平をはかるもの、繩はすみなは、直をなすもの。孟子に「聖人既竭ニ目力一焉、繼レ之以ニ規矩準繩一」

【覓】ベキ、ミヤク。莫狄切。錫。もとむ(求)。

【覓得】もとめえらる。元稹「須臾覓得又連轡、特勅ニ街中一許ニ燃燭一」

【覔】ベキ、ミヤク。覓の俗字。

【覗】㋑シ。七四切。寘。㋺シ。取私切。支。㋑うかがふ、のぞきみる㋺❶請はざるに來ること❷うかがふ。

五畫

【覕】㋑ベツ、メチ。莫結切。屑。㋺ヒン。必刃切。震。㋩ヘツ、ヘチ。匹蔑切。屑。㋑㋺❶もとむ(覓)❷おほふ(蔽)、くらし㋩❶さく(劃)❷ちらとみる(瞥見)。

【視】シ、ジ。時利切。寘。❶みる❷のぞむ、うかがふ❸あきらかに察す❹あひしらふ(遇接)❺ならふ(效)❻なぞらふ(比擬)❼しめす(示)❽をしふ(敎)❾人の姓。

【視官】五官の一、め。

【視息】いきながらふ。宋書、徐湛之傳に「靦然視息、忍ニ此餘生一」

【視眺】ながめみる。ながめ。吳師道「荏苒三歲閒、視眺猶未レ瑩」

【視端】みることただし。宋史、張浚傳に「浚自レ幼行直視端」

【視養】注意してやしなふ。唐書、李泌傳に「是子精神大ニ於身一、賜ニ東帛一、勅ニ其家一曰、善視ニ養之一」

【視學】學事を視察す。禮記に「王命ニ三公九卿大夫元士一、皆入學不レ變、王親視レ學」

【視瞻】 みる。（瞻視）。禮記に「入レ戸奉レ扃、視瞻毋レ回」
【視聽】 みるときくと。莊子に「無レ視無レ聽、抱レ神以靜」
【視二于無形一】 先見の明あるをいふ。禮記に「聽二于無聲一、視二于無形一」
【視レ生如レ死】 心を勞らし、意を苦むる所なきをいふ。列子に「視レ生如レ死、視レ富如レ貧、視レ人如レ豕、視レ我如レ人」
【視レ民如レ傷】 ふかく民を恤むをいふ。孟子に「文王視レ民如レ傷」左傳に「國之興也、視レ民如レ傷、是其福也」
【視レ死如レ生】 死を懼れざるをいふ。莊子に「白刃交二於前一、視レ死如レ生者、烈士之勇也」
【視レ死若レ歸】 死を樂むこと家に歸るが如きなり。韓非子に「三軍既成レ陣、使二士視一レ死若レ歸」
【視レ酒如レ醬】 酒肉を輕んずるをいふ。漢書、劉德傳に「視レ酒如レ醬、視レ肉如レ蓋」
【視レ險若レ夷】 艱難の事に處するも畏るることなく平氣なり。傅亮「鞠レ旅陳レ衆、視レ險若レ夷」
【視レ君不レ如二奕棊一】 奕者の局に對するには、妄に棊子を下さず、しかるに臣下の妾に君を易置するは、これ君を視ること奕棊にだにも如かざるなり。左傳に「甯子視レ君、不レ如二奕棊一、其何以免乎、奕者擧レ棊不レ定、不レ勝二其耦一、而況置レ君而不レ定乎、必不レ免矣」
【視二冥冥一、謀二無形一】 推理の明あり、先見の明あり。又、推理す、先明す。說苑に「明者視二於冥冥一、謀二於無形一、聰者聽二無聲一、慮者戒二於未成一」

【覗】 ㋑シ。相吏切。寘。㋺息茲切。支。うかがふ、のぞく（窺見）。

【覘】 ㋑テン、トン。癡廉切。鹽。㋺丑琰切。琰。㋩タン、トン。都含切。㋑㊀うかがふ（窺）㊁さぐりみる㋺みる（視）㋩㊀もたぐ、首を擧ぐ㊁頰を緩くす。
【覘望】 うかがひのぞむ。（伺望）。吳志、甘寧傳に「寧從レ權遣二逵津北一、張遼覘望知レ之」
【覘候】 敵の動靜をさぐりみる。北齊書に「令二猛輕將百騎一、深入、覘候還至二白道一、與レ軍相會」
【覘覽】 うかがひみる。程史に「吳蔣遊二塞上一、覘二覽山川風俗一、慨然有レ志二於經略一」

六畫

【覛】 ㋑ベキ、ミャク。莫狄切。錫。㋺バク、ミャク。莫白切。陌。㋑みる、しりめにみる㋺みる（視）。

七畫

【覜】 ㋑テウ。他弔切。嘯。㋺眺に同じ。㋑㊀まみゆ、みる㊁めみえす。

【覞】 ㋑エウ。弋笑切。嘯。㋺セウ。昌召切。嘯。㋩セキ、シャク。施隻切。陌。㊀あはせみる（併視）㊁あまねくみる（普視）。

【覡】 ㋑ケキ、ギャク。胡狄切。錫。㋺カク、ギャク。下革切。陌。みこ、かんなぎ。

八畫

【䚍】 ㋑ガイ、ゲイ。五駭切。蟹。㋺睚に同じ。㋑みる（視）、わらひみる（笑視）。

【䚄】 ㋑リョク、ロク。力玉切。沃。㋺ロク。盧谷切。屋。㊀ともにみる（共視）㊁わらひみる（笑視）㊂眼曲りてみる。

【覤】 ㋑ケキ、キャク。迄逆切。錫。㋺サク、シャク。色責切。陌。おどろきおそるる貌。

九畫

【覦】 ㋑ユ。羊朱切。虞。㋺シュ、ス。從遇切。遇。こひねがふ、のぞむ。

【覦心】 我本分をわすれて、天子の位などをねらふこころ。左傳に「官人國之急也、能二官人一、則民無二覦心一」注に「無二覬覦一以求レ幸」

【覧】 ラン、ロン。覽の俗字。

【覩】 ト、ツ。睹の古文字。

【親】 シン。七人切。眞。㊀したしむ㊁したし㊂めぐむ（惠）㊃いつくしむ（愛）㊄むつぶ（睦）㊅ちかづく（近）㊆おや（父母）㊇みづから（躬）㊈みより、うちは。
【親友】 したしく交るとも。後漢書に「雖二親友一、希レ得レ見レ之」
【親父】 ちち。史記に「雖レ有二親父一、安知二其不一レ爲レ虎」
【親王】 皇子をいふ。唐六典に「皇兄弟皇子皆封レ國、謂二之親王一」
【親手】 したしく手を下す。范梈「籬角黃花親手栽」
【親母】 はは。禮記に「親母尙不レ服」
【親用】 したしくもちゐる。漢書に「又多二其材一、欲二親用一レ之、以レ故未レ擊」
【親切】 ねんごろなり。
【親臣】 したしく召仕ふ家來。孟子に「王無二親臣一矣」
【親好】 したしみよし。北史、王誼傳に「朕共遊二庠序一、逢相親好」
【親見】 したしくみる。後漢書に「傳聞不レ如二親見一」
【親扶】 したしくたすく。北齊書、萬俟洛傳に「親扶上レ馬、洛免レ冠稽首曰、願出二死力一、以報二深恩一」
【親朋】 したしきとも。杜甫「親朋無二一字一、老病有二孤舟一」
【親炙】 その人に近きてその感化を受く。炙は正音セキ。孟子に「況於レ親二炙之一者乎」
【親近】 したしみちかづく。晉書、赫連勃勃載記に「勃勃天性不仁、難二以親近一」
【親附】 したしみつく。漢書に「近者親附、遠者懷レ德」
【親狎】 したしみなる。南史に「弘簡與二梁武帝一年相輩、幼見二親狎一」
【親征】 帝王自ら征伐す。書經、疏に「夏王啓之時、諸侯有扈氏叛二王命一、率レ衆親二征之一」
【親長】 めうへ。范質「恰恰奉二親長一、不二敢生一驕易一」
【親昵】 したしみむつぶ。北史に「有二犯レ禁者一、雖二至親昵一、無レ所二容貸一」
【親故】 親戚故舊。王維「都門謝二親故一、行路自逶遲」
【親軍】 帝王の親兵。唐書に「乾寧元年、詔二諸王一閱二親軍一」
【親展】 みづからひらきみる。陸雲「無レ因二親展書一以言レ心」
【親率】 みづからひきゐる。吳志に「親率二將士一、施二設方略一」
【親眷】 したしみかへりみる。鮑照「既經二江海別一、復與二親眷一違」
【親接】 したしくまじはる。後漢書に「內外臣僚、莫レ由二親接一、所二與居一者、惟閹宦而已」
【親戚】 ㊀內親と外親と。禮記に「兄弟親戚、稱二其慈一也」㊁父母。大戴禮に「曾子曰、親戚不レ說、不二敢外交一」
【親密】 したしみあつし。三國志に「夫中庶子官最親密」
【親疏】 したしきとうときと。禮記に「禮者所三以定二親疏一」
【親渥】 したしみあつし。唐書に「恩顧親渥、承レ閒欲レ有二關說一」
【親愛】 したしみいつくしむ。大學に「人之二其所一親愛一而辟焉」
【親睦】 したしみむつぶ。易林に「仁政獲レ民、四國親睦」
【親敬】 したしみうやまふ。北史に「初崔光貧賤、拯二贍衣食一、常親敬焉」
【親遇】 したしみもてなす。北史に「雖レ被二親遇一、而名位未レ顯」
【親賢】 かしこき者をしたしむ。禮記に「父之親レ子也、親レ賢而下二無能一」
【親樂】 したしくたのしむ。晉書、孫登傳に「撫二一絃琴一、見者皆親二樂之一」

【親ㇾ親】 みよりの者をしたしくす。孟子に「親ㇾ親而仁ㇾ民」
【親衞】 帝王の親兵。北史に「平陳之役、以二親衞一從ㇾ征、先登陷ㇾ陣」
【親臨】 したしくその場所にのぞむ。魏志、曹眞傳に「眞當ㇾ發二西討一、帝親臨送ㇾ眞」
【親舊】 ❶親戚と舊友と。唐書、崔祐甫傳に「帝嘗謂曰、人言、卿擬ㇾ官多二親舊一」❷昔なじみの者をしたしむ。魏文帝「禮ㇾ賢親ㇾ舊、帝王常務也」
【親類】 したしきあひだがら。みより。魏書に「內外親類、莫ㇾ有二求者一」
【親屬】 前に同じ。白虎通に「天下太平、乃封二親屬一者、示ㇾ不ㇾ私也」

十畫

【覬】 ㋑キ。几利切。寘。のぞむ、こひねがふ。
【覬望】 のぞむ。のぞみ。潛夫論に「衣冠無ㇾ所二覬望一」
【覬覦】 下より上に向ってうかがひのぞむ。左傳に「民服二事其上一、而下無二覬覦一」
【覭】 ㋑ベイ、ミャウ。莫經切。青。㋺ベキ、ミャク。莫狄切。錫。㋩バク、ミャク。莫獲切。陌。㋑❶すこしくみる❷うかがふ(窺)㋺❶うかがふ❷小さき貌㋩草木の叢生する貌。
【覯】 ㋑コウ、ク。古后切。宥。㋺覯に同じ。❶あふ(遇)❷みる(見)❸なる(成)。

十一畫

【覲】 キン、ゴン。渠吝切。震。❶まみゆ(謁見)❷あふ(會見)。
【覲禮】 諸侯の天子に朝覲する儀式。禮記に「覲禮、天子不ㇾ下ㇾ堂而見二諸侯一」

十二畫

【覵】 ㋑カン、ケン。居莧切。諫。㋺古閑切。刪。㋩ヘン。方免切。銑。㋥エン。伊甸切。霰。㋑❶みる(瞯に同じ、視)❷まじふ(雜)㋺㋩視る貌㋥うかがふ(窺)。
【覶】 ㋑ラ。落戈切。歌。㋺レン。力轉切。銑。㋑❶好み視る貌❷ことこまかなり(覶縷)❸ついで(次序)㋺視る貌。

十三畫

【覺】 ㋑カク、コク。古岳切。覺。㋺カウ、ケウ。古孝切。效。㋑❶さとる(悟)❷さとす(曉)❸おぼゆ❹つぐ(告)❺さとり❻さとれる人❼あらはる(發)❽あきらかにす❾なほし❿おほいなり⓫神靈の稱⓬佛陀の稱㋺❶さむ❷めさむ❸さます❹うつつ(現)。
【覺ㇾ非】 あしきことをさとる。劉商「今日方知ㇾ命、前年自覺ㇾ非」
【覺悟】 さとる。楞嚴經に「當處禪那覺悟無ㇾ惑、則彼覺事無二奈ㇾ汝何一」
【覺寤】 ねむりよりさます。東征賦に「惕二覺寤一而顧問兮、想二子路之威神一」

十五畫

【覽】 ラン、ロン。盧敢切。感。みる(觀)。
【覽示】 しめす。史記、大宛傳に「以饒二給之一、以覽二示漢富厚一焉」
【覽古】 古蹟などを尋ねて當時のことを思ひめぐらす。高適「臨ㇾ邊無二策略一、覽ㇾ古空徘徊」
【覽歷】 みて通りすぐ。李羣玉「清遠登二高臺一、晃朗縱二覽歷一」
【覽矚】 ながめみる。黃鎮成「結ㇾ屋棲二白雲一、覽矚千降遙」
【覿】 テキ、ヂャク。徒歷切。錫。❶あふ(會見)❷まみゆ(謁見)。

十八畫

【觀】 ㋑クヮン。古丸切。寒。㋺古玩切。翰。㋩勸に同じ。㋑❶みる(視)❷あきらかにみる(察)❸のぞむ(望)❹ながむ(眺)❺あそぶ(遊)❻かんがみる(鑑)❼あらはす(顯)❽うらなふ(占)㋺❶しめす(示)❷みえ(外見)❸かたち(容儀)❹おほし(多)❺たかどの(樓臺)❻人の姓❼あつし(熱湯)❽あそび(遊行)❾物事を分別思量する能力❿宮門の左右の闕⓫かふのとり(鸛に通ず)⓬道宮(仙人、道士などの居るところ)⓭易の卦の名。
【觀光】 他國の文物光華を視察す。易經に「觀二國之光一、利用賓二于王一」
【觀色】 かほいろをみる。莊子に「雜ㇾ之以ㇾ處、以觀二其色一」
【觀兵】 威武をしめす。左傳に「觀二兵于周疆一」
【觀花】 はなをながめる。楊載「已入二玉堂一同視ㇾ草、還趁二瓊砌一共觀ㇾ花」
【觀望】 樣子をみて去就を決せんとす。史記に「持二兩端一以觀望」
【觀視】 あきらかにみる。漢書に「長安聖主之居、皇天所二觀視一也」
【觀象】 天象をみる。天候を觀察す。
【觀察】 みてしらぶ。孔叢子に「寡人之任ㇾ臣、無二小大一一一自觀二察之一」
【觀樂】 心目を喜ばしむべきものを見てたのしむ。韓非子に「其於二觀樂玩好一也、必令二之有ㇾ所ㇾ出」
【觀瞻】 みる。韋應物「觀二瞻喬樹顚一、見二此洪流跡一」
【觀ㇾ釁】 乘ずべきすきまをうかがふ。左傳に「從二寡君一以觀二釁於楚一」
【觀世音】 (佛)菩薩の名、慈悲の化身と稱せらる、千手觀音・馬頭觀音・十一面觀音・如意輪觀音など種種あり。法華經に「汝聽觀音行、善應二諸方所一、弘誓深如ㇾ海不思議」
【觀察使】 地方を巡視して政事の良否を調ぶる官の名。唐書に「觀察使以二豐稔一爲二上考一、省刑爲二中考一、辨稅爲二下考一」又、宋史に「觀察使無二定員一、初沿二唐制一、置二諸州觀察使一」
【觀闕誅】 聖王の不臣を誅すること。孔子の少正卯を兩觀の閒に誅したる故事による。漢書、王尊傳に「湖三老公乘興等、上書訟ㇾ尊曰、審如御史章尊乃當ㇾ伏二觀闕之誅一、放二于無人之境一」
【觀ㇾ往知ㇾ來】 過去をみて未來をおしはかる。列子に「聖人見ㇾ出以知ㇾ入、觀ㇾ往以知ㇾ來」
【觀者如ㇾ堵】 見物人の多きをいふ。晉書に「京師人士、聞二其姿容一、觀者如ㇾ堵」
【觀ㇾ過知ㇾ仁】 あやまちを見てその人がらを知る。論語に「人之過也、各於二其黨一、觀ㇾ過斯知ㇾ仁矣」

十九畫

【覼】 ㋑レイ、ライ。郎計切。霽。㋺シ。師蟻切。紙。㋩リ。鄰知切。支。㋑索め視る貌㋺みる(視)㋩みる(察視)。

角部

部首

【角】 ㋑カク、コク。古岳切。覺。㋺ロク。盧谷切。屋。㋑❶つの❷すみ(隅)❸かど❹さき(芒端)❺つのとる❻つのゆみ❼くらぶ(較)❽きそふ(競)❾はかる(試)❿つのがみ、あげまき⓫ます(斛)⓬さかづき(杯)⓭軍中にて用ゐる樂器の名⓮五音の一⓯すぼし(二十八宿の一)㋺つの。
【角力】 ちからをくらぶ。ちからくらべ。禮記に「講ㇾ武習二射御一角ㇾ力」
【角巾】 處士のかぶりもの。晉書、羊祜傳に「既定二邊事一、當角巾東路歸二故里一」
【角材】 はたらきをはかる。漢書に「陛下之與二諸公一、非二親角材而臣一ㇾ之也」
【角掎】 つのとりあしとる。左傳に「晉人角ㇾ之、諸戎掎ㇾ之」
【角黍】 ちまき。粽子。王仲周「楚俗遺風、素傳二角黍一」
【角逐】 互におひあふ。競爭驅逐する義。戰國策に「駕二犀首一而驂二馬服一、與ㇾ秦角逐」
【角觝】 すまふ。六國の時より始る、秦の二世、甘泉宮に在りて角觝を作し樂むこと史記に見え、又、漢の武帝の三

年角觝の戲をなすこと漢書に出づ。

【角鷹】カクコウ 〔觓〕くまだか。おほたか。本草に「鷹以レ齊擊、故謂二之鷹一。其頂有二毛角一、故曰二角鷹一」

【角弓騂】カクキユウノサウシ 詩經の角弓の章より、君王の便佞の者を近づけて、宗族を親まざるそしり。魏志に「仁及二草木一、則行葦之詩作、恩澤衰薄、則角弓之章刺」

二畫

【觓】㋑キウ、グ。渠幽切。尤。㋺キウ、ク。吉酉切。有。角の上りまがりたる貌。

【觔】㋑キン、コン。筋に同じ。㋺キン、コン。斤に通ず。

三畫

【觘】㋑サ、セ。初加切。麻。㋺サイ、セ。初佳切。佳。かうがひ(釵)。

【⿰角工】㋑カウ、コウ。⿰角公に同じ。㋺扛に通ず。

【⿰角巾】㋑シン。所巾切。眞。㋺キン。居銀切。眞。觔二十枚の稱。

四畫

【⿰角公】㋑カウ、コウ。古雙切。江。㋺ショウ、シュ。諸容切。冬。角を擧ぐ、あぐ。

【觕】㋑ソ、ス。倉胡切。虞。㋺サウ、ジャウ。鋤庚切。庚。㋩ソ、ズ。徂古切。麌。㋥觸に同じ。㋑あらし(麤大)。㋺衡に同じ。㋩❶ほぼ、あらまし(大略)❷牛角の直下せるもの。

【觖】㋑ケツ、ケチ。古穴切。屑。㋺キ。遣爾切。紙。㋩ケイ、ケ。涓惠切。霽。㋑❶かく❷うらむ❸かかぐ、あばく(抉)㋺こひねがふ(冀)㋩舌頭の語。

【觖望】ケツバウ ❶のぞむ所にみたず。史記に「獨此尙觖望」❷こひねがふ。史記、荊燕世家に「爲二羣臣觖望一」

【觗】シ。支義切。寘。❶いたる(至)❷あふ(合)❸さかづき(觶に同じ)。

五畫

【⿰角巨】㋑キョ、ゴ。其呂切。語。㋺キョ、コ。居御切。御。㋑❶けづめ(距に同じ)❷さかかぎ(倒刺)㋺獸の名。

【觚】コ、ク。古乎切。虞。❶さかづき(酒爵)❷けた(方形)❸つか(劍柄)❹かど(稜)❺ふだ(文字を書するに用ゐし方形の札)❻のり(法)❼ただし(方正)❽菰に通ず❾人の名❿官の名。

【觚棱】コロウ 殿堂の高くとがり出でたるところ。元好問「東闕蒼龍西玉虎、金雀觚棱上二雲雨一」

【觚不レ觚】コフコナラズ 觚は酒器、名のみありてその實なきをいふ。論語に「子曰、觚不レ觚、觚哉觚哉」

【⿰角它】タ、ダ。沱に同じ。

【觛】タン、ダン。徒旱切。旱。ちひさきさかづき(小卮)。

【觜】㋑スヰ。遵爲切。支。㋺シ。即移切。支。㋩シ。即委切。紙。㋑㋺❶けづの(毛角)❷一の星のやどり(觜觿)❸とろき(二十八宿の一)❹蠵に通ず㋩くちばし(喙)。

【觜翅】シシ くちばしとつばさと。南方草木狀に「形如二飛鶴觜翅一」

【觝】㋑テイ、タイ。都禮切。薺。㋺シ。掌氏切。紙。㋑❶いたる(至)❷ふる(觸)㋺うつ(抵に同じ)。

【觝排】テイハイ おしのく。韓愈「觝二排異端一、攘二斥佛老一」

【觝觸】テイショク さしさはる。周禮、注に「福衡所三以令二不レ得レ觝二觸人一」

六畫

【觟】㋑クワ、ゲ。下瓦切。馬。㋺クワ、ケ。香跨切。禡。㋩獬に同じ。

㋑❶角あるめひつじ❷矢の一種❸角の貌㋺こみち(徑)。

【⿴行角】㋑サウ、ジャウ。仕庚切。庚。㋺カウ、ギャウ。何庚切。庚。❶牛の角のながくしてたてる貌❷角の長き貌。

【觠】㋑ケン、ゴン。巨員切。先。㋺ケン、コン。居倦切。霰。❶まがりたる角❷まがる、まぐ(曲)。

【觡】カク、キャク。古百切。陌。つやかはなきつの。

【⿰角亘】㋑ケン、コン。況袁切。元。㋺キ、ケ。許羈切。支。つのさじ(角匕)。

【解】㋑カイ、ケ。佳買切。蟹。㋺カイ、ゲ。下買切。蟹。㋩戸賣切。卦。㋥カイ、ケ。居拜切。卦。㋑❶とく❷わく、わかつ(判)❸ゆるむ(緩)❹へだつ(開)❺はなす、はなる(離散)❻ぬぐ(脫)❼ゆるす(免)❽いひわけす(分疏)❾とほる、とほす(達)❿けづる(削)⓫ひらく(開)⓬たひらぐ(和睦)⓭樂曲の一節⓮戟の多き貌⓯易の卦の名㋺❶とく❷はなる、ちる(離散)❸しる、さとる❹あしあと❺かに(蟹に同じ)❻澥に通ず❼懈に通ず㋩❶さとす(曉)❷わかつ、はなす❸とく❹おこたる(懈に同じ)❺弓をつぎ合すに用ゐる材❻邂に同じ㋥❶やくしょ(廨に同じ)❷やる(發遣)❸いつはり(解垢)❹すすむ。

【解衣】カイイ ころもをぬぐ。(脫衣)。史記に「漢王解レ衣衣レ我、推レ食食レ我」

【解析】カイセキ ときひらく。南史に「及レ解二析經理一、甚有二精致一」

【解放】カイハウ ゆるしはなす。ときはなす。

【解垢】カイコウ 詭曲のことば。莊子に「堅白解垢同異之變、多則俗惑二於辯一矣」

【解骨】カイコツ はなれそむく。國語に「聖人不レ出、忠臣解レ骨」

【解紛】カイフン もつれをとく。史記、魯仲連傳に「所レ謂貴二於天下之士一者、爲レ人排レ患釋レ難解二紛亂一、而無レ取也」

【解除】カイヂヨ のぞく。易林に「憂患解除、喜至慶來、坐立觀門、其樂爲レ隣」

【解袒】カイタン はだぬぐ。晉書に「若乃解レ袒登レ枝、裸レ形扪レ鵠、以レ此謂レ達」

【解剖】カイバウ 動物の身體を解きてしらぶること。又、物事を細かに分くること。

【解船】カイセン ふれのともづなをとく。出帆す。晉書に「解船棄二牛車一、一日一夜、行三万里」

【解脫】ゲダツ (佛)世俗よりはなれ出づること。法華經に「念二彼觀音力一、釋然得二解脫一」

【解齋】カイサイ 精進おとし。野客叢書に「今人久茹レ素、而其親若隣設二酒肴之具一以相煖熱、名曰二開葷一、於レ理合レ曰二解齋一、此風已見二六朝一」

【解渴】カイカツ のどのかわきをなほす。方回「西瓜足レ解レ渴、割裂靑瑤膚」

【解詁】カイコ 古言の意義のときあかし。(釋詁)。後漢書、何休傳に「休作二春秋公羊解詁一」

【解註】カイチユウ 書物の意義のときあかし。荀悅「中興之後、大司農鄭衆侍中賈逵、各爲二春秋左氏傳一作二解註一」

【解義】カイギ 前に同じ。(釋義)。晉書に「向秀於二舊註外一、而爲二解義一」

【解裘】カイキウ かはごろもをぬぐ。(脫裘)。戰國策に「見二其寒一、解レ裘而衣レ之」

【解廇】カイリウ うつばり。爾雅に「解廇謂二之梁一」

【解禁】カイキン いましめをとく。後漢書、皇甫嵩傳に「張角等一時俱起、皆著二黃巾一、旬日之間、天下響應、嵩以爲宜下解二黨禁一、中略以班中軍士上、帝從レ之」

【解說】カイセツ わけをときあかす。史記に「令下覽者自通二其意一、而解中說之上」

【解酲】カイテイ ゑひをさます。晉書、劉伶傳に「天生二劉伶一、以レ酒爲レ名、一飮一斛、五斗解レ酲」

【解頤】カイイ おとがひをとく。おほいに笑ふ。漢書、匡衡傳に「衡說レ詩解二人頤一」

【解顏】カイガン よろこびわらふ。列子に「五年之後、夫子始一解レ顏而笑」

【解題】カイダイ 書物の著はせられたる由來及びその書の大意の説明。

【解辮】くみたる頭髮をとく。唐書に「皆爭解レ辮易レ服」

【解釋】㊀とく。太眞外傳に「解釋春風無レ限恨、沈香亭北倚二欄干一」㊁ときあかし。

【解嚴】そなへをゆるぶ。正字通に「敵退稍弛レ備、曰二解嚴一」

【解體】㊀はなれそむく。左傳に「四方諸侯、其誰不二解體一」㊁身體を解きわく。かいばう。

【解纜】ふねのともづなをとく。出帆す。杜甫「解纜獨長吟」

【解脫禪】人欲をはなれたる佛道のさとり。法苑珠林に「若王入レ禪、卽入二解脫禪一」

【解語花】言語の通ずる花といふ義にて、美人の稱とす。天寶遺事に「太液池、千葉白蓮開、明皇與二貴妃一賞宴、謂二左右一曰、何如二此解語花一耶」

【觥】クワウ、ワウ。古橫切。庚。㊀つのさかづき(角爵)㊁おほいなり(大)㊂つよし、なほし(剛直)㊃鐘のこゑ、又、玉のこゑ。

【觥盂】さかづき。孔平仲「左手把二其肩一、右手進二觥盂一」

【觥船】大いなるさかづき。王安石「觥船淋浪始快然」

【觥觥】剛直なる貌。後漢書に「關東觥觥郭子橫」

【觥飯】立派なる飯食。國語に「諺有レ之、觥飯不レ及二壺飧一」

七畫

【觩】キウ、ゲ。渠幽切。尤。㊀角のまがれる貌㊁ゆみづるを急しく持つ貌㊂ゆみのつよき貌。

【觫】ソク。蘇谷切。屋。死をおそるる貌。

八畫

【觪】サン、セン。戔に同じ。

【觭】キ。去奇切。支。㊀ひとつ(片隻)㊁う(得)㊂牛の角の一は低れ一は仰ぎたるもの。

九畫

【䚡】㋑サイ。桑才切。灰。㋺サイ、セ。所佳切。佳。㋩サイ。先代切。隊。㋥シ。新慈切。支。㊀つののしん㊁つやかは。

【䚢】㋑テツ、テチ。丑列切。屑。㋺テイ。丑例切。霽。

【䚥】㋑エイ。以制切。霽。㊀あげまき(總角)㊁かんざし(簪)。シフ。阻立切。緝。㊀角のかたき貌㊁角のおほき貌㊂角のあつまりて相觸れざる貌。

十畫

【觱】㋑ヒツ、ヒチ。畢吉切。質。㋺ウツ、チチ。王勿切。物。㊀えびすぶえ㊁泉のわきいづる貌㊂風さむき貌㋺えびすぶえ。

【觱沸】泉の湧き出づる貌。詩經に「觱沸檻泉」

【觱發】風のさむき貌。詩經に「一之日觱發」

【觱篥】ふえの一種。

【䚦】テイ、ダイ。杜奚切。齊。㊀かうがい㊁角正しからず。

【䚌】タン。多官切。寒。豕に似たる獸。

【觲】セイ、シャウ。息營切。庚。とし(利)。

【觳】㋑コク。胡谷切。屋。㋺カク、コク。轄覺切。覺。㋑㊀つのさかづき㊁ゆみいるだうぐ(射具)㊂やじり(鏃)㊃うすし(薄)㊄つくす(盡)㊅ます(斛)㋺㊀かわく㊁あぶらいれ㊂あしのかふ(足跗)㊃あしさき㊄ひづめ(蹄)㊅あとあし㊆くらぶ、きそふ(角に同じ)㊇いぐるみのうつは。

【觳觫】死をおそるる貌。孟子に「吾不レ忍二其觳觫若三無レ罪、而就二死地一」

【觳薄】うすし。唐書、薛苹傳に「治レ身觳薄」

十一畫

【觴】シャウ。式陽切。陽。㊀さかづき㊁さかづきさす。

【觴杯】さかづき。阮瑀「嘉殽設不レ御、旨酒盈二觴杯一」

【觴酒】さかづきのさけ。吳越春秋に「觴酒既升、請稱二萬歲一」

【觴詠】酒のみてうたふ。王羲之「一觴一詠、亦足三以暢二敍幽情一」

【觻】リウ、ル。力求切。尤。㊀正しからず㊁角の貌(觩觻)。

十二畫

【觵】クワウ、ワウ。觥の本字。

【觶】㋑シ。之義切。寘。㋺章移切。支。さかづき。

【䚩】㋑ケウ。居天切。蕭。㋺袪嬌切。篠。㊀さかづき㊁つのさかづき。

【觷】㋑㊀つのまがる(角曲)㊁つのながし㊂つのたかし㊃まがる、ながし、たかし㋺角の貌。

十三畫

【觷】㋑カク、ゴク。胡角切。覺。㋺オク、ヨク。烏酷切。沃。みがく。

【觸】ショク、ソク。尺玉切。沃。㊀ふる㊁あたる(當)㊂うつ(擊)㊃つく(衝)㊄よる(據)㊅けがす(汚)㊆おかす(犯)。

國訓ふれ。

【觸石】いしにふれあたる。公羊傳に「泰山之雲、觸レ石而出、膚寸而合」

【觸突】ふれつく。後漢書に「不レ能レ持レ久、而果二于觸突一」

【觸感】㊀ふれうごく。郭璞「氣之相應、觸感而作」㊁皮膚にさはるかんじ。

【觸搏】ふれうつ。海賦に「更相觸搏、飛沫起レ濤」

【觸熱】あつさにさはる。杜甫「觸レ熱生二病根一」

【觸戰】敵に接してたたかふ。史記、越世家に「勾踐欲レ殺二妻子一、燔二寶器一、觸戰以死上」

【觸激】はげしくふれあたる。柳宗元「交絡之流、觸激之音、皆在二床下一」

【觸擊】ふれうつ。史記、封禪書に「于レ是上使三驗小方鬬棊レ棊自觸擊」

【觸諱】いみさくべき言をおかす。晉書、齊王攸傳に「攸至性過レ人、有下觸二其諱一者上、輒泫然流レ涕」

【觸羅】あみにかかる。白居易「魚能二深入一寧憂レ釣、鳥解二高飛一豈觸レ羅」

【觸齧】つくとかむと。周禮、注に「牢閑也、必有レ閑者、防二禽獸觸齧一」

十四畫

【觺】㋑ギ。魚其切。支。㋺ギョク、ゲキ。魚力切。職。角の利き貌。

十五畫

【觼】ケツ、ケチ。古穴切。屑。たまき、又、鑁箱のくさり。

十八畫

【觿】㋑ケイ、ケ。懸圭切。齊。㋺キ。許規切。支。㋩スヰ。朱惟切。支。㋥蠵に同じ。㋑㋺㋩㊀くじり、つのぎり㊁星の名㋥おほがめ。

言部

部首

【言】㋑ゲン、ゴン。語軒切。元。㋺ギャン、ゴン。魚巾切。眞。㋩ケン、コン。去偃切。銑。㋑㊀こと、ことば㊁はかりごと(謀)㊂高大なる貌㊃われ、わが(我)㊄いひつけ(命令)㊅いふ㊆無意味の助字㊇篇の一種㋺和ぎ敬む貌(誾に同じ)㋩脣の急しき貌。

【言文】言語と文章と。史記に「參代何爲二相國一、吏之言文刻深、欲レ務二聲名一者、輒斥二去之一」

【言云】ことば。左傳に「子之言云、又焉用レ盟」
【言次】ことばのついで。魏志、注に「因從容言次、微激レ之」
【言志】詩をいふ。書經に「詩言レ志、歌永レ言」
【言言】㊀高大なる貌。詩經に「崇墉言言」㊁和ぎ敬む貌。禮記に「二爵而言言斯」
【言泉】言語のわき出づるもと。晉書に「言泉會二于九流一、文律諧二于六變一」
【言音】ものいふこゑ。南史に「道憐素無二才能一、言音甚楚」
【言笑】ものいひ且つわらふ。詩經に「總角之宴、言笑晏晏」
【言責】ことばの上の責任。孟子に「有二言責一者、不レ得二其言一則去」
【言路】上に建言するみち。唐書に「陛下啓二言者路一、故羣臣敢論二得失一」
【言動】ことばとふるまひと。宋史に「一言一動、如レ臨二之在一レ上、質レ之在レ傍」
【言晤】はなしあふ。南史、張敷傳に「道中可レ得二言晤一」
【言詮】いひとく。張說「聲眞不二世識一、心醉豈言詮」
【言意】㊀こころに思ふことをいふ。陸雲「區區至心、謹復言レ意」㊁ことばとこころと。關尹子に「天子至理、竟非二言意一」

【言誓】ことばの上のちかひ。左傳に「言誓未レ就、景公卽レ世、我寡君是以有二令狐之會一」
【言貌】ことばとかたちと。後漢書、范冉傳に「窮居自若、言貌無レ改」
【言談】はなし。禮記に「禮節者仁之貌也、言談者仁之文也」
【言戲】口辯にてたはむる。北齊書、司馬子如傳に「不レ治二檢裁一、言戲穢褻、識者非レ之」
【言辭】ことば。吳質「威儀虧替、言辭漏渫」
【言行相反】言ふ所と行ふ所と一致せず。淮南子に「言與レ行相悖、情與レ貌相反」
【言語道斷】言語に述ぶべきやうなし。もつての外のひがごと。瓔珞經に「言語道斷、心行所滅」
【言輕則招憂】輕輕しくことばを出すときは、後日の憂を招く。揚子法言に「言輕則招レ憂、行輕則招レ辜、貌輕則招レ辱、好輕則招レ淫」

二畫

【訂】(ゆ)テイ、チャウ。他丁切。靑。(ろ)丁定切。徑。(は)唐丁切。靑。(ゆ)㊀はかる(議)㊁くらべあはす(ろ)㊀はかる㊁とどこほる(逗遛)㊂ただす(正)㊃民に賦課すること(は)㊀はかる㊁ひとし(均)。
【訂正】文章のあやまりを正し改む。晉書、荀崧傳に「其書諸所二發明一、或左氏公羊所レ不レ載、亦足レ有レ所二訂正一」
【訒】(ゆ)ジョウ、ニョウ。如乘切。蒸。(ろ)ジ、ニ。人之切。支。㊀あつし(厚)㊁つく(就)㊂かさぬ、かさなる(重)。
【訃】フ、ホ。芳遇切。遇。㊀つぐ(告)㊁いたる(至)㊂しらせ(報)、喪の報知。
【訃音】死去のしらせ。左傳に「凡諸侯同盟、薨則赴以レ名」古は、訃、赴、報の三字通じ用ゐたり。
【訄】(ゆ)キウ、グ。渠鳩切。尤。(ろ)カウ、コウ。苦刀切。豪。(は)ダウ、ノウ。奴刀切。豪。(ゆ)㊀はかる(謀)㊁やすし(安)㊂せまる(迫)(ろ)㊀たはむる(戲)㊁せまる(迫)(は)㊀たはむる(戲)。
【訆】ケウ。公弔切。篠。よぶ、さけぶ(叫に同じ)。
【訇】(ゆ)クワウ、ワウ。呼宏切。庚。(ろ)詢に同じ。(ゆ)㊀おほいなるこゑ㊁おどろきいふこゑ㊂いかりさけぶこゑ。
【訇訇】おほごゑの貌。楊炯「隱二隱中道一、訇二訇太虛一」
【計】(ゆ)ケイ、カイ。古詣切。霽。(ろ)ケツ、ケチ。吉屑切。屑。

(ゆ)㊀かぞふ(數)㊁算術㊂かんぢやう㊃はかる(謀)㊄はかりごと(策)㊅決算の帳簿(ろ)はかる(畫)。國訓ばかり。
【計度】かぞへはかる。詩經、疏に「亦助二之計度一」
【計帳】戸籍簿。後漢書に「遣レ使奉レ計」注に「計謂二人庶名籍一、若二今計帳一」
【計畫】はかりごと。漢書に「平日、誠臣計畫有二可レ采者一、願大王用レ之」
【計略】前に同じ。唐書、渾鎬傳に「治レ兵頗有レ法、然短二於計略一」
【計策】前に同じ。吳志に「引二見諸將一、問以二計策一」
【計掾】會計を掌る役人。魏書、高祖紀に「孝秀計掾、而對多不レ實」
【計置】はかりかぞへておく。宋史に「計二置陝西錢糧一」
【計較】はかりくらぶ。
【計算】かぞへはかる。史記に「桑弘羊以二計算一用レ事」
【計數】はかりごと。北史、沮渠蒙遜傳に「有二勇略一、多二計數一」
【計慮】前に同じ。元史、皇后冊文に「贊二畫計慮一」
【計簿】會計をしるしたる帳面。漢書に「上二計簿一、具レ文而已」
【計議】はかりごと。又、はかりごとを論ず。史記に「唯大王與二羣臣一孰計二議之一」

三畫

【訊】(ゆ)シン。思晉切。震。(ろ)誶に同じ。(は)許に同じ。(に)ジン、慣用音。(ゆ)㊀とふ(問)㊁たづぬ(尋)㊂ことば(辭)㊃つぐ(告)㊄いさむ(諫)㊅せむ(讓)㊆しらぶ㊇おとづれ(音問)㊈をさむ(治)㊉とし(迅)⑪うごかす(動)⑫ふるふ(奮)。
【訊唉】おどろきたづぬ。管子に「禹立二諫鼓於朝一、而備二訊唉一」
【訊問】罪人などとりしらぶ。文獻通考に「卽加二訊問一」
【訊鞫】きびしくとひただす。後漢書に「罪無二申證一、獄不二訊鞫一」
【訌】(ゆ)カウ、ゴウ。胡江切。江。(ろ)コウ、グ。戸工切。東。㊀つひゆ(潰)㊁やぶる(敗)㊂みだる(亂)㊃うちわもめ。
【[言口]】(ゆ)カ、ケ。虛加切。麻。(ろ)コウ、ク。叩に同じ。(ゆ)わらふ(笑)(ろ)たたく。
【討】タウ、トウ。他皓切。皓。㊀うつ(伐)㊁をさむ(治)㊂ころす(誅)㊃せむ(訶)㊄のぞく(除)㊅もとむ(求)㊆さぐる(探)㊇たづぬ(尋)㊈きはむ(究)㊉さる(去)⑪まじる(雜)。
【討伐】罪あるものをうちただす。史記に「挾二王室之義一、以討伐」

【討究】事物の眞理をきはむ。唐書に「討二究儒術一、以興二典憲一」
【討度】心にたづねはかる。柳宗元「術用二討度一、不二自謂一レ宜」
【討捕】うちて敵をとらふ。舊唐書、蘇定方傳に「膽氣絶倫、年十餘歲、隨レ父討捕、先登陷レ陣」
【討逐】うちておふ。後漢書、樊準傳に「準輒將レ兵討逐」
【討貳】二心をいだく者をうつ。左傳に「諸侯討レ貳、則有二尋盟一、若皆用レ命、何盟之尋」
【討源】もとの處をさがしたづぬ。(探源)。文賦に「或沿レ波而討レ源」
【討賊】そむく者をうつ。左傳に「亡不レ越レ竟、反不レ討レ賊」
【討論】議論して道理をきはむ。論語に「世叔討二論之一」
【討練】研究し練習す。北史に「天文占候、無レ不二討練一」
【討繹】とりしらぶ。唐書に「作レ書號二外臺祕要一、討繹精明、世寶レ焉」
【討讁】とがむ。後漢書に「指二訐時短一、討二讁物情一、足三以覩二見當時風政一」
【訏】(ゆ)ク、コ。火羽切。麌。(ろ)況于切。虞。(は)コ、ク。荒胡切。虞。(ゆ)おほいなり(大)(ろ)㊀いつはる([illegible])㊁ほこる(誇)㊂おほいなり(大)㊃ああ(嗚呼)㊄まこと(信)(は)㊀さけぶ、わめ

く(吁)㊁かまびすし。

【訏訏】(クク) 大いなる貌。詩經に「孔樂韓土、川澤訏訏」

【訐】㋑ケツ、コチ。許謁切。月。㋺ケツ、ケチ。居列切。屑。㋩ケイ。居例切。霽。㊀あばく(發)㊁そしる(誹)㊂まのあたり責む。

【訐直】(ケツチヨク) 人の惡をあばき出して自ら直しとす。論語に「惡訐以爲直者」

【訑】㋑イ。弋支切。支。㋺タ。他可切。歌。㋩シ。商支切。支。㋥タ、ダ。湯何切。歌。㋭誕に同じ。㋑㋺自得して他人の言を用ゐざる貌㋩くちがるし(多言)㋥㊀あざむく(欺)㊁いつはる(詐)㋭ほしいままなり。

【訑訑】(イイ) 自らその智を足れりとして、善言を好まざる貌。孟子に「訑訑之聲音顏色、拒人於千里之外」

【訑謾】(イマン) あざむく。(欺謾)。楚辭に「或訑謾而不疑」

【言尸】 キ。馨夷切。支。㊀うめく(呻)㊁わらふ(笑)㊂なげく(歎)。

【訒】ジン、ニン。而振切。震。㊀しのぶ(忍)㊁にぶし(鈍)㊂かたし(難)㊃いつくしむ(仁)。

【訓】クン、コン。許運切。問。㊀をしふ(誨)㊁みちびく(導)㊂いましむ(誡)㊃したがふ(順)㊄をしへ(教)㊅とく、よむ、字義を解釋す㊆わけ、よみ(解釋)。

【訓化】(クンクワ) をしへみちびく。晉書に「古之聖王、躬耕帝籍、以供郊廟之粢盛、且以訓化天下」

【訓告】(クンコク) いましめつぐ。書經に「古之人猶胥訓告」

【訓育】(クンイク) をしへそだつ。直接に兒童の感情を練り、意思を養ひて、道德的品性を陶冶すること。管理・敎授と竝びて敎育の一方法なり。

【訓卒】(クンソツ) 兵卒を訓練す。晉書に「繕甲訓卒、廣爲戎備」

【訓典】(クンテン) 先王古聖賢の書。陶潛「言合訓典、行合世範」

【訓故】(クンコ) 文字の意義。漢書に「學者傳訓故而已」

【訓狐】(クンコ) 〔動〕このはづく。韓愈「有鳥夜飛名訓狐」

【訓格】(クンカク) をしへただす。孔子家語に「口不吐訓格之言」

【訓旅】(クンリヨ) 軍隊の敎練。王融「治兵開晉策、訓旅見周篇」

【訓授】(クンジユ) をしへさづく。魏書に「篤勤訓授、講而有禮」

【訓喩】(クンユ) をしへさとす。魏志、趙儼傳に「使儼幷參三軍、毎事訓喩、遂相親睦」

【訓詁】(クンコ) 古文のよみ方。後漢書に「帝以其文典雅、特命校書郎賈逵、爲之訓詁」

【訓解】(クンカイ) よみ方と意義の說明と。史記集解序に「列異同、兼述訓解」

【訓蒙】(クンモウ) 童蒙をおしへさとす。書經に「具訓于蒙士」

【訓誨】(クンクワイ) をしふ。又、をしへ。(敎誨)。左傳、疏に「忠爲萬事之本、故陳忠恕之事、以訓誨之」

【訓奬】(クンシヤウ) をしへはげます。蘇頲「師儒昔訓奬、仲季時童孩」

【訓誘】(クンイウ) をしへ導く。(辨誘、開誘)。晉書に「十載訓誘之誨、日有所忘」

【訓點】(クンテン) 漢文の送り假名と返り點と。

【訓練】(クンレン) をしへならす。唐書、郝廷玉傳に「歎曰、吾處兵間久、今始識訓練法」

【訓範】(クンハン) をしへ。陸雲「內修訓範、外陶氓俗」

【訓導】(クンダウ) をしへみちびく。司馬光「訓導不嚴師之惰」

【訓辭】(クンジ) をしへのことば。左傳に「君若綏之以德、加之以訓辭」

【訔】ギン、ゴン。誾に同じ。

【訕】サン、セン。所晏切。諫。そしる。(謗)。

【訕謗】(センバウ) そしる。北史に「彝父爲苻堅鉅鹿太守、坐訕謗繫獄」

【訖】キツ、コチ。居迄切。物。㊀やむ、とどむ(止)㊁つく、つくす(盡)㊂をはる(終)㊃いたる、およぶ(迄に同じ、至)㊄つひに(竟)。

【託】㋑タク。他各切。藥。㋺タ、テ。陟嫁切。禡。㋑㊀よす(寄)㊁よる(依)㊂まかす(委)㊃たのむ(賴)㊄かりずまひ(寄寓)㊅かこつく㊆ほのめかす㋺ほこる(誇)。

【託名】(タクメイ) 人の幕下となる。後漢書、趙壹傳に「壹以公卿中、非陸無足以託名者、乃日往到門」

【託疾】(タクシツ) やまひにかこつく。司馬相如贊に「託疾避官、蔑此卿相」

【託寄】(タクキ) ゆだねまかす。晉書、張華傳に「帝問華、誰可託寄者」

【託宿】(タクシユク) やどをかる。莊子に「假道于仁、託宿于義」

【託喩】(タクユ) 或事にことよせてさとす。韓愈「倚類託喩、事之纖悉不可圖驗」

【託意】(タクイ) こころをよす。陸機「寄情在玉階、託意惟團扇」

【託孤寄命】(タクコキメイ) 遺孤を託し、國政をゆだぬ。論語に「可以託六尺之孤、可以寄百里之命、臨大節而不可奪也、君子人歟、君子人也」

【記】㋑キ。居吏切。寘。㋺其に通ず。㋑㊀しるす(錄)㊁かく(書)㊂おぼゆ(覺)㊃かきもの、ふみ(文書、載錄)㊄しるし(文符)㊅一種の文體㋺無意味の助字。

【記念】(キネン) 物をとどめて後のしるしとすること。かたみ。遊仙窟に「下官曁然、破愁成笑、遂喚奴曲琴、取相思枕、留與十娘、以爲記念」

【記性】(キセイ) ものをおぼゆる力。避暑錄に「人之學術、皆可勉强、惟記性各有分量」

【記室】(キシツ) 記錄を掌る屬官。續事始に「幕府皆有記室、掌章表書記文檄」

【記得】(キトク) おぼえてあり。劉禹錫「曾隨織女度天河、記得雲間第一歌」

【記傳】(キデン) 歷史傳記。後漢書に「校中書五經記傳、補續漢記」

【記意】(キイ) こころにのこしとどむ。穆員「荒徼未効、記意於勞問之初」

【記載】(キサイ) しるしのす。

【記誦】(キシヨウ) 記憶と暗誦と。宋史に「今諸科專記誦」

【記憶】(キオク) 一度知覺したる物事を忘れざること。おぼえ。南史に「史漢事多所記憶」

【記錄】(キロク) 書きしるす。魏志に「賢哉良史、記錄必不墜于地矣」

【記籍】(キセキ) かきのせたる帳面。漢書に「縣縣各有記籍」

【記事珠】(キジシユ) 手にて摩づれば、記憶を呼び起すといふ不思議なる寶珠なり。開元天寶遺事に「張說爲宰相、有人惠說一珠、紺色有光、名曰記事珠、或有闕忘之事、則以手持弄此珠、便覺心神開悟、事無巨細、一無所忘、說祕爲至寶」

【記問學】(キモンノガク) 徒らに古書を記誦するのみにて、心に得るところなき學問。禮記に「記問之學、不足以爲人師」

四畫

【言互】コ、ゲ。胡故切。遇。㊀しかる(呵)㊁したたむ(認)㊂しるす(誌)。

【言乎】コ、ゲ。【言互】に同じ。

【訛】㋑グワ。五禾切。歌。㋺クワ。慣用音。㊀いつはる(僞)㊁あやまる(謬)㊂うごく(動)㊃めざむ(覺)㊄なまり(鄙語)、うそ(妖言)㊅かはる(化)㊆のび(野火)㊇獸の名㊈へび(蛇)。

【訛言】(クワゲン) 根のなき僞りのことば。詩經に「民之訛言、寧莫之懲」

【訛舛】(クワセン) あやまりたがふ。(謬舛)。舊唐書に「漢魏以還、彌更訛舛」

【訛音】(クワイン) なまりことば。秦觀「擬見踏吳歌、姬姹足訛音」

【訝】ガ、ゲ。五駕切。禡。㊀むかふ(迎)㊁ねぎらふ(勞)

㊂うたがふ(疑)、あやしむ(怪)、いぶかる㊃迓に同じ㊄牙に通ず。

【訝賓】君命を以て客をむかふ。儀禮に「訝賓於館」注に「以君命迎賓、謂之訝」

【訞】エウ。於喬切。蕭。

㊀わざはひ(妖に同じ、災)㊁ことば巧みにいふ、いつはる、あやまる。

【訞怪】あやし。荀子に「可謂訞怪狡猾之人矣」

【訟】㋑ショウ、ジュ。似用切。宋。㋺ヨウ、ユ。餘封切。冬。

㋑㊀うつたふ、うつたへ(訴)㊁あらそふ(爭)㊂せむ(責)㊃おほやけ(公)㊄易の卦の名㋺㊀いろ(容)㊁あらそふ(諍)。

【訟獄】うつたふ。孟子に「朝覲訟獄者、不之益而之啓」

【訟諜】うつたへごと。方回「與人素寡合、况叉長訟諜」

【訟閲】うつたへあらそふ。魏書に「訟閲徹于公庭」

【訢】㋑キ。虛其切。支。㋺欣に同じ。㋩誾に同じ。

㋑むす(蒸)㋺よろこぶ、たのしむ㋩和ぎつつしむ貌。

【訢戴】よろこびて推しいただく。史記に「庶民不忍訢戴」

【訣】㋑ケツ、ケチ。古穴切。屑。㋺ケイ、ケ。消惠切。霽。

㋑㊀わかる、わかれ(別)㊁いきわかれ㊂しにわかれ㊃たゆ、たつ(絶)㊄いとまごひす(辭)㊅いかる(怒)㊆おくぎ、おくのて㋺さだむ、さだまる(決)。

【訣別】いとまごひ。わかれ。後漢書に「今子遠適千里、會面無期、故輕行相候、以展訣別」

【訥】㋑ドツ、ノチ。內骨切。月。㋺トツ、テチ。張滑切。月。

㋑どもる(吃)、おそし、にぶし(鈍)㋺言語辨ずるを得ず。

【訥口】どもる。後漢書、何休傳に「休爲人質朴訥口」

【訥舌】前に同じ。柳宗元「拔去訥舌、納以工言」

【訥直】口どもりて正直なり。南史に「訥直守信、坐見埋沒」

【訥訥】ことばいふ能はざる貌。

【訥於言敏於行】言ふは易くして行ふは難し、故に易きを抑へて、難きを務めしめんとの教なり。論語に「子曰、君子欲訥於言、而敏於行」

【訦】㋑シン、ジン。是吟切。侵。
㋑まこと㋺人の名。

【訧】イウ、ウ。羽求切。尤。
㊀あやまち(過)㊁つみ(罪)㊂とがめ(尤)。

【䚻】エウ。謠に同じ。

【訩】キョウ、ク。許容切。冬。詾に同じ。

【訪】ハウ。敷亮切。漾。
㊀とふ、たづぬ㊁きく、ただす㊂はかる(議)㊃およぶ(及)㊄さがす(索)㊅みる(見)㊆まみゆ(謁見)㊇まさに(方)。

【訪求】たづねもとむ。宋史、李道傳に「雖不及登朱熹之門、而訪求所嘗從學者」

【訪問】たづねとふ。おとづる。左傳に「朝以聽政、晝以訪問」

【訪尋】おとづる。たづねさがす。黃庭堅「必有人材備訪尋」

【訪質】ゆきてとひただす。北史に「朝廷疑事、多所訪質」

【訪慰】とひてなぐさむ。張華「論今無新喜、清晨相訪慰」

【訨】キャウ、カウ。誑に同じ。

【訬】㋑サウ、セウ。初交切。肴。㋺ベウ、メウ。亡沼切。篠。
㊀みだる(擾)㊁はやし(疾)㊂すばやし(敏捷)㊃かろし(輕)㊄うすし(薄)㊅ふみ(書)㊆わるがしこし(獪)㊇たかし(高)㊈しなやかなり、みめよし。

【設】セツ、セチ。式列切。屑。
㊀人の姓㊁まうく㊂おく(置)㊃つらぬ(陳)㊄たつ(立)㊅おほいなり

(大)㊆たとへば、もし。

【設令】㊀命令を設く。新論に「懸教設令、以示人者法也」㊁たとひ。

【設立】まうけたつ。

【設伏】ふせぜいをおく。漢書に「出奇設伏、變詐之兵竝作」

【設詐】いつはりのてだてをたくむ。淮南子に「設智以驚愚、設詐以巧上」

【設置】つくりまうく。後漢書、劉瑜傳に「帷陛下設置七臣、以廣諫道」

【訮】㋑ヘン、ホン。甫遠切。阮。㋺ハン、ホン。方願切。願。㋩ハン。博漫切。寒。
㋑あざむく㋺かまびすし(譀)㋩ほこる(矜)。

【訰】㋑シュン。之閏切。震。㋺朱倫切。眞。㋩トン、ドン。徒渾切。元。
㋑みだる(亂)㋺㊀まじふ(雜)㊁ことばのみだるる貌㊂心のみだるる貌㊃あつし、ねんごろ(諄に同じ、厚)㋺ことばおほし、多言なり。

【許】㋑キョ、コ。虛呂切。語。㋺コ、ク。火五切。麌。
㋑㊀ゆるす㊁まかす(任)㊂うべなふ(諾)㊃きく(聽)㊄くみす(與)㊅したがふ(從)㊆なだむ(宥)㊇よしとす(可)㊈すすむ(進)㊉まこととす(信)⑪あてにす(期)⑫ばかり、ほど(程度)⑬この、かく(斯)⑭ところ、もと(場所)⑮地の名⑯邑の名⑰人の姓㋺おほくの人の一齊に力を用ゐる聲。国訓もと。

【許可】ゆるす。ゆるし。世說に「世尊默然、則爲許可」

【許多】あまた。數おほし。

【許容】ゆるす。

【許國】身をすてて國の爲につくす。孔稚圭「本持許國志、况復武德彰」

【許許】衆人の力を共にするこゑの形容。詩經に「伐木許許」

【許嫁】いひなづけ。禮記に「女子許嫁、笄而字」

【許諾】うけがふ。公羊傳に「管子顧曰、君許諾、桓公曰諾、曹子請盟」

【訲】㋑ヒン、ネン。汝閻切。鹽。㋺喃に同じ。
㋑㊀ことばおほし(多言)㊁かたる(語)。

【訽】キン。九峻切。震。
いつはる(詐)、あざむく(欺)。

五畫

【訴】㋑ソ、ス。桑故切。遇。㋺セキ、シャク。昌石切。陌。
㋑㊀うつたふ、うつたへ(訟)㊁そしる(譖)㊂つぐ(告)㋺しこづ。

【訴狀】うつたへの文書。

【訴訟】うつたへ。

【訴權】裁判所にうつたふべき權利。

【訵】㋑チ。丑飢切。支。㋺丑利切。寘。
㊀うかがひみる(伺察)㊁陰に知る㊂咽に同じ。

【訶】カ。虎何切。歌。
㊀せむ(譴)㊁いかる(怒)㊂とがむ(咎)。

【訶咄】しかる。陸龜蒙「而我正萎痿、安能致訶咄」

【訶詈】しかりののしる。魏書に「然訶詈童僕、音雜夷夏」

【訶詰】しかりなじる。唐書に「凡言變、吏不得訶詰」

【訶譏】しかりそしる。梅堯臣「相過無百步、誰虞竊訶譏」

【訑】エン、チン。紆願切。願。
㊀したがふ(從)㊁なぐさむ(慰)㊂うらむ(怨)。

【䛅】㋑カフ、ケフ。呼甲切。洽。㋺嗑に同じ。
㋑㊀ことばおほし㊁はなしごゑ。

【訷】シン。伸に同じ。

【訹】シュツ、ジュチ。雪律切。質。
いざなふ(誘)。

【診】㋑シン。之忍切。軫。㋺チン、ヂン。直刃切。震。
㊀うらなふ(占)㊁みる(視)㊂病狀を察す㊃かんがふ(驗)。

【診脈】 脈搏をみる。史記に「特以ニ診脈一爲レ名耳」
【診病】 やまひの容態をみる。史記に「診レ病知ニ人死生一」
【診察】 病の性を見わけかんがふ。南史に「子雄亦傳ニ家業一、尤工ニ診察一」
【診斷】 病性を見きはむ。

【詅】 シン。チン、ヂン。診の俗字。

【註】 ㋑シユ、之戍切。遇。㋺チユ。中句切。遇。㋩チユウ。慣用音。㊀あきらかにす(著)㊁とく(解釋)㊂しるす(識)㊃のぶ(述)。
【註疏】 本文の間に註して意義などときあかす。
【註解】 前に同じ。
【註釋】 前に同じ。

【証】 セイ、シヤウ。之盛切。庚。いさむ(諫)。
國訓しよう(證に代用す)。

【評】 ㋑カウ、ゴウ。平報切。號。㋺コ、ク。呼に同じ。㋑あざむく(欺)㋺よぶ。

【訾】 ㋑シ。蔣氏切。紙。㋺卽支切。支。㋩セイ、サイ。子禮切。薺。㋥ツ、ス。宗吳切。虞。㋑㊀そしる(詆)㊁にくむ(惡)㊂みだりなり、ほしいまゝなり(恣)㋺㊀おもふ(思)㊁かぎる(限)㊂やまひ(病)㊃なんぞ(何)㊄はかる(量)㊅ああ、あ(呇に同じ)㊆たから(貲に同じ)㊇胔に通ず㋩そしる(譖)㋥獸の名。
【訾短】 そしる。唐書に「嫉ニ徳裕一共訾ニ短之一、乃罷ニ徳裕一」
【訾厲】 やまひ。管子、注に「訾、疾也、厲、病也」

【訿】 シ。訾に同じ。

【詀】 ㋑タン、テン。竹咸切。咸。㋺陟陷切。陷。㋩テン。他兼切。甜。㋥テフ。託協切。葉。㋭セフ。叱渉切。葉。㋑㊀ことばおほし(多言)㊁たはむろ(謔)㊂はなしごゑ㋺㊀やはらがず(不和)㊁あざむかる(被誑)㋩㊀いひかふ(轉語)㊁ひく(拏)㊂たくみにいふ、しやべる(多言)㋥㊀へつらふ(佞言)㊁みだりにいふ(妄言)㋭ささやく(細言)。
【詀喃】 くだくだしくかたる。元稹「蛛懸絲繚繞、鵲報語詀喃」

【詁】 コ、ク。果五切。麌。㊀よむ、とく㊁よみ、わけ。

【詃】 ケン。古犬切。銑。㊀いつはる(詐)㊁いざなふ(誘)。

【詄】 ㋑テツ、デチ。徒結切。屑。㋺イツ、イチ。弋質切。質。㊀わするる(忘)㋩シ。矢利切。寘。㊁あやまる(誤)㊂かたくきよき貌。

【詄】 ㋑シ。矢利切。寘。㋺セイ、ゼイ。時制切。霽。㋑こころざす(志)㋺ちかふ(誓に同じ)。

【詅】 レイ、リヤウ。力丁切。青。㊀てらふ(衒)㊁うる(賣)。
【詅癡符】 はぢさらし。顏氏家訓に「拙文研思、終歸ニ蚩鄙一、中略世人無ニ才思一、自謂ニ清華一流布、醜拙亦以衆矣、江南號爲ニ詅癡符一」

【[illegible]】 アイ、エ。烏懈切。蟹。こゝろの平かならざるにいふ。

【詆】 ㋑テイ、タイ。都禮切。薺。㋺テキ、チャク。他歷切。錫。㋑㊀しかる(訶)㊁そしろ(毀)㊂はづかしむ(辱)㊃しふ(誣)㊄あばく(訐)㊅おくぎ(要法)㋺㊀ひがむ(僻)㊁わるがしこし(狡獪)。
【詆訐】 そしりあばく。(非訐)。唐書に「詆訐彈射、皆不レ實」
【詆訶】 そしりせむ。南史に「當時或有ニ詆訶者一、及ニ其末一翕然重レ之」
【詆辱】 そしりはづかしむ。宋史、朱子傳に「排擯詆辱、必使レ無レ所レ容ニ其身一、而後已」
【詆訾】 そしる。(毀訾、非訾)。南史に「有レ不レ合レ意、極言詆訾」
【詆欺】 いつはる。漢書に「造レ端作レ基、非ニ議詆欺一」
【詆毀】 そしる。宋書に「横ニ興譏謗一、

詆ニ毀朝士一」
【詆譖】 せめそしる。(譏譖)。唐書に「其論著、率詆譖蕪穢」

【詇】 ㋑アウ。於亮切。漾。㋺エイ、ヤウ。於敬切。敬。㋩嗌に同じ。㋑さとし(智)㋺㊀さとし㊁とふ(問)㊂つぐ(告)。

【詈】 リ。力智切。寘。ののしる(惡口)。
【詈辱】 ののしりはづかしむ。魏志、袁煥傳に「呂布欲レ使ニ煥作レ書詈ニ辱劉備一、煥不レ可」
【詈罵】 ののしる。漢書に「司寇小吏、詈罵而榜ニ笞之一」

【詉】 ㋑ダ、ネ。女加切。麻。㋺乃嫁切。禡。㋩ド、ヌ。奴故切。遇。㋥呶に同じ。㋑㊀はづ(羞)㊁語る貌㊂もののいひさとりがたし㋺いつはる(詐)㋩ののしる、そしる(惡口)。

【詋】 シウ、シユ。呪に同じ。

【詌】 カン、コン。古暗切。勘。くちつぐむ(口閉)。

【詍】 ㋑エイ。余制切。霽。㋺セイ、ゼイ。時制切。霽。㋩セツ、セチ。私列切。屑。ことばおほし(多言)。

【詎】 キョ、ゴ。其呂切。語。㊀とどまる(止)㊁いたる(至)㊂なんぞ、なんすれぞ(何)。

【詑】 タ、ダ。訑に同じ。

【訑】 タ、ダ。詑に同じ。

【詐】 サ、セ。側嫁切。禡。㊀いつはる、いつはり(虛言)㊁あざむく(欺)㊂をはる(卒)。
【詐力】 いつはり。史記に「先ニ詐力一、而後ニ仁義一」
【詐巧】 いつはりたくむ。晉書に「且當ニ詐巧一、不レ可ニ力爭一也」
【詐妄】 いつはり。(詭妄)。郭璞「若以レ谷爲ニ妖蠱詐妄者一、則當レ投ニ畀裔土一」
【詐狂】 いつはりくるふ。晉書、公孫永傳に「歲餘詐狂、哼逐ニ之平郭一」
【詐忠】 うはべに忠義をよそほふ。漢書に「臣固愚忠、若ニ張湯一乃詐忠」
【詐故】 たくみ。いつはり。荀子に「不レ隆ニ本行一、不レ循ニ舊法一、而好ニ詐故一」
【詐病】 やまひなりといつはる。史記に「吳王詐レ病不レ朝」
【詐疾】 前に同じ。後漢書に「鄧禹詐レ疾而言不遜、太后太怒、遂免ニ康官一」
【詐晴】 しばらくの間はれて又くもること。李覯「天雨還有ニ詐晴時一」
【詐欺】 いつはりあざむく。韓非子に「智者不レ得ニ詐欺一」
【詐善】 外面をつくろひて善事を行ふ如くいつはる。(僞善)。後漢書に「人皆詐レ惡、我獨詐レ善、不ニ亦可一乎」
【詐僞】 いつはり。管子に「不ニ強レ民以ニ其所一レ惡、則詐僞不レ生」
【詐數】 いつはりのはかりごと。唐書に「世充多ニ詐數一」
【詐謀】 前に同じ。史記に「常稱ニ義兵一、不レ用ニ詐謀奇計一」
【詐獪】 わるがしこし。揚子方言に「凡小兒多レ詐而獪」
【詐諼】 いつはり。漢書に「及ニ邪人爲レ之、則上ニ詐諼一、而棄ニ其信一」
【詐戰】 齊國の方言にて、戰爭をなはるをいふ。公羊傳に「詐戰不レ日」注に「詐、卒也、齊人語也」
【詐譎】 いつはり。劉向「棄ニ仁義一而用ニ詐譎一」
【詐辭】 いつはりのことば。鶡冠子に「詐辭者狙レ物者也」

【詒】 ㋑イ。與之切。支。㋺イ。羊吏切。寘。㋩タイ、デ。徒亥切。賄。㋑㊀あざむく(欺)㊁のこす(遺)㊂つたふ(傳)㊃疑ふ疾㊄氣ぬけする貌㊅おこたりうむ貌㊆通じて、貽、飴に作る㋺㊀あたふ(貺)㊁おくる(遺)㋩あざむく(紿に通ず、欺)。

【詓】 キョ、コ。口舉切。語。こゑ(聲)。

【詔】 ㋑セウ。之少切。嘯。㋺セウ、セウ。市召切。嘯。㋩セウ。之遙切。

篇。　(い)❶つぐ(告)❷をしふ(教)❸みちびく(導)❹はげます(勵)❺たすく(助)❻ふれ、ふれぶみ❼みことのり❽南蠻の王號(ろ)賓と主との紹介をなすもの(は)みちびく(誘)。

【詔旨】セウシ　みことのりのむね。李商隱「鳳凰傳ニ詔旨一、獬豸冠ニ朝端一」

【詔告】セウカウ　つぐ。禮記に「所ニ以詔ニ告於天地之間一也」

【詔書】セウシヨ　みことのりを記したる文書。文心雕龍に「漢命有ニ三品一、三曰、詔書、詔告也」

【詔條】セウデウ　みことのりのかでう。舊唐書、憲宗紀に「奉ニ我詔條一、恤隱爲レ心、無レ怠ニ於事一」

【詔敕】セウチヨク　みことのり。北史に「將ニ開レ倉賑ニ給官屬一、咸曰、須レ待ニ詔敕一」

【詔諭】セウユ　みことのりしてさとす。五代史に「明宗詔諭不レ許」

【詔獄】セウゴク　漢代に天子の詔を奉じて罪人を鞫せしところ。李白「淳于免ニ詔獄一、漢主爲ニ緹縈一」

【評】(い)ヘイ、ビヤウ。符兵切。庚。(ろ)ヒヤウ。慣用音。❶たひらかにす(平)❷はかる(議)❸あげつらふ(論議)❹しなさだめ(論定)❺しなさだめす。

【評決】ヒヤウケツ　論じさだむ。魏書、唐和傳に「評ニ決獄訟一、不レ加ニ捶楚一、察レ疑獲レ實者甚多」

【評品】ヒヤウヒン　しなさだめす。(品評)。元史に「爲レ人樂易、平居未ニ嘗評ニ品人物一」

【評詮】ヒヤウセン　えらびはかる。袁桷「淒涼塵土委、明鑑勞ニ評詮一」

【評論】ヒヤウロン　品定めして論ず。梁書に「其敍事評論多善」

【評斷】ヒヤウダン　品定めしてさだむ。晉書、傅休奕傳に「評ニ斷得失一、各爲ニ區例一」

【評議】ヒヤウギ　相談してきむ。魏書に「今宜下依ニ舊詔一百寮評議上」

【詖】ヒ。彼義切。寘。❶かたよる(偏)❷さとし(慧)❸わるがしこし❹へつらふ(諂)。

【詖行】ヒカウ　ねぢけたるおこなひ。孟子に「我亦欲下正ニ人心一、息ニ邪說一、距ニ詖行一、放ニ淫辭一、以承中三聖者上」

【詖辭】ヒジ　かたよりたることば。孟子に「詖辭知ニ其所一レ蔽」

【詗】(い)ケイ、キヤウ。火迥切。迥。(ろ)虛政切。敬。(い)❶つげしらす(告言)❷うかがふ(覘)❸さぐる(探)❹もとむ(求)❺さとる(悟)(ろ)うかがふ、さぐる。

【詘】(い)クツ、コチ。區勿切。物。(ろ)黜に同じ。(は)訥に同じ。(い)❶まぐ(曲)❷をる(折)❸したがふ(從)❹かがむ(屈)❺ちぢむ(縮)❻いひつまる(辭塞)❼やむ(止)❽つく(盡)❾絕え止む貌❿かへりて(反)⓫喜の情の外にあらはるること。

【詘坐】チユツザ　しりぞけ罪す。易林に「詘坐不レ伸、道無ニ良人一」詘は黜に同じ。

【詘指】クツシ　ゆびををりてかぞふ。漢書、陳湯傳に「詘指計ニ其日一、曰、不レ出ニ五日一、當レ有ニ言語聞一」

【詛】(い)シヨ、ソ。莊助切。御。(ろ)ス、ソ。遵遇切。遇。(は)阻に通ず。❶のろふ(呪)❷ちかふ❸そしる(謗)❹うらむ(怨)。

【詛詈】ソリ　のろひののしる。書經に「人有ニ誑惑之言一、小人怨憾詛詈、汝則信ニ受之一」

【訑】タウ、トウ。土刀切。豪。❶みだりにいふ❷小兒の語りつづくること❸ゆききして言ふ。シ、ジ。似玆切。支。

【詞】❶つぐ(告)❷ことば(言語、字句)❸とく(說)❹いふ(言)❺辭章、詩文。

【詞人】シジン　詩文を作るひと。舊唐書に「張說常謂レ人曰、後來詞人稱首也」

【詞兄】シケイ　學友に對する敬稱。

【詞舌】シゼツ　ことば。搜神記に「常以ニ詞舌一過レ人、同輩莫レ不ニ畏憚一」

【詞伯】シハク　詩文をよくする人。宋之問「書乃墨場絕、文稱ニ詞伯雄一」

【詞表】シヘウ　ことばにあらはれたるほか。許敬宗「理超ニ詞表一、意生ニ文外一」

【詞客】シカク　詩文を作る人。張子容「凌レ雲詞客語、廻レ雪舞人嬌」

【詞雄】シイウ　詩文にすぐれたる人。沈佺期「子雲推ニ辨博一、公理擅ニ詞雄一」

【詞場】シヂヤウ　詩人文士のなかま。趙嘏「莫下將ニ芸閣一輕中科第上、須レ作ニ詞場第一人一」

【詞華】シクワ　ことばのあや。詩文。杜甫「詞華傾ニ後輩一、風雅藹ニ孤騫一」

【詞業】シゲフ　詩文のわざ。宋史、査道傳に「祖文徽特愛レ之、未レ冠以ニ詞業一稱」

【詞學】シガク　詩文をまなぶ道。劇談錄に「曩者仰ニ卿材器一、今日視ニ卿詞學一」

【詞韻】シヰン　ことばのひびき。齊書に「每ニ賓友會同一、詞韻如レ流、聽者忘レ倦」

【詞藝】シゲイ　詩文などのわざ。宋史に「後進之有ニ詞藝一者、必爲ニ稱揚一」

【詞藻】シサウ　ことばのあや。詩文。

六畫

【詠】エイ、ヤウ。爲命切。敬。❶うたふ(歌)❷鳴く❸うた(詞章)❹聲を永くひく。國訓ながむ。

【詠史】エイシ　歷史のことがらを詩に作る。晉書に「會爲ニ詠史詩一、是其風情所レ寄」

【詠歌】エイカ　うたをよむ。晉書に「情之所レ適、發ニ乎詠歌一」

【詠歎】エイタン　うたひほむ。韓愈「想ニ舞雩之詠歎一」

【詠歸】エイキ　郊外の風景をながめてかへる。論語に「曾點曰、暮春者春服既成、冠者五六人、童子六七人、浴ニ乎沂一、風ニ乎舞雩一、詠歸」

【詠謠】エイエウ　うたふ。元稹「開レ卷恣詠謠、望レ雲閑徙倚」

【詠懷】エイクワイ　おもひをうたふ。溫庭筠「他時詠懷作、猶得レ比ニ南金一」

【詠雪之才】エイセツノサイ　才ある女子を稱す。晉書に「謝安嘗內集、俄而雪驟下、安曰、何所レ似也、安兄子朗曰、撒ニ鹽空中一差可レ擬、道韞曰、未レ若ニ柳絮因レ風起一」兄は謝安の兄謝奕、道韞は奕の女なり。

【詡】ク、コ。況羽切。麌。❶ほこる(誇)❷やはらぐ(和)❸あまねし(普)❹おほいなり(大)❺いさまし(勇)❻ことばあきらかなり。

【詡畜】クチク　あてやかにみめよし。漢書に「北方謂ニ媚好一爲ニ詡畜一」

【詡詡】クク　大言する貌。庾信「清室桂馮馮、齊房芝詡詡」

【詢】(い)シユン。相倫切。眞。(ろ)ジユン。慣用音。❶とふ(咨)❷まこと(信)❸はかる(謀)。

【詢咨】ジユンシ　とひはかる。(咨詢)。國語に「文王詢ニ于八虞一、而咨ニ于二虢一」

【詢按】ジユンアン　たづねしらぶ。唐書、裴休傳に「休分ニ遣官一、詢ニ按其弊一」

【詢訪】ジユンハウ　とひはかる。(顧訪)。晉書に「當下虛レ己引納、詢ニ訪政事上」

【詢察】ジユンサツ　たづねしらぶ。元史、耶律楚材傳に「燕多ニ劇賊一、楚材詢察、得ニ其姓名一、盡捕下レ獄」

【詢謀】ジユンボウ　とひはかる。又、はかりごとをとふ。書經に「朕志先定、詢謀僉同」

【詢ニ芻蕘一】スウゼウニトウ　うしかひくさかりにとふ。下問をはぢざる義。詩經に「先民有レ言、詢ニ于芻蕘一」

【詤】(い)クワウ、ワウ。呼光切。陽。(ろ)虎晃切。養。(い)ねごと(寢言)(ろ)❶ねごと(夢言)❷ほける(怱)。

【詣】ケイ、ガイ。五計切。霽。❶いたる(至)❷すすむ(進)❸ゆく(往)❹まうづ。

【詣門】ケイモン　人をとひたづぬ。劉基「詣レ門謁ニ朱亥一、虛レ左上ニ侯嬴一」

【詣闕】ケイケツ　朝廷にいたる。漢書に「重車至ニ長安一、詣レ闕上レ書」

【試】シ。式吏切。寘。❶もちゐる(用)❷こころみる、こころみ(驗)❸さぐる(探)。

【試才】シサイ　はたらきをこころみる。後漢書に「自ニ左雄任一レ事、限レ年試レ才」

【試用】シヨウ　こころみに用ゐる。魏文帝「吏逢ニ文法一、到皆試用」

【試紙】シシ　試驗に用ゐるかみ。舊唐書に「手持ニ試紙一、竟日不レ下ニ一字一」

【試探】シタン　こころみさぐる。後漢書に

「見神光照社、試探之」

【試船】ふれの運轉をためす。魏志に「受詔作御樓船、於陶河試船」

【試筆】かきぞめ。

【試補】みならひ。

【試驗】こころみしらぶ。劉迎「中云薬薤根、試驗頗爲大」

【試金石】金銀をすりつけて、その眞贋を判定する爲の石。轉じて、もののためをためす材料となるもの。

【誆】ジン、ニン。如林切。侵。一まこと(信)二かまびすし三おもふ(念)四喉のこゑ五ことばおほし、多言なり。

【詧】いサツ、サチ。楚八切。黠。ろ察に同じ。いみる、あきらかにす。

【詨】ケウ。呌、噭に同じ。

【詩】いシ。書之切。支。ろ誄に同じ。一からうた二志を述ぶる詞章三うく(承)四ささぐ五もつ(持)六音樂の調子をととのふる譜章。

【詩史】詩を以て時事を述べたるもの。新唐書、杜甫傳に「甫善陳時事、律切精深、至千言不少衰、時號詩史」

【詩伯】詩の大家。晉陽秋に「張植謂、陸機兄弟文章藻麗、語人曰、二陸乃今之詩伯也」

【詩抄】詩のぬきがき。隋書、經籍志に「梁有雜詩抄一卷」

【詩材】詩を作るたね。詩話總龜に「預收拾詩材、以備用」

【詩宗】詩の大家。漢書に「江公世爲魯詩宗」

【詩侶】詩を作るなかま。白居易「醉思詩侶有同年」

【詩客】詩を作るひと。姜夔「牆頭喚酒誰問訊、城南詩客今岑寂」

【詩格】詩を作る法則。捫蝨新話に「蘇黃輩出、然後詩格極于高古」

【詩酒】詩を作りさけを飲む。詩とさけと。南史に「獨步園林、詩酒自適」

【詩料】詩を作るたね。楊萬里「松江是物皆詩料、闘窠穿湖郎水仙」

【詩詠】詩歌。圖繪寶鑑に「顧況字逋翁、好詩詠、善畫山水」

【詩債】作るべき詩を作らずしてあること。白居易「顧我酒狂久、負君詩債多」

【詩會】詩人のよりあひ。孟郊「昔遊詩會滿、今遊詩會空」

【詩箋】詩をかくかみ。

【詩豪】詩人のすぐれたるもの。唐書に「禹錫好詩、晩節尤精、白居易推爲詩豪」

【詩語】詩のことば。漢書に「詩語足以感心」

【詩趣】詩にいひあらはすべきおもむき。風流なるおもむき。城南聯句に「畢景任詩趣、焉能守硜硜」前句は孟郊、後句は韓愈。

【詩敵】詩を作るあひて。白居易「別來少遇新詩敵、老去難逢舊飲徒」

【詩賦】詩と賦と、共に支那の韻文。

【詩課】詩を作る課程。劉詵「詩課書程應不減、東風早送錦衣還」

【詩篇】詩の作物。元稹「李杜詩篇敵、蘇張筆力匀」

【詩謠】うた。韓愈「未知所究竟、且作新詩謠」

【詩癖】作詩を嗜む性質。梁書、簡文帝紀に「七歳有詩癖、長而不倦」

【詩魔】作詩の念を起さしむる一種の力。滄浪詩話に「人物若自退屈、卽有下劣詩魔」

【詩囊】作りたる詩を容るるふくろ。陸游「古錦詩囊覓句忙」

【詩體】詩の風體。詩人玉屑に「守法度曰詩、載始末曰引、體如行書曰行、放情曰歌、兼之曰歌行、悲如蛩螿曰吟、通乎俚俗曰謠、委曲盡情曰曲」

【詩窖子】詩才に富める人の稱。書言故事に「詩人才多號詩窖子、高仁裕著詩萬首、號詩窖子」

【詩中有畫】詩句中に實景を巧に

ゑがき出す。蘇軾「味摩詰之詩、詩中有畫、觀摩詰之畫、畫中有詩」

【詩有別才】詩は別物にして、學問の淺深のみによらずとの意。滄浪詩話に「詩有別才、非關書也、詩有別趣、非關理也」

【詩腸鼓吹】戴顒の故事により、鶯の聲をいふ。世說に「戴仲若、春日攜雙柑斗酒、人問何之、答曰、往聽黃鸝聲、此俗耳針砭、詩腸鼓吹」

【詫】いタ、テ。丑亞切。禡。ろ詑に同じ。一あざむく(誑)二ほこる(誇)。國訓わび。

【詬】いコウ、ク。許候切。宥。ろコウ、ゲ。胡口切。有。一はぢ(恥)二はづかしむ(辱)三ののしる(罵)四いかる(怒)五たくみにいふ。

【詬叱】ののしりしかる。宋史に「衆捽毆詬叱曰、爲爾不順、將累我」

【詬怒】ののしりいかる。元稹「不勞生詬怒」

【詬辱】はづかしむ。五代史に「路航參知州事、宦者專政事、每詬辱航」

【詬詈】はづかしめののしる。魏書に「從者噂嗒喧嘩、詬詈無節」

【詬訾】そしる。(謗訾、毀訾)。郝經「事幾或失、千載貽詬訾」

【詬罵】ののしる(謗罵)。魏書に「不滿意、則詬罵不去」

【詬譏】ののしりそしる。黃庭堅「讒言來詬譏」

【詭】キ。過委切。紙。一せむ(責)二あざむく(欺)、いつはる(詐)三たがふ(違)、もとる(戾)四そしる(毀)五あやし(怪)六ことなり(異)七みだりなること(漫)八かはる(變)九正しからざること。

【詭色】あやしきいろ。海賦に「翻動成雷、擾翰爲林、更相叫嘯、詭色殊音」

【詭妄】いつはり。唐書に「是謷敬宗時、以詭妄出入禁中」

【詭求】せめもとむ。後漢書に「責主日至、詭求無已」

【詭形】めづらしきかたち。宣和畫譜に「石恪好畫古僻人物、詭形殊狀、格雖高古、意務新奇」

【詭怪】ふしぎなり。又、そのもの。(奇怪、神怪)。後漢書に「論神迹詭怪」

【詭計】いつはりのはかりごと。晉書に「竟以詭計、令吳罷守」

【詭異】ただしからず。後漢書、王充傳に「充好論說、始若詭異、終有理實」

【詭祕】いつはりかくす。順宗實錄に「交遊蹤跡詭祕、莫有知其端者」

【詭惑】まどはす。西征賦に「履犬戎之侵地、疾幽后之詭惑」

【詭道】いつはりて正しからぬみち。孫子に「兵者詭道也」

【詭遇】正しき道に由らずして出あふ。孟子に「爲之詭遇、一朝而獲十」

【詭說】いつはりの言論。史記に「能設詭說、解患于圍城」

【詭誕】實なきことば。(虛誕、迂誕)。宋史に「以五帝三王、皆云仙去、論者嗤其詭誕」

【詭奪】いつはりとる。魏志、注に「有秦昭章臺之觀、而無藺生詭奪之誑」

【詭隨】是非を顧みずして、妄に人にしたがふ。詩經に「無縱詭隨、以謹無良」

【詭激】言行度を失ひてはげし。(激詭)。南史、張融傳に「海中遇風、作海賦、文辭詭激、獨與衆異」

【詭濫】いつはりみだる。文心雕龍に「相如憑風、詭濫愈甚」

【詭矯】いつはり。王勃「痛迷生之詭矯、悲正覺之陵夷」

【詭謬】あやまり。晉書に「爽制詭謬、固其宜矣」

【詭辭】いつはりのことば。穀梁傳に「詭辭而出」注に「不以實告人也」

【詭譎】いつはり。陶弘景「詭譎倜儻、縱倒山河」

【詭辯】いつはりのことば。史記に「設詭辯於懷王之寵姬鄭袖」

【詭變】いつはりかはる。唐書に「有權數、詭變不窮」

【詮】セン。此緣切。先。㊀そなふ、そなはる(具)㊁たひらか(平)㊂とく、さとす(說)㊃のり(則)㊄えらぶ(擇)。
【詮較】はかりしらぶ。白居易「詮ニ較天下事ニ」
【詮證】ときあかし。孝經、疏に「前儒詮證、各擅ニ一家ニ」
【詮議】とりしらぶ。とりしらべ。
【詰】キツ、キチ。去吉切。質。㊀せめとふ、なじる、せむ㊁をさむ(治)㊂いましむ(禁)㊃つつしむ(謹)㊄かがむ(屈)㊅誤りて喆に通じ用ゐる。國訓 つめ。
【詰旦】あくるあさ。北史に「詰旦還攻ニ東門ニ克レ之」
【詰屈】かがまる。易林に「其旨詰屈、不レ能ニ解脫ニ」
【詰長】前に同じ。梁昭明太子「淸宵出望レ圜、詰長屆ニ鍾嶺ニ」
【詰問】なじりとふ。漢書、王嘉傳に「吏詰ニ問嘉ニ」
【詰責】なじりせむ。漢書、賈山傳に「上書諫、以爲ア變ニ先帝法ニ非ゅ是、章下詰責」
【詰朝】あくるあさ。左傳に「詰朝相見」說文長箋に「本、喆朝に作る、喆は古の哲の字、借りて明の義とす、故に明朝を喆朝となす、今俗に、喆を以て詰となすは、喆と詰と字形の似たるを以て誤れるなり」
【詰詘】かがまりてのびず。王逸「思哽噎兮詰詘」
【詰窮】とひきはむ。劉向「訊獄詰ニ窮其詞ニ」
【話】㋑クヮイ、ヱ。胡卦切。卦。㋺クヮ、ゲ。胡化切。禡。㋩ワ。慣用音。㊀はなす、かたる㊁ととのふ(調)㊂はづ(恥)㊃なさむ(治)㊄はなし、ものがたり。
【話次】はなしのついで。
【話言】はなし。詩經に「其維哲人、告レ之話言、愼德之行」
【話柄】はなしのたね。(談柄)。
【話談】ものがたる。又、ものがたり。四子講德論に「話ニ談于公卿之門ニ」
【話頭】はなしのこぐち。
【話欛】はなしのたね。羅湖野錄に「寄寂音頌曰、跳レ身跳擲百千般、冷地看他成ニ話欛ニ」
【該】㋑カイ、ケ。古哀切。灰。㋺ガイ。慣用音。㊀さかんなり(盛)㊁のす(載)かぬ(包)、そなはる、そなふ(備)㊂みな(皆)、ことごとく(盡)㊃あたる(當)㊄軍中の約束、ちぎり。
【該洽】ひろくゆきわたる。晉書に「該ニ洽典墳、研ニ精數術ニ」
【該涉】ひろくよむ。玉海に「鄭覃曰、乙夜觀レ書、無レ不ニ該涉ニ」
【該通】そなはりゆきわたる。北史に「學業該通」
【該悉】かねつくす。北史に「唐虞以上、事雖ニ該悉ニ」
【該博】ひろくかね通ず。搜神記に「經書靡レ不ニ該博ニ」
【該當】よくあてはまる。
【該曉】かねさとる。宣和畫譜に「凡道儒典教、與ニ夫制作ニ、無レ不ニ該曉ニ」
【詳】㋑シャウ、ザウ。似羊切。陽。㋺佯に通じ用ゐる。㋑㊀つまびらか(審)㊁あげつらふ(論)㊂あきらか(諦)㊃よし(善)㊄つくす(悉)㊅めでたし(祥)㊆つぶさに語ること㊇密なること㋺いつはる。
【詳正】くはしくしてただし。禮記、序に「章句詳正、微稍繁廣」
【詳平】あきらかにただし。漢書、孔光傳に「左ニ遷廷尉ニ、久典ニ尙書ニ、練ニ法令ニ、號稱ニ詳平ニ」
【詳計】よくかんがふ。漢書に「君其熟念詳計、塞ニ絕姦原ニ」
【詳料】つまびらかにはかる。王徽「至ニ於規矩細行ニ、雖レ可ニ詳料ニ」
【詳悉】つまびらかにつくす。北史に「四方縣遠、雖レ可ニ詳悉ニ」
【詳略】つまびらかなるとあらまかなると。春秋繁露に「屈伸之志、詳略之文、皆應レ之」

【詳敏】くはしくさとし。周書、柳機傳に「機弟弘、占對詳敏、見レ稱ニ於時ニ」
【詳密】くはしくこまやかなり。唐書に「性詳密、出納雖ニ尋尺ニ、皆自按省」
【詳察】つまびらかにかんがへはかる。史記に「足下詳ニ察之ニ」
【詳說】くはしくとく。孟子に「博學而詳說レ之、將ニ以反ニ說約ニ也」
【詳撰】つまびらかにえらぶ。王植「謹勵ニ愚蒙ニ、盡思詳撰」
【詳審】つまびらかなり。論衡に「聖賢下レ筆造レ文、用意詳審」
【詳諦】前に同じ。唐書、權德輿傳に「德輿知ニ禮部ニ三歲、甄レ品詳諦」
【詳選】つまびらかにえらぶ。後漢書に「詔ニ有司ニ、詳ニ選郎官ニ」
【詳諳】つまびらかにそらんず。賈島「星名未ニ詳諳ニ」
【詳確】つまびらかにしてたしかなり。唐書に「數充ニ校考ニ、便ニ升退詳確ニ」
【詳錄】つまびらかにかきしるす。公羊傳、注に「故詳錄ニ其禮ニ、所ニ以殊ニ于衆女ニ」
【詳斷】あきらかにとりさばく。宋書に「當レ悉ニ詳斷ニ、庶無レ留レ獄」
【詳覽】つまびらかにみる。晉書に「通ニ圖緯方伎之書ニ、莫レ不ニ詳覽ニ」
【詵】㋑シン。所臻切。眞。㋺セン。先見切。霰。㊀とふ(問)㊁おほし(衆多)㊂和ぎ集る貌㊃衆人いふ、いふ。
【詵詵】㊀おほき貌。詩經に「螽斯羽詵詵兮」㊁やはらぎ集る貌。陳書に「後進詵詵」
【詶】㋑シウ、ジュ。市流切。尤。㋺呪に同じ。㋑こたふ、こたへ㋺のろふ。
【詷】㋑トウ、ヅ。徒紅切。東。㋺トウ、ヅ。徒弄切。送。㋑とも(共同)㋺くちばやし(詷詷)。
【詹】セン、ゾン。職廉切。鹽。㊀いたる(至)㊁ことばおほし(多言)㊂たる、たす(足)㊃みる(瞻)㊄蟾に通ず㊅占に通ず。
【詹詹】多言なる貌。莊子に「大言炎炎、小言詹詹」
【詺】ベイ、ミャウ。眉病切。敬。㊀わきまふ(辨)㊁なづく(名)。
【訮】㋑ケン。呼堅切。先。㋺テン。他前切。先。㋩ガン、ゲン。牛閑切。刪。㋑㊀あらそふ(諍)㊁しかる(訶)㊂かまびすし(囂)㊃いかる(怒)㋺しかる貌㋩㊀うったふ(訟)㊁あらそふ(爭)。
【詻】㋑ガク、ギャク。五陌切。陌。㋺リャク、ラク。力灼切。藥。㋑㊀いひあらそふ㊁きびし(嚴)㊂語氣はげしき㋺㊀うったふ(訟)㊁こゑ(聲)。
【詻詻】㊀辭氣のはげしき貌。又、敎令の嚴なる貌。禮記に「戎容暨暨、言容詻詻」㊁いひあらそふ貌。墨子に「分議者延延、支苟者詻詻」
【詼】クヮイ、ケ。苦回切。灰。㊀たはむる(戲)、あざける(嘲)㊁そしる(謗)㊂なぶる(嬲)。
【詼俳】たはむれごと。(俳詼)。司馬光「狂詩寄ニ一笑ニ、聊用當ニ詼俳ニ」
【詼笑】あざわらふ。漢書に「枚皋詼笑類ニ俳倡ニ」
【詼嘲】あざける。宋史に「梅堯臣家貧、中略詼嘲譏刺、託ニ于詩ニ、晚益工」
【詼諧】おどけたはむる。漢書、班固敍傳に「東方贍辭、詼諧倡優」
【詾】㋑キョウ、ク。許容切。冬。㋺許拱切。腫。㋑㊀とく(說)㊁こゑ盈つ、みつ㊂うったふ(訟)㋺㊀かまびすし(喧)㊁さわがし(騷)。
【詿】クヮイ、ケ。古賣切。卦。㊀あやまる(誤)㊁あざむく(欺)。
【詿誤】あざむきあやまらす。史記に「背レ德反レ上、詿ニ誤吏民ニ、爲ニ大逆ニ」
【詿亂】あやまりみだす。史記に「詿ニ亂天下ニ」

【誃】㋑シ。尺氏切。紙。㋺チ、ヂ。直移切。支。㋩タ、ダ。待可切。哿。㋥シ。充豉切。寘。 ㋑㋺わかる、わく（別）㋩あざむく（詑）㋥㊀むれひろし（大度）㊁よろこぶ（慶）。

【誂】㋑テウ、デウ。徒了切。篠。㋺テウ。多嘯切。嘯。 ㋑㊀いどむ㊁もてあそぶ（弄）㊂たはむる（戲）㊃こゝろの淸かにして暢ぶる貌㋺にはか（卒然）。 國訓 あつらへ。

【誆】㋑キャウ、ガウ。渠放切。漾。㋺求往切。養。 ㊀あやまる（謬）㊁あざむく（誑）。

【誄】ルヰ。力軌切。紙。 死者生前の功德をあげ稱すること、又、その文詞。

【誅】㋑チユ。陟輸切。虞。㋺チユウ。慣用音。 ㊀ころす㊁つみ、つみなふ（罰）㊂やぶる、きずつく（傷）㊃うつ（伐）㊄せむ（責）㊅のぞく（翦除）㊆罪人の血屬にまでつみの及ぶこと。

【誅伐】うちてころす。史記、律書に「刑罰不レ可レ損二于國一、誅伐不レ可レ偃二于天下一」

【誅求】きびしくせめて貨財をむさぼりとる。左傳に「誅求無レ時、是以不二敢寧居一」

【誅放】つみに行ふ。書經に「桀縱レ惡自棄、故誅放」

【誅殄】つみを正してうちつくす。隋書に「便可レ出レ師授レ律、應レ機誅殄」

【誅殺】ころすとゆるすと。晉書に「此爲レ政誅赦之準式也」

【誅逐】つみある者をせめおふ。漢書に「堯舜誅二逐亂臣一」

【誅訶】せめしかる。（譴訶）。韓維「尙畏官長來誅訶」

【誅殛】つみにあてゝころす。吳志に「從容列レ位、而並旋受二誅殛一」

【誅罰】しおきに行ふ。周禮に「犯レ禁者、執而誅二罰之一」

【誅翦】つみあるものを殺す。後漢書に「其所二誅翦一、皆合二人望一」

【誅鋤】すきのぞきてねだやす。楚辭に「寧誅二鋤草茅一以力耕乎」

【誅戮】つみあるものを殺す。史記に「遂興二師旅一、誅二戮無道一」

【誅斃】ころしたふす。蔡邕「誅二斃食暴一、糾二戮貴黨一」

【誇】㋑クワ、ケ。苦瓜切。歌。㋺ク、コ。區遇切。遇。 ㋑㊀ほこる、おごる㊁おほいなり（大）㊂たくまし（逞）㊃あらし㊄おほげさにいふ㋺うたふ（歌）。

【誇示】ほこりしめす。後漢書、鄭衆傳に「當レ揚二漢和親一、誇レ示鄰敵上」

【誇衒】ほこりてらふ。文中子に「不レ爲二誇衒一、若レ愚似レ鄙、今人以爲レ恥、我則不レ恥也」

【誇競】ほこりきそふ。後漢書に「殫二極土木一、互相誇競」

七畫

【誋】キ、ギ。渠記切。寘。 ㊀いましむ（誡）㊁つぐ（告）㊂とどむ（禁）㊃まこと（信）。

【誌】シ。職吏切。寘。 ㊀しるす（記）㊁しるし（標記）㊂ふみ（文書）㊃あざ（痣に通ず）。

【認】㋑ジン、ニン。而振切。震。㋺ジョウ、ニョウ。而證切。徑。 ㊀しるす（識）㊁わきまふ（辨）㊂したゝむ、みとむ。 國訓 したゝむ（調ふ、調へ食ふ）。

【認可】みとめてよしとゆるす。

【認定】みとめてさだむ。

【認容】みとめてよしとゆるす。

【認許】前に同じ。

【認得】みとむ。劉禹錫「莫レ言堆案無二餘事一、認得詩人在二此間一」

【認識】㊀みとむ。㊁（哲）Cognition. 內界及び外界の對象を感知し又は認知する心作用をいふ。これに關する研究を認識論といふ。

【誱】ケフ。吉協切。葉。 うそつく、しゃべる。

【誎】㋑ソク。桑谷切。屋。㋺ショク、ソク。七玉切。沃。 ㊀うながす（促）㊁てらふ（衒）㊂したがふ（從）㊃かざる（飾）。

【誐】ガ。哦に通ず。

【誑】キャウ、カウ。居況切。漾。 ㊀たぶらかす㊁あざむく（欺）㊂まどはす（惑）。

【誑惑】たぶらかしまどはす。後漢書に「敎二化天下一、轉相誑惑」

【誑誘】たぶらかす。晉書に「浮狡有二小才一、誑二誘百姓一」

【誑誕】實なきことば。（虛誕、詭誕）。白居易「徐福文成多二誑誕一」

【誑耀】たぶらかしほこる。潛夫論に「彌二縫疵瑕一、以相誑耀」

【䛠】トウ、ツ。都豆切。宥。 いふあたはず（詎譳）。

【誒】㋑キ。虛其切。支。㋺イ。於記切。寘。㋩カイ、ケ。呼來切。灰。㋥アイ。於代切。隊。 ㊀歎息の聲、厭惡の聲、然諾の聲㊁しふ（强）㊂たのしむ（娛）。

【誓】㋑セイ、ゼイ。時制切。霽。㋺セツ、ゼチ。食列切。屑。 ㊀ちかひ（約束）㊁つゝしむ（謹）㊂いましむ（戒）㊃いひつけ、いましめ㊄ちかふ、ちぎる。

【誓命】君上の臣下に對するちかひ。孔安國「典謨訓誥誓命之文、凡百篇」

【誓約】ちかふ。又、ちかひ。蜀志に「昔每與二龐統一、共相誓約」

【誓詞】ちかひのことば。

【誓願】ちかひを立ててねがふ。法華經に「我本立二誓願一、欲レ令二一切衆如二我等一無上異」

【誕】テイ、ヂャウ。待鼎切。迥。 ㊀あなどる（慢）㊁いつはる（詐）㊂あざむく（欺）。

【誕】㋑タン、ダン。徒旱切。旱。㋺タン、デン。杜晏切。諫。 ㋑㊀あざむく（欺）㊁いつはる（詐）㊂ほしいまま（縱）㊃ひろし（闊）㊄おほいなり（大）㊅うまる（生）㊆そだつ（育）㊇うそ、そらごと㊈ひきうま（散馬）㋺ほしいまま（放）。

【誕幻】いつはり。楊維楨「佛老氏之誕幻、奚啻霄壤之殊レ塗」

【誕妄】まことならざることば。「仙書虛荒喜二誕妄一」

【誕言】誇大なることば。孫楚「妻亡不レ哭、亦何所レ懼、慢吊鼓レ缶、放二此誕言一」

【誕辰】うまれたる日。閒中古今鈔に「世稱二生辰一曰二誕辰一」

【誕章】國の大いなるおきて。漢書に「國之誕章、博載二其路一」

【誕欺】あざむく。漢書に「專以爲レ務、則誕欺怪迂之文、彌以益多」

【誕縱】とりしまりなし。ほしいままなり。梁書に「二人意志相得、並肆情誕縱」

【誕謾】みだりに大言して實なし。史記に「人或忠信、不レ如二誕謾一」

【誕辭】實なきことば。後漢書に「東二名實一者、以二杜下一爲二誕辭一」

【誕譎】いつはり。唐書、張宿傳に「出二入邸中一、誕譎敢言」

【𧨟】キウ、ク。居祐切。宥。 ㊀すくふ（救）㊁とどむ（止）㊂たすく（助）㊃いましむ（禁）。

【誖】㋑ホツ、ボチ。蒲沒切。月。㋺フツ、ボチ。分物切。物。㋩ハイ、ベ。蒲昧切。隊。 ㊀みだる（亂）㊁まどふ㊂まどはす（惑）㊃さかふ（逆）㊄おろか（癡）㊅くらし（悖）㊆そむく（乖）。

【誘】イウ、ユ。與久切。有。 ㊀いざなふ、さそふ㊁みちびく（導）㊂なしふ（敎）㊃すすむ（進）㊄そそのかす（唆）。

【誘引】いざなふ。さそふ。

【誘拐】いつはりてかどはかす。

【誘衷】まごころをいざなひて善をなさしむ。左傳に「天誘二其衷一」

【誘致】さそひいだす。五代史に「大王之所レ感者、閉レ壁以老二我師一、此可三以

誘二致之一也」
【誘殺】いざなひ出してころす。左傳に「曲沃伯誘二晉小子侯一殺レ之」
【誘益】みちびきたすく。後漢書に「好レ士、喜誘二益後進一」
【誘敎】みちびきをしふ。集仙錄に「每欲レ誘二敎後進一」
【誘掖】みちびきたすく。詩經、序に「誘二掖其君一」
【誘惑】いざなひまどはす。淮南子に「天下莫レ易二于爲一レ善、適レ情辭レ餘、無レ所二誘惑一」
【誘誨】すすめをしふ。曾鞏「凡欲下以誘二誨學者一、庶中幾千古上也」
【誘慕】他に心をひかさる。淮南子に「使二耳目精明一、而無二誘慕一」
【誘敵】てきをおびき出す。左傳に「毀二其軍一以誘レ敵」
【誘導】いざなひみちびく。吳志、士燮傳に「燮誘二導益州豪姓雍闓等一」
【誘騎】てきをおびき出す騎兵。史記に「匈奴有二千騎一、見レ廣以爲二誘騎一、皆驚上レ山陣」
【誘勸】みちびきすすむ。唐書、陽嶠傳に「賁謙飭好レ學、喜レ誘二勸後生一」

【誙】㋑カウ、キヤウ。丘耕切。庚。㋺ケイ、ギヤウ。下頂切。迥。㊀たしかなり(確)㊁あらし(犅)㊂死に趨く貌。

【誙誙】死に趨く貌。莊子に「誙誙然如レ將レ不レ得レ已」

【誼】㋑ギ。儀寄切。寘。一に、誼に作る。㋺魚羈切。支。㋑㊀はかる(議)㊁制裁のよろしきに適合せるにいふ。よし。又、みち。㋺議に同じ。

【誚】セウ、ゼウ。譙の古文字。せむ、しかる。
【誚讓】せむ。史記に「數使二使者誚讓一召レ布」

【語】㋑ギヨ、ゴ。魚擧切。語。㋺魚據切。御。㋑㊀かたる、はなす㊁とく(說)、ろんず(論)㊂ことば㊃鳥蟲などの鳴き聲㋺㊀をしふ(敎)㊁つぐ(告)。
【語次】はなしのついで。史記に「從容語次、譽二赫長者一也」
【語泄】ことば外にもる。史記に「說難曰、夫事以レ密成、語以レ泄敗」
【語病】ことばの上の缺點。黃庭堅「俗人不レ領、便是語病」
【語原】言語の成り立ちたるもと。
【語格】ことばづかひのきそく。
【語勢】ことばのいきほひ。
【語路】いひまはし。

【誠】セイ、ジヤウ。時征切。庚。㊀まこと、まごころ(信)㊁もつぱら(純)、まことに、げに㊂つまびらかに(審)㊃つつしむ(敬)。
【誠心】まごころ。淮南子に「誠心可二以懷一レ遠」
【誠直】いつはりなくただし。北史に「上以三綽有二誠直之心一、每引二入閤中一、評二論得失一」
【誠服】こころよりしたがふ。漢書に「以レ德服レ人者、中心悅而誠服也」
【誠信】まごころ。まこと。禮記に「身致二其誠信一、誠信之謂レ盡、盡之謂レ敬」
【誠烈】すぐれてまことなり。魏書に「比干嵇紹、皆是古之誠烈」
【誠壹】二心なくまことなり。史記に「皆誠壹之所レ致」
【誠款】まことなり。蜀志に「君之誠款、乃當レ爾耶」
【誠道】まことのみち。漢書に「言有二誠道一天輔レ之也」
【誠敬】まごころありてうやうやし。南史に「晨夕瞻奉、盡二其誠敬一」
【誠愨】まことのこころ。禮記に「忠信誠愨之心」
【誠質】まことにしてかざりけなし。孫洙賦「文采繁而誠質薄」
【誠實】前に同じ。唐書に「持二此誠實一以答二譴告一」
【誠懇】まごころありてねんごろなり。北史に「或忠壯誠懇、或文采可レ稱」
【誠禱】まごころをこめていのる。宋史、魏丕傳に「境內久旱、丕以二誠禱之二夕一、雨霑足」

【誡】カイ、ケ。古拜切。卦。㊀いましむ(敕)㊁つぐ(告)㊂いひつけ(命)、いましめ(敎令、戒告)。
【誡誨】いましめをしふ。魏志、趙王幹傳に「賜二幹璽書一、誡二誨之一」

【誤】ゴ、グ。五故切。遇。㊀あやまる、あやまり(謬)㊁まどふ、まどはす(惑)。
【誤字】あやまれるもじ。
【誤殺】あやまりてころす。元史に「有二牧童一、持二鐵連結一、擊二野雀一、誤二殺同牧者一」
【誤脫】文字を書きあやまり又は書きおとす。
【誤報】あやまりのしらせ。王逢「誤報迎レ鑾出二禁宮一、階前草是雁來紅」
【誤植】活字のうゑあやまり。
【誤惑】あやまりまどはす。あやまりまどふ。司馬光「不レ可レ改二成法一、復從二弊俗一、誤中惑後生上」
【誤解】かんがへちがふ。
【誤置】まちがへておく。杜牧「誤置代籍中、兩朝尊母儀」
【誤認】あやまりみとむ。(錯認)。司馬光「往來誤認白公家」
【誤聞】ききあやまり。
【誤寫】うつしあやまり。
【誤謬】あやまり。吳志に「懼レ有二誤謬一、數數省讀」
【誤蹶】あやまりてつまづく。杜甫「當時歷塊誤一蹶」

【誣】ブ、ム。武扶切。虞。㊀しふ、あざむく(欺)、いつはる(詐)㊁けがす(蠛)㊂そしる(謗)㊃罪を無辜に加ふ、まぐ(枉)。
【誣汙】しひけがす。史記に「願少卿無二相誣汙一也」
【誣告】しひいつはりてつぐ。漢書に「自レ今以來、諸年八十以上、非三誣二告殺二傷人一、佗皆勿レ坐」
【誣言】なきことをあるらしくいひふらす。
【誣枉】罪ありとしひまぐ。荀悅「無レ過猶見二誣枉一、而況敢有レ罪乎」
【誣罔】いつはる。漢書に「事發見レ詰、遂陷二誣罔一」
【誣染】いつはりけがす。後漢書に「大考鉤黨、轉相誣染」
【誣殺】しひてころす。唐書に「誣二殺參軍衡方厚一」
【誣訴】なきことをあるらしくうつたふ。(讒訴)。
【誣淫】いつはりてみだる。柳宗元「其說誣淫、不レ槩二于聖一」
【誣欺】あざむきいつはる。荀子に「妄人者、門庭之間、猶可二誣欺一」
【誣詆】しひそしる。唐書に「承宗怨、數上レ章誣詆」
【誣謗】前に同じ。北史に「雖レ見二誣謗一、終不二自申一」
【誣譖】前に同じ。許棠「誣譖遭二遐讁一、明君卽自知」

【誥】㋑カウ、コウ。古到切。號。㋺コク。姑沃切。沃。㋑㊀さとす(諭)㊁をしふ(敎)㊂いましむ(戒)㊃ちかひ、いましめ、をしへ、つげ㋺つぐ(告)。
【誥誡】つげいましむ。蔡邕「中讀二符策誥誡之詔一、非三臣才量所二能祗奉一」

【誒】㋑キツ、コチ。許訖切。物。㋺キ、ケ。許豈切。尾。㋩キ。虛器切。寘。㋥キ、ケ。許既切。未。㋭キン、コン。許斤切。文。㋑㊀かたる(語)㊁かたるに難き貌、にぶし㊂いかりかたれる聲㊃どもる(吃)㋺かたる(語)㋩かたる聲㋥語氣㋭ほこる(大言)。

【誎】ケキ、キヤク。許激切。錫。㊀あらそふ、ひそかに訟ふ㊁うらむ(恨)㊂あなどりあふ。

【誧】㋑ホ、フ。博孤切。虞。㋺滂古切。麌。㋩普故切。遇。㋑㊀おほいなり(大)㊁たすけあふ㊂はかる(謀)㊃いさむ(諫)㋺㊀おほいなり(大)㊁たすけあふ㊂はかる(謀)㊃いさむ㊄ほこる(大言)㋩はかる(謀)。

【誦】(ゆ)ショウ、ジュ。似用切。宋。(ろ)訟に通ず。
(ゆ)㊀となふ(唱)㊁そらんず、よむ㊂うたふ(歌)、そしる(誹)。
【誦功】いさをとなふ。史記に「羣臣誦レ功、請レ刻二于石一」
【誦習】そらんじならふ。南史に「修二飾學校一、督二課誦習一」
【誦詠】そらんじうたふ。南史に「商二較古今一、兼以二誦詠一、聽者忘レ疲」
【誦詩】詩をそらんじよむ。禮記に「誦二詩三百一、不レ足二以一獻一」
【誦諫】うたひいさむ。國語に「於レ是乎、使三工誦二諫於朝一」
【誦讀】そらんじよむ。漢書に「令三後宮貴人左右、皆誦二讀之一」
【誨】クワイ、ケ。荒內切。隊。㊀をしふ、をしへ(敎)㊁みちびく(示導)㊂さとす(敎訓)。
【誨示】をしへしめす。後漢書に「以二天命一反覆誨示、終不レ從」
【誨育】をしへそだつ。吳志、步騭傳に「誨二育門生一、手不レ釋レ書」
【誨授】をしへさづく。蔡邕「以二歐陽尚書京氏易一誨授」
【誨諭】をしへさとす。顏氏家訓に「不レ知二寡妻之誨諭一」
【誩】(ゆ)ケイ、ギャウ。渠慶切。敬。(ろ)キャウ、ガウ。其兩切。養。(は)タン、トン。他紺切。勘。あらそふ。
【說】(ゆ)セツ、セチ。失爇切。屑。(ろ)エツ、エチ。余輟切。屑。(は)ゼイ、ゼ。舒芮切。霽。(に)タツ、タチ。他括切。曷。
(ゆ)㊀とく(解釋)㊁のぶ(述)㊂いふ(言)㊃いのる、のろふ、いのり(鬼神にねがひ求むるにいふ)(ろ)㊀よろこぶ(懌)㊁かず(同列の數)㊂人の名(は)㊀とく㊁やどる(駕を稅く)(に)㊀とく(脫に通ず)㊁ゆるす(赦)。
【說法】敎法のことをはなす。道藏大上經に「末世道士、講レ經說レ法」
【說明】ときあかし。
【說客】ときすすめる辯者。史記に「酈生常爲二說客一」
【說破】いひひらきす。ときつくす。白玉蟾「活計與レ君說破」
【說郛】衆說皆その郛內にある義。揚子法言に「五經之爲二衆說郛一」
【說得】ときさとす。
【說敎】宗敎上の道をとく。
【說鈴】大雅に合はざる小說。揚子法言に「好レ書而不レ要二諸仲尼一、書肆也、好レ說而不レ見二諸仲尼一、說鈴也」注に「鈴以喩二小聲一、猶二小說一不レ合二大雅一」
【說義】論說の旨義。又、すぢみちをとく。漢書に「說レ義又頗謬異」
【說樂】よろこびたのしむ。漢書、禮樂志に「因二先王之樂一、以敎二化百姓一、說二樂其俗一」
【說談】かたる。淮南子に「說談者游二於辯一、修行者競二於往一」
【說論】㊀よろこびさとる。㊁ときさとす。漢書、杜鄴傳に「指爲レ誠、發出二乎將軍一、則孰敢不二說論一」
【說懷】よろこびなつく。司馬法に「諸侯說懷、海內來服」
【說二大人一則藐レ之】尊貴の人の前にて、意見を述ぶる時には之を輕視しておそれず。孟子に「說二大人一則藐レ之」

八畫

【誰】スヰ、ズヰ。是推切。支。㊀たれ、なにがし、いづれ(孰)㊁發語に用ゐる助字。
【誰何】㊀誰ぞとその姓名を詰問す。史記に「信臣精卒、陳二利兵一而誰何」㊁姓名の明かならざる者。淮南子に「不レ知二爲レ之者誰何一」
【誰昔】さきの日。誰は發語の辭。詩經に「誰昔然矣」
【誰知レ吾】誰一人として我心中を知れる者なし。楚辭に「吁嗟嘿嘿兮、誰知二吾之廉貞一」
【誰知二烏之雌雄一】是非のわかち難きに喩ふ。詩經に「具曰二予聖一、誰知

二烏之雌雄一」
【課】クワ。苦臥切。箇。㊀こころみる(試)㊁はかる(議、計)㊂わりあて、みつぎもの(租稅、貢擔)㊃おはす(負)㊄ついづ(序)㊅きむ(程)㊆しごと、つとめ(常業)㊇こころみ(考科、試驗)。
【課校】はかりしらぶ。漢書に「課二校人畜計一」
【課程】勤むべきしごとの程度。唐書に「徒役課程、逋缺之物」
【課試】こころみためす。通典に「建和初、詔二諸學生一、課試補レ官」
【誳】クツ、コチ。區物切。物。㊀あやし(異)㊁もとる(倔)㊂かがむ(屈)。
【謟】タウ、トウ。大牢切。豪。㊀のろふ、いはふ(祝)㊁往來の言㊂こどもの未だ正しくいふ能はざること。
【誼】ギ。誼に同じ。
【誶】(ゆ)スヰ。雖遂切。寘。(ろ)サイ、セ。蘇內切。隊。(は)シュツ、ジュチ。慈卹切。質。(に)訊に通じ用ゐる。
(ゆ)㊀せむ(讓)㊁ののしる(罵)㊂はづかしむ(訴)㊃つぐ(告)㊄とふ(問)㊅いさむ(諫)(ろ)㊀せむ(讓)㊁ののしる(罵)(は)㊀せむ(責)㊁ののしる(罵)(に)つぐ。
【誶罵】ののしる。柳宗元「有下凌二傲長上一、而誶二罵有司一者上」
【誷】バウ、マウ。文兩切。養。㊀しふ(誣)㊁くらし(惛)㊂いつはる(詐)。
【誸】ケン、ゲン。胡千切。先。㊀きびし(言急)㊁ただし、かたくしてただし。
【誖】(ゆ)カウ、ギャウ。下孟切。敬。(ろ)カウ、キャウ。許孟切。敬。(は)カウ、ギャウ。下耿切。梗。(ゆ)(ろ)㊀いかる、しかる(瞋語)㊁言ただし(は)言もとる。
【誹】(ゆ)ヒ。敷尾切。尾。(ろ)匪微切。微。(は)方未切。未。(ゆ)そしる(謗)(ろ)(は)そしる(非に通ず)。
【誹毀】そしる。(非毀)。
【誹謗】前に同じ。淮南子に「堯置二敢諫之鼓一、舜立二誹謗之木一」
【誹譽】そしりとほまれと。(毀譽)。晏子に「誹譽爲レ類、聲響相應」
【誺】(ゆ)チ。丑知切。支。(ろ)ライ。力代切。隊。(ゆ)㊀おろか(愚)㊁しふ(誣)(ろ)あやまる(誤)。
【諂】キウ、グ。其九切。有。そしる(毀)。
【誻】タフ、ドフ。達合切。合。㊀そらごと(虛言)㊁ことばおほし(多言)㊂そしる(謗)。
【誾】ギン、ゴン。魚巾切。眞。㊀やはらぎ悅びて諍ふにいふ、和き敬む貌㊁人の姓。
【調】(ゆ)テウ、デウ。徒遼切。蕭。(ろ)テウ。徒弔切。嘯。(は)チウ、チュ。張流切。尤。
(ゆ)㊀あふ、あはす、かなふ、やはらぐ、ととのふ(和合)㊁したがふ(順)㊂あざける(嘲)㊃たはむる(啁)㊄あざむく(欺)㊅官の名㊆木の枝葉のうごく貌㊇人の姓㊈官の名(ろ)㊀もとむ、なさむ、ととのふ㊁うつす、うつる(遷)㊂はかる(度)、かぞふ(算)㊃みつぎもの(賦課)㊄ふし、しらべ(樂律の節曲)㊅やうす、おもむき(韻致)㊆うた(詩章)(は)あした(朝)。
【調伏】〔佛〕心口意の三業を調和して諸惡を制伏す。法華經に「調二伏其心一、乃敎二大智一」
【調役】布帛のみつぎとぶやくと。晉書に「平二均調役一、百姓賴レ之」
【調味】食物を料理す。鶡冠子に「調レ味章レ色正レ聲」
【調和】ととのへやはらぐ。元稹「調二和中外一、無二兵戎一」
【調弄】㊀からかふ。宣和畫譜に「作二調弄語一以戲」㊁もてあそぶ。方干「幾年調二弄七條絲一」
【調胃】ゐぶくろのはたらきをよく

す。名醫別錄に「陳廩米、調胃止洩」

【調度】 ㊀區畫といふ義。離騷に「和調度以自娛」㊁ 我國にて、手廻りの道具をいふ。武家にては、專ら弓矢の稱とす。

【調笑】 からかひわらふ。李白「調笑二千石、日暮岸幘歸」

【調停】 なかなほりをせさす。宋史に「元祐秉政、力斥章蔡、不主調停」

【調習】 ならす。詩經、疏に「諸馬皆須調習也」

【調絃】 前に同じ。陸龜蒙「爲書凌遺編、調絃夸新聲」

【調琴】 ことの音をしらぶ。鄭谷「窗下調琴鳴遠水、簾前睡鶴背秋燈」

【調試】 しらべためす。齊書、長沙王晃傳に「毎遠州獻駿馬、上輒令晃于華林中調試之」

【調瑟】 ことの音をしらぶ。晉書に「且膠柱、不可以調瑟」

【調達】 ㊀ととのへおくる。㊁ととのひ通ず。阮籍「陰陽調達、和氣均通」

【調暢】 やはらぎのぶ。書經、疏に「樂之感人、使和易調暢、若樂音合度、則言必得理」

【調調】 枝葉の動搖する貌。莊子に「而獨不見之調調之刁刁乎」

【調譆】 おどける。たはむる。孫楚「調譆之巨觀也」

【調燮】 ととのへやはらぐ。顏舒「配皇極而調燮」

【調戲】 あざけりたはむる。左傳に「宋華弱與樂轡、少相狎、長相優」杜注に「狎、親習也、優、調戲也」

【調護】 たすけまもる。宋史に「賴宰相韓琦、參政歐陽修等調護」

【調馬師】 馬をならすことを業とする人。法苑珠林に「汝前世作調馬師、或作調象師、象馬難制、汝以鐵針刺脚」

【誹】 ヒ。匹婢切。紙。 そしる(訾)。

【諂】 テン。丑琰切。琰。 ㊀へつらふ、おもねる ㊁したがふ(屈從)。

【諂巧】 へつらひ上手なり。史記に「隨世俗浮沈、而見謂諂巧」

【諂笑】 へつらひわらふ。孟子に「脅肩諂笑、病於夏畦」

【諂詐】 こびいつはる。唐書に「居官諂詐貪濁」

【諂媚】 上にへつらひ人をにくむ。陳書に「權移羣小諂媚作威」

【諂諛】 こびへつらふ。史記、平準書に「公卿大夫、多諂諛取容矣」

【諄】 (ゆ)シュン。章倫切。眞。(ろ)ジュン。之閏切。震。(は)シュン、ジュン。主尹切。軫。 (ゆ)㊀ねんごろ(懇) ㊁いたる (ろ)㊀忠謹なる貌、ねんごろ、まめやか ㊁たすく(佐) ㊂にくむ(憎) (は)にくむ(疾惡)。

【諄諄】 ㊀ねんごろなる貌。詩經に「誨爾諄諄」㊁忠謹なる貌。後漢書に「勞心諄諄、視民如子」

【諅】 (ゆ)キ、ギ。渠記切。寘。(ろ)キ。居之切。支。 (ゆ)㊀いむ(忌) ㊁こころざし(志) (ろ)㊀はかる(謀) ㊁いむ(忌)。

【諆】 (ゆ)キ。去其切。支。(ろ)キ、ギ。渠之切。支。 (ゆ)㊀はかる(謀) ㊁あざむく(欺) (ろ)はかる(謀)。

【諳】 (ゆ)エン。於劍切。豔。(ろ)エン、オン。衣廉切。鹽。 (ゆ)㊀そしる(謗) ㊁あたふ(與) ㊂ひく(掔) ㊃かくす(匿) ㊄あたる(當) ㊅あなどる (ろ)克ち當たる(諳滑)。

【談】 (ゆ)ダン、ドン。徒甘切。覃。(ろ)ダン。慣用音。 ㊀ものがたる、はなす(話)、かたる(語) ㊁たはむる(戲)、あざける ㊂はなし、ものがたり。

【談吐】 はなし。南史に「子徽美風儀、能談吐」

【談柄】 はなしのたね。(話柄)。傳燈錄に「棲雲寺大朗法師、毎談論、手執松枝、以爲談柄」

【談笑】 ものがたりしてわらふ。孟子に「已談笑而道之」

【談詠】 かたりうたふ。南史に「時時見親舊、未嘗及世事、從容談詠而已」

【談義】 義理をかたる。南史に「談義飲酒、喧嘩不絕」

【談話】 ものがたる。又、ものがたり。石崇「文藻譬春花、談話猶蘭芳」

【談筵】 ものがたりするばしよ。舊唐書に「講席談筵、務盡忠規之道」

【談說】 かたりとく。(宣說)。漢書に「毎宴見、談說得失」

【談語】 ものがたる。淮南子に「談語而不稱師是通也」

【談緒】 はなしのいとぐち。梁昭明太子「追憶談緒、皆爲悲端」

【談論】 かたり論ず。(辯論)。後漢書に「博通墳籍、善談論」

【談麈】 談話の時に手に執るほっす。黃庭堅「毎來提談麈、風生麈竹枝」

【談戲】 はなしてたはむる。魏志、王粲傳注に「賈洪好學、特精于春秋左傳、善能談戲」

【談藪】 談論多くして、つきざるをいふ。晉書に「裴頠善談論、時人謂頠爲言談之林藪」

【談議】 はなしあふ。南史、劉湛傳に「不爲文章、不喜談議」

【談辯】 ものがたる。又、ものがたり。五代史、任圜傳に「爲人明敏善談辯、見者愛其容止」

【諈】 ツヰ。竹寘切。寘。 ㊀かかる(繫) ㊁かさなる(重) ㊂あばく(訐) ㊃わづらはし(煩)。

【諉】 (ゆ)ヰ、ニ。女恚切。寘。(ろ)ヰ。甚危切。支。 ㊀ゆだぬ(委) ㊁わづらはす(累) ㊂かかる(係) ㊃よす、よる(託)。

【諊】 キク、コク。鞠に同じ。

【請】 (ゆ)セイ、シャウ。七井切。梗。(ろ)セイ、ジャウ。疾正切。敬。 ㊀こふ(乞) ㊁もとむ(求) ㊂とふ(問) ㊃つぐ(告) ㊄いのる(祈) ㊅うく(受) ㊆ねがふ(願) ㊇謁す。

【請老】 退隱をねがふ。唐書、唐臨傳に「爲太子少師、明年復請老、給一品全祿」

【請求】 ねがひもとむ。朱德潤「歸來白屋書譏抽、走謁高覽多請求」

【請命】 ㊀官吏に任ぜられんことをねがふ。五代史に「盧光稠獨以虔韶二州、請命于京師」㊁辭職をねがふ。後漢書に「削跡歸愆、請命乞身」

【請託】 こひもとむ。又、たのみ。漢書に「先爲科例、以防請託」

【請假】 いとまをねがふ。隋書、陸彥師傳に「遇疾請假還鄴」

【請謁】 貴人に面會をこふ。左傳に「唯我鄭國之有請謁焉」

【請禱】 ㊀神に祈らむことをこふ。左傳に「士匄欲奔請禱焉」㊁こひいのる。後漢書に「絜齋請禱、竭誠盡禮」

【諌】 トウ、ツ。多動切。董。 ことばおほし(多言)。

【諍】 (ゆ)サウ、シャウ。側迸切。敬。(ろ)鯔塋切。庚。 (ゆ)㊀とどむ(止) ㊁いさむ(諫) ㊂ただす(正) (ろ)㊀うったふ(訟) ㊁あらそふ(爭)。

【諍訟】 うったふ。又、うったへ。後漢書、劉聖公傳に「平理諍訟」

【諎】 (ゆ)サク、シャク。壯革切。陌。(ろ)サク、ザク。疾各切。藥。(は)サ。千過切。箇。(に)サ、セ。側下切。馬。(ほ)シャ、セ。子夜切。禡。 (ゆ)おほごゑ(大聲) (ろ)こたふ(答) (は)おほくいふ、しゃべる (に)いざなひいふ(誘言) (ほ)㊀なく(鳴) ㊁なげくこゑ。

【諏】 シュ、ス。子須切。虞。 ㊀はかる(謀) ㊁とふ(咨)。

【諏訪】 とひはかる。(詢訪、願訪)。唐書に「軍中事多所諏訪」

【諑】 タク、トク。竹角切。覺。 ㊀しこづ(譖) ㊁そしる(毀) ㊂うったふ(訴) ㊃せむ(責)。

【諒】 リャウ、ラウ。力讓切。漾。 ㊀まこと(信) ㊁まことに ㊂た

すく(佐)㊃さとる㊄あきらかにす。

【諒恕】リヤウジヨ おもひやりてゆるす。

【諒察】リヤウサツ おもひやる。推量す。韓愈「惟吾子諒察」

【諒闇】リヤウアン 天子喪に在るの稱。禮記に「書曰、高宗諒闇、三年不レ言、善レ之也」

【諔】㋑シユク、ソク。昌六切。屋。㋺詠に同じ。
㋑いつはる(詭)。

【諔詭】シユクキ いつはりて正しからず。莊子に「彼且蘄ニ以諔詭幻怪之名聞一」

【諓】セン、ゼン。慈善切。銑。
㊀よし(善)㊁たはむる(譃)㊂へつらふ(諂)㊃あさし(淺)㊃たくみにいふ(巧言)㊄へつらふ(諂)㊅しこづ(讒)。

【諕】㋑カウ、ゴウ。平刀切。豪。㋺カ、ケ。火訝切。禡。㋩謼に同じ。
㋑さけぶ、よぶ(號)㋺あざむく、たぶらかす。

【論】㋑ロン。盧昆切。元。㋺リン。龍春切。眞。
㋑㊀はかる(議)㊁ついづ(序)㊂とく(說)㊃のぶ(述)㊄ときあかす(解釋)㊅あげつらふ(評議)㊆をさむ(理)㊇かたる(語)㊈人の意見、主旨、言語、文辭㊉えらぶ(撰)⑪はかる(議定)⑫さばく(斷決)㋺すぢみち(條理)。

【論及】ロンキフ 論じおよぼす。

【論功】ロンコウ てがらの大小をはかりしらぶ。史記に「吳起謂ニ田文一曰、請與レ子論レ功可乎」

【論列】ロンレツ 事の是非をならべて論ず。司馬遷「仰レ首伸レ眉、論ニ列是非一」

【論次】ロンジ 意見を立てて次第す。史記に「孔子閔ニ王道廢而邪道興一、于レ是論ニ次詩書一」

【論決】ロンケツ 論じてきむ。

【論究】ロンキウ 是非を論じて、事理をきはむ。北齊書に「施用猶未レ盡レ善、可レ令ニ羣官更加ニ論究一」

【論定】ロンテイ 議論してきむ。禮記に「論定然後官レ之」

【論爭】ロンサウ 議論しあらそふ。いひあらそふ。白居易「唯將ニ戲論一爭」

【論討】ロンタウ 議論してきはむ。北史に「施用猶未レ盡レ善、羣官可ニ更論ニ討新令一」

【論義】ロンギ 義理を解きあかす。世說に「隱レ几安坐、讀レ書論レ義自若」

【論解】ロンカイ 論じて解きあかす。後漢書に「論ニ解經傳一、多レ所ニ駁正一」

【論著】ロンチヨ 論說をあらはして記述す。唐書に「有レ所ニ論著一、未ニ始示レ人」

【論駁】ロンバク 是非をいひあらそふ。顏師古「衆說論駁、互執レ所レ見」

【論說】ロンセツ あげつらひのぶ。又、そのもの。禮記に「大司成論說在ニ東序一」

【論鋒】ロンボウ 議論のほこさき。

【論據】ロンキヨ 議論のよりどころ。

【論撰】ロンセン 議論して撰述す。唐書に「以ニ論撰勞一、進ニ祕書郎一」

【論篤】ロントク 談論するところ篤實なり。論語に「論篤是與」

【論辨】ロンベン よしあしをはかりさだむ。禮記に「論辨然後使レ之」

【論難】ロンナン 議論して非難す。後漢書、桓榮傳に「車駕幸ニ大學一、會ニ諸博士一論ニ難於前一」

【論議】ロンギ 論じさだむ。史記に「毛遂比レ至レ楚、與ニ十九人一論議」

【論纂】ロンサン 論じあつむ。論語解疏に「門人相與、輯而論纂、故謂ニ之論語一」

【論辯】ロンベン 意見をのべとく。元史に「遇レ事英發、掀レ髯論辯」

【論理學】ロンリガク *Logic.* 一の公理に基きて、物事を正しく論述する方法を研究する學科。

【論ニ大功一者不レ錄ニ小過一】ダイコウヲロンズルモノハセウクワヲロクセズ 大功を論じて之を賞するときは、その小過は措いて問はず。漢書、陳湯傳に「論ニ大功一者、不レ錄ニ小過一、擧ニ大美一者、不レ疵ニ細瑕一」

【設】シウ、ジユ。承呪切。宥。くちづからさづく(口授)。

【諗】シン。式荏切。寑。㊀深くいさむ㊁おもふ(念)㊂はかる(謀)㊃つぐ(告)㊄ひそむ(潛)㊅かくる(藏)㊆のぶ(述)。

【誈】ブ、ム。武扶切。虞。いつはる、あざむく(欺)。

【諚】〔國字〕ぢやう。

九畫

【諛】ユ。楊朱切。虞。へつらふ(諂)。

【諛悅】ユエツ へつらふ。金史に「小人佞夫、爭進ニ諛悅一」

【諛媚】ユビ 前に同じ。唐書、安祿山傳に「祿山百計諛媚、多出レ金諧ニ結左右一」

【諛噱】ユキヤク こびわらふ。韓愈「左右供ニ諂譽一、親交獻ニ諛噱一」

【諛辭】ユジ へつらひのことば。劉向「郎聽ニ夫讒人之諛辭一」

【諜】㋑テフ、デフ。徒叶切。葉。㋺セフ。悉協切。葉。
㋑㊀まはしもの(細作)㊁さぐる、うかがふ(伺)㊂ことばおほし(喋に同じ)㊃ふだ(牒に同じ)㋺ついづ(次)。

【諜知】テフチ 敵情をさぐりしる。

【諜候】テフコウ しのびもの。まはしもの。

【諜報】テフハウ 手紙を以て知らす。宋史に「遣ニ蠟書一、諜ニ報邊事一」

【諜賊】テフゾク しのびもの。まはしもの。周禮に「巡ニ邦國一、搏ニ諜賊一」

【諜諜】テフテフ ことば多き貌。史記に「豈斆ニ此嗇夫諜諜利口捷給一哉」

【諝】ショ、ソ。私呂切。語。㊀ものしり㊁さとし(智)㊂いつはる(詐)。

【諞】㋑ヘン、ベン。部田切。先。㋺ヘン。平免切。銑。
㊀へつらふ(佞)㊁たくみにいひまはす(便巧)。

【諟】㋑シ、ジ。上紙切。紙。㋺諦に同じ。
㊀つまびらか(審)㊁あきらか(諦)㊂ただし(正)㊃この(是)㊄ことわり(理)。

【諠】㋑ケン、コン。火遠切。阮。㋺ケン、クワン。許元切。元。
㋑わする(忘)㋺㊀いつはる、わする(諼に同じ)㊁かまびすし(喧に同じ、嘩)。

【諠擾】ケンゼウ かまびすしくさわぐ。南史に「率ニ左右一躬自彎ニ救之一、郡中諠擾」

【諠譊】ケンダウ かまびすしくかたる。南史に「沈湎諠譊、過差非レ度」

【諠譁】ケンクワ かまびすしくさわぐ。史記に「諸侯皆諠譁、疾ニ鼂錯一」

【諡】㋑シ。神至切。寘。㋺イ。於賜切。寘。
おくりな。

【諡號】シガウ おくりな。晉書に「其諡號可レ知者、十有四焉」

【諢】ゴン。五困切。願。㊀たはむれごと(弄言)㊁はなし(談話)㊂たはむれ(戲)。

【諤】ガク。五各切。藥。ただしくいふ(直言)。

【諤諤】ガクガク 是非を直言する貌。(謇諤)。孔子家語に「湯武以ニ諤諤一而皇、桀紂以ニ唯唯一而亡」

【諦】テイ、タイ。丁計切。霽。㊀あきらか(明)㊁つまびらか(審)㊂まこと(誠)㊃あきらむ(斷念)。

【諦思】テイシ よくかんがふ。魏志に「爲陳ニ大義一、遣令ニ歸諦ニ思之一」

【諦料】テイレウ あきらかにはかる。列子に「王諦ニ料之一」

【諦視】テイシ あきらかにみる。魏志、注に「帝曰、卿仰諦ニ視之一」

【諦聽】テイチヤウ はっきりときく。白居易「凝視諦聽殊不レ足」

【諧】カイ、ガイ。戶皆切。佳。㊀あふ(合)㊁ととのふ(調)㊂などけ(譃)㊃などく、たはむる㊄やはらぐ(和)㊅ともに(共)㊆たひらかなり(平)。

【諧比】カイヒ したしくつきあふ。唐書、吳競傳に「競少勵志、貫ニ知經史一、方直寡ニ諧比一」

【諧和】カイクワ やはらぎかなふ。周禮に「調人掌下司ニ萬民之難一而諧中和之上」

【諧協】カイケフ やはらぎかなふ。沈遼「篇章合ニ古律一、宮羽自諧協」

【諧淑】カイシユク やはらぎてよし。王義慶「喧

景轉諧淑、草木日滋長」
【諧婉】やはらぎかなふ。唐書に「金石諧婉、將レ有二大慶一」
【諧暢】やはらぎととのふ。南史に「宮商既調、風神諧暢」
【諧價】ねだんを平かにす。後漢書に「先至二西國一諧レ價」
【諧嬉】たはむる。王安石「便脫二巾屣一相諧嬉」
【諧緝】やはらぎあつまる。南史に「中外諧緝、人無二間言一」
【諧穆】やはらぐ。魏書に「昆弟雍和、尊卑諧穆」
【諧謔】おどけたはむる。晉書、顧愷之傳に「愷之好二諧謔一、人多愛二狎之一」
【諫】カン、ケン。古晏切。諫。❶ただす(正)❷さとす❸あらそふ❹いさむ❺いさめ。
【諫止】いさめとどむ。諸葛亮「後從二事于偉度一、數有二諫止一」
【諫正】いさめただす。漢書に「唐林數上疏諫正、有二忠直節一」
【諫官】君主をいさむるつかさ。韓愈「顧辱二太守薦一、得レ免二諫諍官一」
【諫珂】鳥の名。說苑に「東方有レ鳥、名二諫珂一」
【諫書】君主をいさむる書狀。岑參「聖朝無二闕事一、自覺諫書稀」
【諫院】諫官のやくしよ。周必大「明道元年、復置二諫院一」
【諫紙】君主をいさむる爲に文を書きつくる紙。白氏長慶集に「僕爲二諫官一、月請二諫紙一、詩云、月慚諫紙二百張、歲愧俸錢三十萬」
【諫喩】いさめさとす。魏志に「或時以二諫喩一不レ納、涕而起」
【諫鼓】朝廷に置き、諫言せむとする人民をして、これを打ちて、その意を通ぜしむるやうにしたる鼓。淮南子に「堯置二敢諫之鼓一」
【諫說】ときいさむ。史記に「其諫說慕二晏嬰之爲一レ人也」
【諫輔】いさめたすく。書經に「剝二喪元良一、賊二虐諫輔一」
【諫職】君主をいさむるつかさ。司馬光「臣備二位諫職一三年有半、不レ能三悉心竭レ忠、以補二益明主一」
【諫議大夫】君主の過失を諫むる官。
【諮】シ。咨に同じ。❶はかる(謀)❷とふ(問)。
【諮求】とひもとむ。何承天「諮二求雅旨一、來答周至」
【諮問】とひはかる。後漢書に「朝廷毎レ有二疑政一、輒驛使諮問」
【諮訴】とひはかる。徐陵「浙水悠長、諮訴無レ因」
【諮稟】事をとひ命をうく。後漢書に「內外諮稟、事同二成人一」
【諯】㋴ケン。翾餘切。先。㋺セン。職緣切。先。㋩テン、デン。直碾切。霰。❶かぞふ(數)❷せめあふ(讓)❸人の名。
【諭】㋴ユ。羊戍切。遇。㋺トウ、ツ。他口切。有。㋴❶つぐ(告)❷さとす、さとし(曉)❸さとる、さとり(悟)❹あきらか(明)❺たとへ、たとふ(譬)❻いさむ(諫)㋺みちびく(誘)。
【諭示】さとししめす。
【諭旨】むねをいひきかす。
【諭告】さとしつぐ。
【諭教】さとしをしふ。又、をしへ。漢書、賈誼傳に「太子之善、在二于早諭教與一レ選二左右一」
【諭意】こころをさとる。淮南子に「作レ書以諭レ意、以爲レ知者也」
【諰】㋴シ。胥里切。紙。㋺サイ。息改切。蟹。㋩サイ、セ。所佳切。佳。㋥アイ。塢皆切。佳。㋴❶おそる(懼)❷ただしくいふ(直言)❸おもふ(思)❹言ひ且つ思ふ㋺かたる(語)㋩❶いひあやまり(失言)❷かたる(語)㋥かれを呼ぶ稱。
【諱】キ。許貴切。未。❶いむ(忌)❷いみ❸かくす(隱)❹さく(避)❺おそる(畏)❻いみな(死者の名)。

【諱名】なをいふを忌む。孟子に「諱レ名不レ諱レ姓、姓所レ同也、名所レ獨也」
【諱忌】いむ。(忌諱)。宋史に「當時無レ所二諱忌一」
【諱隱】いみかくす。北史、楊昱傳に「卿有レ所レ聞、愼勿二諱隱一」
【諳】㋴アン、オン。烏含切。覃。㋺烏紺切。勘。㋩トウ、ツ。他口切。有。㋴❶つくす(悉)❷しる(知)❸なれる(練)❹さとる(曉)❺ふ(歷)❻おぼゆ(記)❼つまびらかにす(審)❽そらよみす、そらんず(背誦)❾おもふ(憶)㋺そらよみす㋩いひつくす。
【諳究】くはしくきはむ。晉書に「西都舊事、多レ所二諳究一」
【諳記】そらんじしる。唐書に「故屯戍、斥候、司士馬、儲戒、無レ不二諳記一」
【諳誦】そらんじよむ。
【諳練】そらんじしる。晉書、刁協傳に「久在二中朝一、諳二練舊事一」
【諳曉】そらんじさとる。南史に「諳二曉故事一、明二練政體一」
【諴】㋴カン、ゲン。胡嵒切。咸。㋺カン、コン。姑南切。覃。㋴❶たはむる(調)❷誠の感通すること❸やはらぐ(和)❹いつはる❺樂の名㋺わらふ(嗤)。
【諵】㋴ダン、ナン。那含切。覃。㋺女咸切。咸。㋩尼賺切。陷。㋴❶はなしごゑ(語聲)❷かまびすし(聒)㋺多言する貌㋩かげぐち。
【諵諵】多言する貌。韓愈「論レ詩說レ賦相諵諵」
【諶】シン、ジン。時任切。侵。❶まこと(誠)❷まことに、げに(實)。
【諶訓】まことのをしへ。阮籍「謹二玄眞之諶訓一兮」
【諷】フウ、フ。芳鳳切。送。❶をしふ(敎)❷いさむ(諫)❸たとふ(譬)❹そらんず(誦)❺うたふ❻ほのめかす❼さとす。
【諷刺】それとなくさとす。あてこする。文心雕龍に「刺者達也、詩人諷刺」
【諷書】そらんじかく。漢書に「能諷二書九千字以上一、乃得レ爲レ吏」
【諷詠】なぞらへうたふ。晉書に「優二游諷詠一、無レ所二標明一」
【諷誦】そらんじよむ。後漢書に「當世甚重二其書一、學者莫レ不二諷誦一焉」
【諷諫】とほまはしにいさむ。史記に「優孟常以二談笑一諷諫」
【諷嘯】詩歌を吟じうたふ。晉書に「諷嘯亘久」
【諷勸】さとしすすむ。後漢書に「遣二棣文辭一、終以諷勸」
【諷讀】そらよみす。北史、蘇威傳に「恐二禍及一レ己逃入レ山、以二諷讀一爲レ娛」
【諸】ショ、ソ。章魚切。魚。❶もろもろ(衆)❷わかつ(別)❸人の姓❹これ、この(之)❺に、おいて(於)❻や(疑問辭)❼つけもの(菹)❽字句に添へ加ふる助字。
【諸于】大掖の衣。漢書に「改君坐近二太子一、又獨衣二絳緣諸于一」
【諸父】父方のあまたのをぢ。詩經に「既有二肥羜一、以速二諸父一」
【諸生】學生ども。史記に「臣願徵二魯諸生一、與二臣弟子一、共起二朝儀一」
【諸司】おほくのつかさ。左傳に「訓二諸司一以レ德」
【諸昆】おほくの兄。杜甫「見知眞自幼、謀拙愧二諸昆一」
【諸彥】❶おほくのすぐれたる士。南史に「二三諸彥、兄弟友生」❷おほくの人に對していふ敬稱。
【諸夏】中國內に於ける諸國。左傳に「以服二事諸夏一」
【諸舅】母方のあまたのをぢ。詩經に「既有二肥牡一、以速二諸舅一」
【諸侯選】材能衆にすぐるること、列國より選拔せらるるが如き者。左傳に「皆諸侯之選也」
【諸等數】(數)二つ以上の單位の名數を以て表はされたる數。
【諸子百家】一切の子類の書物。漢書、注に「諸子百六十九家、言二百家一擧二

成數一也」

【諸行無常】〔佛〕萬有は皆うつりかはりて、しばらくも常住することなし。傳燈錄に「世尊說二無常偈一曰、諸行無常、是生滅法、生滅滅已、寂滅爲樂」

【諺】㋑ゲン。魚變切。霰。㋺ガン。魚旰切。翰。㋑㊀ことわざ(俚言)㊁とぶらふ(弔)㋺㊀たけし、つよし(畔諺)㊁ほこる(矜)㊂うやうやしからず(叛諺)。

【諠】クワウ、ワウ。虎橫切。陽。かたるこゑ、大いなるこゑ(喤に同じ)。

【諼】ケン、コン。許元切。元。㊀あざむく(欺)㊁いつはる(詐)㊂わする(忘)。

【諼草】〔植〕わすれぐさ。詩經、注に「諼忘也、諼草合歡、食レ之令二人忘一レ憂」

【諾】ダク、ナク。奴各切。藥。㊀こたふ(答)㊁こたへ㊂ゆるす㊃うべなふ(承領)㊄うなづく㊅のみ(已)。

【諾唯】うけがふ。(唯諾)。蘇軾「心知二其非一口諾唯」

【諾諾】ひたすらに他の言に從ふ貌。史記、商鞅傳に「千人之諾諾、不レ如二一士之諤諤一」

【諿】㋑シフ、七入切。緝。㋺ショ、ソ。私呂切。語。㋑㊀やはらぐ(和)㊁わきまふ(辨)㋺㊀はかりごと(謀)㊁かしこし(智)。

【⿰言臿】サフ、セフ。側洽切。洽。㊀さかしらごと(讒言)㊁ことばおほし(多言)㊂かたりわらふ貌㊃ことばさだまらず。

【謀】ボウ、ム。迷浮切。尤。㊀はかる(計)㊁おもんぱかる(慮)㊂とふ(問)㊃はかりごと(術策)、てだて(手段)。

【謀主】はかりごとの主謀者。左傳に「析公奔レ晉、晉人寘二諸戎車之殿一、以爲二謀主一」

【謀臣】君をたすけてはかりごとをめぐらす家來。李陵「當二此之時一、猛將如レ雲、謀臣如レ雨」

【謀泄】はかりごと他にもれあらはる。戰國策に「謀泄者事無レ功、計不レ決者名不レ成」

【謀計】はかりごと。書經、疏に「自有二謀計之言一」

【謀咨】とひはかる。曹植「仰二其聖一以謀咨」

【謀略】はかりごと。唐書に「持論鯁切、以二謀略一高自標顯」

【謀畫】前に同じ。後漢書、馬援傳に「召レ援計レ事、援具言二謀畫一」

【謀惟】はかる。詩經に「載謀載惟」

【謀將】軍略に富みたる將。隋書に「楊素是猛將非二謀將一」

【謀詐】いつはりのはかりごと。漢書に「習二兵事一多二謀詐一」

【謀猷】言の事に切なるを謀といひ、言の道に切なるを猷といふ。詩經に「斯謀斯猷、惟我后之德」

【謀臧】よきはかりごと。詩經に「謀臧不レ從、不レ臧覆用」

【謀議】はかり論ず。はかりごと。史記に「謀二議巡狩封禪事一」

【謀及二婦人一】男子事をなすに婦人に謀れば外にもるる恐あり、故に之を譏りていふ。左傳に「桓公曰、謀及二婦人一、宜其死也」

【謁】㋑エツ、オチ。於歇切。月。㋺アイ。於蓋切。泰。㋑㊀まうす(白)㊁つぐ(告)㊂こふ(請)㊃おとづる、まみゆ㊄なふだ(名刺)㋺くもる(靄に同じ)。

【謁見】まみゆ。曹文晦「貧來休二謁見一、謁見多逐レ客」

【謁刺】謁見を請ふ爲に差し出すなふだ。事文類聚に「彥博方坐二廳事一、閽二謁刺一、置二案上一不レ問」

【謁者】官名、四方に使する職。漢書に「謁者掌レ賓」

【謁二後塵一】人後に就くをいふ。古今詩話に「莫レ嫌侍レ酒輕二書語一、曾把二文章一謁二後塵一」

【謂】ヰ。于貴切。未。㊀いふ(言)㊁かたる(語)㊂とく(說)㊃となふ(稱)㊄つぐ(告)㊅おもふ(思)㊆いはれ(理由)㊇いひ㊈つとむ(勤)㊉おもはく(思念)。

十畫

【謄】トウ、ドウ。徒登切。蒸。㊀うつす(寫)㊁つたふ(傳)。

【謄本】原本のうつし。山谷題跋に「復從二翹叟一借來未二謄本一」

【謄寫】かきうつす。

【謄錄】うつししるす。元史に「謄二錄試卷一、每行移二文字一、皆用二朱書一」

【謅】㋑サウ、セウ。楚絞切。巧。㋺シウ、ス。楚鳩切。尤。㋑㊀みだる(擾)㊁はなし、しゃれごと㊂すばやし(輕捷)㊃こゑ(聲)㋺㊀ささやく(私言)㊁さづく(授)。

【謆】セン。式戰切。霰。まどはす(惑)、おだつ。

【謇】ケン。九件切。銑。㊀まこと(忠)㊁ただしくかたる(直言)㊂どもる(吃)。

【謇正】直言して邪曲ならず。北史に「外似二謇正一、內實諂諛」

【謇諤】忠直のことば。魏志に「謇諤足二以勵一レ物」

【謇謇】㊀直言する貌。後漢書に「廣納二謇謇一、以開二四聰一」㊁艱難の甚だしき貌。蹇蹇に通ず。晉書に「王臣謇謇」

【謈】㋑ハク、ボク。蒲角切。覺。㋺ハウ、ボウ。薄皓切。皓。㋑㊀よばはる(呼)㊁こゑ(聲)㊂さけぶ(叫)㊃つとむ(勉)㋺㊀いひわけす㊁いたむこゝろ。

【謋】クワク。虎伯切。陌。すみやかなる貌。

【謋然】すみやかなる貌。莊子に「動レ力甚微、謋然已解」

【謌】カ。歌に同じ。

【謍】㋑エイ、ヤウ。余傾切。庚。㋺クワウ。虎橫切。庚。㋩クワウ、カウ。呼宏切。庚。㋑㋺こゝゑ(小聲)㋩おほごゑ(大聲)。

【謎】ベイ、マイ。莫計切。霽。なぞ(隱語)。

【謏】㋑セウ。先了切。篠。㋺ソウ、ス。先奏切。宥。㋑㊀いざなふ、さそふ(誘)㊁すくなし、すこし(小)㋺しかる。

【⿰言疾】シツ、ジチ。秦悉切。質。㊀ことばはやし(語疾)㊁くるしむ(苦)㊂そこなふ(害)。

【謐】ビツ、ミチ。彌必切。質。㊀つつしむ(愼)㊁やすらかなり(安)㊂しづか(寂)。

【謑】㋑ケイ、ガイ。胡禮切。薺。㋺ケイ。弦雞切。齊。㋩カ、ケ。虛訝切。禡。㋥カイ、ゲ。下解切。卦。㋑㊀はづかしむ(辱)㊁はぢ(恥)㊂いかる(怒)㊃ののしる㋺ただしからざる貌㋩ののしる、そしる㋥いかれるこゝろ。

【謑髁】ただしからざる貌。莊子に「謑髁無レ任、而笑二天下之尙賢一」

【謔】キャク、カク。迄卻切。藥。㊀喜びたのしむ㊁たはむる、たはむれ(戲)㊂おどける、おどけ㊃盛んにして烈しき貌、はげし。

【謔笑】おどけわらふ。顧瑛「談レ玄味二妙理一、謔笑雜二微諷一」

【謔浪】たはむる。たはむれ。詩經に「謔浪笑傲、中心是悼」

【謔劇】前に同じ。梅堯臣「酒半時謔劇」

【謔謔】㊀盛んにして烈しき貌。爾雅に「謔謔嗃嗃、崇二讒慝一也」㊁喜び樂しむ貌。詩經に「天之方虐、無二然謔謔一」

【謖】シュク、ソク。所六切。屋。㊀をさむ(斂)㊁たつ(起)㊂ぬきんづ(峻挺)。

【謖謖】㊀峻く挺づる貌。世說に「世目二李元禮一、謖謖如二松下風一」㊁松風のおとの形容。蘇軾「臥聽謖謖碎二龍鱗一」㊂翕め斂むる貌。後漢書に「公子謖然、斂レ衽而興」

【謗】㋑ハウ。補浪切。漾。㋺バウ。慣用音。

㊀そしる、そしり（誹）㊁にくむ。

【謗沮】そしりはばむ。唐書に「宦侍謗沮不レ已」

【謗怨】そしりうらむ。（訾怨）。韓非子に「管仲以レ公而國人謗怨」

【謗排】そしりしりぞく。陳師道「謗レ嘲排レ道不レ須レ同」

【謗訾】そしる。そしり。（毀訾）。韓非子に「子産開レ畝樹レ桑、鄭人謗訾」

【謗毀】前に同じ。（毀謗）。文天祥「謗二毀平生一無レ不レ有」

【謗嗤】前に同じ。（嘲嗤）。意林に「有二絕羣之節一、必嬰二謗嗤之患一」

【謗誚】前に同じ。曹爽「下使二愚臣免二于謗誚一」

【謗論】そしり論ず。孔平仲「斧鉞不レ足二以禁二謗論一」

【謗嘲】そしりあざける。（譏嘲）。王安石「謗嘲出レ異已、傳載因二疎略一」

【謗罵】ののしる。（詬罵）。魏書に「乃至二聲色加二以謗罵一」

【謗議】そしる。そしり。漢書、司馬遷傳に「貧下未レ易レ居、下流多二謗議一」

【謗譽】そしりとほまれと。（毀譽）。國語に「古之王者、考二百事于朝一、問二謗譽于路一」

【謗讒】そしる。又、そしり。蘇軾「愼勿レ怨二謗讒一、乃我得二道資一」

【謗讟】そしりごと。唐書、魏元忠傳に「武后曰、卿累負二謗讟一何耶」

【謗讟】そしりにくむ。左傳に「民無二謗讟一」

【謘】チ、ヂ。直尼切。支。にぶし、ゆるし、語遲緩なり。

【謙】㋑ケン。苦兼切。鹽。㋺慊に同じ。

㊀うやまふ（敬）㊁つつしむ（謹）㊂ゆづる、へりくだる（讓）㊃うたがひ、きらひ（慊に同じ）、易の卦の名㋺あきたる、あきたらず。

【謙沖】へりくだりやはらぐ。晉書に「德冠二百王一、然猶順二守謙沖一」

【謙屈】へりくだる。晉書に「宜三深自謙屈以防二其變一」

【謙和】へりくだりておだやかなり。宋史、陳瑾傳に「瑾謙和、不二與レ物競一」

【謙挹】前に同じ。北史に「名位雖レ重、愈存二謙挹一」

【謙恕】へりくだりて人をおもひやる。孔文仲「天資謙恕、思レ得二深謀至計以補レ所レ未レ照也」

【謙退】へりくだりしりぞく。史記に「君子以二謙退一爲レ禮」

【謙虛】へりくだりて心にわだかまりなし。晉書、周訪傳に「訪智勇過レ人、性謙虛、未三嘗論二功伐一」

【謙巽】へりくだる。韓愈「謙巽滋甚」

【謙順】へりくだりしたがふ。晉書に「謙順之道、當三仰思二古人至公至誠一」

【謙敬】へりくだりつつしむ。左傳、注に「存二謙敬一、序二殷勤一也」

【謙飭】前に同じ。唐書に「循循謙飭、若レ不レ在二勢位一者上」

【謙愼】前に同じ。張九齡「所レ致二休徵一、必加二謙愼一」

【謙廉】へりくだりて心いさぎよし。（廉謙）。北史、游明根傳に「明根子肇、謙廉不レ競」

【謙愿】へりくだりつつしむ。唐書、董晉傳に「晉謙愿儉簡、事多循二仍故一、軍粗安」

【謙遜】へりくだる。漢書、東方朔傳に「臣聞、謙遜靜慤、天表之應」

【謙稱】へりくだりていふ。左傳、注に「孤寡不穀、諸侯謙稱」

【謙德】人にへりくだる美德。史記に「景公謙德、熒惑退行」

【謙謙】へりくだりうやまふ貌。易經に「謙謙君子、用渉二大川一」

【謙辭】へりくだれることば。後漢書に「深執二謙辭一、言無二功德一」

【謙讓】へりくだりゆづる。史記に「謙讓不レ伐二己功一」

【講】㋑カウ、コウ。古項切。講。㋺構に同じ。

㋑㊀和解す㊁とく（解）㊂あげつらふ（論）㊃つぐ（告）㊄あきらかにす（明）㊅ならふ（習）㊆きはむ（究）㊇はかる（謀）㊈やはらぐ（顜に通ず）㊉山の名（十一）官の名。

【講古】古の道をとく。柳宗元「言レ道講レ古、窮二文辭一以爲レ師」

【講究】かんがへきはむ。宋史に「神宗講二究方田利害一」

【講求】しらべもとむ。宋史に「以レ講二求民間利弊一爲レ急」

【講和】兩國の和睦を議る。唐書、張說傳に「始爲レ相時、帝欲レ事二吐蕃一、說請レ講レ和以休息」

【講授】ときつたふ。漢書、夏侯勝傳に「勝每二講授一、謂二諸生一曰、士病レ不レ明二經術一」

【講旅】軍隊の操練をなす。王粲「因二時隙之餘日一、陳二苗狩一而講旅」

【講貫】業をならはす。國語に「士朝而受レ業、晝而講貫」

【講堂】講義する室。漢書に「親御二講堂一、命二皇太子諸王一說レ經」

【講習】講じならふ。易經に「麗澤兌、君子以朋友講習」

【講道】道を研究す。宋史、李皤傳に「居レ家講レ道」

【講試】きはめさぐる。詩經、疏に「如レ此長壽、相與講二試氣力一、奇二其老而不レ衰也」

【講筵】講義する席。姚合「紫殿講筵郞二御座一」

【講義】文書又は學說の意義をときあかす。又、ときあかし。會要に「先讀二經文一通熟、然後按レ文講レ義」

【講誦】書物の意義をきはめとく。史記に「下レ帷講誦、弟子以レ次相受業」

【講說】ときあかす。又、ときあかし。文同「君能爲レ我再講說」

【講論】ときあかしろんず。後漢書、光武帝紀に「數引二公卿郞將一、講二論經理一、夜分乃寐」

【講學】學問を研究す。禮記に「講學以耨レ之」

【講藝】藝術を研究す。權德輿「講二藝于蓬萊之下一」

【講議】ときあかしろんず。後漢書に「講二議五經異同一」

【講讀】書物を研究してよむ。宋史、黃裳傳に「爲レ人簡易端純、每二講讀一、隨レ事納レ忠」

【謜】㋑ゲン、グワン。魚怨切。願。㋺セン。此緣切。先。

㊀おもむろにかたる（徐語）㋺㊀やはらぐ（和）㊁よろこぶ（悅）。

【謝】シャ、セ。詞夜切。禡。

㊀さる（去）㊁たつ（絕）㊂しりぞく（退）㊃おとろふ（衰）㊄しぼむ（凋）㊅つぐ（告）㊆れいをのぶ㊇ことわる㊈あやまる、わびす㊉ゆるす（聽）（十一）やくをひく（致仕）（十二）榭に同じ（十三）龜の一種。

【謝老】老年になりて官を辭するをねがふ。（告老）。北史、尉元傳に「元詣レ闕謝レ老」

【謝告】あやまちをわぶ。陳琳「韓馥懷レ懼、謝レ告歸レ士」

【謝金】お禮の金子。李紳「談笑謝金何所レ愧」

【謝恩】めぐみを受けし禮をのぶ。後漢書に「詣レ闕謝レ恩、以見二禮遇一」

【謝病】病氣といひてことわる。戰國策に「應侯因謝レ病、請レ歸二相印一」

【謝豹】（動）ほととぎすの異名。

【謝絕】ことわりきる。後漢書に「謝二絕賓客一、放二心音樂一」

【謝罪】あやまちをわぶ。史記に「至二藺相如門一謝レ罪、卒相與爲二刎頸之友一」

【謠】エウ。餘招切。蕭。

㊀うたふ㊁はやりうた（俗謠）㊂そしる（毀）。

【謠詠】うたふ。北史に「謠詠倦極、便臥唱二挽歌一」

【謠歌】はやりうた。史記に「始皐聞二謠歌一、而問二其故一」

【謠誦】うたふ。元結「請達二謠誦聲一、願公且躊躇」

【謠讙】うた。晉書に「凡樂章古辭、今之存者、漢世街陌謠讙」

【謟】 タウ、トウ。他刀切。豪。うたがふ(疑)。

【謞】 ㋴カク、コク。許角切。覺。㋺嗃に同じ。㋴わざはひなたのしむ㋺さけぶ(叫)。

十一畫

【謣】 ㋴ウ、チ。羽俱切。虞。㋺ク、コ。匈于切。虞。㋴いつはり㋺きやりうた。

【謣言】 いつはり。揚雄「謣言敗レ俗」

【謣輿】 きやりうた。類篇に「謣輿擧レ重勸レ力歌也」

【謦】 ㋴ケイ、キャウ。去挺切。迥。㋺詰定切。徑。㋴しはぶき、又、そのこゑ㋺かたりわらふ(言笑)、さざめく。

【謦欬】 ㊀せきばらひ。面會を得るを謦欬に接すといふ。宋史に「如レ聞二謦欬一、式燕以寧」㊁言笑す。列子に「謦欬疾言」

【謧】 ㋴リ。呂支切。支。㋺レイ、ライ。郎奚切。齊。㋩ラウ、レウ。力交切。肴。㊀しゃべる(多言)㊁あざむく(欺)㊂あなどる(謾)㊃なぶる(弄言)。

【謨】 ボ、ム。莫胡切。虞。㊀はかる(議)㊁はかりごと(謀)㊂いつはる、いつはり(僞)㊃なし(無)。

【謨訓】 をしへ。いましめ。書經に「聖有二謨訓一、明徵定保」

【謪】 シャウ、サウ。尸羊切。陽。はかる(度)。

【謫】 ㋴タク、チャク。陟革切。陌。㋺サク、シャク。士革切。陌。㋩テキ、チャク。丁歷切。錫。㋴㊀せむ(責)㊁つみす(罪)㊂とがむ(咎)㊃とがめ、つみ(罪過)㊄あやしき雲氣㋺㊀いかる(怒)㊁せむ(責)㋩つみす(罰)。

【謫告】 わざはひ(譴告)。後漢書、鄭典傳に「往年已來、謫告連見、意者執事、頗有レ闕焉」

【謫居】 ながしびととなりてをる。

【謕】 テイ、ダイ。大計切。霽。あきらか(諦)。

【謬】 ビウ、シウ。眉救切。宥。㊀あやまる、あやまり(誤)㊁あやまつ(失)㊂あざむく(欺)㊃みだる(亂)㊄いつはる(詐)㊅たがふ(差)。

【謬舛】 あやまりたがふ。(訛舛)。唐書に「文武百官、功狀多二謬舛一」

【謬字】 字畫ただしからざる文字。北史に「刪二正謬字一、名曰二字辨一」

【謬忒】 あやまりたがふ。韓維「有レ詔講二謬忒一」

【謬戾】 あやまりそむく。道德指歸論に「桀二陰陽之謬戾一者爲二小人一、故兇詐姦邪」

【謬誤】 あやまり。(錯誤、舛誤)。新語に「謬誤出二于口一、則亂及二萬里之外一」

【謬算】 あやまれる計算。蘇軾「狂謀謬算百不レ遂、惟有霜鬢來如レ期」

【謬論】 あやまれる議論。漢書に「勃之知、猶有二過利一、謬論如レ此甚也」

【謬濫】 あやまりみだる。冥通記に「勃然曰、何以謬濫」

【謬錯】 あやまり。蘇軾「我衰臨レ政多二謬錯一、羨君精采如二秋鶚一」

【謬詭】 あやまりいつはる。揚子方言に「謬詭、詐也」

【謯】 ㋴ショ、ソ。子余切。魚。㋺サ、セ。側下切。馬。㋩詛に同じ。㋴たはむる㋺㊀しかる貌㊁言もとる㋩のろふ。

【謰】 レン。力延切。先。みだる、もつる(亂挐)。

【謰謱】 みだれひく。楚辭「媒レ女詘兮謰謱」

【謱】 ㋴ロウ、ル。洛侯切。尤。㋺ル、ロ。力主切。麌。㋴㊀つつしむ(謹)㊁みだる、もつる㋺つぶさ(委曲)。

【謳】 ㋴オウ、ウ。烏侯切。尤。㋺ク、コ。匈于切。虞。㋴㊀うた㊁うたふ(歌)㊂ひとしくうたふ(齊歌)㊃嬰兒の語る聲(嘔に同じ)㋺㊀あたたむ(煦)㊁たのしむ(樂)㊂化せんと欲する貌。

【謳詠】 うたふ。黃滔「夜聽二謳詠一銷二塵夢一」

【謳誦】 前に同じ。李嶠「登レ原采二謳誦一、俯レ谷求二才術一」

【謳歌】 うたふ。孟子に「謳歌者不レ謳二歌堯之子一」

【謳謠】 うた。唐明皇「藩鎭謳謠滿、行宮雨露深」

【謵】 ㋴シフ。席入切。緝。㋺テフ。丑涉切。葉。㋩セフ。叱涉切。葉。㋴㊀ならふ(習に同じ)㊁おそる(慴)㋺㊀いつはる(謵)㊁ささやく(小言)。

【謶】 サウ、セウ。楚交切。肴。人に代りて說く。

【譙】 ㋴シャク、サク。之若切。藥。㋺シャ、ソ。商署切。御。㋩噍に同じ。㋴㊀あざむく(欺)㊁せむ(責)㋺こひねがふ(冀)。

【謷】 ㋴ガウ、ゴウ。牛刀切。豪。㋺ガウ、ゲウ。五交切。肴。㋩傲に同じ。㋴㋺㊀おろか(愚)㊁かまびすし㊂わづらはし㊃いつはる(詐)㊄おほいなり(大)㊅みだりにいふ(妄語)㊆たはごと(謔)㊇はなはだし(甚)㊈かなしむこゑ(悲聲)。

【謷乎】 大いなる貌。莊子に「謷乎大哉、獨成二其天一」

【謷謷】 ㊀話言を聽かずして妄語せる貌。楚辭に「令尹兮謷謷」㊁愁聲多き貌。漢書に「天下謷謷然、陷レ刑者衆」

【謹】 ㋴キン、コン。居隱切。吻。㋺墐に同じ。㋴㊀つつしむ(愼)㊁おごそかにす(嚴)㊂うやうやしくす(敬)㊃もっぱらなり(專)㊄おもんず(重)㊅とどむ(禁止)。

【謹介】 つつしみぶかし。宋史、王顯傳に「性謹介不レ好レ狎」

【謹正】 つつしみふかくして正し。北史、李懷傳に「性謹正涉二書史一」

【謹身】 身をつつしむ。素書に「潔莫レ潔二于謹一レ身、吉莫レ吉二于知一レ足」

【謹度】 行をつつしむ。孝經に「制節謹度、滿而不レ溢」

【謹恪】 つつしみぶかくして職務に忠實なること。

【謹厚】 つつしみぶかきこと。南史、儒林傳に「嚴植之少善二莊老一、能二玄言一、淳孝謹厚、不二以レ所レ長高一レ人」

【謹悌】 つつしみしたがふ。唐書、李元素傳に「奉二長姊一謹悌」

【謹敕】 つつしみいましむ。後漢書に「謹敕之人、身不レ蹈レ非」

【謹敏】 つつしむ。後漢書に「鄭衆爲レ人、謹敏有二心幾一」

【謹密】 つづまやかなり。漢書に「貌若二儒蕩不一レ備、然心甚謹密」

【謹細】 つつしみ深くこまやかなり。古畫品錄に「精微謹細」

【謹肅】 うやまひつつしむ。(恭肅)。漢書に「小心謹肅、未二嘗懈怠一」

【謹愼】 つつしむ。蜀志、諸葛亮傳に「先帝知二臣謹愼一」

【謹愨】 つつしむ。爾雅、疏に「謹愨者人皆愛レ之」

【謹敬】 つつしみうやまふ。新語に「夫道莫レ大二于無爲一、行莫レ大二于謹敬一」

【謹廉】 つつしみ深くいさぎよし。唐書に「翊性謙柔、代宗目爲二純臣一、世稱二謹廉一」

【謹飭】 つつしむ。唐書に「資謹飭好レ學、喜レ誘二勸後生一」

【謹愿】 つつしむ。韓愈「天子以爲二謹愿一、賜二緋魚袋一」

【謹質】 つつしみてただし。後漢書、吳漢傳に「漢在二朝廷一斤斤謹質、形二于體貌一」

【謹審】 つつしみぶかし。唐書、尙可孤傳に「性謹審沈壯、旣有二勳勞一」

【謹篤】 つつしみふかく心あつし。南史、王琨傳に「琨少謹篤、爲二從伯司徒謐所一レ愛」

【謹諾】 つつしんでうけがふ。史記、項羽紀に「不二敢獻一レ公、爲レ我獻レ之、張良曰、謹諾」

【謹毛失貌】 意を小事に留むる時は、却ってその大體を失ふ意。淮南子に「畫者謹レ毛失レ貌」

【譯】ヒツ、ヒチ。壁吉切。質。㊀とどむ(蹕)㊁つつしむ(愼)㊂なはる(畢)。

【謻】㋑イ。余支切。支。㋺シ。敕尒切。紙。㋩チ、ヂ。陳知切。支。㊀いへ㊁ひむろ(冰室)。

【謻門】㊀別に建てたる門堂臺榭。晉書に「謻門且空」㊁ひむろの門。東京賦に「謻門曲榭、邪阻㆓城洫㆒」

【謼】㋑コ、ク。荒故切。遇。㋺カウ、ケウ。虚交切。肴。㋩呼の古文字。㋑さけぶ、よばはる㋺さけびよぶ(詨に同じ)。

【警】エイ。烏奚切。齊。㊀これ(是)㊁こたへ(應)㊂こたふるこゑ㊃しかり(然)。

【謾】㋑バン、マン。母官切。寒。㋺ベン、メン。彌延切。先。㋩バン、メン。莫晏切。諫。㋥莫還切。刪。㋑㊀あざむく(欺)㊁あなどる(侮)㊂なる(媟)㊃おこたる(惰)㊄ひろし(汗漫)㊅けがす(汚)㊆そしる(毀)㋺㊀あざむく(欺)㊁いつはる(詭)㊂わるがしこし(黠)㋩たぶらかす(誑言)㋥㊀おそる(懼)㊁さとし(慧)。

【謾易】あなどる。史記に「高祖箕踞罵、甚謾㆓易之㆒」

【謾昧】あなどりくらます。宋史に「無賴子弟、謾㆓昧尊長㆒、錢不㆑入㆑家」

【謾欺】あざむく。史記に「慴伏謾欺、以取㆑容」

【謾語】いつはりのはなし。聞見後錄に「先公適見、訶㆓止之㆒曰、小子何得㆓謾語㆒、光自㆑是不㆓敢謾㆒」

十二畫

【謿】タウ、テウ。嘲に同じ。

【譀】㋑カン、ゲン。下闞切。勘。㋺カフ、ケフ。呼甲切。洽。㋑㊀ほこる(誇)、おほいなり(誕)㊁たはむる(調)㋺いかる(怒)、ののしる。

【譁】クワ、ゲ。呼瓜切。麻。㊀かはる(化)㊁かまびすし(諠譁)。

【譁沸】かまびすしくさわぐ。唐書、姦臣傳に「士議譁沸」

【譁笑】かまびすしくわらふ。柳宗元「有㆓飆譁㆒笑之、以爲㆓狂人㆒」

【譁譟】かまびすしくさわぐ。宋史に「士卒譁譟趣㆓府門㆒」

【譃】ク、コ。徇予切。虞。㊀いつはる(詐)㊁たはこと(妄言)。

【譅】㋑シフ。色入切。緝。㋺澀に同じ。㋑㊀ことばおほし(多言)㊁言ひて止まず㊂どもる(吃)。

【譆】㋑キ。虛其切。支。㋺嘻に同じ。㋑㊀ああ、あ(噫)㊁愁へ恨みて發するこゑ㊂痛みてよぶこゑ㊃おそれて發するこゑ。

【譮】クワイ、ゲ。胡對切。隊。㊀とどまる(中止)㊁つらぬ、つらなる(列)㊂とく(釋)㊃あざむく(欺)㊄かはる(轉)㊅あつむ(聚)㊆さとる(悟)。

【譇】㋑タ、テ。陟加切。麻。㋺シャ、セ。詩車切。麻。㋑㊀いかる(怒)㊁羞ぢつまりてことばもつる㊂かたりつづく㊃語あらそふ㋺解せざること(譇詉)。

【䜌】㋑レン。呂員切。先。㋺ラン。落官切。寒。㋑㊀つなぐ(繫)㊁をさまる(治)㊂つづく(續)㊃をさむ(理)㊄みだる(亂)㋺㊀訓義㋑に同じ㊁すず(鑾に通ず)。

【譈】タイ、デ。徒對切。隊。㊀うらむ(怨)㊁にくむ(惡)。

【證】ショウ。諸應切。徑。㊀つぐ(告)㊁あかす(明)㊂しょうこ、しるし(驗)㊃うかがふ(候)㊄ただす(質)。

【證引】證據としてあぐ。齊書、王儉傳に「儉長㆓禮學㆒、諳㆓究朝儀㆒、毎㆓博議㆒證㆓引先儒㆒」

【證左】當時左右にありて、その事を見て證するもの、卽ち、證人。史記に「請逮㆘物所㆓與奸㆒諸證左㆖」

【證因】因をあきらかにす。司空圖「峯北幽亭願證㆑因」

【證據】しるし。よりどころ。後漢書に「形獨證㆓據其事㆒」

【證審】しらべてあきらかにす。後漢書に「陛下曾不㆓證審㆒、遂伏㆓其辜㆒」

【證憑】しょうこ。

【證譬】しょうことたとへと。何承天「證譬堅明、文辭淵富」

【證驗】しるし。(徵驗)。白虎通に「撿㆓星辰之證驗㆒」

【譊】㋑ダウ、ネウ。女交切。肴。㋺嘵に同じ。㋑㊀よばはる(呼)㊁ののしる㊂なく(鳴)㊃さけぶ(叫)㊄かたる(語)㊅あらそふ(爭)㊆さわぐ(噪)㊇かまびすし。

【譊譊】㊀恚り呼ぶこゑの形容。後漢書に「雖所謂譊譊之學、各習㆓其師㆒」㊁爭ふこゑの形容。揚子法言に「譊譊者天下皆訟也」

【譩】エイ、アイ。於計切。霽。あきらか(諦)。

【譌】㋑グワ。訛に同じ。㋺クワ、ケ。譁に同じ。㋩キ。詭に同じ。

【譍】オウ。於證切。徑。こたふ、こたへ(對)。

【〓】㋑セイ、サイ。先齊切。齊。㋺シ。息移切。支。㋑㊀ふるふ(振)㊁すふ(呷)㊂よし(善)㊃いななく(嘶に通ず)㊄かなしむこゑ(悲聲)㋺㊀まこと(諒)㊁聲散る。

【譎】ケツ、ケチ。古穴切。屑。㊀いつはる(詐)、あざむく(欺)㊁いつはり(詭)、はかりごと(謀)㊂まぐ、まがる(曲)㊃さだむ、さだまる(決に同じ)㊄うつくし(美)㊅とほまはしにいふ㊆くし(奇)。

【譎妄】いつはり。唐書に「極㆓論延齡譎妄不㆑可㆑任」」

【譎略】いつはりのはかりごと。人物志に「權在㆓譎略㆒、失在㆓依違㆒」

【譎詐】いつはる。(詭詐)。晉書に「王蘇曰、潘沖譎詐多端」

【譎數】いつはりのはかりごと。後漢書に「又能以㆓譎數㆒發㆓擿姦㆒」

【譎謀】前に同じ。史記に「漢旣譎謀、禽㆓信於陳㆒」

【譎獪】わるがしこし。田況「市人譎獪亦射㆑利」

【譎諫】直言せずしていさむ。唐書、文藝傳に「相如子雲爲㆓譎諫之文㆒」

【譎權】いつはりのはかりごと。蜀志、秦宓傳に「戰國之譎權」

【〓】㋑ラウ、ロウ。郎刀切。豪。㋺郎到切。號。㋑かたるこゑ㋺かまびすし(聲多)。

【譏】キ、ケ。居依切。微。㊀そしる(誹)㊁とふ(問)㊂しらぶ(察)㊃うかがふ(伺)㊄せむ(譴)㊅いさむ(諫)㊆きらふ(嫌)。

【譏排】そしりしりぞく。王安石「詔譽未㆑足㆑償㆓譏排㆒」

【譏詆】そしる。唐書、崔昭度傳に「數上書、譏㆓詆朝政㆒」

【譏訶】前に同じ。蜀志、孟光傳に「光好㆓公羊春秋㆒、而譏㆓訶左氏㆒」

【譏嫌】そしりきらはる。楞嚴經に「誹㆓謗比丘㆒、罵㆓詈徒衆㆒、訐㆓露人惡㆒、不㆑避㆓譏嫌㆒」

【譏誚】せめそしる。(詆誚)。宋史に「今擬㆓此州㆒、似㆑涉㆓譏誚㆒」

【譏罵】そしる。孔平仲「武而文、譏罵舌若㆑刀」

【譏諷】そしりさとす。韓愈「皆穎脫含㆓譏諷㆒」

【譏謗】そしる。宋史、高宗紀に「兩浙轉運使副使曹詠言、李孟堅誦㆓其父所㆒撰私史㆓語涉㆓譏謗㆒」

【譏議】そしりはかる。馮衍「怨讐叢興、譏議橫㆑世」

【譏讒】そしりしこづ。蘇軾「世事漸艱吾欲㆑去、永隨㆓二子㆒脫㆓譏讒㆒」

【譐】ソン。噂に同じ。

【譑】 ㋑ケウ。居夭切。蕭。㋺丘召切。嘯。㋩吉了切。篠。
㋑㊀ただす(糾)㊁ことば おほし、多く言ふ ㋺㊀たばごと(弄言)㊁なぶる ㋩ただす(糾)。

【譒】 ハ。補過切。箇。
㊀うたふ(謠)㊁しく(敷)。

【譓】 ケイ、ヱ。胡桂切。霽。
㊀したがふ(順)㊁あきらか、つまびらか ㊂さとし(智)。

【⿱隋言】 ㋑スヰ。雖遂切。寘。㋺キ。虛規切。支。
㋑そしりあふ(相毀)㋺㊀そしる ㊁わづらはす(誘)。

【⿰言隋】 ダ。土禾切。歌。
㊀さとし(慧)㊁退き言ふ。

【譔】 ㋑セン。此緣切。先。㋺サン、セン、ゼン。雛睆切。潸。㋩セン、ザン。雛戀切。霰。
㋑㊀なしふ(敎)㊁よきことば(善言)㊂ことなり ㋺㊀のぶ(撰に同じ、述)㊁つくる(造)㋩㊀訓義ろに同じ ㊁そなふ、そなはる(具)。

【⿰言惡】 ㋑チ、ウ。鳥路切。遇。㋺アク。遏鄂切。藥。
㊀そしる(毀)㊁にくむ(憎)㊂はづ(恥)。

【譖】 ㋑シン、ソン。側禁切。沁。㋺僭に通ず。
㋑㊀うつたふ(愬)㊁そしる、しこづ(讒)㋺いつはる。

【譖短】 あしざまにそしる。唐書に「爲二要近譖短一、遂失レ恩」

【譖毀】 そしる。そしり。唐書に「帝勞曰、比多二譖毀一」

【譖說】 人をおとしいるる言論。魏書に「譖說既行、因相恐動」

【譙】 ㋑セウ、ゼウ。才肖切。嘯。㋺昨焦切。蕭。
㋑㊀せむ(讓)㊁しかる(呵)㋺㊀ものみ、たかどの(高樓)㊁やぶれたる貌。

【譙門】 遠きを望み敵を候ふ爲に門上にたてたるたかどの。陸游「天宇更無二雲一點一、譙門初報二鼓三通一」

【譙呵】 せむ。しかる。史記、衛綰傳に「文帝屬二孝景一曰、綰長者善過レ之、及二景帝立一、歲餘不レ譙二呵綰一」

【譙樓】 城上に建てたるたかどの。郎ち、敵を偵ひ拒ぐ用をなすもの。康熙字典に「譙樓、城樓也」

【譙黜】 しかりてしりぞく。唐書に「帝厭レ之欲レ加二譙黜一」

【譙譙】 やぶれ裂けたる貌。詩經に「予羽譙譙」

【譙讓】 せむ。史記、黥布傳に「子孫有二過失一、不二譙讓一」

【識】 ㋑ショク、シキ。賞職切。職。㋺シ。職吏切。寘。
㋑㊀つれ(常)㊁しる(知)㊂みわく、みとむ ㊃みわけ、さとり ㊄しりあひ(知人)㊅人の姓 ㋺㊀しるす(誌)㊁のす(記錄)㊂あらはす(表)㊃はたじるし(幟に同じ)㊄めじるし(目標)㊅しるし、おぼえ(記號)㊆おぼゆ(記憶)㊇刻したる文字 ㊈志に通ず。

【識別】 見分く。魏志に「誠非三愚臣所二能識別一」

【識果】 果報の道理をさとる。徐陵「識レ因識レ果、不三以爲レ怨」

【識拔】 みわけてぬきあぐ。唐書に「朝宗喜識二拔後進一」

【識面】 顏を見知る。五代史に「人罕レ識二其面一」

【識度】 見識と度量と。南史に「弘雅有二識度一、好レ學善屬レ文」

【識悟】 わきまへさとる。蜀志に「費禕識悟過レ人」

【識悉】 しりつくす。(知悉)。南史に「邑人皆共識悉」

【識量】 見識と思慮と。晉書、裴楷傳に「明悟有二識量一、弱冠知レ名」

【識達】 才識すぐれてあり。晉書に「識達之士、皆器二重之一」

【識遠】 見識ふかし。釋惠洪「懷高識遠不レ可レ風、功成回レ首破甑墮」

【識想】 おもひ。法苑珠林に「多學不レ行、徒喪二識想一」

【識認】 みとむ。吳志に「種レ稻二十餘畝、臨レ熟、縣民有レ識二認之一」

【識慧】 さとし。三十六天内音に「第三十椽梵自然識慧」

【識韓】 初めて人に面會するにいふ。李白「白聞二天下談士言一曰、生不レ用レ封二萬戶侯一、但願一識二韓荊州一」

【識藝】 識見と才藝と。南史に「覽曰、識藝過レ臣甚遠、惟飮酒不レ及二於臣一」

【識鑒】 よしあしを明かに見わく。陳書、徐敬成傳に「以二識鑒一知レ名」

【譚】 ㋑タン、ドン。徒感切。感。㋺徒含切。覃。
㋑おほいなり(大)㋺㊀はなす、はなし(談に同じ)㊁つく(著)㊂ほしいまま。

【諄】 コ、ク。公呼切。虞。
㊀もとる(戾)㊁つみ(罪)。

十三畫

【譜】 ホ、フ。博古切。麌。
㊀しるす(錄)㊁つづく、つづき(屬)㊂しく(布)㊃あまねし(普)㊄ふみ(世統を列序したる記錄)。

【譜曲】 音樂の譜と曲と。

【譜系】 けいづ。系圖。易林、序に「歷代名臣譜系」

【譜紀】 系圖事跡。史記に「譜紀不レ明、有司靡レ踵」

【譜牒】 事をならべてしるしたる文書。宋史に「編二次建炎以來譜牒一」

【譝】 ショウ、ジョウ。食陵切。蒸。
㊀ほまれ ㊁ほむ(譽)㊂あぐ(擧)㊃言語質朴なり。

【譞】 ケン。許緣切。先。
㊀さかし(慧)㊁ちゑ(智力)㊂しやべる(多言)。

【譟】 サウ、ソウ。先到切。號。
㊀みだる(擾)㊁さわぐ ㊂かまびすし(聒)㊃よろこぶ(喜)。

【譟讙】 かまびすし。馬融「羣鳴膠膠、鄗駿譟讙」

【⿰言萬】 ㋑バイ、メ。莫敗切。卦。㋺カイ、ケ。許介切。卦。
㋑ほこる(誕)㋺あらそひいかる貌。

【譠】 ㋑タン。他干切。寒。㋺タン、テン。知山切。刪。㋩セン、ゼン。時戰切。霰。
㋑㊀あなどる(侮)㊁かへりみず ㊂ゆるやか(緩)㋺㋩あざむく(欺)。

【譢】 スヰ。雖遂切。寘。
㊀いさむ(諫)㊁せむ(讓)㊂とふ(問)㊃つぐ(告)。

【譣】 ㋑セン、ソン。思廉切。鹽。㋺ケン。虛檢切。琰。㋩驗に同じ。
㋑㋺㊀とふ(問)㊁かたましきことば(姦言)㊂かたよる(詖)㊃わるがしこきひと(佞人)。

【譥】 ケウ。吉弔切。嘯。
㊀いつはる(詐)㊁おほいにさけぶ(大呼)㊂いたみて發するこゑ。

【警】 ㋑ケイ、キヤウ。居影切。梗。㋺通じて、驚に作る。
㋑㊀いましめ、いましむ(戒)㊁おこす(起)㊂つつしむ(敬)㊃そなへ(防禦)、まもり(守備)㊄しらせ(報)㊅すばやきこと ㊆さきばらひ ㊇曲の名。

【警句】 すぐれたる句。本事詩に「崔曙作二明堂火珠詩一、續帖云、夜來雙月滿、曙後一星孤、當時以爲二警句一」

【警戒】 注意していましめまもる。又、いましめまもらしむ。周禮に「正歲則以レ法警二戒軍吏一、令レ修二宮中之職事一」

【警告】 いましめつぐ。宋史に「近年寺觀屢災、此殆天示二警告一」

【警枕】 寢ないましむるまくら。吳越備史に「武肅王在レ軍、未二嘗睡一、末年用二圓木一作レ枕、熟睡則欹名二警枕一」

【警夜】 よまはり。舊唐書に「誰何警レ夜、伐レ鼓通レ神、以備二非常一」

【警起】 いましめおこす。周禮、注に「呼レ旦以警二起百官一、使二夙興一」

【警悟】 いましめさとる。又、さとし。唐書に「通二書記一警悟而辯」

【警策】 言少くしてその要にあたること。陸機「立二片言一而居レ要、乃一篇之警策」

【警報】 非常のしらせ。

【警鼓】 非常をしらす爲に設けたるつづみ。韓非子に「楚厲王有レ警、爲レ鼓以與ニ百姓一爲レ戒」
【警語】 人を警動することば。宋史、李燾傳に「十歳爲レ詩、往往有ニ警語一」
【警論】 奇抜なる議論。程史に「訾于ニ文席閒一、時發ニ警論一」
【警慧】 さとし。南史、王融傳に「融少而神明警慧」
【警衞】 非常をいましめまもる。又、その者。晉書に「勞召ニ羣臣一會議、將レ行而警衞不レ備」
【警勵】 いましめはげむ。唐書に「又賦レ詩以自警勵」
【警蹕】 さきばらひ。漢書に「從ニ千乘萬騎一、出稱レ警、入言レ蹕、擬ニ於天子一」
【警覺】 いましめさとる。眞德秀「一念警覺、船到ニ彼岸一」
【警誡】 非常なしらするかれ。
【警護】 非常をいましめまもる。又、その者。
【警懼】 いましめおそろ。易經、注に「錯然者、警懼之貌」
【警邏】 いましめめぐる。元史、鄭溫傳に「統ニ四千人一警ニ邏釣魚山一」

【譨】 ㋑ドウ、ヌ。奴侯切。尤。㋺噥に同じ。
㋑❶ことばおほし(多言)❷あらそひいふ。

【譩】 ㋑イ。於擬切。支。㋺イ、エ。於希切。微。㋩イ。隱巳切。紙。
㋑噫に同じ ㋺いたむこゑ(痛聲) ㋩❶うらむ(恨)❷こたふ(應)。

【譪】 アイ。於蓋切。泰。
❶ただし(正)❷おほし(衆)。

【譫】 ㋑セン、ツン。之廉切。鹽。㋺タフ、ドフ。達合切。合。㋩讇に同じ。
㋑㋺❶ことばおほし(多言)❷たはごと。うはごと。
【譫語】 たはごと。

【譬】 ヒ。匹至切。寘。
❶たとへ❷たとふ(喩)❸さとす(諭)❹さとる(曉)。
【譬喩】 たとへ。王逸「離騷之文、依レ詩取レ興、引レ類譬喩」
【譬論】 たとへさとす。荀子に「辯說譬諭、齊給ニ便利一、而不レ順ニ禮義一、謂ニ之姦說一」
【譬類】 たとへ。後漢書、西南夷傳に「言語多好ニ譬類一」

【譭】 キ。毀に同じ。

【譯】 エキ、ヤク。夷益切。陌。
❶つとふ(傳)❷のぶ(陳)❸わけをとく(理解)❹とく(釋)。
【譯官】 つうべんのつかさ。漢書に「典客名ニ大鴻臚一、屬官有ニ行人譯官一」
【譯書】 ほんやくしたる書物。
【譯語】 飜譯したることば。顧況「滄波伏ニ忠信一、譯語辨ニ謳謠一」

【議】 ギ。宜寄切。寘。
❶かたる(語)❷とく❸はかる(評定)❹あらそふ(論諍)❺えらぶ(選)❻そしる(誹)。
【議決】 はかりさだむ。漢書、酷吏傳に「按レ劍廷ニ叱羣臣一、卽日議決」
【議度】 相談す。書經、傳に「凡制レ事必以ニ古義一議ニ度終始一」
【議罪】 つみを論じしらぶ。晉書に「贓汙百萬、付レ法議レ罪、百僚憚レ之」
【議論】 意見をたたかはす。韓愈「議論平正、有ニ經據一」
【議謀】 はかりごと。蜀志に「周悲爲ニ吏部尙書一、與レ靖共議謀」
【議禮】 禮のことを議す。禮記に「毋ニ輕議レ禮」
【議題】 ❶詩文などの題を定むるを相談す。葉夢得「帝命ニ吾儕一作ニ來歲狀元賦一、當レ議レ題」❷評議すべき問題。

十四畫

【譴】 ケン。去戰切。霰。
❶せむ(責)、しかる(讁問)❷つみ(罪)。
【譴告】 災害などの來るべきを注意す。詩經、疏に「天之爲レ災、所ニ以譴告一」

【譴怒】 せめいかる。とがめ。詩經に「豈不レ懷レ歸、畏ニ此譴怒一」
【譴辱】 せめてはづかしむ。南史に「每先呵ニ責譴ニ辱之一」
【譴責】 とがむ。唐書、魏徵傳に「帝幸ニ洛陽一、次ニ昭仁宮一、多レ所ニ譴責一」
【譴訶】 せめしかる。(誅訶)。魏志に「論者好ニ譴訶一、而不レ尋ニ情理一也」
【譴罰】 あやまちをせめて罪に行ふ。北史に「王獨還、無レ所ニ譴罰一」
【譴黜】 つみをせめて官位の等級を下す。唐書に「小加ニ譴黜一、大正ニ刑典一」
【譴謫】 つみす。韓愈「前年遭ニ譴謫一、探歷得ニ邂逅一」

【譶】 ㋑タフ、トフ。徒合切。合。㋺チフ、ヂフ。直立切。緝。
㋑❶ことばはやし❷ことばおほし ㋺かまびすし。

【護】 コ、ク。胡故切。遇。
❶すくふ(救)❷まつたうす(全)❸たすく(助)❹まもる(守)。
【護呵】 さきばらひ。袁桷「五岳贊襄、百靈護呵」
【護法】 宗敎の法をまもる。皇甫曾「護法護身惟振錫、石楠雲溪深寂寂」
【護持】 まもりもつ。唐書に「應レ有ニ神物護持一」
【護軍】 軍隊の名。漢書に「護軍都尉秦官、元壽元年、更ニ名司寇一、元始元年、更ニ名護軍一」
【護送】 はかなまもる。宋史に「發レ卒護ニ其送一、蓋異數也」
【護短】 短所をたすく。嵆康「仲尼不レ假ニ蓋於子夏一、護ニ其短一也」
【護摩】 〔佛〕梵燒又は火祭の義。火を燒きて佛に祈り、一切惡事の根本を燒滅すること。
【護衞】 まもる。又、その者。演繁露に「四校之外、不ニ專以ニ護衞一爲レ義也」

【譸】 チウ、チユ。張流切。尤。
❶のろふ(詶)❷はかる(壽に同じ)❸あざむく(欺)❹輈に通ず。
【譸張】 たぶらかす。書經に「民無ニ或胥譸張一」

【⿰言遝】 タフ、トフ。他合切。合。
❶いつはる(詐)❷かたる(語)❸さぐる(探)。

【譹】 カウ、ゴウ。乎刀切。豪。
さけぶ(號)、なく(哭)。

【譺】 ㋑ガイ、ゲ。五介切。卦。㋺ギ。魚紀切。紙。㋩ギヨク、ゲキ。鄂力切。職。
㋑❶おろか(騃)❷あざむく(欺)❸たはむる(調)㋺❶いましむ(誡)❷はかる(議)❸あざむく(欺)㋩ものいみしうやまふ貌。

【⿰言寧】 ㋑ダウ、ニヤウ。尼耕切。庚。㋺佞に同じ。
㋑こごゑ(小聲)。

【譻】 アウ、ヤウ。烏莖切。庚。
❶こゑ(聲)❷なく(鳴)❸さへづる(嚶に同じ)。

【譽】 ㋑ヨ。羊茹切。御。㋺ヨ。羊諸切。魚。
❶ほまれ❷ほむ、たたふ(稱)❸たのしむ(樂)。
【譽望】 ほまれ。唐書、馬植傳に「譽望在ニ當時諸公右一」
【譽聞】 前に同じ。
【譽歎】 ほめたたふ。王安石「以ニ文學一爲ニ一時賢士大夫譽歎一」

十五畫

【⿰言熒】 エイ、ヤウ。于平切。庚。
こゑをいだす貌。

【譾】 セン。子踐切。銑。
あさし(淺)。
【譾劣】 才淺くしておとる。

【⿰言慮】 リヨ、ロ。良據切。御。
いつはる(詐)。

【⿰言截】 シン、ソン。識の俗字。

【譓】 ケイ、エ。譿に同じ。

【讀】 ㋑トク、ドク。徒谷切。屋。㋺トウ、ヅ。大透切。宥。
㋑よむ ㋺句中の小點、よみきり。
【讀心】 人の心をさとる。
【讀破】 多くの書物を讀みつくす。杜

甫「讀書破二萬卷一、下レ筆如レ有レ神」

【讀畫】 畫の品評をなす。潘師顧「讀レ畫論レ詩日往還」

【讀誦】 よむ。晉書に「唯晝夜讀誦、略不三與レ人交通二」

【讀禮】 親の喪に居ること。禮記に「未レ葬讀二葬禮一、既葬讀二祭禮一」

【讀二未レ見書一】 未だ見たることなき書物をよむ。後漢書、黄香傳に「肅宗詔レ香、詣二東觀一、讀二所レ未レ見書一」

【讀レ書亡レ羊】 心、外に馳せて道を失ひたるに喩ふ。莊子に「臧與レ穀二人相與牧レ羊、而俱亡二其羊一、問二臧奚事一、則挾レ筴讀レ書、問二穀奚事一、則博塞以遊、二人者事業不レ同、其於レ亡レ羊均也」

【讀書三到】 讀書するには、眼にて見、口にて讀み、心にて會得すべきをいふ。訓學齋規に「余謂讀書有二三到一、心到眼到口到、三到之中、心到最急」

【讀書種子】 學問好きの子孫あるをいふ。鶴林玉露に「周益公謂、士大夫家可レ使二讀書種子衰息一乎」

【讀書百遍義自見】 幾度も讀書すれば、通じ難き義理も自ら明かになるなり。欒城遺言に「古人云、讀書百遍、經義自見」

【讀十遍不レ如寫一遍二】 十たび讀むよりも一度うつす方益おほし。鶴林玉露に「庚張參手寫二九經一、每言、讀レ書不レ如レ寫レ書、高宗親灑二宸翰一、遍寫二九經一、又嘗御二書漢光武紀一、賜二執政徐俯一曰、卿勸二朕讀二光武紀一、朕思、讀二十遍一不レ如レ寫二一遍一」

【讁】 タク、チャク。陟革切。陌。㊀せむ(責)㊁とがむ(咎)㊂つみとが㊃つみす(罪)。

【護】 クン。火縣切。先。㊀もとむ㊁ねなしごと(流言)。

【讃】 サン。讚の俗字。

十六畫

【讇】 ㋑テン。丑琰切。琰。㋺エン。余廉切。鹽。㋩セン、ゼン。時占切。鹽。㋑へつらふ、へつらひ(諂)に同じ)㋺へつらふ㋩ねごと(寱言)。

【讅】 ㋑キ。以隹切。支。㋺タイ、テ。通回切。灰。㋑㊀いかる(怒)㊁とく(釋)㊂せむ(讓)㋺あざむく(欺)。

【變】 ㋑ヘン。祕戀切。霰。㋺平兗切。銑。㋑㊀かふ(更)㊁かはる(化)㊂うつす、うつる(轉)㊃あらたむ、あらたまる(改)㊄うごく、うごかす(動)㊅わざはひ(災)㊆はかりごと(權略)㊇みだれ(亂)㊈うつりかはり(轉化)㊉も(喪)(十一)ふしぎ(奇異)(十二)もののけ(妖怪)(十三)人の姓㋺ただし(正)。

【變化】 ㊀あらたまりかはる。易經に「執道變化」㊁〔佛〕法華經に「神通變化、不可思議」㊂我國にて、妖怪の義にも用ゐる。

【變幻】 忽ちあらはれ忽ちきゆ。

【變心】 こころかはる。史記に「乃且願二變レ心易レ慮」

【變生】 うまれかはる。

【變死】 災難にあひて死ぬ。又、自害して死ぬ。

【變名】 名をあらたむ。史記、貨殖傳に「范蠡既雪二會稽之恥一、乃乘二扁舟一浮二于江湖一、變レ名易レ姓適レ齊」

【變更】 かへあらたむ。

【變改】 かはりあらたまる、かへあらたむ。宋史、蘇軾傳に「今所レ欲二變改一、不レ過二數端一」

【變狀】 普通とかはりたるさま。

【變衰】 かはりおとろふ。九辯に「悲哉、秋之爲レ氣也、草木搖落而變衰」

【變通】 變化に妙にしてよく通達す。易經に「化而裁レ之存二乎變一、推而行レ之存二乎通一、變通者趨レ時者也」

【變異】 ふしぎなることがら。(怪異、異變)。書經、疏に「遭二遇變異一、則正二其事一、而異自消也」

【變亂】 國のみだれ。さわぎ。又、みだす。書經に「乃變二亂先王之正刑一」

【變態】 いろいろにかたちをかふ。金壺記に「隨レ手生レ姿、入レ神變レ態」

【變節】 みさをを變ず。淮南子に「不下爲二秦楚一變レ節、不上レ爲二胡越一改レ容」

【變遷】 うつりかはる。

【變轉】 前に同じ。易經、疏に「陰陽變轉、後生次二於前生一、是萬物恆生、謂二之易一也」

【變徵之聲】 悲壯の音をいふ。史記、刺客傳に「高漸離擊レ筑、荊軻和而歌、爲二變徵之聲一」

【讋】 ㋑セフ。之涉切。葉。㋺タフ、ドフ。達合切。合。㋑㊀おそる(懼)㊁いむ(忌)㊂きぬけす(失神)㋺ことばおほし(多言)。

【讋伏】 おそれしたがふ。漢書に「諸將讋伏」

【讌】 エン。於甸切。霰。㊀かたりあふ(相語)㊁さかもり(醼に同じ)。

【讌坐】 くつろぎてすわる。戰國策に「孟嘗君讌坐」

【讌會】 さかもりのよりあひ。後漢書に「每二讌會一、而論難衎衎」

【讌戲】 さかもりしてたはむる。晉書、劉聰載記に「與二宮人一讌戲、或三日不レ醒」

【讎】 シウ、ジュ。市流切。尤。㊀こたふ(對)㊁もちゐる(用)㊂たぐひ(匹)㊃ひとし(等)㊄あたる(當)㊅うる(售)㊆つぐのふ(償)㊇あたかたき(仇)㊈しるし(驗)㊉むくゆ(報)(十一)くらぶ、ただす(校)(十二)しげし(稠)。

【讎仇】 あたかたき。(仇讎)。

【讎正】 よしあしを見くらべてただす。唐書、韋處厚傳に「處厚性嗜レ學、家書讎正至二萬卷一」

【讎柞】 應接す。戰國策に「屬レ之讎柞」注「與二酬酢一同」

【讎殺】 あたとしてころす。唐書に「傳相讎殺、遂無二已時一」

【讎校】 ただしくらぶ。後漢書、鄧皇后紀に「詣二東觀一、讎二校傳記一」

【讎敵】 あたかたき。(仇敵)。

【讎覆】 てらしあはせてしらぶ。唐書に「讎二覆圖書一、多レ所二刊定一」

【讐】 シウ、ジュ。讎に同じ。

十七畫

【讒】 ㋑サン、ゼン。士咸切。咸。㋺ザン。慣用音。㊀そしる(譖)㊁へふつら(佞)㊂しこづ(誣)㊃つげくち、ねぢけごと。

【讒口】 ざんげん。國語に「且夫口三五之門也、是以讒口之亂、不レ過二三五一」

【讒舌】 さかしらごとないふ口。王禹偁「讒舌籏二南箕一」

【讒邪】 よこしまにして人をそしる。漢書、劉向傳に「養二不斷之慮一者、來二讒邪之口一」

【讒陷】 ざんげんして罪におとす。後漢書に「讒二陷大尉楊震一」

【讒閒】 君臣交友の閒などをさく。晉書、劉元海載記に「讒閒因レ之而進、深非二吾願一」

【讒訴】 さかしらごとないふ。劉向「勉强以從二王事一、則反見二憎讒訴一」

【讒毀】 そしりきずつく。漢書に「以二讒毀故一譽不レ行」

【讒路】 讒人の進むべきみち。唐書に「斥二姦人一、塞二讒路一」

【讒娍】 あしざまにつげぐちす。宋史に「邪彥等、讒娍無レ所レ不レ至」

【讒誣】 そしりしふ。歐陽修「讒誣不レ須レ辨、亦止百年閒」

【讒說】 へつらひのことば。魏書に「天疾二讒說一、汝其至矣」

【讒構】 人をざんげんしておとしいる。李康「讒構不レ能レ離二其交一」

【讒諂】 へつらひそしる。禮記に「讒諂之民、有二比黨而危レ之者一」

【讒慝】 ㊀心ねぢけてよこしまなり。左傳に「所謂馨香無二讒慝一也」㊁ざんげん。李白「聖賢遇二讒慝一、不レ免二人君疑一」

【讒謗】 しへたげそしる。權德輿「覺以二讒謗一獲レ罪」

【讓】 ジャウ、ナウ。人樣切。漾。㊀せむ(責)㊁なじる(詰)㊂へりくだる(謙)㊃ことわる㊄ゆづる㊅あたふ(推與)㊆手を平衡に擧げて行ふ禮。

【讓位】ジャウヰ くらゐをゆづる。淮南子に「公子札不下以レ有レ國爲上レ尊、故讓レ位」

【讓步】ジャウホ 自己の說をまげて、相手方の說に從ふ。

【讓長】ジャウチャウ 長者にゆづる。史記に「民俗皆讓レ長」

【讓揖】ジャウイフ ゐしゃくしゆづる。

【讓路】ジャウロ 行くみちを人にゆづる。魏志に「其俗行者相逢、皆住讓レ路」

【讓與】ジャウヨ ゆづりあたふ。說苑に「夫賞賜讓與者、人之所レ好也」

【讓誚】ジャウセウ せめしかる。(責誚)。南史に「范泰警衆中讓二誚鮮之一」

【讓賢】ジャウケン まさりたるものにゆづる。荀子に「人臣輕二職業一讓レ賢而安隨二其後一」

【讓禪】ジャウゼン くらゐをゆづる。

【讔】 イン、オン。倚謹切。吻。なぞ、かくしことば(庾語)。

【讕】 ラン。洛干切。寒。㊀しふ、あざむく(誣罔)㊁くちばしる。

【讖】 シン、ソン。楚蔭切。沁。㊀將來の効驗を說くこと、豫言㊁みらいき(未來記)。

【讖步】シンホ 未來を知る術。舊唐書に「北曰二通玄一受二讖步祕旨一」

【讖記】シンキ 未來のことを書きしるしたるもの。後漢書に「讖記曰、劉秀發レ兵捕二不道一卯金修レ德爲二天子一」

十八畫

【讘】 ㋳セフ。之涉切。葉。㋺ゼフ、ネフ。日涉切。葉。ことばおほし(多言)㋺ささやく(小言)。

【讙】 ㋳クワン。呼官切。寒。㋺ケン、グワン。況袁切。元。㋩懽に同じ。㊀かまびすし(諠)㊁よろこぶ(喜)㊂なく(鳴)㋺㊀せむ(讓)㊁おどろきさけぶ㊂かまびすしき貌。

【讙咋】クワンサク 大聲を發す。又、かまびすし。劉峻「譊譊讙咋、異端斯起」

【讙噭】クワンガウ かまびすし。說苑に「雞豚讙噭、則奪二鐘鼓之音一」

【讙謠】クワンエウ よろこびうたふ。柳宗元「野夫讙謠、欽聖信神」

【讙譁】クワンクワ かまびすし。白居易「芳草供二枕藉一亂鶯助二讙譁一」

【讙囂】クワンケウ 前に同じ。禮記、注に「聞二讙囂一則人意動」

【讙】 ㋳タイ、デ。徒回切。灰。㋺クワイ、ケ。呼回切。灰。さわぐ(誺)。

十九畫

【讚】 サン。則旰切。諫。㊀あきらか(明)㊁ほむ(稱美)㊂ほめことば㊃たすく(佐)㊄とく(解)。

【讚美】サンビ ほめはやす。

【讚歎】サンタン ほめうたふ。隋煬帝「讚歎惟唱二希有一」

二十畫

【讜】 ㋳タウ。多朗切。養。㋺他浪切。漾。㊀ただしきことば㊁よきことば。

【讜言】タウゲン ただしきことば。又、よきことば。漢書に「吾久不レ見二班生一今日復聞二讜言一」

【讜直】タウチョク 正直なり。李吉甫「連償咸已、讜直必容」

【讜辭】タウジ ただしきことば。典引に「旣感二羣后之讜辭一」

【讜議】タウギ ただしき議論。唐書に「時時讜議、能寤二移人主一」

【讝】 ㋳セン、ゾン。之廉切。鹽。㋺ダン、ネン。女監切。咸。疾みて發するねごと㋺そらごと。

【讞】 ㋳ゲツ、ゲチ。魚列切。屑。㋺ゲン。語蹇切。銑。㊀まうす(言白)㊁罪を議す、獄を許す、はかる㊂うたがふ(疑)㊃とふ(問)。

二十二畫

【讟】 トク、ドク。徒谷切。屋。㊀にくむ(惡)㊁うらむ(怨)㊂そしる(謗)。

谷　部

部首

【谷】 ㋳コク。古祿切。屋。㋺ヨク。余蜀切。沃。㋩ロク。盧谷切。屋。㋳㋺㊀たに㊁たにがは㊂こち(東風)㊃やしなふ(養)㊄きはまる(窮)㊅たけどひ(竹樋)㊆人の姓㋩匈奴の王の名。

【谷王】コクワウ 海の異名。老子に「江海所三以能爲二百谷之王一」

【谷泉】コクセン たによりいづるいづみ。隋煬帝「谷泉驚二暗石一風松動二夜聲一」

【谷風】コクフウ ひがしかぜ。詩經に「習習谷風、以陰以雨」

【谷神】コクシン 道を形容する語。老子に「谷神不レ死、是謂二元牝一」

【谷飮】コクイン たにの水をのむ。隱者の形容。淮南子に「單豹倍レ世離レ俗、巖居谷飮、不レ衣レ麻、不レ食二五穀一」

【谷闇】コクカク たににかけたるかけはし。蜀志に「往二闇中一斷二絕谷闇一」

【谷】 キャク、ガク。其虐切。藥。㊀わらふ貌㊁口のうへの阿。

三畫

【谸】 ㋳セン。蒼先切。先。㋺倉甸切。霰。㊀みち(道)㊁山谷の青き貌。

【𧮪】 ㋳カウ、コウ。古雙切。江。㋺コウ、グ。胡公切。東。谷の名㋺おほたに(大壑)。

四畫

【𧮮】 カウ、ギャウ。戸萌切。庚。㊀うつろだに(空谷)㊁谷にひびくこゑ。

【谹】 カウ、ギャウ。戸萌切。庚。㊀ふかし(深)㊁おほごゑ(大聲)㊂うつろ㊃谷にひびくこゑ。

【谺】 カ、ケ。許加切。麻。谷のうつろなる貌、又、谷の深き貌、又、谷の大いにひらけたる貌。

【谻】 ㋳キャク、ガク。其虐切。藥。㋺ケキ、キャク。奇逆切。陌。㋳ちんば(蹄)㋺㊀うむ(倦)㊁まがる、ちんば。

五畫

【𧮳】 カン、コン。呼甘切。覃。陵谷の形。

【𧮳閜】カンカ 陵谷の形。杜甫「佗二神光一而𧮳閜」

六畫

【𧮰】 ㋳シュン。私閏切。震。㋺叡の古文字。㋳㊀さらふ(浚)㊁ほる(掘)。

【谼】 コウ、グ。戸公切。東。おほだに(大壑)。

七畫

【𧯁】 ㋳ラウ、ロウ。郎刀切。豪。㋺レウ。落蕭切。蕭。㊀ふかき谷の貌㊁谷のうつろなる貌。

【谽】 ㋳カン、コン。火含切。覃。㋺カン、ケン。虛咸切。咸。谷のうつろなる貌、又、谷のふかき貌、又、谷のおほいにひらけたる貌。

【谽呀】カンカ 谷の空しき貌。又、谷の大いに開けたる貌。谷のふかき貌。上林賦に「谽呀豁閜、阜陵別隖」

八畫

【谾】 ㋳コウ、ク。呼東切。東。㋺ロウ、ル。盧東切。東。㋩カウ、コウ。許江切。江。㋳谷のうつろなる貌㋺山谷の深き貌、深くとほれる貌、ながくおほいなる貌㋩山谷の空なる貌。

【谾谾】ロウロウ 山谷のふかき貌。史記に「深山之谾谾」

十畫

【谿】ケイ、カイ。苦兮切。齊。たに、たにがは。

【谿谷】たに。史記に「廣川大水、山林谿谷、不食之地也」

【谿聲】たにがはの水のおと。

【谿壑】たに。張協「谿壑無人跡、荒楚鬱蕭森」

【谿壑慾】飽き足ることを知らざる慾。國語に「谿壑可盈、是不可饜」

【豁】クワツ、クワチ。呼括切。曷。❶ほがらか(敞)❷むなし、うつろ(空)❸ひらく(開)❹とほる(疏通)❺度量の大いなる貌。

【豁如】ひろびろしたる貌。史記、高帝紀に「高祖爲人、仁而愛人、喜施、意豁如也」

【豁悟】さとり。沈約「迷塗既已復、豁悟非無漸」

【豁然】ひろびろしたる貌。陶潛「行數十步、豁然開朗」

【豁寥】ひろし。雲笈七籤に「百方千塗、莫不豁寥」

【豁心胸】心のうちひろびろやかなり。杜甫「天邊同客舍、攜我豁心胸」

【豁達大度】心ひろく度量大いなり。書言故事に「漢高豁達大度、天下之士、至者納用」

十一畫

【豂】レウ。洛蕭切。蕭。❶むなし(空)❷うつろなる谷❸ふかし。

十二畫

【豃】カウ、コウ。呼毛切。豪。深き谷の貌、谷の空なる貌。

【䜬】カン、ケン。荒檻切。豏。ふかき谷の貌、ふかし(深)、ひらく(開)。

【豅】カン、ケン。豃に同じ。

豆部

部首

【豆】㋑トウ、ヅ。徒候切。宥。㋺トウ、ツ。登口切。有。㋩シウ、シュ。思留切。尤。㋑❶まめ❷わんかご❸たかつき(禮器)❹量目の名㋺斗に同じ㋩さかな(羞に同じ)。

【豆肉】豆の器に盛れる肉。禮記に「觴酒豆肉、讓而後食、人猶貌貴」

【豆豉】みそ。(麴豉)。齊民要術に「香美乃勝豆豉」

【豆粥】まめがゆ。後漢書、馮異傳に「天寒烈、衆皆飢疲、異上豆粥」

【豆萁】まめがら。王禹偁「豆萁禾穗滿青山」

【豆腐】大豆にて製したる一種の食品。(白壁)。本草集解に「豆腐之法、始於漢淮南王劉安」

【豆鋪】楽盛ないろ器。博古圖に「簠簋豆鋪、同爲一類」

【豆糜】まめがゆ。唐書、韋貫之傳に「居貧啖豆糜、以自給」

三畫

【豇】カウ、コウ。古雙切。江。ささげ(大角豆)。

【豈】㋑キ、ケ。袪豨切。尾。㋺愷に同じ。㋑❶あに、いづくんぞ、なんぞ、かつて❷かちどき(振旅の樂)❸おもふ(欲)❹のぼる(登)。

四畫

【豉】シュ、ス。鄒注切。遇。❶なす(爲)❷いさむ(勇)。

【豉】シ、ジ。是義切。寘。みそ。

五畫

【豍】トウ、ツ。當侯切。尤。❶小しくうがつ❷すこしくさく(割)。

六畫

【豌】㋑ワン。一丸切。寒。㋺ウツ、チ。紆物切。物。㋩豌に同じ。㋑㋺あめのまめ(豆飴)。

【䜶】カウ、ゴウ。下江切。江。ささげ(䜶豆)。

【豢】㋑ケン、カン。古倦切。霰。㋺ケン、コン。胥遠切。阮。しろまめ(黃豆)。

【豊】レイ、ライ。禮の古文字。

【豋】トウ。都騰切。蒸。登の字と異なり。たかつき(瓦豆)。說文に「肉を持して豆上に在り、會意」

七畫

【豉】㋑シン。七林切。侵。㋺七鴆切。沁。㋑❶野生のまめ❷豆なれかす㋺みそ。

八畫

【豌】ワン。烏丸切。寒。ゑんどう。

【䜻】サク、シャク。測革切。陌。ひきたるまめ(磨豆)。

【豎】シュ、ジュ。上主切。麌。❶たつ(立)❷たて(縱)❸なほし(直)❹ただし(貞)❺わらはのしもべ(童僕)❻いやし(鄙)❼たけひくし❽内廷の小臣、左右の小吏。集韻に「俗に、豎に作るは非なり」

【豎子】人をいやしめて呼ぶ詞。史記に「遂爲豎子之名」

【豎毛】おぞけを立つ。唐書に「持腐株、支大廈之顚、天下爲寒心豎毛」

【豎宦】内廷の小臣。後漢書に「諸梁乘權、豎宦充朝」

【豎褐】わらべのきもの。しもべのきもの。荀子に「衣則豎褐不完」

【豎儒】くされ儒者。史記に「豎儒幾敗迺公事」

九畫

【豋】㋑ボク、モク。莫卜切。屋。㋺ボウ、ム。迷浮切。尤。㋩トク、ドク。徒谷切。屋。㋑㋺まめがら(豆稭)㋩豆の名。

【䜼】イン、オン。於金切。侵。豆なれかす。

十畫

【豏】㋑カン、ゴン。下斬切。豏。㋺平豏切。陷。豆半ば生ふ㋺餅中のまめ。

【䝃】㋑リウ、ル。力求切。尤。㋺レウ。憐蕭切。蕭。ゑんどう㋺まめ(豆)。

十一畫

【䝁】ラウ、ロウ。魯刀切。豪。❶やぶまめ(治豆)❷いぬぶんどう(鹿藿)❸のまめ(鹿豆)。

【豐】ホウ、フ。敷戎切。東。❶ゆたか❷おほいなり(大)❸おほし(多)❹しげる(茂)❺こゆ(肥)❻さかんなり(盛)❼あつし(厚)❽たかつきの大いなるもの❾しきもの(席)❿易の卦の名。

【豐本】(植)にらの異名。

【豐功】大いなるいさを。漢書に「帝王之祚、必有豐功厚利積累之業」

【豐肌】こえふとりたるはだへ。司馬相如「皓體呈露、弱骨豐肌」

【豐年】ゆたかなるとし。詩經に「豐年多黍多稌」

【豐肉】こえふとりたるにく。楚辭に「豐肉微骨、調以娛只」

【豐注】さかんにながる。陸機「豐注溢修溜、潢潦浸階除」

【豐昌】ゆたかにさかんなり。漢書に「五星不失行、則年穀豐昌」

【豐衍】ゆたかなり。(饒衍)。易經、注に「不勝豐衍、故曰、困于酒食」

【豐茂】ゆたかにしげる。漢書に「百穀豐茂、庶草繁殖、元元驩喜」

【豐約】ゆたかなるとつづまやかなると。申鑒に「豐約勞佚」
【豐狐】大いなるきつね。莊子に「豐狐文貍、棲ニ于山林一、伏ニ于巖穴一、靜也」
【豐庬】ゆたかにしてあつし。方岳「文有ニ氣骨一豐而庬」
【豐美】ゆたかにしてうつくし。後漢書に「水草豐美、土宜ニ產牧一」
【豐恩】大いなるめぐみ。上官儀「奬飾曲流、豐恩傍洽」
【豐盈】ゆたかにみつ。揚雄「豐盈禍所レ棲兮、名譽怨所レ集」
【豐草】しげりたるくさ。詩經に「湛湛露斯、在ニ彼豐草一」
【豐殺】十分なると省略せると。晉書に「禮典軌度、豐殺隨レ時」
【豐席】あつきしとね。書經に「東序西嚮、敷重豐席」
【豐泰】ゆたかなり。南史、謝弘微傳に「家素貧儉、而所レ繼豐泰」
【豐堂】大いなるいへ。洛陽伽藍記に「豐堂掘起、高門洞開」
【豐給】ゆたかにして不足なし。魏志に「民稍豐給、無レ不ニ擧贍一」
【豐登】ゆたかにみのる。舊唐書に「南畝虧ニ播植之功一、西成失ニ豐登之望一」
【豐殖】ゆたかにふゆ。後漢書に「穀之所ニ以豐殖一者、以レ有ニ民功一也」
【豐隆】いかづち。又、雨師。淮南子に「季春三月、豐隆乃出」
【豐祿】あつきふち。陸雲「豐祿崇禮、巳隆ニ其人一」
【豐歲】ゆたかなるとし。白居易「豐歲閑ニ田園一」
【豐羨】ゆたかにしてあまりあり。歐陽修「官榮日淸近、廩給亦豐羨」
【豐福】ゆたかなるさいはひ。國語に「受ニ天之豐福一、饗ニ民之勤力一」
【豐寧】ゆたかにしてやすし。道德指歸論に「禍亂旣爽、萬物豐寧」
【豐歉】豐年と凶年と。宋史に「坐視ニ六路豐歉一」
【豐膚】こえふとりたるはだへ。王粲「豐膚曼肌、弱骨纖形」
【豐餘】ゆたかにあまる。唐書に「同列以ニ堂饌豐餘一、欲ニ少損一」
【豐潤】ゆたかにうるほふ。李白「城池爽塏、邑屋豐潤」
【豐熟】ゆたかにみのる。韋應物「唯當ニ歲豐熟一、閭里一歡顏」
【豐樂】ゆたかにたのしむ。蜀志、先主傳に「蜀中殷盛豐樂、先主置レ酒、大饗ニ士卒一」
【豐頰】ふとりたるほほ。韓愈「曲眉豐頰、淸聲而便體、秀外而惠中」
【豐熾】ゆたかにさかんなり。唐書に「時海內豐熾、州縣粟帛擧ニ巨萬一」
【豐澤】大いなるめぐみ。王粲「昊天降ニ豐澤一」
【豐豐】おほき貌。九辯に「歷ニ羣靈之豐豐一」
【豐爵】よきくらゐ。後漢書に「各受ニ豐爵不次之擢一」
【豐麗】ゆたかにしてうるはし。陸雲「節儉之制、不レ宜レ使レ至ニ豐麗一」
【豐藝】すぐれたるわざ。潘岳「多才豐藝、彊記洽聞」
【豐壤】こえたる土地。晉書に「猶下樹藝之有ニ豐壤一、良歲之有中膏澤上」
【豐贍】ゆたかにたる。晉書、宣帝紀に「務レ農積レ穀、國用豐贍」
【豐饒】ゆたかなり。蔡邕「儲廩豐饒、室罄不レ懸」
【豐穰】ゆたかにみのる。後漢書に「比年雖レ獲ニ豐穰一、尙乏ニ儲積一」
【豐下姿】あごの肥えふとりたるすがた。富貴の相といふ。梁簡文帝「已慙ニ好儒之志一、且乏ニ豐下之姿一」

十二畫

【䝓】テン、デン。亭年切。先。つづみのこゑ(鼓聲)。

十五畫

【⿰豆幾】㋑キ、ゲ。渠稀切。微。㋺ガイ。魚開切。灰。㋑ちかし(近)、ほとんど(幾)㋺一する

(厚)㊁ねがふ(欲)㊂しばらく(且)㊃あやふし(危)。

十八畫

【⿰豆雙】サウ、ソウ。所江切。江。そらまめ。

二十畫

【豓】エン。豔に同じ。

二十一畫

【豔】エン。以贍切。豔。㊀かほよし、あてやか、みやびやか、うつくし、うるはし、つややか㊁ほしいままなり(縱)㊂いろどる(彩)㊃いろ、つや(光彩)㊄むさぼる、うらやむ(歆羨)㊅楚の地の歌。
○熟語は色部豔の字の下に收む。

豕部

部首

【豕】シ。施是切。紙。ゐ、ゐのこ、ぶた。説文に「毛足にして、うしろに尾あるに象る」
【豕牢】ぶたごや。國語に「大任少ニ溲于豕牢一」
【豕突】ゐの如くに衝きかかる。後漢書、劉陶傳に「陶上疏曰、今果巳攻ニ河東一、遂轉更豕ニ突上京一」
【豕喙】ゐの如きくち。轉じて、人の貪慾なるにいふ。國語に「虎目而豕喙」
【豕視】ふりかへりて視る。又、下を邪にぬすみみる。戰國策に「太子相不仁、過頤豕視」
【豕負レ塗】疑念を以て觀察するにいふ。易經に「見ニ豕負レ塗、載ニ鬼一車一」

一畫

【豖】㋑チク、トク。丑六切。屋。㋺チョク、トク。丑玉切。沃。豕足を絆されて行く。

三畫

【豗】クワイ、エ。呼恢切。灰。㊀うちあふ(相擊)㊁豬地を掘る㊂かまびすし(喧)。

四畫

【豚】㋑トン、ドン。徒渾切。元。㋺杜本切。阮。㋩トン。都昆切。元。㋑㊀こゐのこ㊁ぶた(豕)㋺あしひく、ひきずる㋩どへう、つみづち(土豚)。
【豚犬】㊀ゐのこといぬと。國語に「士有ニ豚犬之奠一」㊁己の子を謙していふ語。吳志に「生レ子當レ如ニ孫仲謀一、劉景升兒若ニ豚犬一耳」
【豚兒】おろかなるこども。人に對して我兒の謙稱。
【豚肩不レ掩レ豆】晏子の故事より、極めて節儉なるをいふ。豆は祭器、周人肩肉を貴ぶ、その肉微少、故に豆を掩はざるなり。禮記に「晏平仲祀ニ其先人一、豚肩不レ掩レ豆、瀚衣濯冠以朝、君子以爲レ隘矣」

五畫

【豝】ハ、ヘ。伯加切。麻。㊀おほいなるゐのこ(大豬)㊁めゐのこ(牝豕)㊂二歲の豕㊃ほじし(腊の屬)。
【豞】㋑コウ、ク。許候切。宥。㋺カク、コク。黑角切。覺。㋩胸に同じ。㋑豕なく㋺豕怒る。
【豟】アク、ヤク。於革切。陌。㊀おほいなるゐのこ(大豕)㊁力つよきゐのこ。
【豛】㋑トク。都毒切。沃。㋺椓に同じ。㋑うつ、たたく(擊)。
【象】シャウ、ザウ。徐兩切。養。㊀きさ(熱帶地方に產する巨獸)㊁ざうげ、ざうこつ㊂かたどる㊃のっとる㊄のり、おきて㊅かた㊆うらかた(占兆)㊇あや(文章)㊈かたち(品形)㊉おも

むき（狀勢）⑪すがた（容姿）⑫おもふ（想）⑬酒器の一種⑭つうべん（通譯）⑮まつりに行ふ一種の遊戲⑯一種の舞⑰佛敎の別名。

【象人】でく。（偶人）。韓非子に「磐石不レ生レ粟、象人不レ可レ距レ敵也」

【象牙】ざうのきば。後漢書に「獻二象牙水牛封牛一」

【象比】かたどりくらぶ。鬼谷子に「其有二象比一以觀二其次一」

【象形】かたちをかたどる。史記に「如二景之象一レ形、響之應一レ聲」

【象胥】譯官の稱。周禮に「象胥掌二蠻夷閩貉戎狄之國使一、掌レ傳二王之言一而諭說レ焉」

【象笏】象牙にて作りたるしゃく。禮記に「史進二象笏一、書二思對命一」

【象眼】銅又は鐵などの面に、模樣を刻み込みて、中に金銀などをはめたるもの。

【象敎】佛敎の異稱。如來旣に化して後諸の大弟子追慕して已まず、遂に木を刻み佛となして之を瞻敬す、形象を以て人を敎ふるなり云云。書言故事に見ゆ。杜甫「方知象敎力、足レ可レ追二冥搜一」

【象棊】將棊に同じ。說苑に「雍門周謂二孟嘗君一、足下燕則鬬二象棊一」

【象簡】象牙の手版。劇談錄に「凡有二象簡竹笏一、以レ手捻レ之」

【象櫛】象牙のくし。禮記に「髮晞用二象櫛一」

【象籌】象牙のかずとり。魏文帝「象籌列植、一據雙䲤」

【象限儀】角度をはかる器械。

【象形文字】物の形にかたどりて作りたる文字。

【豚】㋑トク。部木切。屋。㋺タク、トク。竹角切。覺。㋑㊀しり（臀）㊁しりのあな。㋺㊀こゆ（肥）㊁しりのあな。

六畫

【豛】ガイ。牛蓋切。泰。㊀なのゐ（豭）㊁老いたるゐのこ㊂三毛の豕。

【豢】クワン、ゲン。胡慣切。諫。㊀やしなふ（養）㊁いざなふ（誘）㊂かふ（飼）㊃穀食の畜。

【豢養】やしなふ。

【豣】㋑ケン。古賢切。先。㋺ケン、ゲン。五甸切。霰。㋑㊀おほゐのこ（大豕）㊁三歲のゐのこ㋺くじか。

【豤】㋑コン。苦昆切。元。㋺康很切。阮。㋑㊀かむ（齧）㊁へらす（減）㋺㊀かむ（齧）㊁齒深くくひいる㊂ねんごろ、まこと（懇に通ず）㊃豕の食ふ貌㊄豕の地をかむにいふ。

【豥】カイ、ガイ。戶來切。灰。豕の名。

【豦】㋑キョ、ゴ。強魚切。魚。㋺キョ、ゴ。居御切。御。㋩臼許切。語。㋑㊀たたかひて互にとけず㊁おほゐのこ㊂虎の兩足を擧ぐるにいふ㋺けものの名㋩おほゐのこ。

【〓】グワイ、ケ。呼恢切。灰。うつ（豗に同じ）。

七畫

【豧】㋑ホ、ブ。蒲故切。遇。㋺フ、ホ。芳無切。虞。㋩ホウ、フ。匹候切。宥。㋑㊀ゐのこ（豕）㊁ゐのこのいき（豕の息）。㋺㋩ゐのこのこゑ。

【豙】ギ、ゲ。魚旣切。未。㊀そこなふ㊁豕怒りて毛竪つ。

【〓】㋑トウ、ツ。都豆切。宥。㋺タク、トク。竹角切。覺。星の名。

【豨】㋑キ、ケ。許豈切。尾。㋺香依切。微。㋑㊀ゐのこ（豕）㊁おほゐのこ（大豕）㊂豕走る㊃豕の走る聲㋺ゐのこ（豕）。

【豨勇】ゐの如くにいさむ。漢書、食貨志に「王莽大募二天下囚徒人奴一、名曰二豬突豨勇一」

【豨突】猪の如くたけり進む。

【豩】㋑ヒン。悲巾切。眞。㋺クワン、ケン。呼關切。刪。㋑㊀ゐのこの羣なみだるるにいふ㊁ふたつのゐのこ㋺㊀訓義㋑に同じ㊁かたくな（頑）。

【豪】㋑カウ、ゴウ。胡刀切。豪。㋺ガウ。慣用音。㊀やまあらし㊁たけし（健）㊂すぐろ、ひいづ（英）㊃つよし（强）㊄たけき者、すぐれし者、つよき者㊅おとこだて、又、その者㊆かしら、をさ（帥長）㊇おごること、又、その者㊈さかんなること、又、その者㊉資產多きこと、又、その者⑪毫に通ず⑫䝉に同じ。

【豪力】人にすぐれたる勢。又、その者。唐書に「細弱下戶、爲二豪力所一レ兼」

【豪士】つよき武士。陸游「未レ應二湖海無二豪士一、長恨乾坤有二腐儒一」

【豪友】すぐれたるとも。漢書、范冉傳に「以二賤貿一自絕二豪友一耳」

【豪句】氣象の大いなる詩句。蘇軾「願君發二豪句一、嘲笑破二天慳一」

【豪吏】勢力つよき役人。史記に「少年豪吏如二蕭曹一」

【豪侈】おごり。おごる。洛陽伽藍記に「高陽王雍、貴極二人臣一、富兼二山海一、自二漢晉一以來、諸王豪侈、未二之有一也」

【豪壯】すぐれてさかんなり。勢つよし（雄壯）。陸游「前年膾レ鯨東海上、白浪如レ山寄二豪壯一」

【豪宕】すぐれて大いなり。金史、姬汝作傳に「性豪宕不レ拘二細行一」

【豪制】勢を以ておさへつく。唐書に「豪二制鄉曲一、聚二無賴一」

【豪姓】名高きいへがら。（著姓）。竇氏墓銘に「觀津世族、平陵豪姓」

【豪勁】たけくつよし。山谷題跋に「豪勁淸潤、眞天下之奇書也」

【豪家】富みて勢力あるいへ。史記に「子楚夫人、趙豪家女也」

【豪健】つよくしてたけし。（勁健）。黃庭堅「歸來豪健踞二胡床一」

【豪騰】すぐれぬきんづ。又、その人。何景明「自レ昔墓二豪騰一、重レ義還輕レ身」

【豪華】おごりてはでやかなり。許渾「英雄一去豪華盡、惟有二青山似二洛中一」

【豪遊】さかんにあそぶ。

【豪傑】すぐれぬきんでたる人物。孟子に「若夫豪傑之士、雖レ無二文王一猶興」

【豪飮】大いに酒をのむ。金史、隱逸傳に「劇談豪飮、傍若レ無レ人」

【豪彊】すぐれてつよし。漢書、翟方進傳に「爲二京兆尹一、搏二擊豪彊一、京師畏レ之」

【豪豬】（動）やまあらし。

【豪邁】すぐれてえらし。宋史、李侗傳に「姿稟勁特、氣節豪邁」

【豪擧】さかんなるしわざ。史記に「平原君之遊、徒豪擧耳」

八畫

【豜】ケン、ゲン。豣に同じ。

【〓】㋑グツ、ゴチ。衢物切。物。㋺ケツ、ケチ。紀劣切。屑。㋩ケツ、クワチ。居月切。月。㋥テイ、テ。株衞切。霽。㋭クン、コン。居運切。問。㋑㋺㋩㋥ほる、うがつ㋭ゐのこ食物を求む。

【〓】ソウ、ス。子宋切。宋。㊀をゐのこ（牡豕）㊁こゐのこ（子豕）。

九畫

【豫】㋑ヨ。羊洳切。御。㋺シャ、セ。詞夜切。禡。㋩舒に同じ。㋑㊀たのしむ（樂）㊁やすんず（安）㊂あそぶ（遊）㊃よろこぶ（喜）㊄おこたる（怠）㊅あらかじめ㊆いとふ（厭）㊇くみす、あづかる（與に通ず）㊈象の類㊉易の卦の名⑪人の姓⑫州の名㋺まなびどころ（州學）。

【豫言】未來の事をかたる。後漢書に「夫未レ至豫言、固常爲レ虛」

【豫見】事の未だあらはれざるさき

に、事を明かに知る。(先見)。後漢書に「功有レ雖レ圖、不レ可二豫見一」

【豫防】事の未だ起らぬ前にふせぐ。

【豫知】あらかじめ手當をなす。事の未だ起らぬ前よりしる。

【豫定】あらかじめさだむ。後漢書に「廊廟之計、旣不二豫定一」

【豫約】前以て約束す。

【豫愈】おこたる。書經に「王懋二乃德一、視二乃烈祖一、無二時豫愈一」

【豫習】まへかたよりならふ。

【豫設】事に先だちてまうけをなす。漢書に「大將不二豫設一、則亡二以應レ卒」

【豫報】前以てしらす。

【豫期】前よりかくもあらんとあてにす。かれてより覺悟す。

【豫備】事の未だ起らぬ前に用意す。漢書に「宜レ遣二使者一行二邊兵一、豫爲レ備」

【豫想】後の事を心中にて、かくもあらんかとあらかじめ推しはかる。

【豫算】あらかじめ見つもりを立つ。みつもり。

【豫禦】かれて防ぎとどむ。公羊傳に「其未レ至、而豫禦レ之也」

【豬】チョ。陟魚切。魚。(一)ゐ、ゐのこ、ゐのしし(二)みづたまり(瀦に同じ)。たまりみづ。書經、疏に「往前漫溢、今得二豬水一爲レ宅」

【豬水】

【豬突豨勇】ゐのしし武者。漢書に「匈奴侵寇甚、莽大募二天下囚徒人奴一、名曰二豬突豨勇一」

【貒】タン。他端切。寒。(一)まみ(二)ゐのしし(野豬)。

【豭】カ、ケ。古牙切。麻。をゐのこ(牡豕)。

【貐】ユ。弋主切。麌。やまあらし(豪豬)。

十畫

【豯】ケイ、ガイ。胡雞切。齊。(一)豨のこ(二)生れて三箇月の豚。

【豰】(い)コク。呼木切。屋。(ろ)カク、コク。黑角切。覺。(は)ハク、ボク。歩角切。覺。(に)カク。黑各切。藥。(ほ)トク。都木切。屋。(へ)コウ、ク。居候切。宥。(一)けものの名(二)をゐのこ(ろ)けもののこぶた(小豕)(に)ゐのこのこゑ(ほ)物名(は)こぶた(小豕)(に)ゐのこ。なうごかす(へ)ゐのこ。

【[豕舌]】クワイ、エ。火怪切。卦。かたくち(豬括)。

【豱】チン、ウン。烏渾切。元。皮理のこまかく蹙める豕。

【豳】(い)ヒン。補巾切。眞。(ろ)邠に同じ。地の名。

【豲】クワン。胡官切。寒。(一)やまあらし(豪豬)(二)はしる。

十一畫

【豵】(い)ソウ、ス。子紅切。東。(ろ)ショウ、シュ。卽容切。冬。(一)生れて六箇月の豚(二)小さきゐのこ。

【貗】(い)リュ、ル。力朱切。虞。(ろ)ロウ、ル。落侯切。尤。めゐのこ(牝豬)。

十二畫

【[豕耆]】(い)キ。尹捶切。紙。(ろ)タ、ダ。徒臥切。箇。(い)すこやかなるゐのこ(ろ)豕の名。

【豶】フン、ボン。符分切。文。(一)豕の牙を除く、豕の去勢す(二)牙とりたるゐのこ(三)去勢せるゐのこ。

【[豕曾]】ショウ、ゾウ。慈陵切。蒸。なり。

【豷】(い)キ。許利切。寘。(ろ)エイ、アイ。於計切。霽。ゐのこのいき。

十四畫

【[豕聚]】シュ、ス。崇芻切。虞。(一)めゐのこ(二)小さき牝豕。

十五畫

【[豕巤]】レフ、ロフ。力涉切。葉。(一)たてがみ(鬣に同じ)(二)ゐの

このながき毛。

十八畫

【貛】クワン。呼官切。寒。(一)ゐのしし(二)牡のおほかみ。

【[豕聶]】セフ。之涉切。葉。ゐのこ。

豸部

部首

【豸】(い)チ。池爾切。紙。(ろ)タイ、デ。丈蟹切。蟹。(一)足なきむし(蟲に同じ)(二)とく(解)(三)たをやか(婀娜)(四)たひらかなる貌(ろ)一種の神羊。

【豸豸】獸の背の高くながき貌。說文に「獸長背行豸豸然」

三畫

【[豸乇]】タク、チャク。陟格切。陌。獸の名。

【豹】ハウ、ヘウ。北教切。效。獸の名。

【豹變】善に遷る義。易經に「君子豹變、小人革レ面」

【豹留皮】死後に芳名を留めのこすに喩ふ。五代史に「王彥章曰、豹死留レ皮、人死留レ名」

【豹脚蚊】やぶか。

【豺】サイ、ザイ。士皆切。佳。(動)やまいぬ。

【豺虎】やまいぬととらと。わるものに喩ふ。詩經に「投二畀豺虎一、豺虎不レ食」

【豺狼】やまいぬとおほかみと。殘酷なるものに喩ふ。蜀志に「百姓困二于豺狼之吻一」

【豺祭】やまいぬを用ゐてその先をまつる。唐中宗五郊樂章に「林彫草勁、豺祭隼擊」

【豺獺】やまゐぬとかはをそと。漢書に「豺獺未レ祭、罘網不レ布二於壄澤一」

【豺狼當路】奸臣が權勢を執るをいふ。成語考に「漢張綱彈劾無レ私、斥二豺狼當レ路」

【豻】(い)ガン。俄寒切。寒。(ろ)五旰切。翰。(は)岸に同じ。(一)胡のいぬ(二)一種の獸(ろ)ひとや。

四畫

【豼】ヒ、ビ。貔に同じ。

【[豸朩]】キウ、ク。貅に同じ。

五畫

【豾】ヒ、ビ。貔に同じ。

【豿】(い)コウ、ク。古厚切。有。(ろ)カク、コク。許角切。覺。(い)熊虎の子の稱(ろ)ゐのこのこゑ。

【[豸央]】アウ。烏郎切。陽。むじな(貉)。

【貀】ダツ、ネチ。女滑切。黠。獸の名。

【貁】イウ、ユ。余救切。宥。(一)鼠の屬(二)をながざる。

【貂】テウ。都聊切。蕭。てん。

【貂蟬】侍臣の冠の裝飾。轉じて、高官の人を呼ぶ稱。車服雜志に「侍臣加二貂蟬一者、取二其清高飮レ露而不レ食也」

【貂不レ足狗尾續】貂蟬の冠を著すべき德ある人なくして、下賤の人を用ゐるを譏れる語。晉書、趙王倫傳に「倫黨皆登二卿相一、竝列二大封一、至二於奴卒斷役一、亦加以二爵位一、每二朝會一、貂蟬盈レ坐、時人爲二之諺一曰、貂不レ足、狗尾續」

六畫

【貄】シ。息利切。寘。ながきけ(脩毫)。

【貅】キウ、ク。許尤切。尤。猛獸の名。

【貆】(い)クワン。胡官切。寒。(ろ)ケン、カン。許元切。元。(一)まみ(貒)(二)むじなの屬。

【貊】㊥カク、ガク。下各切。藥。
㊀貊に同じ。
【貉】㊥カク。曷各切。藥。㊁バク、ミャク。莫白切。陌。㊂禍に同じ。㊃むじな㊁一ちぢむ（縮）㊂えびす㊃いくさまつり。
【貊】バク、ミャク。莫白切。陌。
一えびす㊁獣の名㊂しづかなり（靜）。

七畫

【貌】㊥バウ、メウ。莫教切。效。㊁バク、マク。莫角切。覺。
㊀一かたち㊁すがた（姿）㊂かた（形象）㊃おもむき（狀態）㊄ふるまひ（擧止）㊅みえ（外觀）㊆一かたどる、うつす㊇一はるか、とほし（遠に同じ）。
【貌形】バウケイ すがた。洞簫賦に「不レ覩二天地之體勢一、闇二於白黑之貌形一」
【貌言】バウゲン うはべを飾るのみにて、實なきことば。史記に「貌言華也、至言實也」
【貌狀】バウジャウ かたち。後漢書、李固傳に「固貌狀有二奇表一」
【貌執】バウシフ 禮貌を以てもてなす。荀子に「貌執之士者、百餘人」
【貌敬】バウケイ 外面のうやまひ。韓愈「各言生死兩造、直置心親無二貌敬一」
【貌閱】バウエツ 年貌をしらぶ。隋書、注に「貌閱二其坯貌一也」 榮名を以て容貌のかざりとす。史記に「諺曰、人貌二榮名一、豈有レ既乎」

【貍】㊥リ。里之切。支。㊁バイ、マイ。謨皆切。佳。㊂リツ、ヰチ。紆勿㊃たぬき㊁うづむ、うづまる（埋に通ず）㊄くさし（臭）。
【貍豆】トウ（植）ふぢまめ。

【貉】㊥ヒ。賛悲切。支。㊁ヒ、ビ。部鄙切。紙。

八畫

【貎】ヒ。補靡切。紙。
漸次に平かなる貌。上林賦に「漸二乎文學一、摩二涿鴻烈一、靡二乎仁義一、扶二服道德一、遊二神聖之境一、馳二騁乎六藝之中一」

【貓】ゲウ、ノウ。奴皓切。皓。
めむじな（雌貉）。
【貊】カ、ケ。古牙切。麻。
一しぐま（羆）㊁おほざる（玃）。
【貊】〔動〕しぐま。爾雅、注に「羆似レ熊而長頭高脚、猛憨多力、能拔二樹木一、關西呼二貔羆一」
【貊】ゼウ、ネウ。爾沼切。篠。
くもざる（蒙貴）。

【貊】タン。他端切。寒。
まみだぬき。
【貊】イウ、ユ。夷周切。尤。
㊁余救切。宥。
【貊】㊥一をながざる㊁真犬㊂獣の名。
ベウ、メウ。武鑣切。蕭。
ねこ。

十畫

【貔】ヒ、ビ。房脂切。支。
猛獣の名。
【貔虎】ヒコ 猛獣の名。轉じて、武勇の士に喩ふ。（虎貔）。杜甫「節制非二桓文一、軍師擁二貔虎一」
【貔貅】ヒウ 一前に同じ。史記に「教二熊羆貔貅貙虎一、以與二炎帝一戰二於阪泉之野一」 二旌旗の名。禮記に「前有二摯獣一、則載二貔貅一」
【貔貅】ヒチュ 前の一に同じ。吳越春秋に「軍伍雖レ更兮、勢如二貔貅一」
【貘】ケイ、ガイ。胡雞切。齊。
ねのこのこ（豬子）。
【貘】ゲウ、ノウ。乃老切。皓。
めすのむじな。

十一畫

【貜】㊥ケク、ゴ。其矩切。麌。㊁ル、ロ。龍珠切。虞。
まみのこ（貙子）。

【貘】バク、ミャク。莫白切。陌。
猛獣の名。

【貔】㊥チュ、ト。椿倶切。虞。
㊁チョ、ト。敘居切。魚。
㊀一猛獣の名二人種の名㊂大虎。
【貔虎】コヒュ 猛獣の名。爾雅、注に「今山民呼二貔虎之大者一、爲二貔豻一」

【貙】シャウ、サウ。疏舅切。養。
獣の名。

【貚】バン、マン。無販切。願。
獣の名。

十二畫

【貚】㊥ラウ、ロウ。盧皓切。皓。
㊁レウ。憐蕭切。蕭。
㊀西南のえびす㊁よひのかり（宵田）。

十三畫

【貛】アイ、エ。於廢切。隊。
えびすの人。

十八畫

【貜】㊥クヮン。呼官切。寒。
㊁ケン、コン。逵員切。先。
一あなぐま（貛）二なのおほかみ（牡狼）。

二十畫

【貜】クヮク、ワク。玉縛切。藥。
おほざる（大猿）。

貝部

部首

【貝】㊥バイ。博蓋切。泰。
一かひ二かひから三錦の名㊃かひ㊄州の名㊅姓。
かざる（飾）㊆たから（貨泉）㊇州の名㊈姓。
【貝子】バイシ 清國皇族の稱。親王の子を貝勒とし、貝勒の子を貝子とす。
【貝勒】バイロク 清國皇族の稱。親王の子なり。
【貝多羅葉】バイタラエフ 印度の多羅樹の葉。彼の地にては紙に代用す。

二畫

【貞】㊥テイ、チャウ。知盈切。庚。
一ただし（正）二さだまる（定）。
【貞女】テイジョ うらなふ（占）。
【貞王】テイワウ みさを正しきをんな。史記に「王蠋曰、忠臣不レ事二君、貞女不レ更二二夫一」
【貞木】テイボク （植）れすみもち。（女貞）。
【貞方】テイハウ ただし。（端方）。柳宗元「英風超倫、孤屬貞方」
【貞白】テイハク ただしくして穢なし。劉孝儀「立レ身貞白、操レ業清廉」
【貞正】テイセイ ただし。（端正）。魏志に「清儉足二以激一レ濁、貞正足二以矯一レ時」
【貞臣】テイシン みさを正しき家來。說苑に「讓レ賜、不レ受二贈遺一、此貞臣也」
【貞秀】テイシウ ただしくしてひいづ。陶潛「懷二此貞秀姿一、卓爲二霜下傑一」
【貞直】テイチョク ただし。後漢書に「仁柔用レ情、多乏二貞直一」
【貞貞】テイテイ ただしき貌。太玄經に「僕レ福貞貞」
【貞珉】テイビン かたくして美しき石。石碑などをいふ。汪道會「鐫二鐵貞珉一、點二畫斷精一」
【貞眞】テイシン ただしくしてまことなり。李白「燕石非二貞眞一」
【貞純】テイジュン ただしくしてまじりなし。韋曜「孝友之行立、貞純之名彰也」
【貞淑】テイシュク みさをただし。漢書に「能致二其貞淑一、不レ貳二其操一」
【貞婦】テイフ みさを正しきをんな。晉書に「貞婦不レ昧二逃而荷容一」
【貞晦】テイクワイ 心ただしくして才能を外にあらはさず。舊唐書、崔從傳に「從少以二貞晦恭謹一自處」
【貞堅】テイケン ただしくしてかたし。舊唐書に「宇文孝伯、忠亮存レ心、貞堅表レ志」
【貞敏】テイビン ただしくしてさとし。魏書に「風度清幹、志尚貞敏」

【貞葉】テイエフ 四時青青としたる葉。喬知之「天花多艷姿、寒竹有貞葉」

【貞幹】テイカン ㊀牆の兩頭の立木。莊子に「以仲尼爲貞幹、國其有瘳乎」㊁建築の用に供する材料。書經に「峙乃楨幹」楨は貞に同じ。

【貞愼】テイシン ただしくつつしむ。(方愼)。晉書、山濤傳に「初濤布衣家貧、及居榮貴、貞愼儉約」

【貞廉】テイレン ただしくしていさぎよし。晉書に「夫貞廉之士、未必經濟世務」

【貞醇】テイジユン ただしくしてあつし。韋應物「爲文頗瓌麗、稟度自貞醇」

【貞操】テイサウ ただしきみさを。晉書に「覩松竹、則思貞操之賢」

【貞愨】テイカク ただしくしてまことなり。風俗通に「言其天下蒙化皆貴貞愨也」

【貞確】テイカク ただしくしてかたし。陳書、宣帝紀に「詔曰、我心貞確、堅誓蒼昊」

【貞靜】テイセイ ただしくしてしとやかなり。雜事祕辛に「有貞靜之德、流聞禁掖」

【貞女峽】テイヂヨカフ 夫の死後貞操を守れる婦人のさびしき狀にいふ。三齊略記に「秦時有女子、化入石、在岩穴中、昌黎作貞女峽詩」

【貞】 エン、チン。員に同じ。

【負】 フウ、ブ。房久切。有。㊀おふ㊁せおふ㊂になふ(擔)㊃よる(依)㊄うく(受)㊅うしなふ(失)㊆おひめ㊇たがふ(違)㊈そむく(背)㊉はづ(愧)(1)うれふ(憂)(2)やぶる、まく(敗)(3)せめ、ひきうけ(4)たのむ(恃)(5)老母の稱。

【負力】フリヨク ちからあるをたのみとす。後漢書に「强者負力、弱者惶惑」

【負手】シユ てを背にのす。禮記に「孔子蚤作、負手曳杖、消搖于門」

【負材】ザイ 自己の材能あるをたのみにす。漢書に「彼自負其材、受辱不羞」

【負志】シフ 像想にたがふ。史記に「所見者絀于所聞於東周、臣竊負其志也」

【負非】ヒフ そむく。たがふ。後漢書に「有高人之行、負非于世」

【負版】ハフン 邦國の圖籍を持つ者。論語に「式負版者」

【負持】ヂフ おほひもつ。埤雅に「鄭云、蒲盧取桑蟲之子、而負持而去」

【負恃】ヂフ たのみにす。韓愈「妒寵而負恃、爭妍而取憐」

【負負】フフ はづる貌。後漢書、張步傳に「負負無可言」注に「負、愧也」

【負氣】キフ いきほひあるをたのむ。五代史、周太祖紀に「爲人負氣好使酒」

【負笈】キフキフ 遊學するにいふ。漢書に「負笈追師、不遠千里」

【負扆】イフ 扆は屏風の如きもの。王者は之を坐背に備へて南面す。淮南子に「負扆而朝諸侯」

【負租】ソフ おひめのみつぎもの。韓愈「民業有經、公無負租」

【負荊】ケイ ふかく罪を謝する意。史記に「肉袒負荊、因賓客、至藺相如門、謝罪」

【負雀】フジヤク 〔動〕すすめだか。

【負荷】カフ おひになふ。父祖の業をうけつぎてその任にたふる義。(負析薪)。左傳に「其父析薪、其子弗克負荷」

【負敗】ハイ まけやぶる。隋書、樊子蓋傳に「在軍持重、未嘗負敗」

【負販】ハフン 賤民をいふ。負は力を事とし、販は利を事とす。禮記に「雖負販者、必有尊也」

【負嵎】ゲフ 山曲の險にたよる。孟子に「有衆逐虎、虎負嵎、莫之敢攖」

【負債】サイ おひめ。借金。晉書、王嘉傳に「我負債未果去」

【負暄】ケン ひなたぼこり。杜甫「凜冽倦玄冬、負暄嗜飛閣」

【負棘】キヨク 物を負載して步行になやむ。戰國策に「驥服鹽車而上太行外阪、遷延負棘而不能上」

【負劍】ケン つるぎをおふ。劍を帶ぶるに上長くして之を拔くに室を出でず、故に之を背に推して負ふが如くし、以て前を短くして拔き易からしむるをいふ。岑參「負劍出北門、乘桴適東溟」

【負養】ヤウ 荷物などをおふ者と炊事の役に服する者と。史記に「司徒負養、在其中矣」

【負擔】タン ㊀荷物をせおふと肩にになふと。又、その荷物。左傳に「敬仲辭齊侯曰、免于罪戾、弛于負擔、君之惠也」㊁身に引き受くること。

【負戴】フイ 荷物をせおふと首にかくると。孟子に「頒白者、不負戴于道路」

【負析薪】セキシンヲオフ 父祖の業を失墜せざるをいふ。(負荷)。陳琳「聞魏周榮虞仲翔各紹、能負析薪」

【負俗累】フゾクノルヰ 俗にそむきて議論せらる。漢書に「馬奔踶而致千里、士或有負俗之累、而立功名」

【負薪憂】フシンノウレヘ 病を稱する謙辭。禮記に「君使士射、不能則辭以疾、言曰、某有負薪之憂」

【負羈縲】キセツヲオフ 賤役を執る義。左傳に「臣負羈縲、從君巡於天下」

【負重涉遠】オモキヲオヒトホキニワタル 重荷をおうて、遠地に行く。孔子家語に「子路見孔子曰、負重涉遠、不擇地而休、家貧親老、不擇祿而仕」

【負薪之資】フシンノシ いやしきつまらぬうまれつき。後漢書、袁紹傳に「臣以負薪之資、拔于陪隸之中」

【負郭田】フクワクノデン 城に近くして、よくこえたる田。史記、蘇秦傳に「使吾有洛陽負郭田二頃、吾豈能佩六國相印乎」

【負】 ハイ、ベ。簿回切。灰。河神の名。

三畫

【財】 サイ、ザイ。昨哉切。灰。㊀たから㊁わづか(纔)㊂たつ(裁に通ず)㊃はたらき(材に通ず)。

【財力】ザイリヨク 金錢を引き受け得る力。白居易「非不是圖、財力不足」

【財用】ザイコウ もとで。つひえ。周禮に「以九式、均節財用」

【財成】ザイセイ ㊀つくりなす。易經に「后以財成天地之道」㊁きりもりす。庾信「幼無學植、長闕財成」

【財利】ザイリ 金錢上の利益。晉書、崔游傳に「游自少及長、口未嘗語及財利」

【財物】ザイブツ たからもの。禮記に「因其財物、而致其儀焉爾」

【財取】シユ きりもりして取り用ゐる。漢書に「所賜金陳廊廡下、軍士過、輒令財取爲用」

【財源】ザイゲン 財貨の出づるもと。

【財產】ザイサン もとで。しんだい。後漢書に「悉推財產與諸弟」

【財欲】ザイヨク 金錢を得んとするの欲望。魏志、華歆傳に「歆淡于財欲」

【財勢】ザイセイ 金錢上のいきほひ。拾遺記に「曾不恃其戚里、矜其財勢」

【財寶】ザイハウ たからもの。魏志、韓國傳に「其俗以瓔珠、爲財寶」

【貢】 コウ、ク。古送切。送。㊀みつぐ、たてまつる、すすむ㊁つぐ(告)㊂たまふ(賜)㊃みつぎ㊄とほる(通)㊅人の姓。

【貢士】コウシ 人物として政府に推薦せらるる者。禮記に「諸侯歲獻貢士于天子」

【貢法】コウハフ 夏の田制。各戶に田五十畝をさづけ、內五畝の所得を稅とする法。

【貢御】コウギヨ みつぎもの。後漢書に「驕心轉盛、貢御稀簡」

【貢擧】コウキヨ 州郡より人材を選拔して推薦す。宋史に「入仕則有貢擧之科」

【貢獻】コウケン ㊀みつぎものをたてまつる。後漢書、光武帝紀に「大將軍竇融遣使貢獻」㊁世の中の爲につくす。

【貣】 トク。他得切。職。㊀かる(借)㊁たがふ(忒に同じ)。

【貤】 ㊀イ。以智切。寘。㊁シ、ジ。神至切。寘。㊂イ。余支切。支。㊃㊄㊀のぶ、ひく(延)㊁かさぬ(重)㊂ます(益)㊃うつる(移)。

四畫

【貧】 ヒン、ビン。符巾切。眞。㊀まづし、とぼし㊁まづしきも

の、びんばふにん。

【貧困】まづしくしてくるしむ。史記に「管仲貧困、常欺二鮑叔一」

【貧陋】まづしくしていやし。宋書に「初高祖微時、貧陋過甚」

【貧耗】まづし。漢書に「徵發煩數、百姓貧耗」

【貧約】まづしくしてくるしむ。晉書、卞壼傳に「廉潔儉素、居甚貧約」

【貧病】まづしきものとやめるものと。南史に「開レ倉振二救貧病不レ能二自立一者上」

【貧國】まづしきくに。漢書に「以二毋徵亡一レ寵、故王二卑濕貧國一」

【貧道】道士沙門などの自己の謙辭。世說に「支道林嘗養二數馬一。曰、貧道重二其神駿一」

【貧黴】まづし。何遜「宗派已孤狹、財產又貧黴」

【貧賤】まづしくしていやし。中庸に「素二貧賤一行二乎貧賤一」

【貧餒】まづしくしてうう。晉書に「盛二饘粥一以給二貧餒一」

【貧寠】まづしくしてやつる。晉書、劉寔傳に「寔少貧寠、杖レ策徒行」

【貧薄】まづし。後漢書に「袁氏貧薄、每就レ上求レ錢、皇后贍レ之」

【貧鰥】まづしきをとこやもめ。魏書に「太和十三年、出二宮人一以賜二北鎭人貧鰥無レ妻者一」

【貧到レ骨】赤貧なるをいふ。杜甫「已訴二徵求一貧到レ骨、正思二戎馬一淚盈レ巾」

【貧者士之常】士は恆に道を講ずるのみにて、貨殖を計らず、故に常にまづしきなり。列子に「貧者士之常也、死者人之終也、處レ常得レ終、當何憂哉」

【貧賤不レ能レ移】如何に貧賤に至るも、その志を變ぜざるをいふ。孟子に「富貴不レ能レ淫、貧賤不レ能レ移、威武不レ能レ屈、此之謂二大丈夫一」

【貧賤之交不レ可レ忘】貧賤時代の朋友は、いつまでも忘るべからず。後漢書、宋弘傳に「貧賤之交不レ可レ忘、糟糠之妻不レ下レ堂」

【貨】

クワ。呼臥切。箇。
㊀たから ㊁まひなふ(賂) ㊂うる(賣)。

【貨物】たからもの。しなもの。周禮に「要服六歲一見、其貢貨物」

【貨貝】たからもの。劉孝儀「珍窮二貨貝一、製極二鏇金一」

【貨殖】貨財をふやす。論語に「賜不レ受レ命、而貨殖焉」

【貨賄】たからもの。周禮に「太宰之職、以二九職一任二萬民一、六曰、商賈阜二通貨賄一」

【貨幣】政府にて、金屬を一定の形に鑄造し、價格を定めて品物の賣買に便ぜしむる爲に發行するもの。後漢書、光武紀に「初王莽亂後貨幣、雜二用布帛金粟一、是歲始行二五銖錢一」

【貨糴】うりかひ。後漢書に「常通二商販一、貨二糴糧食一」

【販】

ハン、ホン。方願切。願。
㊀あきなふ、うる ㊁あきなひ。

【販夫】あきうど。周禮に「夕市夕時而市、販夫販婦爲レ主」

【販貿】あきなふ。魏書に「販貿來往、家產豐富」

【販路】物品のはけくち。うれみち。

【販賣】うる。南史、沈懷文傳に「懷文曰、列レ肆販賣、古人所レ非」

【貪】

(い)タン、トン。他含切。覃。(ろ)他紺切。勘。(は)ドン。慣用音。
むさぼる。

【貪夫】欲ふかきひと。史記に「語曰、貪夫徇レ財、烈士徇レ名」

【貪生】生をむさぼる。淮南子に「或貪レ生而死、或輕レ死而得レ生」

【貪忍】欲ふかくしてむごし。法訓に「貪忍者難レ爲レ惡」

【貪兵】敵の貨財をむさぼる兵。漢書に「利二人土地貨寶一者、謂二之貪兵一、兵貪者敗」

【貪戾】むさぼりもとる。大學に「一人貪戾、一國作レ亂」

【貪惏】やぶさかなり。南史に「庶務貪惏、爲二時所一嗤鄙一」

【貪狼】食をむさぼるおほかみ。耶律楚材「更驅二虎豹一逐二貪狼一」

【貪悖】欲ふかくして道にさかふ。人物志に「貪悖之性、勝則彊猛爲二禍梯一」

【貪恣】むさぼりてほしいままなり。宋史に「貪恣耄昏、以レ弛爲レ寬」

【貪惜】むさぼる。後漢書に「諸將貪二惜財貨一」

【貪惡】欲ふかくあし。詩經、箋に「鳥之貪惡者也」

【貪猾】むさぼりみだる。後漢書に「進二柔良一、退二貪猾一」

【貪愛】むさぼりこのむ。左傳に「貪二愛不祥一、怒二鄰不義一」

【貪慾】慾ふかくむさぼる。東京賦に「進二明德一而崇レ業、滌二饕餮之貪慾一」

【貪濁】むさぼりて正しからず。世說に「王含作二廬江郡一、貪濁狼藉」

【貪橫】むさぼりてよこしまなり。宋史に「劉寶以二專悍貪橫一罷」

【貫】

(い)クワン。古玩切。翰。(ろ)彎に同じ。
㊀つらぬく ㊁とほす、とほる(通) ㊂うがつ(穿) ㊃かさなる(累) ㊄あつ、あたる(中) ㊅ならふ(習) ㊆ならひ(習慣) ㊇ぜにさし、さし ㊈にんべつ(名籍) ㊉すぢ(條) (十一)みち(理) (ろ)ひく。

【貫弓】ゆみを十分に引きしぼる。史記に「貫弓執レ矢、嚮二使者一」

【貫日】㊀ひをかさぬ。荀子に「貫レ日而治」㊁ひをつらぬく。史記に「白虹貫レ日、太子畏レ之」

【貫行】事をつづけておこなふ。漢書に「以レ次貫行、固執無レ違」

【貫的】まと。荀子に「貫的張而弓矢至焉」

【貫盈】みちわたる。書經に「商罪貫盈、天命誅レ之」

【貫通】つらぬきとほる。朱熹「此書之旨、支分節解、脈絡貫通」

【貫徹】つらぬきとほす。金史に「幸不二貫徹一、得レ不レ成レ禍」

【貫瀆】なれすぎてあなどりけがす。左傳に「貫二瀆鬼神一、慢二棄刑法一」

【貫籍】うまれ故郷。在籍地。

【貫屬】前に同じ。

【貫蝨技】弓術に巧なるをいふ。列子に「甘蠅古之善レ射者、彎レ弓獸伏鳥下、中略以二燕角之弧、朔蓬之簳一射レ之貫二蝨之心一」

【貫道之器】文章をいふ。李漢「文者貫道之器也、不レ深二於斯道一、有レ至焉者、不也」

【責】

(い)サク、シャク。側革切。陌。(ろ)債に同じ。(は)セキ。慣用音。
㊀せむ(讓) ㊁とふ(問) ㊂非となす ㊃とがむ ㊄せまる(催) ㊅そしる(刺) ㊆しかる(譙) ㊇もとむ(求) ㊈とる(取) ㊉せめ(負擔) (ろ)おひめ。

【責任】ひきうけてなすべき義務。せめ。莊子に「帝王聖人休焉、休則虛、虛則實、實者倫矣、虛則靜、靜則動、動則得矣、靜則無レ爲、無レ爲也則任レ事者責矣」

【責怒】せめいかる。魏志に「自相責怒曰、有二君如一レ此」

【責躬】身のあやまちをせむ。春秋胡傳に「引レ咎責レ躬、服二其罪一則可矣」

【責問】せめとふ。後漢書、馬援傳に「乘レ驛責二問援一」

【責善】善き行をなすやうに互にすすめあふ。孟子に「父子之間、不レ責レ善」

【責詬】ののしりせむ。せめしかる。陸龜蒙「朝朝貫二薪米一、往往逢二責詬一」

【責誚】前に同じ。(讓誚)。南史に「數往候レ之、備加二責誚一」

【責課】貢物をきびしく催促す。宋史に「不レ宜二種藝一者、不レ須二責課一」

【責賦】納稅をせき立つ。唐書、高崇文傳に「子承簡遷二邢州刺史觀察府一、責レ賦尤急、承簡代二下戶數百一輸レ租」

【責罵】せめののしる。魏書に「爾朱兆乃隔レ水責罵」

五畫

【貯】

チョ、ト。丁呂切。語。
㊀たくはふ ㊁たくはへ。

【貯米】チヨベイ 米をたくはふ。唐書に「大亮卒、惟貯米五斛、布三十端」
【貯金】チヨキン 金をたくはふ。錄異記に「貯金多則草木焦枯」
【貯滿】チヨマン 充分にたくはふ。王惲「清氣貯滿詩人脾」
【貯聚】チヨシユ 財寶などをたくはへあつむ。(畜聚)。魏書、注に「不レ務ニ營佃一、不レ修ニ器械一、無レ有ニ貯聚一」
【貯積】チヨシ たくはへつむ。たくはへ。法苑珠林に「廣蓄田財、過分貯積」
【貯穀】チヨコク こくもつをたくはふ。越絶書に「多ニ貯穀一富ニ百姓一」
【貯糧】チヨリヤウ かてをたくはふ、吳地記に「胥門南有ニ儲城一、越王貯レ糧處」
【貯藏】チヨザウ たくはへおく。

【貰】セイ。始制切。霽。㊀かる㊁おぎのる㊂かす(貸)㊃ゆるす(赦)。
國訓 もらふ。

【貺】(イ)ショ、ソ。疎阻切。語。(ロ)フ、ホ。方遇切。遇。うらなふ(占)。

【販】ヒ。彼義切。寘。㊀ます(益)㊁あたふ(予)㊂ついで(次第)。

【貲】シ。卽移切。支。㊀たからを出して罪を贖ふ、あがなふ㊁たから(財貨)。
【貲產】シサン たから。しんだい。宋史に「貲產則心有レ所レ繫」
【貲簿】シボ 金錢の出入をかきつけたる帳簿。唐書に「悉收ニ貲簿一、校ニ計出入一」

【貳】ジ、ニ。而至切。寘。㊀ふたつ㊁そふ(副)㊂つぐ㊃ます(益)㊄ふたたび(再度)㊅うたがふ(疑)㊆かはる(代)、そむくこと㊇ならぶ(竝)㊈たぐひ(敵)㊉ふたごころ⑪わかつ(分)⑫そへ、ひかへ。
【貳心】ジシン ふたごころ。
【貳公】ジコウ 三公に副ふ官、卽ち、少師・少傅・少保なり。書經に「貳公弘レ化」
【貳車】ジシヤ そへぐるま。禮記に「乘ニ貳車一則式、佐車則否」
【貳味】ジミ 普通の飲食物に更にそふる飲食物。禮記に「食不ニ貳味一」
【貳偸】ジトウ かりそめにす。左傳に「子產曰、晉政多レ門、貳偸之不レ暇、何暇討」

【貴】キ。居胃切。未。㊀たふとし(尊)㊁たかし(高)㊂ねがふ(欲)㊃價多し㊄たふとき者㊅たふとき位㊆州の名。
【貴大】キダイ ほこる。諸葛亮「廖立生自貴大、臧ニ否羣士一」
【貴玉】キギヨク ㊀たふときたま。㊁たまをたっとぶ。禮記に「敢問君子貴レ玉、而賤レ瑉者何也」
【貴妃】キヒ 唐代の女官の名。唐書に「內官貴妃、惠妃、麗妃、華妃各一人」
【貴老】キラウ としよりたる者をたっとぶ。禮記に「貴ニ有德一、貴レ貴、貴レ老、敬レ長、慈レ幼」
【貴秀】キシウ すぐれたるものを尊重す。陳書に「東南貴レ秀、朝廷親レ賢」
【貴門】キモン たふときいへがら。南史に「不レ爲ニ貴門一屈レ意」
【貴姉】キシ あれの敬稱。西京雜記に「今日佳辰、貴姉懋ニ洪册一」
【貴庚】キカウ 人の齡をいふ敬稱。おとし。
【貴客】キカク たふとき客。桂海志に「有ニ貴客一則設ニ老酒冬酢一」
【貴胄】キチウ 高貴のちすぢ。(華胄)。唐書、王龜傳に「性高簡傳知、書傳無ニ貴胄一」
【貴珠】キシユ たふときたま。抱朴子に「貴珠出ニ乎賤蚌一」
【貴貨】キクワ たからをたっとぶ。左傳に「魏絳曰、貴レ貨易レ土」
【貴國】キコク 他國の敬稱。國語に「其貴國之賓至、則班加ニ一等一益虔」
【貴族】キゾク たふときやから。晉書に「連ニ姻貴族一、將來庶有ニ大益一」
【貴酬】キシウ へんじ。かへし。
【貴遠】キエン とほきをたふとぶ。漢書に「凡人賤レ近而貴レ遠」
【貴賢】キケン 賢者をたっとぶ。荀子に「貴レ賢者霸、敬レ賢者存」
【貴賤】キセン たっときといやしきと。中庸

に「序レ爵、所ニ以辨ニ貴賤一也」
【貴謀】キボウ はかりごとをたふとぶ。趙充國「是以貴レ謀而賤レ戰」
【貴嬪】キヒン 女官。又、女子の敬稱。齊書に「建元三年、有司奏、置ニ貴嬪夫人貴妃一、爲ニ三夫人一」
【貴糴】キテキ 相場より高く米を買ふ。越絶書に「貴ニ糴粟藁一」
【貴顯】キケン 位たふとく名あらはる。又、その人。南史に「雖ニ外戚貴顯一、而彌自沖約、茅屋蔬飧、不レ改ニ其舊一」
【貴糶】キテウ 相場より高く米を賣り出す。北史に「貴ニ糶其米一」
【貴介弟】キカイテイ 人の弟の敬稱。左傳に「寡君之貴介弟也」
【貴レ古賤レ今】イニシヘヲタツトビイマヲイヤシム 過去を貴び現在をいやしむ。莊子に「尊レ古而卑レ今、學者之流也」又、東京賦に「不レ能ニ節レ之以レ禮、宜其陋レ今而榮レ古矣」
【貴レ耳賤レ目】ミミヲタツトビメヲイヤシム 聞く所を貴びて見る所をいやしむ。東京賦に「莞爾而笑曰、若レ客所謂末學膚受、貴レ耳而賤レ目者也」
【貴遊子弟】キイウシテイ 王公貴族の子弟。周禮に「凡國之貴遊子弟學焉」
【貴ニ冠履一忘ニ頭足一】クワンリヲタツトビテトウソクヲワスル 本を輕んじて末を重んずるに喩ふ。淮南子に「今重レ法而棄レ義、是貴ニ其冠履一、而忘ニ其頭足一也」

【貶】ヘン。方斂切。琰。㊀おとす(墜)㊁へらす(減)㊂しりぞく(謫)㊃おつ(墜)。
【貶斥】ヘンセキ おとししりぞく。柳宗元「凡吾之貶斥亦幸矣」
【貶坐】ヘンザ 地位をおとして罪す。漢書に「選擧不レ實、曾無ニ貶坐一」
【貶降】ヘンカウ 官位をおとす。後漢書に「順朝無ニ貶降之文一」
【貶剝】ヘンハク おとす。蘇軾「輒貶剝令ニ一錢不一レ直」
【貶責】ヘンセキ 官位をおとしてせむ。左傳、注に「不レ待ニ貶責一、而自明也」
【貶退】ヘンタイ 官位をおとししりぞく。漢書、魏相傳に「遷ニ揚州刺史一、考ニ案郡國守相一、多レ所ニ貶退一」
【貶損】ヘンソン おつ。おとす。史記に「推ニ此類一、以繩ニ當世貶損之義一」
【貶戮】ヘンリク 官位をおとして罪す。晉書に「苟不ニ等貲廣無ニ成實一、宜ニ貶戮一」
【貶黜】ヘンチユツ 官位をおとす。漢書、韋元成傳に「自傷レ貶ニ黜父爵一」
【貶爵】ヘンシヤク くらゐをおとす。孟子に「一不レ朝、則貶ニ其爵一」

【買】バイ、メ。莫蟹切。蟹。㊀かふ㊁人の姓。
【買山】バイザン やまをかふ。溫庭筠「誰言有ニ策堪ニ經世一、自レ是無ニ錢可一レ買レ山」
【買骨】バイコツ 涓人の死馬の骨を五百金にて買ひたりといふ故事より、俊士を求むるに急なる意に用ゐる。戰國策に「古有下以ニ千金一求ニ千里馬一者上、涓人買ニ其骨五百金一」
【買笑】バイセウ 人にわらはる。
【買禍】バイクワ わざはひを受く。戰國策に「所レ謂市レ怨、而買レ禍者也」
【買醉】バイスイ ゑひをもとむ。李白「託レ交從ニ劇孟一、買レ醉入ニ新豐一」
【買憂】バイイウ 人の心配をひきうく。孟郊「胡爲好レ事者、無レ事自買レ憂」
【買譽】バイヨ ほまれをもとむ。王巖叟「賣ニ朝廷之恩一、以買レ譽」
【買レ櫝還レ珠】トクヲカヒテタマヲカヘス 無用のものに眩惑して有用のものを忘るる喩。韓非子に「楚人有ニ賣ニ其珠于鄭一者上、爲ニ木蘭之櫝一、薰以ニ桂椒一、綴以ニ金玉一、鄭人買ニ其櫝一、而還ニ其珠一」

【貸】(イ)タイ。他代切。隊。(ロ)トク。他得切。職。(イ)㊀かす㊁ほどこす(施)㊂ゆるす(寬)(ロ)㊀たがふ(忒)㊁かる(借)。
【貸財】タイザイ たから。禮記に「貧者不下以ニ貸財一爲上レ禮」
【貸借】タイシヤク かしかり。南史、王藻傳に「更相屬誘、不レ可ニ貸借一」
【貸救】タイキウ かしすくふ。蔡邕「公開ニ倉廩一以貸救」
【貸減】タイゲン 常法よりかろくす。唐書に

「皆撓ㇾ法貸滅、以樹ニ私恩ニ」【貸除】かけにてかふ。黃庭堅「深念頃ニ鄉里、忍ㇾ窮禁ニ貸除ニ」【貸贍】にぎはす。後漢書に「陛下誠宜ㇾ廣ニ被恩澤ニ、貸ㇾ贍元元ㇾ」

【胜】

セイ、ジャウ。所敬切。敬。
❶とむ(富)❷たから(財)。キャカ、カウ。許放切。養。
❶あたふ(與)、たまふ(賜)❷たまもの。

【貶】

ヘン。方斂切。斂。
❶うすい。黒色の貝。【貶殖】わざはひをのこす。晉書に「尸祿貶ㇾ殖、負乘招ㇾ悔」【貶訓】なしへなのちにのこす。又、のこしたるなしへ。櫽檄輿「萬石貶訓、根ニ於孝友ニ」孫ないふ。詩經に「貶ニ厥孫謀ニ、以燕ニ翼子ニ」てほんをのこす。陸雲「憲章貶ニ範萬世ニ」父祖ののこせるはかりごと。【貶謀寶訓明】チ、ヂ。直尼切。支。

【貲】

シ。即夷切。支。
❶たすく(助)❷あたふ(給)❸たから(財)。❹とる(取)❺よる(託)❻もとより(齎)❼はかる(謀)❽よりどころ(地位)❾たから(資財)❿もと(材料)⓫うまれつき、たち(質)⓬いりか(用度)⓭人の姓。もととなるちから。又、もとづきてなり出づ。易經に「東ニ不ㇾ受ニ賂遺ニ」【賂遺】まひなふ。宋史に「爲ニ轉運小使ニ、不ㇾ受ニ賂遺ニ」

【賃】

ヂン、ニン。女禁切。沁。
❶やとふ、やとはる(傭)❷かす❸やとはれ、やとひ❹やとひの報酬。【賃作】賃銀を受けてはたらく。漢書、兒寬傳に「時行賃作、帶ㇾ經而鋤」【賃書】賃錢をとりて文字をかきつづす。南史に「庾震喪ㇾ親、貧無ニ以葬ニ、賃書以營ニ事ニ」【賃舂】人にやとはれてうすつく。後漢書に「公沙穆爲ニ莫祐ニ賃舂」

【賄】

ワイ。呼罪切。賄。
❶まかなひ。公行、上下離析」
❷まひなひ。春秋胡傳に「賄賂

【賂】

ロ、ル。洛故切。遇。
❶おくりもの、まひなひ❷おくる(遺)、まひなふ。
【賂謝】まひなひ。宋史に「爲ニ轉運小使ニ、不ㇾ受ニ賂謝ニ」

【賃】

ヂン、ニン。女禁切。沁。
❶やとふ、やとはる(傭)❷かす❸やとはれ、やとひ❹やとひの報酬。【賃作】賃銀を受けてはたらく。漢書、兒寬傳に「時行賃作、帶ㇾ經而鋤」【賃書】賃錢をとりて文字をかきつづす。南史に「庾震喪ㇾ親、貧無ニ以葬ニ、賃書以營ニ事ニ」【賃舂】人にやとはれてうすつく。後漢書に「公沙穆爲ニ莫祐ニ賃舂」

【賄】

ワイ。呼罪切。賄。
❶まかなひ。公行、上下離析」
❷まひなひ。春秋胡傳に「賄賂

【賁】

ヒ。彼義切。寘。
❶かざる(飾)❷あや、かざり(文飾)❸島の卦の名❹一おほいなり(大)❺龜の一種❻わく(湧)❼いきどほる(憤)❽地の名(賁泉)❾やぶる(敗)❿つはもの(勇士)⓫戎の一族(賁渾)⓬人の姓。
【賁育】孟賁、夏育の二人、共に古の勇者なり。戰國策に「烏獲之力而死、賁給于道」【賁賁】目の明かならざる貌。禮記に「有ニ餘者ニ、蒙ㇾ恥辱ㇾ屨、賁賁然來」【賁易風】赤道の南北三十度以内の海上に生ずる恆風。【賁首之譬】くびを易へ取らんとする程のかたき。戰國策に「甘茂與ニ樛里子ニ賁首之譬也」

【賅】

ケン、ゲン。街に同じ。
カ、ガ。胡佐切。箇。
❶よろこぶ、よろこび(慶)❷いはふ、いはひ(祝)❸ねぎらふ(勞)❹くはふ(加)❺おはす(貧)❻になふ(擔)。
【賀筵】いはひのさかもり。【賀頌】ほめたたふ。【賀辭】いはひのことば。

【貿】

ボウ。莫候切。宥。
❶かふ❷とりかふ(交換)❸うりかふ❹あきなふ(商)❺かはる(交)❻あきなふ。晉書に「旅行者取ニ

【賁】

フン、ボン。符分切。文。
❶フン、ホン。父吻切。吻。❷方問切。問。❸ホン。博昆切。元。❹リク、ロク。力竹切。屋。❺ヒ、ビ。符非切。微。❻班の古文字。
【賁渾】父祖の功德により、その子孫を庇はんが爲に得しむる官。通鑑、胡三省注に「賁蔭謂ㇾ隨ニ資品ニ得ㇾ蔭ニ其子若孫及曾孫ニ」

【賈】

❶コ、クダ。公戶切。麌。
❷カ、ケ。居亞切。禡。
❶かふ(買)❷もとむ(求)❸うる(售)❹あきうど(商人)❺しるもの(商品)❻あきなふ、あきなひ❼價に同じ。
【賈舂】〔佛〕四梵天の一。雲笈七籤に「四梵天元始曰ニ常融天・王降天・梵度天・賁舂天ニ」【賈怨】人よりうらみを受く。國語に「以ㇾ寵賈ㇾ怨、不ㇾ可ㇾ謂ㇾ德」

育之勇而死」【賁來】人のとひくることの敬稱。詩經に「皎皎白駒、賁然來思」【賁軍】やぶれいくさ。禮記に「賁軍之將」【賁渾】戎の一族。公羊傳に「楚子伐ニ賁渾之戎ニ」【賁鼓】大いなるつづみ。詩經に「賁鼓維鏞」【賁臨】人の來ることの敬稱。

六畫

【賂】

ロ、ル。洛故切。遇。
❶おくりもの、まひなひ❷おくる(遺)、まひなふ。
【賂謝】まひなひ。宋史に「爲ニ轉運小使ニ、不ㇾ受ニ賂謝ニ」

【賃】

ヂン、ニン。女禁切。沁。
❶やとふ、やとはる(傭)❷かす❸やとはれ、やとひ❹やとひの報酬。【賃作】賃銀を受けてはたらく。漢書、兒寬傳に「時行賃作、帶ㇾ經而鋤」【賃書】賃錢をとりて文字をかきつづす。南史に「庾震喪ㇾ親、貧無ニ以葬ニ、賃書以營ニ事ニ」【賃舂】人にやとはれてうすつく。後漢書に「公沙穆爲ニ莫祐ニ賃舂」

【賄】

ワイ。呼罪切。賄。
❶まかなひ。公行、上下離析」
❷まひなひ。春秋胡傳に「賄賂

【資】

シ。即夷切。支。
❶たすく(助)❷あたふ(給)❸たから(財)❹おくる(贈)、まひなふ。
【資須】とりてもちゐる。南史に「有ㇾ所ニ資須ニ、皆就ニ典者ニ請焉」【資蓄】金穀の類。北史に「爲買ニ田宅ニ、遺以ニ資蓄ニ」【資質】うまれつき。又、もとよりのしたち。後漢書、吳良傳に「資質敦固、公方廉恪」【資歷】資格と經歷と。張九齡「資歷淺者、更佇ニ眞能ニ」【資儲】たくはへ。晉書に「詔、今資儲漸豐、可ニ譚量增作ニ」【資麤】あらく織りたる布。荀子に「卑統雜觀、文織資麤」【資蔭官】父祖の功德により、その子孫を庇はんが爲に得しむる官。通鑑、胡三省注に「資蔭謂ㇾ隨ニ資品ニ得ㇾ蔭ニ其子若孫及曾孫ニ」

【賈】

❶コ、クダ。公戶切。麌。
❷カ、ケ。居亞切。禡。
❶かふ(買)❷もとむ(求)❸うる(售)❹あきうど(商人)❺しるもの(商品)❻あきなふ、あきなひ❼價に同じ。
【賈舂】〔佛〕四梵天の一。雲笈七籤に「四梵天元始曰ニ常融天・王降天・梵度天・賁舂天ニ」【賈怨】人よりうらみを受く。國語に「以ㇾ寵賈ㇾ怨、不ㇾ可ㇾ謂ㇾ德」

【買害】自らわざはひをまねく。左傳に「吾爲用レ此、其以買レ害也」
【買舶】あきなひぶね。周邦彦「越舲吳艚、官艘買舶」
【買儈】商人のさいとり。朱松「惟勢利之狗、乃無三以異二於買儈之交一」
【買豎】商人をさげすみていふ。史記に「高祖曰、相國多受二買豎金一」
【買晁儔】漢の賈誼・晁錯の仲間。經國の材ある人の仲間の義に用ゐる。隋書、李德林傳に「經國大體、是買生晁錯之儔」

【賊】ソク、ゾク。昨則切。職。❶そこなふ(殘)❷ころす(殺)❸おびやかす(劫)❹しへたぐ(虐)❺ぬすむ(盜)❻ぬすびと❼不忠を企つる者❽害惡をなす者❾苗を害する蟲。
【賊虐】そこなふ。(害虐)。書經に「剝二喪元良一、賊二虐諫輔一」
【賊害】前に同じ。劉楨「賊二害忠德一、扇二動奸黨一」
【賊巣】賊のすみか。唐書、杜牧傳に「必覆二賊巣一」
【賊盜】ぬすびと。(盜賊)。春秋、注に「反與二小人一、造二賊盜之計一」
【賊義】正しき道をそこなふ。孟子に「賊レ義者、謂二之殘一」

【賌】カイ。欵開切。灰。かなめ(要)。

七畫

【賏】(い)エイ、ヤウ。於敬切。敬。(ろ)アウ、イヤウ。於莖切。庚。くびかざり(頸飾)。

【賑】(い)シン。章忍切。軫。(ろ)章刃切。震。(い)❶にぎはふ❷とむ(富)(ろ)❶あたふ(給)❷にぎはす❸めぐむ❹たす。
【賑恤】にぎはしすくふ。沈約「尤窮之民、詳加二賑恤一」
【賑賜】物をたまひてにぎはす。魏書に「詔賑二賜河南七州戍兵一」
【賑濟】にぎはしすくふ。
【賑贍】にぎはす。後漢書、鄭顗傳に「稟二卹貧人一、賑二贍孤寡一」
【賑護】にぎはしまもる。後漢書、安帝紀に「其務崇二仁恕一、賑二護寡獨一、稱二朕意一焉」

【賒】シャ、セ。式車切。麻。❶おぎのる❷かす❸とほし(遠)❹おそし(遲緩)❺おごる、おごり(奢に同じ)。
【賒貰】かす。周禮、注に「民無レ貨、則賒貰而予レ之」
【賒貸】前に同じ。漢書に「夫周禮有二賒貸一」
【賒遙】はるかなり。嵆康「宅之吉凶、其報賒遙」

【賓】(い)ヒン。必鄰切。眞。(ろ)必刃切。震。(い)❶みちびく(導)❷したがふ(從)❸まらうど(客人)(ろ)すつ、しりぞく(擯)。
【賓次】賓客を請待するところ。宋史に「主人設二賓次一、加二常儀一」
【賓朋】きゃく。來賓。孔武仲「時邀二賓朋一、敍二野史一」
【賓服】來りてしたがふ。禮記に「暴民不レ作、諸侯賓服」
【賓客】きゃく。來客。論語に「可レ使下與二賓客一言上也」
【賓待】客としてあひしらふ。南史に「知レ非二常人一、賓待甚厚」
【賓接】前に同じ。宋史に「大族夫黨數千人、賓接皆盡レ禮」
【賓筵】客を座せしむる席。溫庭筠「賓筵得二佳客一、侯印有二光輝一」
【賓禮】賓客をもてなす儀式。禮記に「賓禮毎レ進以レ讓」
【賓辭】*Predicate.*〔論理、文法〕命題又は文章の主題につきて立言の意を表はす語。主辭の對。

【賔】ヒン。賓の俗字。

【賕】キウ、グ。巨鳩切。尤。まひなひ。
【賕紋】帛をおくる。賄賂を行ふにいふ。韓非子に「民以レ法難レ犯レ上、而上以レ法撓二慈仁一、故下明二愛施一、而務二賕紋之政一」
【賕賂】まひなひ。漢書に「郡縣賦斂、遞相賕賂」

八畫

【賙】シウ、シュ。職流切。尤。❶たまふ(給)❷たす(贍)❸めぐむ❹にぎはす。
【賙卹】にぎはしめぐむ。金史、雷淵傳に「其友商衡、毎爲レ之辯、且賙卹焉」
【賙惠】すくひめぐむ。唐書に「拯レ孤恤レ窮、救レ乏賙レ惠」
【賙贍】にぎはす。北史に「雖レ有二侍養之名一、曾無二賙贍之實一」

【賚】ライ。洛代切。隊。❶たまふ(賜)❷あたふ(予)❸たまもの。
【賚予】たまふ。
【賚賜】たまふ。たまもの。
【賚錫】前に同じ。唐書、岑文本傳に「既任レ職久、賚錫豐饒」

【賝】ライ。賚に同じ。

【賛】サン。贊の省字。

【賜】シ。斯義切。寘。❶あたふ(予)❷たまふ(錫)❸めぐむ(惠)❹ほどこす(施)❺たまもの、おくりもの。
【賜見】まみゆ。魏書に「無二少長一、皆引入賜レ見」
【賜假】休暇を許さる。南史に「靈運表陳レ疾、賜レ假東歸」
【賜脯】乾肉をたまふ。呂氏春秋に「宣孟更賜二之脯二束一而去」
【賜暇】休暇を許さる。
【賜號】名稱をたまはる。史記に「大破二秦軍閼與下一、賜レ號爲二馬服君一」
【賜酺】官より人民に會聚して酒を飮み樂しむを許す。又、官より飮食物をたまはること。唐書に「王者賜レ酺推レ恩、與レ衆共樂」
【賜賚】たまもの。儲光羲「公卿時見レ賞、賜賚難二具紀一」
【賜謚】おくりなを君よりたまふ。周禮に「小喪賜レ謚」注に「小喪、卿大夫也」

【賞】シャウ。書兩切。養。❶たまふ(賜)❷あたふ(與)❸おくる(貽)❹よみす(嘉)❺すすむ(勸)❻たふとぶ(尙)❼もてあそぶ(玩)❽たまもの、おくりもの。
【賞刑】善をほめ惡をつみす。左傳に「惠二此中國一、以綏二四方一、不レ失二賞刑一之謂也」
【賞味】ほめてあぢはふ。
【賞典】褒美にたまはる金祿など。
【賞首】第一等の賞を受けたるもの。淮南子に「高赫爲二賞首一」
【賞揚】ほめあぐ。ほめはやす。
【賞牌】*Medal.* 運動會などの際優等者に與ふる徽章。めだる。
【賞嘆】ほめはやす。
【賞賢】賢者をたっとぶ。荀子に「賞レ賢使レ能」
【賞贊】ほめたたふ。ほめはやす。
【賞翫】ほめはやしもてあそぶ。
【賞賜】功勞をほめて、物をたまふ。褒美。
【賞罰無レ章】賞罰當を失って條理を成さず。左傳に「賞罰無レ章、何以沮レ勸」

【賠】ハイ、ベ。薄回切。灰。つぐのふ(辨償)。
【賠償】他人に蒙らしめたる損害をつぐのふ。

【賡】カウ、キャウ。古行切。庚。つぐ(續)。
【賡酬】詩を贈答す。(酬賡)。張耒「頼有二西隣詩句好一、賡酬終日自忘レ饑」

【⿰貝居】キョ、コ。九魚切。魚。❶うる(賣)❷たくはふ(貯)。

【賢】(い)ケン、ゲン。戸田切。先。(ろ)下見切。霰。(い)❶かしこし❷かしこき人❸よし(善)❹まさる(勝)(ろ)おほあな(大穿)。
【賢人】かしこきひと。易經に「可レ久

則賢人之德、可レ大則賢人之業一

【賢才】すぐれたるはたらき。又、すぐれたるはたらきある者。書經に「任レ官惟賢才、左右惟其人」

【賢王】かしこき王。孟子に「古之賢王、好レ賢而忘レ勢」

【賢友】かしこきとも。論語に「樂レ多二賢友一益矣」

【賢母】かしこきはは。詩經、疏に「文王所三以得レ聖、由二其賢母所一レ生」

【賢主】かしこききみ。呂子に「賢主勞レ求レ人、而佚二于治一レ事」

【賢臣】かしこき家來。漢書に「責以二古賢臣之義一」

【賢胄】かしこきものとおろかなるもの。梁簡文帝「民無二賢胄一、愛均二一子一」

【賢良】かしこくして善良なり。周禮に「一曰友行、以尊二賢良一」

【賢君】かしこききみ。墨子に「雖レ有二賢君一、不レ愛二無功之臣一」

【賢明】かしこくあきらかなり。聖主得賢臣頌に「故世必有二聖智之君一、而後有二賢明之臣一」

【賢英】かしこくすぐれたる者。漢書に「欲三以致二天下賢英之士一」

【賢彦】前に同じ。晉書に「華地豐屋、廣延二賢彦一」

【賢相】かしこき宰相。史記に「齊國安集、大稱二賢相一」

【賢哲】かしこくさとし。高適「世情薄二疵賤一、夫子懷二賢哲一」

【賢能】德あるものと才智あるものと。書經に「建官惟賢、位事惟能」

【賢淑】かしこくしてよし。白居易「韋門女清貴、裴氏甥賢淑」

【賢甥】かしこきをひ。王維「寧親爲二令子一、似レ舅卽賢甥」

【賢智】ちゑありてかしこし。韓非子に「賢智未レ足二以服一レ衆」

【賢聖】かしこくすぐる。又、その者。孟子に「賢聖之君、六七作」

【賢輔】かしこき宰相。後漢書に「梁商稱爲二賢輔一」

【賢豪】かしこくすぐれたる者。蘇軾「獨能容レ我眞賢豪」

【賢レ賢】賢人をたっとびうやまふ。論語に「賢レ賢易レ色」

【賢操】かしこきみさを。漢書、張湯傳に「雖二賈人一有二賢操一」

【賣】㋑バイ、メ。莫蟹切。卦。㋺バ、メ。莫駕切。禡。㊀うる、ひさぐ、あきなふ㊁あざむく(欺)㊂みかたの事情を敵に通ず。

【賣友】友人をあざむく。後漢書に「諂レ貴賣レ友、貪レ官埋レ母」

【賣交】前に同じ。史記に「天下稱二酈況賣一レ交」

【賣名】名をてらふ。莊子に「子非三獨弦哀歌、以賣二名聲於天下一者上乎」

【賣國】私利の爲に國を他に與ふ。史記に「鄭人或賣二其國於秦一」

【賣買】うりかひ。周禮、注に「聽二賣買一以二質劑一」

【賣藥】うりぐすり。又、藥をうる。唐書に「處二一室一、賣藥自業」

【賣レ文爲レ活】文章を以て糊口の資となす。杜甫「故人南郡去、去索作レ碑錢、本賣レ文爲レ活、飜令二室倒懸一」

【賣レ劍買レ牛】兵革の事を止めて農業に就かしむるをいふ。漢書に「龔遂爲二渤海太守一、見下齊俗奢侈、好二末技一不中田作上、迺躬率以二儉約一、勸二民務一農桑一、民有下帶二持刀劍一者上、使三賣レ劍買レ牛、賣レ刀買レ犢、吏民皆富貴」

【賨】ソウ、ズ。藏宗切。冬。みつぎ(貢賦)。

【賤】セン、ゼン。才線切。霰。㊀いやし㊁ひくし(低)㊂やすし(廉)㊃いやしきもの㊄いやしむ㊅あなどる。

【賤劣】おとる。漢書、注に「其賤劣如二僮豎一」

【賤技】いやしきわざ。江淹「掾二三五賤技之末一」

【賤物】ものをいやしむ。管子に「聖人上レ德而下レ功、尊レ道而賤レ物」

【賤易】あなどる。いやしむ。漢書に「輕二謾宰相一、賤二易上卿一」

【賤侮】いやしめあなどる。北史に「恃レ戈矜レ貴、賤二侮朝臣一」

【賤貧】いやしくまづし。盧綸「遂レ性在二耕稼一、所レ交惟賤貧」

【賤族】いやしきやから。宋書に「下品無二高門一、上品無二賤族一者也」

【賤買】廉價にてかふ。後漢書、注に「豪富之家賤買、故得二其饒利一」

【賤微】いやし。闘朝隱「菲形陋質雖二賤微一、皇王顧遇長二光輝一」

【賤棄】いやしみすつ。易林に「刺刖髠劓、人所二賤棄一」

【賤質】いやしきうまれつき。晉書に「求二媒陽之美談一、推二沙礫之賤質一」

【賤價】ねだんをやすくす。唐書に「貴則賤レ價而糶」

【賤軀】いやしきからだ。鮑照「契闊傷二賤軀一」

【賤職】くらゐひくき官。文心雕龍に「況班馬之賤職、潘岳之下位哉」

【賤隸】しもべ。北史に「以充二賤隸一」

【賤丈夫】いやしきをとこ。孟子に「征レ商自二此賤丈夫一始」

【賦】フ、ホ。方遇切。遇。㊀とりたて、みつぎ、とりたてるもの㊁しく(布)㊂わかつ(頒)㊃あたふ(予)㊄さづく(授)㊅うく(受)㊆はかる(量)㊇ぶやく㊈詩歌を詠ず㊉一種の詞體⑪貢士。

【賦用】みつぎもの。周禮に「凡邦之賦用取具焉」

【賦役】ぶやく。えだち。韓愈「齊民逃二賦役一、高士著二幽禪一」

【賦卹】人にわりつけてにぎはしめぐむ。後漢書に「帝疑二賦卹有レ虚一」

【賦租】みつぎもの。蘇軾「人間行路難、踏地出二賦租一」

【賦徭】みつぎものとぶやくと。舊唐書に「擇二其宰輔一、輕二其賦徭一」

【賦詠】詩歌などをつくる。南史に「清言賦詠、優游自得」

【賦稅】人民よりとり立つるみつぎもの。史記に「其收二賦稅於レ民、以二小斗一受レ之」

【賦課】わりあつ。

【賦稟】うまれつき。梅堯臣「竊嘗恃二賦稟一、平直如二勁箭一」

【賦詩】詩をつくる。蘇軾「橫レ槊賦レ詩、固一世之雄也」

【賥】スヰ。雖遂切。寘。たから(貨)。

【賩】㋑セイ、ジャウ。疾正切。敬。㋺疾盈切。庚。㋑たまふ(賜)㋺たまはる。

【賨】ソウ、ズ。賨に同じ。

【質】㋑シツ、シチ。之日切。質。㋺チ。陟利切。寘。㋩シ。脂利切。寘。㋑㊀ただし、ただす(正)㊁なほし(直)㊂よし(善)㊃さだむ(定)㊄たひらぐ(平)㊅なす(成)㊆こたふ(對)㊇うまれつき(天受)㊈もちまへ㊉すなほ(樸淳)⑪まこと(實)⑫まごころ(誠)⑬くびりだい(斫椹)⑭てがた、あかし(驗券)⑮まと、めあて(標的、十尺を候となし、四尺を鵠となし、二尺を正となし、四寸を質となす)⑯にぎり(弓弣)⑰ちかひ(盟約)㋺㊀しち㊁しちいれ㋩にへ(贄に同じ)。

【質子】ひとじち。史記に「莊襄王爲二秦質二子于趙一」

【質木】いつはりなく正直なり。かざりなし。漢書に「天水隴西數郡、民俗質木、不レ恥二盜賊一」

【質正】ただす。後漢書に「從二侍中賈逵一質二正大義一」

【質朴】いつはりなく正直なり。かざりなし。後漢書、何休傳に「休爲レ人、質朴訥口」

【質成】ただして公平にす。詩經に「虞芮質二厥成一、文王蹶二厥生一」

【質明】ただしあきらかにす。儀禮に「質二明行事一」

【質的】弓のまと。荀子に「質的張而弓矢至」

【質性】うまれつき。齊民要術に「質性有強弱」
【質要】てがた。證書。左傳、注に「質要、劵契也」
【質素】かざりなし。呉志に「其所文采、惟施軍器、餘皆質素」
【質眞】かざりけなくまことなり。淮南子に「太清之始也、和順以寂漠、質眞而素樸」
【質問】ただしとふ。陸游「稗子挾書勤質問」
【質責】せめただす。史記、汲黯傳に「黯數質責湯于上前」
【質慤】かざりけなくまことなり。後漢書、第五倫傳に「倫性質慤少文」
【質疑】うたがひをただす。漢書に「張竦居貧無賓客、時時好事者、從之質疑問事」
【質劑】あづかり證文。周禮に「以質劑結信、而止訟」
【質讓】ただしせむ。後漢書に「直前質讓、責以大義」
【質鬼神】是非を神明に問ひただす。中庸に「質諸鬼神而無疑」

九畫

【賭】ト、ツ。當古切。麌。❶かく❷かけもの❸かけごと。
【賭賽】ばくち。北史に「賭賽遂至極歡、際夜乃罷」
【賭戲】かけごとのあそび。齊書に「與第一品王抗、圍碁依品賭戲」

【賮】ジン。徐刃切。震。おくりもの、はなむけ、たから。

【賴】ライ。落蓋切。泰。❶よる(依)❷たのむ(恃)❸たよる、たより(憑藉)❹う(得)❺あた(讎)❻まうけ(利)。說文に「貝に从ふ、剌の聲、俗に、頼に作るは非なり」

【賲】ハウ、ボウ。博抱切。皓。❶たもつ(有)❷こめぐら(粟藏)❸とりまぜたる寶物。

【賵】ボウ、ブ。撫鳳切。送。❶おくる❷おくりもの。
【賵弔】死者に物を贈る。喪ある家に物を贈る。唐書に「帝走中人賵弔」

十畫

【賸】㋑ヨウ。以證切。徑。㋺ショウ、ジョウ。實證切。徑。㋑❶おくる(送)❷ます(益)㋺❶ます(益)❷のぶ(長)❸あまる(餘)。

【賺】㋑タン、デン。直陷切。陷。㋺レン、ロン。離鹽切。鹽。❶あきなふ、うる(賣)❷すかす。

【賻】フ、ブ。符遇切。遇。❶おくりもの❷おくる(贈)❸たすく(助)。
【賻祭】死者に品物を贈りて祭る。後漢書に「後追加賞賜賻祭」
【賻賚】喪儀を助くるおくり物、かうでん。宋史に「賻賚甚厚」
【賻儀】前に同じ。
【賻賵】前に同じ。白虎通に「貨財曰賻、車馬曰賵、玩好曰贈、衣服曰襚」又、漢書、敍傳に「賻賵甚厚」

【購】コウ、ク。古候切。宥。❶あがなふ(買)❷かふ(買)❸つのる(募)❹しろよもぎ。
【購求】あがなひもとむ。漢書に「高祖購求布千金」
【購客】物をかふ人。かひて。
【購捕】賞を懸けてとらふ。魏志に「厚見褒獎、重見購捕」
【購得】あがなふ。陳書に「僧辯素聞其名、於軍中購得之」
【購讀】書籍などを買ひ入れてよむ。

【賾】サク、シャク。士革切。陌。❶おくふかし❷おく深き道理。

【賽】サイ。先代切。隊。❶れいまつり(報祭)❷勝をほこりあふこと。

十一畫

【賿】ラウ、レウ。力交切。肴。ぜに、かね。

【賾】サク、シャク。賾の俗字。

【贄】㋑シ。脂利切。寘。㋺チフ。陟立切。緝。㋩ゲツ、ゲチ。魚列切。屑。㋑にへ㋺㋩うごかざる貌。
【贄然】屹立して動かざる貌。莊子に「贄然立曰、叟何人邪」

【贅】㋑ゼイ、セ。朱芮切。霽。㋺ガウ、ゲウ。牛交切。肴。㋑❶むだ❷煩はしきこと❸むだもの❹しち、しちいれ(質)❺こぶ(剩肉)❻つく、つづく(屬)❼あふ(會)❽とる(取)❾う(得)❿さだむ(定)⓫いりむこ(女壻)㋺媚びざること。
【贅子】❶いりむこ。養子。漢書、注に「贅子者、謂令子出就婦家、爲贅壻耳」❷古昔、借財の保證の爲に債主の許に遣はし置けるこども。漢書に「民待賣爵贅子、以接衣食」
【贅木】こぶある木。丸經に「贅木爲丸、乃堅乃久」
【贅言】無用のことば。むだぐち。揚子法言に「言書不經、多多贅矣」
【贅疣】贅は剩肉(コブ)、疣は瘻瘤(イボ)なり。無用のものに喩ふ。莊子に「附贅縣疣、出乎性哉、而侈於性」
【贅壻】むこ。史記に「淳于髡齊贅壻」
【贅旒】贅は屬なり、旒は旗の垂るるものなり、繫屬せる旒は下の爲に執りて動かさる、因りて君主が臣下の爲に動かされて危きに喩ふ。公羊傳に「君若贅旒然」
【贅辯】無用のことば。むだぐち。

十二畫

【贆】ヘウ。甫遙切。蕭。陸に居る貝。

【賸】ヨウ。賸に同じ。

【䞈】㋑キ。居僞切。寘。㋺貨に同じ。

【贇】❶かけ(賭)❷たから(財)。イン。於倫切。眞。よし、うつくし、美好なる貌。

【䞍】ヘイ、ベイ。幣に同じ。

【贈】ソウ、ゾウ。昨亙切。徑。❶おくる❷つかはす、送與す❸官位を追賜す❹おくりもの、せんべつ、みやげ。
【贈位】その人の死後におくる位階。
【贈別】見送る。馬戴「年年御溝柳、贈別雨霏霏」
【贈答】おくるとこたふると。
【贈賄】しんもつ。左傳に「自郊勞至于贈賄、禮成而加之以敏」
【贈賜】おくりたまふ。吳志に「饗宴贈賜、恩敬特隆」
【贈遺】人に物品をおくる。又、おくりもの。しんもつ。
【贈錢】はなむけをおくる。國語に「賓禮贈錢、視其上從之」

【贉】タン、ドン。徒感切。感。❶てつけ、さきざん❷はりぎぬ(玉池)。

【贊】サン。則旰切。翰。❶たすく(助)❷すすむ(進)❸あきらむ(明)❹みちびく(導)❺つぐ(告)❻ひかふ(控)❼まみゆ(見)❽とく(說)❾人の善美を稱述する辭。說文に「見なり、貝に从ひ、兟に从ふ」六書正譌に「俗に、讚に作るは非なり」
【贊成】その事に同意してたすく。
【贊同】前に同じ。
【贊決】たすけてとりきむ。元史に「贊決機務、精練明敏」
【贊美】よきことをたすけなす。晉書に「故竭愚思、以贊其美」
【贊揚】ほめあぐ。後漢書、孔融傳に「融與禰衡、更相贊揚」
【贊襄】君をたすけて治をなす。書經に「思日贊贊襄哉」
【贊翼】たすく。(翼贊、輔翼)。魏志、邢顒傳に「臨菑侯植有寵、丁儀等並贊翼其美」

【𧹞】ヒン。必鄰切。眞。みえざる貌。

十三畫

【贍】セン、ゼン。時豔切。豔。㊀たる㊁たす、すくふ、にぎはす㊂やすし、やすんず(澹に同じ)。

【贍郵】にぎはしめぐむ。南史、梁武帝紀に「詔尤貧者、贍郵各有レ差」

【贍富】ゆたかなり。晉書、王接傳に「常謂、左氏辭義贍富」

【贍逸】ゆたかにして俗をこゆ。南史、王道規傳に「鮑照文辭贍逸、嘗作二古樂府一、文甚遒麗一」

【贍腴】ゆたかなり。後漢書、杜篤傳に「肇十有二、是爲二贍腴一」

【贍賑】にぎはす。北史に「散レ財竭レ產、以相贍賑」

【贍護】にぎはしすくふ。吳志に「贍二護六親一、俸祿產業、皆與共分」

【賺】㋑タン、トン。佇陷切。陷。㋺レン、ロン。離驗切。驗。㋑だます、すかす、あやまる㋺うる。

【贏】エイ、ヤウ。以成切。庚。㊀あまる、あます(餘)㊁あまり、のこり(殘餘)㊂みつ(滿)㊃うく(受)㊄になふ(擔)㊅ゆるむ(緩)㊆とく(解)㊇さかんなり(盛)㊈あふる(溢)㊉まうけ(利得)⑪すぐ(過)⑫かち(勝利)。

【贏利】あまし得たる利益。まうけ。史記に「與レ時俯仰、獲二其贏利一」

【贏餘】あまり。(餘贏)。

【贏縮】のぶとちぢむと。又、はしりすすむと退き舍ると。淮南子に「贏縮卷舒、淪二于不測一」

【贏儲】餘裕あるたくはへ。唐書に「藏貨贏儲之準、悉以資レ之」

十四畫

【贐】ジン。徐刃切。震。はなむけ、せんべつ(餞別)。

【贐行】門出のはなむけ。孟子に「予將レ有二遠行一、行者必以レ贐」

【贐儀】門出を見送る禮。成語考に「送レ行之禮、謂二之贐儀一」

【贓】㋑サウ。則郎切。陽。㋺ザウ。慣用音。不正の手段にて得し物品を藏しおくこと、賄賂を受くること。

【贓吏】不正の財を取る吏。朱熹「痛懲二贓吏一者、恤レ民之要道也」

【贓狀】官吏の官物を盜むさま。晉書に「丘池令尹興、贓狀狼藉」

【贔】ヒ。平祕切。寘。㊀おほがめ(贔屭)㊁自ら氣をなす貌。㊂さかんに力を用ゐる貌。

【贔怒】㊀いかる。水經、注に「鑿二平涸崖一、河神贔怒」㊁水はげしく流る。水經、注に「鯀流千丈、渾洪贔怒」

【贔屭】㊀さかんに力を用ゐる貌。又、自ら氣を作す貌。杜甫「昔在開元中、韓蔡同二贔屭一」㊁(動)おほいなる龜。本草に「蟕蠵、一名贔屭」㊂我國にて、援引(ヒキ)の意に用ゐる。

十五畫

【⿰貝廛】テン、デン。直善切。銑。人の財物をはかりとる。

【⿰卵賣】トク、ドク。徒谷切。屋。㊀卵いまだ孵化せずして敗る㊁胎死す、やぶる。

【贖】ショク、ゾク。神蜀切。沃。㊀あがなふ㊁かふ(貿易)㊂財にて罪をまぬかる。

【贖刑】金錢を出して刑を免る。書經に「金作二贖刑一」

【贖罪】金錢を出して罪を免る。宋史に「若過誤者、許二人入レ粟贖レ罪」

【贗】ガン、ゲン。魚澗切。諫。或は鴈に作り、俗に、贋に作る。にせ。

【贗本】にせの書物。竹坡詩話に「公可レ無レ疑二此贗本一耳」

【贗造】にせてつくる。又、にせもの。

十六畫

【贙】ケン。黃練切。霰。㊀わかる(分)㊁あらそふ(爭)㊂獷惡にして狗に似たる一種の獸。

【⿰貝親】シン。初覲切。震。㊀ぜに(錢)㊁ほどこす(施)。

十七畫

【贛】㋑コウ、ク。古送切。送。㋺カウ、コウ。呼降切。絳。㋩カン、コン。古禫切。感。㋥コウ、ク。呼貢切。送。㋑㋺たまふ、たまもの(賜)㋩㊀江西省にある州の名㊁鄱湖に注ぐ水の名㋥おろか(戇に同じ)。

赤部

部首

【赤】セキ、シャク。昌石切。陌。㊀あか、朱色、あかし㊁むなしきこと、露出せること㊂のぞく、はらふ(㪨に通ず)㊃本體をあらはすこと㊄きない(畿甸)。

【赤子】あかご。書經に「若レ保二赤子一、惟民其康乂」

【赤土】草木の生ぜざる土地。白居易「不レ見二青苗一空赤土」

【赤手】すで。(空手)。蘇軾「當年老使君、赤手降二於菟一」

【赤心】㊀まごころ。後漢書に「蕭王推二赤心一、置二人腹中一」㊁あかいろのなかみ。趙整「內實有二赤心一」

【赤地】草木の生ぜざる土地。史記に「晉國大旱、赤地三年」

【赤衣】罪人の著るきもの。說苑に「赤衣塞レ路」

【赤血】なまなましたる赤きち。(丹血)。李白「羅袖灑二赤血一、英聲凌二紫霞一」

【赤金】あかがね。銅。山海經に「岐山其陽多二赤金一」

【赤帝】夏をつかさどる神。

【赤馬】㊀あかうま。㊁はやふね。古今註に「孫權時名レ舸爲二赤馬一」

【赤豹】赤毛に黑き斑點ある豹。詩經、傳に「毛赤而文黑、謂二之赤豹一」

【赤族】一族を悉く亡ぶ。誅せらるる者血を流す故にいふ。一說に、赤は空なり、一族を盡して空しうする義なりと。解嘲に「不レ知二一跌將レ赤二吾之族一也」

【赤貧】甚だしくまづし。書言故事に「常言二人貧一、曰二赤窮赤貧一」

【赤脚】㊀仙人の名。揮麈後錄に「赤脚仙人、古之得道李君也」㊁はぎをあらはす。劉因「夜來赤脚踏二蒼鱗一」

【赤痣】ほくろ。南史、梁丁貴嬪傳に「生而有二赤痣一」

【赤楓】あかきかへで。杜甫「赤葉楓林百舌呼」

【赤道】地軸に直交する地球表面の大圈をいふ。後漢書に「赤道黃二帶渾天之腹一、去レ極九十一度十分之五」

【赤銅】あかがね。又、あかがねに黃金を混じて製したる合金。しゃくどう。山海經に「櫃谷山多二赤銅一」

【赤裸】まるはだか。(生膚)。

【赤髯】あかきひげ。蘇軾「赤髯碧眼老鮮卑」

【赤鴈】あかき色のかり。史記に「行幸二東海一、獲二赤鴈一」

【赤墀】墀は階上の地、天子の殿階の地には丹をぬる、故に赤墀といふ。(丹墀)。漢書、元后傳に「曲陽侯根、驕奢僭レ上、赤墀青瑣」

【赤質】㊀あか色のまと。儀禮に「諸侯麋赤質」㊁あかき地色。陸璣詩疏に「又有二紫貝一、赤質如レ玉、紫點爲レ文」

【赤鴉】太陽の異稱。聶夷中「白兎落二天西一、赤鴉飛二海底一」

【赤頰】(動)鵲の異名。正字通に「赤頰、鵲別名」

【赤繩】緣つなぎのなは。幽怪錄に「韋固旅二次宋城一、遇二異人一、向レ月檢レ書、因問二囊中赤繩一、云、繫二夫婦之足一、雖二仇家異域一、此繩一係、終不レ可レ易」

【赤霞】あかきかすみ。薩都剌「排レ空嶒石生二玄筍一、落日奇峰挂二赤霞一」

【赤鯉】(動)ひごひ。古今註に「兗州人、呼二赤鯉一爲二赤驥一」

【赤松子】仙人の名。史記に「願棄二人間事一、從二赤松子一游耳」

【赤孫施】(植)ほほづきの異名。

【赤根菜】セキコン 〔植〕ほうれんさう。
【赤赫剌】セキワツソ 詩經の侯人の章より、君主の君子を遠ざけて小人を近づけ、又、位に在る者その德にたへざるなそしる語。後漢書、東平王蒼傳に「將レ被二詩人三百赤赫之刺一」
【赤衣使者】セキイシヤ 〔動〕あかとんぼうの異名。古今註に「一名赤衣使者、亦名二赤弁丈一」
【赤蛾神州】セキケンシンシウ 漢土の異稱。史記に「中國名曰二赤蛾神州一」

四畫

【赽】シ・青移切、支。一種の塗料、べに(縹赽)。ケキ、キヤク。許激切。錫。
【赦】一あか、あかし(赤)二笑ふ聲。㊥シヤ、セ。始夜切。禡。ろサク、ジヤク。測革切。陌。㊥ゆるす(釋)、なだむ ろうつ、たたく。
【赦免】シヤメン 罪をゆるす。舊唐書に「縱逢二赦免一竝終身勿レ齒」
【赦例】シヤレイ 特典によりて罪をゆるしたる前例。晉書に「大二赦境内一惟準二一門一不レ在二赦例一」
【赦宥】シヤイウ ゆるす。左傳に「君不二赦宥一、臣亦不二帥職一」
【赦原】シヤゲン 前に同じ。魏志に「後見二赦原一、賜二之斧鉞一」
【赧】ろセキ、キヤク。呼格切。陌。ろセキ、キヤク。迄逆切。錫。㊥嚇に同じ。㊥一あかし、赤色の貌二あらはる、あらはす、あきらかなり(顯)㊥かがやく、ひかる、光明な發する貌㊦いかる貌㊧あつし、あぶる七人の姓ろはやし、すみやかなり(速)ねうすし、すくなし(薄小)。
【赫火】カクワ さかんなるひ。李白「氣赫火而獻煙」
【赫吃】カクカツ いかる。吳志、陸凱傳に「賢眞憤怨、智士赫吃」
【赫奕】カクエキ かがやく。李商隱「赫奕君乘御史驄」
【赫怒】カクド さかんにいかる。王粲「運二茲威一以赫怒」
【赫赫】カクカク 一盛んなる貌。詩經に「赫赫明明」二熱氣の發する貌。詩經に「赫赫炎炎、云我無レ所」
【赫戲】カクキ 光明を發する貌。離騷に「陟レ登皇之赫戲兮」
【赫蹏】カクテイ 薄小なる紙。漢書に「赫蹏書」
【赫曄】カクエフ あきらかなり。王令「行義不二赫曄一、名聲無二萎蔫一」
【赫曦】カクキ かがやける日光。潘岳「隆暑方赫曦」
【赫顯】カクケン いちじるし。宋史に「無二赫顯惡一、惟一時案斂」

五畫

【赧】ろタン、ナン。乃版切。潸。ろタン。慣用音。
あからむ、はぢらふ。はぢらふ貌。孟子に「覩二其色一赧赧然」
【赧然】ファンヂン 顏をあかくしてはづ。(愧赧)。
【赧愧】カンキ 世說に「果然鬼赧愧而退」
【赦】ろトウ、ヅ。徒冬切。冬。ろイウ、ユ。余中切。東。
ろデン、ネン。尼展切。銑。ろ赧に同じ。㊥笛の聲のゆるき貌。

六畫

【赦】一あか、あかし(赤)ろあかいろの一種
【赫】キヨク、ケキ。許極切。職。一あかし、大赤の貌二むなし、草木なき貌三いかれる貌。
【赫】あかし。(殷紅)。宋之問「夕陽分艷紅」

七畫

【赬】テイ、チヤウ。丑貞切。庚。
あか、赤色。

七畫

【赭】エン。因連切。先。面をかざるに用ゐる一種の塗料、べに(縹赭)。
【赬】テイ、チヤウ。丑貞切。庚。
あか、再染の赤色。
【赬尾】ビテイ あかきを。詩經に「魴魚赬尾」傳に「赬、赤也、魚勞則尾赤」
【赬霞】カイ ゆふやけ。宋孝武帝「驚瀾翻二魚藻一、赬霞照二桑榆一」
【赬顏】ガイ あかきかほいろ。李賀「逆旅飲二千觴無一顏顏一」
【赭】一あか、あかし(赤)二ちかつち(赤土)三物つきてむなしきこと。
【赭山】シヤザン 一はげやま。(禿山)。二山をはがす。史記、秦始皇紀に「伐二湘山樹一、赭二其山一」
【赭汙】シヤカン 一家を誅滅しけがす。沈約「不レ待二赭汙之讎一而姦渠必窮」
【赭汙】カンシヤ 血いろのあせ。虞世南「赭汗千金馬、繡軸五香車」
【赭面】シヤメン あかきかほ。唐書、吐蕃傳に「國人赭面」
【赭堊】シヤアク あかくぬりたるかべ。漢書に「其土則丹青赭堊」
【赭白馬】シヤハクバ つきげうま。晉書、慕容廆載記に「廆常乘二赭白馬一」

十畫

【赮】カ。霞に同じ。
あか。

十畫

【赯】タウ、ダウ。徒郎切。陽。
一あか、赤色二面のむらさきいろなること。
【赱】ロクワン。胡管切。旱。
ろカン。古案切。輸。
【赫】一あか、赤色二にごる(濁)ろおほいあかし。

十一畫

【赽】キフ、コフ。許及切。緝。
あかき貌。

十四畫

【赩】ヂジュ。汝朱切。虞。ろユ。容朱切。虞。
【赫】ろあす、色おつ。キヨク、クキ。呼逼切。職。
あか、赤き色。

走 部

部首

【走】ソウ、ス。子苟切。宥。
一はしる、はす二はしらす三めしつかひ、やっこ(奴僕)。
【走介】ソウカイ はしりつかひ。歐陽原功「紅傳進二無簠一、走介奉二一札一」
【走肉】ソウニク 生きて生きがひのなきもの、即ち、無用の人をいふ。拾遺記に「不レ學者雖レ存、謂二之行尸走肉一爾」
【走利】ソウリ きそうて利益をもとむ。魏書に「戒爭レ途以走レ利」
【走使】ソウシ はしりつかひ。通典に「魏以二諸曹走使一曰二鳧鴨一、取二其迅速一」
【走狗】ソウク よくはしりまはるいぬ。史記に「狡兎死走狗烹」
【走卒】ソウソツ はしりつかひ。漢書に「貧亡二車馬一、常步與二走卒一起居」
【走涙】ソウルイ はやせのなみだ。學梁王「跳波走涙、濺レ沫而相及」
【走舸】ソウカ はやふね。(單舸、輕舸)。吳志、周瑜傳に「又選二精銳一、乘二走舸一、各繫二大船後一、引次俱前」
【走集】ソウシフ 邊境のとりで。左傳に「險二其走集一、親二其民人一」
【走散】ソウサン ちりぢりになりてにぐ。宋書に「彼求レ戰不レ得、自然走散」
【走避】ソウヒ はしりさく。唐書、高祖諸子傳に「觀二其走避一則樂」
【走趨】ソウシユ はしる。韓愈「佩玉長裾、不レ利二走趨一」
【走竄】ソウザン のがれかくる。(奔竄)。禮記、注に「象二鳥雀之走竄一也」
【走馬燈】ソウバトウ まはりどうろう。

二畫

【赳】㋑キウ、ク。居黝切。有。㋺祈幼切。宥。
㋑たけし、つよし、おもひきりよし、體かろく力つよくして伎能ある貌㋺龍の頭を伸べて行く貌。

【赴】フ、ホ。芳遇切。遇。㊀おもむく㊁いたる(至)㊂おもむき告ぐ。

【赴任】任地におもむく。宋史に「其赴ニ任川陝ー者、給ニ驛券ー」

【赴討】ゆきてうつ。吳志に「桓督ニ領諸將ー、周旋赴討、應ニ皆平定ー」

【赴救】ゆきてすくふ。魏志に「太祖乃遣レ兵赴救」

【赴援】その場所におもむきたすく。

【赴義】道におもむく。任俠をなす。南史に「赴レ義者竝可レ依」

三畫

【赶】㋑ケン、ゴン。巨言切。元。㋺ケツ、ゲチ。其月切。月。㋩カン。古旱切。旱。
㋑㋺はしる、尾を擧げて走る、馬はしる㋩はしる。

【起】キ。墟里切。紙。
㊀たつ、身をおこす㊁おく、おこす、おこる、㊂ふるひおこる(奮興)㊃ひらく(啓發)㊄人の姓。

【起予】己の氣づかざることを他より氣づかさるる義。論語に「起レ予者商也、始可ニ與言レ詩矣」

【起立】たつ。指月錄に「見ニ代宗來ー起立」

【起句】詩の第一句。滄浪詩話に「起句好尤難レ得」

【起牀】ねどこよりおき出づ。

【起拜】立ちてをがむ。漢書、董賢傳に「單于乃起拜、賀ニ漢得ニ賢臣ー」

【起居】たちゐ。おきふし。書經に「出入起居」

【起草】文のしたがきを書きはじむ。後漢書、百官志に「侍郎三十六人、本注曰、一曹有ニ六人ー、主ニ作ニ文書ー起レ草」

【起動】㊀たちゐふるまひ。易林に「世祿久長、起動安寧」㊁うごく。梁昭明太子「眞理寂然、無ニ起動相ー」

【起復】官吏の除服出仕をいふ。通鑑、注に「起復者、起ニ之於苦塊之中ー、復ニ其位ー也」

【起跪】たつとひざまづくと。李孝光「白石如ニ白羊ー、起跪變化速」

【起義】よき道によりてたつ。春秋左傳、序に「一曰、徵而顯、文見ニ於此ー、而起ニ義在レ彼」

【起滅】いづるときゆると。皇甫曾「寒磬虛空裏、孤雲起滅間」

【起債】金をかる。漢書に「爲レ人起レ債、分レ利受レ謝」

【起煙】けむりをたつ。魏志に「起ニ煙於寒灰之上ー、生ニ華於已枯之木ー」

【起塵】ほこりをたたす。左傳、注に「曳レ柴起レ塵、詐爲ニ衆走ー」

【起稿】したがきを書きおこす。

【起承轉結】詩の構成に就ていふ語、第一句を起とし、第二句を承とし、第三句を轉とし、第四句を結とす、卽ち、渭城朝雨浥ニ輕塵ー(起句)、客舍青青柳色新(承句)、勸レ君更盡ニ一杯酒ー(轉句)、西出ニ陽關ー無ニ故人ー(結句)なり。

四畫

【䞶】タン、トン。他感切。感。たちもとほる(趑趄)。

【𧺝】サフ、ソフ。子答切。合。㊀はしる貌㊁急にはしる貌(趚趄)。

【䞹】㋑キ、ギ。巨支切。支。㋺キ。去彼切。紙。
㋑㊀よる、大木に緣る㊁ゆく貌㊂鹿の走るにいふ㊃猱の木に升る貌㋺行く。

【赽】㋑ケツ、ケチ。古穴切。屑。㋺ケイ、ケ。涓惠切。霽。
㋑㊀はしる(走)㊁はやし(疾)㊂ふむ(蹀)㋺はしる貌。

【赾】キン、コン。丘謹切。吻。
㊀なやむ、かたし(難)㊁つつし

む(愼)㊂ゆくに謹む貌㊃よろめく、跛行の貌。

五畫

【趁】㋑チン。丑刃切。震。㋺チン、ザン。直珍切。眞。㋩デン、ネン。尼展切。銑。㋥チン。知鄰切。眞。㋭シン。止忍切。軫。㋬テン、ネン。乃殄切。銑。
㋑㊀ゆきなやむ(邅)㊁おふ(逐)㋺㊀こえふむ(越履)㊁さわぐ(躁)㋩ふむ(踐)㋥行きてすすまざる貌(趁邅)㋭はしる(走)㋬ふむ(蹈)。

【趁煖】あたたかき場所をおひあるく。中山詩話に「頑童趁レ煖貪ニ春睡ー」

【趁邅】行きて進まざる貌。

【趂】チン、ヂン。シン。デン、ネン。趁に同じ。

【𧺐】㋑フツ、ホチ。符弗切。物。㋺ヒ。芳未切。未。
㊀をどる(跳)㊁はしる貌。

【𧺸】ハク、ヒャク。匹陌切。陌。㊀こゆ(越)㊁せまる(逼)。

【䞡】タン。他旱切。旱。ゆく(行)。

【趄】ショ、ソ。七余切。魚。㊀たたずむ㊁ゆきなやむ。

【超】㋑テウ。勅宵切。蕭。㋺丑小切。篠。㋩他弔切。嘯。
㋑㊀こす、こゆ(越)㊁わたる(渡)㊂たかし、とほし㊃すぐ(過)㊄をどる(跳)㋺かろく走る貌㋩こゆ(越に同じ)。

【超升】官位をとびあがる。舊唐書に「今課績高者、不次超升」

【超次】順次によらずのりこす。張說「既立ニ殊常之勳ー、遂蒙ニ超次之命ー」

【超拜】順序をこえて官につく。張九齡「遠圖嘗畫レ地、超拜乃登レ壇」

【超拔】こえぬきんづ。蘓舜欽「恐其立ニ異動ー、欻然自超拔」

【超俗】世俗よりはなれぬきんづ。(脫俗)。人物志に「超レ俗乘レ高、獨行ニ乎三等之上ー」

【超乘】くるまにとびのる。左傳に「秦師過ニ周北門ー、左右免レ冑而下、超乘者三百乘」

【超悟】人にすぐれてさとし。又、とびぬけたるさとり。宣和書譜に「李邕資性超悟、才力過レ人」

【超迹】衆人に立ちこえたるおこなひ。江淹「五難既灑落、超迹絕ニ塵網ー」

【超倫】つねなみのものの上に出づ。蔡邕「潁川郡陳若、絕世超倫」

【超常】前に同じ。晉書、慕容垂載記に「垂投ニ命聖朝ー、蒙ニ超常之遇ー」

【超脫】けだかくして世俗の拘束をぬけはなる。劉克莊「從レ今詩律應ニ超脫ー、盡ニ吸瀟湘ー入ニ肺腸ー」

【超距】をどりこゆ。史記、王翦傳に「方投レ石超距」

【超軼】ぬきんづ。莊子に「夫子超軼絕塵、而回瞠ニ若乎後ー矣」

【超然】こえぬきんづる貌。漢書に「人受ニ命于天ー、固超然異ニ于羣生ー」

【超絕】こえぬきんづ。謝靈運「不レ杜ニ其根ー、于レ何超絕」

【超渡】こえわたる。吳志、注に「著レ鞭以助ニ馬勢ー、遂得ニ超渡ー」

【超等】なかまをこゆ。後漢書に「躋升躐、超レ等踰レ匹」

【超授】順序をこえてさづく。晉書に「推レ鋒陷レ銳、宜ニ論レ功超授ー」

【超越】こゆ。魏志に「常有下超ニ越江湖ー、呑ニ吳會ー之志上」

【超羣】衆にぬきんづ。(絕羣)。淮南子に「同レ師而超レ羣者、必其樂レ之者也」

【超達】こゆ。俗にすぐる。戴良「運至終超達、道窮姑退藏」

【超舞】身を超してまひ踊る。詩經、疏に「數超舞、僛僛然不レ能ニ自正ー也」

【超緬】はるかなり。(迢緬)。李白「原野曠超緬」

【超遷】順序をこえてのぼす。漢書に「今陛下以ニ嗇夫口辯ー、而超ニ遷之ー」

【超邁】こえすぐ。梁書、武帝紀に「文質彬彬、超ニ邁今古ー」

【超擢】こえぬきんづ。趙孟頫「耶位蒙ニ超擢ー、官曹幸ニ接聯ー」

【趆】テイ。丑例切。霽。❶のぶ(進)❷こゆ(踰)。

【趈】タン、テン。知咸切。咸。❶坐立不動の貌(跕に同じ)❷馬のいそぎ行く貌。

【𧺐】㋑シャ、セ。車者切。馬。㋺タク、チャク。恥格切。陌。㋩シャ、セ。充夜切。禡。㋑とどまる(距)㋺あしたつ(脚立)㋩❶いかる(怒)❷ひく(豕)❸あしたつ(脚立)。

【⿺走句】㋑ク、コ。其倶切。虞。㋺フ。芳武切。麌。㋩ク、コ。顆羽切。麌。㋑けしりかへりみる貌㋺❶つかふ(使)❷なさむ(治)❸ちかづく(近)❹すこやかなり(健)㋩ゆく貌。

【趉】㋑クツ、コツ。九勿切。物。㋺キツ、キチ。其律切。質。㋩チツ、ヂチ。直律切。質。㋥キツ、ゴチ。渠勿切。物。㋭ケツ、グヮチ。其月切。月。㋑❶卒かに起ちてはしる❷つく(衝)㋺趨に同じ㋩㋥㋭趨に同じ。

【越】㋑エツ、ヲチ。王伐切。月。㋺クヮツ、グヮチ。戶括切。曷。㋑❶こゆ(踰)❷わたる(度)❸ふむ(蹶)❹つまづく(蹷)❺おつ、おとす(墜)❻ちる、ちらす(散)❼うしなふ(失)❽あがる、あぐ(揚)❾とほし、とほざく(遠)❿まはりどほし(迂)⓫ここに(於)⓬瑟の下面の孔⓭國の名(今の浙江省寧波府の地)⓮布の名⓯人の姓㋺がまむしろ(蒻蒲)。

【越日】あくるひ。(翌日)。列子に「越日謁見王」

【越月】つきなこゆ。(逾月)。月令廣義に「積日越月」

【越方】まじなひ術。後漢書に「能爲越方」注に「善禁呪也」

【越瓜】(植)しろうり。あさうり。

【越在】さすらうして遠きに居る。左傳に「君不撫社稷、越在他竟」

【越年】としをこす。黄滔「纔到人間便越年」

【越先】さきをこす。吳志に「誠非愚臣所可越先」

【越次】順序をこゆ。宋史に「王安石越次入對」

【越勁】すぐれてつよし。荀子に「桀紂筋力越勁、百人之敵也」

【越限】程度をこゆ。釋名に「量力而動、不敢越限」

【越桃】(植)くちなしの異名。本草に「梔子別錄謂之越桃」

【越棘】天子の戎器にて、越の國に産するほこ。禮記に「越棘大弓、天子之戎器也」

【越椒】(植)ぐみの木。本草に「食茱萸、一名越椒」

【越渡】こえわたる。魏志に「遣船越渡大海、多持貨物」

【越羣】衆にこゆ。(拔羣)。赭白馬賦に「別輩越羣、絢練夐絕」

【越王蛇】(動)兩端にあたまのあるへび。本草に「兩頭蛇、一名越王蛇、會稽人言、是越王弩弦所化、故名」

【越濫】こえてみだる。禮記、疏に「次序不有越濫也」

【越俎之罪】自己の職分をこゆるつみ。莊子に「庖人雖不治庖、尸祝不越樽俎而代之矣」

【越鳥巢南枝】越の國は南方なるが故に、その國より出でたる鳥類は、凡て樹の南の枝に巢を構ふ。故鄉の忘れ難きに喩へていふ語。古詩に「胡馬依北風、越鳥巢南枝」

六畫

【趌】㋑キツ、キチ。去吉切。質。㋺キツ、ギチ。巨乙切。質。㋩ケツ、ケチ。居列切。屑。㋑いかりはしる、はしる(趌趨)㋺直にゆく㋩跳る貌(趌趨)。

【⿺走各】カク、ギャク。胡格切。陌。❶たふる(⿺走各趚)❷はしる、くろひはしる。

【趎】㋑チュ、ヂュ。直誅切。虞。㋺シュ。春朱切。虞。㋩チウ、ヂュ。陳留切。尤。㋥シウ、シュ。蚩周切。尤。人の名。

【⿺走圭】キ。丘弭切。紙。ひとあしなあぐること、ひとあし、半步。

【趍】㋑チ、ヂ。直離切。支。㋺趨の俗字。❶ひさし(趍趙)。

【趚】セキ、シャク。貲昔切。陌。❶あしなそばだて行くにいふ、ぬきあし❷ゆく貌(趚趚)。

【趑】㋑シ。取私切。支。㋺七四切。寘。❶行きてすすまず、たたずむ(趑趄)㋺ゆかざること(趑趄)。

【趑趄】シショ たちもとほる。張載「一人荷戟、萬夫趑趄」

【趒】㋑テウ、デウ。徒聊切。蕭。㋺テウ。土了切。篠。㋩テウ。他弔切。嘯。㋑こなどりす(雀行)㋺こゆ(越)㋩などる(躍)。

【趓】タ。丁果切。哿。なげうつ。

七畫

【趗】ショク、ソク。七玉切。沃。❶局量の小なる貌、せまし、又、踊りて小步するにいふ、せぐくまる(趗起)❷つらなる。

【⿺走夋】㋑シュン。七倫切。眞。㋺シウ、シュ。七溜切。宥。㋑はしる(奔)㋺すすむ(進)。

【趙】㋑テウ、デウ。治小切。篠。㋺徒了切。篠。㋑❶ひさし(久)❷わかし(少)❸おもむく(趨)❹小國が大國に朝す、つかふ❺牀の前の横木❻國の名㋺❶さす(剌)❷掉に同じ。

八畫

【趜】㋑キク、ゴク。渠竹切。屋。㋺キウ、グ。渠尤切。尤。㋑❶つつしむ(敬)❷きはむ(窮)❸あしのびす(趜趨)㋺趜に同じ。

【⿺走咅】㋑ホク、ボク。蒲北切。職。㋺ホウ、フ。匹候切。宥。㋩フ、ホ。芳遇切。遇。㋑㋺❶つまづく(頓)❷たふる(僵)㋩仆に同じ。

【⿺走玄】ケン、ゲン。胡田切。先。はしる(急走)。

【趞】㋑シャク、サク。七雀切。陌。㋺セキ、ジャク。七迹切。陌。㋩秦昔切。陌。㋑❶ゆく貌❷あゆむ(步)㋺あしなそばだて行く㋩ふむ(蹈に同じ、踐)。

【⿺走尚】タウ、チャウ。竹盲切。庚。などる(躍)。

【趠】㋑タク、トク。敕角切。覺。㋺テウ。他弔切。嘯。㋩タウ、テウ。敕教切。效。㋥タク、トク。竹角切。覺。㋑❶とほし(遠)❷あしなへ(蹇)㋺こゆ(越に同じ、越)㋩❶ゆく貌❷こゆ(越)㋥とくはしる(疾走)。

【趡】㋑スヰ。千水切。紙。㋺ヰ。以水切。紙。㋑うごく(動)㋺はしる貌。

【趣】㋑シュ、ス。七句切。遇。㋺七逾切。虞。㋩ソウ、ス。七口切。有。㋥ショク、ソク。趨玉切。沃。㋭シウ、ス。側九切。有。㋬ソウ、ス。將侯切。尤。㋣趨に通ず。㋑❶おもむく❷はしる❸おもむき❹わけ、むれ(歸著の意義)㋺㋩馬を養ふ官㋥❶せまる、うながす(促)❷ちぢむ㋭㋬夜の守を戒むるに擊つ者(掫に同じ)。

【趣旨】おもむき。かんがへ。文心雕龍に「陳思稱、楊馬之作、趣幽旨深」

【趣走】はしる。列子に「趣走往還」

【趣味】おもしろみ。おもむき。水心題跋に「怪偉伏平易之中、趣味在言語之外」

【趣尚】おもむき。しくみ。蔡邕「由其模範、從其趣尚」

【趣務】その事に向ひつとむ。魏志、注に「人之所趣務者、常謙退不爲也」

【趣意】おもむき。かんがへ。

九畫

【趍】(ゆ)シュク、ソク。所六切。屋。(ろ)シウ、シュ。所鳩切。尤。(は)所九切。有。(に)千繡切。宥。(ゆ)體伸びざるもの、くぐせ(ろ)すすます(趍趍)(は)走る貌(に)はしる(奔)。

【趥】(ゆ)シウ、シュ。七由切。尤。(ろ)イウ、ユ。子仲切。送。㊀かちにてゆく(徒行)㊁ゆく貌。

【𧼯】(ゆ)シュ。傷遇切。遇。(ろ)ユ。容朱切。虞。(ゆ)㊀すすむ、馬こえて前む㊁馬跳ぬ、をどる(ろ)こえすすむ(越進)。

【趏】シ。越の俗字。

十畫

【𧽤】(ゆ)テン。都年切。先。(ろ)テン、デン。堂練切。霰。(ゆ)㊀はしる㊁つまづく(頓)(ろ)はしる。

【𧽏】(ゆ)ケン、カン。去乾切。先。(ろ)カン、ケン。丘閑切。刪。㊀びっこの跟㊁跛へ行く。

【趨】(ゆ)シュ、ス。七逾切。虞。(ろ)ショク、スク。趨玉切。沃。(は)ソウ、ス。此苟切。宥。(に)シュ、ス。千句切。遇。(ほ)スウ。慣用音。(ゆ)㊀はしる(走)㊁おもむく(趣)㊂はやあし、おほあし(捷歩)(ろ)㊀いそぐ、せまる、うながす(促)㊁すみやか、はやし(速)(は)趣馬、或は趨馬に作る(に)ゆく(行)、すみやか(速)。

【趨出】シュシュツ はやあしにていづ。書經に「羣公旣皆聽レ命、相揖趨出」

【趨走】シュソウ はしる。戰國策に「不佞寢レ疾、不レ能二趨走一」

【趨步】シュホ 前に同じ。王儉「趨步明月舞二瑤裳一」

【趨役】シュエキ ぶやくにゆく。戰國策に「後起則諸侯可レ趨レ役」

【趨舍】シュシャ ㊀とほりこす。史記に「趨舍而前曰レ嬴」㊁いへにかへる。西京雜記に「採レ薪還晚、趨レ舍未レ至」㊂進むと退くと。史記に「巖穴之士、趨舍有レ時」

【趨拜】シュハイ はしりてをがむ。唐書、元德秀傳に「傷レ足不レ能二趨拜一」

【趨時】シュジ 時世をおふ。易經に「變通者趨レ時者也」

【趨參】シュサン まゐる。(參趨)。梅堯臣「權門誰解更趨參」

【趨登】シュトウ はしりのぼる。左傳に「其右提彌明、知レ之趨登」

【趨翔】シュシャウ たちゐふるまひ。呂氏春秋に「趨翔閑雅、辭令遜敏」

【趨勢】シュセイ 世のなりゆき。

【趨義】シュギ 道におもむく。任俠をなす。(赴義)。姚燧「重レ諾而趨レ義、貧レ氣而尙レ俠」

【趨斷】シュシ はしりつかひ。(斷養)。皮日休「趨斷走養」

【趨闕】シュケツ 朝廷にはしる。韓愈「開道趨レ闕、變レ服詭行」

【趨競】シュケイ はしりきそふ。宋史、呂祐之傳に「祐之純謹長者、不レ喜二趨競一」

十一畫

【𧾊】(ゆ)サン、ソン。倉含切。覃。(ろ)サフ、ソフ。七合切。合。(ゆ)はしる貌(𧾊𧼯)(ろ)㊀はしる(走)㊁おもむきあふ。

【𧾊𧼯】サンタン 走る貌。吳都賦に「𧾊𧼯𧻦𧼝」

【趚】(ゆ)セキ、シャク。七迹切。陌。(ろ)サク、シャク。査獲切。陌。(ゆ)㊀にはか(倉卒)㊁いそがはし(ろ)㊀わろがしこき貌㊁急にはしる、はしる㊂はしる貌。

【𧽻】ヒツ、ヒチ。壁吉切。質。やむ、とどむ。

十二畫

【趩】チョク、チキ。恥力切。職。㊀ゆく聲㊁ゆかざる貌㊂はしる貌。

【𧾸】(ゆ)ケツ、クヮチ。居月切。月。(ろ)クヮイ、ケ。姑衛切。霽。(ゆ)㊀はねおく(跳起)㊁をどる(踴)(ろ)たふる(蹶に同じ、僵)。

【趪】(ゆ)クヮウ、ワウ。胡光切。陽。(ろ)クヮウ。姑黃切。陽。(ゆ)㊀力を作す貌㊁武き貌、張り設けたる貌(ろ)はしる貌。

【趪趪】クヮウクヮウ たけき貌。又、張り設けたる貌。西京賦に「洪鐘萬鈞、猛虎趪趪」

【趫】(ゆ)ケウ、ゲウ。巨嬌切。蕭。(ろ)テウ。丑小切。篠。(ゆ)㊀すばやし、みがるし㊁はしる(走)㊂ゆく(行)㊃たけし(健)㊄木に緣りて走るの巧なるにいふ(ろ)かろく走る貌。

【趫才】ケウサイ すばやきはたらき。唐書に「太宗選二趫才一、衣二五色袍一」

【趫悍】ケウカン すばやし。唐書に「紹幼趫悍有二武力一、以二任俠一聞」

【趫捷】ケウセフ 前に同じ。宋史に「弓馬趫捷、能運二鐵鎗一」

【趫健】ケウケン 走ることすばやし。南唐書に「陳誨生數月、趫健能馳走」

【趫踔】ケウタク たけくはしる。何景明「衆趫踔而便捷兮」

【趫鷙】ケウシ たけし。唐書、長孫皇后傳に「父嵩趫鷙曉レ兵」

【趬】(ゆ)ケウ。去遙切。蕭。㊀たつ(起)㊁たかし(高)㊂あしをあぐ㊃かろくゆく貌㊄起る。

【趭】(ゆ)エウ。弋照切。嘯。(ろ)セウ、ゼウ。才肖切。嘯。はしる(奔走)。

十三畫

【𧾌】(ゆ)テン、デン。直連切。先。(ろ)丈善切。銑。(ゆ)㊀うつる(移轉)㊁ゆきなやむ、すすみがたし(ろ)㊀うつりゆく、うつる㊁したがふ(循)。

【𧾐】ケン、コン。況袁切。元。㊀疾し㊁はやくゆく。

【𧾔】(ゆ)ショク、ソク。之欲切。沃。(ろ)ショク、ゾク。殊玉切。沃。(ゆ)ゆく貌、又、こどものゆく貌(ろ)をどる(跳)。

【𧾍】キョ、ゴ。强魚切。魚。㊀おかす(犯)㊁すこしくはぬ㊂少しく歩む。

【趮】サウ、ソウ。則到切。號。㊀ふる(掉)㊁はやし(疾)㊂さわぐ(躁に同じ)。

十四畫

【趯】(ゆ)ヤク。以灼切。藥。(ろ)テキ、チャク。他歷切。錫。(ゆ)をどる(踊)(ろ)をどる貌(躍に同じ)。

【趯趯】テキテキ をどる貌。詩經に「趯趯阜螽」

十五畫

【𧾣】(ゆ)レキ、リャク。狼擊切。錫。(ろ)シャク、サク。書藥切。藥。はしる、うごく。

【𧾩】トク、ドク。徒谷切。屋。行く貌。

【𧾩𧾩】トクトク 行く貌。石鼓文に「其來𧾩𧾩」

十七畫

【𧾷】ヤク。以灼切。藥。㊀ゆく貌㊁躍に同じ。

十八畫

【𧾹】(ゆ)ク、グ。其俱切。虞。(ろ)クヮク、ガク。局縛切。藥。㊀はしりかへりみる貌㊁大いにはしる、はしる。

足部

部首

【足】(ゆ)ショク、ソク。卽玉切。沃。(ろ)シュ、ス。子句切。遇。(は)ショ、ソ。將豫切。御。(ゆ)㊀あし(動物の下肢)㊁あゆむこと、はしること㊂もと(下本)㊃とどまる(止)(ろ)㊀なる(成)㊁すぐ(過)、たる、たす、ます、そふ(益)㊂つちかふ(擁)。

【足下】ソクカ ㊀あしもと。老子に「千里之行、始二於足下一」㊁同輩に對する敬稱。史記、秦紀に「天下共畔二足下一、足下其自爲レ計」

【足用】ソクヨウ 入費を十分にす。國語に「恭所㆓以給㆒レ事也、儉所㆓以足㆒レ用也」

【足疾】ソクシツ あしのやまひ。左傳に「光僞㆓足疾㆒、入㆓乎掘室㆒」

【足恭】スキヨウ うやまひを過ごす。おもねりへつらふ。論語に「巧言令色足恭、左丘明恥レ之」

【足容】ソクヨウ あしのかたち。禮記に「手容恭、足容重」

【足趾】ソクシ あし。吳都賦に「耳目之所レ不レ該、足趾之所レ不レ蹈」

【足剩】ソクジヨウ 十分にしてあまりあり。周禮、疏に「知㆓其足剩㆒、謂㆓之撿㆒」

【足音跫然】ソクオンキヨウゼン あしおとのひびく貌。莊子に「夫逃㆓虛谷㆒者、中略聞㆓人之足音跫然㆒而喜矣、而況乎昆弟親戚之謦㆓欬其側㆒者乎」

二畫

【𧿒】㋴タウ、チヤウ。丑庚切。庚。㋺テイ、チヤウ。丑貞切。庚。㋩當經切。青。㋴❶行くことおそき貌❷足のほそ長きにいふ、又、ゆく貌(跉𧿒)㋺ゆくことの正しからざること(跉𧿒)㋩ひとりゆく(獨行)。

【𧿹】ケウ、ゲウ。巨幼切。宥。❶ゆくことのみにくき貌❷ゆくことの正しからざる貌、蹌き行く貌(䟃𧿹)。

三畫

【趵】㋴ハク、ボク。北角切。覺。㋺ハウ、ヘウ。巴校切。效。㋩サク、ソク。測角切。覺。㋥シヤク。職略切。藥。㋴❶うつ(擊)❷足にて擊ち聲をなすこと、あしびやうしをなど㋺をどる(跳)㋩あしの齊ふ貌㋥あしあと(跡)。

【趴】ゲツ、グワチ。䟦に同じ。

四畫

【趹】㋴ケツ、ケチ。古穴切。屑。㋺ケイ、ケ。涓惠切。霽。㋴❶はやし(疾)、馬の疾行する貌❷はしる(奔)㋺❶馬の疾行する貌、とし❷ふむ(踶)。

【䟗】シ、ヂ。承紙切。紙。❶つみあつむ(積聚)❷たちどまる(𨇨)。

【趺】フ。甫無切。虞。❶あし、うてな、だい(跗に同じ)❷地を下視するまでに體を屈して敬すること❸あしなくみてすわる。

【趺坐】フザ あしなくみて坐す。あぐら。白居易「中宵入定跏趺坐、女喚妻呼多不レ應」

【趺然】フゼン 頭を垂るる貌。釋名に「拜㆓于丈夫㆒爲レ趺、趺然屈折下㆓視地㆒矣」

【趻】㋴チン。丑甚切。寢。㋺シン、ソン。楚錦切。寢。㋩タン、トン。丑減切。豏。㋴踸に同じ㋺㋩行く貌。莊子に「吾以㆓一足㆒趻踔而行」

【趻踔】シンタク 片足にて行く貌。

【䟴】タン、テン。踸に同じ。

【趽】㋴ハウ、バウ。步光切。陽。㋺ハウ。甫妄切。漾。㋩府罔切。陽。㋴㋺❶まがりたる足❷脛のまがれる馬㋩❶つまづく(蹴)❷脛の肉。

【跡】㋴ハツ、バチ。蒲撥切。曷。㋺ヒ。方味切。未。㋩ハイ。博蓋切。泰。㋴㋺❶にはか(猝)❷行く貌㋩❸いそぐ、急ぎ行く貌㋩ふむ、步む。

【趾】シ。諸市切。紙。❶あし(足)❷止に通ず。

【䟩】㋴サフ、ソフ。蘇合切。合。㋺シフ、セ。七入切。緝。㋴❶すすむ(進)❷とる(取)❸つまむ㋺ゆく(行)。

【䟦】㋴ゲツ、グワチ。魚厥切。月。㋺ゴツ、ゴチ。五忽切。月。㋩グワツ、グワチ。五括切。曷。❶あしきる(刖)❷いびつ。

【跁】㋴ハ、ベ。傍下切。馬。㋺蒲巴切。麻。㋩白駕切。禡。㋴行く貌(跁跒)㋺うづくまる(跁跒)㋩❶短き貌❷たけ短き人。

【跂】㋴キ、ギ。巨支切。支。㋺キ。丘弭切。紙。㋩シ。章移切。支。㋥リ。輦介切。紙。㋭キ。去智切。寘。㋬ゲキ、キヤク。竭戟切。錫。㋴❶はふ(蚑に同じ)❷ゆろくはしる❸むつゆびくはだつ、つまだつ、のぞむ(企に同じ)㋺㋩㋥強ひて心力を用ゐる貌(蹊跂)㋭❶すわる(坐)❷のぞむ(望)㋬あし(足)。

【跂望】キバウ 足をつまだてて遠きを望む。詩經に「誰謂㆓宋遠㆒、跂予望レ之」

【跂跂】キキ ゆろく走る貌。漢書に「跂跂脈脈、善緣レ壁、是非㆓守宮㆒、卽蜥蜴」

【跂想】キサウ のぞみおもふ。宋史に「中外跂㆓想其勳業㆒」

【跂行喙息】キカウカイソク 蟲鳥の類。漢書に「人迹所レ及、跂行喙息、咸得㆓其宜㆒」

五畫

【跅】㋴タク、ダク。闥各切。藥。㋺セキ、シヤク。昌石切。陌。ゆるむ(跅に同じ)。

【跆】タイ、ダイ。徒哀切。灰。❶ふむ(蹋)❷ふむ、又、手なつられてうたふ(蹋跆)。

【跇】㋴エイ。以制切。霽。㋺セイ、セイ。時制切。霽。㋩テイ。丑例切。霽。㋴❶こゆ(踰)❷をどる(跳)❸わたる(渡)❹のぶ(進)㋺㋩䟳に同じ。

【跈】㋴テン、ネン。乃殄切。銑。㋺チン。池鄰切。眞。㋩テン、テン。徒典切。銑。㋴❶おふ(逐)❷ふむ(蹍に同じ)㋺趁に同じ㋩とどまる(止)。

【䟷】㋴フツ、ホチ。敷勿切。物。㋺ヒ。芳未切。未。❶をどる(跳)❷いそぎゆく貌。

【跉】㋴レイ、リヤウ。郎丁切。青。㋺呂貞切。庚。㋴徐行して正しからざる貌(跉に同じ)㋺❶かたよりゆく❷行く貌。

【跋】㋴ハツ、バチ。蒲撥切。曷。㋺ハイ。博蓋切。泰。㋩バツ。慣用音。㋴❶ふむ、ふまふ❷こゆ(越)❸もとゐ(基)、もと(本)❹にぎり(把處)❺くびす(足後)❻おくがき㋺跋に同じ。

【跋文】バツブン 書物の終に題する文。おくがき。後序。

【跋胡】バツコ 進退に窮する義。詩經に「狼跋㆓其胡㆒、載疐㆓其尾㆒」

【跋扈】バツコ わがままにふるまふ。又、上をおかす。後漢書、梁冀傳に「質帝少聰慧、知㆓冀驕橫㆒、嘗朝㆓羣臣㆒、目レ冀曰、此跋扈將軍也、冀聞深惡レ之、遂鴆殺」

【跋涉】バツセフ 山川をかけまはる。左傳に「跋㆓涉山川㆒、以事㆓天子㆒」

【跋履】バツリ 前に同じ。左傳に「跋㆓履山川㆒、踰㆓越險阻㆒」

【跋レ前疐レ後】マヘニフミウシロニツマヅク 進退に窮する義。韓愈「跋レ前疐レ後、動輒得レ咎」

【跌】㋴テツ、デチ。徒結切。屑。㋺トツ、ドチ。陁沒切。月。㋴❶すぐ(過)❷こゆ(越)❸つまづく(蹶)❹たふる(仆)❺あやまつ、たがふ(差)❻ほしいまま(恣)❼はしる(疾行)㋺きずつく(傷)。

【跌失】テツシツ つまづく。列子に「趨走往還、無㆓跌失㆒也」

【跌宕】テツタウ 度にすぐ。勢よし。(豪宕)。宋史、延年傳に「爲レ人跌宕任㆓氣節㆒、讀レ書通㆓大略㆒」

【跌倒】テツタウ つまづきたふる。

【跌蹶】テツテイ 疾く走る。淮南子に「墨子跌蹶而趁㆓千里㆒、以存㆓楚宋㆒」

【跌墜】テツツヰ つまづきおつ。新論に「登㆓峭坂㆒而不㆓跌墜㆒者、愼㆓于大㆒也」

【跌蕩】テツタウ しまりなし。唐書、魏元忠傳に「爲㆓太學生㆒、跌蕩少レ檢」

【跎】タ、ダ。徒何切。歌。❶たがふ(違)❷つまづく。

【𨀁】タ、ダ。跎に同じ。

【跏】カ、ケ。古牙切。麻。ひざくむ、あぐらかく。

【跏趺】カフ あしなくみすわる。柳宗元「一飯不レ願レ餘、跏趺便終レ夕」

【跐】㋴シ。雌氏切。紙。㋺將此切。紙。

㋑ふむ(蹈)㋺行く貌。

【跐踦】 かたあしなへ。淮南子に「菅屩跐踦、裋褐不レ完」

【跑】㋑ハウ、ベウ。薄交切。肴。㋺ハク、ボク。蒲角切。覺。㋩ホク、ボク。蒲沃切。沃。 ㋑もがく、あがくる㋩❶ける(蹴)❷をどる(趵)。

【跒】カ、ケ。苦下切。馬。 うづくまる。

【跓】チュ、ヂュ。直主切。麌。 ❶まがる(曲)❷とどむ(停)。

【跔】㋑ク、コ。恭于切。虞。㋺顆羽切。麌。 ㋑❶かがむ❷はだし(跣)❸をどる(跳)❹かたあしあぐる㋺行く貌(跑に同じ)。

【跕】㋑テフ、デフ。他協切。葉。㋺テフ。丁協切。葉。 ㋑❶ふむ(履)❷かろくふむ❸をどりてふむ㋺❶おつ(落)❷ゆく(徐行)。

【跖】セキ、シャク。之石切。陌。 あしのうら(足下)。

【跖之狗吠レ堯】 その仕ふる所の主に忠を盡すをいふ。(桀之犬吠レ堯)。戰國策に「跖之狗吠レ堯、非レ貴レ跖而賤レ堯也、狗固吠レ非二其主一也」

【䟫】㋑タウ、ヂャウ。直庚切。庚。㋺シャウ、サウ。昌兩切。漾。 ㋑ただす(正)㋺❶けづめ(距)❷ふむ(蹋)。

【𧿹】キク、コク。居六切。屋。 あし(足)。

【跗】㋑フ。風無切。虞。㋺フ、ボ。符遇切。遇。 ㋑あしのかふ(足背)㋺❶あしのかふ❷うてな、だい、あし(柎に通ず)。

【跗注】 赤色の皮にて造りたる袴の如き服。左傳に「有二韎韋之跗注一」

【跙】㋑ショ、ゾ。狀所切。語。㋺シャ、セ。淺野切。馬。㋩ショ、ソ。莊助切。御。㋥シャ、セ。七夜切。禡。 ㋑あとしざる、とどまる㋺あしきき(蹵跙)㋩❶行くに正しからず❷馬蹄のやまひ㋥そばだつ。

【跚】サン。蘇干切。寒。 しざる、ひよろつく。

【跛】㋑ハ。布火切。哿。㋺ヒ。彼義切。寘。㋩ハ。湯禾切。歌。 ㋑びっこ、あしなへ、又、そのかたはもの㋺かたよる㋩人の名。

【跛蹇】 あしなへ。ちんば。(蹇跛)。莊子に「聾盲跛蹇」

【跛驢伍】 無能無用の境遇。晉書に「欲下戢二勁翮于鷦鷯之羣一、藏中逸跡于跛驢之伍上」

【跛立箕坐】 跛は一足にてたつこと、箕坐は兩足を展ばして、その狀恰も箕舌の如くするをいふ。禮記に「立毋レ跛、坐毋レ箕」

【距】キョ、ゴ。其呂切。語。 ❶けづめ❷さかはり(倒刺)❸いたる(至)❹いたす(致)❺たがふ(違)❻あたる(抗)❼おほいなり❽よこぎ、ふせぐ(拒に通ず)❾とづ(閉)❿こゆ(超)⓫をどる(躍)⓬鬢の曲がりたる頭。

【距破】 ふせぎやぶる。漢書に「秦將軍章邯距二破之一」

【距絶】 ふせぎたつ。後漢書に「謝二遣門人一、距二絶知友一」

【距跳】 をどりあがる。易林に「飲酒醉酗、距跳爭鬪」

【距塞】 へだつ。へだたる。ふせぐ。史記、項籍傳に「參二分關中一、王二秦降將一以距二塞漢道一」

【距戰】 ふせぎたたかふ。晉書に「距二戰于堂狼一、大破レ之」

【距擊】 ふせぎうつ。漢書に「田榮發レ兵、距二擊田都一」

【距躍】 をどりはぬ。左傳に「距躍三百、曲踊三百」

六畫

【跟】コン。古痕切。元。 くびす(踵)。

【跟肘】 きびすとかひなと。蘇軾「詰曲猶能辨二跟肘一」

【跠】㋑イ。延知切。支。㋺チ、ヂ。陳尼切。支。

うづくまる(蹲)。

【跡】セキ、シャク。資昔切。陌。 迹に同じ。あと。

【跡捕】 あとをつけてとらふ。宋史に「煕跡捕、戮二三十餘人一」

【跡盜】 ぬすびとのあとをつけあるく。宋史に「開封邏卒夜跡レ盜」

【跢】㋑タイ。當蓋切。泰。㋺タ。丁佐切。箇。㋩チ。陳知切。支。㋥チツ。陟栗切。質。㋭タ。當何切。歌。 ㋑❶つまづく(躓)❷たふる(倒)㋺小兒の行くにいふ㋥あしぶみ㋭幼兒を擕へ行く。

【跣】㋑セン。蘇典切。銑。㋺ソン。鑽本切。阮。㋩セン。蕭前切。先。 ㋑㋺すあし、はだし㋩めぐりゆく貌、まふかたち(蹁跣)。

【跣行】 はだしにてあるく。南史に「貴者著二革屣一、賤者跣行」

【跣足】 はだし。五代史、王彥章傳に「能跣足履レ棘、行二百步一」

【跣走】 すあしにてはしる。淮南子に「申包胥求二救於諸侯一、乃贏レ糧跣走」

【跦】㋑チュ。陟輸切。虞。㋺チウ、チュ。張留切。尤。㋩チュ、ヂュ。重株切。虞。 ㋑㋺❶行く貌❷をどりゆく貌㋩蹰に同じ。

【跦跦】 をどり行く貌。左傳に「童謠曰、鸜鵒跦跦」

【跧】㋑セン。莊緣切。先。㋺シュン。將倫切。眞。㋩ソン。租昆切。元。㋥サン、セン。阻頑切。刪。 ㋑㋺㋩❶かがむ(局)❷ふむ、ける(蹴)❸はらばふ(匍)❹ひくし(卑)㋥ふす(伏)。

【跧揩】 足にてふみくじく。劉弇「局縮如二跧揩一」

【𧿳】㋑フク、ボク。房六切。屋。㋺匐に同じ。 ㋑❶ふす(伏)❷行く貌。

【跨】㋑クワ、ケ。苦化切。禡。㋺コ、ク。苦故切。遇。㋩クワ、ケ。苦瓜切。麻。㋥苦瓦切。馬。㋭カイ、ケ。枯買切。蟹。 ㋑❶わたる(渡)❷こゆ(越)❸またぐ❹また、またぐら㋺❶うづくまる(踞)❷またがる❸のる(乘)❹よる(據)❺わたる(亙)㋩すわる(坐)㋥たちもとほる㋭行く貌。

【跨年】 二年ごし。晉書に「去秋以來、沈雨跨レ年」

【跨制】 またがりとりしまる。晉書に「割二據山川一、跨二制荊吳一」

【跨軼】 またがりこゆ。こゆ。放翁題跋に「太宗皇帝、天縱聖學、跨二軼百王一、萬機之餘、尤留二神翰墨一」

【跨越】 前に同じ。梁涉「跨二越古今一、標二格寰宇一」

【跨據】 またがりてたてこもる。蜀志に「假二借威力一、跨二據一州一」

【跨躡】 ふみまたがる。晉書に「跨二躡燕趙一、幷二吞韓魏一」

【跪】㋑キ。去委切。紙。㋺キ、ギ。巨委切。紙。 ㋑❶ひざまづく❷をがむ(拜)❸あし(足)㋺ひざまづく(跽)。

【跪坐】 ひざまづきてすわる。韓愈「振レ衣造二雲關一、跪坐陳二清獻一」

【跪拜】 ひざまづきてをがむ。王建「男兒跪拜謝二君王一」

【跪授】 ひざまづきてさづく。庾信「張良取レ履、跪授無レ辭」

【跪捧】 ひざまづきてささぐ。蘇軾「紫衣中使傳二詔旨一、跪捧冉冉聞二天香一」

【跪謝】 ひざまづきてことわる。孔叢子に「陳王跪謝、終不レ爲レ顧」

【跫】㋑キョウ、グ。渠容切。冬。㋺キョウ、ク。丘勇切。腫。 ❶あしおと(蹋聲)❷行く人の貌❸よろこぶ貌。

【跫然】 足音のひびく貌。莊子に「聞二人足音跫然一而喜矣」

【跬】㋑キ。丘弭切。紙。㋺クワ、ケ。空媧切。麻。㋩セツ、セチ。先結切。屑。 ㋑㋺かたあし(半步)㋩❶つかる(疲)❷分外に力を用ゐる貌。

【跬步】 かたあし。半步。漢書に「進不二跬步一、退失二其殃一」

【跬】(イ)チ。丑利切。寘。(ロ)チツ。丑栗切。質。(ハ)テツ、テチ。徒結切。屑。(イ)㊀たちもとほる㊁いかりもとる(ロ)(ハ)あしあと(蹤)。

【跬踱】 たちまち進みたちまち退く。又、いかりもとる。史記に「跬踱輵螛、容以委麗兮」

【路】(イ)ロ、ル。洛故切。遇。(ロ)ラク。歷各切。藥。(イ)㊀みち(道)㊁すぢ(條理)㊂たびぢ(旅途)㊃傾圮の貌㊄おほいなり(大)㊅あらはる(暴露)㊆王者の車㊇つづみの一種㊈ゆみの一種㊉はしる(奔走)⑪輅に同じ⑫人の姓(ロ)㊀なはばり(維落)㊁やらい(落虎)。

【路次】 みちのあひだ。棗據「千里既悠邈、路次限幽梁」

【路車】 諸侯などの乘るくるま。白虎通に「諸侯路車、大夫軒車」

【路門】 王者のもん。左傳、疏に「君之所在、以大爲號、門曰路門」

【路馬】 王者ののるうま。禮記に「下公門、式路馬」

【路旁】 みちのほとり。韓偓「征馬蕭蕭立路旁」

【路費】 旅行の費用。王禹偁「道糧無斗粟、路費無百錢」

【路鼓】 四面に皮を張りたるつづみ。周禮に「以路鼓鼓鬼享」

【路殿】 天子諸侯の正殿。劉楨「路殿巋其隆崇」

【路寢】 前に同じ。(正寢)。禮記に「退適路寢聽政」

【路衢】 郭內のちまた。公羊傳に「楚莊王伐鄭、勝乎皇門、放乎路衢」

【跰】(イ)ハウ、ヒャウ。北孟切。敬。(ロ)ヘン、ベン。部田切。先。(ハ)ヘイ、ヒャウ。必郢切。梗。(イ)はしる(散走)、ほとばしる(迸)(ロ)胼に同じ(ハ)足のたつ貌。

【趼】(イ)ケン。輕煙切。先。(ロ)ゲン。五堅切。先。(ハ)ケン。古典切。銑。(ニ)經天切。先。(イ)(ロ)㊀つまだつ㊁たひらか(ハ)㊀おこる(起)㊁たこ(胝)㊂足の指のあがり(ニ)いたむ(傷)。

【跱】 チ、ヂ。直里切。紙。㊀とどまる(止)㊁しざる㊂そなふ(具)。

【跲】(イ)カフ、ケフ。古洽切。洽。(ロ)ケフ、コフ。居怯切。葉。(ハ)キフ。訖立切。緝。(イ)つまづく(躓)(ロ)(ハ)かはる(代)。

【跳】(イ)テウ、デウ。田聊切。蕭。(ロ)タウ、ドウ。徒刀切。豪。(ハ)テウ、デウ。徒了切。篠。(ニ)徒弔切。嘯。(イ)㊀をどる(躍)㊁あがる(上)㊂とびあがる(蹶)㊃をどらす(ロ)のがる(逃)に同じ(ハ)いどむ(挑)(ニ)行く貌。

【跳刀】 かたなをはげしくふりまはす。晉書に「左右人皆跳刀大呼」

【跳身】 からだをはねをどらす。漢書に「失軍亡衆、跳身遁者數矣」

【跳沫】 あわをどらす。劉峻「白波跳沫、洶涌成音」

【跳奔】 のがれはしる。唐書に「密以數十騎跳奔」

【跳怒】 はねあがる。梅堯臣「操刀欲割鱗、跳怒鬐鬣張」

【跳哮】 をどりあがりてほゆ。修行道地經に「又入樹間、跳騰哮吼」

【跳疾】 すばやくをどり走る。詩經、疏に「跳疾之狡兎、遇犬則能獲得之」

【跳梁】 をどりあがりとびはぬ。莊子に「東西跳梁、不避高下」

【跳噴】 つよくふきあがる。岑參「跳噴浩森、上濺飛鳥」

【跳盪】 をどりうごく。唐書、百官志に「矢石未交、陷堅突衆、敵因而敗者、曰跳盪」

【跳趫】 をどりはぬ。元稹「往往跳趫騎不得」

七畫

【⿰足肙】 エン。烏圓切。先。つまづく(蹎)。

【跼】(イ)キョク、ゴク。渠玉切。沃。(ロ)グ、ゴ。權俱切。虞。

(イ)せぐくまる、かがむ、ふす(ロ)かがむ(跼に同じ)。

【跼步】 せぐくまりてあゆむ。梁元帝「釋干馬經丘園而跼步」

【跼頓】 つまづく。晉書、劉曜載記に「譬乘赤馬無故跼頓、乃乘小馬」

【跼躅】 とどまりて行かざる貌。史記に「騏驥之跼躅、不若駑馬之安步」

【跼天蹐地】 天にせぐくまり、地にぬきあしす、おそろしくて身のおきどころなき義。詩經に「謂天蓋高、不敢不局、謂地蓋厚、不敢不蹐」

【跽】 キ、ギ。暨几切。紙。ひざまづく、長く跪く。

【跿】 ト、ヅ。同都切。虞。㊀すあし(跣足)㊁をどる(跳躍)㊂かたあしをあぐ。

【跿跔】 はだし。史記に「虎賁之士、跿跔科頭」

【踁】(イ)ケイ、ギャウ。形定切。徑。(ロ)カウ、キャウ。丘耕切。庚。(イ)はぎ(脛)(ロ)いしのおと(硜に同じ)。

【⿰足辰】 シン。章刃切。震。はたらく(動)。

【踂】 デフ、ネフ。尼輒切。葉。もつる、もつれあし。

【踃】(イ)セウ。先彫切。蕭。(ロ)七肖切。嘯。(イ)㊀うごく(動)㊁をどる(跳)(ロ)足のすぢのひきつる病。

【⿰足坐】 サ、ザ。祖臥切。箇。㊀詐り拜すること㊁甲冑をつけたる士の拜すること㊂ふみまよふ、路を失ふ。

【踅】(イ)テイ。丑例切。霽。(ロ)ケイ。去例切。霽。(イ)㊀こゆ(踰)㊁をどる(躍)㊂あしなへ(跛)。

【踆】(イ)シュン。七倫切。眞。(ロ)ソン、ゾン。徂昆切。元。(ハ)ソン。祖昆切。元。(イ)㊀ふす、しざる、とどまる(竣に同じ)㊁おほいなる雀のかたち(ロ)足にて逆へ蹋む(ハ)うづくまる(蹲に同じ)。

【踆烏】 淮南子に「日中有踆烏」 日中に居るといふ三足の烏。

【踉】(イ)リヤウ、ラウ。呂張切。陽。(ロ)ラウ。魯當切。陽。(ハ)リヤウ、ラウ。力讓切。漾。(イ)をどる(躍)(ロ)㊀あわててゆく貌㊁ゆかんとする貌(ハ)おそし(踉蹡)。

【⿰足甫】 ホ、フ。普胡切。虞。うまのあしあと。

【踊】 ヨウ、ユ。余隴切。腫。㊀をどる(跳)㊁あらかじめ(豫)㊂すべて(渾)㊃のぼる、あがる(上)㊄刖られたる者の履。

【踊現】 たかくあらはる。梁簡文帝「菩提妙塔、多寶踊現」

【踊塔】 たかきたふ。獨孤及「雲扶踊塔、青霄庳、松蔭禪庭、白日寒」

【踊躍】 とびをどる。詩經に「擊鼓其鏜、踊躍用兵」

八畫

【蹋】 タフ、ボ。踏の俗字。

【踏】 タフ、トフ。他合切。合。㊀ふむ(踐)㊁ふみつく㊂ゆく(行)㊃あゆむ(歩)。

【踏月】 月下を歩む。李咸用「喚起征人踏月行」

【踏白】 さきぞなへ。宋史に「自北邊至武興、列五軍、曰、踏白、推鋒、選鋒、策選鋒、遊奕」

【踏青】 上巳の曲水の宴。又、春日郊外のあそび。黃庭堅「白白紅紅相間開、三三五五踏青來」

【踏破】 ふみやぶる。傳燈錄に「踏破鐵鞋無覓處」

【踏殺】 ふみころす。傳燈錄に「出一馬駒、踏殺天下人」

【踏葉】 おちばをふむ。溫庭筠「寒階踏葉行」

【踏碎】 ふみくだく。陸游「青鞋踏碎白雲堆」

【踏舞】 足をふみならしてまふ。陳師

道「鋪筵踏舞缺ニ崔徽一」
【踏踏】ふむ。劉孝威「度棧環玉動、踏踏珮珠鳴」
【踏ニ虎尾一】危きことの甚だしきに喩ふ。書經に「心之憂危、若下踏ニ虎尾一、渉中于春冰上」

【踐】㋴セン、ゼン。才線切。霰。㋺慈演切。銑。
㋴㊀ふむ(履)、ふみ行ふ㊁ゆく(行)㊂しく(藉)㊃つらなる(列)㊄つらなる貌㋺㊀訓義㋴に同じ㊁善に同じ㊂きる(翦に通ず)。
【踐冰】こほりをふみて川をわたる。南史に「踐レ冰之慮巳除、大山之安可レ恃」
【踐言】いひたる如くおこなふ。禮記に「修レ身踐レ言、謂ニ之善行一」
【踐苔】こけの上をあゆむ。李白「踐レ苔朝霜滑、弄レ波夕月圓」
【踐修】なさむ。左傳に「踐ニ修舊好一、要ニ結外援一」
【踐祚】天子の位に卽く。鍾會「應レ天順レ民、受レ命踐レ祚」
【踐極】前に同じ。鮑照「聖上天飛踐レ極、迄レ玆二十四載」
【踐踏】ふみにじる。南史に「酒酣乃徑上ニ詔牀一、踐ニ踏肴饌一」
【踐歷】へめぐる。蘇頲「早回ニ翔于近密一、久踐ニ歷于中外一」
【踐蹂】ふみにじる。(蹂踐)。梅堯臣「競歡相扶持、芒屩貪ニ踐蹂一」
【踐履】あゆむ。ふみつく。詩經に「牛羊勿ニ踐履一」
【踐禮】禮儀をふみ行ふ。儀禮に「夫子之賤私、不レ足ニ以踐レ禮」

【踑】㋴キ、ギ。渠之切。支。㋺巨几切。紙。
㋴ふむ、したがふ㋺なげずわり(長踞)。

【踒】㋴ヲ。烏禾切。歌。㋺キ。邕危切。支。㋩ズヰ。儒佳切。支。
㋴つまづく(跌)㋺をる(折)㋩ふむ(蹋)、又、弩は兩足にてふむより弩の名とす。

【踓】㋴ヰ。以水切。紙。㋺シュク、ソク。七六切。屋。
㋴㊀はしる、くろひはしる(趡に同じ)㋺ふむ(蹴)。

【踔】㋴タウ、テウ。丑敎切。效。㋺テウ。他弔切。嘯。㋩タク、トク。敕角切。覺。㋥テウ、デウ。徒了切。篠。㋭徒弔切。嘯。㋬チャク。敕略切。藥。
㋴㊀こゆ(踰)㊁はしる(走)㋺なげとばす(懸投)㋩㊀まさる(勝)㊁はるか(遙)㊂ひとりとどまる(特止)㋥みちとほし㋭とほくあがる貌㋬行く貌(略踔)。
【踔遠】はるかなり。史記に「上谷至ニ遼東一踔遠」
【踔厲風發】踔厲は卓絶してはげしきなり。風發は風の如く速く勢よく口を衝いて出でくるなり。韓愈「儁傑廉悍、議論證ニ據今古一、出ニ入經史百子一、踔厲風發、率常屈ニ其座人一」

【踖】㋴セキ、シャク。資昔切。陌。㋺シャク、サク。七雀切。藥。
㋴㊀とし(敏)㊁長き脛にてゆく㊂うやうやし(恭)㊃ふむ(蹴)㋺㊀行く貌㊁はす(馭)㊂地の名(踖陵)。
【踖踧】つつしむ貌。文同「一從レ入ニ仕路一、行歩每踖踧」

【踘】㋴キク、コク。居六切。屋。
㊀けまり(鞠)㊁ふむ(蹋)。

【〓】㋴アフ、オフ。烏合切。合。㋺烏洽切。洽。
びっこ(跛)。

【〓】チャウ、ヂャウ。直良切。陽。
ひざまづく。

【〓】クツ、コチ。九勿切。物。
㊀足の力つよし㊁いきほひ(威力)㊂ちから(膂力)。

【踛】リク、ロク。力竹切。屋。
をどる(跳)、足を翹ぐ。

【踜】㋴ロウ。魯鄧切。徑。㋺盧登切。蒸。㋩チョウ、トウ。丑拯切。迥。
㋴㊀行く貌㊁馬の病㋺㊀行く貌(踜蹬)㊁つまづく(蹶)㋩とどまる(止)。

【〓】クワン、グワン。胡玩切。翰。
㊀のがる(逃)㊁めぐる(轉)㊂あゆむ(歩)㊃たがふ(迭)。

【踝】クワ、ゲ。胡瓦切。馬。
㊀くびす(跟)㊁くるぶし㊂單獨なること㊃かたき貌。

【踞】キョ、コ。居御切。御。
㊀うづくまる(蹲)㊁すわる(坐)㊂こしかく。
【踞肆】うづくまる。吳質「嚴厲而勁正、踞肆而盤礴」

【〓】ヒ、ビ。扶沸切。未。
あしきる(刖)。

【踟】チ、ヂ。直離切。支。
たちもとほる。
【踟躕】たちもとほる。詩經に「愛而不レ見、搔レ首踟躕」

【踠】㋴エン、ヲン。委遠切。阮。㋺ワ。烏臥切。箇。
㋴かがむ、かがまる(屈)㋺つまづく(踒に同じ)。

【踡】ケン、コン。巨員切。先。
かがまる、せぐくまる。
【踡跼】せぐくまる。淮南子に「踡跼而諦、通夕不レ寐」
【踡踡】まがりて行くこと能はざる貌。

【踢】㋴テキ、チャク。他歴切。錫。㋺シャク、サク。式灼切。藥。㋩チャク。敕略切。藥。
㋴獸の名㋺㋩驚動する貌、急遽なる貌、あわただし。

【踣】㋴ホク、ボク。蒲北切。屋。㋺ハイ、ベ。蒲枚切。灰。㋩ホウ、ブ。蒲候切。宥。㋥ホ、フ。芳遇切。遇。
㋴㋺㋩たふす、たふる(僵)㋥仆に同じ。
【踣斃】たふる。國語に「亡ニ其氏姓一、踣斃不レ振」

【踤】㋴ソツ、ゾチ。昨沒切。月。㋺ソツ、ソチ。蒼沒切。月。㋩スヰ、ズヰ。秦醉切。寘。㋥シュツ、ジュチ。慈邮切。質。
㋴ふる(觸)㋺にはか(猝に同じ)㋩あつまる(集)㋥㊀ふむ(蹴)㊁くだく(摧)㊂おどろく(駭)。

【踥】セフ、ソフ。七接切。葉。
㊀行く貌㊁ゆききする貌。

【踦】㋴キ。去奇切。支。㋺キ、ギ。巨綺切。紙。㋩イ。於義切。寘。㋥キ。語綺切。紙。㋭居宜切。支。
㋴㊀あしなへ、ちんば(蹇)、又、その者㊁かたわれ、かたかた(奇)㊂けはし、さがし(崎に同じ)㋺はぎ(足脛)㋩よる(倚)㋥㊀ふる(觸)㊁さす(刺)㋭旅寓(羇に同じ)。
【踦人】かたはもの。
【踦跂】ちんば。國語に「踦跂畢行」
【踦閭】一扉は開き一扉は閉ぢたる門に、一人は外にあり、一人は内にあるをいふ。公羊傳に「二大夫出、相與踦レ閭而語」

【踧】㋴テキ、ヂャク。徒歴切。錫。㋺シュク、ソク。子六切。屋。
㋴㊀やすし、たひらか㋺㊀うやうやし(恭)㊁蹙に同じ。
【踧踧】たひらかなる貌。詩經に「踧踧周道」
【踧踖】恭敬なる貌。論語に「君在踧踖如也、與與如也」

九畫

【踰】㋴ユ。容朱切。虞。㋺エウ。餘招切。蕭。㋩チュ、ト。椿俱切。虞。㋥ユ。勇主切。麌。
㋴㊀こゆ、こす(越)㊁いよいよ、ますます㊂わたる(度)㊃おかす(犯)㊄すぐ(過)㊅のぼる(騰)㊆をどる(跳)㋺㋩とほし、はるか(遙)㋥癒に同じ。
【踰侈】分外の事をなす。漢書に「富者荒淫越レ制、踰侈以相高」
【踰垣】かきにのぼる。かきをこゆ。孟子に「段干木踰レ垣而辟レ之」
【踰紀】年をこす。王粲「歷ニ春秋一以踰レ紀、行復出ニ于斯鄉一」
【踰越】こゆ。禮記、疏に「禮不レ踰ニ越節度一也」
【踰邁】すぎゆく。書經に「日月踰邁」
【踰羣】なかまにこゆ。高允「越哉伯度、出レ類踰レ羣」
【踰節】節をこゆ。禮記に「禮不レ踰レ節」

節、不徒悔、不好卵」
【踰壓】 こゆ。南史、王弘之傳に「拂衣歸耕、踰歷三紀」
【踱】 ㋑タク、ダク。徒落切。藥。㋺チャク。敕略切。藥。㋑ふむ(蹋)㋺踔に同じ。
【⿰𧾷屋】 アク、オク。乙角切。覺。㊀ちひさき貌㊁せまる(迫)。
【⿱癶𧾷】 ア、ム。亡遇切。遇。ひざまづく(跪)。
【踳】 ㋑シュン。尺尹切。軫。㋺セン。尺兗切。銑。㋑㊀たがふ(舛)㊁そむく(乖)㊂まだら(雜)㋺舛に同じ。
【踳駁】 そむく。魏都賦に「謀踳駁於王義」
【踵】 ㋑ショウ、シュ。之隴切。腫。㋺朱用切。宋。㋑㊀くびす、きびす、かかと(足後)㊁いたる(至)㊂おふ(追)㊃つく(著)㊄ふむ㊅よる(因)㊆つぐ㊇つづく(接)㊈しきりに(頻)㊉車後の軫を承くるもの㋺行くこと能はざる貌(踵蹝)。
【踵接】 人たえまなくつづく。宋史に「中原歸附者踵接」
【踵踐】 ふみあふ。漢書に「餘騎相踵踐爭項王」
【踵擢】 ひきつづきてぬきあぐ。唐書に「大曆中踵擢進士第」
【踵繋】 ひきつづきてとらはる。唐書に「百姓轉徙、踵繋不絕」
【踶】 ㋑テイ、ダイ。特計切。霽。㋺田黎切。齊。㋩チ。池爾切。紙。㋥シ、ジ。上紙切。紙。㋑ふむ(蹋)、すこしくふむ㋺蹏に同じ㋩力を用ゐる貌㋥のぶ(展)。
【踶跂】 心力を用ゐる貌。莊子に「及至聖人、蹩躠爲仁、踶跂爲義、而天下始疑矣」
【踶蹶】 馬などのはしる貌。
【踸】 ㋑チン。丑甚切。寑。㋺タン、テン。丑減切。陷。㊀びっこの行く貌㊁定まりなきこと㊂暴かに長ずる貌。
【踸踔】 ㊀跛者の行く貌。劉禹錫「夔何罪而踸踔」㊁常なき貌。陸機「故踸踔於短韻」㊂暴かに長ずる貌。楚辭に「馬蘭踸踔而日加」
【踹】 ㋑セン、ゼン。市兗切。銑。㋺タン。都玩切。翰。㊀ふむ(蹂)㊁くびす(踵)。
【跬】 ㋑キ。丘弭切。紙。㋺ケイ、ケ。傾畦切。齊。㋩ギ。五委切。紙。㋑足をひらく㋺㋩物をうつ貌(跬[illegible])。
【踼】 ㋑タウ、ダウ。徒郎切。陽。㋺タウ。吐郎切。陽。㋩坦朗切。養。㋑㊀つまづく(跌)㊁ふす(伏)㊂たふる(倒)㋺行くこと正しからず㋩足をのべて伏臥す。
【蹴】 ㋑シウ、ジュ。雌由切。尤。㋺シュク、ソク。七六切。屋。㋑㊀ふむ(藉)㊁ゆく貌(遒に同じ)㋺せまる(迫)。
【踽】 ク、コ。驅雨切。麌。㊀まばらになりてゆく貌㊁親しきもののなき貌㊂ひとりゆく貌。
【踽踽】 獨り行く貌。孟子に「行何爲踽踽涼涼」
【踾】 ㋑フク、ホク。方六切。屋。㋺ヒョク、ヒキ。筆力切。職。㋑あつまる貌㋺㊀ふむ(踏)㊁行きせまる㊂地をふむこゑ。
【踾踧】 ㊀あまる貌。馬融「踾踧攢仄、蜂聚蟻同」㊁ゆきせまる。
【蹀】 テフ、デフ。徒協切。葉。㊀ふむ(履)㊁行く貌。
【蹀蹀】 ゆく貌。范成大「蹀蹀恐顚墜」
【蹁】 ㋑ヘン、ベン。部田切。先。㋺ヘン。布懸切。先。㊀ちどりあし㊁めぐりゆく貌㊂まふ貌㊃後足を拖く馬㊄ひざがしら。
【蹁躚】 ㊀めぐりゆく貌。南都賦に「[illegible]蹁躚」㊁めぐり舞ふ貌。蘇軾「羽衣蹁躚、過臨皐之下」
【蹂】 ㋑ジウ、ニュ。人又切。宥。㋺耳由切。尤。

㋑㊀ふむ(履)㊁ふみにじる㋺㊀米を水にひたしてふむにいふ㊁禾をふみて穀をとるにいふ。
【蹂踐】 ふみにじる。(踐蹂)。史記に「餘騎相蹂踐」
【蹂蹀】 ふみつく。王源「幾經蹂蹀道邊塵」
【蹂轔】 足と車とにてふみにじる。後漢書に「東擽烏桓、蹂轔濊貊」
【蹂躪】 ふみにじる。漢書に「百姓奔走相蹂躪」
【蹄】 ㋑テイ、ダイ。田黎切。齊。㋺大計切。霽。㋑あし、ひづめ㋺ふむ(蹴)。
【蹄涔】 牛馬のあしあとにたまりたる水。物の微少なるに喩ふ。晉書に「劉曜曰、蹄涔不容尺鯉」
【蹄筌】 兎をとるあみと魚を捕ふる竹器と。又、道を說きたる言文をいふ。賈餗「文字言說兮、罔非蹄筌」
【蹄窪】 ひづめのあとのくぼみ。新論に「蹄窪之內、不生蛟龍」
【蹄齧】 ひづめにてけるとくちにてかむと。名畫記に「北齊楊子華畫馬壁、夜聞蹄齧長鳴」

十畫

【蹝】 ヘイ、ハイ。匹詣切。霽。㊀びっこ(跛)㊁そろふ(偶)。
【⿰𧾷旁】 ハウ、バウ。步光切。陽。㊀行かんと欲する貌㊁いそぎゆく、いそぐ。
【蹇】 ケン。居偃切。銑。㊀びっこ、あしなへ(跛)㊁おごる(驕)㊂なやむ(難)㊃まがる(屈)㊄にぶし(遲鈍)㊅にぶきもの㊆忠貞なるもの㊇みだる(擾)㊈ぬく(拔)㊉かかぐ(褰に同じ)⑪とどまる(停)⑫易の卦の名⑬句調を助くるに用ゐる字。
【蹇連】 進まざる貌。蔡邕「塗迍邅其蹇連兮、潦汙滯而爲災」
【蹇偃】 ちんばとせむしと。唐書、楊國忠傳に「士之醜野蹇偃者、呼其名、輒笑於堂上」
【蹇蹇】 ㊀なやみ苦しむ貌。易經に「王臣蹇蹇、匪躬之故」㊁忠貞なる貌。漢書に「引經義、陳禍福、至於涕泣、蹇蹇無已」
【踏】 タフ、トフ。他合切。合。㊀ふむ(蹋)㊁をどる(跳)。
【蹈】 タウ、ドウ。徒到切。號。㊀ふむ(踐)㊁ふみしく㊂ゆく(行)㊃つぐ(踵)㊄うごく、いたむ(悼に同じ)㊅ふみおこなふ(履行)。
【蹈義】 正しき道によりておこなふ。曹植「遭變則以斷蹈義」
【蹈舞】 足をふみならしてまふ。唐書に「武后召審言、將用之、問曰、卿喜否、審言蹈舞謝」
【蹈歌】 ㊀あしぶみしてうたふ。舊唐書、睿宗紀に「上元夜、上皇御安福門觀燈、出內人連袂蹈歌、縱百寮觀之」㊁我國にて、古昔、正月禁中の公事、年始の祝詞を歌ひ舞はしめしもの、男女の巧にうたふものを召し集めて、男の蹈歌は十五日、女のは十六日なり。
【蹈敵】 敵地にふみ入る。魏志に「今千里蹈敵、進不能克」
【蹈踐】 ふみにじる。魏收「劍騎之所蹈踐」
【蹈襲】 あとをうけつぐ。又、前人の說を取りて、そのまま己の說となす。韓愈「蹈襲前人言句」
【蹈湯火】 危險の地に立ち入るに喩ふ。楊炯「雖婦人之兵、可以蹈于湯火」
【蹉】 ㋑サ。七何切。歌。㋺シ。又宜切。支。㋑㊀つまづく(跌)㊁すぐ(過)㊂時を失ふ、足を失ふ。
【蹉跎】 時機を失ふ。たがふ。つまづく。韓愈「蹉跎顏遂低、摧折氣愈下」
【蹉跌】 つまづく。後漢書に「專必成之功、而忘蹉跌之敗」
【蹊】 ㋑ケイ、ガイ。胡雞切。齊。㋺戸禮切。薺。㋑㊀こみち(徑道)㊁すぐ(徑)㋺まつ(徯

に同じ)。

【蹊隧】ケイスイ 山間のこみち。莊子に「山無二蹊隧一、澤無二舟梁一」

【䠛】エウ。餘招切。蕭。❶をどる(跳)❷行歩の貌。

【蹋】タフ、ドフ。徒合切。合。❶ふむ(踐)❷ける(蹴)。

【𨆌】ハン、バン。蒲官切。寒。かがむ、足を屈む。

【蹳】ハン、バン。蒲官切。寒。蹣に同じ。

【蹌】㋑シャウ、サウ。七羊切。陽。㋺七亮切。漾。㋑❶うごく(動)❷はしる(走)❸舞ふ貌❹巧にはしる貌❺士大夫の威儀ある貌㋺蹡に同じ。

【蹌踉】サウラウ よろめく。

【蹌蹌】サウサウ ❶うごく貌。爾雅に「蹌蹌、動也」❷士大夫の威儀ある貌。詩經に「蹌蹌濟濟」❸舞ふ貌。書經に「鳥獸蹌蹌」

【蹍】㋑テン。知演切。銑。㋺趁に同じ。

【蹎】テン。都年切。先。㋑ふむ(蹈)。つまづく(跋)。

【蹎跌】テンテツ つまづきたふる。荀子に「塼塗而塞二江海一、儦儦而戴二太山一、蹎跌碎折、不レ待レ頃矣」

【蹎蹎】テンテン つまづく貌。路史に「其民侗蒙、呺呺蹎蹎」

【蹏】テイ、ダイ。田黎切。齊。❶あし(足)❷ひづめ(蹄)❸うさぎあみ(兎網)。

【蹐】セキ、シャク。資昔切。陌。ぬきあし、さしあし。

十一畫

【𨅊】チョク、ドク。廚玉切。沃。躅に同じ。

【蹔】㋑サン、ゾン。藏濫切。勘。㋺財甘切。覃。㋑❶しばらく(暫に同じ)❷はやくはしる貌㋺とどまる(住)。

【蹕】㋑ヒツ、ヒチ。卑吉切。質。㋺ヒ、ビ。吡至切。寘。㋑❶君王の出で行くに道路を警戒して行人をとどむること、みちおさへ、さきばらひ❷臣民の王宮にちかづくを止むること㋺❶訓義㋑に同じ❷かたよる、偏足にて立つ。

【蹖】ショウ、シュ。書容切。冬。ふむ(蹋)。

【蹙】㋑シュク、ソク。子六切。屋。㋺セキ、シャク。倉歷切。錫。㋑❶せまる(迫)❷ちぢむ(縮)❸ちかづく(近)❹きはまる(急)❺おふ(追)❻うながす(促)❼しわをよせ縮む、しかむ❽ふむ、ける(蹴に同じ)㋺❶ほそし、ちぢむ、❷きはまる(鞠)

【蹙踖】シュクセキ こまたに歩む。鮑照「逢レ險蹙踖、値レ夷舒步」

【䠞】セキ、シュク。シャク、ソク。蹙に同じ。

【𨆪】テフ、デフ。徒協切。葉。❶あしを躡む、ふむ❷こまたにあゆむ。

【𨇚】テフ、デフ。蹀に同じ。

【蹚】㋑タウ。他郎切。陽。㋺タウ、チャウ。抽庚切。庚。㋑ゆくこと正しからず(趺蹚)㋺けづめ。

【蹛】㋑タイ。當蓋切。泰。㋺タ。當何切。歌。㋩テイ、デイ。直例切。霽。㋥タイ、ダイ。徒蓋切。泰。㋭タン、トン。都甘切。覃。㋬テツ、デチ。徒結切。屑。㋑❶ふむ(蹉)❷林木をめぐらして祭ること㋺❶ふむ(蹉)❷たくはふ(貯)㋩おほいに過ぐ㋥滯に同じ㋭跌に同じ。

【蹜】シュク、ソク。所六切。屋。❶せまる(足迫)❷こまたにちぢめ歩む❸縮に通ず。

【蹜蹜】シュクシュク 足を擧ぐることの狹迫なる貌。論語に「足蹜蹜、如レ有レ循」

【蹝】シ。所綺切。紙。ざうり(躧に同じ、草履)。

【蹝履】シリ 履を正しくはかずして引ずり行く。後漢書に「乃驚遽而起、蹝履出迎」

【蹞】キ、クヰ、ク。跬に同じ。セツ、セチ。かたあし。半步。荀子に「不レ積二蹞步一、無三以致二千里一」

【蹟】セキ、シャク。資昔切。陌。あと、したがふ(迹に同じ)。

【蹟意】セキイ 筆づかひと意匠と。圖畫見聞錄に「蹟意兼美、名播二蜀川一」

【蹠】㋑セキ、シャク。之石切。陌。㋺ショ、ソ。章恕切。御。㋩シャク。職略切。藥。㋑❶をどる(跳躍)❷ふむ(蹈)❸ゆく(適)❹あしのうら(跖に同じ)㋺訓義㋑の❹に同じ㋩あしあと(趵に同じ)。

【蹡】㋑シャウ、サウ。七羊切。陽。㋺七亮切。漾。㋑❶行く貌❷あつまる(將に同じ)㋺ゆくこと正しからざる貌(蹌に同じ)。

【蹡蹡】シャウシャウ ❶行く貌。廣雅に「從從蹡蹡」❷あつまる貌。詩經に「磬筦蹡蹡」

【蹢】㋑テキ、ヂャク。直炙切。陌。㋺タク、ヂャク。治革切。陌。㋩テキ、チャク。都歷切。錫。㋑㋺あしをとどむ、たたずむ、たちもとほる、靜かならず、さわぐ、をどる、あしぶみす(蹢躅)㋩❶ひづめ、あし(蹄)❷なぐ(投)。

【蹢躅】テキチョク 足を以て地をうつ。易經に「羸豕孚蹢躅」

【蹣】㋑ハン、バン。蒲官切。寒。㋺バン、マン。母官切。寒。㋑よろめく(蹣跚)㋺牆をこゆ。

【蹤】ショウ、シュ。卽容切。冬。あと(跡)。

十二畫

【蹨】㋑デン、ネン。乃殄切。銑。㋺ゼン、ネン。人善切。銑。❶ふむ(踐)❷おふ(逐)❸つぐ(續)❹とる(執)❺しむ(緊)。

【𨆬】㋑セン。息絹切。霰。㋺ケン、カン。苦倦切。霰。㋩ケン、グヮン。區願切。願。❶あしわな(畏)❷けものあみ。

【𨇼】㋑テツ、デチ。直列切。屑。㋺テツ、テチ。敕列切。屑。㋑あと(轍に同じ)㋺徹に同じ。

【蹩】㋑ヘツ、ベチ。蒲結切。屑。㋺ヘツ、ヘチ。匹蔑切。屑。㋑❶あしなへ(跛)❷ふむ(蹉)❸旋りゆく貌❹心力を用ゐる貌㋺足を反して蹉む、ふむ。

【蹩躠】ヘツサツ めぐりゆく貌。心力を用ゐる貌。莊子に「蹩躠爲レ仁、踶跂爲レ義、而天下始疑矣」

【𨇽】ヘツ、ベチ。ヘツ、ヘチ。蹩に同じ。又、心力を用ゐる貌。

【𨇽躠】ヘツサツ めぐりゆく貌。南都賦に「翹遙遷延、𨇽躠蹁躚」

【蹪】タイ、デ。杜回切。灰。❶たふる(仆)❷つまづく(躓)。

【𨆯】タン、トン。丑犯切。豏。地をふみてうたふ、ふむ。

【蹬】㋑トウ、ドウ。徒互切。徑。㋺トウ。丁鄧切。徑。㋩都騰切。蒸。㋑あしばを失ふ貌(蹭蹬)、ふしまろぶ、勢を失ふ貌、さまよふ(蹭蹬)㋺ふむ(履)㋩のぼる(登に同じ)。

【蹭】㋑ソウ。千鄧切。徑。㋺ショウ、ゾウ。慈陵切。蒸。㋑前の蹬の字の條を見よ㋺馬の四足みな白きもの(騚に同じ)。

【蹮】セン。蘇前切。先。躚に同じ。旋り行く貌。

【蹯】㋑ヘン、ハン。附袁切。元。㋺フン、ボン。符分切。文。❶てのはら、獸の掌❷あしのはら、獸の足。

【躇】㋑チョ、ヂョ。直魚切。魚。㋺チ、ヂ。陳尼切。支。㋩タ、デ。直加切。麻。㋑しざる、たちもとほる(跱躇)㋺㋩とどまる(止)。

【蹰】チュ、ヂュ。躕の俗字。

【蹱】㋑ショウ、シュ。職容切。冬。㋺チョウ、チュ。擬凶切。腫。

(一)ゆくこと正しからざる貌(二)こどもの行くにいふ、又、ゆくこと能はざる貌(蹣跚)。

【蹲】(い)ソン、ゾン。徂尊切。元。(ろ)シュン。七倫切。眞。(は)ソン、ゾン。粗本切。阮。(に)サン、ザン。徂丸切。寒。(ほ)シュン。趨允切。軫。(一)うづくまる(踞)(ろ)(一)まふ貌(二)ゆくに節あること(は)あつむ(聚)(に)竴に同じ(ほ)緩き意にいふ(蹲循)。

【蹲坐】ソンザ うづくまる。張籍「山寺取涼當夏夜、共僧蹲坐石階前」

【蹲踞】ソンキョ 前に同じ。荀子に「陶朱公喪子、隣人往弔之、朱公方擁膝蹲踞、捧頭而笑」

【蹲鴟】ソンシ (植)芋の異名。

【蹲蹲】ソンソン (一)舞ふ貌。詩經に「蹲蹲舞我」(二)行くに節ある貌。揚雄「穆穆肅肅、蹲蹲如也」

【蹬】ハツ、ハチ。北末切。曷。

【蹴】(一)ふむ(跋)(二)ゆく(行)。シュク、ソク。子六切。屋。(一)ふむ、ける、急に蹈む(二)つつしむ(敬)。

【蹴然】シュクゼン おそれて安んぜざる貌。孟子に「曾西蹴然曰、吾先子之所畏也」

【蹴毬】シュクキウ けまりをける。白居易「蹴毬塵不起、潑火雨新晴」

【蹴碎】シュクサイ ふみくだく。戴表元「馬蹄蹴碎牆西草」

【蹴踏】シュクタフ ふみあるく。郝經「蹴踏千年雪、驍騰萬里駒」

【𨃸】シュク、ソク。蹴に同じ。

【𨃸鞠】シュクキク けまり。傅休奕「漢武帝好𨃸鞠」

【蹶】(い)ケツ、コチ。居月切。月。(ろ)ケツ、ケチ。紀列切。屑。(は)ケイ、ゲ。居衛切。霽。(い)(ろ)(一)つまづく、くつがへる(二)たふす、ころばす、くつがへす(三)をどる、はぬ(跳)(四)つく、つくす(竭)(五)ぬく(拔)(六)ける(七)はしる(走)(八)はやし、すみやかなり(疾)(九)よし(嘉)(十)ふむ(は)(一)とびたつ、おどろきたつ、はねおく(驚起)(二)とし、さとし(敏)(三)うごく、うごかす(動)(四)あわつ、あわただし(急遽)。

【蹶失】ケツシツ つまづく。五代史に「懼馬蹶失、不敢怠於御轡」

【蹶然】ケイゼン 急にはね起くる貌。莊子に「廣成子蹶然而起」

【蹶蹶】ケイケイ さとき貌。詩經に「好樂無荒、良士蹶蹶」

【蹶蹶】ケツチ つまづく。

【躄】ケツ、コチ。ケツ、ケチ。ケイ、ケ。蹶に同じ。

【蹸】リン。良刃切。震。(一)きしる(轢)(二)ゆく貌。

【蹹】タフ、ドフ。踏に同じ。

【蹹鞠】タフキク けまり。劉向別錄に「蹹鞠兵勢也、因嬉戲而講練之」

【蹺】ケウ。去堯切。蕭。あしをあぐ(蹻に同じ、擧足)。

【蹻】(い)ケウ。去遙切。蕭。(ろ)ケウ、ゲウ。巨嬌切。蕭。(は)ケウ。居夭切。蕭。(に)キャク、ガク。其虐切。藥。(ほ)キャク、カク。居灼切。藥。(へ)キョク、コク。拘玉切。沃。(い)(ろ)(は)足を高くあぐ(に)(一)たけき貌(二)つよくさかんなる貌(ほ)(一)はしる貌(二)小人の志を得ておごれる貌(三)かんじき(屐)、わらぐつ(鞋)、あしだ(履)(四)そり(橇)(五)行くこと疾き貌、はやし(へ)撟に同じ。

【蹻勇】キョウユウ すばやくつよし。五代史に「弘肇爲人蹻勇、走及奔馬」

【蹻蹻】ケウケウ (一)武き貌。詩經に「蹻蹻王之造」(二)彊く盛んなる貌。詩經に「其馬蹻蹻」(三)キャクキャク 小人の志を得て驕れる貌。詩經に「小子蹻蹻」

【蹻蹬】ケウトウ 蹻は草履、蹬は長柄のかさ、共に旅行の用具なり、故に征途に上ることをいふ。史記、虞卿傳に「躡蹻擔蹬、說趙孝成王、一見賜黃金百鎰、白璧一雙」

【蹼】ホク、ボク。博木切。屋。みづかき。

十三畫

【躁】サウ、ソウ。則到切。號。(一)さわぐ(擾)(二)みだる(亂)(三)うごく(動)(四)はやし(疾)(五)さわがし(六)きぜはし(七)あわただし。

【躁狂】サウキャウ さわぎくるふ。摯虞「哂倏忽之躁狂」

【躁佻】サウテウ かろがろし。韓愈「躁佻反覆、謂之智」

【躁勁】サウケイ かろがろしくしてつよし。北史、劉炫傳に「炫性躁勁、頗好俳諧」

【躁怒】サウド さわがしくいかる。(躁忿、躁憤)。文同「其腹尙餒色躁怒」

【躁急】サウキフ さわがしくいそぐ。宋史に「輕率躁急、無威重」

【躁氣】サウキ さわがしきたち。孟郊「輪去雖有恨、躁氣一何顚」

【躁恣】サウシ さわがしくしてきままなり。易經、注に「夫陰質而躁恣者、羸豕特甚」

【躁虐】サウギャク さわがしくあらあらし。南史に「刺史如何、對者言其躁虐」

【躁進】サウシン 心せはしくすすむ。劉迎「徐趨自循轍、躁進應覆軌」

【躁靜】サウセイ さわぐとしづかなると。顧雲「詳觀躁靜之機、爰契軍戎之事」

【躁擾】サウゼウ 心せはしくわづらはし。漢書に「莽性躁擾、不能無爲」

【躁競】サウケイ 心せはし。北史に「議者惜其人才、而譏其躁競」

【躃】(い)へキ、ヒャク。必益切。陌。(ろ)へキ、ビャク。毗亦切。陌。(い)こしぬけ、あしなへ、又、その者(ろ)たふる(倒)。

【躄】へキ、ヒャク。躃に同じ。

【躅】(い)チョク、トク。廚玉切。沃。(ろ)タク、ドク。直角切。覺。(い)(一)あしずり、あしぶみす(二)たたずむ(ろ)あと(迹)。

【躆】(い)キョ、コ。居御切。御。(ろ)ケキ、キャク。紇逆切。陌。(い)(一)よる(據に同じ)(二)はたらく、おこる(動作)(ろ)擄に同じ。

【躇】(い)チョ、ド。長魚切。魚。(ろ)チャク、ザャク。勅略切。藥。(い)ためらふ、たちもとほる(躊躇)(ろ)こゆ(超)。

【躐】レフ、ロフ。力涉切。葉。ふむ、こゆ(躐に同じ)。

【躈】ケウ。詰弔切。嘯。(一)馬の尻の骨(二)馬の口。

十四畫

【躊】チウ、ヂュ。直由切。尤。ためらふ、たちもとほる(躊躇)。

【躊躇】チウチョ ためらふ。高適「聖代卽今多雨露、暫時分手莫躊躇」

【躐】タン、ダン。杜管切。旱。(一)ふむ(踐)(二)行くことすみやかなり。

【躋】セイ、サイ。祖稽切。齊。のぼる、のぼす(登)。

【躋升】セイショウ のぼる。宋史に「天神定位、難以躋升」

【躋攀】セイハン のぼりよづ。杜甫「一丘藏曲折、緩步有躋攀」

【躍】ヤク。以灼切。藥。(一)あがる(上)(二)すすむ(進)(三)をどる(跳)(四)をどり(五)こゆ(越)(六)とびあがる(七)すみやか(迅)(八)をどらす。

【躍升】ヤクショウ をどりのぼる。謝靈運「暘谷躍升、虞淵引落」

【躍出】ヤクシュツ をどりいづ。晉書に「冰忽自解、雙鯉躍出」

【躍如】ヤクジョ をどりたつ貌。いきいきしたる貌。

【躍蹄】ヤクテイ 馬をはす。賈島「躍蹄歸晉日、帶漏別秦星」

十五畫

【躐】レフ、ロフ。良涉切。葉。(一)こゆ(踰越)(二)ふむ(踐)(三)もつ(持)。

【躐等】レフトウ 次第をこゆ。禮記に「幼者聽而弗問、學不躐等也」

【躐登】レフトウ 衆にぬきんであぐ。又、こえ

のぼる。宋史に「士之貪緣攀附者、無レ不レ蹢ニ登顯要一」

【蹢】テキ、チャク。直炙切。陌。
あしぶみす、たたずむ(蹢躅)。

【躒】㋑レキ、リャク。郎擊切。錫。㋺ラク。盧各切。藥。㋩ラク、ロク。力角切。覺。㋥ヤク。弋灼切。藥。
㋑うごく、うごかす(躒に同じ)㋺㋩こゆ(超)㋥すみやか(迅)。

【躓】㋑チ。陟利切。寘。㋺シツ、シチ。職日切。質。㋩チ。張尼切。支。
㋑㋺❶つまづく❷くじく(挫折)❸ころぶ(顚)❹ふむ(蹋)㋩跮に同じ。

【躓顚】つまづきたふる。易林に「出レ門履蹈、躓顚蹉レ足」

【躔】㋑テン、デン。直連切。先。㋺丈善切。銑。
㋑❶ふむ(踐)❷めぐる、ゆく❸脚の踐む處、日月星の循行する軌道㋺❶うつりゆく(移行)❷めぐる(循)。

【躕】㋑チュ、ヂュ。直誅切。虞。㋺チュウ。慣用音。
ためらふ(踟躕)。

【躓】チ。陟利切。寘。
つまづく(蹇)。

十六畫

【躙】リン。良刃切。震。
ふむ、ふみにじる、きしる。

【躚】セン。蘇前切。先。
❶よろめく❷まふ。

【躚躚】舞ふ貌。蜀都賦に「紆ニ長袖一而屢舞、翩躚躚以裔裔」

【躛】㋑エイ、エ。于劌切。霽。㋺クワイ、ケ。火怪切。卦。
❶あやまつ(過)❷まもろ(衛)。

【躛言】いつはりごと。左傳に「萊章曰、往歲克レ敵、今又勝レ都、天奉多矣、又焉能進、是躛言也」

十七畫

【躝】㋑ラン。落干切。寒。㋺タン。唐干切。寒。
こゆ(踰)。

【蹮】セン。相然切。先。
よろめく、まふ(躚に同じ)。

【躞】セフ、ソフ。蘇協切。葉。
❶卷軸のしん❷つらなりゆく貌(躞蹀)。

【躟】㋑ジャウ、ナウ。如陽切。陽。㋺汝兩切。養。
❶おそる❷いそぐ。

【躍】ヤク。以灼切。藥。
❶をどる(躍)❷ふむ(履)❸ぬく(拔)❹ゆく(行)❺のぼる(登)。

【躠】㋑サツ、サチ。柔葛切。曷。㋺セツ、セチ。私列切。屑。
❶めぐりゆく貌❷心力を用ゐる貌。

【躃】サツ、サチ。セツ、セチ。躠に同じ。

十八畫

【躡】デフ、ネフ。尼輒切。葉。
❶ふむ(蹈)❷いたる(至)❸のぼる(登)❹つぐ(踵)❺いそぐ(急)❻はやし(疾)。

【躡足】あしをふむ。史記に「張良陳平躡ニ漢王足一」

【躡屐】はきものをはく。又、はきもの。溥陽記に「東帶躡屐而詣焉」

【躡虛】おほぞらをふみゆく。孫綽「應眞飛レ錫以躡レ虛」

【躡尋】たづぬ。漢書に「疑レ有ニ迫切過誤失言、文吏躡尋、不レ得ニ轉移一」

【躡舄】くつをふみてあるく。高道素「振レ袖戴レ月、躡レ舄揚レ埃」

【躡敵】てきのあとをつけゆく。提奇經に「遊軍從レ後躡レ敵」

【躡屩】わらぐつをはく。史記に「虞卿躡レ屩擔レ簦、一見ニ趙王一」

【躢】タフ、ドフ。徒盍切。合。
ける、ふむ(蹋に同じ)。

【躣】ク、ゴ。權俱切。虞。
行く貌。

【躤】㋑シャ、セ。慈夜切。禡。㋺セキ、ジャク。秦昔切。陌。
ふむ(踐)。

十九畫

【躧】㋑シ。所綺切。紙。㋺リ。鄰知切。支。㋩サイ、セ。所蟹切。蟹。
❶あゆむ(步)❷ふむ(履)❸しづかにゆく(徐行)❹わらぐつ(草履)❺ひっかけ。

【躧步】舞の步のはこび。江淹「燿ニ邯鄲之躧步一、擅ニ百里之鳴瑟一」

二十畫

【躩】㋑クワク。丘縛切。藥。㋺ケキ、キャク。驅碧切。陌。
❶をどる(跳)❷とくゆく(疾步)❸足をめぐらし辟くること。

【躪】リン。藺に同じ。

二十一畫

【躅】㋑チョク、ドク。直錄切。沃。㋺ショク、ソク。珠玉切。沃。
㋑躅に同じ㋺行くにつつしむ貌。

身部

部首

【身】㋑シン。失人切。眞。㋺ケン。其堅切。先。
㋑❶み❷みづから(親)❸われ(我)❹はらむ(懷孕)㋺印度の古稱(身毒)。

【身全】からだ無事なり。孫綽「匪レ躬而身全、遺レ功而勳擧」

【身長】からだのたけ。後漢書に「光武身長七尺三寸、美須大口」

【身命】いのち。北史に「誓レ終ニ身命一、經ニ十三年一、哀慕不レ改」

【身計】一身上のはかりごと。王禹偁「宦途多ニ齟齬一、身計頗悲涼」

【身脩】身をさまる。大學に「心正而后身脩」

【身章】みのかざり。陸游「漢雲野寉作ニ身章一」

【身貌】すがた。かたち。史記に「視ニ其身貌形狀一、不レ足ニ以當ニ人主一矣」

【身薄】徒手にてせまる。枚乘「毅武孔猛、袒裼身薄」

【身後名】死後のほまれ。晉書、張翰傳に「翰曰、使ニ我有ニ身後名一、不レ如ニ卽時一杯酒一」

【身後計】死後のはかりごと。朱德潤「蕭天富貴那足レ恃、厚祿未レ爲ニ身後計一」

【身後之諫】死後に君をいさむること。蘇洵「吾觀ニ史鰌一、以レ不レ能レ進ニ蘧伯玉一、而退ニ彌子瑕一、故有ニ身後之諫一」

【身若レ不レ勝レ衣】❶おそれつつしむことの甚だしきをいふ。韓詩外傳に「昔者周公事ニ文王一、行無ニ專制一、事無レ由レ己、身若レ不レ勝レ衣」❷身體柔弱なるにいふ。荀子に「葉公子高、微小短瘠、行若レ將レ不レ勝ニ其衣一」

【身體髮膚受ニ之父母一】我からだはまるで父母より受けたるものなり。孝經に「身體髮膚、受ニ之父母一、不ニ敢毀傷一、孝之始也」

三畫

【躬】キュウ。居戎切。東。
❶み、みづから(躳に同じ)❷人體の形❸人の姓。
說文に「躳或は、弓に从ふ、身なり」五經文字に「躬は俗の躳の字、今經典に通用す」

【躬行】我身にみづからおこなふ。漢書に「不レ言而躬行」

【躬耕】おのれみづから田をたがやす。禮記に「諸侯大夫、躬ニ耕帝籍一」

【躬率】みづからひきゐる。(親率)。盧懷愼「人之所レ仰在ニ于孝一、陛下躬率ニ此道一、爲ニ天下先一」

【躬稼】みづから穀をうう。論語に「禹稷躬稼、而有ニ天下一」

【躬親】おのれみづからす。詩經に「弗レ躬弗レ親、庶民弗レ信」

四畫

【䠶】サウ、セウ。山巧切。巧。
からだの長き貌。

【⿰身比】ヒ、ピ。房脂切。支。からだのしなやかなること。

【⿰身支】シ。章移切。支。からだ(⿰身只に同じ)。

【躭】タン、トン。耽の俗字。

【躮】〔國字〕せがれ。

五畫

【⿰身只】シ。章移切。支。胑に同じ。

【躰】テイ、タイ。體の俗字。

【躯】ク、コ。軀の俗字。

【⿰身矢】シャ、ジャ。セキ、ジャク。射に同じ。

六畫

【⿰身兆】テウ。他弔切。嘯。身のながき貌。

【⿰身同】トウ、ツ。吐孔切。董。みをくづす、ねぢく。

【⿰身夸】クヮ、ケ。枯瓜切。麻。⿰身夸⿰身失は、體のしなやかなること、又、そのしなやかなるを誇る。

【⿰身亥】カイ、ガイ。骸の俗字。

七畫

【⿰身廷】テイ、チャウ。他頂切。迥。たけたかし。

【躳】キュウ、ク。居崇切。東。み、みづから(身)。説文に「身に从ひ、呂に从ふ」

【躴】ラウ。魯當切。陽。たけたかき貌(躴躿)。

八畫

【⿰身脊】キュウ、ク。去仲切。送。㊀かがむ、躬をまぐ ㊁つかふ(使役)。

【躶】ラ。郎果切。哿。はだぬぐ、はだか(袒)。

【躶身】はだか。史記、陳平世家に「臣躶身來、不レ受レ金、無二以爲一レ資」

【躸】キ。居宜切。支。㊀み(身) ㊁ひとり(單) ㊂ひとつ、かたかた(隻)。

【躹】キク、コク。居六切。屋。かがむ、せぐくまる。

九畫

【躽】㋑エン。於殄切。銑。㋺エン、オン。隱幰切。阮。㊀かがむ、身を曲ぐ ㊁はらをふくらする、くぐせ(傴)。

十一畫

【躾】〔國字〕しつけ。

【躿】カウ。苦岡切。陽。たけたかし(躴躿)。

【軀】ク、コ。豈倶切。虞。み(身)、からだ、むくろ(體)。

【軀幹】身のたけ。杜甫「子雖二軀幹小一、老氣橫二九州一」

【軀骸】からだ。蘇舜欽「奈二何此軀骸一、未レ免レ混二世俗一」

【軀體】前に同じ。後漢書に「雖レ沒二軀體一、無レ所二云補一」

十二畫

【軄】シヨク、シキ。職の俗字。

十三畫

【軆】テイ、タイ。體に同じ。

【⿰身亶】セン。旨善切。銑。㊀ふるふ、ゆるぐ、體搖ぐ ㊁はだか(倮)。

十四畫

【⿰身寧】デイ、ニャウ。奴頂切。迥。あか(垢)。

十七畫

【軈】〔國字〕やがて。

車部

部首

【車】㋑キョ、コ。斤於切。魚。㋺シャ、セ。昌遮切。麻。㋑くるま ㋺㊀くるま ㊁はどこ(齒牙の下の骨)

【車右】戎車の右にありてその兵革を掌る者。公羊傳に「趙盾之車右祁彌明者、國之力士也」

【車兵】くるまに乘りてたたかふ兵。左傳に「賦二車兵徒卒甲楯之數一」

【車軌】くるまのあと。魏志に「非二足跡車軌所一レ及」

【車航】くるまとふね。揚子法言に「車航混混、不レ捨二晝夜一」

【車渠】玉の類。王粲「侍二君子之宴坐一、覽二車渠之妙珍一」

【車裂】人體を兩車につなぎて左右へ引きさく。史記に「秦惠王車二裂商君一、以徇」

【車雷】くるまのとどろく音。韓琦「車雷晴起曲江塵」

【車輅】くるま。宋史に「太僕寺掌二車輅廄牧之令一」

【車蓋】車上をおほふかさ。杜甫「有レ柏生二崇岡一、童童狀二車蓋一」

【車靷】車をひくむながい。汝南先賢傳に「憲乃當レ車拔二佩刀一、以斷二車靷一」

【車磔】人體を兩車につなぎて左右へ引きさく。孔叢子に「齊王行二車磔之刑一」

【車輗】くるまのながえのはし。韓非子に「不レ如下爲二車輗一者巧上也」

【車駕】天子の乘らるるくるま。史記に「天子車駕、蹕道未レ行」

【車輪】くるまのわ。魏武帝「羊腸坂詰曲、車輪爲レ之摧」

【車輞】車輪の外周をつつむもの。陸游「匡山如二香爐一、藍水似二車輞一」

【車箱】はこぐるま。隋書に「爲二弩樓車箱獸圈一、一夕而就」

【車輻】くるまのや。陸機詩疏に「榜葉似二櫟木一、皮厚數寸、可レ爲二車輻一」

【車鼇】〔動〕おほはまぐり。梅堯臣「車鼇興二月蛤一、寄自二海陵郡一」

【車轅】くるまのながえ。國語に「夫郤氏有二車轅之難一」

【車騎】いくさぐるま。禮記に「前有二車騎一、則載二飛鴻一」

【車前子】〔植〕おほばこ。

【車輪菜】前に同じ。

【車轂擊】くるまのこしきとこしきとすれあふ。人の甚だしく雜沓するさまにいふ。戰國策に「臨淄之途、車轂擊、人肩摩」

【車載斗量】車にのせ桝にてはかる。物の數多くあるをいふ。吳志に「趙咨使レ魏、王曰、吳如二大夫一者幾人、對曰、聰明特達者、七八十人、如二臣輩一車載斗量、不レ可二勝數一」

【車轍馬跡】足跡到らざる所なきをいふ。左傳に「昔穆王欲レ肆二其心一、周二行天下一、將三皆必有二車轍馬跡一焉」

【車馬有行色】人の將に行かんとするをいふ。又、旅行してかへりたるさまにもいふ。莊子に「孔子說三盜跖遇二柳下季一曰、車馬有二行色一、得三微往見二盜跖一耶」

一畫

【軋】㋑アツ、エチ。於黠切。黠。㋺アン、エン。瞖眼切。潸。㊀きしる ㊁長く遠き貌(軋芴) ㊂こまか(軋忽) ㊃古代の刑の一。

【軋芴】こまやかなり。司馬相如「周覽泛觀、縝紛軋芴」

【軋忽】長く遠き貌。漢書に「假二清風軋忽、激二長至重觴一」

【軋軋】きしる音の形容。劉克莊「大車小車聲軋軋」

【軋轢】すれあふ。

二 畫

【軋】ハン、ホン。父發切。譩。しきみのまへ（軓に同じ）。

【軌】キ。居洧切。紙。❶わだち、あと（車轍）❷ぢくさき（軸頭）❸みち❹のり（法）❺ゆきみち❻したがふ（循）❼甚に同じ❽宄に通ず。

【軌度】のり。きそく。史記に「皆遵二軌度一、和安敦勉」

【軌則】のり。てほん。晉書に「抑レ之以二權勢一、納レ之以二軌則一」

【軌迹】くろまのあと。又、正しきのり。漢書に「遵二商周之軌迹一、循二詩人之所一レ刺」

【軌道】❶日月星辰の通過するみち。❷正しきみちにしたがふ。漢書に「諸侯軌レ道、獄訟衰息」

【軌儀】定まりたるのり。史通に「宮闕制度、朝廷軌儀」

【軌模】のり。てほん。張衡「揮二翰墨一以奮レ藻、陳二三皇之軌模一」

【軌憲】のり。おきて。魏書に「示二軌憲於萬世一」

【軌範】のり。てほん。法書要錄に「張二皇當世一、軌二範後人一」

【軌轍】くるまのわだち。轉じて、法則の義に用ゐる。水經、注に「小隴山巖嶂高嶮、不レ通二軌轍一」

【軌躅】くるまのわだちのあと。何遜「六郡湊二其衣冠一、五陵窮二其軌躅一」

【軍】㋹クン、コン。拘云切。文。㋺グン。慣用音。❶いくさ❷もろもろ❸たむろす（屯）❹つはもの（兵士）。

【軍用】いくさの費用。仲長統「薄二吏祿一以豐二軍用一」

【軍刑】軍人に科するしおき。周禮に「以二五刑一糾二萬民一、（中略）二曰軍刑、上レ命糾レ守」

【軍役】いくさ。戰爭。戰國策に「卽有二軍役一、未レ嘗倍二泰山一」

【軍制】兵事に關するおきて。五代史に「創二立軍制一、選レ將練レ兵、甚有レ法」

【軍法】いくさの方法。又、軍中のおきて。漢書、高帝紀に「蕭何頒二律令一、韓信申二軍法一」

【軍門】軍營のでいりぐち。左傳に「胥甲趙穿當二軍門一呼曰、死傷未レ收、而棄レ之不惠也」

【軍所】兵營。又、戰場。漢書、蕭何傳に「莫レ若レ遣二子孫昆弟能勝レ兵者一悉詣二軍所一」

【軍府】將軍の役所。左傳に「晉侯觀二於軍府一、見二鍾儀一」

【軍持】水を入るる瓶。賈島「我有二軍持一、憑二子弟一、岳陽江裏汲二寒流一」

【軍政】軍事に關するまつりごと。左傳に「百官象レ物、而動二軍政一」

【軍書】❶軍事のてがみ。漢書に「軍書交馳而輻輳」❷軍事に關する書物。木蘭歌に「軍書十二卷」

【軍馬】軍事用のうま。漢書に「令、公卿以下、至二郡縣黃綬吏一、皆保二養軍馬一」

【軍師】いくさの謀を定むる者。參謀。蜀志に「成都平、以レ亮爲二軍師一」

【軍容】いくさのいでたち。禮記に「軍容不レ入レ國」

【軍陣】軍隊の排列。漢書に「與レ人居、則畫レ地爲二軍陣一」

【軍將】一軍のかしら。詩經、箋に「天子以二其賢一、任爲二軍將一」

【軍國】交戰中のくに。晉紀總論に「籌二畫軍國一、嘉謀屢中」

【軍須】いくさに用ゐるもの。唐書に「軍須期會爲レ急」

【軍資】いくさの費用。晉書に「內則鎭二百姓一、外供二軍資一」

【軍備】いくさのそなへ。歐陽修「課レ田而實二軍備一」

【軍需】いくさのもとめ。十六國春秋に「課二農桑一、以供二軍需一」

【軍監】軍事のめつけ。漢書に「內置二司命軍正一、外設二軍監一」

【軍團】兵士のくみ。唐書に「卒伍軍團之名數、器械車馬之多少」

【軍閥】いくさのいさを。唐書に「開

元初錄二軍閥一」

【軍實】兵甲器械の類。左傳に「齊侯祭レ社、蒐二軍實一」

【軍鋒】いくさのさきて。史記、黥布傳に「布常爲二軍鋒一」

【軍餉】軍隊の糧食。馮惟建「指二揮軍餉一收二夜郎一」

【軍賞】いくさの襃賞。漢書、陳湯傳に「軍賞不レ踰レ月」

【軍樂】軍中に用ゐる音樂。韋應物「伐レ鼓軍樂陳」

【軍儀】軍中の儀式。北史に「奉レ詔督二十二軍一、校閱甚得二軍儀一」

【軍機】いくさのかけひき。南史、顏竣傳に「竣出二入臥內一、斷二決軍機一」

【軍謀】いくさのはかりごと。王逢「元帥統二將權一、言責在二軍謀一」

【軍憲】軍隊のおきて。宋書に「懼レ致二軍憲一、可二曾加レ寛一」

【軍聲】兵馬のひびき。東京賦に「坐作進退、節以二軍聲一」

【軍營】とりで。（陣營）。盧綸「亂山臨二野渡一、落日照二軍營一」

【軍檄】いくさのふれぶみ。馬定國「鼓來又幾日、軍檄忽四馳」

【軍職】軍事を司る官。宋史、楊崇勳傳に「性貪鄙、久任二軍職一」

【軍鎭】軍隊の守備。白居易「山河地襟帶、軍鎭國藩維」

【軍壘】とりで。（戎壘、城壘）。杜甫「妻孥隔二軍壘一」

【軍禮】軍事に關する禮式。周禮に「大宗伯之職、以二軍禮一同二邦國一」

【軍籌】いくさのはかりごと。杜牧「玉帳軍籌羅二俊彥一、絳帷環珮立二神仙一」

【軍警】いくさのいましめ。晉書に「近畿無二復軍警一」

【軍籍】軍人の住所氏名等を記したる帳簿。東觀漢紀に「按二覆軍籍一、無二一卒慮額者一」

三 畫

【軏】㋹ゲツ、グワチ。魚厥切。月。㋺ゴツ、ゴチ。五忽切。月。よこがみ（軸頭）。

【軑】㋹テイ、ダイ。大計切。霽。㋺度柰切。泰。❶わ（車輪）❷そとかりも（車轄）❸地の名。

【軒】㋹ケン、コン。虛言切。元。㋺許偃切。阮。㋩許建切。願。㋥カン。呼旱切。旱。㋹❶のき、ひさし、轉じて、いへ（家）❷まど（牕）❸ほそどの（長廊）❹車の名、又、車の通稱❺たかし（高）❻かろし（輕）❼あぐ、あがる（擧）❽自得の貌❾わらふ貌❿おばしま（檻闌）⓫おばしまの板⓬まふ貌⓭くるまのしきみ（車軾）⓮大きくきりたる肉⓯罕に通ず。

【軒岐】醫學、醫術をいふ。軒は黃帝軒轅氏、岐は岐伯にして共に醫學の祖なり。高啓「坐談周孔雜二軒岐一」

【軒秀】たかくひいづ。唐書、嚴挺之傳に「姿質軒秀」

【軒峙】たかくそばだつ。鍾會「或舒レ翼軒峙洪婆」

【軒昂】あがる。又、たかし。柳宗元「舟航軒昂兮、下上飄鼓」

【軒軒】❶舞ふ貌。淮南子に「軒軒然方迎レ風而舞」❷自得する貌。唐書に「軒軒自得」

【軒特】たかくしてすぐれたり。唐書に「莊重寡言、體貌軒特」

【軒然】笑ふ貌。天祿外史に「韓王軒然仰笑」

【軒渠】前に同じ。後漢書に「見レ譏二父母一、軒渠笑悅」

【軒冕】貴人の被るかんむり。轉じて、官祿のことにいふ。張九齡「避レ世辭二軒冕一、逢レ時解二薜蘿一」

【軒韶】たけたかきくるま。北史、崔浩傳に「父子竝乘二軒韶一」

【軒溜】あまだり。後漢書に「前當二軒溜一、北面跪」

【軒輊】まされるとおとれると。詩經に「戎車既安、如レ輊如レ軒」

【軒廊】のきした。鄭巢「軒廊明二野

色、松檜濕ニ春煙一」
【軒廡】ケンブ のき。晉書に「照ニ映軒廡一、光ニ華前載一」
【軒鰭】ケンキ ひれなふるひたつ。前趙錄に「有ニ一白魚一、頂有ニ一角一、軒鰭躍レ鱗、而至ニ祭所一」
【軒闓】ケンガイ たかく大いなり。蘇舜欽「公襟度軒闓、不レ屑ニ細務一」
【軒矚】ケンショク のびあがりて見ろ。桓鑾寶「延ニ修頸一以軒矚」
【⿰車川】シュン。東倫切。眞。㊀ひつぎぐるま㊁こしきしばり。
【軓】ハン、ホン。⿰車巳に同じ。
【軔】ジン、ニン。而振切。震。㊀くるまのとめぎ㊁ひろ(仞に同じ)㊂物の行くなとどむろにいふ。

四畫

【軖】キャウ、ガウ。巨王切。陽。㊀いととりぐるま(紡車)㊁輪のひとつある車㊂車もとろ。
【⿰車心】シン。息林切。侵。くるまのしんぎ。
【軘】トン、ドン。徒渾切。元。いくさぐるま(兵車)。
【⿰車爻】カク、コク。カウ、ケウ。較に同じ。
【軛】アク、ヤク。於革切。陌。くびき。
【軜】ダフ、ナフ。奴答切。合。うちたづな(內轡)。
【軝】キ、ギ。巨支切。支。こしきのはし(轂端)。
【軞】バウ、モウ。莫袍切。豪。きみのくるま(公車)。
【軟】ゼン、ナン。輭の俗字。
【軟玉】ナンギョク 豆腐の異名。蘇軾「筋上凝脂滑、鐺中軟玉香」
【軟弱】ナンジャク かよわし。易林に「軟弱無レ輔、不レ能ニ自理一」
【軟毳】ナンセイ やはらかなる毛。元稹「有レ鳥名爲レ鳩、毛衣軟毳心性柔」
【軟媚】ナンビ なまめかし。宣和畫譜に「皆非ニ優柔軟媚取ニ悅兒女子一者上」
【軟滑】ナンクワツ やはらかにしてなめらかなり。(柔滑)。齊民要術に「津汁軟骨、無ニ物能比一」
【軟聲】ナンセイ やさしきこゑ。
【軟脚病】ナンキャクビャウ かっけ。韓愈「比得ニ軟脚病一、往往而劇」

五畫

【軥】㋴ク、ゴ。其俱切。虞。㋺コウ、ク。古侯切。尤。㋩古候切。宥。㋴くびき(軛)㋺㊀くるま(夏代に用ゐしもの)㊁車のしんぎ㋩㊀くびき(輗)㊁ひきぐるま(輓車)。
【軦】キャウ、カウ。許放切。漾。蟲の名(黃軦)。
【軧】㋴テイ、タイ。典禮切。薺。㋺チ、ヂ。陳尼切。支。㋩展几切。紙。㋴うしろ(後)㋺車の兩尾㋩おくろ。
【軨】レイ、リヤウ。郞丁切。靑。㊀車のはこの閒の橫木㊁れんじ(櫺に通ず)㊂和鈴ある車㊃獵車の一種㊄車闌㊅車較。
【軨軨】レイレイ 獸の名。山海經に「空桑之山有レ獸、狀如レ牛而虎文、其音如レ欽、其名曰ニ軨軨一」
【軨獵】レイレフ ちひさきくろま。漢書に「太僕以ニ軨獵車一、奉ニ迎曾孫一」
【軫】シン。止忍切。軫。㊀くるまのよこぎ㊁まがる(曲)㊂めぐる(轉)㊃かくる(隱)㊄うごく(動)㊅いたむ(痛)㊆くるま(輅)㊇衆くしてさかんなり㊈みつうち(二十八宿の一)㊉琴の具。
【軫念】シンネン 天子の御こころ。徐陵「軫ニ念過曹一、猶感ニ盤殮之惠一」
【軫恤】シンジュツ あはれむ。宋史に「願ニ此疲羸一、尤堪ニ軫恤一」
【軫悼】シンタウ 天子の御なげき。宋史に「眞宗軫悼、贈ニ兵部尙書一」
【軫軫】シンシン 衆くして盛んなる貌。史記、

律書に「軫者言ニ萬物益大而軫軫然一」
【軫慨】シンガイ なげく。陶弘景「每對レ月流歎、臨レ風軫慨」
【軫憂】シンイウ おもきうれへ。楊維楨「輪臺悔レ過、富民軫憂」
【軫墓】シンボ かなしみしたふ。梁元帝「人祇軫墓、山海含レ悲」
【軩】シン。軫の俗字。
【軬】㋴ヘン、バン。扶晚切。阮。㋺ホン、ボン。步本切。阮。㋴車のおほひ㋺車上の篷。
【軮】㋴アウ。倚朗切。養。㋺フク、ボク。房六切。屋。㋴㊀きしるこゑ(軋聲)㊁遠く相映ずる貌㋺縣の名。
【軮軋】アウアツ とほく映ずる貌。又、際限なき貌。漢書に「據ニ軨軒一而周流兮、忽軮軋而無レ垠」
【軯】ハウ、ヒャウ。披耕切。庚。㊀雷のこゑ㊁鐘鼓のこゑ㊂車の行くこゑ。
【軰】キョウ、ク。居竦切。腫。㊀きしろ(轢)㊁おほわ(輞)。
【軱】コ、ク。古胡切。虞。おほぼね(盤骨)。
【軴】㋴チュ、ツ。中句切。遇。㋺チュウ。慣用音。とどまる(駐)。
【⿰車卬】ギャウ、ガウ。魚向切。漾。かご(轎)。
【⿰車卯】リウ、ル。力久切。有。㊀ひつぎぐるま(柩車)㊁喪のくろまかざり。
【軵】㋴ジョウ、ニュ。而隴切。腫。㋺ホ、フ。裴古切。麌。㋩ジョウ、ニュ。人冬切。冬。㋴かろきくろま(輕車)㋺おす(擠)㋩おす(推)。
【軷】㋴ハツ、バチ。蒲撥切。曷。㋺ハイ、バイ。蒲蓋切。泰。門出に道祖神を祀る祭の名。
【軷祭】ハツサイ 門出せんとする時のまつり。爾雅、翼に「將レ郊爲ニ軷道之祭一、蒸ニ之於行神之位一」
【軸】チク、ヂク。直六切。屋。㊀まきもの㊁よこがみ(橫木)㊂まきもののなまき持つしん㊃しんぎ㊄よこまき(織具)㊅まきものの數にいふ㊆めぐりめぐりて行かざるにいふ㊇病みて行く能はざるにいふ㊈地の名。
【軹】シ。諸氏切。紙。㊀ふたまた(岐)㊁よこがみのさき㊂いたちぐさ(藥草の一種)㊃字句に添へ加ふろ助字(只に同じ)。
【軹首蛇】シシュダ 〔動〕二つのかしらのあるへび。爾雅に「北方有ニ比肩民一焉、迭食而迭望、中有ニ軹首蛇一焉」
【軺】㋴エウ。餘招切。蕭。㋺セウ、ゼウ。時饒切。蕭。㊀をぐるま(小車)㊁ものみぐるま。
【軺傳】エウデン 輕快なる宿つぎのくるま。漢書に「駕ニ一封軺傳一、遣レ詣ニ京師一」
【軻】カ。苦何切。歌。㊀轗軻は、車行の不利なること、轉じて、人のふしあはせにいふ㊁車の軸を接ぐこと。
【軼】㋴イツ、イチ。夷質切。質。㋺テツ、デツ。徒結切。屑。㋴㊀おかす(侵)㊁後より前に出づ㊂つく(突)㊃すぐ(過)㊄ちる(散)㊅あふる(溢に通ず)㊆逸に通ず㋺㊀訓義㋴に同じ㊁わだち(轍に通ず)㊂たがひに(迭に同じ)。
【軼事】イツジ 廣く世に知られざる事柄。朱熹「蒐ニ輯先世遺文軼事一、纖悉無レ遺」
【軼倫】イツリン なかまのものよりすぐる。鶡冠子に「歷越踰レ俗、軼倫超レ等」
【軼詩】イツシ あまねく世に知られざるし。史記、伯夷傳に「覩ニ軼詩可レ異焉一」
【軼態】イツタイ すぐれたるさま。傅毅「軼態橫出、瑰姿譎起」

六畫

【軾】ショク、シキ。賞職切。職。㊀しきみ㊁しきみに伏して敬禮をなす㊂通じて、式に作る。

【輁】(ゆ)キョウ、グ。渠容切。冬。(ろ)キョウ、ク。居竦切。腫。ひつぎぐるまに載せたる棺を支へ持つものの稱。

【輂】キョク、コク。居玉切。沃。㊀ふご㊁おほぐるま（大車）。

【輥】コン、ゴン。戸昆切。元。車のまへのかざり。

【較】(ゆ)カク、コク。古岳切。覺。(ろ)カウ、ケウ。古孝切。效。(ゆ)㊀車輢上の曲りたる銅、よこぎ㊁にばこ（車箱）㊂くらぶ、きそふ（角に通ず）(ろ)㊀ほぼ、おほむね（略）㊁やや（差を表す字）㊂いちじるし（著）㊃ちがひ㊄はかる、くらぶ（校に同じ）。

【較然】カクゼン 著明なる貌。漢書に「明主在レ上、賢不肯較然」

【較著】カクチヨ あきらかなり。史記に「此其尤大彰明較著者也」

【較覆】カクフク くらべしらぶ。唐書に「詔二吏部尙書李景讓一、糊レ名較覆」

【輷】(ゆ)グワウ。呼宏切。庚。(ろ)シュン。輴に同じ。(ゆ)とどろく（轟）。

【輅】(ゆ)ロ、ル。洛故切。遇。(ろ)ラク。歷各切。藥。(は)カク。轄各切。藥。(に)ガ、ゲ。魚駕切。禡。(ゆ)㊀天子の御車㊁おほいなり㊂ながえしばり（轅縛）(ろ)(は)車のまへのよこぎ(に)むかふ（迎）。

【輇】(ゆ)セン、ゼン。市緣切。先。(ろ)チュン。敕倫切。眞。(ゆ)㊀はかる（銓に通ず、量）㊁車の下にある庳き輪㊂輻なき輪㊃輻に同じ(ろ)こしきしばり（輴に同じ）。

【輈】チウ、チュ。張流切。尤。㊀ながえ（轅）㊁てづよし。

【輈張】チウチヤウ てづよき貌。後漢書に「汝今輈張、怙二汝兄一邪」

【載】(ゆ)サイ。作代切。隊。(ろ)サイ、セ。作亥切。賄。(は)タイ。都代切。隊。(に)サイ、ザイ。昨代切。隊。(ゆ)㊀のす、のる（乘）㊁こと（事）㊂すなはち（則）㊃うく（承）㊄つぐ（續）㊅たふ（勝）㊆なす（成）㊇はじむ、はじめ（哉に通ず）㊈おこなふ（行）㊉みつ（滿）(十一)しる（知）(十二)ふみ（文辭）(十三)しるす（記）(十四)しよもつ（典籍）(十五)人の姓(十六)かざる（飾）(十七)まつる（祀）(ろ)とし（年）(は)いただく（戴に通ず）(に)はこぶ（運）。

【載弁】サイベン かんむりをいただく。詩經に「絲衣其紑、載レ弁俅俅」

【載舟】サイシウ ふねにのす。歐陽修「築二室潁水岸一、買レ書載レ舟歸」

【載物】サイブツ ものをのす。中庸に「博厚所二以載一レ物也」

【載筆】サイヒツ 史をかく。禮記に「史載レ筆、士載レ言」

【載籍】サイセキ しよもつ。史記に「夫學者載籍極博、猶考二信於六藝一」

【輊】チ。知義切。寘。㊀ひくし（低）㊁おもし（重）。

七畫

【輎】サウ、セウ。所交切。肴。いくさぐるま（兵車）。

【輷】テン、デン。徒年切。先。車のこゑ。

【𨊰】テン、デン。徒年切。先。よろこびうごく貌。

【輐】(ゆ)クワン、グワン。戸管切。旱。(ろ)グワン。五換切。翰。(ゆ)まるぎり(ろ)まろめる、けづる。

【輑】(ゆ)キン、コン。去倫切。眞。(ろ)ギン、ゴン。牛隕切。軫。(は)グン、ゴン。牛吻切。吻。(ゆ)つらなる（連）(ろ)(は)車の前のよこぎ。

【輒】テフ。陟葉切。葉。㊀わきぎ㊁直立して動かざること㊂すなはち㊃たちまち（忽然）㊄たやすく㊅病の名。

【輓】(ゆ)ベン、マン。無遠切。阮。(ろ)バン、マン。無販切。願。ふねをひく。ひく（引）。或は、挽に作る。

【輓舟】バンシウ ふねをひく。ひきふね。范成大「輓輿如二輓舟一、絶吽斷二雙筰一」

【輓車】バンシヤ くるまをひく。後漢書に「江革與レ母歸レ鄕、中路自在二轅中一輓レ車」

【輓近】バンキン もとは季世の意なりしが、今は近年の意に用ゐる。

【輓送】バンソウ くるまを引きておくる。後漢書に「但白蓋雙騎、門生輓送」

【輓推】バンスイ 前後より之をすすむる義。左傳に「或輓レ之、或推レ之」

【輓掣】バンセツ ひく。李白「解冠從放蕩、大呼誰輓掣」

【輓歌】バンカ 柩車をひく時のうた。摯虞「輓歌因倡和、而爲二摧愴之聲一」

【輓輦】バンレン てぐるまをひく。詩經、疏に「徒行輓レ輦者與二車上御レ馬者一」

【輓輸】バンシユ くるまにてはこぶ。漢書に「轉粟輓輸、以爲二之備一」

【輔】フ、ホ。父雨切。麌。㊀ほほぼね、うはあご（上頷）㊁そへぎ㊂たすく（扶）㊃たすけ、すけ㊄そへ（副）㊅こやくにん（府吏、胥徒）㊆親しみつく貌㊇人の姓。

【輔仁】ホジン 仁徳を完うするたすけとなす。論語に「以レ文會レ友、以レ友輔レ仁」

【輔牙】ホガ ほほぼねときばと。物の相倚りて缺くべからざるにいふ。唐書に「李寶臣燦崇義、輔牙相倚」

【輔台】ホタイ 三公。書經に「朝夕納レ誨、以輔二台德一」

【輔行】ホカウ たすけてとりおこなふ。孟子に「王使二蓋大夫王驩爲一レ輔行」

【輔助】ホジヨ たすく。たすけ。趙抃「留爲二羽翼一、以自輔助」

【輔佐】ホサ たすく。又、たすくる人。左傳に「皆有二親暱一、以相輔佐」

【輔治】ホチ たすけをさむ。論衡に「禹王二天下一、伯益輔レ治」

【輔相】ホシヤウ 大臣。南史に「宋武帝謂二文帝一曰、王曇首輔相才也」

【輔時】ホジ ときをたすく。管子に「聖人能輔レ時、不レ能レ違レ時」

【輔翊】ホヨク たすく。崔祐甫「參謀輔翊、天推二大寶一」

【輔弼】ホヒツ たすく。たすけ。後漢書に「柱石之臣、宜レ居二輔弼一」

【輔熙】ホキ たすけひろむ。白居易「輔二熙庶績一、敢怠二勞求一」

【輔導】ホダウ たすけみちびく。後漢書、注に「職掌レ輔二導太子一」

【輔濟】ホセイ たすけなす。晉書に「左二右王事一、輔二濟大事一」

【輔翼】ホヨク たすく（贊翼）。禮記に「愼二其身一以輔二翼之一」

【輔贊】ホサン 前に同じ。唐書、房杜列傳に「輔贊彌縫、而藏二諸用一」

【輔護】ホゴ たすけまもる。吳志に「所二以供奉輔護一、甚有二恩紀一」

【輔車相依】ホシヤアヒヨル 輔はほほぼね、車は齒牙の下骨なり、互に助け合ふ義。左傳に「諺所謂輔車相依、脣亡齒寒者、其虞虢之謂也」

【輕】(ゆ)ケイ、キヤウ。丘正切。敬。(ろ)去盈切。庚。(ゆ)㊀かろはづみ、かろがろし㊁はやし（疾）(ろ)㊀かろし（重の對）㊁ほそし（細）㊂うすし（薄）㊃いやし㊄少し㊅てがろし（易）㊆かろきもの㊇かろんず。

【輕少】ケイセウ いささか。すこしばかり。

【輕毛】ケイマウ かろきけ。曹植「猾落輕毛散、嚴距往往傷」

【輕生】ケイセイ いのちをかろんず。韓愈「輕レ生學二其術一、乃在二金泉山一」

【輕汗】ケイカン すこしのあせ。謝惠連「微芳起二兩袖一、輕汗染二雙題一」

【輕舟】ケイシウ 重量少きふね。はやふね。魏志、武帝紀に「作二輕舟一、治二水軍一」

【輕利】ケイリ つみをかろくす。魏志に「廣レ議輕レ利、以惠二百姓一」

【輕死】ケイシ しぬことを難しとせず。後漢書に「輕レ死重レ氣、怨惡必讎」

【輕決】ケイケツ かろがろしくさだむ。晉書に「但恐二此計輕決一」

【輕步】ケイホ かろくあゆむ。鮑照「輕步逐二芳風一、言笑弄二丹葩一」

【輕迅】ケイジン かろくすみやかなり。傅休奕「輕迅者莫レ如レ鷹」

【輕身】ケイシン みをかろくす。史記に「良乃學二辟レ穀導引輕一レ身」

【輕足】ケイソク あしをかろくす。心書に「有二輕足善步、走如二奔馬一者上」

【輕走】 かろがろしくはしる。左傳、注に「國君輕走、羣臣不レ知二其謀一」

【輕車】 かろきくるま。後漢書に「輕車、古之戰車也」

【輕利】 ㊀利益をいやしみかろんず。荀子に「許由善卷、重レ義輕レ利」㊁刀劍などのよくきれること。程史に「琴極輕利、能破二堅于三百步外一」㊂かろくして便利よし。陸龜蒙「竹譜」「輕利擇二冠斜一」

【輕妝】 うすげしょう。梁簡文帝「輕妝淨粉光二閨里一」

【輕快】 ㊀かろくすみやかなり。王世貞「孫伯融如二新就御一レ馬、步驟未レ然、時見二輕快一」㊁病氣少しくこころよし。

【輕爬】 かろくかく。朱德潤「輕爬短鋤濕未レ收」

【輕忽】 かろがろし。後漢書に「而欲二懈怠以自輕忽一乎」

【輕易】 かろくやすし。新論に「輕二易其足一、難二夷路一亦蹶」

【輕服】 かろき衣服。左傳に「雙琥一環、一璧輕服」

【輕韌】 重量すくなきふれ。はやふれ。李白「我來揚都市、送レ客回二輕韌一」

【輕佻】 かろはづみなり。尉繚子に「民有二輕佻一、則欲心生、爭奪之患起焉」

【輕肥】 かろきかはごろもとこえたるうまと。論語に「赤之適レ齊也、乘二肥馬一、衣二輕裘一」

【輕命】 いのちをかろんず。曹植「雄俊之徒、交レ黨結レ倫、重レ氣輕レ命」

【輕卒】 かろがろしくしてきばやし。國策に「輕卒銳兵、長驅至レ國」

【輕恣】 かろがろしくきままなり。詩經、箋に「苟且如レ此、今人無レ持二我舌一輕恣也」

【輕侮】 かろんじあなどる。後漢書、徐防傳に「輕二侮道術一」

【輕狡】 かろくくるふ。後漢書に「而要レ結二輕狡無行之客一」

【輕科】 かろきおきて。王融「百鍰輕科、反行二季葉一」

【輕約】 かろくつづまやかなり。韓愈「其待レ人也輕以約」

【輕風】 そよそよと吹くかぜ。杜甫「輕風生二涼遲一」

【輕飛】 かろき獸ととぶ鳥と。何承天「駿足躡二流景一、高步追二輕飛一」

【輕重】 かろきとおもきと。左傳に「楚子問二鼎之大小輕重一焉」

【輕挑】 かろがろしくもてあそぶ。宋史に「輕挑二兵端一、爲二國深害一」

【輕便】 ㊀みがるなり。後漢書、朱儁傳に「騎二輕便一者、言二飛燕一」㊁かろくして自在なり。許楨瑞「日醒欲レ語轉嬌」

【輕肥】 かろきかはごろもとこえたるうまと。論語に「赤之適レ齊也、乘二肥馬一、衣二輕裘一」

【輕殺】 かろがろしくころす。元史に「輕二殺一人一、則害二大計一」

【輕悍】 かろがろしくしてきばやし。後漢書に「因二輕悍之衆一、雪二怨舊郢一」

【輕紡】 重量すくなきふれ。はやふれ。南史に「輕紡還レ閨、唯願二矜憐一」

【輕航】 前に同じ。曹植「渉二浮濟一兮、泛二輕航一」

【輕財】 たからをかろんず。鹽鐵論に「重レ義而輕レ財」

【輕埃】 かろきちり。謝朓「空濛如二霧散漫似一輕埃一」

【輕脆】 かろはづみにして意志よわし。晉書に「吳人輕脆、終無二能爲一」

【輕煙】 うすけぶり。李白「水光浮二落照一、霞彩淡二輕煙一」

【輕略】 かろくあらし。禮記、疏に「故與レ志同レ運同レ退、若二內志輕略一」

【輕捶】 かろくむちうつ。後漢書、崔寔傳に「乃定レ律減レ笞輕レ捶、自レ是之後、笞者得レ全」

【輕舸】 重量すくなきふれ。はやぶれ。慢舸の對。晉書、陶輿傳に「率二輕舸一出二其上流一」

【輕船】 前に同じ。北齊書に「乘二輕船一不二介胄一、沿レ流而下」

【輕陰】 うすぐもり。王筠「丹稚生細草、紫殿納二輕陰一」

【輕速】 かろがろしくすみやかなり。晉書に「擧動輕速、無二大臣之節一」

【輕捷】 すばやし。又、てがるにしてはやし。宋史に「詔二沿江漕司一造二輕捷戰船千艘一」

【輕絮】 かろきわた。溫庭筠「南國滿地堆二輕絮一」

【輕禽】 身のかろきとり。李顒「輕禽翔二雲漢一、游鱗懽二中泮一」

【輕進】 かろがろしくすすむ。晉書に「時大冤皆以爲、未レ可二輕進一」

【輕減】 へしてかろくす。漢書に「其議レ律令可二蠲除輕減一者一」

【輕寒】 少しくさむし。少しのさむさ。錢起「輕寒不レ入二宮中樹一」

【輕裘】 かろきかはごろも。論語に「曰、願車馬衣二輕裘一、與二朋友一共敝レ之而無レ憾」

【輕暗】 すこしくくらし。梁元帝「細柳浮二輕暗一、大樹繞二栖烏一」

【輕煖】 衣服のかろくあたたかきもの。孟子に「輕煖不レ足二於體一與」

【輕裝】 身がるのよそほひ。梁書、高祖三王傳に「輕裝赴二南兗州一」

【輕雷】 やさしき音のかみなり。陸游「輕雷轢斷梅初」自注に「鄉人謂二梅雨有レ雷、曰二斷梅一」

【輕颸】 かるはづみにしていつはる。(溌颸)。元史に「民情輕颸」

【輕徼】 かろくかすかなり。すこしなり。駱賓王「終冀レ效二輕徼一」

【輕蔑】 あなどりないがしろにす。(侮蔑)。詩經、箋に「國家爲レ政、行レ此輕二蔑民一之資用一」

【輕裸】 かろきもすそ。張翰「輕裾隨レ煙」

【輕慢】 あなどる。顏氏家訓に「凌二忽輕二慢同列一」

【輕塵】 かろきちり。王維「渭城朝雨輕二塵客舍青青柳色新一」

【輕重】 重量すくなきふれ。はやふれ。李白「我來揚都市、送レ客回二輕船一」

【輕科】 かろきおきて。王融「百鍰輕科、反行二季葉一」

【輕約】 かろくつづまやかなり。韓愈「其待レ人也輕以約」

【輕風】 そよそよと吹くかぜ。杜甫「輕風生二涼遲一」

【輕飛】 かろき獸ととぶ鳥と。何承天「駿足躡二流景一、高步追二輕飛一」

【輕重】 かろきとおもきと。左傳に「楚子問二鼎之大小輕重一焉」

【輕挑】 かろがろしくもてあそぶ。宋史に「輕挑二兵端一、爲二國深害一」

【輕便】 ㊀みがるなり。後漢書、朱儁傳に「騎二輕便一者、言二飛燕一」㊁かろくして自在なり。許楨瑞「日醒欲レ語轉嬌」

【輕侮】 かろんじあなどる。後漢書に「而要レ結二輕狡無行之客一」

【輕約】 かろくつづまやかなり。韓愈「其待レ人也輕以約」

【輕約】 かろくつづまやかなり。韓愈「其待レ人也輕以約」

【輕煙】 うすけぶり。李白「水光浮二落照一、霞彩淡二輕煙一」

【輕略】 かろくあらし。禮記、疏に「故與レ志同レ運同レ退、若二內志輕略一」

【輕捶】 かろくむちうつ。後漢書、崔寔傳に「乃定レ律減レ笞輕レ捶、自レ是之後、笞者得レ全」

【輕霜】 うすきしも。梁簡文帝「輕霜中夜下、黃葉遠辭レ枝」

【輕軀】 かろきみ。拾遺記に「爾非二細骨輕軀一、那得二百琲眞珠一」

【輕擧】 ㊀高き位地に容易にあがる。張華「高飛舞二鳳翼一、輕擧攀二龍鱗一」㊁かるはづみ。陸機「輕擧乘二紫霞一」

【輕騎】 身がるにいでたちたる騎兵。史記、淮陰侯傳に「遲二輕騎二千人一」

【輕塵】 うすきぎぬ。鮑照「驅風掃二遙路一、輕羅含二夕煙一」

【輕霧】 うすきりぬ。金鏡照二落暉一」

【輕羅】 うすきぎぬ。鮑照「驅風掃二遙路一、輕羅含二夕煙一」

【輕艘】 かろくしてよく走る戰艦。何承天「給二輕艘百艘一」

【輕簧】 おちつかず。さわがし。魏志に「輕躁忿肆、自蹈二大禍一」

【輕躁】 おちつかず。さわがし。魏志に「輕躁忿肆、自蹈二大禍一」

【輕蕩】 かろがろしくうごく。阮籍「鄭衞之風好レ淫、故其俗輕蕩」

【輕諾】 かるがろしくうけがふ。老子に「輕諾必寡レ信」

【輕轅】 かろくやはらかなり。高駢「柳絲輕轉小絲香」

【輕嬌】 かろくとぶ。韓愈「羈旅感二和鳴一、因拘念二輕嬌一」

【輕渺】 ㊀かろがろし。史記に「姦或有二錢裏一、取レ鎔、錢益輕薄而物貴」㊁威儀かろがろしく德薄き人。後漢書、馬援傳に「敎二季良一不レ得、陷爲二天下輕薄子一」

【輕命】 いのちをかろんず。曹植「雄俊之徒、交レ黨結レ倫、重レ氣輕レ命」

【輕卒】 かろがろしくしてきばやし。國策に「輕卒銳兵、長驅至レ國」

【輕恣】 かろがろしくきままなり。詩經、箋に「苟且如レ此、今人無レ持二我舌一輕恣也」

【輕侮】 かろんじあなどる。後漢書に「輕二侮道術一」

【輕狡】 かろくくるふ。後漢書に「而要レ結二輕狡無行之客一」

【輕科】 かろきおきて。王融「百鍰輕科、反行二季葉一」

【輕約】 かろくつづまやかなり。韓愈「其待レ人也輕以約」

【輕風】 そよそよと吹くかぜ。杜甫「輕風生二涼遲一」

【輕飛】 かろき獸ととぶ鳥と。何承天「駿足躡二流景一、高步追二輕飛一」

【輕重】 かろきとおもきと。左傳に「楚子問二鼎之大小輕重一焉」

【輕挑】 かろがろしくもてあそぶ。宋史に「輕挑二兵端一、爲二國深害一」

【輕便】 ㊀みがるなり。後漢書、朱儁傳に「騎二輕便一者、言二飛燕一」㊁かろくして自在なり。許楨瑞「日醒欲レ語轉嬌」

【輕肥】 かろきかはごろもとこえたるうまと。論語に「赤之適レ齊也、乘二肥馬一、衣二輕裘一」

【輕殺】 かろがろしくころす。元史に「輕二殺一人一、則害二大計一」

【輕悍】 かろがろしくしてきばやし。後漢書に「因二輕悍之衆一、雪二怨舊郢一」

【輕紡】 重量すくなきふれ。はやふれ。南史に「輕紡還レ閨、唯願二矜憐一」

【輕航】 前に同じ。曹植「渉二浮濟一兮、泛二輕航一」

【輕財】 たからをかろんず。鹽鐵論に「重レ義而輕レ財」

【輕埃】 かろきちり。謝朓「空濛如二霧散漫似一輕埃一」

【輕脆】 かろはづみにして意志よわし。晉書に「吳人輕脆、終無二能爲一」

【輕煙】 うすけぶり。李白「水光浮二落照一、霞彩淡二輕煙一」

【輕略】 かろくあらし。禮記、疏に「故與レ志同レ運同レ退、若二內志輕略一」

【輕捶】 かろくむちうつ。後漢書、崔寔傳に「乃定レ律減レ笞輕レ捶、自レ是之後、笞者得レ全」

【輕舸】 重量すくなきふれ。はやぶれ。慢舸の對。晉書、陶輿傳に「率二輕舸一出二其上流一」

【輕船】 前に同じ。北齊書に「乘二輕船一不二介胄一、沿レ流而下」

【輕陰】 うすぐもり。王筠「丹稚生細草、紫殿納二輕陰一」

【輕速】 かろがろしくすみやかなり。晉書に「擧動輕速、無二大臣之節一」

【輕捷】 すばやし。又、てがるにしてはやし。宋史に「詔二沿江漕司一造二輕捷戰船千艘一」

【輕絮】 かろきわた。溫庭筠「南國滿地堆二輕絮一」

【輕禽】 身のかろきとり。李顒「輕禽翔二雲漢一、游鱗懽二中泮一」

【輕進】 かろがろしくすすむ。晉書に「時大冤皆以爲、未レ可二輕進一」

【輕減】 へしてかろくす。漢書に「其議レ律令可二蠲除輕減一者一」

【輕寒】 少しくさむし。少しのさむさ。錢起「輕寒不レ入二宮中樹一」

【輕裘】 かろきかはごろも。論語に「曰、願車馬衣二輕裘一、與二朋友一共敝レ之而無レ憾」

【輕暗】 すこしくくらし。梁元帝「細柳浮二輕暗一、大樹繞二栖烏一」

【輕煖】 衣服のかろくあたたかきもの。孟子に「輕煖不レ足二於體一與」

【輕裝】 身がるのよそほひ。梁書、高祖三王傳に「輕裝赴二南兗州一」

【輕雷】 やさしき音のかみなり。陸游「輕雷轢斷梅初」自注に「鄉人謂二梅雨有レ雷、曰二斷梅一」

【輕颸】 かるはづみにしていつはる。(溌颸)。元史に「民情輕颸」

【輕徼】 かろくかすかなり。すこしなり。駱賓王「終冀レ效二輕徼一」

【輕蔑】 あなどりないがしろにす。(侮蔑)。詩經、箋に「國家爲レ政、行レ此輕二蔑民一之資用一」

【輕裸】 かろきもすそ。張翰「輕裾隨レ煙」

【輕慢】 あなどる。顏氏家訓に「凌二忽輕二慢同列一」

【輕塵】 かろきちり。王維「渭城朝雨輕二塵客舍青青柳色新一」

【輕重】 重量すくなきふれ。はやふれ。李白「我來揚都市、送レ客回二輕船一」

【輕科】 かろきおきて。王融「百鍰輕科、反行二季葉一」

【輕約】 かろくつづまやかなり。韓愈「其待レ人也輕以約」

【輕風】 そよそよと吹くかぜ。杜甫「輕風生二涼遲一」

【輕飛】 かろき獸ととぶ鳥と。何承天「駿足躡二流景一、高步追二輕飛一」

【輕重】 かろきとおもきと。左傳に「楚子問二鼎之大小輕重一焉」

【輕挑】 かろがろしくもてあそぶ。宋史に「輕挑二兵端一、爲二國深害一」

【輕便】 ㊀みがるなり。後漢書、朱儁傳に「騎二輕便一者、言二飛燕一」㊁かろくして自在なり。許楨瑞「日醒欲レ語轉嬌」

【輕肥】 かろきかはごろもとこえたるうまと。論語に「赤之適レ齊也、乘二肥馬一、衣二輕裘一」

【輕殺】 かろがろしくころす。元史に「輕二殺一人一、則害二大計一」

【輕悍】 かろがろしくしてきばやし。後漢書に「因二輕悍之衆一、雪二怨舊郢一」

【輕紡】 重量すくなきふれ。はやふれ。南史に「輕紡還レ閨、唯願二矜憐一」

【輕航】 前に同じ。曹植「渉二浮濟一兮、泛二輕航一」

【輕財】 たからをかろんず。鹽鐵論に「重レ義而輕レ財」

【輕埃】 かろきちり。謝朓「空濛如二霧散漫似一輕埃一」

【輕脆】 かろはづみにして意志よわし。晉書に「吳人輕脆、終無二能爲一」

【輕煙】 うすけぶり。李白「水光浮二落照一、霞彩淡二輕煙一」

【輕略】 かろくあらし。禮記、疏に「故與レ志同レ運同レ退、若二內志輕略一」

【輕捶】 かろくむちうつ。後漢書、崔寔傳に「乃定レ律減レ笞輕レ捶、自レ是之後、笞者得レ全」

【輕舸】 重量すくなきふれ。はやぶれ。慢舸の對。晉書、陶輿傳に「率二輕舸一出二其上流一」

【輕船】 前に同じ。北齊書に「乘二輕船一不二介胄一、沿レ流而下」

【輕陰】 うすぐもり。王筠「丹稚生細草、紫殿納二輕陰一」

【輕速】 かろがろしくすみやかなり。晉書に「擧動輕速、無二大臣之節一」

【輕捷】 すばやし。又、てがるにしてはやし。宋史に「詔二沿江漕司一造二輕捷戰船千艘一」

【輕絮】 かろきわた。溫庭筠「南國滿地堆二輕絮一」

【輕禽】 身のかろきとり。李顒「輕禽翔二雲漢一、游鱗懽二中泮一」

【輕進】 かろがろしくすすむ。晉書に「時大冤皆以爲、未レ可二輕進一」

【輕減】 へしてかろくす。漢書に「其議レ律令可二蠲除輕減一者一」

【輕寒】 少しくさむし。少しのさむさ。錢起「輕寒不レ入二宮中樹一」

【輕裘】 かろきかはごろも。論語に「曰、願車馬衣二輕裘一、與二朋友一共敝レ之而無レ憾」

【輕暗】 すこしくくらし。梁元帝「細柳浮二輕暗一、大樹繞二栖烏一」

【輕煖】 衣服のかろくあたたかきもの。孟子に「輕煖不レ足二於體一與」

【輕裝】 身がるのよそほひ。梁書、高祖三王傳に「輕裝赴二南兗州一」

【輕雷】 やさしき音のかみなり。陸游「輕雷轢斷梅初」自注に「鄉人謂二梅雨有レ雷、曰二斷梅一」

【輕颸】 かるはづみにしていつはる。(溌颸)。元史に「民情輕颸」

【輕徼】 かろくかすかなり。すこしなり。駱賓王「終冀レ效二輕徼一」

【輕霜】 うすきしも。梁簡文帝「輕霜中夜下、黃葉遠辭レ枝」

【輕軀】 かろきみ。拾遺記に「爾非二細骨輕軀一、那得二百琲眞珠一」

【輕擧】 ㊀高き位地に容易にあがる。張華「高飛舞二鳳翼一、輕擧攀二龍鱗一」㊁かるはづみ。陸機「輕擧乘二紫霞一」

【輕騎】 身がるにいでたちたる騎兵。史記、淮陰侯傳に「遲二輕騎二千人一」

【輕塵】 うすきぎぬ。鮑照「驅風掃二遙路一、輕羅含二夕煙一」

【輕霧】 うすきりぬ。江總「翠蓋乘二輕霧一、金鑣照二落暉一」

【輕羅】 うすきぎぬ。鮑照「驅風掃二遙路一、輕羅含二夕煙一」

【輕艘】 かろくしてよく走る戰艦。何承天「給二輕艘百艘一」

【輕簧】 おちつかず。さわがし。魏志に「輕躁忿肆、自蹈二大禍一」

【輕躁】 おちつかず。さわがし。魏志に「輕躁忿肆、自蹈二大禍一」

【輕蕩】 かろがろしくうごく。阮籍「鄭衞之風好レ淫、故其俗輕蕩」

【輕車熟路】 かるき車にてなれたるみちを行く。物事に熟練せることに喩ふ。韓愈「若レ驅二馬駕一レ車、就二熟路一而王良造父爲レ之先後一也」

八畫

【輖】 シウ、シュ。職流切。尤。㊀おもし(重)㊁おもくのす(重載)㊂ひくし(低)。

【輗】 ㊀ゲイ、ガイ。五稽切。齊。㊁ギ。牛肌切。支。ながえのさき。

【輘】㋑リョウ、ロウ。力承切。蒸。㋺ロウ。魯登切。蒸。㋩郎鄧切。徑。㋑㊀ふむ(踐)㊁きしろ(轢)㋺車のこゑ㋩よこがみ(軸)。
【輘輷】リョウクワウ 車のこゑのおほいなる形容。王褒「輘輷佚豫以沸渭」
【輘轢】リョウレキ きしろ。すれあふ。(淩轢、陵轢)。漢書に「輘二轢宗室一」
【輙】テフ。輒に同じ。
【輚】㋑サン、ゼン。仕限切。潸。㋺仕諫切。諫。㊀いくさ車㊁ねぐるま(臥車)。
【輛】リャウ、ラウ。里奨切。養。兩に同じ。㊀のる(乗)㊁ならぶ(匹)㊂車の數。
【⿰車坴】リク、ロク。力竹切。屋。㊀ぢく(軸)㊁車のはこ(轓輊)。
【輐】㋑エン、チン。於袁切。元。㋺ウン、チン。於云切。文。㋩於紛切。吻。㋑㋺大車の後の壓するにいふ。㋩車の名。
【⿰車廷】㋑フク、ボク。房六切。屋。㋺ホウ、ブ。蒲蒙切。東。車の箏間の皮篋にて弩を盛るもの。
【輜】㋑シ。則持切。支。㋺側吏切。寘。㋑㊀ほろぐるま㊁にぐるま、くらぐるま。㋺車輻の牙に入ること。

【輜車】シシャ 戰時に用ゐるにぐるま。史記に「居二輜車中一、坐爲二計謀一」
【輜重】シチョウ 輜は衣車、重は重物を載する車、故に行く者の資をすべて輜重といふ。史記に「自二間道一絶二其輜重一」
【輝】キ。許歸切。徽。煇に同じ、ひかり、ひかる、かがやき、かがやく。
【輝光】キクワウ かがやく。又、ひかり。易經に「剛健篤實、輝光日新二其德一」
【輝赫】キカク かがやく。李白「路逢二鬪鷄者一、冠蓋何輝赫」
【輝耀】キエウ かがやきひかる。晏殊「可レ繼二重華之輝耀一」
【輞】バウ、マウ。文兩切。養。くるまのわ、おほわ。
【輟】テツ、テチ。陟劣切。屑。㊀やむ(已)㊁とどむ、とどまる(止)。
【輟食】テツショク 食物をくひさしにす。史記に「孟嘗君待レ客夜食、有二一人一蔽二火光一、客怒以不レ飯、等輟レ食辭去」
【輟耕】テツカウ 田をたがやすことをやむ。史記に「輟レ耕之二壟上一」
【輟朝】テツテウ 主上の御惱又は御障りなどにて朝政を見たまはぬをいふ。
【輠】㋑クワ。胡火切。哿。㋺クワイ、ケ。火猥切。賄。㋑つつ、あぶらづつ(筩)㋺まはす、めぐらす(廻轉)。

【輡】カン、コン。苦感切。感。車行の利あらざること、轗じて、人のふしあはせにいふ。
【輡軻】カンカ 行きなやむ。不遇の義にいふ。(坎坷)。馮衍「非レ惜二身之輡軻一兮、憐二衆美之憔悴一」
【⿰車沓】タフ、トフ。他合切。合。かりも(車釘)。
【輢】㋑イ。於綺切。紙。㋺キ。奇寄切。寘。㋩イ。於戲切。寘。㋑車の旁㋺㋩車旁に武器を插む處。
【輣】ハウ、ビャウ。蒲庚切。庚。㊀やぐらぐるま(樓車)㊁いくさぐるま(兵車)。
【輤】セン。倉甸切。霰。ひつぎぐるまのかさ。
【輥】コン。古本切。阮。㊀めぐる(轉)㊁ひとし(齊)。
【輦】レン。力展切。銑。㊀てごし、てぐるま㊁ひきはこぶ、ひく(輓運)。
【輦夫】レンプ かごかき。唐書、李德裕傳に「嘗以二盛夏一至、地苦二瘴毒一、輦夫多死」
【輦車】レンシャ てぐるま。
【輦路】レンロ みゆきのみち。徐安貞「柳陰低二輦路一、草色變二新田一」
【輦轂】レンコク 天子のゐますみやこ。司馬遷「賴二先人之緒業一、得レ待二罪輦轂下一、二十

餘年矣」
【輧】㋑ヘイ、ビャウ。旁丁切。青。㋺ハウ、ヒャウ。披庚切。庚。㋩ヘン、ベン。部田切。先。㋑婦人の乘る四方におほひのある車㋺㋩車馬の聲。
【輨】クヮン。古滿切。旱。くつがね、そとかりも。
【輩】ハイ、ヘ。補妹切。隊。㊀たぐひ、ともがら㊁あひて(班)㊂くらぶ(比)㊃ならぶ(班)㊄ついで(次)㊅おほくの車の列をなすこと。
【輩出】ハイシュツ つづきて多くいづ。後漢書、蔡邕傳に「名臣輩出、文武竝興」
【輩流】ハイリウ ともがら。なかま。韓愈「同時輩流多二上道一、天路幽遠難二追攀一」
【輪】リン。龍椿切。眞。㊀わ㊁くるま㊂たて(南北の方、縱)㊃おほいなり(大)㊄たかし(高)㊅めぐる(廻旋)㊆まがる(屈曲)㊇車のわを作る者㊈車をかぞふるにいふ。
【輪人】リンジン くるまを作る職人。周禮に「輪人爲レ輪」又「輪人爲レ蓋」
【輪文】リンブン くるまのわの模樣。異苑に「船中有レ錢、錢皆輪文」
【輪廻】リンヱ 〔佛〕因果應報のめぐること恰も車輪のめぐるが如きをいふ。
【輪奐】リンクワン 屋宇の壯大美麗なるをいふ。禮記に「晉獻文子成レ室、晉大夫發焉、張老曰、美哉輪焉、美哉奐焉」
【輪扇】リンセン くるまのわの如くに造りたるあふぎ。西京雜記に「長安巧工丁緩、作二七輪扇一」
【輪班】リンハン まはり番。宋史に「詔宰相與二參政一輪班知レ印」
【輪船】リンセン くるまのわの如きものをつけたるふね。元史に「貴乘二輪船一、順レ流東走」
【輪彩】リンサイ 太陽。許渾「輪彩漸移金殿外、鏡光猶挂玉樓前」
【輪番】リンバン かはるがはる番にあたる。遼史、營衛志に「毎日輪番千人、祗直二禁園一」
【輪鞅】リンアウ くるまとうまと。陶潛「野外罕二人事一、窮巷寡二輪鞅一」
【輪蹄】リンテイ 前に同じ。歐陽修「京師車馬曜二朝日一、何用擾々馳二輪蹄一」
【輪輻】リンフク くるまのや。周禮に「輪輻三十、以象二日月一也」
【輪轂】リンコク くるまのわとこしきと。晉書に「以二綵漆一畫二輪轂一」
【輪輿】リンヨ くるまを造る人とかごを造る人と。孟子に「子何尊二梓匠輪輿一、而輕二爲二仁義一者一哉」
【輪轄】リンカツ くるまのわとくさびと。嵇康「轅軸輪轄、不レ可二一乏一於輿一也」
【輪轉】リンテン めぐる。禮記、注に「立平視也、嶲猶レ規也、謂二輪轉之度一」
【輪囷離奇】リンキンリキ まがりくねりたる貌。漢書に「蟠木根柢、輪囷離奇」
【輫】㋑ハイ、ベ。步皆切。佳。㋺蒲廻切。灰。車のはこ。
【輬】リャウ、ラウ。呂張切。陽。臥車、喪車。

九畫

【輭】ゼン、ナン。而兗切。銑。㊀よわし(弱)㊁やはらか(柔)。
【輭風】ナンプウ やはらかに吹くかぜ。溫庭筠「輭風吹レ春星斗稀」
【輭弱】ゼンジャク よわし。史記に「妻子輭弱」
【輭輪】ナンリン 輪を柔がしむる爲に蒲にてつつみたる車輪。後漢書に「安車輭輪、供綏執授」
【輅】カク、ギャク。胡格切。陌。くるまのよこぎ。
【輮】ジウ、ニュ。人九切。有。㊀おほわ(車輞)㊁ふむ(蹂に同じ)㊂たむ(揉に通ず)。
【輮轢】ジウレキ 車にてひきにじる。晉書、孫楚傳に「輮二轢沙漠一、南面稱レ王」
【⿰車㚇】ソウ、ス。作孔切。董。㊀わ(輪)㊁輻の轂の中に入ること。
【輯】㋑シフ、ジフ。秦入切。緝。㋺揖に通ず。

㊀一やはらぐ(和)二むつぶ(睦)三あつむ、あつまる(集)ろをさむ、をさまる(斂)。

【輯柔】シフジウ やはらぐ。詩經に「親二爾友君子一、輯二柔爾顏一」

【輯斂】シフレン あつめてのべついづ。魏志に「輯二斂漢官儀及禮儀故事凡十一種一」

【輯睦】シフボク やはらぎむつぶ。左傳に「翠臣輯睦、甲兵益多」

【輯寧】シフネイ やはらぎやすんず。(緝寧)。書經に「俾予一人輯二寧爾邦家一」

【輯緝】シフシフ あつめしろす。朱熹「而凡石氏之所二輯緝一」

【輯穆】シフボク むつまじくやはらぐ。晉書、謝安傳に「五生二同異一、安與二坦之一、盡忠匡翼、終能輯穆」

【輪】㊀セン、ゼン。市緣切。先。ろ豎兌切。銑。

【輪囷】センリン 輻のなき車ろひつぎぐるま。尚書、大傳に「致仕乘車以二輪囷一」

【輝】㊀コン、ゴン。戸昆切。元。ろ軒に同じ。㊀一かへる(還)二くびきのまがり(輗軥)三さく(避)。

【輳】ソウ、ス。倉奏切。宥。一車輻の轂に凑ること二あつまる。

【輳轂】ソウコク 車輻のこしきにあつまる。參同契に「如二輻之輳レ轂、水之朝レ宗」

【輦】ボク、モク。莫卜切。屋。ながえ(轅)。

【輻】一ひつぎぐるま。詩經に「親二爾友君子一、輯二柔爾顏一」㊀カツ、カチ。古達切。曷。ろアツ、アツ、エチ。乙轄切。黠。㊁アツ、アチ。阿葛切。曷。又、馳驅する貌、車馬の喧雑する貌(轄轄)二車の聲ろ車の聲㊁めぐりゆるぐ一鋒戟の形、貌。ろ車のひびきの形容。史記、蘇秦傳に「車轂撃、人肩摩」

【輻湊】フクソウ 車のこしきに凑ること。

【輻輳】フクソウ 車のこしきに凑ること。

【輻輪】フクリン 車のこしき。

【輻軒】フクケン 入朝、輻軒出使」

【輞】車のこしき。

【輞輞】クワウクワウ 秦傳に「輞輞殷殷」㊀シュ、スウ。式朱切。虞。ろ傷遇切。遇。

【輸】㊀おくる(送)、はこぶ二つくす(盡)三いたす(送致)四まく(負)五やぶる(墮)ろ一にもつ、つみおくしなもの二經脈の穴。

【輸入】シユニフ 一はこび入る。史記、李牧傳に「市租皆輸二入幕府一、爲二士卒費一」二今は特に外國の生産物を内國に取り入るるにいふ。

【輸出】シユシユツ 國産物を外國に送り出す。

【輸貢】シユコウ みつぎないたす。遼史に「吳越南唐、航レ海輸レ貢」

【輸送】シユソウ はこびおくる。南史に「自レ是令使以下、並不二輸送一」

【輸貨】シユクワ たからないたす。陳琳「與金聖璧、輸二貨權門一」

【輸稅】シユゼイ みつぎものをなさむ。顧況「願爲二南州民一、輸レ稅事二鉏犁一」

【輸寫】シユシヤ いたす。書經、疏に「當レ輸二寫汝之信實一、以告二于王一」

【輸瀉】シユチク まく。僧寶傳に「法遠偶與二文忠公一棋、公請二因レ棋說一レ法、遠曰、贏局輸瀉卽不レ問」

【輸贏】シユエイ かちまけ。元稹「如二湯探一冷熱一、似二博賭一輸贏一」

【輹】フク、ホク。方六切。屋。ちくしばり、とこしばり。シ。轅の本字。

【轄】フク、ホク。方六切。屋。や、くるまのや。

【輻輳】フクソウ あつまる。漢書に「通二魚鹽之利一、而人物輻輳」

十畫

【轟】キョク、コク。几足切。沃。ながえしばり。カフ、コフ。口盍切。合。一くるま(車)二車の聲。ろテン。知演切。銑。ろデン、ネン。尼展切。銑。㊁女箭切。霰。ろめぐる、まろぶ(牛)㊁みづぐるま(水車)。ろきしる(轢)

【轅轉】テンデン れかへりす。臥して席に安んぜざる意。詩經に「悠哉悠哉、輾轉反側」

【輿】㊀ヨ。以諸切。魚。ろ羊茹切。御。㊀一くるまのそこ(車底)二くるま(車)三車を作る人四おふ(負)五のす(載)六おほし(衆多)七こもの、めしつかひ八地道又は大地の稱ろこしてごし。

【輿人】ヨジン 一衆人なり。左傳に「聽二輿人之謀一」二こしを作る人。韓非子に「輿人成レ輿、則欲二人之富貴一」

【輿丁】ヨテイ かごかき。范成大「輿丁挾レ我如レ騰レ狙」

【輿尸】ヨシ しかばねをになふ。易經に「六三師或輿レ尸凶」

【輿地】ヨチ 地圖。全地球。周禮、注に「若二今司空郡國輿地圖一」

【輿臣】ヨシン おほくのけらい。左傳に「虐二其輿臣一」

【輿徒】ヨト おほくのともがら。東京賦に「馬足未レ極、輿徒不レ勞」

【輿師】ヨシ おほくの軍隊。左傳に「無レ令二輿師淹二于君地一」

【輿望】ヨバウ 多くの人望。天下のほまれ。

【輿臺】ヨダイ 身分ひくきめしつかひ。杜甫「越羅及二楚練一、照二耀輿臺軀一」

【輿隷】ヨレイ 前に同じ。(徒隷)。

【輿論】ヨロン 天下の公論。類書纂要に「輿論衆也、謂二衆人之議論一也」

【輿談】ヨダン 世の中のうはさ。宋郎「安足レ救二輿談參差一」

【輿薪】ヨシン くるまに滿載せるたきぎ。孟子に「明足二以察一秋毫之末一、而不レ見二輿薪一、則王許レ之乎、曰否」

【轔】㊀チン。烏渾切。元。ろ車の名。ろ匈奴の車(轀轔)。

【轂】コク。古祿切。屋。一こしき㊁車のこしきとこしきとすれあふ。人の雜沓するにいふ。史記に「車轂撃、人肩摩」

【轂撃】コクゲキ 車のこしきとこしきとすれあふ。人の雜沓するにいふ。史記に「車轂撃、人肩摩」

【轅】シン。側詮切。眞。一ゆか(大車の簀)二いたる(臻に同じ)。

【轄】㊀カツ、ゲチ。胡瞎切。黠。ろクワイ、ケ。苦會切。泰。㊁カツ、カチ。㊀一かりもの、くさび二轉じて、物の主管にいふ三車のろこしを轉じて、物の主管にいふ三車の聲㊁めぐりうごく貌、又、目をうごかし舌ないだす貌。

【轅】㊀エン、チン。雨元切。元。ろエン。于眷切。霰。㊁愛に通ず。

【轅下】エンカ ながえ(轅)ろ地の名。轉じて、部下。語林に「我輩皆出二其轅下一」

【轅門】エンモン 軍門。軍門には車を以て陣を作り、轅相向ひて門をなす、故にいふ。周禮に「設二車宮轅門一」

【轑】㊀サイ、セ。士佳切。佳。ろシ。千奢切。支。一しりぞく、しざる二つらなる車。

十一畫

【轜】㊀バン、マン。無販切。願。ろ莫半切。輪。㊀車のきぬがさろやよけ、おほひ。

【轆】ロク。盧谷切。屋。一ながえしばり二轤轆は、ぬきかぶり(纏車)、わだち(軌道)。

【轆轤】ロクロ 車の行くこゑの形容。高啓「馬蹄踏踏車轆轆」

【轤】車井戸の上にかけて、釣瓶繩をかくる滑車。張籍「橫架二轆轤一牽二素綆一」

【轢】サツ、セツ。銀突切。屑。やぐらぐるま。

【轉】㊥テン。陟兗切。銑。㊐知戀切。霰。
㊥一まはる㊁めぐる㊂うつる(遷)、かはる(變)㊃ころがる、ころぶ(轢)㊄たふる(仆)㊅一うつす㊁ころばす㊂めぐらす㊆車上の衣裝、にもつ。
【轉化】テンクワ かはる。淮南子に「轉化推移、得二一之道一而以レ少正レ多」
【轉手】テンシュ てをまはす。蘇軾「過レ眼青錢轉レ手空」
【轉石】テンセキ いしなころばす。漢書、劉向傳に「用レ賢則如レ轉レ石、去レ佞則如レ拔レ山」
【轉居】テンキョ やうつり。やがへ。
【轉注】テンチュウ めぐりそそぐ。夏竦「金龍轉注、下激衡渠」
【轉枘】テンゼイ かぢをめぐらす。王炎「轉レ枘涉二奔濤一、支レ節入二幽塢一」
【轉運】テンウン あちこちとはこびおくる。漢書、高帝紀に「東萬二衣衾一棺斂、轉二送其家一」
【轉漏】テンロウ 水時計の時刻の轉じうつる僅かの間。漢書、王莽傳に「轉漏之間、忠策輒建、綱紀咸張」
【轉搦】テンダク まろばしたたむ。墨莊漫錄に「都無二回互轉搦之勢一」
【轉逢】テンホウ とびまろぶよもぎ。うつりかはりて定まりなきにいふ。薛道衡「轉蓬隨二馬足一、飛霜落二劍端一」
【轉餉】テンシャウ 糧食をはこぶ。漢書、高帝紀に「丁壯苦二軍旅一、老弱罷二轉餉一」
【轉運】テンウン うつりかはる。王粲「猶レ秩自二百石一、轉運而至二於公一也」
【轉轂】テンコク くるまをめぐらす。秦嘉「貧馬不レ週レ鞍、輕車不レ轉レ轂」 又、すこしの間。
【轉瞬】テンシュン またたく。
【轉適】テンテキ 援レ琴固停喜、解レ甲仍轉瞬」
【轉轉】テンテン うつりめぐる貌。漢書に「後世爭爲二奢侈一、轉轉益甚」
【轉石】テンセキ ころがりとぶ。柳宗元「崩石之所二擲拔一」
【轉讀】テンドク 大部の經文の要領の所のみなぬきよみにす。
【轉鬪】テントク 史記、淮陰侯傳に「楚人起二彭城一、轉鬪逐北、至二於滎陽一」
【轉法輪】テンホフリン 〔佛〕教法を說きて能く邪見を破り、正道を開くをいふ。大藏法數に「佛之說法、則能摧二碾衆生一切惑業、故名二轉法輪一也」
【轉レ凡爲レ聖】テンボンヰセイ 宗鏡錄に「還丹一粒、轉レ凡爲レ聖」還丹は仙藥なり。
【轉レ敗爲レ功】テンハイヰコウ 失敗に逢ふも、反つて之をてがらに變ず。史記、管仲傳に「其爲レ政也、善轉レ敗而爲レ功」
【轉レ禍爲レ福】テンクワヰフク 禍に逢ふも、反つて之を福に變ず。史記、管仲傳に「古之善制レ事者、轉レ禍爲レ福、因レ敗爲レ功」

十二畫

【轍】テツ、デチ。直列臣。屑。
【轍迹】テツセキ あと(迹)、わだち、みち、のり。車のわだちのあと。曹冏「覩二前軍之傾覆一、而不レ改二其轍迹一」
【轍環二天下一】テツクワンカ 天下をあまねくめぐる。韓愈「轍環二天下一、卒老二于行一」
【轍鮒之急】テツフノキフ 人の困窮にせまるないふ。莊子に「莊周家貧、故往貸二粟於監河侯一、監河侯曰、諾、我將レ得二邑金一、將レ貸二子三百金一、可乎、莊周忿然作レ色曰、周昨來、有二中道而呼者一、周顧視二車轍中有一鮒魚一焉、周問レ之曰、鮒魚來、子何爲者邪、對曰、我東海之波臣也、君豈有二斗升之水一而活レ我哉、周曰、諾、我且レ南遊二吳越之王一、激二西江之水一而迎レ子、可乎、鮒魚忿然作レ色曰、吾失二我常與一、我無レ所レ處、吾得二斗升之水一、然活耳、君乃言レ此、曾不レ如二早索一我於枯魚之肆一」
【轐】ケウ。古弔切。嘯。
よこがみのさき、車の軸さき。
【轎】キョウ、ゲウ。巨嬌切。蕭。
㊥一こぐるま(小車)㊁たけかご(竹輿)㊂あげごし㊃やまかご㊄橋に通ずる㊅ひつぎぐるま(輀)。
【轎夫】キョウフ かごかき。

【轏】サン、セン。輇に同じ。
【轅】㊥ショウ、シュ。尺容切。冬。㊐タウ、ドウ。直隆切。終。陣を陷るる車。
【轅】㊥サウ、ソウ。子皓切。皓。㊐ソウ、ズ。祖動切。董。車のかざり。
【轐】ホク、ボク。博木切。屋。とこしばり。
【轑】㊥ラウ、ロウ。盧皓切。皓。㊐郎刀切。豪。㊆レウ。憐蕭切。蕭。㊇朗鳥切。篠。
のかさばれ㊁よこがみ(車軸)㊂たるき(椽に通ず)㊐たわむ(撓)㊁きしる(轢)㊇地の名にやく(放火)。
【轑】フン、ボン。符分切。文。
㊥かさばれ㊁いくさぐるま(兵車)㊂匈奴の車。
【轓】㊥ヘン、ホン。孚袁切。元。㊐ハン、ホン。甫煩切。元。
㊆ヘン、ハン。甫遠切。阮。㊐一おほひ(戲屏)㊁にばこ(車の大箱)㊇軓に同じ。
【轔】㊥リン。力珍切。眞。㊐艮刃切。震。
㊥一とどろく㊁かどぐち(戶限)㊂殷盛なる貌㊐きしる(轢)。
【轔轔】リンリン 車のきしるおとの形容。楚辭に「乘二龍兮轔轔、高駝兮沖レ天」
【轔轢】レキ 車にてひきにじる。轉じて、他のものをおかしあらす。隋書に「曹魏祖不レ議二北辰、今復轔二轢太史一」

十三畫

【轡】タン。都郎切。
車のゆか。
カツ、カチ。居曷切。曷。
【轕】㊥驕慢する貌㊁亂るる貌(轇轕)。
長く遠き貌、亂るる貌。
ショク、シキ。所力切。職。
【轕】㊥一てすりかけ(交錯)㊁むすぼる(結)㊂苦繒切。勘。
【轗】カン、ゴン。苦感切。感。
車行の利ならざること、轉じて、人のふしあはせにいふ。
【轗軻】カンカ 行きなやむ。不遇の義にいふ。舊唐書、于公異傳に「竟名位不振、轗軻而卒」
【轙】㊥クワン、ゲン。胡慣切。諫。
くるまざき。陳書に「遂行悖逆、轙二礫形骸」
【轙】ギ。魚倚切。紙。
㊥一くびきのわ㊁こものの駕な整へて發するをまつこと。

十四畫

【轢】㊥タイ、テ。都內切。隊。
㊐ツキ。追萃切。寘。
一車のかさり㊁車のよこざき。
【轤】インオン。於謹切。吻。
一車の聲㊁めぐる(轉)。
カン、ゲン。胡甚切。謹。
【轤】㊥めしうどぐるま(四車)㊁おりぐるま㊂とどろく。
【轤車】カンシャ 四人をのするくるま。漢書に「轤車與二王諧一長安一」
【轡】カン、ゲン。轤に同じ。
【轟】㊥グワウ。呼宏切。庚。
㊐とどろく㊁軍車の聲、大いなる聲。
【轟沈】グワウチン 艦船を砲撃して打しづむ。烈しく音たててしづむ。
【轟斃】グワウヘイ かまびすしくうちあふ。かまびすし。韓愈「衆樂驚作、轟斃融洽」
【轟轟】グワウグワウ かまびすしき音の形容。韓

愈「飲食豈知レ味、綵竹徒轟轟」

十五畫

【〓】ラク。盧各切。藥。車の轉ずるこゑ。

【轠】ライ、レ。魯回切。灰。㊀車の屬。㊁絶えざる貌。

【轠轆】車の屬。又、たえざる貌。羽獵賦に「繽紛往來、轠轆不レ絶」

【轡】ヒ。兵媚切。寘。くつわづら、たづな。くつばみ。くつわ。淮南子に

【轡銜】「爵祿者、人臣之轡銜也」

【轢】㋑レキ、リャク。郎撃切。錫。㋺ラク。盧各切。藥。㋩ラツ、ラチ。郎達切。曷。きしる、ふむ(軋)。車にて足をひく。神仙傳に

【轢脚】「以レ脚置二其車下一、轢レ脚皆折即死」

【轢腹】はらをひく。唐書に「仆二四子地一、以二門牡一轢レ腹」

十六畫

【轣】レキ、リャク。郎狄切。錫。わだち、ゐきかぶり(轣轆)。

【轤】ロ、ル。落胡切。虞。㊀くるまぎ(圓轉木)㊁絶えざる貌。

【〓】ロウ、ル。盧紅切。東。㊀ぢくのさき(軸頭)㊁轅の上。

【〓】チ。輊に同じ。

【〓】ギ。轙に同じ。

十八畫

【〓】ケイ、エ。玄圭切。齊。ひとまはり(一周轉)。

二十畫

【〓】ゲツ、ゲチ。魚列切。屑。物を高く載せて車の行く貌。

【轥】リン。良刃切。震。きしる(軋)。

辛部

部首

【辛】シン。息鄰切。眞。㊀からし㊁あたらし(新)㊂かのと(十干の一)㊃からみ、からき味㊄いたし(痛)㊅むごし㊆くるし(苦)。

【辛夷】(植)こぶし。白居易「北村尋二古柏一、南宅訪二辛夷一」

【辛芥】(植)からしな。揚子方言に「蘇菁小者謂二之辛芥一、或謂二之幽芥一」

【辛毒】くるしみ。詩經、疏に「言下オ薄莫二之藩援一、則自得中辛毒上」

【辛苦】くるしむ。又、くるしみ。陸機「翩翩宦游子、辛苦誰爲レ心」

【辛楚】いたみくるしむ。陸機「俯仰悲二林薄一、慷慨含二辛楚一」

【辛勤】からきつとめ。韓愈「辛勤三十年、以有二此屋廬一」

【辛酸】つらし。くるし。阮籍「感慨懷二辛酸一、怨毒常多苦」

【辛辣】からし。酉陽雜俎に「形似二漢椒一、至辛辣」

【辛艱】つらくなやむ。高啓「登高不レ知已幾里、但怪力盡愁二辛艱一」

【辛螫】むしにさささる。詩經に「自求二辛螫一」

【辛】ケン。苦堅切。先。つみ(辠)。

一畫

【辛】シン。辛の本字。

五畫

【辜】コ、ク。古乎切。虞。㊀つみ(罪)㊁はりつけ(磔)㊂さまたぐ(障)㊃かならず(必)㊄あらまし、ほぼ(略)。

【辜負】孤負(ソムク)と同じ意に用ゐる、されど、緗素雜記には「世の學者多く辠辜の辜を以て孤負の字となすは非なり云云」と見ゆ。張昱「辜負綠窗閑歲月」

六畫

【辞】シ、ジ。辭の俗字。

【辟】㋑ヘキ、ヒャク。必益切。陌。㋺普撃切。錫。㋩ヒ、ビ。毗義切。寘。㋥ヘイ、ハイ。匹詣切。霽。㋭ヒ。匹智切。寘。㋬ハク、ヒャク。博厄切。陌。㋣ヒ、ビ。頻彌切。支。㋠ヘイ、ヒャウ。必郢切。梗。㋷ベイ、マイ。莫禮切。薺。

㋑㊀きみ(天子諸侯の稱)㊁のり(法)㊂あきらか(明)㊃めす(徵)㊄あめ(天の敬稱)㊅つま(妻より夫を呼ぶ稱)㊆星の名㋺㊀よこしま(邪)㊁つみ、つみす(刑)㊂かたむく(傾)㊃かたよる(偏)㊄むれうつ(擗に通ず)㊅そばだつ(側)㊆のぞく(除)㊇うすし、かろし㊈はげます(勵)㊉ひらく(闢に通ず)⑪しりぞく(退)⑫びっこ(躄に通ず)⑬霹に通ず㋩避に同じ㋥にらむ(睥に同じ)㋭たとふ、たとへ(譬に同じ)㋬㊀さく(擘に同じ)㊁うすくきる(聶切)㋣へりかざり(緣飾)㋠のぞく(除)㋷弭に同じ。

【辟王】きみ。詩經に「濟濟辟王、左右趣レ之」

【辟公】諸侯。詩經に「相維辟公、天子穆穆」

【辟池】中洲のあるいけ。史記、注に「天子辟池、卽周天子辟雍之地」

【辟易】驚きしりぞく貌。漢書に「人馬俱辟易數里」

【辟書】めしぶみ。斐子野碑に「玉帛貢二于丘園一、辟書交二乎塗路一」

【辟雍】天子の學宮にして、大射に禮を行ふ處。禮記に「大學在レ郊、天子曰二辟雍一、諸侯曰二頖宮一」

【辟穀】穀物を食ふことをやむ。史記に「乃學二辟レ穀、道引輕一レ身」

【辟聘】在野の賢臣をめし出す。陸龜蒙「龐公樂二幽隱一、辟聘無レ所レ就」

【辟歷】はげしきかみなり。(霹靂)。史記、天官書に「辟歷夜明」

【辟雞】うすくきりたる菰、つけもの。禮記、注に「辟雞、聶而切レ之也」

【辟纑】練麻をうむ。孟子に「彼身織レ屨、妻辟纑以易レ之也」

【辟瘴藥】惡氣よけのくすり。宋史に「遣レ使賜二戎瀘軍民辟瘴藥一」

【辠】サイ、ゼ。罪の古文字。

七畫

【辢】ラツ、ラチ。郎達切。曷。からし、辛甚だし。

【辣】ラツ、ラチ。辢に同じ。

【辣腕】すばしこきはたらき。すごきうでまへ。

八畫

【辤】シ、ジ。辭に同じ。

九畫

【辥】セツ、セチ。私列切。屑。つみ(罪)。

【辧】ヘン、ベン。辨に同じ。

【辦】ヘン、ベン。皮莧切。諫。㊀そなふ(具)㊁つとむ(力)。

【辨】㋑ヘン、ベン。符蹇切。銑。㋺ヘン。婢見切。霰。㋩貶に通ず。

㋑㊀わかつ(判)、わく(區別)㊁わきまふ(識別)㊂わかる㊃かはる、かふ(變)㊄ただす(正)㊅わかち(區別)㊆そなふ、いたす(辦)㊇あきらかにしてうたがひなきこと㊈をさむ(治)㊉井地の數にいふ㋺㊀あまねし(徧に通ず)㊁革の中の斷ゆるにいふ。

【辨色】物の黑白を見わく。劉禹錫「庭晚初辨レ色、林秋微有レ聲」

【辨別】わきまへわかつ。わきまふ。易經、疏に「用レ愼爲レ德、辨二別衆物一」

【辨告】さとす。漢書に「以二文法一教二訓辨告、勿二笞辱一」

【辨法】法をわきまふ。周禮に「凡辨レ法者攷焉、不レ信者刑レ之」

【辨析】 理否を分ちさだむ。南史、王儉傳に「辨析未嘗壅滯」」

【辨校】 わきまへかんがふ。集異記に「論及文章、辨校聲實」」

【辨訟】 うったへをききさばく。禮記に「分ㇾ爭辨ㇾ訟、非ㇾ禮不ㇾ決」

【辨訛】 あやまりを明かにす。曾鞏「正ㇾ謬辨ㇾ訛、公爲耳目」」

【辨説】 是非をわけとく。禮記に「辨説得其黨」」

【辨駁】 他の説をうつ。又、いひあらそふ。唐書、王世充傳に「人或辨駁、世充以口舌緣飾」」

【辨財天】 〔佛〕七福神の一、吉祥天女の稱。

十二畫

【辭】 シ、ジ。似茲切。支。㊀ことば㊁ふみ(文詞)㊂あらそひ(訟辭)㊃いなむ、ことわる㊄つぐ(告)㊅いとまごひ㊆こふ(請)㊇とく(説)。

【辭令】 ㊀人と應對することば。又、ことばづかひ。禮記に「禮義之始、在于正容體、齊顔色、順辭令」」㊁官職に任命する時、交附する文書。

【辭色】 ことばとかほいろと。宋史に「論議可否、不ㇾ形辭色」」

【辭吐】 ことば。北史に「辭吐傲然、若ㇾ無ㇾ所ㇾ覩」

【辭老】 年よりて官をやめんことを請ふ。史記に「及其見ㇾ疑、乃怒辭ㇾ老」」

【辭宗】 詞章の宗師。後漢書に「學窮道奧、文爲辭宗」」

【辭狀】 はなしの次第。吳志、顧雍傳に「雍和顔色、問其辭狀」」

【辭指】 ことばのしゅい。魏志に「推ㇾ寵固讓、辭指款實」」

【辭病】 病氣なりといひたつ。後漢書、郭丹傳に「辭ㇾ病不ㇾ就」」

【辭訣】 わかれのことば。後漢書に「力戰不ㇾ敵、乃與士卒辭訣」」

【辭章】 文章詩賦。後漢書に「好辭章數術天文、妙操音律」」

【辭費】 ことばおほし。禮記に「禮不妄説、人不辭費」」注に「費、多也」」

【辭義】 ことばのすぢみち。詩經、疏に「辭義皆亡、無以知其篇第之處」」

【辭貌】 ことばとかたちと。後漢書、馬融傳に「爲ㇾ人美辭貌、有俊才」」

【辭謝】 ことわる。漢書に「孝王酒思陽言、深辭謝之」」

【辭避】 ことわりてにぐ。宋史、劉保勳傳に「吾受君命、未嘗辭避」」

【辭職】 役をことわりやむ。梁書に「襄父終此官、因辭ㇾ職」」

【辭藻】 ことばのあや。詩文。(翰藻)。唐語林に「天寶中、國學中、增置廣文館、以領辭藻之士」」

【辭辯】 ことば。(言辨)。程子程伯淳行狀に「先生不ㇾ飾辭辯、獨以誠意感動人主」」

【辭讓】 へりくだりてことわる。禮記に「長者問、不辭讓而對、非ㇾ禮也」」

【辭達而已矣】 ことばは意思を通じ得ば、それにて十分なり。論語に「子曰、辭達而已矣」」

十三畫

【辮】 ヘン、ベン。薄泫切。銑。㊀あむ、くむ㊁まとふ(繆)。
集韻に「糸に从ふ」康熙字典には、糸部、辛部共に之を收む。
○熟語は糸部辮の字の下に收む。

十四畫

【辯】 ㋑ヘン、ベン。符蹇切。銑。㋺比薦切。霰。㋩ヘイ、ビャウ。符兵切。庚。㋥ヘツ、ヘチ。筆列切。屑。㋑㊀わかつ、わかる(判)㊁つまびらか(詳審)㊂あきらか(明)㊃あらそふ(爭辯)㊄をさむ(治)㊅ただす(正)㊆とく(説)㊇さとす(諭)㊈言説の巧なるにいふ㋺あまねし(徧に通ず)㋩ひとし(平に通ず)㋥貶に同じ。

【辯才】 くちまへのはたらき。李白「槩然有辯才」」

【辯口】 さわやかなるくちまへ。史記に「齊襄王聞睢辯口、乃使人賜睢金千金及牛酒」」

【辯巧】 くちまへたくみなり。晉書に「辯巧之文可ㇾ悅」」

【辯佞】 くちまへ巧なれども心ねぢく。晉書に「逐巧點姸、嘔喝辯佞」」

【辯囿】 くちまへの達者なるなかま。溫庭筠「發ㇾ言驚辯囿、揮ㇾ翰動文星」」

【辯智】 ㊀わきまへしる。道德指歸論に「上ㇾ義之君、辯智聰明」㊁くちまへたくみなり。戰國策に「不ㇾ如ㇾ備兩周辯智之士」」

【辯捷】 くちまへさわやかなり。梁書に「朗悟辯捷、諳究朝典」」

【辯詰】 せめなじる。北史に「立素于庭前、辯詰事狀」」

【辯論】 のべとく。いひあらそふ。禮記に「司馬辯論官材」」

【辯辭】 ことばたくみなり。又、ことば。史記に「宰予利口辯辭」」

【辯難】 いろいろにひなんし辯ず。後漢書に「襄父充拜侍中、作章句辯難」」

【辯釋】 いひひらく。晉書に「議論精密、觸ㇾ類辯釋」」

【辯贍】 くちまへたくみなり。晉書、王羲之傳に「羲之年十三知ㇾ名、及ㇾ長辯贍以骨鯁稱」」

【辯足ㇾ飾ㇾ非】 辨口たくみにして己の非をも十分に飾り得。莊子に「强足以拒ㇾ敵、辯足以飾ㇾ非」」

辰部

部首

【辰】 シン、ジン。植鄰切。眞。㊀のぶ(伸)㊁ひ(日)㊂日月星の稱㊃日月の交會㊄とき(時)㊅北極星㊆大火星㊇たつ(十二支の一、方角にては東南、時刻にては午前八時)。

【辰刻】 とき。時刻。宋史に「宋刻漏制極精巧、司天挈壺掌ㇾ之、所以定辰刻也」」

【辰星】 水星の異稱。漢書に「辰星曰北方水星」」

【辰宿】 ほしのやどり。晉書に「苟辰宿不ㇾ麗乎天、天爲無用」」

三畫

【辱】 ジョク、ニク。而蜀切。沃。㊀はづかしむ、けがす(汙)㊁はづかしめらる、けがる㊂かがむ(屈)㊃かたじけなし㊄はぢ、けがれ(汙恥)。

【辱交】 しりあひ。

【辱知】 前に同じ。

【農】 ドウ、ノウ。奴冬切。冬。㊀たつくる、たつくり、たれまく㊁たれまきする人、たつくる人。

【農功】 耕作のわざ。左傳に「子產曰、政如農功、日夜思ㇾ之」」

【農正】 農業のことを掌る官。左傳に「九扈爲農正」」

【農作】 農民のしごと。宋史に「役民丁甚衆、頗廢農作」」

【農桑】 耕作のわざとかひこを養ふわざと。後漢書に「二千石勉勸農桑、弘致勞來」」

【農時】 耕作すべき時期。孟子に「不ㇾ違農時」」

【農務】 農事のつとめ。宋史に「怠于農務者、農師謹察ㇾ之」」

【農業】 耕作のわざ。漢書に「減樂人、使歸就農業」」

【農稼】 田をたがやして穀をうう。後漢書に「世重農稼、好貨殖」」

【農穡】 穀物をつくる。左傳に「其庶人力于農穡」」

【農蠶】 耕作のわざとかひこを養ふわざと。(耕蠶)。晉書に「農蠶之暇、訓誘宗族、侃侃不ㇾ勌」」

十二畫

【辴】 ㋑シン。止忍切。軫。㋺チ。丑飢切。支。㋩チン。丑忍切。軫。わらふ貌。

【辴然】 わらふ貌。莊子に「桓公辴然而笑」」

【釀】㋴ヂョウ、ノウ。女容切。冬。㋺ドウ、ヌ。奴動切。董。おほし(多)㋺多き貌(釀釀)。

辵部(辶)

部首

【辵】チャク。勅略切。藥。❶はしる(疾行)❷こゆ(踰に通ず)❸たたずむ。

一畫

【辷】〔國字〕すべる。

二畫

【迈】ジョウ、ニョウ。如乘切。蒸。❶およぶ(及)❷ゆく(往)。

【込】〔國字〕こむ。

【辻】〔國字〕つじ。

三畫

【迃】フ、ホ。斐父切。虞。❶のがる(逃)❷したがふ(循)❸やすんず(安)❹なつ(撫)。

【达】㋴テイ、タイ。他計切。霽。㋺タツ、タチ。他達切。曷。㋩タツ、ダチ。噠葛切。曷。㋴すべる、なめらか(滑)㋺❶のがる(健に同じ、逃)❷ゆきて遇はず㋩❶とほる(通)❷たがひに(迭)。

【辿】テン。丑延切。先。あゆむ、たどる(緩歩)。

【迀】カン。古寒切。寒。すすむ(進)。

【迁】セン。遷の俗字。

【迂】ウ、チ。羽俱切。虞。❶とほし、まはりどほし(遠)❷にぶし(鈍)❸ねぢく、まぐ(曲)❹まがる、かがまる(屈)❺さく(避)❻やや(頁)❼おほいなり(大)❽ひろし(廣)❾とほまはり、とほまはし。

【迂回】とほまはりす。

【迂言】ことがらに通ぜざることば。呂氏春秋に「寡人以爲迂言也、孔子曰、此非迂言也」

【迂拙】おろかにつたなし。白居易「吾道本迂拙、世途多艱難」

【迂路】まはりみち。隋書に「至馬邑迂路出賀蘭山」

【迂愚】うとくおろかなり。元稹「拙劣仍非速、迂愚且異專」

【迂儒】世の中のことに通ぜざる學者。(腐儒)。偷道潛「結交墓豪彥、倜儻非迂儒」

【迂闊】まはりどほし。事情にうとし。漢書、王吉傳に「上以其言迂闊、不甚寵異也」

【迄】キツ、キチ。許訖切。質。❶いたる、およぶ(至)❷をはる、つひに(竟)❸まで。

【迅】㋴シン、息進切。震。㋺シュン。須閏切。震。㋩ジン。慣用音。❶すみやか、はやし(疾)❷猿の子。

【迅走】すみやかにはしる。爾雅に「狒狒如人、被髮迅走」

【迅風】はやて。王粲「迅風拂裳袂」

【迅流】はやきながれ。徐彥伯「頽老無掩告、逝水有迅流」

【迅馬】はやく走るうま。劉峻「迅馬晨風趨、輕輿流水散」

【迅猛】はげし。元史に「一遇霜潦、湍浪迅猛」

【迅速】とくすみやかなり。北史、杜銓傳に「爲文迅速、有如宿構」

【迅動】感じやすし。南史、王寂傳に「性迅動好文章、讀范滂傳、未嘗不歎悒」

【迅發】急におこる。宣和畫譜に「震雷迅發、雲物冥晦」

【迅晷】月日のうつることはやし。朱熹「迅晷諒難留、歸軫忽已騫」

【迅逸】はやし。雲笈七籤に「落筆迅逸、畫蹤高古」

【迅雷】はげしきかみなり。論語に「迅雷風烈必變」

【迅駛】はやし。蘇軾「忽驚飛雹穿戶牖、迅駛不復容遮防」

【迅擊】急にうつ。虞世南「進退斂距、若秋鷹之迅擊」

【迅邁】はやくすぐ。晉書に「日月迅邁、高風日起」

【迅趨】はしる。抱朴子に「蒲梢汗血、迅趨之駿足也」

【迅瀨】はやせ。劉禹錫「迅瀨下哮吼、兩岸勢爭衡」

【迅電不及瞑目】いなびかりの迅きが爲に目をふさぐ暇なし。事急にしてふせぐ暇なきにいふ。六韜に「疾雷不及掩耳、迅電不及瞑目」

四畫

【迆】㋴イ。移爾切。紙。㋺弋支切。支。❶ななめにゆく❷ななめにたてかく(倚)❸つらなる(連)㋺ななめにゆく。

【迊】サフ、ソフ。子答切。合。めぐる、まはる(帀に同じ)。

【迖】㋴ハツ、バチ。北末切。曷。㋺ハツ、ハチ。普活切。曷。❶はしる(走)❷にはか(猝)❸つまづく❹行く貌㋺にはか(猝)。

【迋】㋴ワウ。于放切。養。㋺キャウ、ガウ。俱往切。養。❶ゆく(往)❷おそる(恐懼)❸あざむく、たぶらかす(欺)。

【迍】㋴チュン。陟綸切。眞。㋺トン、ドン。徒渾切。元。たちもとほる(邅)。

【迎】㋴ゲイ、ギャウ。語京切。庚。㋺魚敬切。敬。❶むかふ(逆、迓)❷かぞふ(數)❸まちうく㋺むかふ。

【迎引】もてなす。魏志に「召爲婕妤、以禮迎引」

【迎日】あらかじめ日をかぞふ。史記に「黃帝迎日推策」

【迎阿】人の心をむかへてへつらふ。唐書に「羣臣迎阿、獨懷道執不可」

【迎拜】むかへてをがむ。禮記に「君若迎拜、則還辟不敢答拜」

【迎候】出でむかふ。梁書に「乃自往迎候、同乘而歸」

【迎逢】むかへてあふ。杜甫「一笑喜迎逢」

【迎祥】さいはひの來るを待ちうく。謝莊「祥靈集祉、慶藹迎祥」

【迎賓】客をむかふ。儀禮に「冠之日、主人紒而迎賓」

【迎閤】中門まで出でむかふ。後漢書に「至當迎閤、握手交歡並座」

【迎謁】むかへてまみゆ。漢書に「宣帝幸太子宮、受迎謁」

【迎梅雨】春雨と梅雨との間にふりつづく雨。うのはなくたし。埤雅に「江南三月爲迎梅雨、五月爲送梅雨」

【近】㋴キン、コン。其謹切。吻。㋺巨靳切。問。㋩キ。居吏切。寘。❶ちかし❷そば、かたはら(左右)❸ちかきところ❹したし(親)❺したしきもの❻ちかごろ㋺❶ちかづく❷したしむ(親)❸せまる(迫)❹つく(附)㋩助字。

【近午】ひるまへ。貫師泰「雲葉續紛雪弄花、小警近午御排衙」

【近臣】君主のそば近くつかふ家來。禮記に「近臣守和、宰正百官」

【近似】よくにる。金史に「隱予近似、乃生論異」

【近作】ちかごろ作りしもの。宋史、周必大傳に「朕舊見卿文、其以近作進上」

【近易】ちかくしてたやすし。詩經に「男女之際、近而易」

【近幸】ちかづけいつくしむ。史記に「襄子必近幸子」

【近者】ちかごろ。又、遠からざる處に居る人。禮記に「近者悅服、而遠者懷之、此大學之道也」

【近郊】邑外五十里までの地。轉じて、城市に近きゐなか。唐書、賈耽傳に